

成田新高速鉄道・北千葉道路 埋蔵文化財発掘調査報告書 5

－成田市松崎外小代内小代遺跡－

平成23年 3 月

成田高速鉄道アクセス株式会社

財団法人 千葉県教育振興財団

成田新高速鉄道・北千葉道路 埋蔵文化財発掘調査報告書 5

なり た まんざきそと こ だいうち こ だい
—成田市松崎外小代内小代遺跡—



序 文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第659集として、成田新高速鉄道・北千葉道路建設工事に伴って実施した成田市松崎外小代内小代遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、奈良・平安時代の集落跡をはじめ、旧石器時代から中世までの幅広い時代の遺構・遺物が発掘され、この地域の歴史を知るうえで多くの貴重な成果が得られています。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。







終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成23年3月

財団法人千葉県教育振興財団
理事長 赤羽良明

凡 例

- 1 本書は、成田高速鉄道アクセス株式会社による成田新高速鉄道・北千葉道路建設工事に伴う埋蔵文化財の調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、成田市松崎字浅間1999番地3ほかに所在する松崎外小代内小代遺跡（遺跡コード211-077）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、成田高速鉄道アクセス株式会社の委託を受け、財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査および整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は第1・2・7章および第3～6章の一部を主席研究員 香取正彦、第3～6章の一部を整理技術員 平井真紀子が行い、全体の編集は香取が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、成田市教育委員会、成田高速鉄道アクセス株式会社、千葉県北千葉道路建設事務所ほか多くの方々からご指導、ご協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
国土地理院発行 1:25,000 地形図「成田」(NI-54-19-10-3)平成16年更新
成田市作成 1:2,500 「成田市地形図24」(平成12年修正)・「成田市地形図31」(平成10年修正)
- 8 周辺地形航空写真は京葉測量株式会社による平成14年1月撮影(S=1/10,000)のものを使用した。
- 9 本書で使用した座標値は第1図の周辺地形図を除き、世界測地系にもとづく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。
- 10 図などの表現の凡例は以下のとおりである。

焼土・火床部		粘土・山砂		炭化物	
赤彩		黒色処理		ウルシ付着	

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の経緯と経過	1
第2節	調査の方法と成果	2
第3節	遺跡の位置と周辺の遺跡	6
第2章	旧石器時代	9
第1節	石器集中地点と出土石器	9
第3章	縄文・弥生時代	24
第1節	遺構と遺物	24
第4章	古墳時代	42
第1節	竪穴住居跡	42
第5章	奈良・平安時代	45
第1節	竪穴住居跡	45
第2節	掘立柱建物跡	106
第3節	土坑	123
第4節	井戸跡	126
第6章	中世以降	130
第1節	竪穴状遺構	130
第2節	地下式坑	133
第3節	土墳墓	143
第4節	土坑	143
第5節	溝	153
第6節	柵列跡	159
第7節	ピット群	164
第8節	台地整形遺構	169
第9節	焼土遺構	169
第10節	出土遺物	171
第7章	まとめ	178
第1節	調査の成果概要	178
第2節	奈良・平安時代掘立柱建物跡の検討	179
報告書抄録		巻末

挿図目次

第1図	周辺地形図と調査区	3	第35図	SI-017出土遺物	44
第2図	確認調査図	4	第36図	SI-001	46
第3図	上層遺構分布図	5	第37図	SI-001出土遺物(1)	47
第4図	周辺の主な遺跡(1/25,000)	7	第38図	SI-001出土遺物(2)	48
第5図	石器集中地点周辺立川ローム土層	9	第39図	SI-002・出土遺物	49
第6図	A区石器出土状況(器種別)	10	第40図	SI-003・出土遺物	50
第7図	A区石器出土状況(石材別)	11	第41図	SI-004	51
第8図	A区出土石器(1)	13	第42図	SI-004出土遺物	52
第9図	A区出土石器(2)	14	第43図	SI-005	53
第10図	A区出土石器(3)	15	第44図	SI-005出土遺物	54
第11図	A区出土石器(4)	16	第45図	SI-006	55
第12図	A区出土石器(5)	17	第46図	SI-006出土遺物	56
第13図	A区出土石器(6)	18	第47図	SI-007・出土遺物	57
第14図	A区出土石器(7)	19	第48図	SI-008・出土遺物	58
第15図	A区出土石器(8)	20	第49図	SI-010・出土遺物	58
第16図	A区出土石器(9)	21	第50図	SI-011・出土遺物	59
第17図	B区石器出土状況	22	第51図	SI-012	60
第18図	B区出土石器	23	第52図	SI-012出土遺物	61
第19図	SI-040・出土遺物	24	第53図	SI-014・出土遺物(1)	62
第20図	土坑	26	第54図	SI-014出土遺物(2)	63
第21図	陥穴(1)	27	第55図	SI-015	65
第22図	陥穴(2)	29	第56図	SI-015出土遺物	66
第23図	陥穴(3)	30	第57図	SI-016	67
第24図	陥穴(4)	31	第58図	SI-018	67
第25図	陥穴(5)	32	第59図	SI-018出土遺物	68
第26図	土坑出土縄文土器(1)	33	第60図	SI-019	69
第27図	土坑出土縄文土器(2)	35	第61図	SI-020	70
第28図	グリッド出土縄文土器(1)	36	第62図	SI-020出土遺物	71
第29図	グリッド出土縄文土器(2)	37	第63図	SI-021・出土遺物	72
第30図	グリッド出土縄文土器(3)	38	第64図	SI-022	73
第31図	グリッド出土縄文土器(4)・弥生土器	39	第65図	SI-022出土遺物	74
第32図	石器	40	第66図	SI-023・出土遺物	75
第33図	土製品	41	第67図	SI-024・出土遺物	76
第34図	SI-017	43	第68図	SI-025・026	77
			第69図	SI-025出土遺物	78

第70回	SI-027・出土遺物	79	第107回	SB-009	115
第71回	SI-029・出土遺物	80	第108回	SB-010	116
第72回	SI-030・出土遺物	81	第109回	SB-011 (1)	117
第73回	SI-031・出土遺物	82	第110回	SB-011 (2)	118
第74回	SI-032	83	第111回	SB-012	119
第75回	SI-032出土遺物	84	第112回	SB-013	120
第76回	SI-033・出土遺物	85	第113回	SB-014	121
第77回	SI-034・出土遺物	86	第114回	SB-015	122
第78回	SI-035・出土遺物	87	第115回	SK-079・080・106・113	124
第79回	SI-036・037	88	第116回	SK-109~112・SI-009	125
第80回	SI-036・037出土遺物	89	第117回	SI-009出土遺物	126
第81回	SI-038・出土遺物	91	第118回	SE-001・出土遺物	127
第82回	SI-039・出土遺物	92	第119回	SE-002・出土遺物	128
第83回	SI-041	93	第120回	SE-003・出土遺物	129
第84回	SI-041出土遺物	94	第121回	竪穴状遺構 (1)	131
第85回	SI-042・出土遺物	94	第122回	竪穴状遺構 (2)	132
第86回	SI-043	95	第123回	竪穴状遺構 (3)	133
第87回	SI-044	96	第124回	地下式坑 (1)	134
第88回	SI-044出土遺物 (1)	97	第125回	地下式坑 (2)	135
第89回	SI-044出土遺物 (2)	98	第126回	地下式坑 (3)	137
第90回	SI-045	99	第127回	地下式坑 (4)	138
第91回	SI-046・出土遺物	100	第128回	地下式坑 (5)	139
第92回	SI-047	100	第129回	地下式坑 (6)	140
第93回	SI-048	101	第130回	地下式坑 (7)	141
第94回	SI-048出土遺物	102	第131回	地下式坑 (8)	142
第95回	SI-049	103	第132回	土壇墓	143
第96回	SI-049出土遺物	104	第133回	土坑 (1)	145
第97回	SI-050	105	第134回	土坑 (2)	146
第98回	SI-050出土遺物	106	第135回	土坑 (3)	148
第99回	SB-001	107	第136回	土坑 (4)	149
第100回	SB-002・003	108	第137回	土坑 (5)	150
第101回	SB-004	109	第138回	土坑 (6)	151
第102回	SB-005・SH-005	110	第139回	土坑 (7)	152
第103回	SB-006	111	第140回	SD-001・004	154
第104回	SB-007	112	第141回	SD-002	155
第105回	SB-008 (1)	113	第142回	SD-002・003	156
第106回	SB-008 (2)	114	第143回	SD-005~008	157

第144図	SD-009・010	158	第154図	SH-008	168
第145図	SA-001	159	第155図	SH-009	169
第146図	SA-002・003	160	第156図	SX-001	170
第147図	SA-004・005	161	第157図	SZ-001	171
第148図	SA-007	162	第158図	土坑・溝出土遺物	172
第149図	SA-008	163	第159図	トレンチ出土遺物（中世）	173
第150図	SH-001	164	第160図	鉄製品・スラグ	174
第151図	SH-004	165	第161図	銭貨（1）	175
第152図	SH-006	166	第162図	銭貨（2）	176
第153図	SH-007	167	第163図	銭貨（3）	177

表目次

表1表	旧石器一覧表	180	第4表	遺構一覧表	192
第2表	縄文時代遺構一覧表	185	第5表	出土遺物観察表	201
表3表	縄文時代・弥生時代遺物観察表	186	表6表	出土銭貨表	210

図版目次

図版1	周辺航空写真	図版19	縄文時代遺物（5）
図版2	旧石器石器集中地点	図版20	縄文時代遺物（6）・弥生時代遺物
図版3	旧石器A区石器（1）	図版21	縄文時代遺物（7）
図版4	旧石器A区石器（2）	図版22	縄文時代石器
図版5	旧石器A区石器（3）	図版23	SI-001・003
図版6	旧石器A区石器（4）	図版24	SI-004・005
図版7	旧石器A区石器（5）	図版25	SI-006・007
図版8	旧石器A区石器（6）	図版26	SI-008・010
図版9	旧石器A区石器（7）	図版27	SI-011
図版10	旧石器A区石器（8）	図版28	SI-012
図版11	旧石器B区石器	図版29	SI-014・015
図版12	縄文時代遺構（1）	図版30	SI-016・017
図版13	縄文時代遺構（2）	図版31	SI-018
図版14	縄文時代遺構（3）	図版32	SI-019・020
図版15	縄文時代遺構（4）・遺物（1）	図版33	SI-021・022
図版16	縄文時代遺物（2）	図版34	SI-023・024
図版17	縄文時代遺物（3）	図版35	SI-025・026
図版18	縄文時代遺物（4）	図版36	SI-027・029

- | | | | |
|------|------------------|------|---------------------|
| 図版37 | SI-030・031 | 図版61 | 土坑（2） |
| 図版38 | SI-032・035 | 図版62 | 土坑（3） |
| 図版39 | SI-033・034 | 図版63 | 土坑（4） |
| 図版40 | SI-036・037・038 | 図版64 | 土坑（5） |
| 図版41 | SI-039・042 | 図版65 | 土坑（6） |
| 図版42 | SI-041・043 | 図版66 | 土坑（7）・溝（1） |
| 図版43 | SI-044・045 | 図版67 | 溝（2）・ピット群 |
| 図版44 | SI-046・047・049 | 図版68 | 柵列・台地整形遺構・焼土遺構 |
| 図版45 | SI-048・050 | 図版69 | 奈良・平安時代遺物（1） |
| 図版46 | SB-001・002 | 図版70 | 奈良・平安時代遺物（2） |
| 図版47 | SB-004・007 | 図版71 | 奈良・平安時代遺物（3） |
| 図版48 | SB-005 | 図版72 | 奈良・平安時代遺物（4）・古墳時代遺物 |
| 図版49 | SB-006 | 図版73 | 奈良・平安時代遺物（5） |
| 図版50 | SB-008・009 | 図版74 | 奈良・平安時代遺物（6） |
| 図版51 | SB-010・011・012 | 図版75 | 奈良・平安時代遺物（7） |
| 図版52 | SB-013・014・015 | 図版76 | 奈良・平安時代遺物（8） |
| 図版53 | 土坑 | 図版77 | 奈良・平安時代遺物（9）・中世以降遺物 |
| 図版54 | 井戸跡 | 図版78 | トレンチ・グリッド出土・石製品・土製品 |
| 図版55 | 土壌墓・竪穴状遺構（1） | 図版79 | 鉄製品 |
| 図版56 | 竪穴状遺構（2）・地下式坑（1） | 図版80 | 銭貨（1） |
| 図版57 | 地下式坑（2） | 図版81 | 銭貨（2） |
| 図版58 | 地下式坑（3） | 図版82 | 銭貨（3） |
| 図版59 | 地下式坑（4） | 図版83 | 銭貨（4） |
| 図版60 | 地下式坑（5）・土坑（1） | 図版84 | 銭貨（5）・スラグ |

第1章 はじめに

第1節 調査の経緯と経過

一般国道464号北千葉道路は、松戸市から千葉ニュータウンを経て、成田市を結ぶ全長約47kmの幹線道路である。この度、首都圏や県西地域と成田国際空港間とのアクセス強化などを目的に、印西市（旧印旛村）若萩から国道295号に接続する成田市大山までの北千葉道路（印旛～成田）建設と、印旛日本医大駅まで開通している北総鉄道北総線を東に延伸し、成田国際空港に直結させる成田新高速鉄道建設を一体的に整備することが計画された。これらの一体的な整備は空港アクセスの大幅な改善にとどまらず、地域の活性化、交通処理能力の向上、物流効率化、成田市街地の交通円滑化、広域道路ネットワーク・救急医療・防災機能の強化などにも大きく寄与することが期待されている。

なお、成田新高速鉄道区間については、平成22年7月17日に京成電鉄成田空港線（愛称「成田スカイアクセス」）として開業した。

この成田新高速鉄道・北千葉道路整備の実施にあたり、平成16年9月15日付け道計第145号で千葉県県土木整備部道路計画課より「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会へ提出された。千葉県教育委員会では現地踏査結果を踏まえ、平成16年11月29日付け教文第16号63で事業計画地内には松崎外小代内小代遺跡など、6か所に遺跡が所在する旨の回答を行った。そしてこの回答を受け、その取り扱いについて関係機関による協議を重ねた結果、事業の性格上やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり、財団法人千葉県教育振興財団が発掘調査を実施することとなった。

今回報告する松崎外小代内小代遺跡の調査組織及び発掘調査と整理作業の担当者は以下のとおりである。発掘調査は調査区の都合により7区、7次にわたって実施した。

平成20年度 調査研究部長 大原正義

北部調査事務所長 豊田佳伸

（発掘）1次

調査期間 平成20年5月1日～平成20年6月30日

調査担当者 上席研究員 鈴木弘幸・稲生一夫

2次

調査期間 平成20年7月1日～平成20年7月31日

調査担当者 上席研究員 鈴木弘幸・稲生一夫

3次

調査期間 平成20年7月7日～平成21年1月9日

調査担当者 上席研究員 鈴木弘幸・篠崎健一

4次

調査期間 平成20年8月26日～平成20年11月6日

調査担当者 上席研究員 鈴木弘幸

5次

調査期間 平成21年1月13日～平成21年1月30日

調査担当者 上席研究員 鈴木弘幸

平成21年度 調査研究部長 及川淳一

北部調査事務所長 野口行雄

(発掘) 6次

調査期間 平成21年5月15日～平成21年7月31日

調査担当者 主席研究員 雨宮龍太郎

7次

調査期間 平成22年2月22日～平成22年3月11日

調査担当者 研究員 黒沢 崇

(整理) 整理期間 平成21年5月～平成22年3月

整理内容 水洗・注記から実測・拓本の一部まで

整理担当者 副所長 相京邦彦・主席研究員 雨宮龍太郎・上席研究員 内山 健・
研究員 黒沢 崇

平成22年度 調査研究部長 及川淳一

北部調査事務所長 野口行雄

(整理) 整理期間 平成22年4月～平成23年3月

整理内容 実測・拓本の一部から報告書刊行まで

整理担当者 主席研究員 香取正彦・整理技術員 平井真紀子

第2節 調査の方法と成果 (第1～3図 図版1)

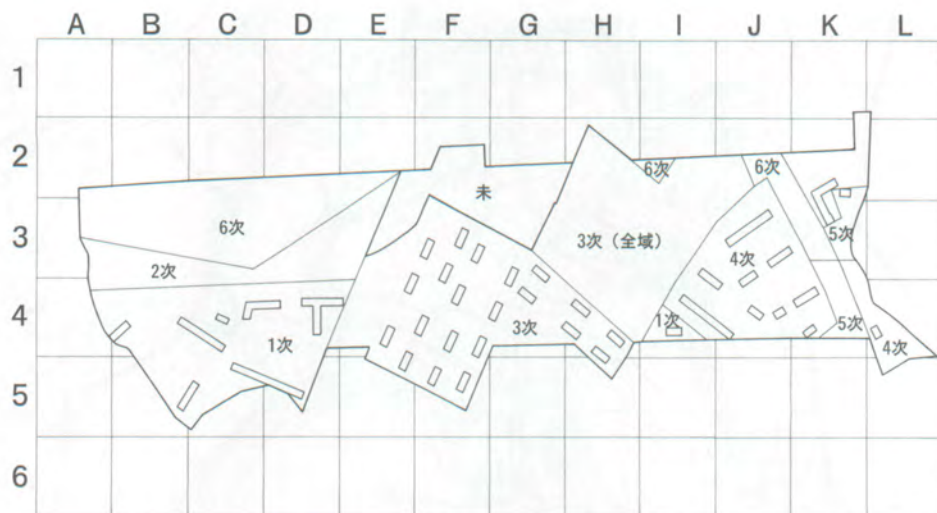
発掘調査 調査にあたり、調査区全体を覆うように世界測地系(座標系IX)の $X=-22.080$ 、 $Y=41.000$ を起点(1A-00)に20m×20mの方眼網を設定し、大グリッドとした。名称は起点から南方向に1・2・・・東方向にA・B・・・とした。大グリッドを2m四方に100分割し、北西隅を00、南東隅を99として小グリッドとした。グリッドの呼称は数字とアルファベットとを組み合わせ3D-36というように表記し、現地調査の記録類から遺物の注記にあたっては踏襲した。

調査地区は宅地、畑などで細かく区画され、区画により調査区が設定され、7次に分けて調査を実施した。調査はまず上層の確認調査を調査対象面積の10%を目安に、微地形などを考慮に入れ任意にトレンチを設定した。遺構の性格・時期・深度などを把握するために、遺構の埋土を一部掘り上げた。確認調査の結果、西端部の斜面を除いて調査地全域に竪穴住居などの遺構が分布し、斜面部以外が本調査範囲となった。本調査のための表土除去は重機を使用し、表土除去後精査を行い本調査へと移行した。遺構の種類によって竪穴住居跡はSI、掘立柱建物跡はSB、土坑・陥穴・地下式坑はSK、溝はSD、柵列跡はSA、ピット群はSHなどの記号を付し、種別ごとに通し番号を付けて遺構番号とした。遺物は遺構ごとに通し番号を付け、旧石器や所属遺構が不明確な遺物についてはグリッド単位で番号を付けて取り上げた。

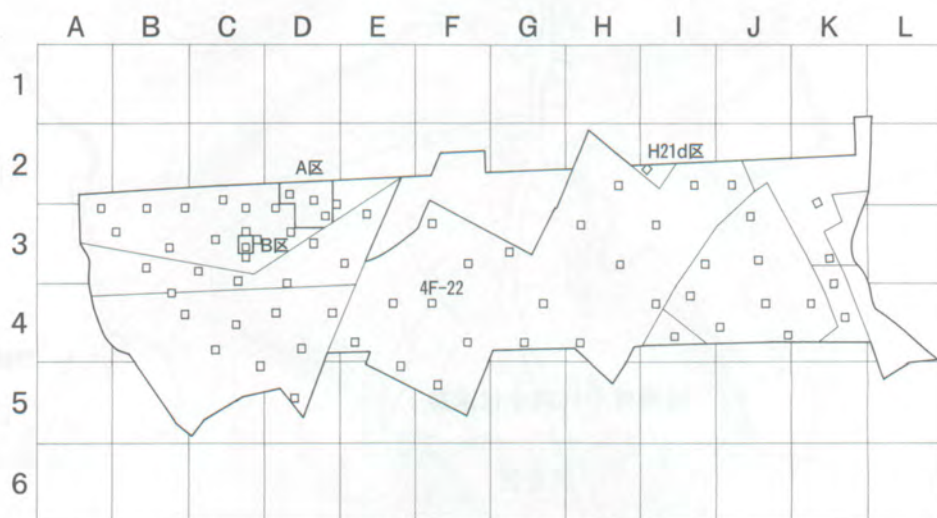
上層の調査については、本遺跡は主に奈良・平安時代の竪穴住居・掘立柱建物で構成される集落遺跡であることが明らかとなった。ほかに、縄文時代前期竪穴住居・早期陥穴、古墳時代後期竪穴住居、中世竪穴状遺構・地下式坑・土坑・溝などが検出された。



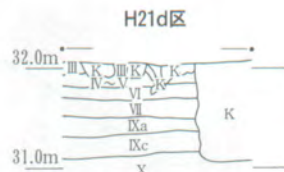
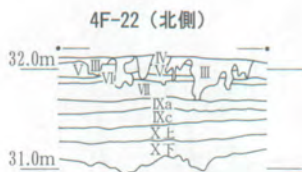
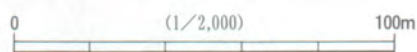
第1図 周辺地形図と調査区



上層確認調査

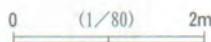


下層確認調査・本調査範囲



土層はH21d区に同じ

下層確認調査土層



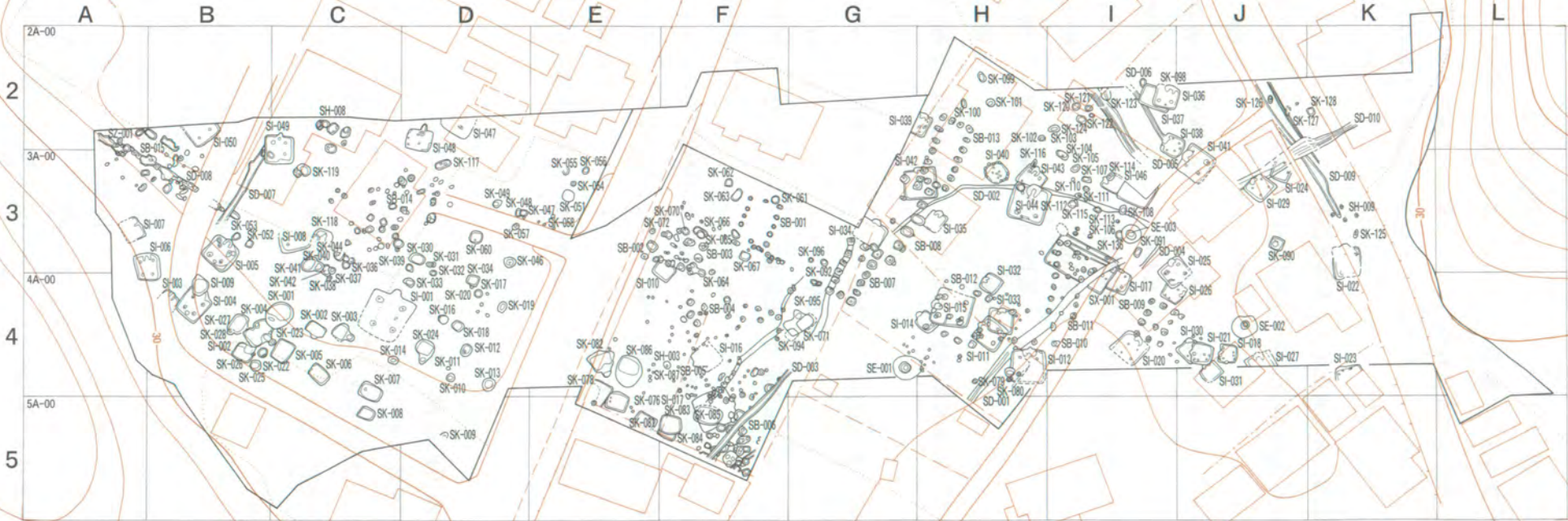
H21d区セクション土層

- III. III層 黄褐色土
- IV・V. IV・V層 黄褐色土 やや白い, AT拡散, 赤黒スコリア少量, 非常にしまりがある
- VI. VI層 黄褐色土 やや白い, AT集中, 非常にしまりがある
- VII. VII層 黄褐色土 やや白い, AT拡散, 非常にしまりがある
- IXa. IXa層 黄褐色土 やや明るい, 非常にしまりがある
- IXaとIXcの境の白味のあるブロックで分層
- IXc. IXc層 黄褐色土 やや明るい, 赤黒スコリア微混, 非常にしまりがある
- X. X層 黄褐色土 やや暗い, IX層に比べてややしまりが弱い, スコリアほとんどなし
- III~Xは立川ローム, IIIはソフトローム, IV~Xはハードローム
- X1. X1層 黄灰褐色土 しまりがない, 武蔵野ローム

第2図 確認調査図

00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
10	11								
20	22		2D	24					
30		33							
40			44						
50				55					
60					66				
70						77			
80							88		
90								99	

小グリッド呼称法
(例 2Dグリッド)



第3図 上層遺構分布図

上層の調査後に下層の確認調査を行った。設定したグリッドに従って2m×2mの確認グリッドを対象面積の2%～4%の割合で調査区内に配置し、立川ローム最下層まで掘削して、旧石器時代石器の有無を確認した。確認グリッドの割合は石器の有無および出土数により変化する。確認調査の結果、調査区西部に立川ロームⅦ層を中心とするやや大きなブロックと立川ロームⅦ～Ⅸ層の小規模なブロックが検出され、本調査を実施した。

なお、各次の調査対象面積、確認調査面積、本調査面積は以下のとおりである。

1次	調査対象面積	1,674m ²	確認調査面積	上層168m ²	本調査面積	上層1,200m ²
				下層36m ²		下層0m ²
2次	調査対象面積	797m ²	確認調査面積	上層1m ²	本調査面積	上層797m ²
				下層32m ²		下層0m ²
3次	調査対象面積	3,709m ²	確認調査面積	上層210m ²	本調査面積	上層3,709m ²
				下層76m ²		下層0m ²
4次	調査対象面積	1,390m ²	確認調査面積	上層139m ²	本調査面積	上層1,104m ²
				下層32m ²		下層0m ²
5次	調査対象面積	271m ²	確認調査面積	上層12m ²	本調査面積	上層156m ²
				下層8m ²		下層0m ²
6次	調査対象面積	1,189m ²	確認調査面積	上層1m ²	本調査面積	上層1,189m ²
				下層84m ²		下層115m ²
7次	調査対象面積	588m ²	確認調査面積	上層311m ²	本調査面積	上層380m ²
				下層12m ²		下層0m ²

整理作業 報告書作成にあたり、発掘調査において付けた遺構番号をそのまま使用している。整理作業は水洗注記を行った後、遺構ごとに遺物を種別分類してから、接合作業などを実施した。土器類の接合の結果は、遺物出土図・遺物台帳に記載された位置と高さをもとに、接合状況図を平面と断面で作成した。また、完形品および残りが良い遺物また、特徴がある遺物については実測、写真撮影を行い、本書に掲載した。

第3節 遺跡の位置と周辺の遺跡（第4図）

本遺跡が所在する成田市松崎字外小代および内小代は、成田ニュータウンの北端部に位置する。ここは、印旛沼の北東岸で、西側を印旛沼の低地、東側を利根川に流入する根木名川の支流、小橋川、松崎川に開析された樹枝状の小谷に挟まれた台地上で、台地が最も狭くなつたくびれ部分の南側に位置し、標高は約32mである。

調査区は東西を小谷で挟まれた長さ約200m、幅約45mの带状で、台地最狭部の南約200mの地点である。台地最狭部は、台地東側をとおり県道成田安食線と西側をとおり成田ニュータウンからの都市計画道路との合流地点北側で、JR成田線に切断され、県道成田安食線の松崎跨線橋が架かる。調査区の地目は住宅・畑・道路などで、台地下の水田面までの比高差は約25mである。

周辺では、新東京国際空港（現成田国際空港）建設を起因とし、昭和44年から実施された成田ニュータウン造成に伴う埋蔵文化財発掘調査を端緒として、宅地造成、道路建設など開発事業に伴う大規模な発掘



第4図 周辺の主な遺跡 (1/25,000)

調査が実施されている。主なものとして、成田市では公津原遺跡群、囀護台遺跡群、公津西の遺跡群、郷部北遺跡群、主要地方道成田安食線に伴う発掘調査などがあり、隣接する栄町では、竜角寺台ニュータウン遺跡群の発掘調査などがある。

また、本遺跡の東側台地上に位置する松崎山ノ台遺跡は、同事業で発掘調査が行われ、主に古墳時代後期集落跡および古墳時代終末期方墳の様相が明らかにされている。¹⁾

注1 主な発掘調査報告書は次のとおりである。

松崎山ノ台遺跡

2009『成田新高速鉄道・北千葉道路埋蔵文化財調査報告書1－成田市松崎山ノ台遺跡－』（財）千葉県教育振興財団

公津原遺跡群

1975『公津原 成田ニュータウン内遺跡の考古学的調査』千葉県企業庁・（財）千葉県地域振興公社

1981『公津原Ⅱ』千葉県教育委員会

囀護台遺跡群

1990『成田市都市計画事業成田駅西口土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書』成田市囀護台遺跡発掘調査団 成田市教育委員会

主要地方道成田安食線（1～7）

1993『主要地方道成田安食線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』（財）千葉県文化財センター
竜角寺台ニュータウン遺跡群

1982『竜角寺台ニュータウン遺跡群』竜角寺台ニュータウン遺跡調査会

郷部北遺跡群

1984『成田市郷部北遺跡群調査概要（加定地・殿台遺跡）』成田市郷部北遺跡調査会

公津西の遺跡群

2005『千葉県成田市 台方下平Ⅰ遺跡 台方下平Ⅱ遺跡発掘調査概報－成田市公津西土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査－』（財）印旛郡市文化財センター

2007『千葉県成田市 台方下平Ⅰ遺跡－成田市公津西土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査－』（財）印旛郡市文化財センター

第2章 旧石器時代

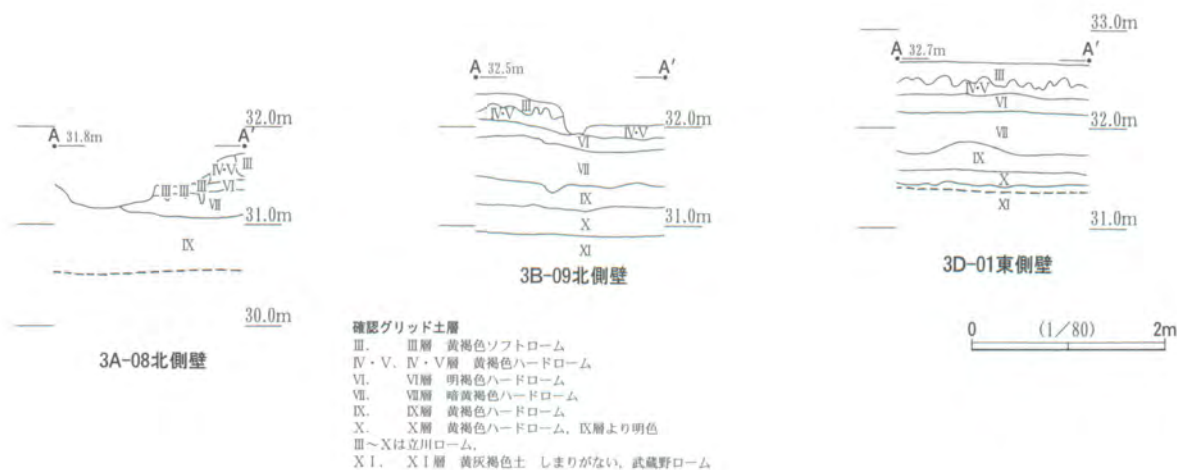
旧石器時代の成果としては、石器ブロック2か所である。平成21年度、6次調査時に検出された。調査対象面積1,189㎡について84㎡の確認調査を実施した。2m×2mの下層確認グリッドを18か所設定し、4か所から石器が出土した。北側3か所については石器の広がり確認されたので、115㎡の本調査を実施した。南側1か所については、12㎡の確認グリッドの拡張範囲内で、調査を実施した（第2図）。確認グリッドの土層断面は、3か所について掲載した（第5図）。

第1節 石器集中地点と出土石器（第1表）

石器集中地点は調査区の北西部に検出された。近接しているが、北側をA区、南側をB区とする。標高は地表面で約33mである。

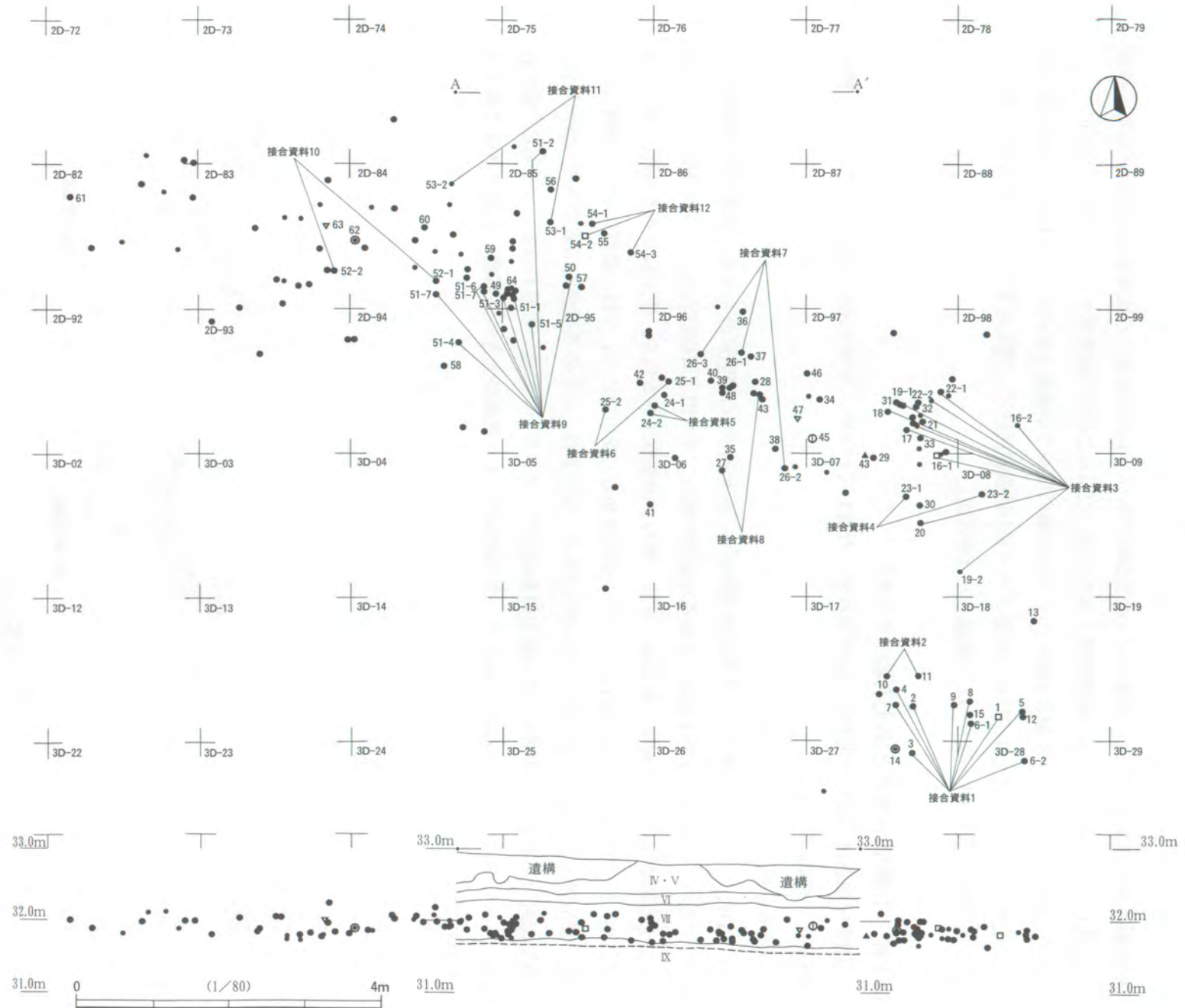
A区（第6～16図 図版2～10）

2D・3D大グリッドに位置する。石器は東西約15m、南北約12mの範囲に分布する。調査区の北側境界に接しているため、石器の分布は北側に広がる可能性がある。主な出土層位は立川ローム層Ⅶ層と考えられる。出土石器数は183点である。器種は、石核、剥片、調整痕がある剥片、使用痕がある剥片、敲石、碎片である。使用石材は安山岩、頁岩、メノウ、砂岩である。安山岩については、観察により4種類に分別した。安山岩、安山岩B、安山岩C、安山岩Dである。安山岩は、いわゆる黒色安山岩である。安山岩Bは、黒色安山岩であるがより緻密で、原石面も黒味があり、サヌカイトに近いと思われる。安山岩C、安山岩Dは、デイサイト（石英安山岩）であるが、安山岩Dは、より斑晶が大きい。器種、石材の構成は第1表のとおりである。

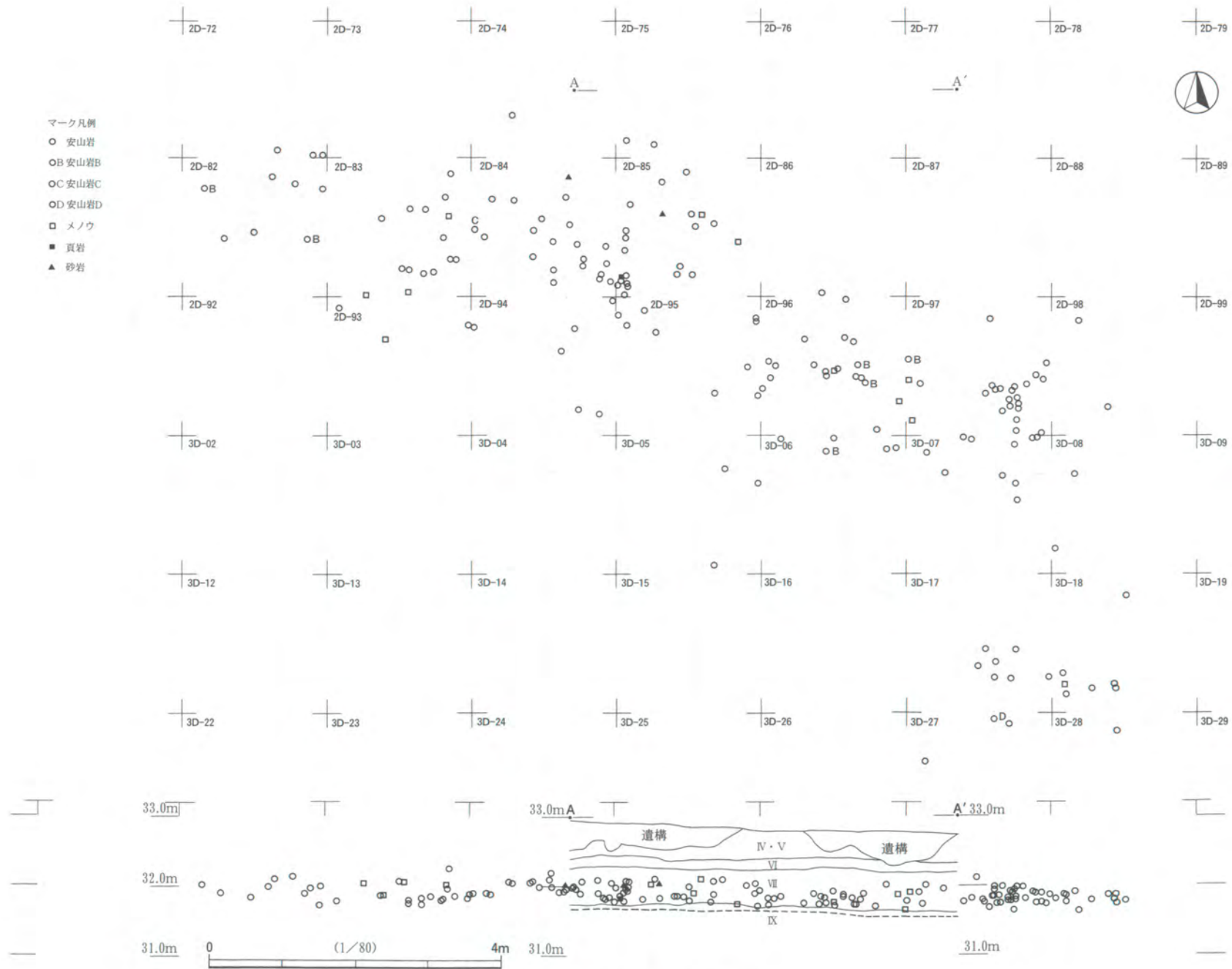


第5図 石器集中地点周辺立川ローム土層

- マーク凡例
- 剥片
 - 砕片
 - 石核
 - ▲ 調整 (R) 剥片
 - ▼ 使用 (U) 剥片
 - ⊙ 挿器
 - ⊗ 敲石



第6図 A区石器出土状況 (器種別)



第7図 A区石器出土状況（石材別）

石器の分布は、石材の大半を占める安山岩とその接合関係から3グループに分かれる。東グループ、中央グループ、西グループである。それぞれ、石核とそれに接合する剥片を中心に石器が分布している。

東グループは安山岩接合資料1を中心としている。かなり集中したグループで、グリッド3D-17・18・27・28の出土石器である。

中央グループは安山岩接合資料3を中心としている。やや分布の範囲が広く、2・3点程度の接合資料がやや多く見られる。グリッド2D-86・96・97・98、3D-05・06・07・08および2D-95東半部の出土石器である。

西グループは安山岩接合資料9を中心としている。中央グループとほぼ同じ分布範囲で、2・3点程度の接合資料も東グループよりは多い。グリッド2D-72・74・75・82・83・84・85・93・94および2D-95西半部の出土石器である。また、ここからは、完形の安山岩C製小型敲石(62)が出土している。

各グループの主な石器は次のとおりである。

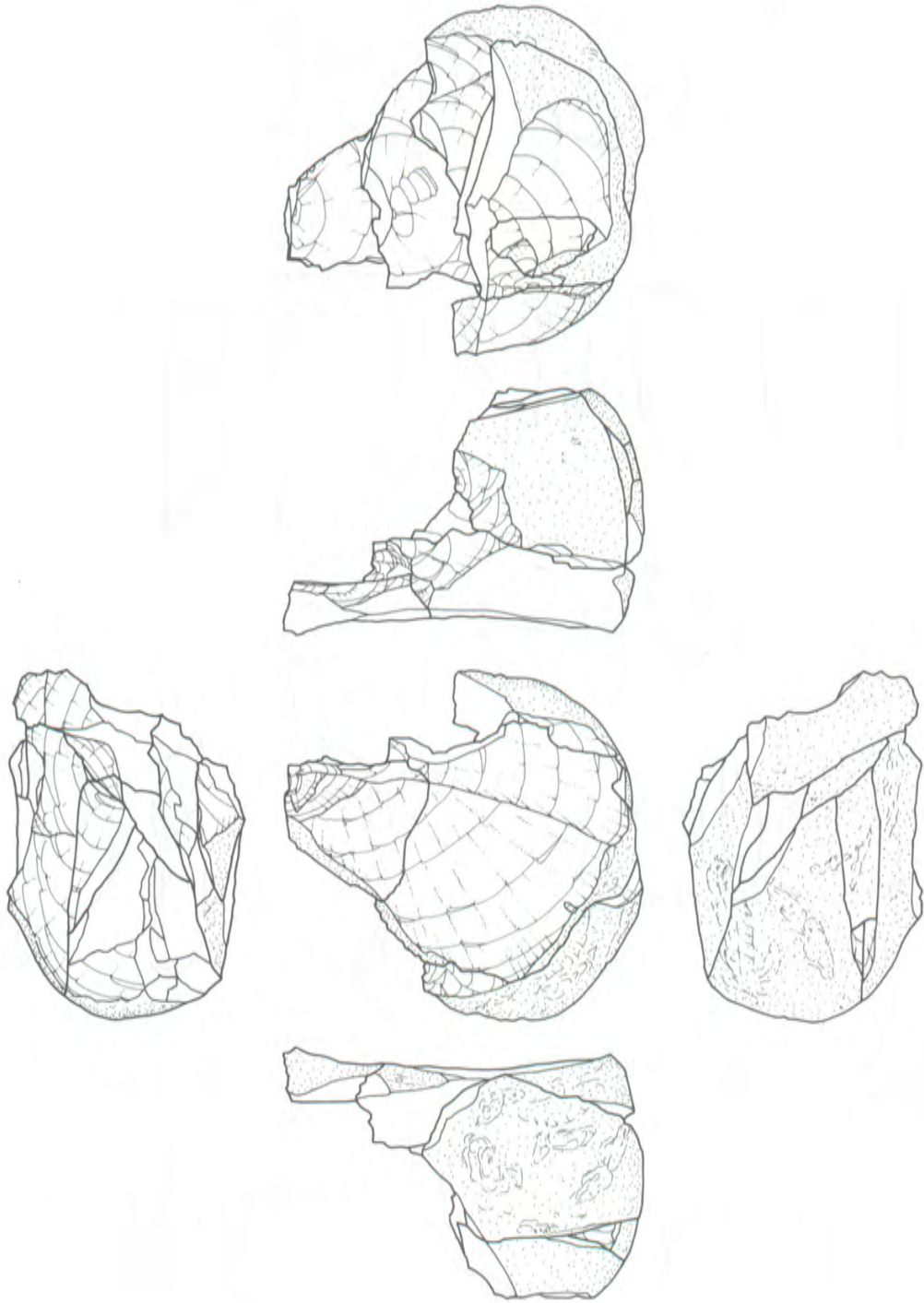
1～15は東グループの石器である。1～13は安山岩、14は安山岩D、15はメノウである。1～9は接合資料1の石器である。1は石核である。原石面が残り、縦長剥片の剥離痕が観察される。2～9は剥片である。剥離の新しいものから掲載した。2・3は大きさが石核の剥離痕と同じである。4・7・8については石核の剥離痕よりも大きな剥片で、長さに比べて幅が広い。よって、このグループでは、石器を作製するために2種類の剥片を使用したと推定される。小さな縦長剥片と、やや大きな幅が広い剥片である。10～13は剥片である。ここでも接合資料1で観察されたことが確認できる。14は安山岩D製で、剥離の状態から敲石片と考えられる。15はメノウの剥片である。ひびが発達し、剥離時に破損したと思われる。

16～48は中央グループの石器である。16～26・29～42は安山岩、27・28・43・44は安山岩B、45～48はメノウである。16～22は接合資料3の石器である。16は石核である。周囲に原石面が残り、原石の大きさが推定される。裏面に横長剥片の剥離痕が観察される。表面に大きな剥離痕があり、接合剥片はおもにこちら側に接合する。17は裏面の接合剥片で、1点のみで、横長である。18～22は剥片である。剥離の新しいものから掲載した。16の分割時に原石が3分割になったと考えられる。16、18・19・20の原石および21・22の原石である。16は使用されず、18・19・20は横長剥片を主体とする剥離、21・22は縦長を主体とする剥離が行われたと考えられる。石器製作用の剥片の大きさは、19または22が主要な大きさと考えられる。

23～28は接合資料である2・3点の接合で、接合資料4(23)・5(24)は剥片の接合で、横長である。接合資料6(25)・7(26)は切断剥片の接合で、石器に使用する剥片の大きさが推定される。接合資料8(27・28)は安山岩Bで、剥片の接合である。27はやや大型であるが、石核的な剥離が見られる。28は横長である。

29～48は剥片である。横長、縦長が混在することが確認できる。やや大型の剥片36・37は表面に横長、縦長両方の剥離痕が観察される。メノウの剥片46・48はひびが見られ、剥離時に破損したと考えられる。

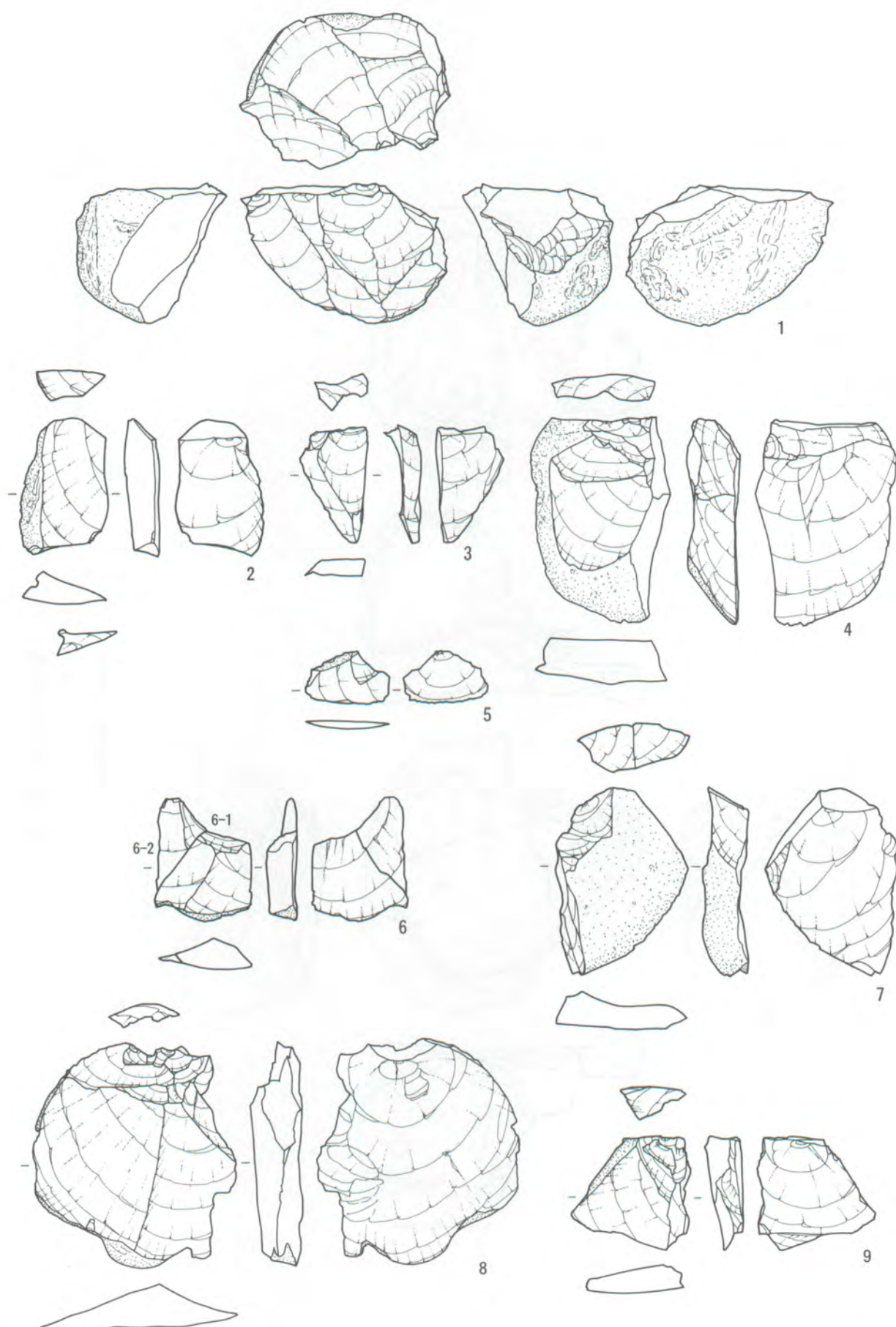
49～63は西グループの石器である。49～52・56～60は安山岩、53は砂岩、61は安山岩B、63はメノウ、62は安山岩C、64は頁岩である。49～51は接合資料9の石器である。明瞭な石核はなく、剥片の接合である。横長というよりも幅広といえる剥片と縦長剥片が主要と考えられる。52は原石面が残る剥片の接合資料10である。剥離初期の器面調整の剥離である。原石の大きさが推定される。接合資料11(53)は形状および接合状態から敲石片と考えられる。接合資料12(54)は大型の剥片を分割した一部と思われる。



接合資料1 (1~9)



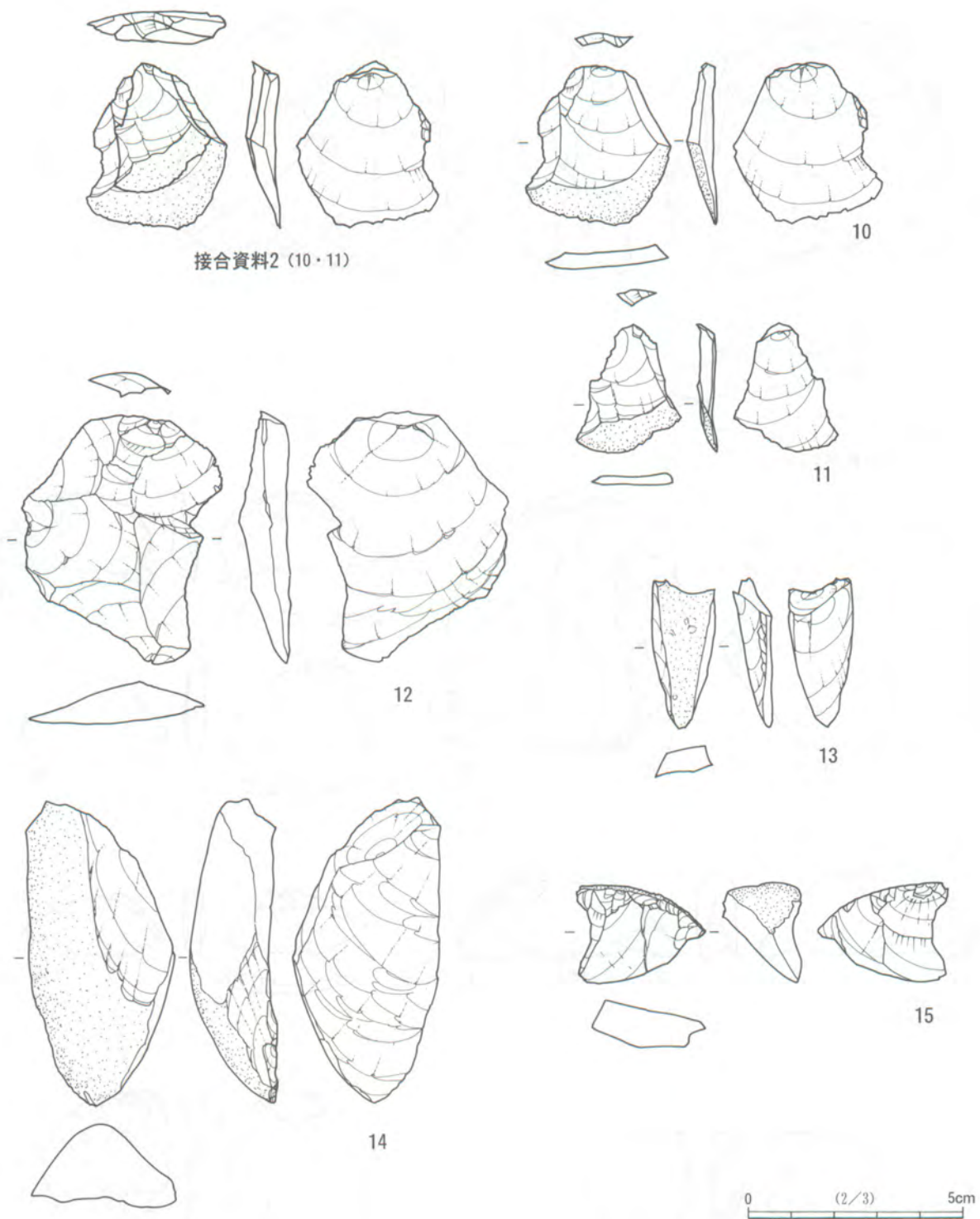
第8図 A区出土石器 (1)



接合資料1

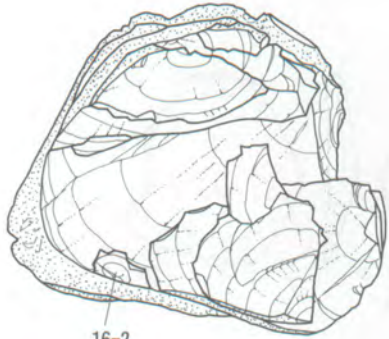
0 (2/3) 5cm

第9図 A区出土石器(2)



接合資料2 (10・11)

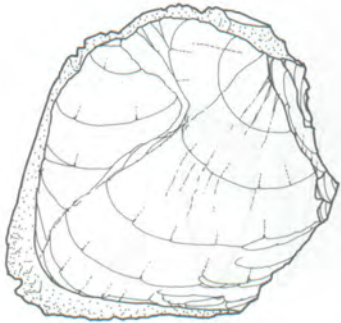
第10図 A区出土石器 (3)



16-2



接合資料3 (16~22)



16-1



16



17



18



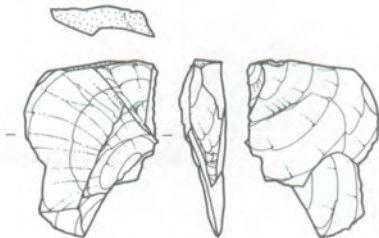
19-2

19-1

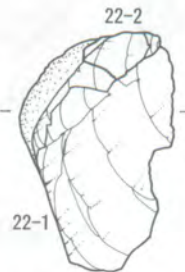
19



20



21



22-1

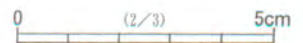


22

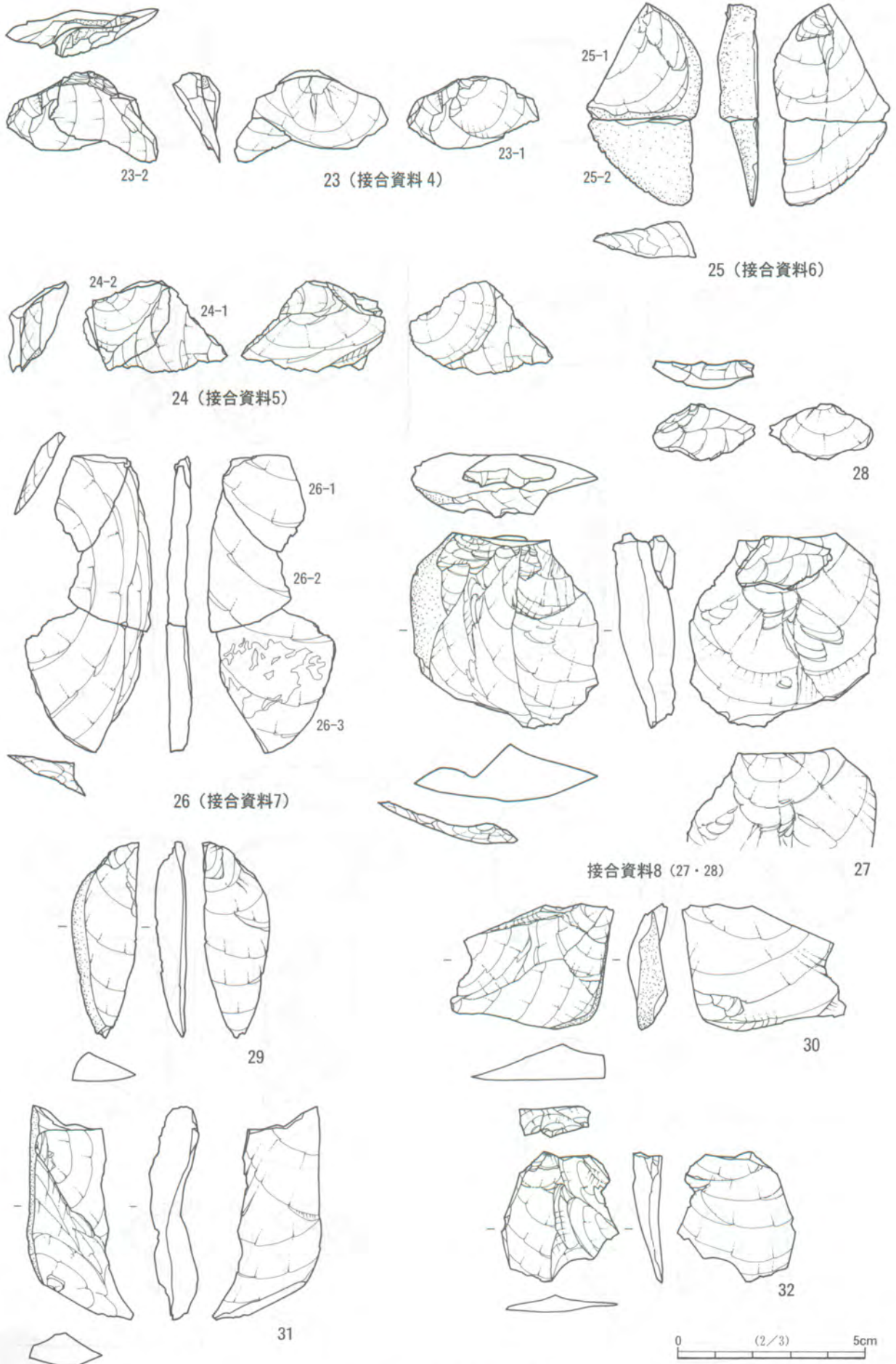
22-2



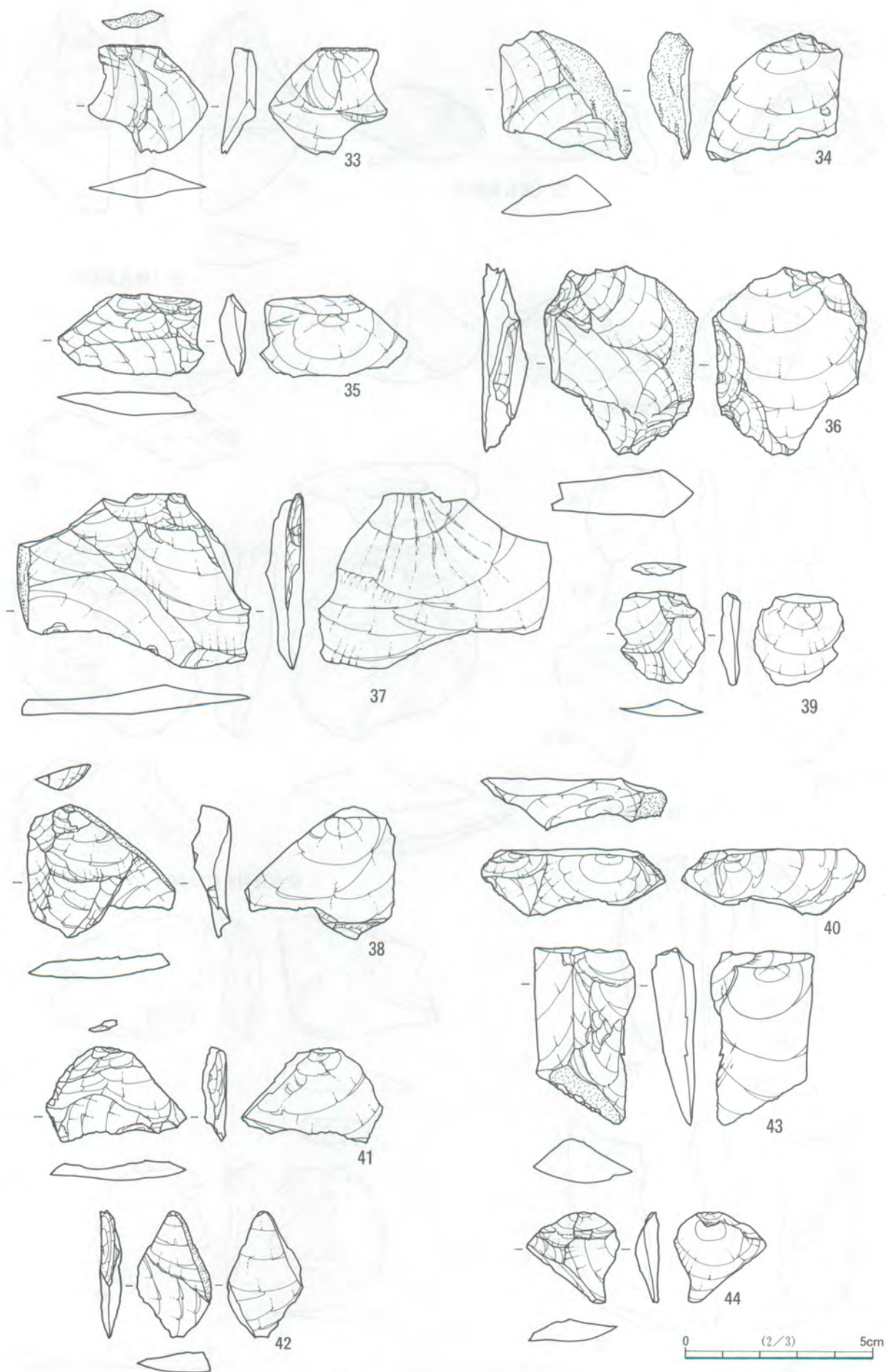
接合資料3



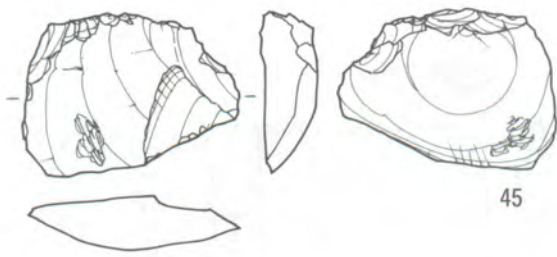
第11圖 A区出土石器 (4)



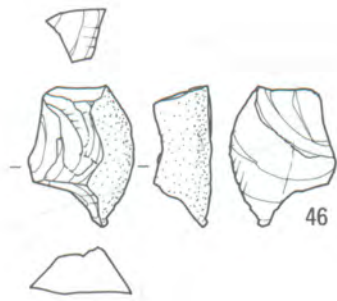
第12図 A区出土石器(5)



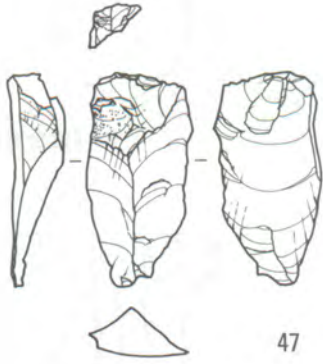
第13图 A区出土石器(6)



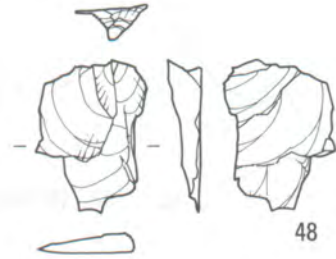
45



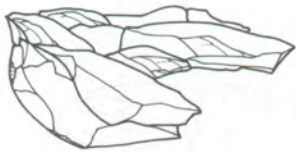
46



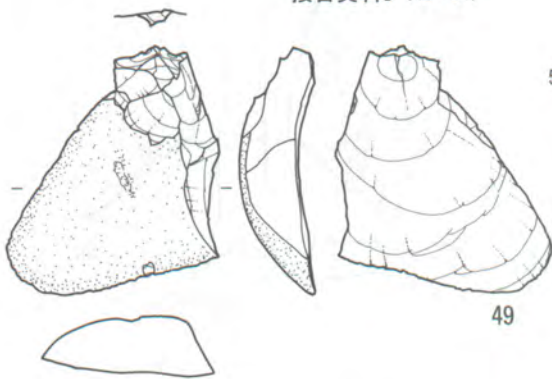
47



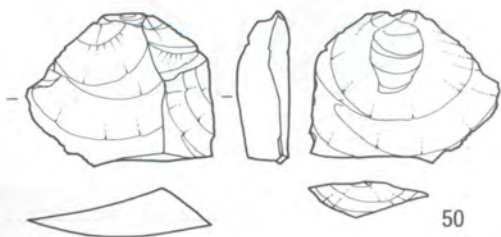
48



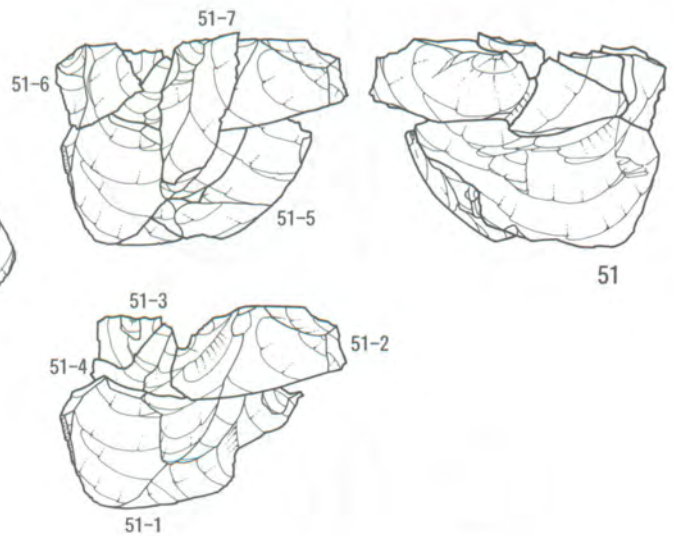
接合資料9 (49~51)



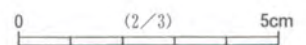
49



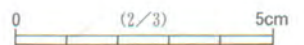
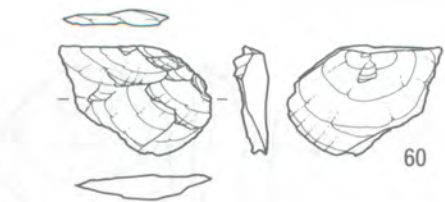
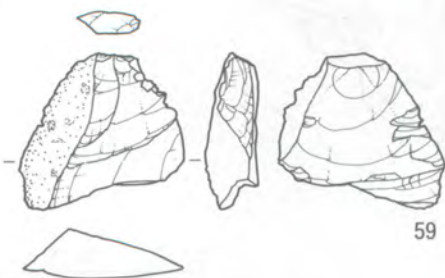
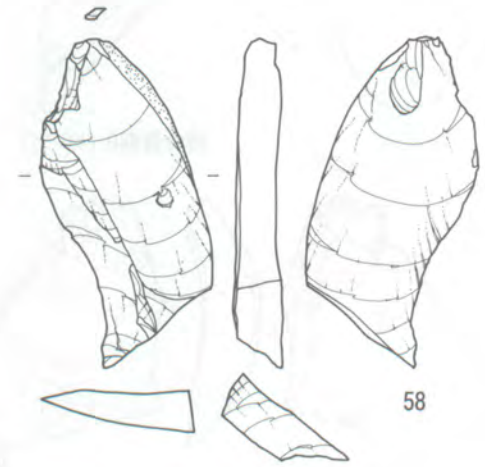
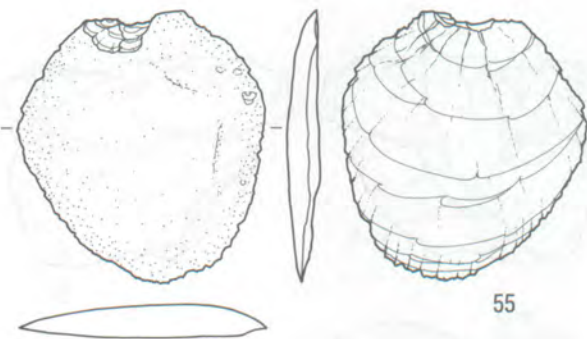
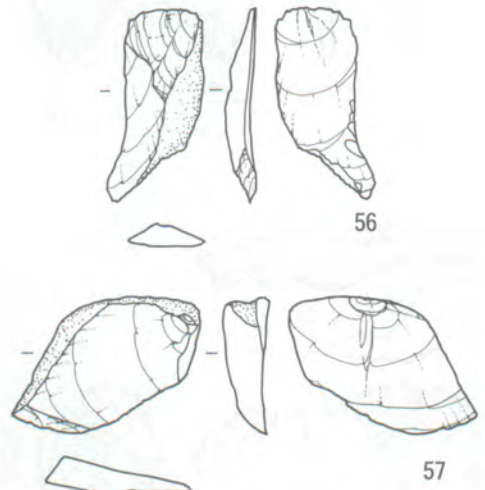
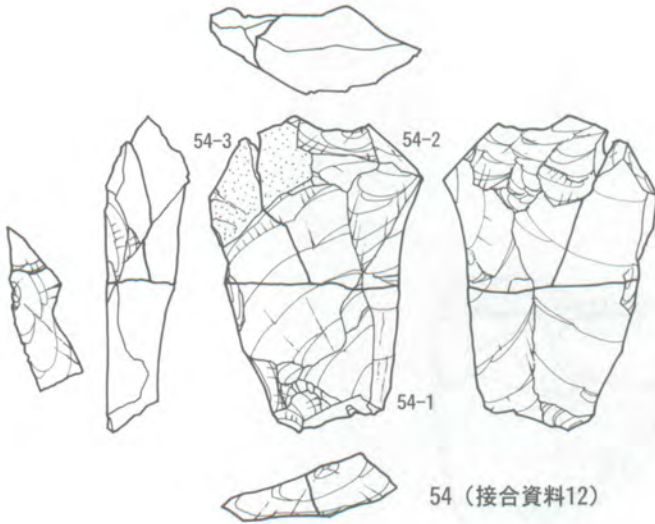
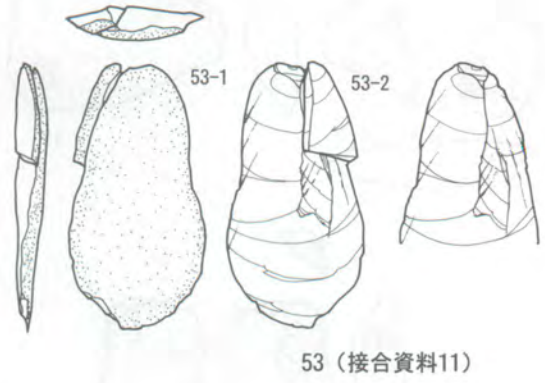
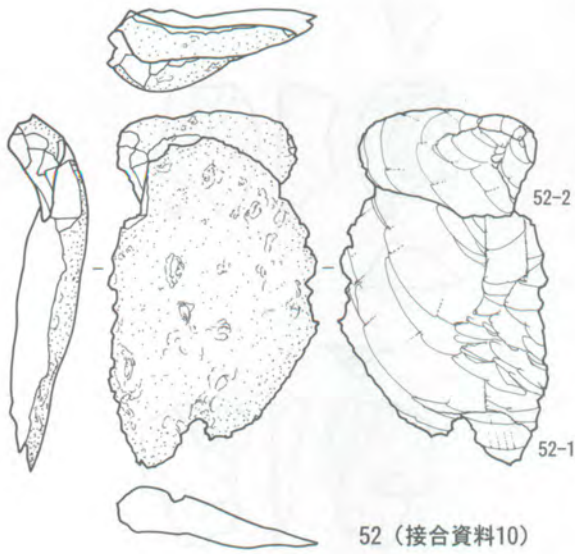
50



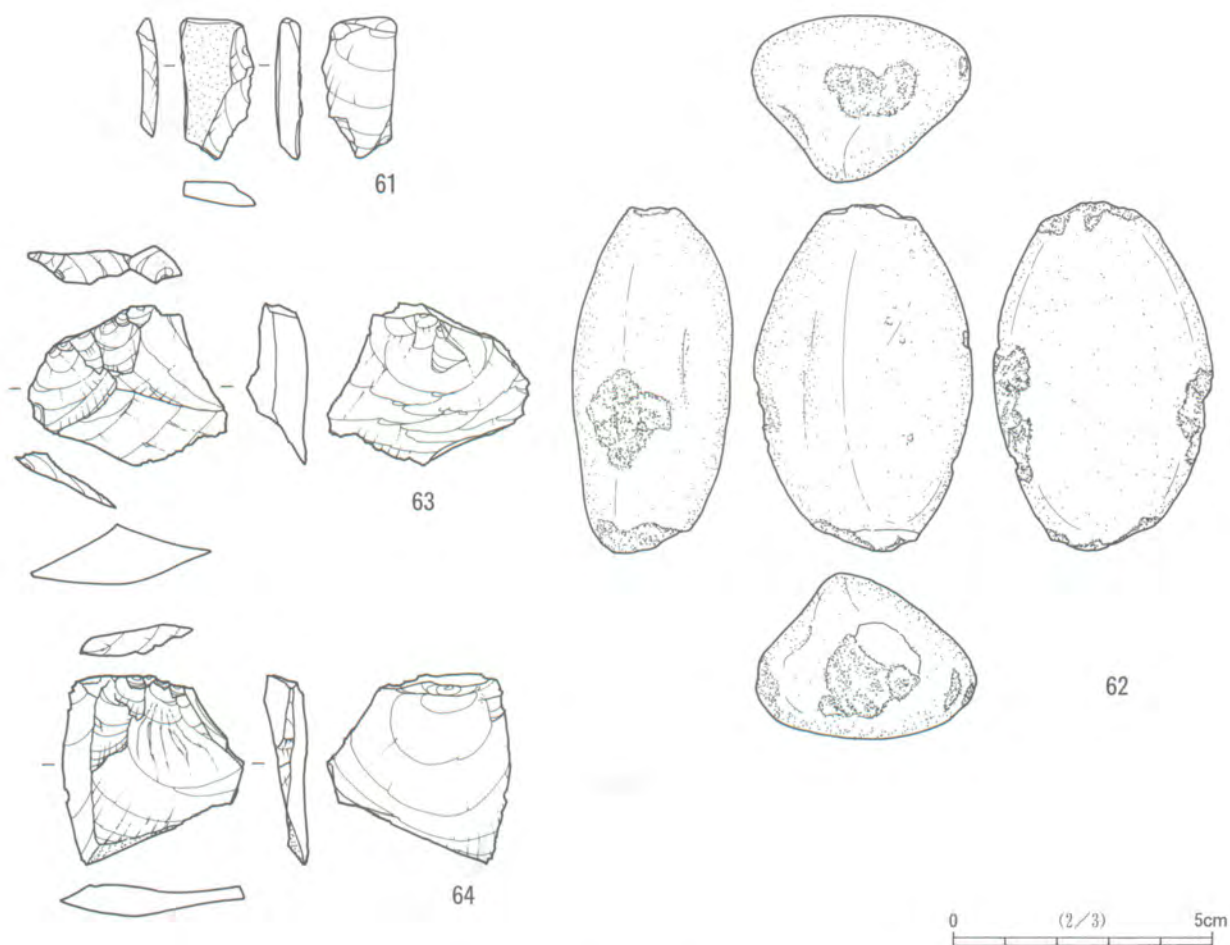
51



第14图 A区出土石器(7)



第15図 A区出土石器 (8)



第16図 A区出土石器（9）

56～61・63・64は剥片である。接合資料9と同様に、横長というよりも幅広といえる剥片と縦長剥片が主要と考えられる。55は表面が原石面である。剥離初期の器面調整片と考えられる。61は安山岩Bである。接合資料8と同質である。

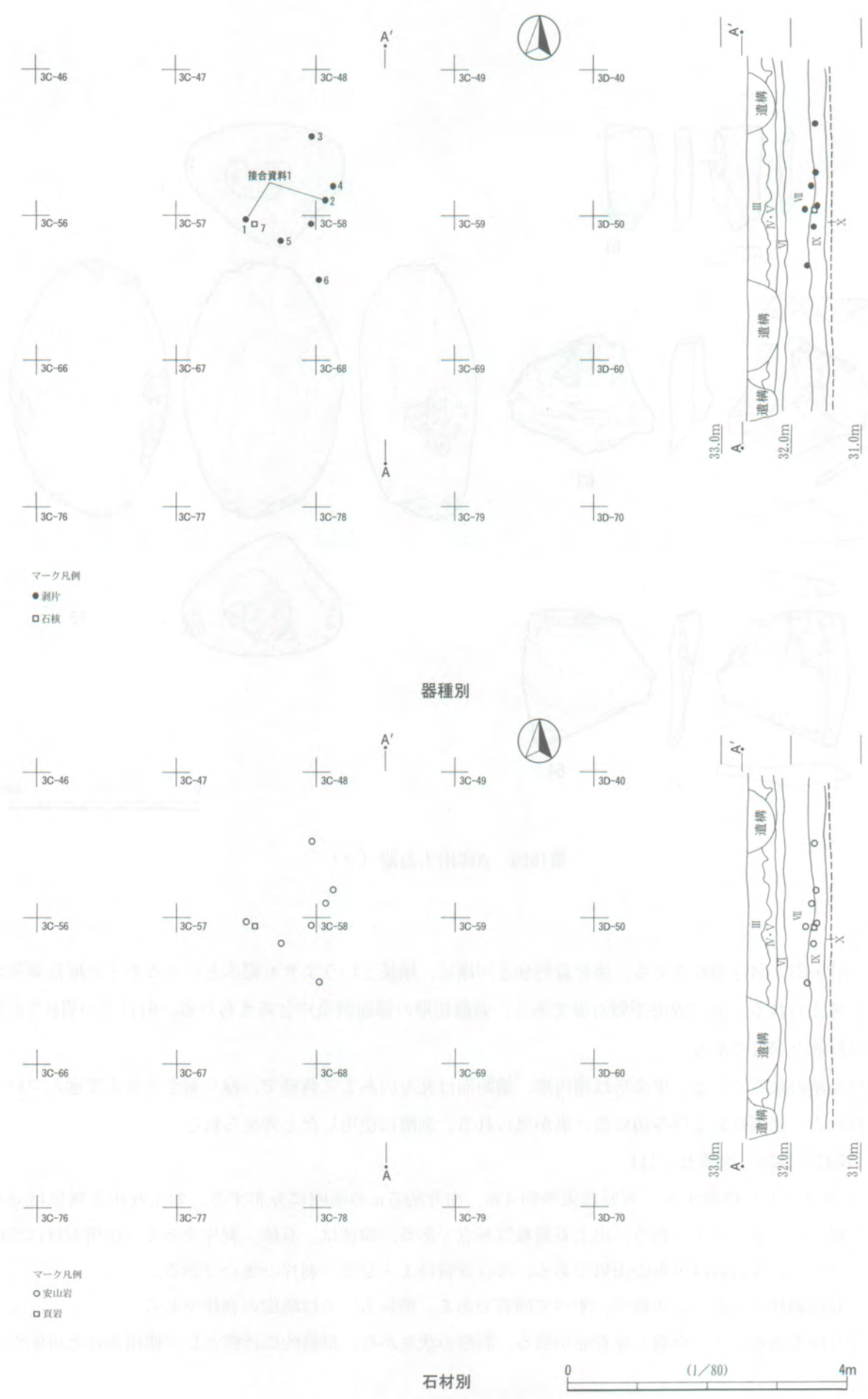
62は小型の敲石である。平面形は楕円形、横断面は丸みのある三角形で、握り易さを考えて選んでいると思われる。両頂点および各辺に敲き痕が見られる。剥離に使用したと考えられる。

B区（第17・18図 図版2・11）

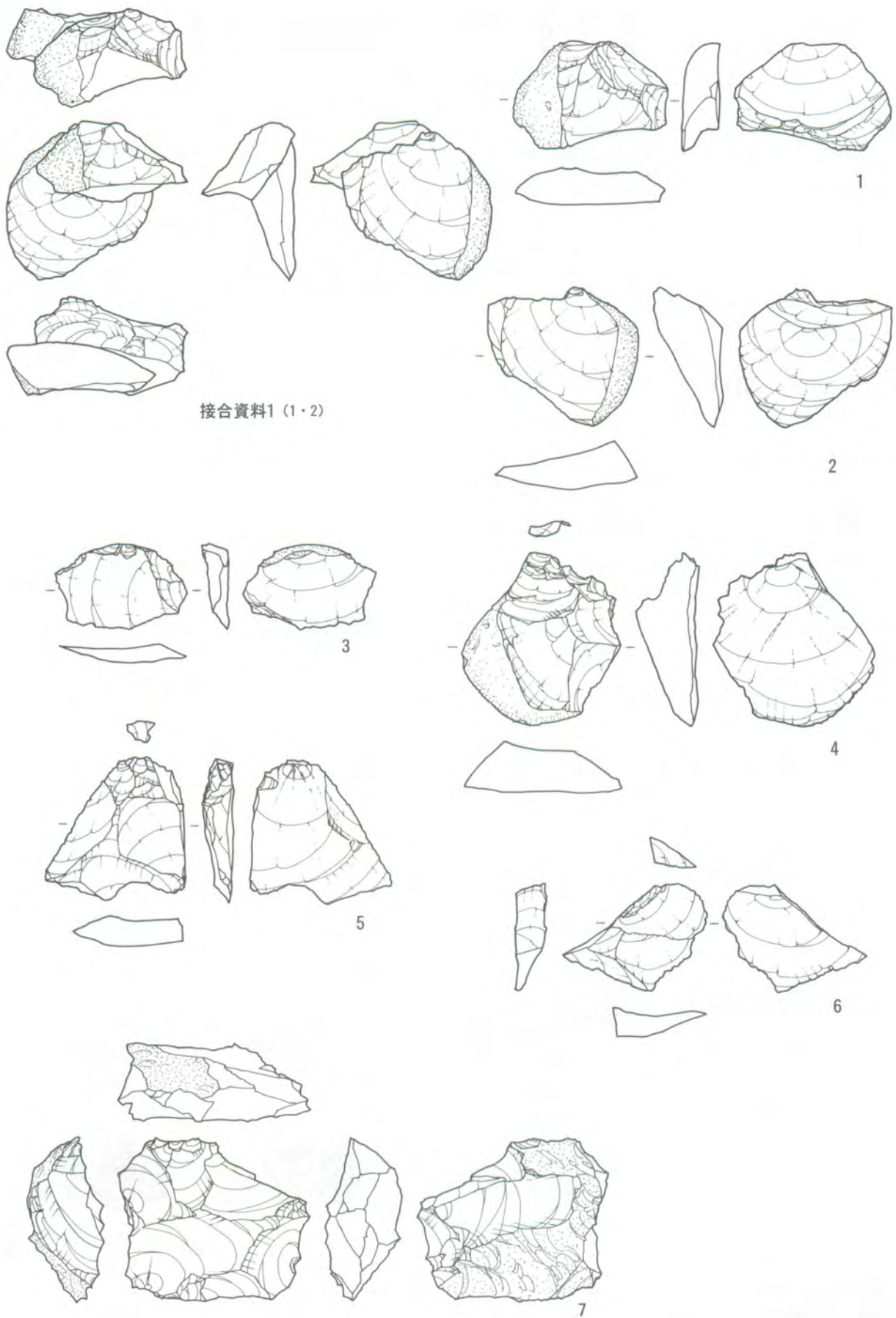
3C大グリッドに位置する。石器は東西約4m、南北約5mの範囲に分布する。おもな出土層位は立川ローム層Ⅶ～Ⅸ層と考えられる。出土石器数は8点である。器種は、石核、剥片である。使用石材は安山岩、メノウで、安山岩は黒色安山岩である。接合資料は1・2で、剥片の接合である。

1～6は剥片である。安山岩で、すべて同質である。横長もしくは幅広の剥片である。

7は石核である。メノウ製で原石面が残る。剥離の状態から、最終的には楔として使用された可能性がある。



第17図 B区石器出土状況



第18図 B区出土石器

第3章 縄文・弥生時代

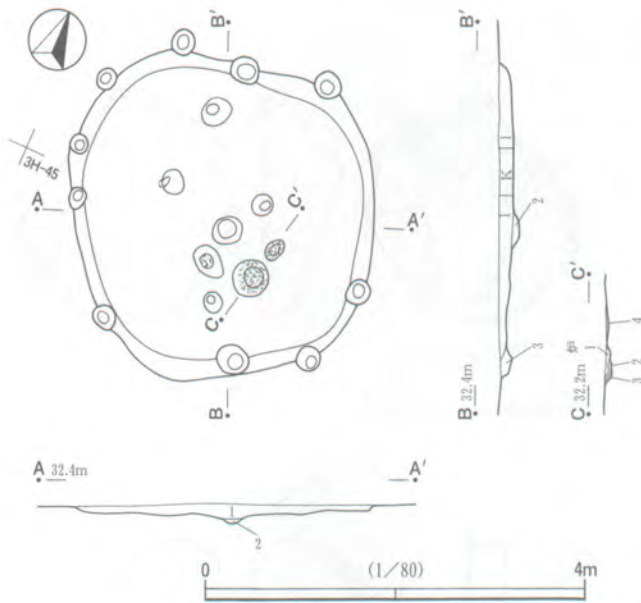
縄文時代の遺構としては、竪穴住居跡1軒、陥穴19基、土坑6基である。時期は竪穴住居跡が前期、陥穴が早期、土坑が前期および中期と考えられる。

遺構の位置については、調査区を次のように区分して表記した。東西方向で、A～Dを西区、E～Gを中央区、H～Kを東区とした。また、遺構の規模、遺物の法量・調整などは表に記述したので、ここではおもに特徴について記載する。

第1節 遺構と遺物 (第2・3表)

1 竪穴住居跡

SI-040 (第19図 図版12・15)

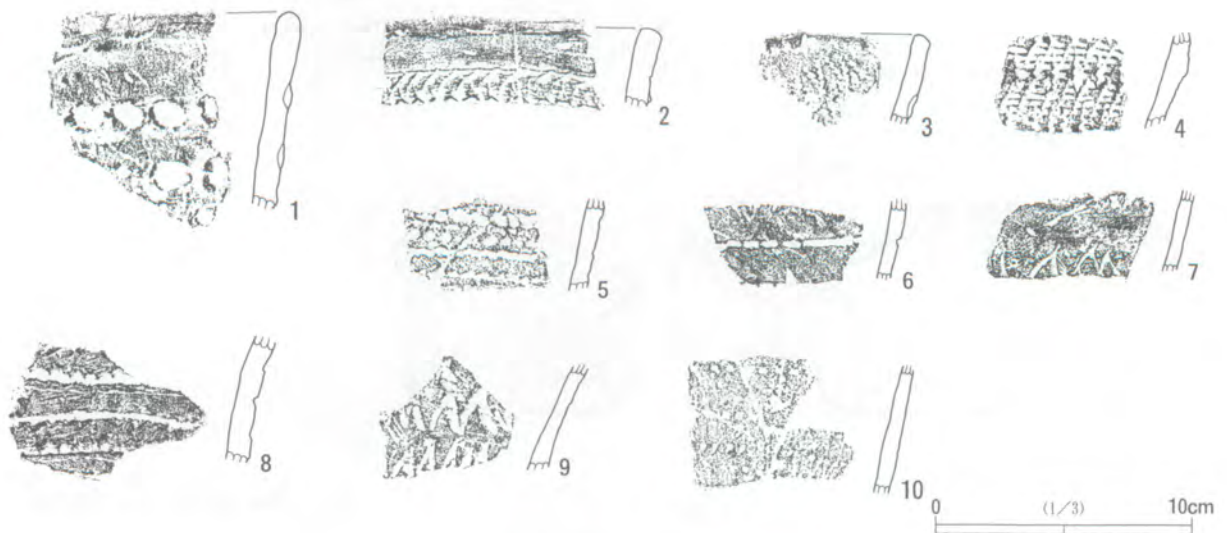


SI-040

1. 黒褐色土 黒色土主体、ローム粒少混、しまりがある
2. 褐色土 ローム粒多混、黒色土少混、しまりがある、粘性がある
3. 黒褐色土 ローム粒少混、しまりがある、粘性がある

SI-040 炉

1. 暗赤色土 黒色土・焼土粒少混
2. 赤色土 焼土粒・焼土ブロック主体
3. 黒褐色土 黒色土主体、ローム粒微混、焼土粒少混
4. 暗赤色土 黒色土少混、焼土粒多混



第19図 SI-040・出土遺物

東区やや中央寄りに位置する。主要グリッドは3H-26である。平面形はほぼ円形である。覆土は、全体に削平されているので、残りは悪いが、自然堆積と考えられる。床面は平坦である。壁柱穴で、10か所検出された。床面にも柱穴と思われるピットが5基検出された。壁柱穴、ピットはほぼ円形である。床面に、炉跡が3基検出されたが、重複関係がないので、新旧は不明である。

遺物は、覆土から縄文土器が出土しているが、すべて破片である。時期は浮島Ⅱ式と考えられる。

1～10は深鉢形土器の破片である。1～3は口縁部片である。1は口縁内側に連続する押圧文が施され、外面には刺突文が2段以上施される。2は口縁下に貝殻腹縁による連続文が施される。3は口縁下に変形爪形文が施される。4～10は胴部片である。4は貝殻腹縁による連続文、5・6・8・10は竹管の連続刺突文が施される。7・9は変形爪形文が施される。浮島Ⅱ式に比定できる。

2 土 坑

土坑は6基検出された。主に調査区東側であるが、SK-119は北西部に検出された。陥穴よりも浅く、形状も円形が多い。出土土器から縄文時代とした。

SK-116 (第20図 図版12)

東区東寄りに位置し、主要グリッドは3H-19である。平面形は長楕円形で、陥穴に類似しているが、掘り込みが浅い。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。底面南端にピットが検出された。

SK-119 (第20図 図版12)

西区中央北寄りに位置し、主要グリッドは3C-11である。平面形は楕円形で、小ピットが付属している。

SK-120～122 (第20図 図版12)

東区北西寄りに位置し、主要グリッドは2I-62・63・73である。平面形はほぼ円形で、SK-120・121は浅く、SK-122はやや深い。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。底面は皿状で、中央が浅くくぼむ。

SK-127 (第20図 図版12)

東区北東端に位置し、主要グリッドは2J-78である。平面形は楕円形で、陥穴に類似しているが、掘り込みが浅い。底面は平坦である。

3 陥 穴

陥穴は19基検出された。すべて、調査区中央から東側に位置する。また、底部が極端に細長くなり、横断面が漏斗状になる陥穴は検出されなかった。底面が長方形または楕円形で、やや幅が広いものであった。

SK-091 (第21図 図版13)

東区中央に位置し、主要グリッドは3I-96である。平面形は丸みがある長方形で、長軸の方位はN-33.5°-Eである。

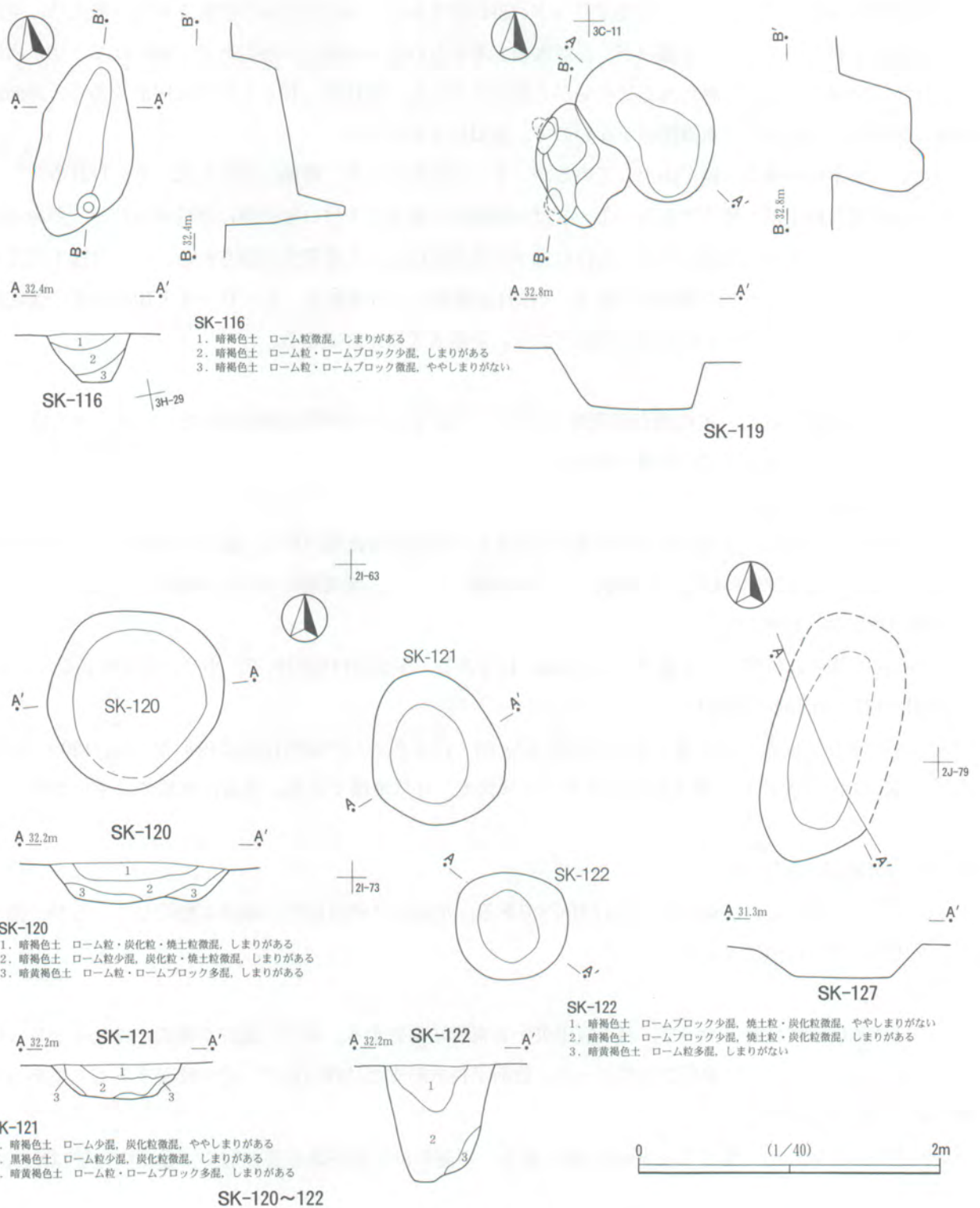
SK-092 (第21図 図版13)

中央区やや東寄りに位置し、主要グリッドは3G-92である。平面形は丸みがある長方形で、長軸の方位はN-66°-Wである。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。

SK-097 (第21図 図版13)

東区北西端に位置し、主要グリッドは2H-35である。平面形は丸みがある長方形で、長軸の方位はN-32°-Wである。

SK-098 (第21図 図版13)

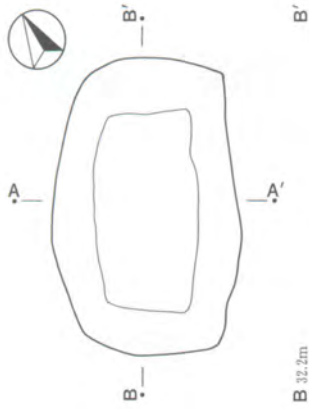


第20図 土坑

東区ほぼ中央に位置し、主要グリッドは2I-47である。平面形は楕円形であるが、底面は丸みがある長方形である。長軸の方位はN-2°-Eである。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。

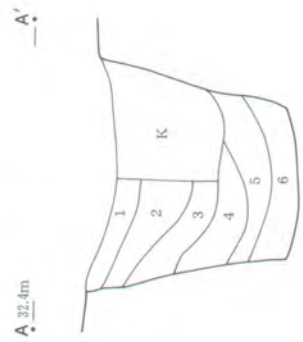
SK-099 (第21図 図版13)

中央区やや東寄りに位置し、主要グリッドは3G-86である。平面形は楕円形であるが、底面は丸みがある長方形である。長軸の方位はN-3°-Wである。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。底面中央にピットが1基検出された。逆茂木状の杭跡と思われる。



A 32.2m

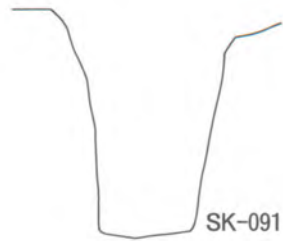
B 32.2m



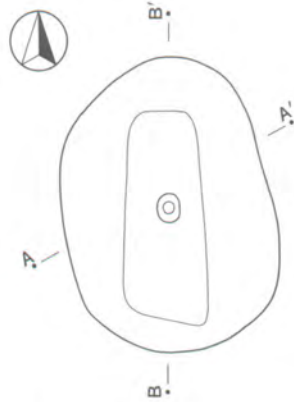
SK-092

1. 黒色土 ローム粒極微混、しまりがある
2. 黒色土 ローム粒多混、しまりがある
3. 黒色土 ローム粒少混、しまりがある
4. 黒色土 しまりがある
5. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少混、しまりがある、粘性がある
6. 黒色土 ローム粒極微混、しまりがある

SK-092

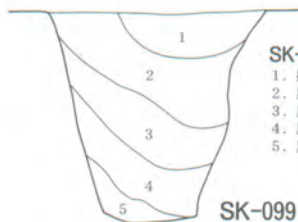


SK-091



A 32.3m

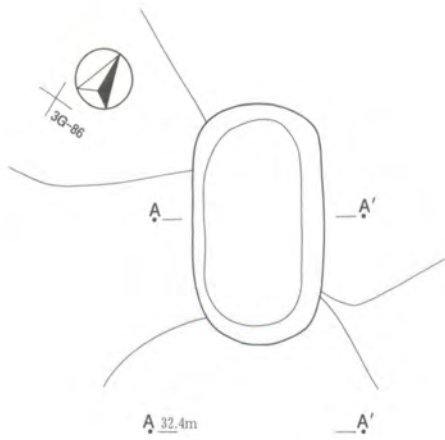
B 32.3m



SK-099

1. 攪乱
2. 黒色土 ローム粒少混、しまりがある
3. 黒色土 ローム粒極微混、しまりがある
4. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少混、しまりがある、粘性がある
5. 黒色土 ローム粒極微混、しまりがある

SK-099



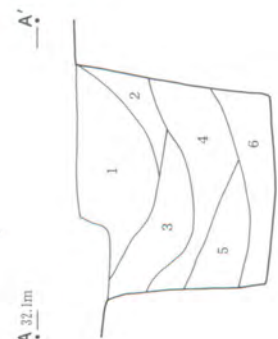
A 32.4m

A'



SK-097

21-47

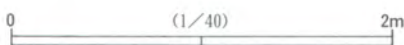


A 32.1m

SK-098

SK-098

1. 黒色土 ローム粒極微混、しまりがある
2. 黒色土 しまりがある
3. 黒色土
4. 黒色土 ローム粒極微混、ロームブロック微混
5. 黒色土 ローム粒・ロームブロック微混、しまりがある
6. 黒色土 しまりがある



第21図 陥穴(1)

SK-100 (第22図 図版13)

東区北西端に位置し、主要グリッドは2H-63である。平面形は楕円形であるが、底面は丸みがある長方形である。長軸の方位はN-1°-Wである。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。底面中央やや南にピットが1基検出された。逆茂木状の杭跡と思われる。

SK-101 (第22図 図版13)

東区北西端に位置し、主要グリッドは2H-65である。平面形は楕円形であるが、底面は丸みがある長方形である。長軸の方位はN-53°-Eである。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。底面中央やや南にピットが1基検出された。逆茂木状の杭跡と思われる。

SK-102 (第22図 図版13)

東区北西寄りに位置し、主要グリッドは2H-99である。平面形は楕円形であるが、底面は丸みがある長方形である。長軸の方位はN-75°-Eである。

SK-103 (第22図 図版14)

東区北西寄りに位置し、主要グリッドは2H-80である。平面形は楕円形であるが、底面は丸みがある長方形である。長軸の方位はN-77°-Wである。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。底面直上に黒色土が堆積しているので、開口時間が長かったと考えられる。底面中央1基、やや南に1基とピットが2基検出された。逆茂木状の杭跡と思われ、作り替えがあったと考えられる。

SK-104 (第23図 図版14)

東区北西寄りに位置し、主要グリッドは3I-01である。平面形は楕円形であるが、底面は長方形である。長軸の方位はN-51°-Wである。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。底面中央にピットが1基検出された。逆茂木状の杭跡と思われる。

SK-105 (第23図 図版14)

東区北西寄りに位置し、主要グリッドは3I-12である。平面形は楕円形であるが、底面は長方形である。長軸の方位はN-64.5°-Eである。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。

SK-107 (第22図 図版14)

東区やや西寄りに位置し、主要グリッドは3I-33である。平面形は丸みのある長方形である。長軸の方位はN-74°-Wである。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。底面南側に皿状のピットが1基検出された。逆茂木状施設跡と思われる。

SK-108 (第23図 図版14)

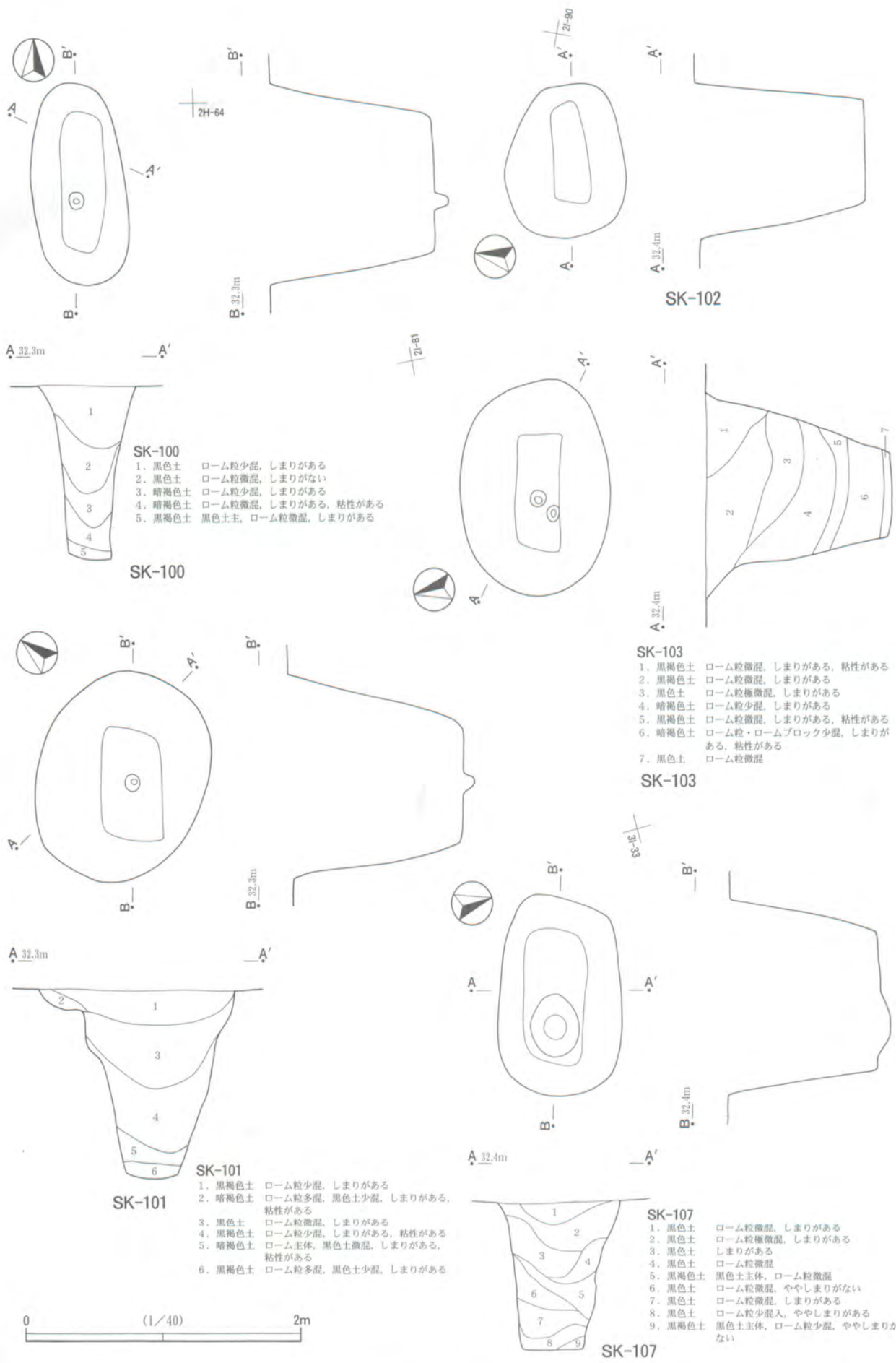
東区西寄りに位置し、主要グリッドは3I-46である。平面形は楕円形であるが、底面は丸みがある長方形である。長軸の方位はN-5.5°-Eである。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。底面中央にピットが1基検出された。逆茂木状の杭跡と思われる。

SK-114 (第23図 図版14)

東区西寄りに位置し、主要グリッドは3I-46である。平面形は丸みのある長方形である。長軸の方位はN-25.5°-Eである。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。底面中央にピットが1基検出された。逆茂木状の杭跡と思われる。

SK-115 (第24図 図版14)

東区西寄りに位置し、主要グリッドは3I-32である。平面形は長方形である。長軸の方位はN-84°-Wで



SK-100

1. 黒色土	ローム粒少混, しまりがある
2. 黒色土	ローム粒微混, しまりがない
3. 暗褐色土	ローム粒少混, しまりがある
4. 暗褐色土	ローム粒微混, しまりがある, 粘性がある
5. 黒褐色土	黒色土主, ローム粒微混, しまりがある

SK-103

1. 黒褐色土	ローム粒微混, しまりがある, 粘性がある
2. 黒褐色土	ローム粒微混, しまりがある
3. 黒色土	ローム粒微混, しまりがある
4. 暗褐色土	ローム粒少混, しまりがある
5. 黒褐色土	ローム粒微混, しまりがある, 粘性がある
6. 暗褐色土	ローム粒・ロームブロック少混, しまりがある, 粘性がある
7. 黒色土	ローム粒微混

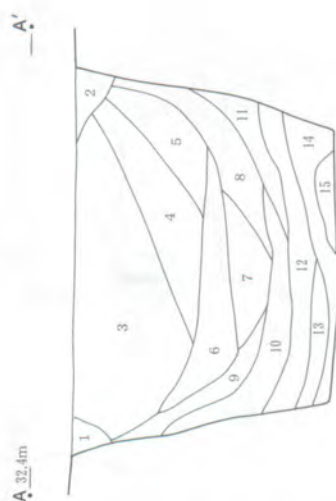
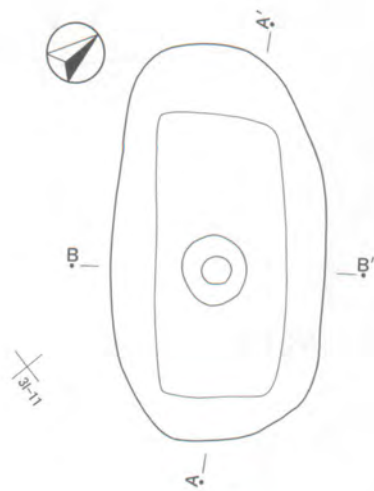
SK-101

1. 黒褐色土	ローム粒少混, しまりがある
2. 暗褐色土	ローム粒多混, 黒色土少混, しまりがある, 粘性がある
3. 黒色土	ローム粒微混, しまりがある
4. 黒褐色土	ローム粒少混, しまりがある, 粘性がある
5. 暗褐色土	ローム主体, 黒色土微混, しまりがある, 粘性がある
6. 黒褐色土	ローム粒多混, 黒色土少混, しまりがある

SK-107

1. 黒色土	ローム粒微混, しまりがある
2. 黒色土	ローム粒極微混, しまりがある
3. 黒色土	しまりがある
4. 黒色土	ローム粒微混
5. 黒褐色土	黒色土主体, ローム粒微混
6. 黒色土	ローム粒微混, ややしまりがない
7. 黒色土	ローム粒微混, しまりがある
8. 黒色土	ローム粒少混入, ややしまりがある
9. 黒褐色土	黒色土主体, ローム粒少混, ややしまりがない

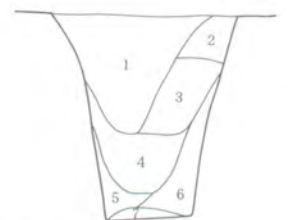
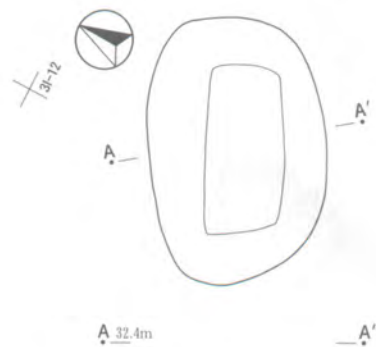
第22図 陥穴(2)



SK-104

1. 褐色土 ローム主体、黒色土微混、しまりがある
2. 黒褐色土 黒色土主体、ローム粒微混、しまりがある
3. 黒褐色土 黒色土主体、ローム粒少混、しまりがある
4. 黒色土 ローム粒極微混、しまりがある
5. 黒色土 ローム粒少混
6. 黒褐色土 ローム粒多混
7. 黒褐色土 黒色土主体、ローム粒・ロームブロック少混、しまりがある
8. 黒色土 ローム粒極微混、しまりがある
9. 黒褐色土 ローム粒微混、しまりがある
10. 褐色土 黒色土少混、ローム粒・ロームブロック多混
11. 黒褐色土 ローム粒微混
12. 黒褐色土 ローム粒微混、しまりがある、粘性がある
13. 褐色土 黒色土微混、ローム粒多混、しまりがある、粘性がある
14. 黒褐色土 黒色土主体、ローム粒少混、しまりがある、粘性がある
15. 黒褐色土 ローム粒多混、しまりがある、粘性がある

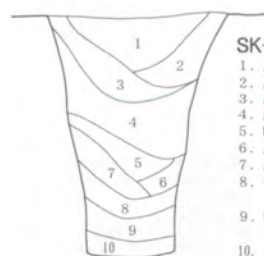
SK-104



SK-105

1. 黒褐色土 ローム粒少混、しまりがある
2. 黄褐色土 ローム主体、黒色土微混、しまりがある
3. 黒色土 ローム粒極微混、しまりがある
4. 黒色土 ローム粒微混、しまりがある、粘性がある
5. 黒褐色土 ローム粒多混、黒色土少混、しまりがある、粘性がある
6. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多混、しまりがある、粘性がある
7. 黒褐色土 ローム粒少混、しまりがある

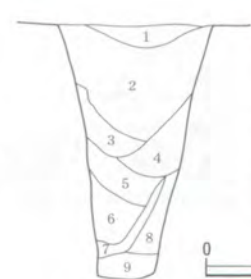
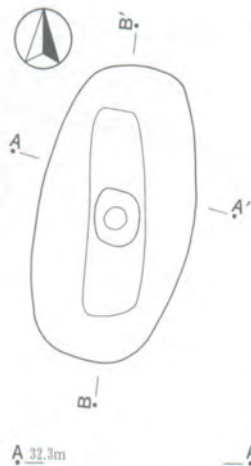
SK-105



SK-114

1. 黒色土 ローム粒微混、しまりがある
2. 黒褐色土 ローム粒微混、しまりがある
3. 黒褐色土 ローム粒やや多混、しまりがある
4. 黒褐色土 ローム粒少混
5. 暗褐色土 ローム粒少混、しまりがある、粘性がある
6. 黒色土 ローム粒極微混
7. 黒色土 ローム主体、黒色土微混、しまりがある、粘性がある
8. 褐色土 ローム多混、黒色土微混、しまりがある、粘性がある
9. 暗褐色土 ローム粒多混、黒色土微混、しまりがある、粘性がある
10. 黒色土 ローム粒微混、しまりがある、粘性がある

SK-114



SK-108

1. 黒色土 ローム粒極微混、しまりがある
2. 黒色土 ローム粒微混、しまりがある
3. 暗褐色土 ローム粒少混、粘性がある
4. 褐色土 ローム粒多混、ロームブロック少混、しまりがある、粘性がある
5. 暗褐色土 ローム粒少混、しまりがある、粘性がある
6. 褐色土 ローム粒子・ロームブロック多混、しまりがある、粘性がある
7. 暗褐色土 ローム粒微混
8. 暗褐色土 ローム粒少混、ややしまりがない
9. 暗褐色土 ローム粒微混、ややしまりがない

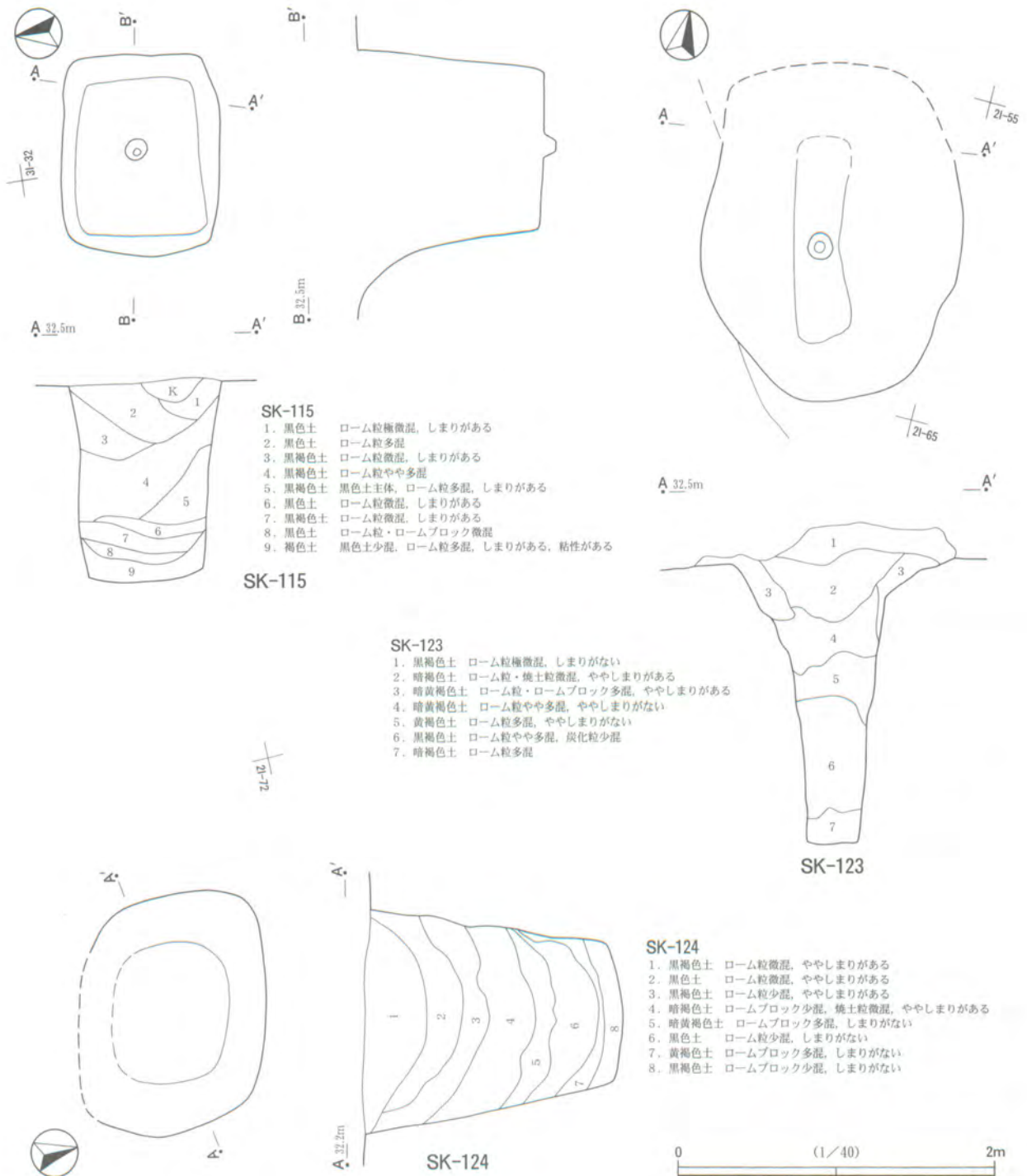
SK-108

0 (1/40) 2m

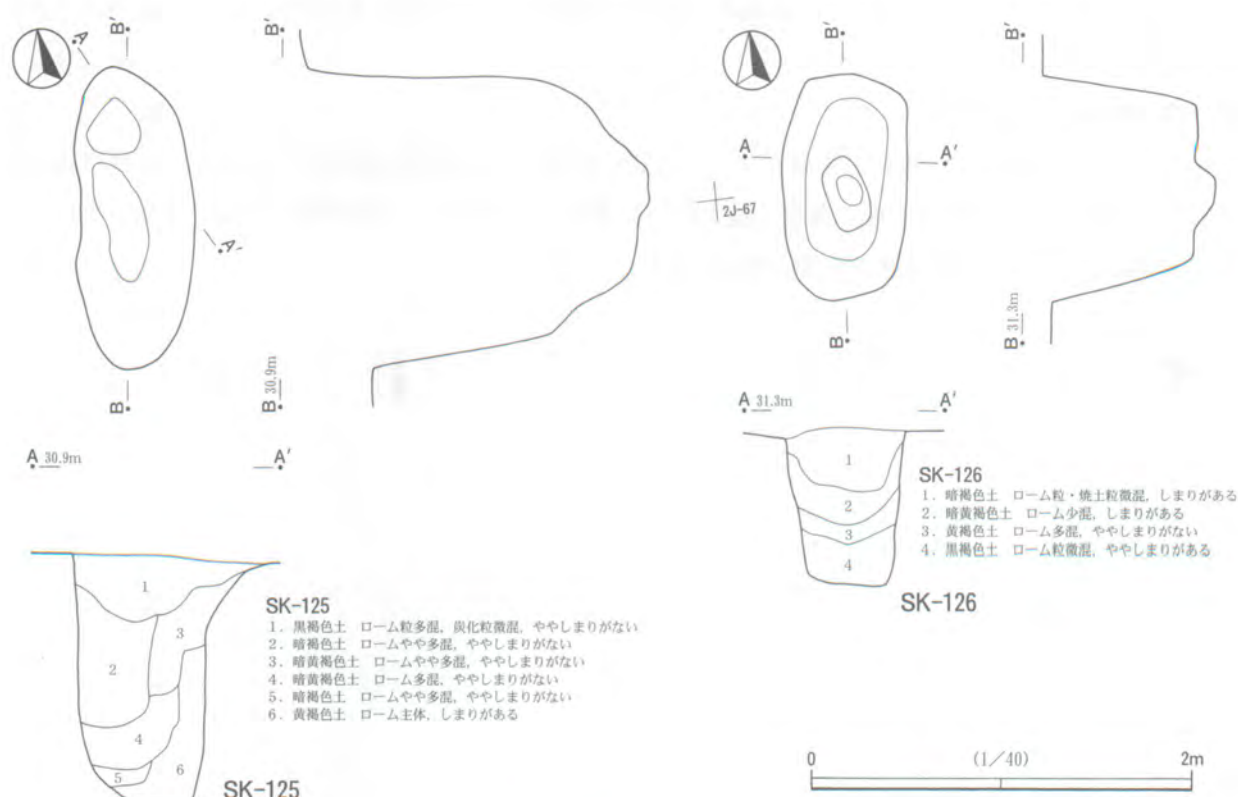
ある。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。底面中央にピットが1基検出された。逆茂木状の杭跡と思われる。

SK-123 (第24図 図版14)

東区北西やや西寄りに位置し、主要グリッドは2I-54である。平面形は楕円形であるが、底面は長方形である。長軸の方位はN-14°-Wである。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。底面中央にピットが1基検出された。逆茂木状の杭跡と思われる。



第24図 陥穴 (4)



第25図 陥穴 (5)

SK-124 (第24図 図版15)

東区北西寄りに位置し、主要グリッドは2I-72である。平面形は丸みのある長方形である。長軸の方位はN-74°-Wである。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である

SK-125 (第25図 図版15)

東区東端に位置し、主要グリッドは3K-74である。平面形は楕円形であるが、底面も楕円形である。長軸の方位はN-9.5°-Eである。覆土は偏りがあり、埋め戻しの可能性がある。底面中央がくぼみ、逆茂木状施設跡と思われる。

SK-126 (第25図 図版15)

東区北東端に位置し、主要グリッドは2J-67である。平面形は楕円形であるが、底面は丸みがある長方形である。長軸の方位はN-12°-Eである。覆土はいわゆるレンズ状で、自然堆積である。底面中央にピットが1基検出された。逆茂木状の杭跡と思われる。

4 遺構出土の土器

SK-104 (第26図 図版16)

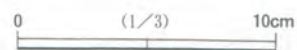
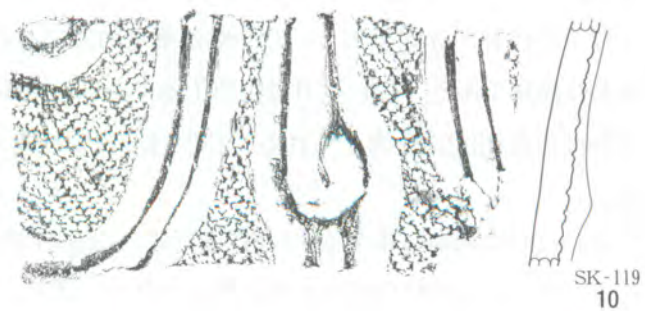
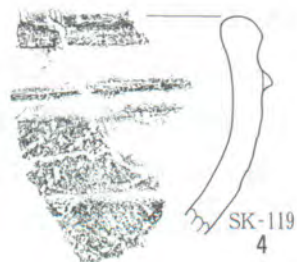
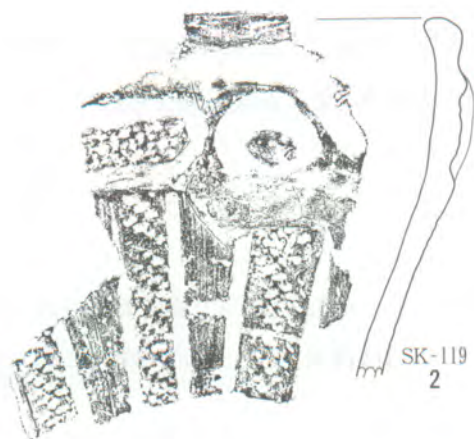
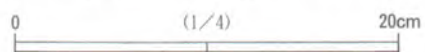
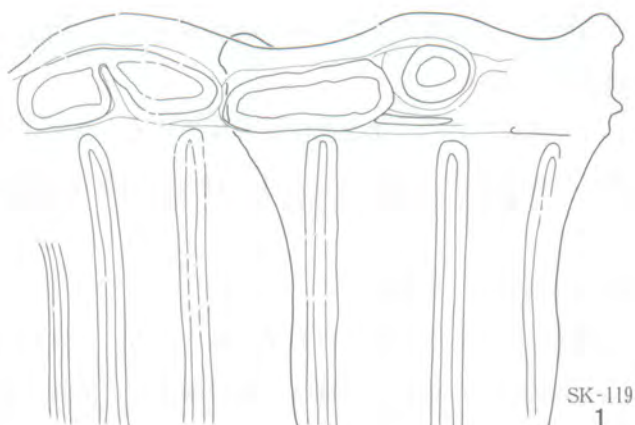
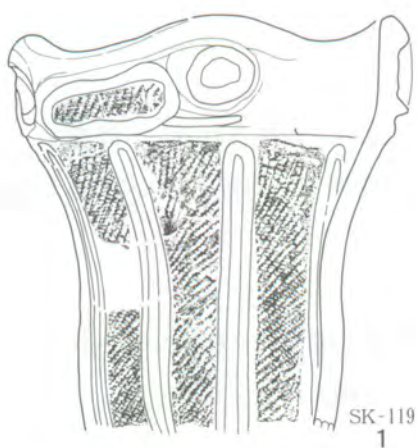
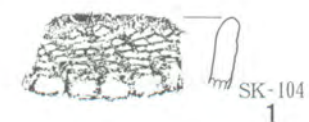
1は口縁部片である。押圧文と縄文が施される。

SK-115 (第26図 図版16)

1は胴部片である。横位に縄文が施される。加曾利B式と考えられる。

SK-119 (第26・27図 図版15~17)

図示した土器はすべてキャリパー形土器である。1は口縁が波状口縁で、口縁部は、隆帯による円形区画文と楕円区画文が連続する文様帯が施される。胴部は2条沈線の磨消懸垂文と縄文が交互に施される。



第26図 土坑出土縄文土器 (1)

2～6は口縁部で、1と同様の土器である。

4～16は胴部片である。7～9は1と同様に条沈線の磨消懸垂文と縄文が交互に施される。

10は2条隆帯の渦巻き懸垂文で間に縄文が施される。11～13は縦方向の条線文が施される。14・15は縦方向の条線文に2条沈線の磨消懸垂文が施され、沈線間の磨消文帯に刺突文が施される。加曾利EⅢ式と考えられる。16は磨消文帯に押引文が施される。阿玉台Ⅲ式と考えられる。

SK-120 (第27図 図版17)

1は口縁部である。沈線の区画が施される。2はひだ状の文様の下に刻み目が施される。3は縄文に2条沈線の磨消文帯が施される。4は縦方向の条線文が施される。中期の土器で、加曾利EⅣ式と考えられる。

SK-121 (第27図 図版17)

1は胴部片である。波状貝殻文が施される。2は口縁部片である。隆帯と縄文の文様帯が施される。3～5は胴部片である。3は縄文、4は横方向の隆帯と縄文、5は沈線文と縄文が施される。

1は浮島式、2・3・5は加曾利E式、4は中期である。

SK-122 (第27図 図版17)

1は口縁部片で、隆帯の円形区画文が施される。2～6は胴部片である。2は隆帯の懸垂文と縄文、3・5は2条沈線の磨消懸垂文と縄文、4・6は縄文が施される。加曾利EⅢ・Ⅳ式と考えられる。

SK-123 (第27図 図版17)

1は胴部片で、縄文が施される。加曾利E式である。

5 遺構外出土土器 (第28～31図 図版17～21)

縄文時代早期の沈線文系から晩期安行3式土器までの土器が出土した。特に後期の土器に大型の破片が多く見られた。1～7は早期、8～53は前期、54～76は中期、77～133は後期、134～140は晩期に属すると考えられる。

1は撚糸文系、2・3は沈線文系土器である。4～7は条痕文系土器である。

8～12は浮線文が主体で、諸磯b式である。13～51は浮島式である。13～17・34～39は平行沈線文が施される。18～21・40・41輪積痕に押圧文が施される。22～26は変形爪形文が施される。29～31・42～50は貝殻腹縁文・波状文が施される。51には三角文が施される。50には、外面に赤彩が施される。52は興津式、53は下小野式である。

54・55は阿玉台式である。56～76は加曾利E式である。56・57は隆帯の区画に縄文が施される。58は波状口縁、59～63は沈線文の区画に縄文が施される。

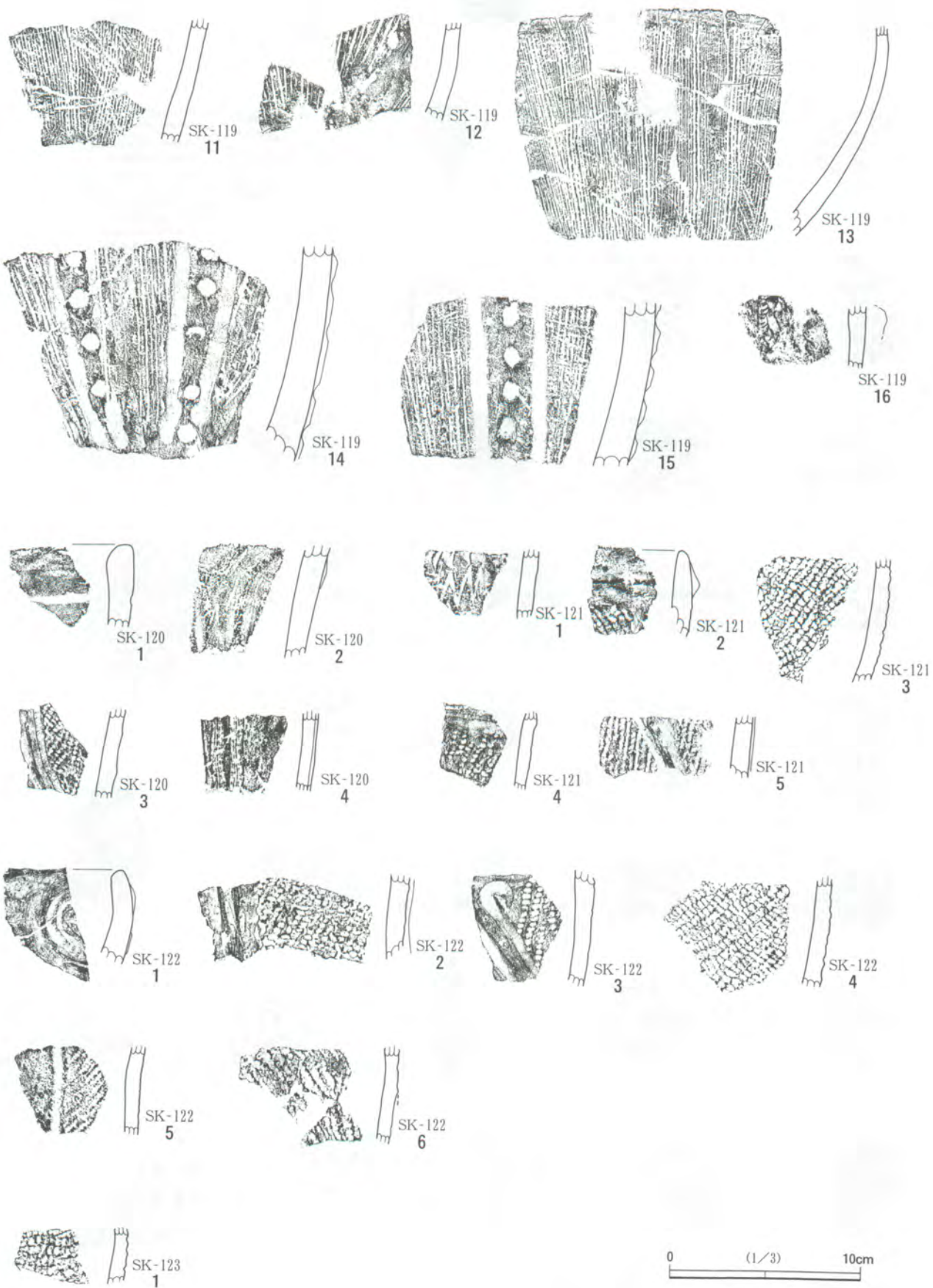
77～80は称名寺式である。81～85は堀之内式である。86～131は加曾利B式である。117・120は浅鉢、ほかは深鉢である。121～131は粗製土器である。文様の構成から86は加曾利B2式、97～115は加曾利B3式、ほかは加曾利B2式と考えられる。132・133は安行式である。132は安行1式、133は安行2式と考えられる。

134～140は晩期に属する。136は安行式、139は千網式と考えられる。

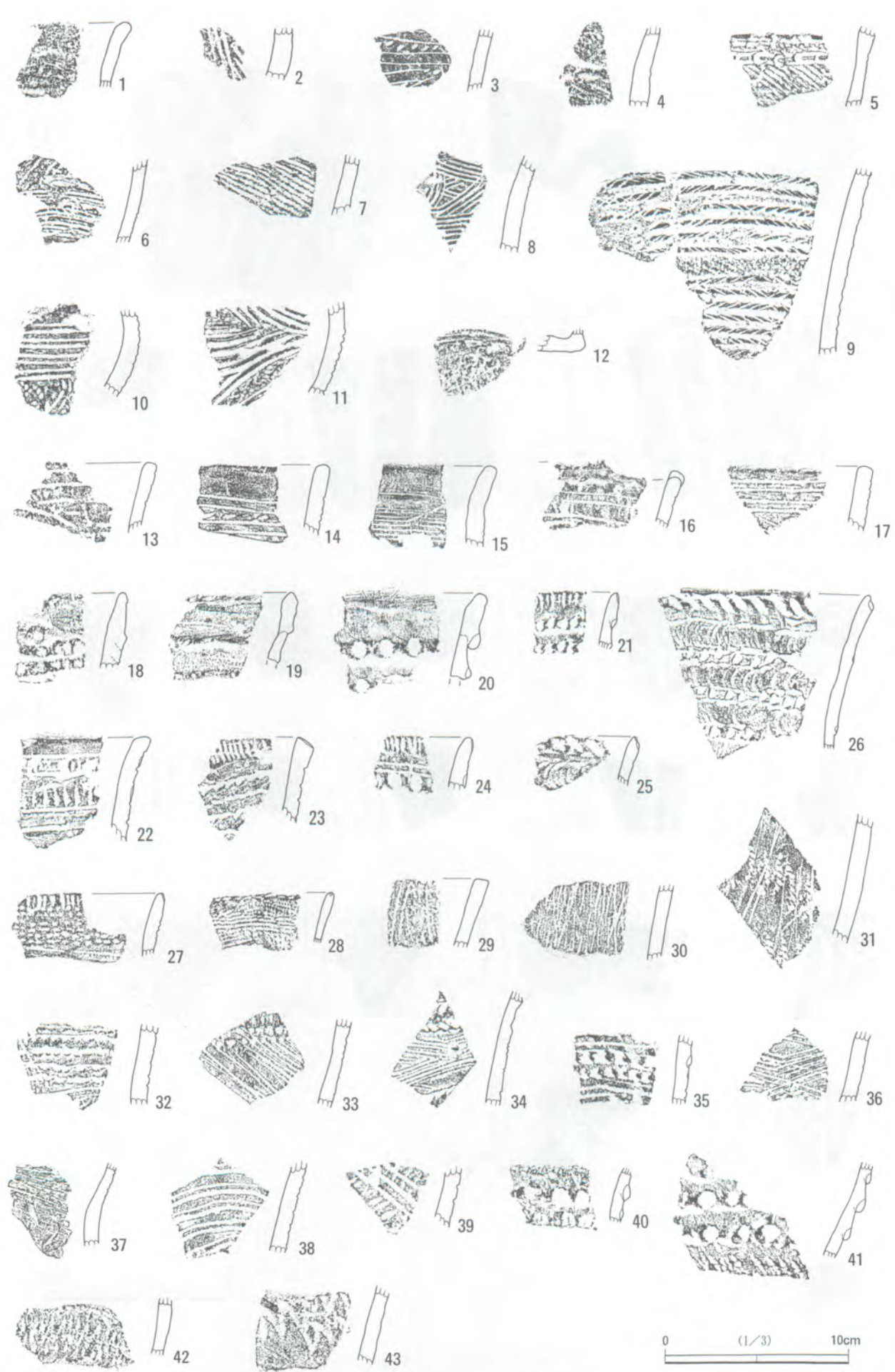
1～5は弥生時代後期の土器と考えられる。甕で、1・2には縄文、5には附加条縄文が施される。

6 石器 (第32図 図版22)

1・2は石鏃である。1は凹基無茎鏃、2は平基無茎鏃に分類される。3～5は剥片、6は石核である。



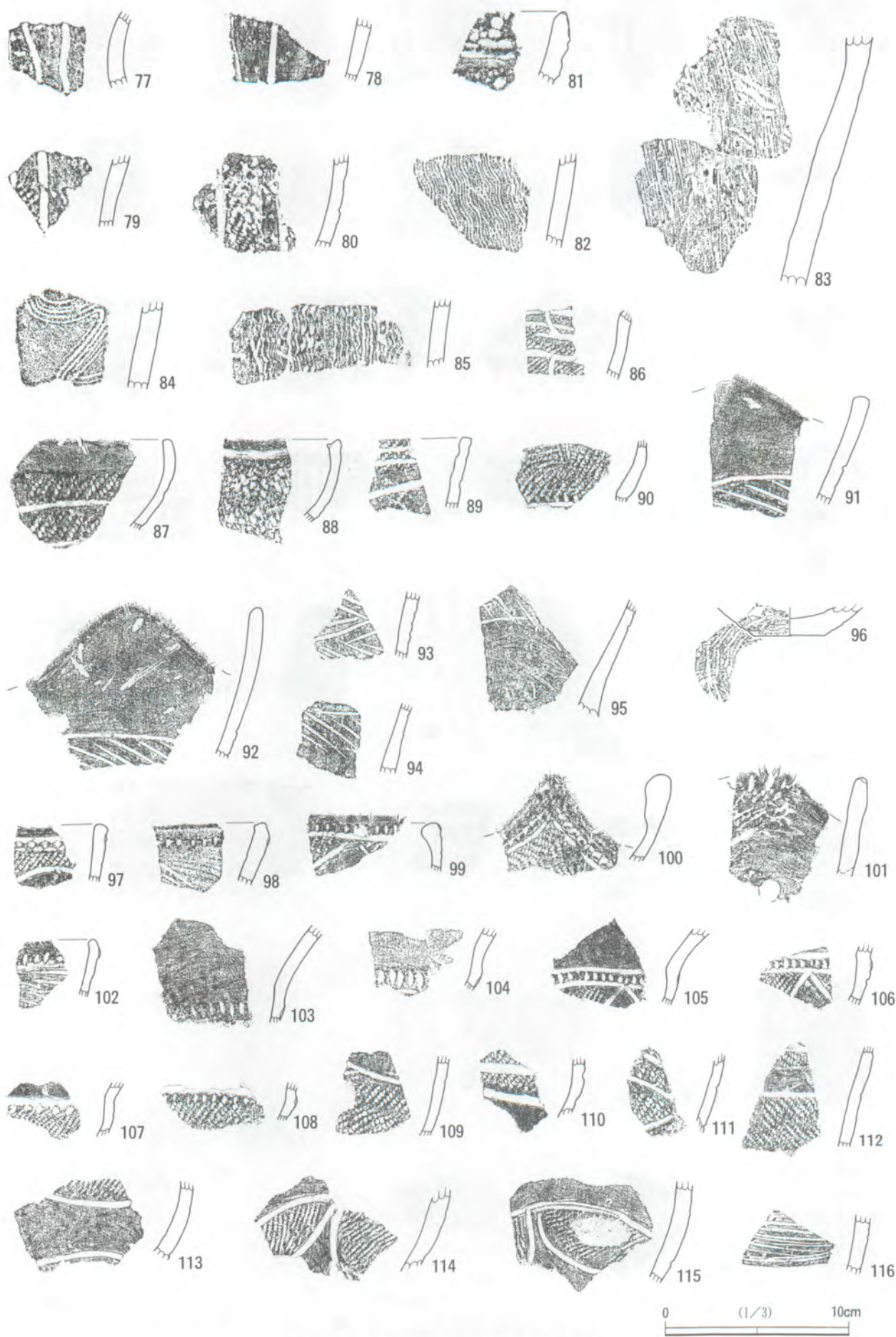
第27図 土坑出土縄文土器 (2)



第28図 グリット出土縄文土器(1)

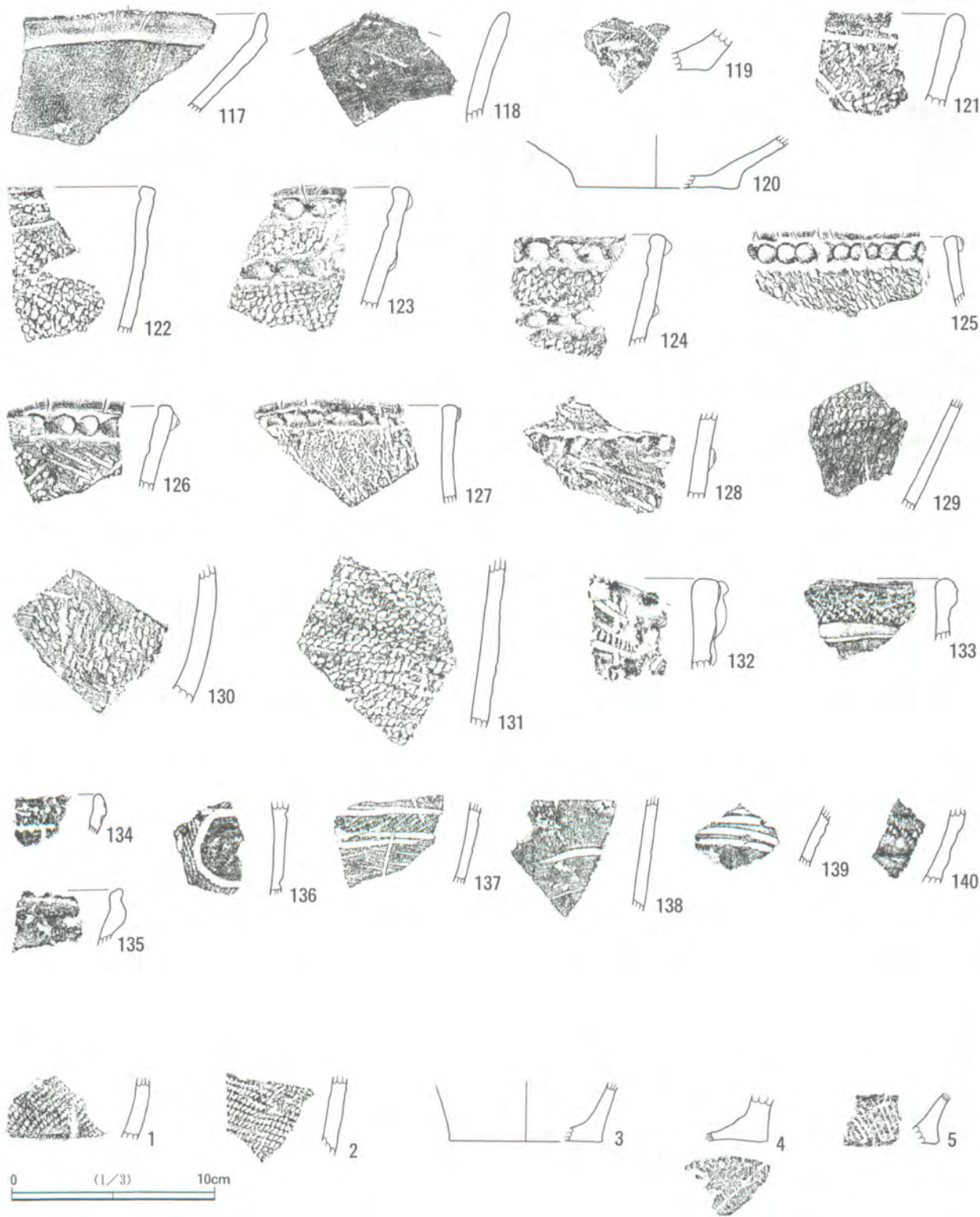


第29図 グリット出土縄文土器(2)



第30図 グリット出土縄文土器 (3)

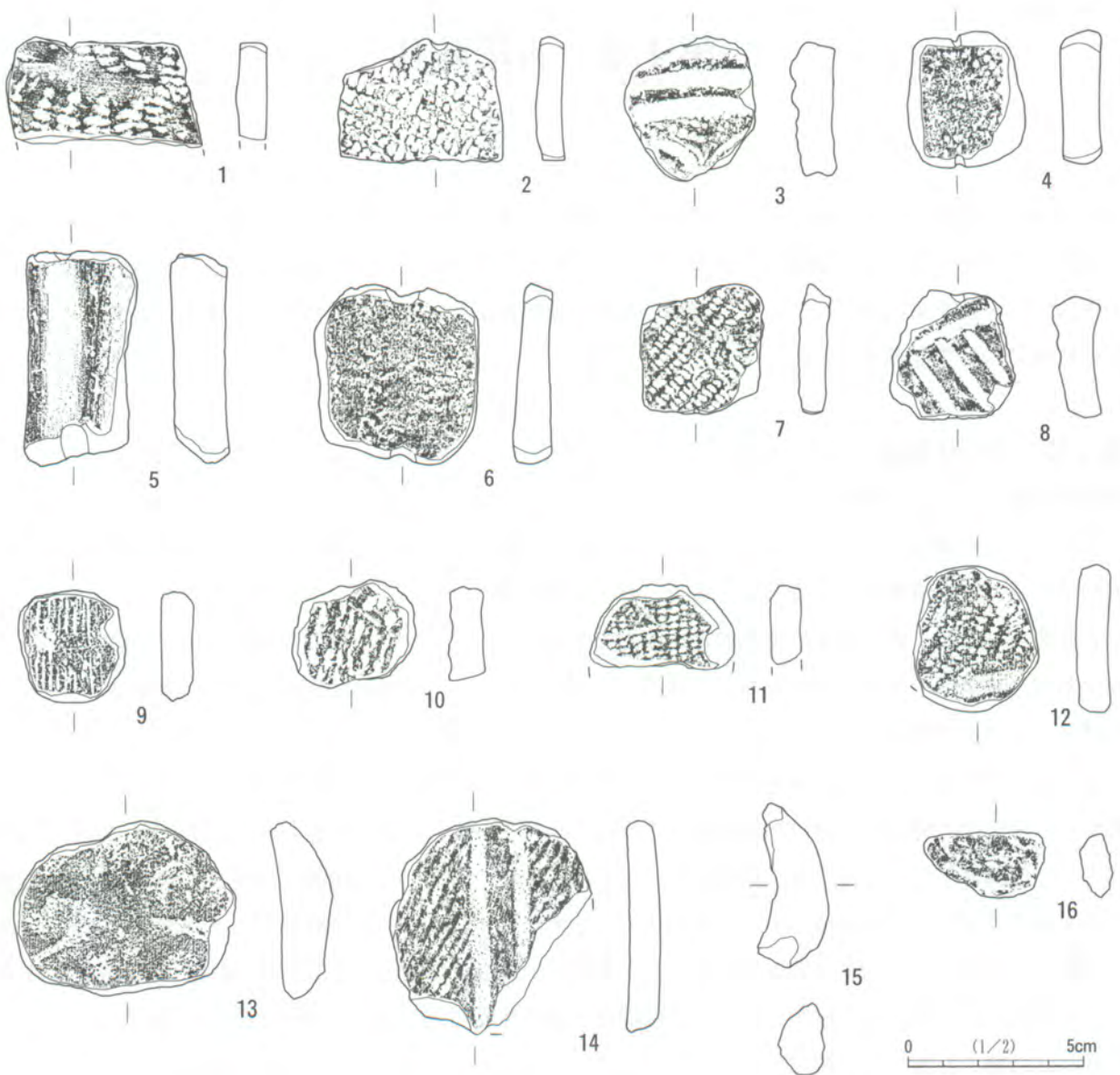
7～9は磨石である。7は敲き痕が見られる。10は石皿片である。13は軽石片である。平らな面が磨耗し、砥石に利用されている。



第31図 グリット出土縄文土器(4)・弥生土器



第32図 石器



第33図 土製品

7 土製品 (第33図 図版17)

1～14、16は縄文土器片を再使用し、円形、長方形、正方形に加工している。大きさ形状から、欠損、破片などで刻みが確認されないものもあるが、土器片錘である。加曾利E式の土器を使用している。

15は全体の形状は不明であるが、手捏ね製である。ミニチュアと思われる。

第4章 古墳時代

古墳時代の遺構は、竪穴住居跡1軒である。時期は後期である。

遺構の位置については、調査区を次のように区分して表記した。東西方向で、A～Dを西区、E～Gを中央区、H～Kを東区とした。また、遺構の規模、遺物の法量・調整などは表に記述したので、ここでは主に特徴について記載する。

第1節 竪穴住居跡（第4・5表）

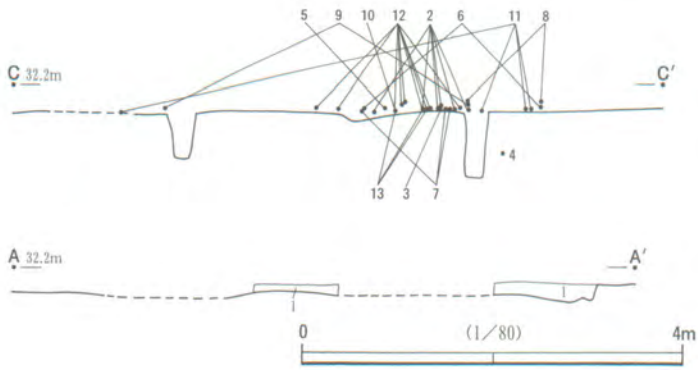
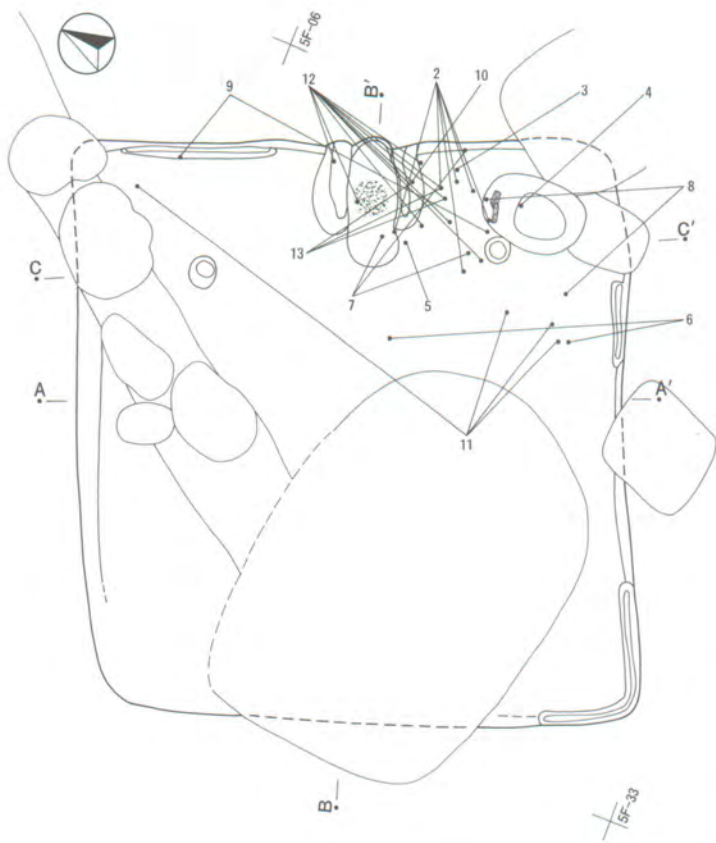
SI-017（第34・35図 図版30・72・78）

中央区中央南端に位置する。主要グリッドは5F-14である。やや大型の住居で、平面形は隅丸のほぼ正方形である。後世遺構による攪乱で、覆土、壁、床面の残りは悪い。カマド両側に柱穴が検出された。4基と考えられるが、西側2基は攪乱のため検出できなかった。カマド右側の東隅に貯蔵穴が検出された。カマドは、北東壁中央で、壁の掘り込みは浅い。袖部分が長く、火床部が床面にある。遺物は、カマドおよびその周辺に集中して出土した。

1～13は土師器である。1は坏である。口縁から体部下側で、内外全面に赤彩が施される。半球形の体部から口縁部が内彎し、口縁は内傾する。2～5は高坏である。坏部内外面および脚部外面に赤彩が施される。2は脚部下側を欠損する。坏部はやや扁平な半球形の体部で、口縁部は外傾して立ち上がり、口縁はわずかに外反する。脚部は上半部が円柱状で、下半部で外反する。3は脚部で、下端部を欠損する。短い円柱状の上半部から、下半部が外反して、大きく広がる。4は脚部である。ほかに比べて低い。円柱状の上半が短く、下半部の外反が大きい。5は脚部下側の外反部分である。外反がやや小さい。

6～11は甕である。6は胴部下端から底部である。平底で、立ち上がりから胴部は球形と考えられる。7～10は口縁から胴部上半部である。7は、胴部がほぼ球形と考えられる。口縁部は外傾して立ち上がり、口縁が小さく外反する。8は、胴部が球形で、口縁部は外反して立ち上がり、口縁に至る。9は、胴部が球形で、口縁部は外傾して立ち上がり、口縁が外反する。10・11はやや長胴で、口縁部が外反して立ち上がり、口縁に至る。

12は形状から甕と考えられる。口縁から胴部上半部で、口縁部と胴部とのくびれはない。口縁部は外傾し、口縁が小さく外反する。13は甕の胴部片である。外面に同一方向の刻み目状の擦り痕があり、砥石として再利用されている。14は土玉である。孔が貫通し、両端が面取りされている。15は土製紡錘車と考えられる。円板状で、中央に孔がある。

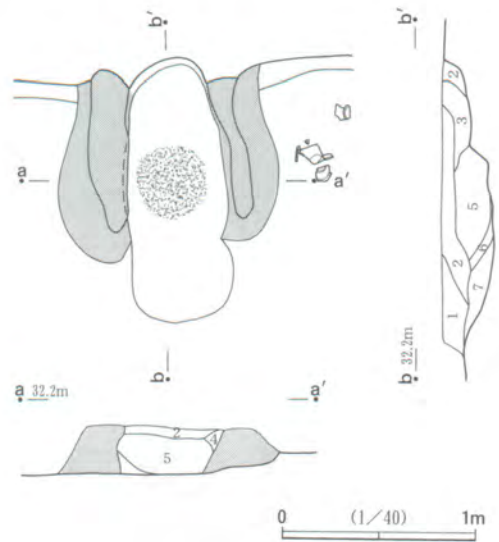


SI-017

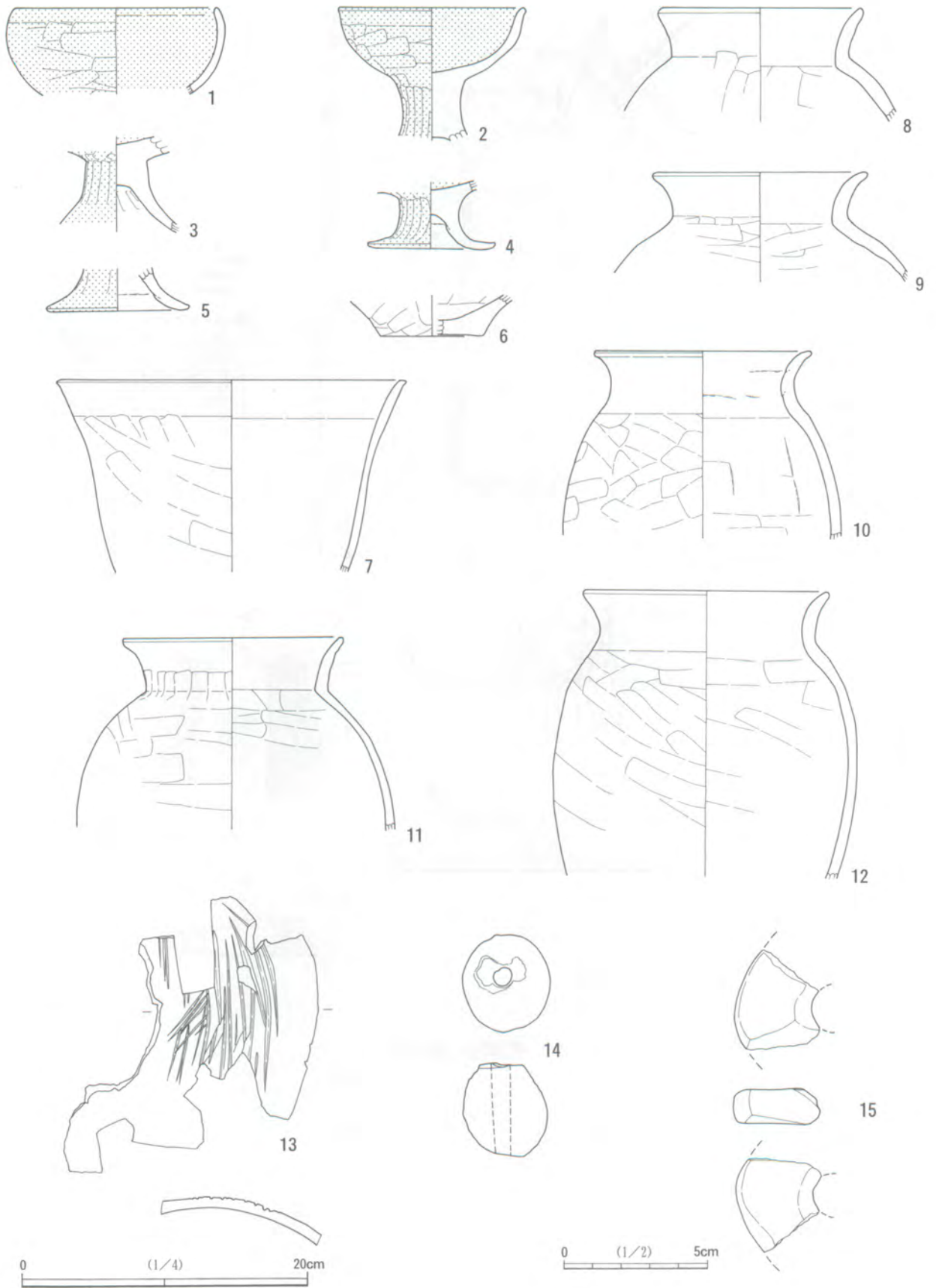
1. 暗褐色土 ローム粒少混, しまりがある
2. 暗赤褐色土 ローム粒・焼土粒少混 しまりがある

SI-017 カマド

1. 暗褐色土 ローム粒少混, しまりがある
2. 暗赤褐色土 ローム粒・焼土粒極微混
3. 黒褐色土 ローム粒・焼土粒極微混
4. 灰白色砂 焼土粒多混, しまりがある
5. 暗赤褐色土 焼土粒多混
6. 暗褐色土層 ローム粒微混, 灰白色砂少混
7. 暗褐色土層 ローム粒・灰白色砂少混



第34図 SI-017



第35図 SI-017出土遺物

第5章 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡45軒、掘立柱建物跡15棟、井戸跡3基、土坑9基である。

遺構の位置については、調査区を次のように区分して表記した。東西方向で、A～Dを西区、E～Gを中央区、H～Kを東区とした。また、遺構の規模、遺物の法量・調整などは表に記述したので、ここでは主に特徴について記載する。

第1節 竪穴住居跡（第4～6表）

SI-001（第36～38・163図 図版23・69・83）

西区中央やや東寄りに位置する。主要グリッドは4C-38である。南半部が削平され、残りは悪い。平面形は隅丸方形である。覆土は、中央部が厚くなる、いわゆるレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は4基である。カマドは、北壁中央で、壁の掘り込みはやや深い。火床部が床面と壁面との境に位置する。遺物はカマド内およびカマド付近に集中する。

1～4は須恵器である。1・2は坏である。ロクロ成形で平底である。1は体部がくびれを持って外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。2も同様であるが、くびれはない。3は小型壺である。頸部下端から胴部上半部で、やや肩が張り、広口と考えられる。内外面にウルシ状物質が皮膜状に付着する。4は甕である。胴部下端から底部で、底部は中央がわずかに上げ底である。底部外面に成形痕がある。

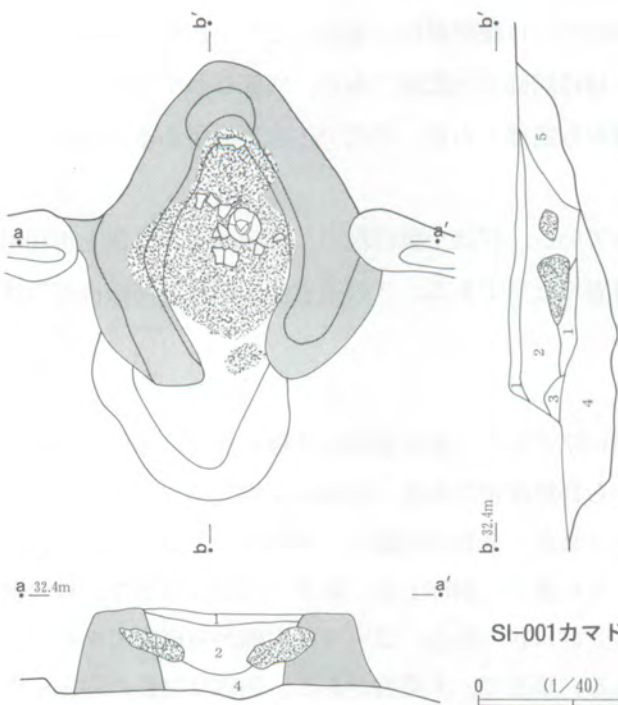
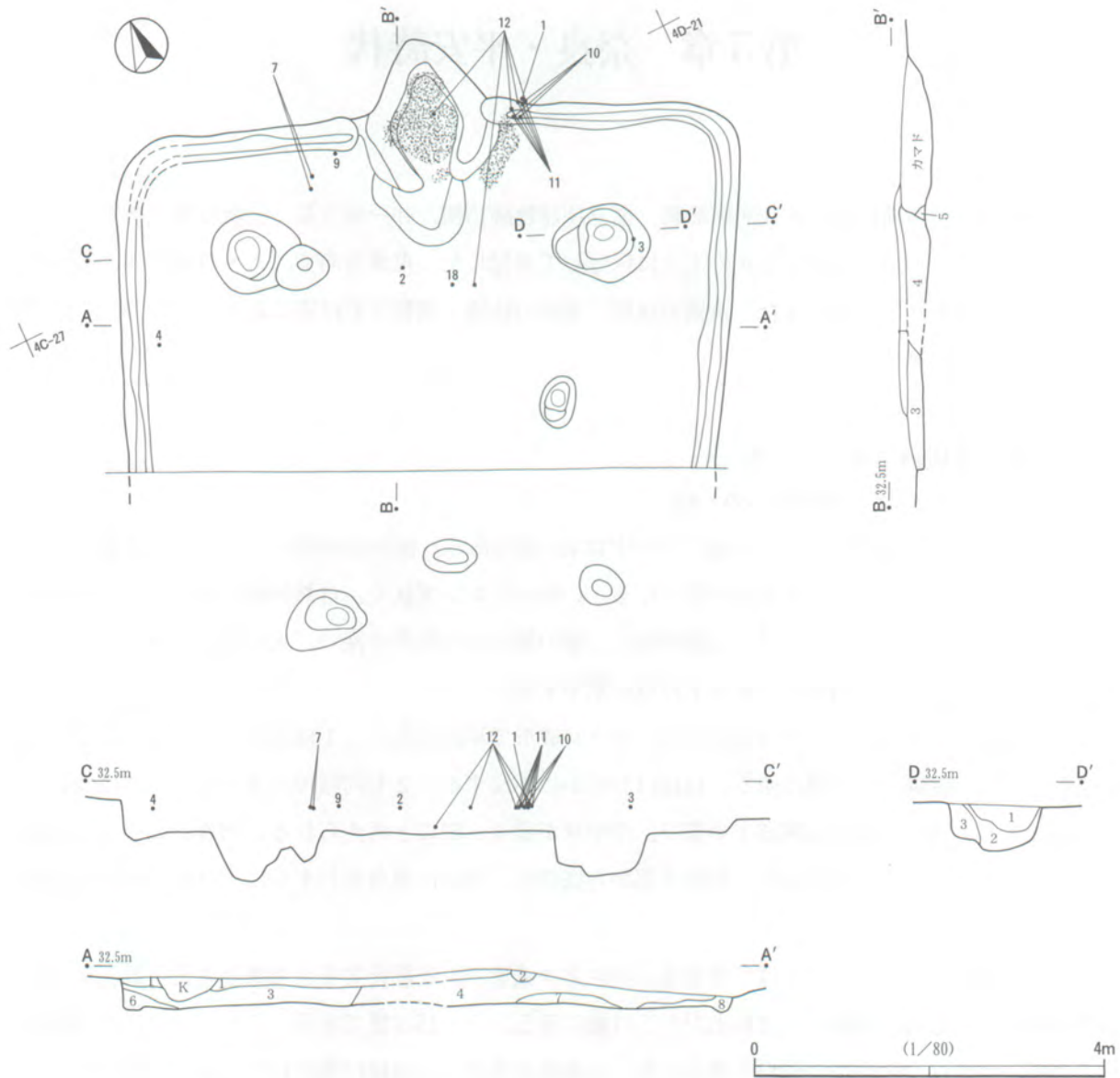
5～15は土師器である。5・6は坏である。非ロクロ成形で、底部を欠く。丸底と考えられ、扁平な半球形の体部から口縁部が外傾して立ち上がり、口縁に至る。7～15は甕である。7～10は口縁から胴部上端部である。胴部はやや縦長の球形と考えられ、口縁部が外反し、口縁は受け口状である。11はやや小型で、口縁から胴部上半部である。胴部はやや縦長の球形で、口縁部がほぼ垂直に立ち上がり、外反して口縁に至る。口縁は丸い。口縁下に浅い段がある。13・14は胴部から底部である。底部はわずかに丸みがあり、胴部はやや縦長の球形である。12・15は胴部下端から底部である。平底で、木葉痕がある。大型である。

16は土製支脚片である。頂端部で側面が面取りされている。17は土製円板で、土師器甕の底部を再利用している。木葉痕が見られる。18はウルシ状物質が付着した石である。3の須恵器小型壺と同様に皮膜状である。

SI-002（第39図 図版69）

西区中央やや南寄りに位置する。主要グリッドは4B-67である。後世遺構の重複で残りは悪い。平面形は隅丸方形と考えられる。覆土は、残っている土層から自然堆積である。床面は平坦である。柱穴、カマドは検出されなかった。床面中央部分にピットが検出された。遺物は少量で、床面から出土している。

1～5は土師器甕である。1～4は小型である。1は口縁から胴部上部である。胴部は球形で、口縁部が外傾して立ち上がり、外反して口縁に至る。口縁は受け口状である。2～4は胴部から底部である。ほぼ同型で、胴部は球形で、平底である。5は大型である。平底で、木葉痕がある。胴部は縦長の逆玉子形



SI-001

1. 暗褐色土
2. 明褐色土
3. 暗褐色土 ローム粒混、ロームの斑点模様あり
4. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少混、しまりがある
5. 灰褐色土 灰混
6. 暗褐色土 しまりが無い
7. ロームブロック
8. 褐色土 ローム粒少混

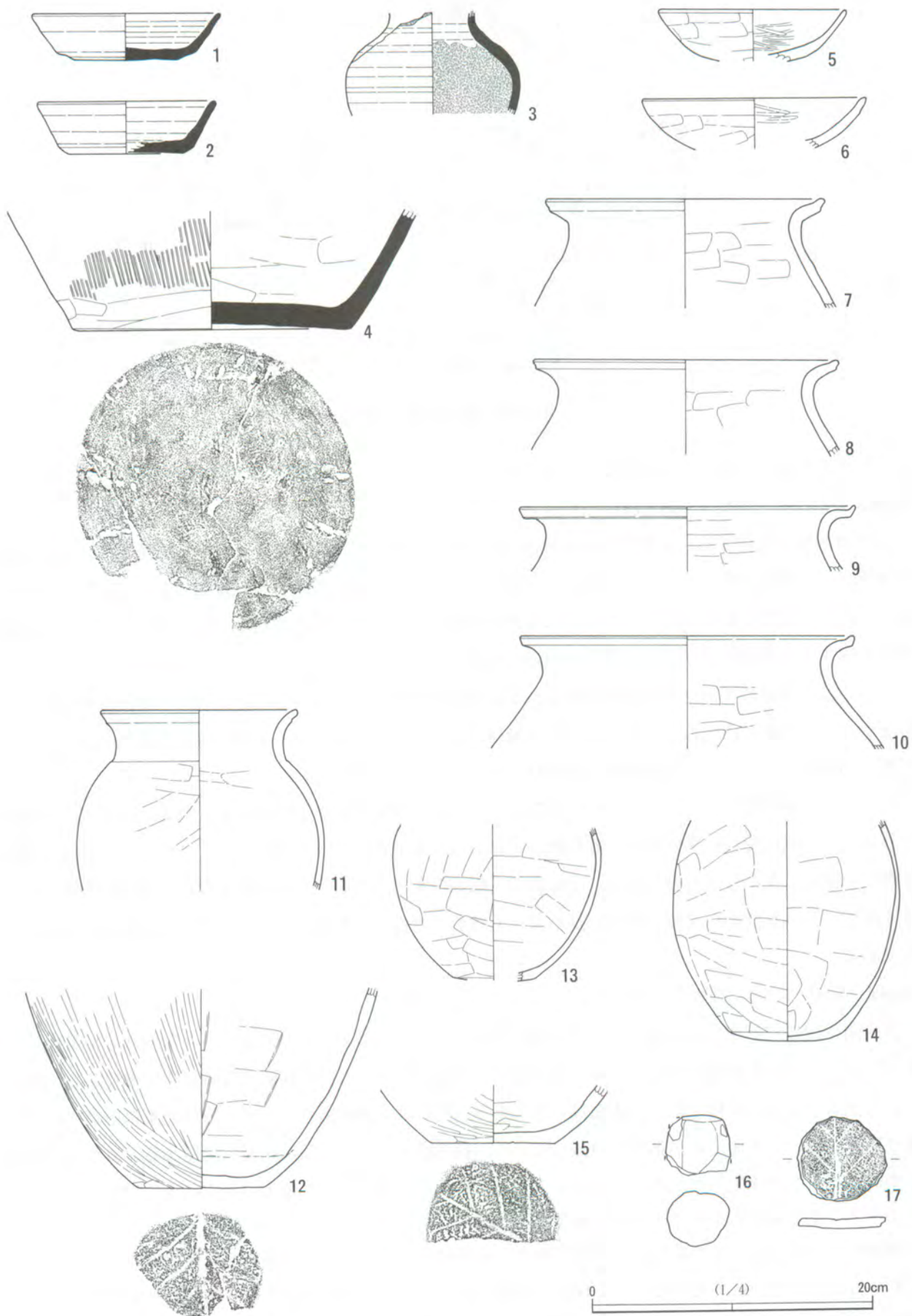
柱穴 D-D'

1. 暗褐色土 ロームブロック少混
2. 暗黄褐色土 ロームブロック主体
3. 暗黄褐色土 ロームブロック多混

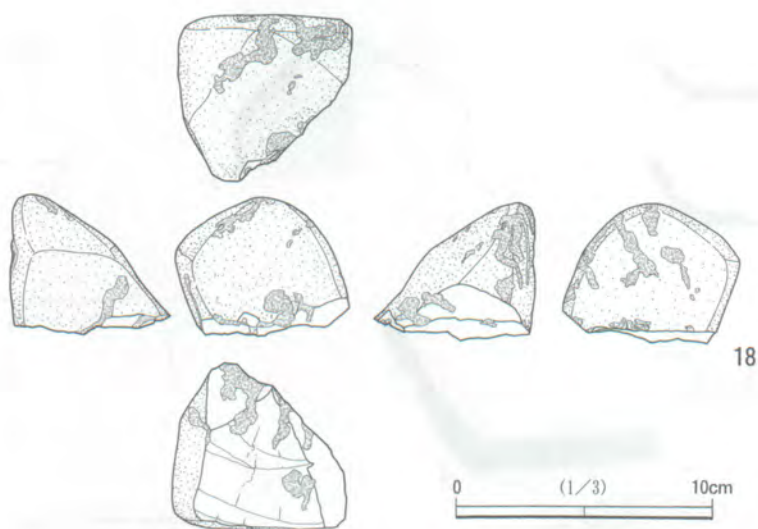
SI-001 カマド

1. 暗褐色土 焼土粒少混、しまりがある
2. 暗褐色土 焼土粒多混
3. 暗褐色土 焼土粒少混
4. 赤褐色土 焼土粒少混
5. 暗茶褐色土 焼土粒少混、しまりがない

第36図 SI-001



第37図 SI-001出土遺物 (1)



第38図 SI-001出土遺物(2)

で、口縁部が短く外反し、口縁は受け口状である。

SI-003 (第40図 図版23・69・78)

西区南西端に位置する。主要グリッドは4B-22である。斜面のため南西半部が削平で消滅し、全体に残りは悪い。平面形は隅丸方形と考えられる。覆土は、残っている土層から自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は検出されなかった。カマドは北東壁中央で、壁の掘り込みは浅い。袖部は長く、火床部は床面に位置する。遺物はカマドおよびその周辺に集中する。

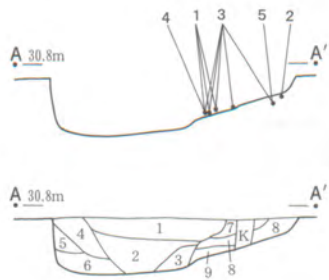
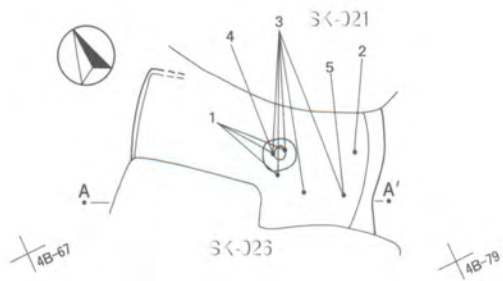
1～4は土師器坏で、ロクロ成形である。1は底部中央を欠く。わずかに上げ底で、体部は外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。口縁はわずかに外反する。2～4は口縁から体部である。1と同型であるが、3は内面に黒色処理が施される。

5～8は土師器甕である。5・6は小型である。5は口縁から胴部上部である。胴部は球形で、口縁部は外反し、口縁は受け口状である。6は胴部下部から底部である。底部中央を欠く。平底で、胴部は球形と考えられる。7・8は大型である。7は胴部下部から底部である。平底と考えられ、胴部が外傾して大きく開く。8は胴部から底部である。長胴で、上部がふくらむ。平底である。9は土師器甕片再利用の円板である。

SI-004 (第41・42図 図版24・70・78)

西区南西端に位置する。主要グリッドは4B-24である。斜面部で、SI-009とカマド左半部分が重複し、カマドの状況から本遺構が古い。全体に削平され、残りは悪い。平面形は隅丸でほぼ正方形である。残っている土層から自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は4基検出され、カマドは北東壁中央で、壁の掘り込みは浅い。左側半部が重複で消滅している。袖部は長く、火床部は床面に位置する。カマド対面壁下中央にピットが検出され、出入り口ピットと考えられる。遺物は主に覆土中から出土している。

1～3は須恵器である。1・2は坏蓋である。1はツマミを欠損する。2は端部である。1は端に、2は蓋端やや内側にカエリがある。3は坏である。底部はヘラケズリで丸みがある。体部は外傾して立ち上がり、口縁はわずかに外反する。4～16は土師器である。4～7は坏で、4～6は非ロクロ成形である。4は平底で、中央が薄い。体部は扁平な半球形である。体部から口縁部が外傾して立ち上がり、わずかに

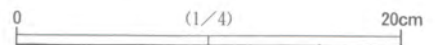
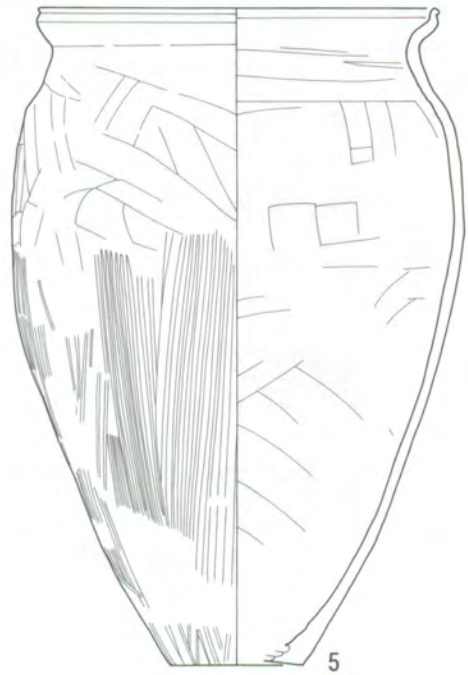
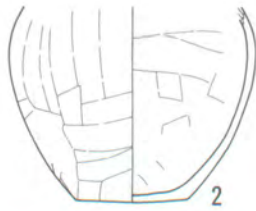
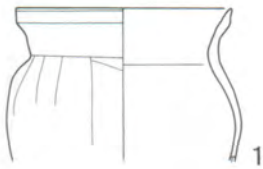
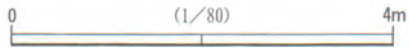


SK-026

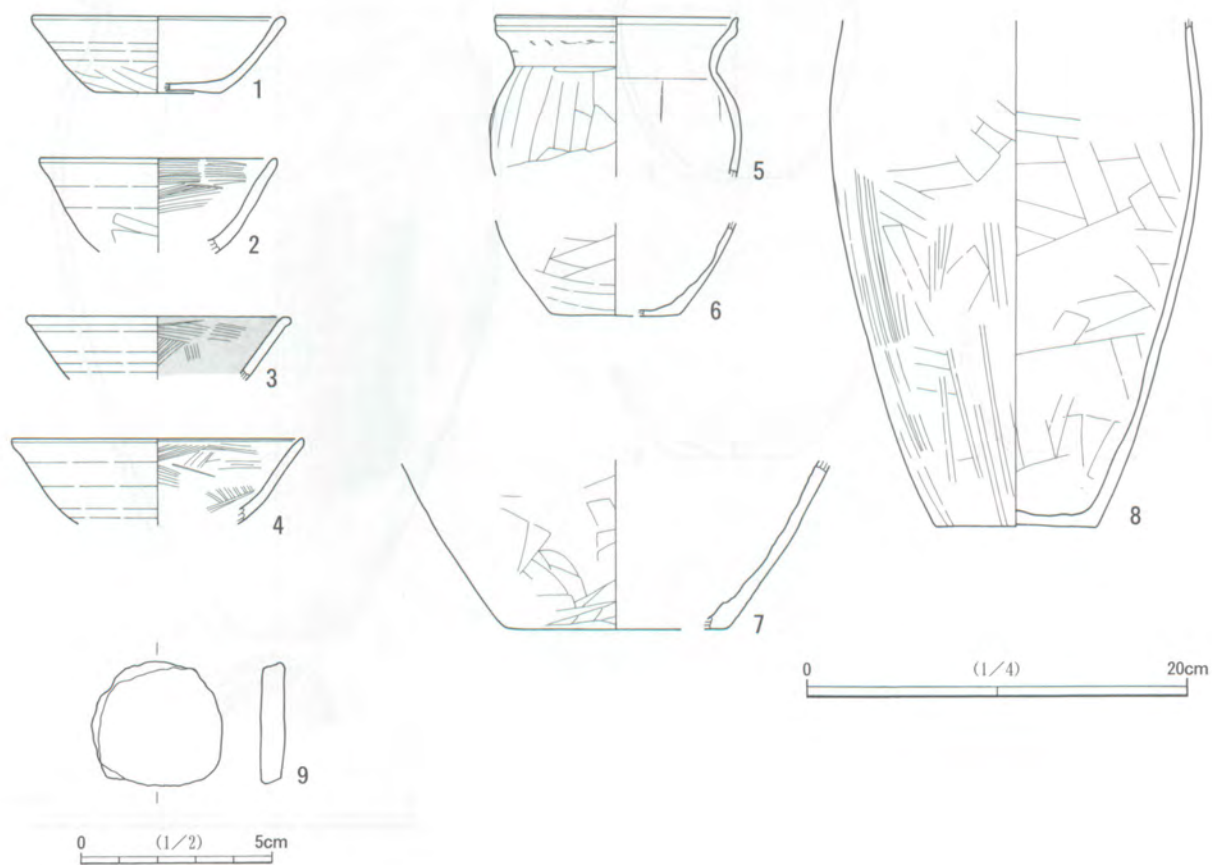
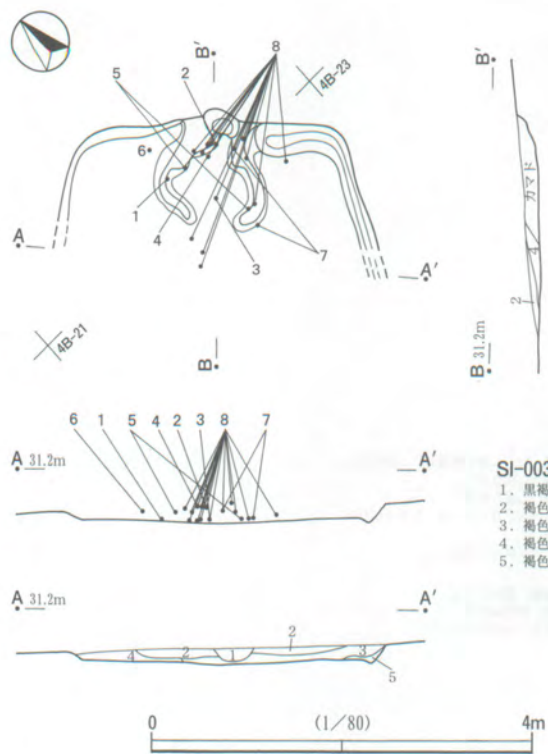
- 1. 黒褐色土 黒色土を主体、ローム粒子極微混、しまりが無い
- 2. 黒褐色土 ローム粒多混、しまりがある
- 3. 暗褐色土 ローム粒少混、しまりがある
- 4. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少混、しまりが無い
- 5. 暗褐色土 ローム粒多混
- 6. 褐色土 ローム粒・ロームブロック主体

SI-002

- 7. 黒褐色土 ローム粒極微混、焼土粒少混
- 8. 暗褐色土 ローム粒少混、焼土粒微混
- 9. 暗褐色土 焼土粒多混（カマド付近の覆土）



第39図 SI-002・出土遺物

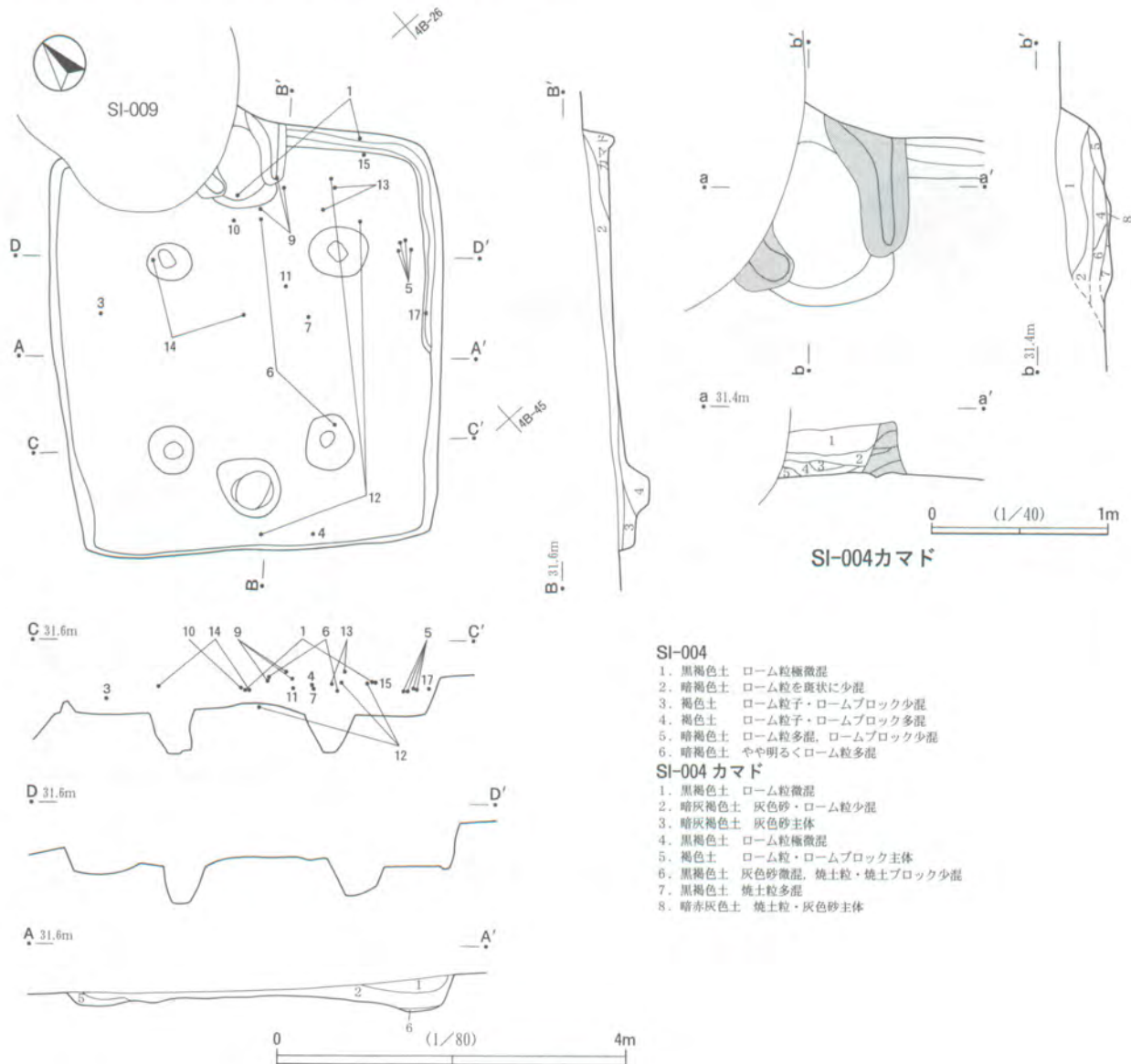


第40図 SI-003・出土遺物

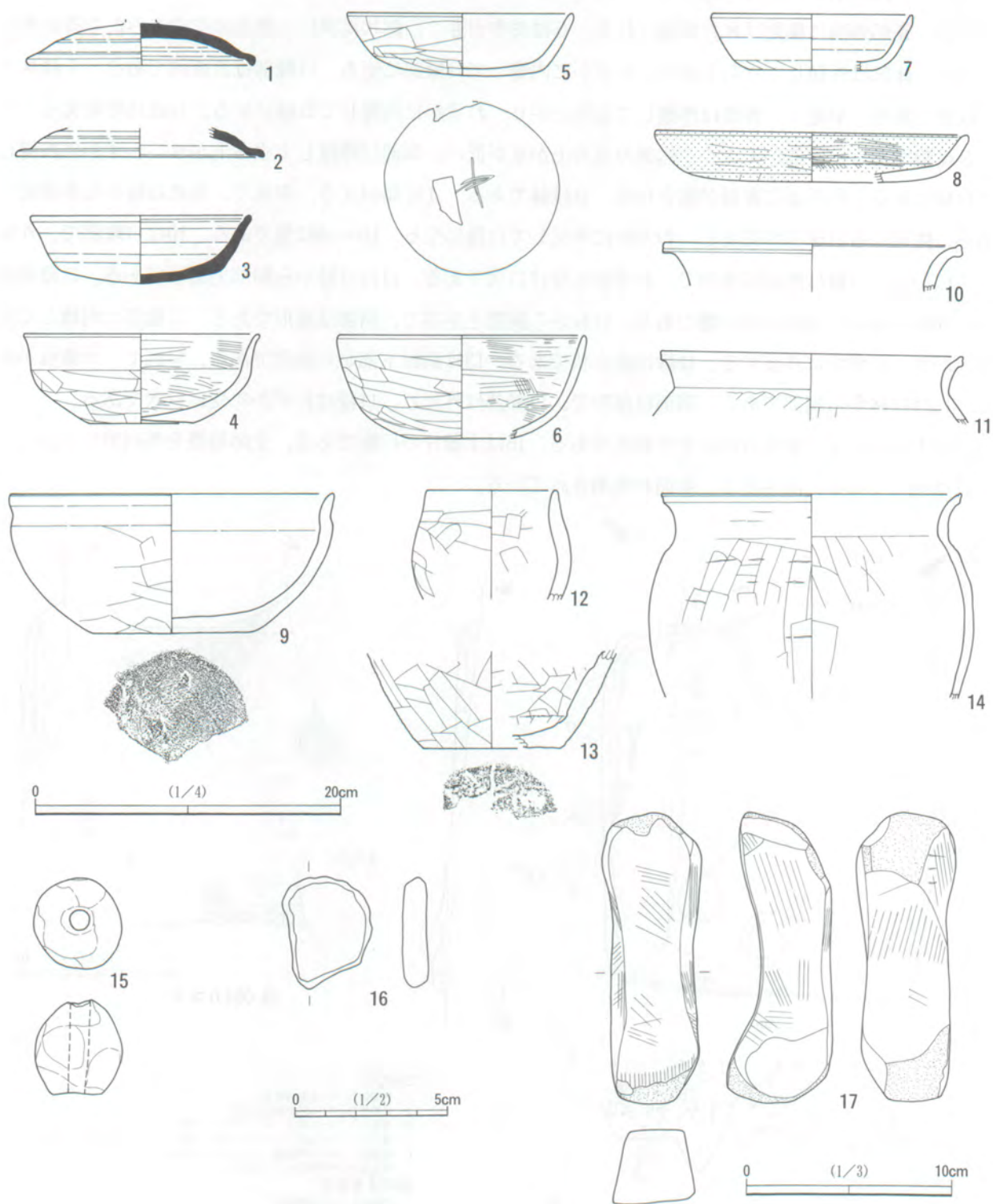
外反して口縁に至る。5は、底部はやや丸みがある。体部は外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。底部外面に線刻「×」が施される。6はやや大きく、鉢状に深い。底部はやや丸みがあると考えられる。体部は外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁部に至る。口縁部は直線的である。7はロクロ成形である。平底で、体部は外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。口縁はやや尖る。

8は盤である。底部が大きく、体部の立ち上がりが低い。体部は外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。内外面に赤彩が施される。9は鉢である。4に類似する。平底で、体部は扁平な半球形である。体部から口縁部が直立し、わずかに外反して口縁に至る。10~14は甕である。10は口縁部で、外反して広がり、口縁は断面四角形で、わずかに受け口状である。11は口縁から胴部上端部である。口縁部は10と同様である。12は小型の甕である。口縁から胴部上半部で、胴部は球形である。口縁部は内傾して立ち上がり、わずかに外反する。口縁は直立状である。13は胴部下部から底部である。平底で、木葉痕がある。14は口縁から胴部である。胴部は球形で、口縁部は外反し、口縁はわずかに受け口状である。

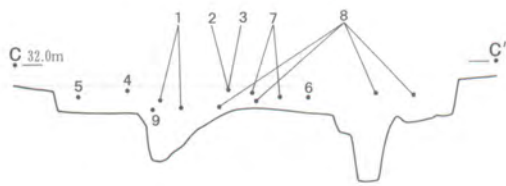
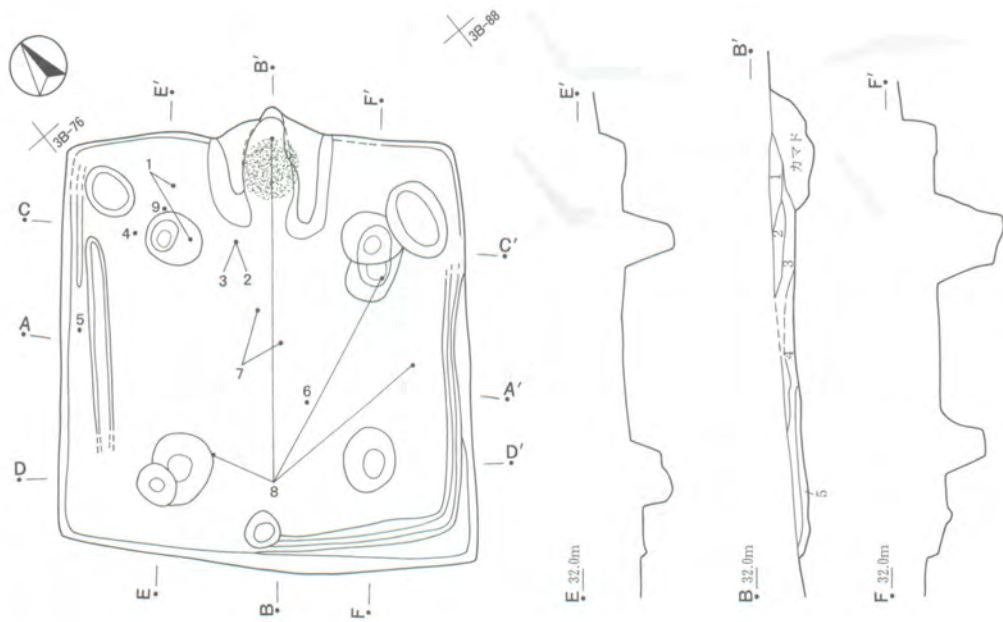
15は土玉である。穿孔方向にやや縦長である。16は土器片の円板である。土師器甕を再利用している。17は砥石である。凹字状で、両面が使用されている。



第41図 SI-004

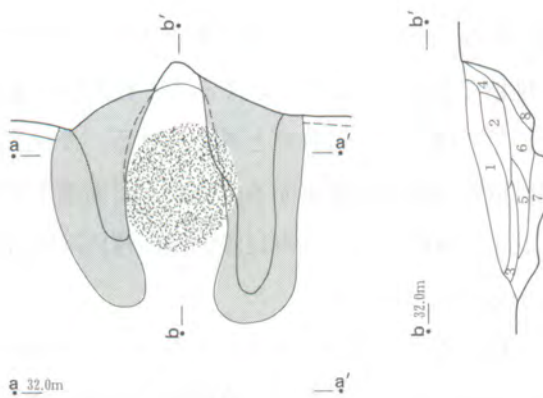
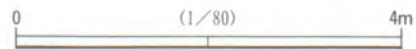


第42図 SI-004出土遺物



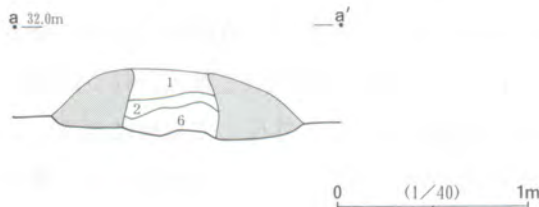
SI-005

- 1. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック・焼土粒微混
- 2. 暗褐色土 ローム粒極微混
- 3. 黒褐色土 黒色土少混, ロームブロック極微混
- 4. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少混
- 5. 褐色土 ローム粒・ロームブロックを少混
- 6. 暗褐色土 黒色土少混, ローム粒・焼土粒微混
- 7. 暗褐色土 焼土粒多混

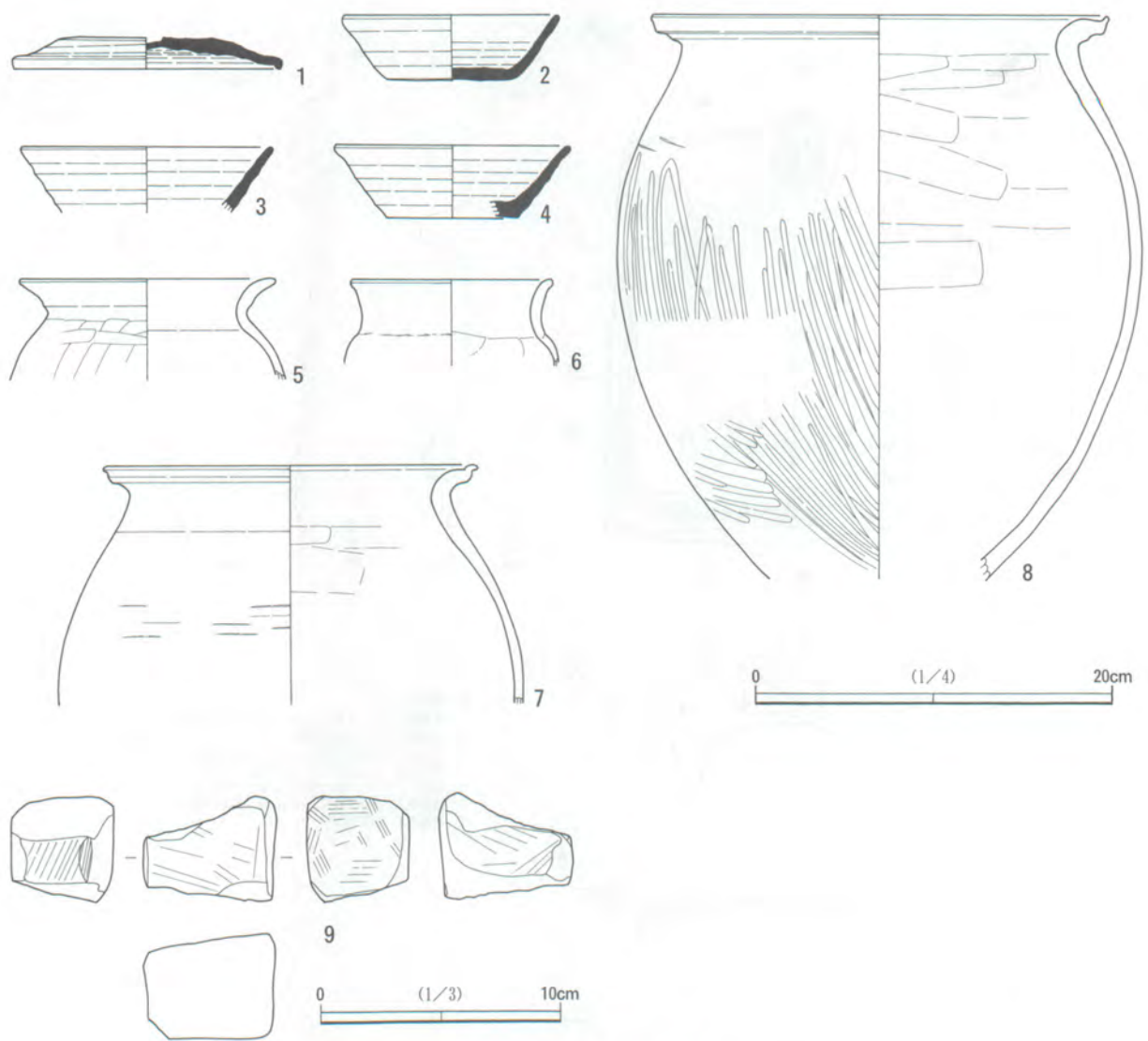


SI-005 カマド

- 1. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを少混
- 2. 暗灰褐色土 灰色粘土多混, 粘性がある
- 3. 暗灰褐色土 粘土粒少混, やや粘性がある
- 4. 暗赤褐色土 焼土粒主体, 黒色土少混 (煙道部)
- 5. 暗赤褐色土 焼土粒少混
- 6. 暗赤褐色土 焼土粒多混
- 7. 褐色土 褐色土主体, ロームブロック混
- 8. 暗赤褐色土 壁の崩れた部分, ロームブロック混



第43図 SI-005



第44図 SI-005出土遺物

SI-005 (第43・44図 図版24・70・78)

西区西寄りに位置する。主要グリッドは3B-86である。全体に削平され、残りは悪い。平面形は隅丸でやや縦長の方形である。残っている土層から自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は4基検出され、2基で重複が確認され、周溝も二重に検出されたので、建て替えられたと考えられる。カマドは北東壁中央で、壁の掘り込みは浅く、袖部が長い。火床部は壁際の床面に位置する。カマド対面壁下中央にピットが検出された。出入りロピットと考えられる。北および東隅に掘り込みは浅いが、楕円形の貯蔵穴が検出された。遺物は比較的少量であるが、住居跡全体から出土している。

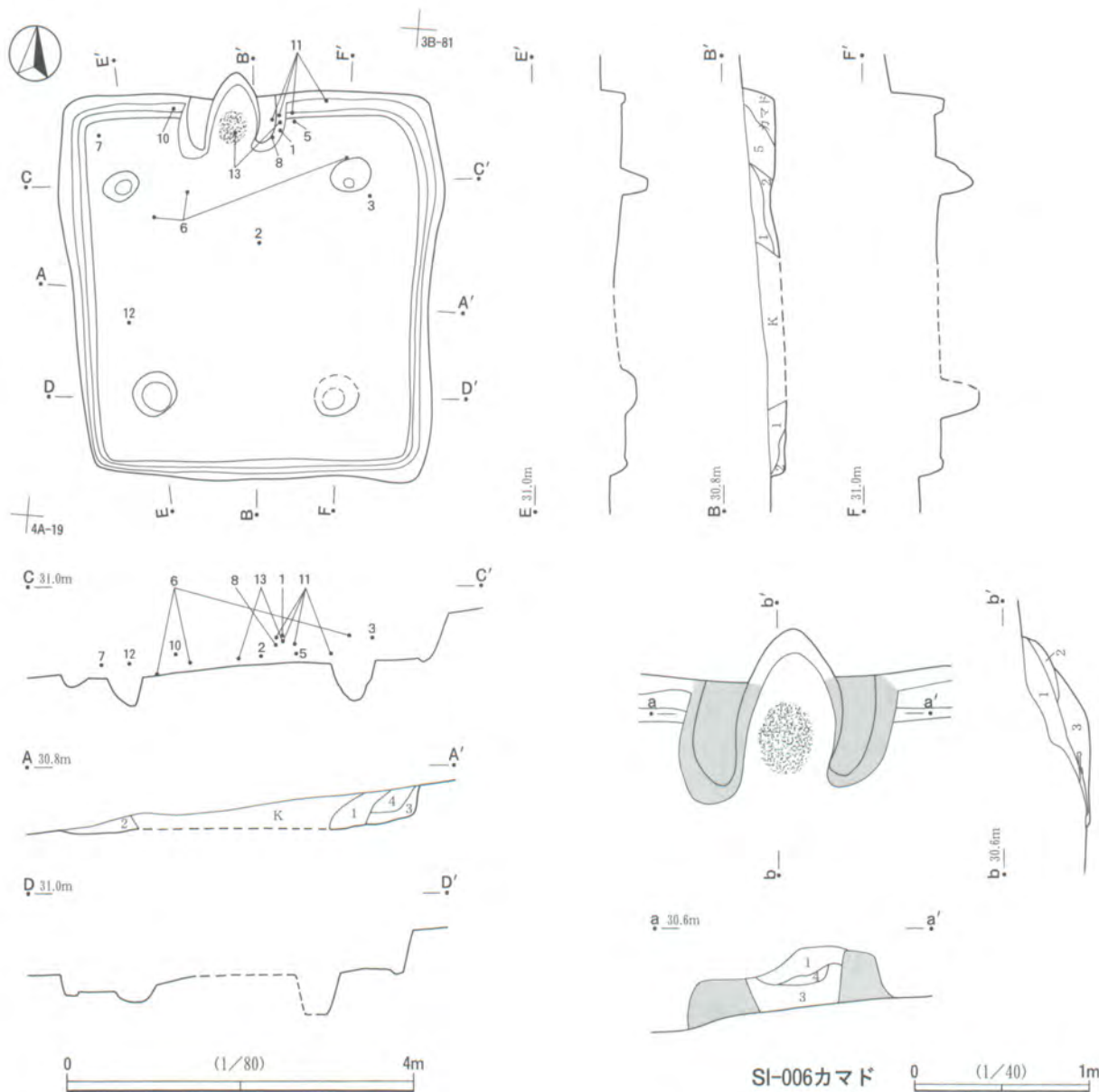
1～4は須恵器である。1は坏蓋で、ツマミを欠損する。蓋端にカエリがある。3～4は坏である。ロクロ成形で、2・4は、底部は平底である。体部は外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。5～8は土師器甕である。5・6は小型で、胴部は球形と考えられる。5は口縁部が外反して立ち上がり、口縁に至る。口縁は丸い。6は口縁部が直立し、外反して口縁に至る。口縁は丸い。7・8は大型である。口縁から胴部で、胴部は球形に近い逆玉子形である。口縁部が短く外反し、口縁は受け口状である。9は砥石片である。凹字状である。

SI-006 (第45・46図 図版25・70・84)

西区西端に位置する。主要グリッドは3B-90である。斜面に近く、西半部がかなり削平され、床面中央に後世遺構の重複があり、残りは悪い。平面形は隅丸のほぼ正方形である。覆土は、残っている土層から自然堆積と考えられる。床面は平坦である。柱穴は4基検出された。カマドは北壁中央で、壁の掘り込みはやや深く、火床部が壁下に位置する。遺物は少量であるが、カマド周辺から出土している。

1・2は須恵器である。1は坏である。体部から底部で、ロクロ成形である。平底で、体部は外傾して立ち上がり、わずかに内彎する。2は高台付坏である。体部下から底部である。高台はほぼ直立する。

3~12は土師器である。3~5は坏で、ロクロ成形である。3はヘラケズリのため丸底状である。体部



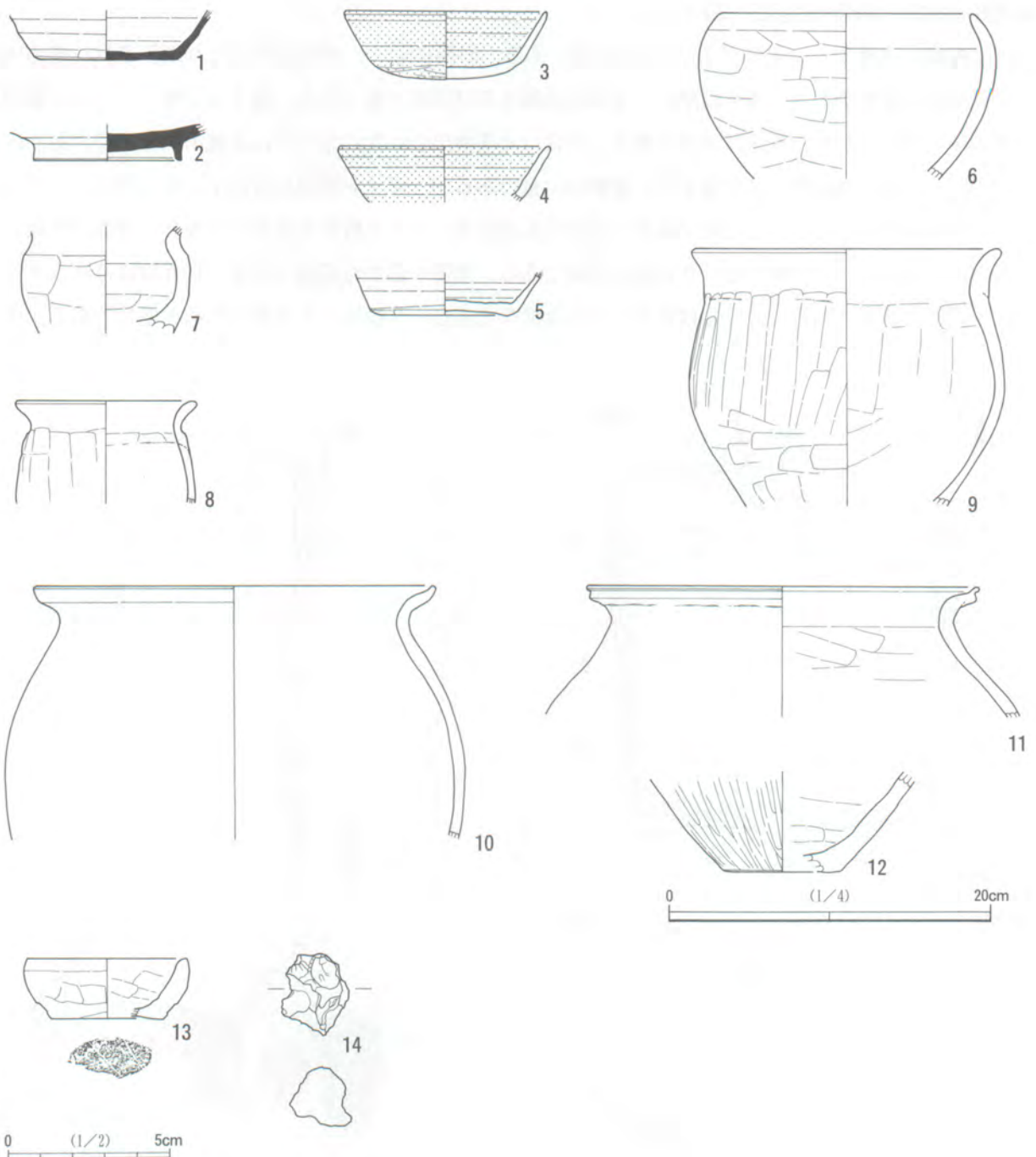
SI-006

- 1. 暗褐色土 ローム粒やや多混
- 2. 褐色土 ローム粒多混
- 3. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒微混, ロームブロック少混
- 4. 暗褐色土 ローム粒極微混
- 5. 暗褐色土 ローム粒やや多混

SI-006 カマド

- 1. 暗褐色土 ローム粒微混, 灰白色砂少混, 被熱による赤化
- 2. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・焼土ブロック少混
- 3. 暗赤褐色土 焼土粒・焼土ブロック少混
- 4. 暗灰赤褐色土 灰褐色砂主体, ローム粒微混, 焼土粒少混

第45図 SI-006



第46図 SI-006出土遺物

はくびれを持って、外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。口縁は尖り気味である。内外両面に赤彩が施される。4は口縁から体部である。体部は直線的で、口縁はわずかに外反する。内外両面に赤彩が施される。5は体部下部から底部である。わずかに上げ底状で、体部は外傾して立ち上がり、直線的である。6は鉢である。口縁から胴部である。胴部は半球形で、口縁部が内彎して立ち上がり、口縁に至る。鉄鉢形土器と考えられる。

7～12は甕である。7・8は小型である。7は胴部で、やや扁平な球形と考えられる。8は口縁から胴部上部である。胴部はやや縦長と考えられ、口縁部が外反する。口縁は丸い。9は口縁から胴部である。胴部はやや扁平な逆玉子形で、口縁部との境のくびれが弱い。口縁部は直立し、外反して口縁に至る。口縁は丸い。10・11は大型である。口縁から胴部上部で、胴部はほぼ球形と考えられる。口縁部が短く外反

し、口縁は受け口状である。12は底部、大型と考えられる。13は手捏ね土器である。13は坏形で、平底である。14は破片で、全体の形は不明である。

SI-007 (第47図 図版25・70)

西区西端のゆるやかな斜面に位置する。主要グリッドは3A-68である。西半部が削平され、残りは悪い。平面形は隅丸方形である。残っている土層から自然堆積と考えられる。床面は平坦である。柱穴がカマド右側に1基検出され、ほかは削平されたと考えられる。カマドは北東壁中央で、壁の掘り込みは浅い。袖部は長く、火床部が床面に位置する。遺物は少量である。

1～3は土師器である。1・2は非ロクロ成形の坏である。丸底で、扁平な半球形の体部である。1は口縁部が直立し、口縁はわずかに外反する。2は口縁部が外傾し、ゆるやかに外反して口縁に至る。口縁は尖り気味である。3は甕の口縁部下部から胴部上部である。胴部は球形と考えられ、口縁部は外反する。

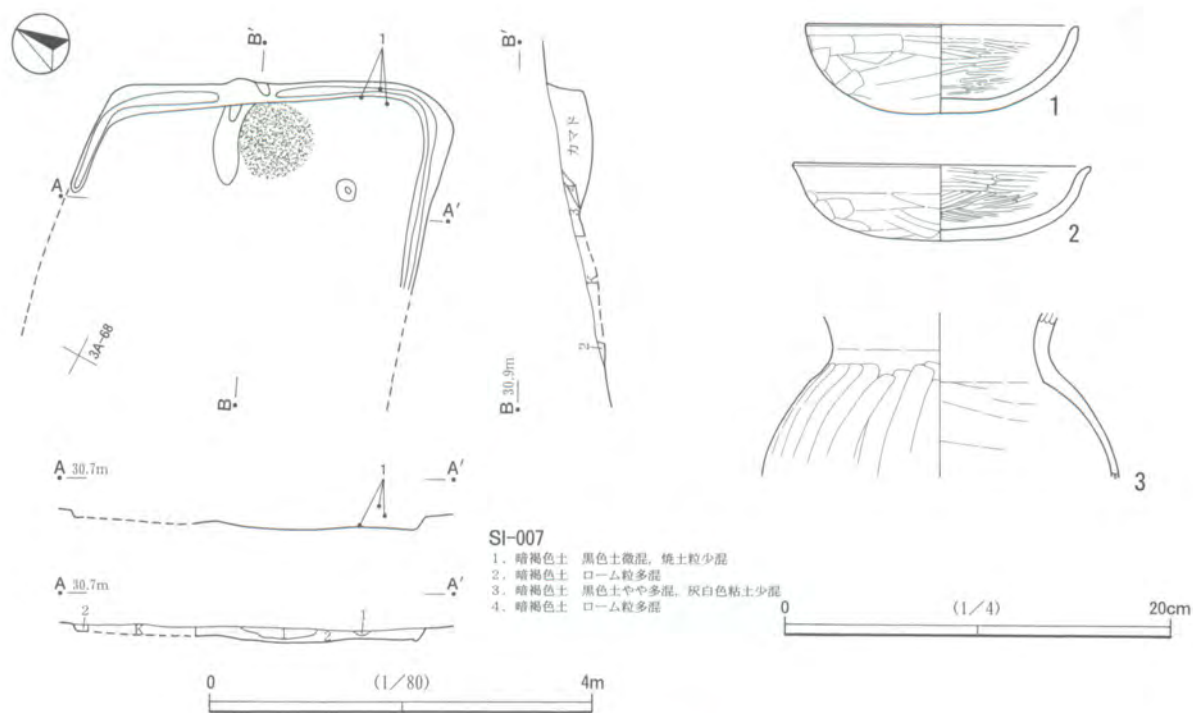
SI-008 (第48図 図版26・71)

西区中央に位置する。主要グリッドは3C-71である。北半部が削平され、残りは悪い。平面形は隅丸方形である。覆土は、残っている土層から自然堆積と考えられる。床面は平坦である。柱穴が1基検出され、削平部にもあったと考えられる。カマドは削平されている。遺物は少量である。

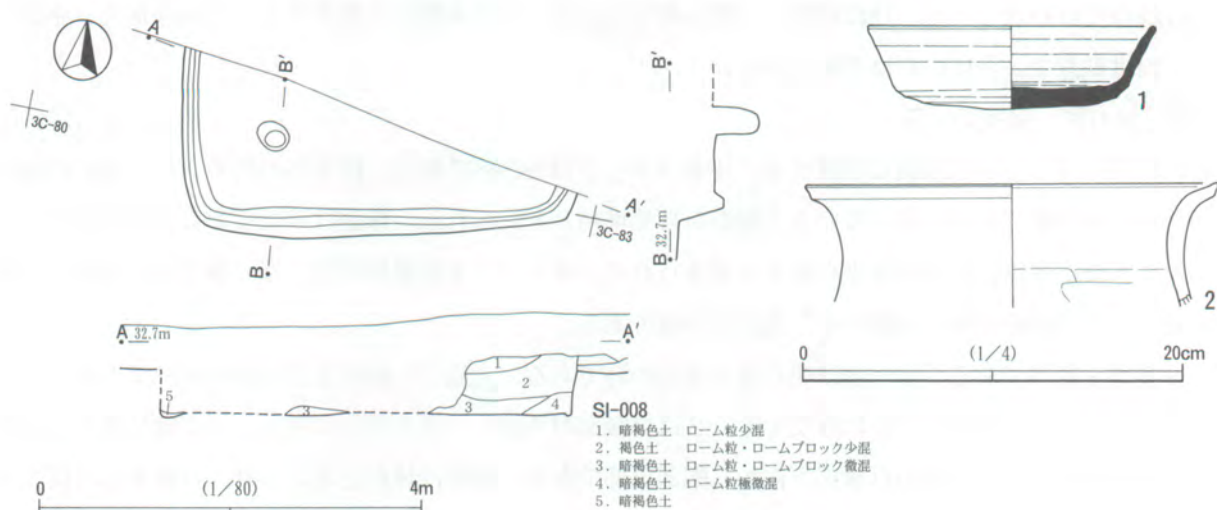
1はロクロ成形の須恵器坏である。やや丸底で、厚みがある。体部は外傾して立ち上がり、わずかに外反して口縁に至る。2は土師器甕である。外反する口縁部で、口縁は受け口状である。

SI-010 (第49図 図版26・71)

中央区西寄りに位置する。主要グリッドは3F-90である。カマドおよび北隅がSB-003と重複する。カマドが壊されているので、本遺構が古い。また、全体に削平され、残りは悪い。平面形は隅丸正方形である。



第47図 SI-007・出土遺物



- SI-008
1. 暗褐色土 ローム粒少混
 2. 褐色土 ローム粒・ロームブロック少混
 3. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック微混
 4. 暗褐色土 ローム粒極微混
 5. 暗褐色土

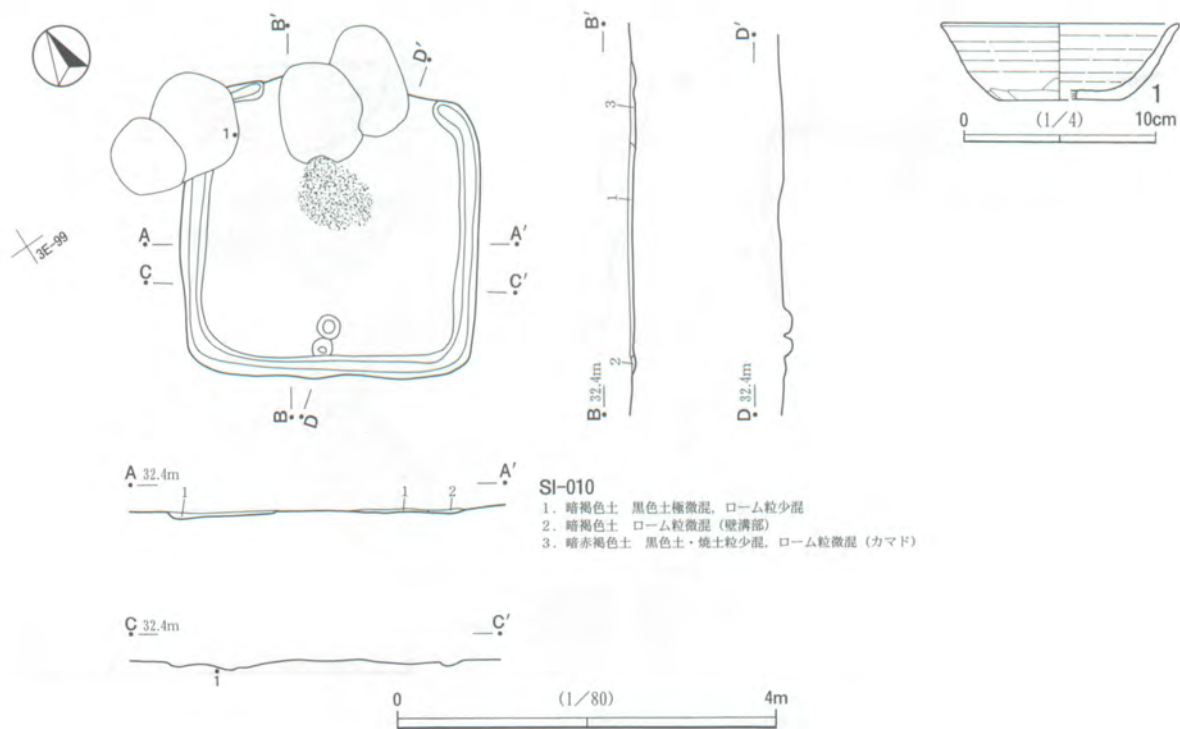
第48図 SI-008・出土遺物

覆土はほとんど残っていない。床面は平坦である。柱穴は検出されなかった。カマド対面壁下中央に出入りロピットが検出された。2基重複しているの、建て替えの可能性がある。カマド前の床面に焼土が検出された。削平時にカマド焼土が堆積したと考えられる。遺物は少量である。

1はロクロ成形の土師器坏である。平底で、体部が外傾して立ち上がり、ゆるやかに内彎して口縁に至る。口縁は外反する。

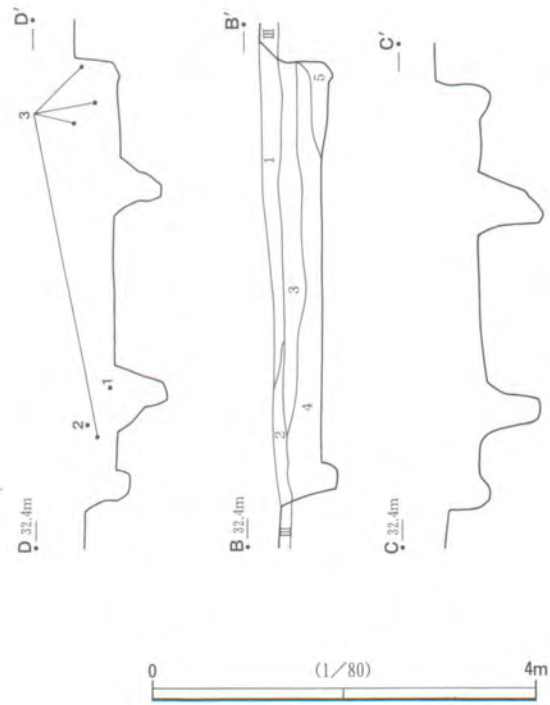
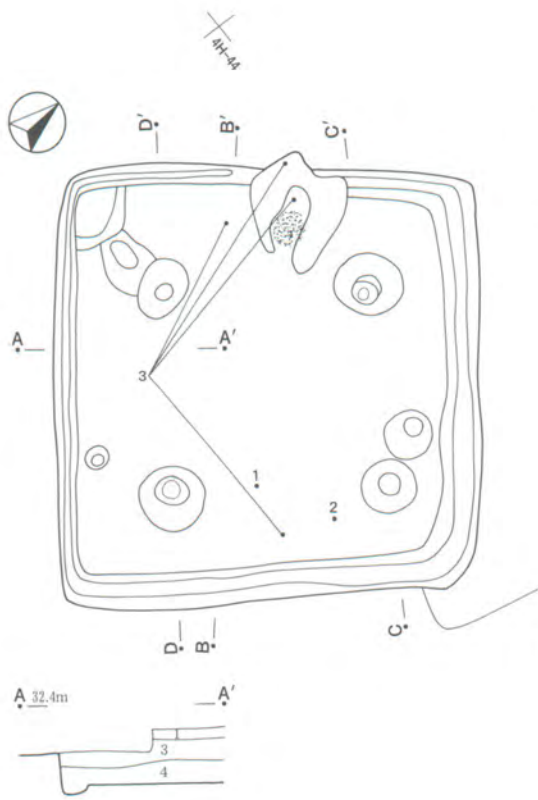
SI-011 (第50図 図版27・71)

東区南西寄りに位置する。主要グリッドは4H-55である。平面形はほぼ正方形である。覆土は、中央部が厚くなるいわゆるレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は4基で、建て替えと考えら



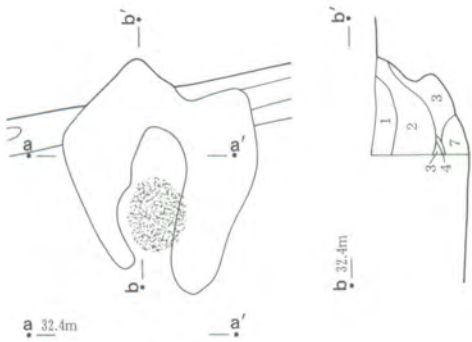
- SI-010
1. 暗褐色土 黒色土極微混、ローム粒少混
 2. 暗褐色土 ローム粒微混(壁溝部)
 3. 暗赤褐色土 黒色土・焼土粒少混、ローム粒微混(カマド)

第49図 SI-010・出土遺物



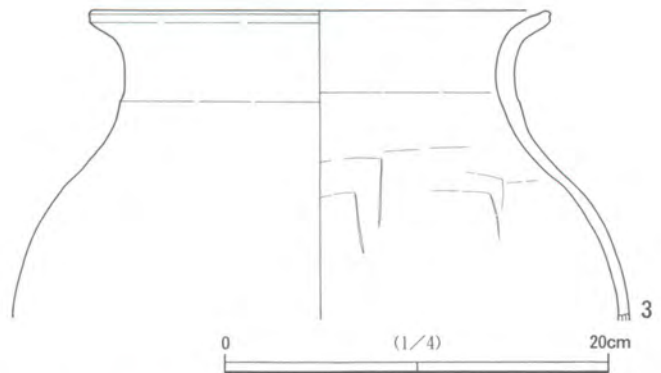
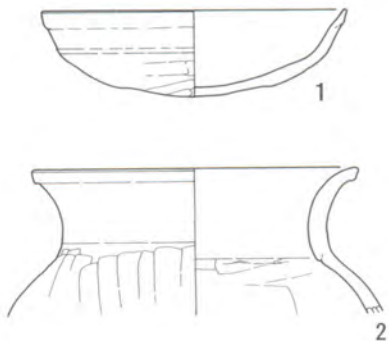
SI-011

1. 黒褐色土 黒色土主体、ローム粒極微混、ややしまりがない
2. 黒褐色土 ローム粒多混、ややしまりがない
3. 暗褐色土 ローム粒少混
4. 暗褐色土 ローム粒極微混、しまりがある
5. 暗褐色土 焼土粒少混



SI-011 カマド

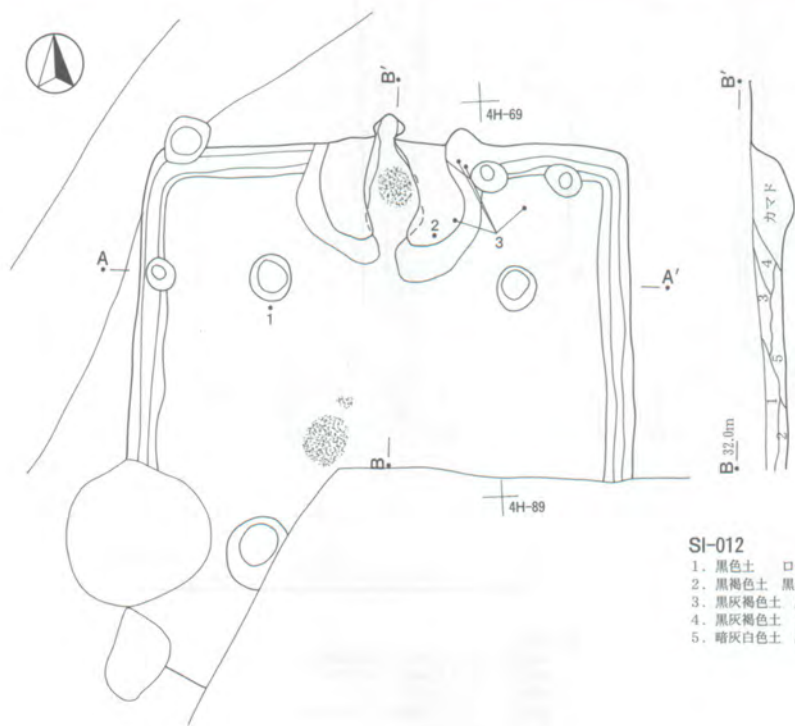
1. 黒褐色土 灰白砂・ローム粒微混、褐色土多混、ややしまりがない
2. 灰褐色土 灰白砂・褐色土多混、黒色土少混、しまりがある
3. 赤色土 焼土ブロック主体、暗赤色土を若干含む
4. 暗赤色土 被熱により赤味を帯びた灰白砂・褐色土の層
5. 灰褐色土 ローム粒少混、しまりがある
6. 灰褐色土 被熱により赤味を帯びる、しまりがある
7. 暗赤色土 ローム粒少混、しまりがない



第50図 SI-011・出土遺物

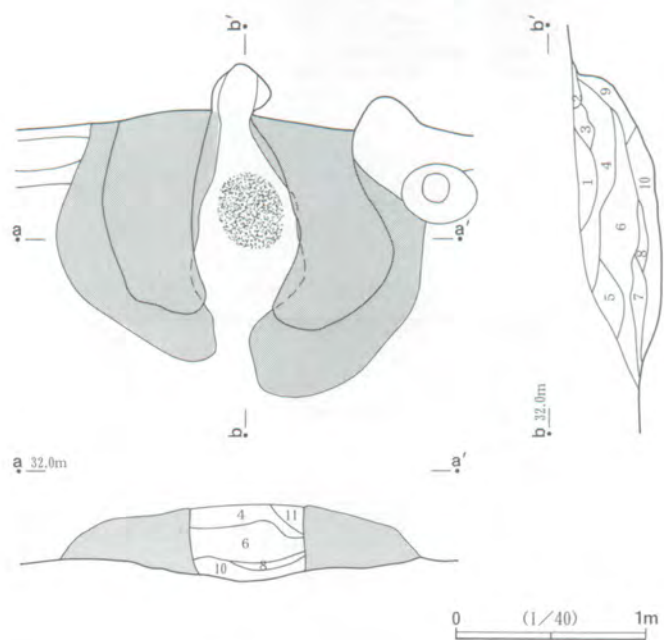
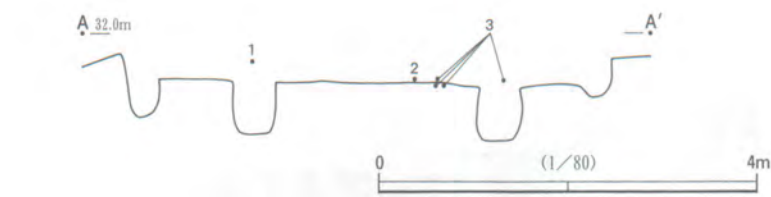
れる。西隅に貯蔵穴が検出された。カマドは、北西壁中央で、壁の掘り込みは浅い。袖部分が長く、火床部分が床面にある。遺物は少量である。

1～3は土師器である。1は坏である。丸底で、扁平な半球形の体部から口縁部が開いて立ち上がる。口縁は受け口状である。2は甕である。口縁から胴部上端で、胴部は球形と考えられ、口縁部が外反し、



SI-012

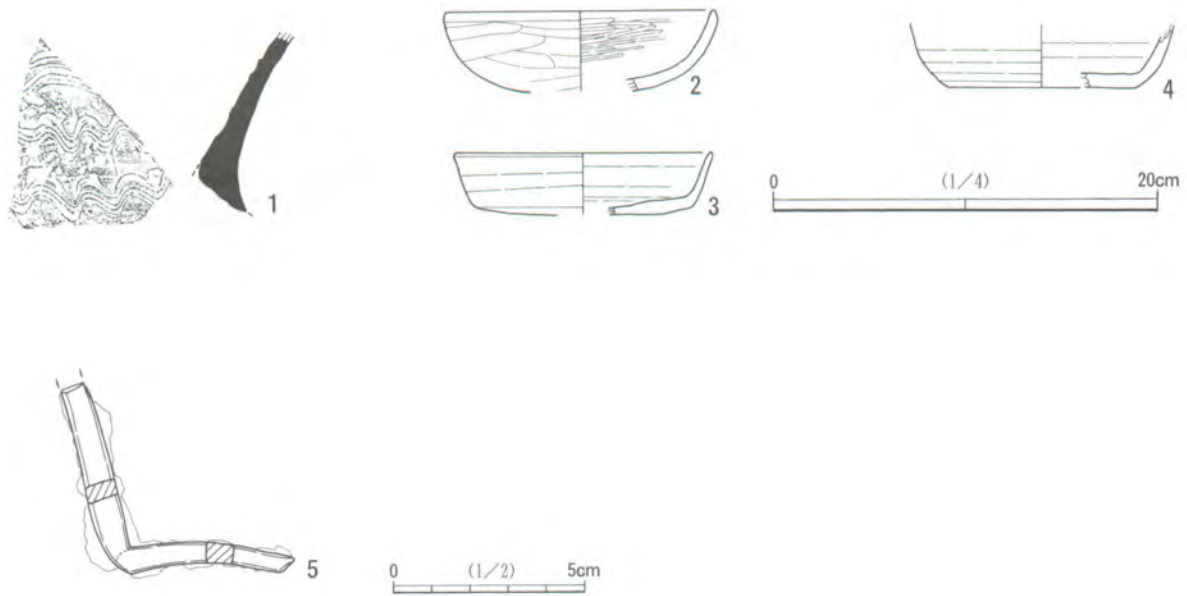
- 1. 黒色土 ローム粒・焼土粒極微混
- 2. 黒褐色土 黒色土主体、ローム粒・ロームブロック少混
- 3. 黒灰褐色土 黒色土主体、灰白色砂ブロック・ローム粒・焼土粒少混、しまりがある
- 4. 黒灰褐色土 ローム粒・焼土粒やや多混
- 5. 暗灰白色土 灰白色砂主体、ローム粒・焼土粒少混、しまりがある



SI-012 カマド

- 1. 黒褐色土 ローム粒・灰白色砂少混、ややしまりがある
- 2. 暗赤色土 焼土主体
- 3. 暗灰白色土 灰白色砂多混、しまりがある
- 4. 黒褐色土 ローム粒微混、ロームブロック少混、しまりがある
- 5. 黒灰褐色土 灰白色砂・ローム粒少混、しまりがある
- 6. 灰褐色土 灰白色砂主体、褐色土少混、しまりがある
- 7. 黒色土 褐色土極微混、焼土粒少混
- 8. 暗赤色土 焼土主体
- 9. 暗赤褐色土 焼土粒・ローム粒多混入、サラサラしている
- 10. 黒褐色土 ローム粒多混、しまりがない
- 11. 黒色土 ローム粒極微混、ややしまりがない

第51図 SI-012



第52図 SI-012出土遺物

口縁は断面三角形で、縁帯状である。3は大型の甕である。口縁から胴部上半部で、球形の胴部から口縁部が外反し、口縁はわずかに受け口状である。

SI-012 (第51・52図 図版28・71・79)

東区南西端に位置する。主要グリッドは4H-78である。南東隅が調査区外で、南西隅部がSK-079・080と重複する。重複関係は、本遺構が古い。平面形は隅丸の縦長方形である。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は3基検出されたが、未調査部分にもあると考えられる。壁柱穴がカマド右側に2基、北西隅に1基、西壁北側に1基検出された。床面中央やや南西寄りに焼土が検出された。カマドは北壁中央で、壁の掘り込みはやや浅く、火床部は床面に位置する。遺物は少量である。

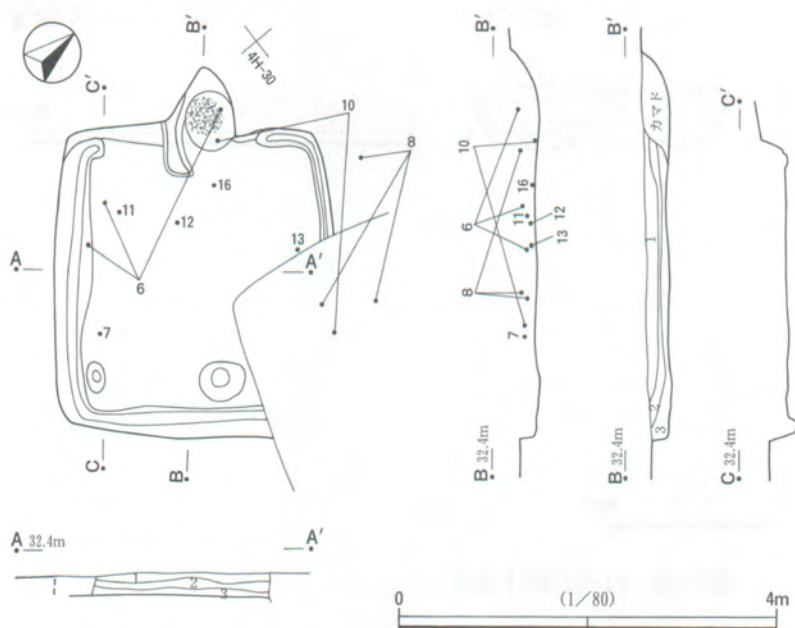
1は須恵器甕の口縁部である。外面に櫛描き波状文が施される。2～4は土師器坏である。2は非ロクロ成形である。底部中央を欠くが、丸底で、扁平な半球形の体部から、口縁部が短く直立する。口縁は丸い。3・4はロクロ成形である。3は底部中央を欠く。平底で、体部は外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。4は体部下部から底部である。底部中央を欠く。平底で、体部は外傾して立ち上がり、ゆるやかに内彎する。5は鉄製品である。断面が四角形で太く、釘と考えられる。

SI-014 (第53・54図 図版29・71・78・79)

東区南西端に位置する。主要グリッドは4H-30である。東隅がSI-015と重複する。重複関係は、土層から、本遺構が古い。平面形は隅丸の縦長方形である。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は検出されなかった。カマド対面壁下中央に出入り口ピット、南隅にピットが検出された。カマドは北西壁中央で、壁の掘り込みは深く、火床部は掘り込み内に位置する。遺物は少量である。

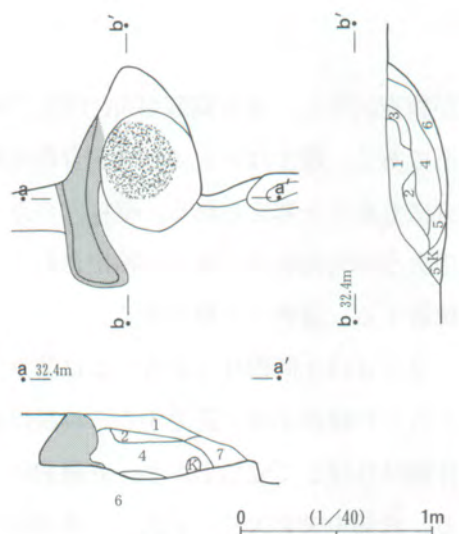
1～3は土師器のロクロ成形杯である。1は平底で、体部が外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁が短く外反する。2は底部中央がわずかに上げ底である。体部は外傾して立ち上がり、ゆるやかに内彎して口縁に至る。口縁はわずかに外反する。3は底部中央を欠くがわずかに上げ底で、体部は外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。口縁はわずかに外反する。

4は土師器高台付皿である。ロクロ成形で、ハ字状高台は、端部で外反する。体部は外傾して大きく広



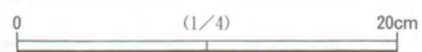
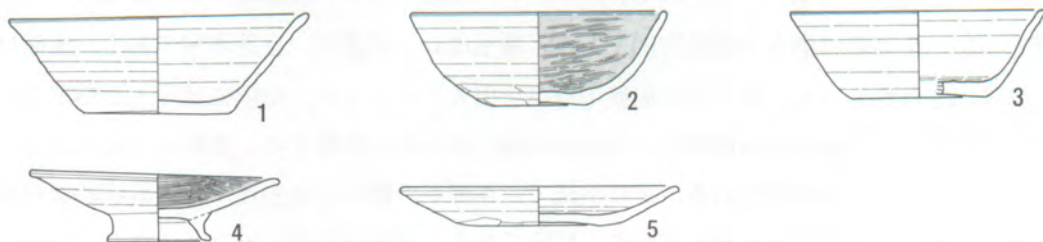
SI-014

- 1. 黒褐色土 ローム粒極微混, 焼土粒少混
- 2. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒微混
- 3. 黒褐色土 ローム粒極微混, ロームブロック少混



SI-014 カマド

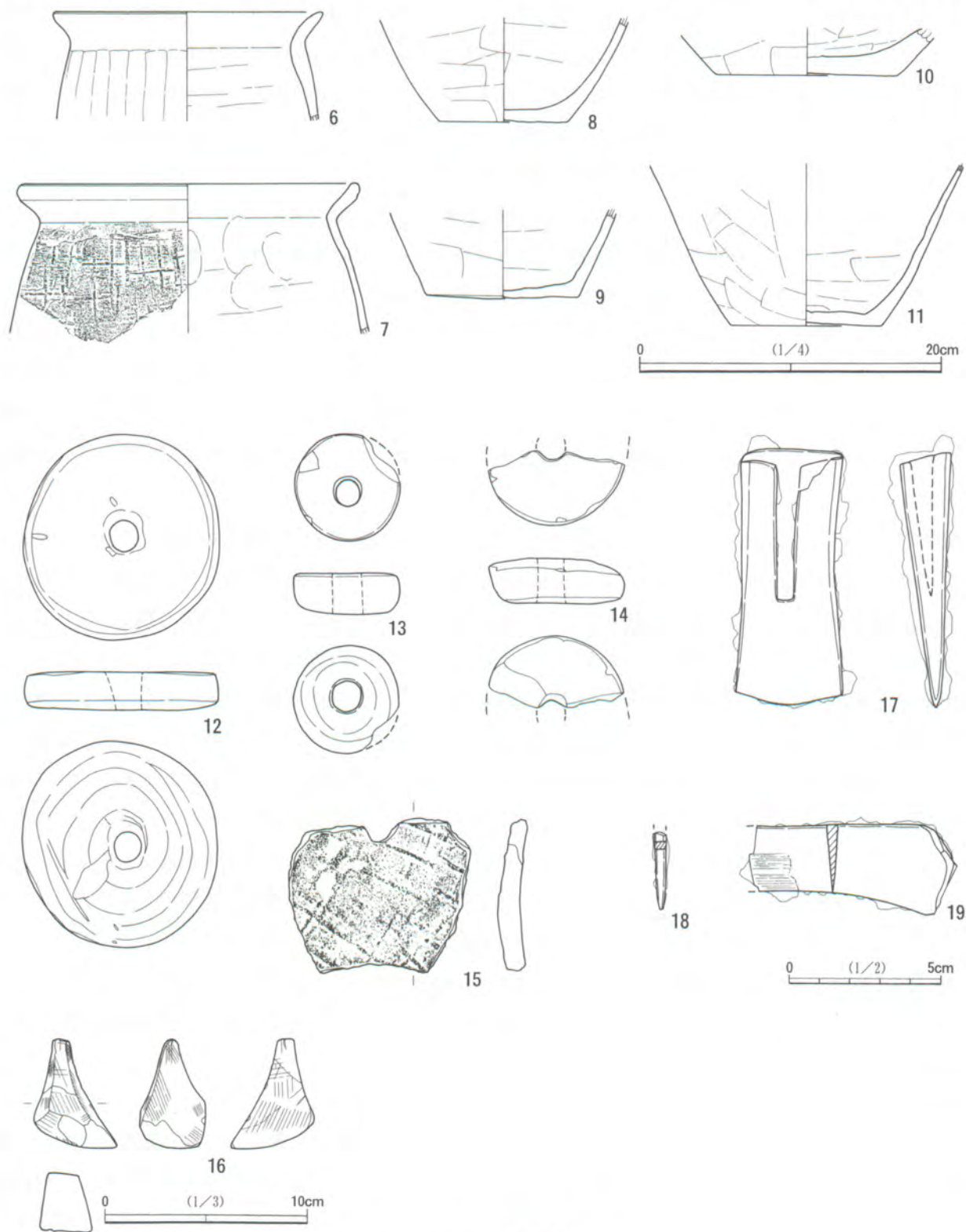
- 1. 暗褐色土 ローム粒微混, 黒色土・焼土粒少混, しまりがある
- 2. 暗褐色土 黒色土・焼土粒やや多混
- 3. 暗赤褐色土 ローム粒・焼土粒少混
- 4. 暗赤褐色土 焼土粒やや多混, しまりが無い
- 5. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少混, しまりがある
- 6. 暗赤褐色土 焼土粒微混, ややしまりがある
- 7. 褐色土 しまりがある



第53図 SI-014・出土遺物(1)

がり、わずかに内彎して口縁に至る。口縁は短く外反する。5は土師器皿である。ロクロ成形で、底部中央がわずかに上げ底である。体部は外傾して直線的に広がり口縁に至る。口縁はわずかに外反する。

6～11は土師器甕である。6・7は口縁から胴部上部である。胴部は長胴形と考えられる。口縁部は外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。6は、口縁は尖り気味である。7は、わずかに内彎して受け口状で、丸い。12～14は紡錘車である。12・14は土製、13は石製である。12・14は円板で、中央に穿孔され



第54図 SI-014出土遺物(2)

る。13は厚みがある円板であるが、上面よりも下面の径がやや小さい、逆円錐台状である。15は土器片錘と考えられ、上辺中央に刻み目がある。17～19は鉄製品である。17は袋状鉄斧である。短冊状で、両端の幅がやや広い。18は鉄鏃の茎部と考えられる。19は鎌である。直刃で先端部を欠く。16は砥石片である。小型で、手持ちで使用したと考えられる。

SI-015 (第55・56図 図版29・71・72・79)

東区南西端に位置する。主要グリッドは4H-21である。東隅がSI-014と重複する。重複関係は、本遺構が新しい。平面形は隅丸正方形である。覆土は全体に均一で、自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は4基検出され、南側2基は重複がある。南壁、北東隅および西カマド左側に壁柱穴が検出された。南面の壁柱穴は4基で、西から2番目の柱穴から西壁に平行して、間仕切り溝が約1.4m検出された。

カマドは2基検出された。北壁中央および西壁中央である。検出状況から西壁が新しい。北壁カマドはSI-014の重複で、壁の掘り込みは不明であるが、袖部が長いので、掘り込みは浅いと考えられる。火床部は壁下の床面である。西壁カマドは、壁の掘り込みは浅く、火床部は床面である。遺物の出土は多い。

1～9は須恵器である。1・2は坏蓋で、1は天井部が平板で、擬宝珠状のツマミが付く。1・2ともカエリが蓋端にある。3・4はロクロ成形の坏である。平底で、体部が外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。口縁はわずかに外反する。5～7は高台付坏である。高台は断面四角形で、外傾する。体部は外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。8は壺である。胴部上半部で、形から長頸と考えられる。肩が張り、稜状である。9は甕の口縁部である。外反して広がり、口縁は縁带状である。

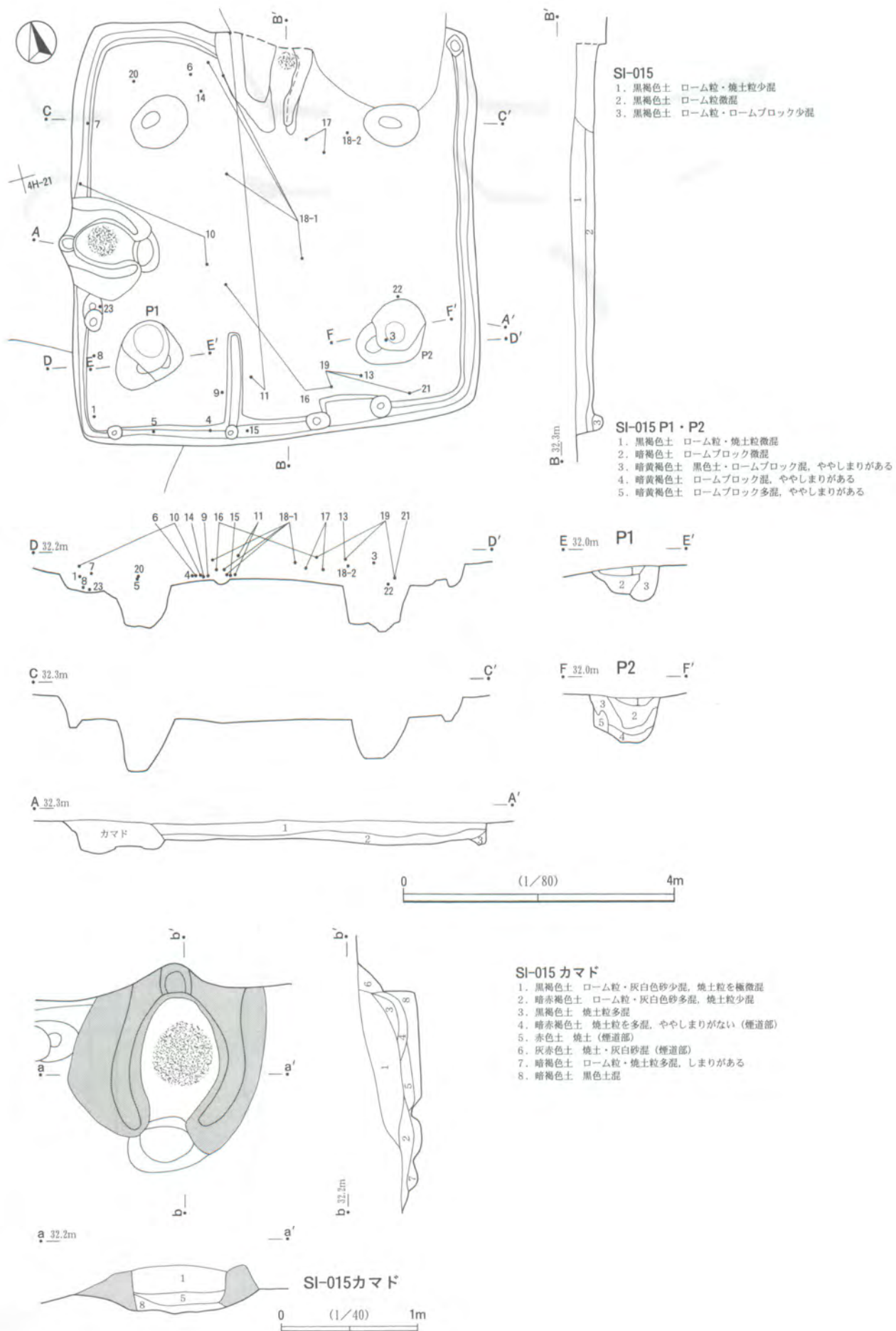
10～21は土師器である。10・11は非ロクロ成形の坏である。10は平底で、体部が外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。口縁は尖り気味である。内外面に赤彩が施される。11は丸底と考えられる。口縁から体部である。体部は扁平な半球形で、口縁がわずかに外反する。12・13は盤である。内外面に赤彩が施される。12は平底で、体部が外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。口縁は丸い。13は平底で、体部が外傾して立ち上がり、内彎して口縁部に至る。口縁部は直立し、口縁がわずかに外反する。14～21は甕である。14～16、19～21は小型、17・18は大型である。14～16は口縁から胴部上端部である。口縁部がほぼ直立し、外反して口縁に至る。口縁は、14・15は丸く、16は受け口状である。17は口縁から胴部上部である。胴部は球形に近い逆玉子形と考えられる。口縁部は短く外反し、口縁は受け口状である。18-1・18-2は胴部下側から底部である。逆玉子形と考えられる。平底で木葉痕がある。両方とも内面にウルシ状物質が付着し同一と考えられる。19～21は胴部から底部である。底部中央部を欠くが、平底である。胴部は、19・20が球形、21がやや長胴と考えられる。

22・23は鉄製品である。22は鉄鏃である。細根式の長頸鏃である。先端の断面は扁平な楕円形であるが、頸部、茎部は断面が四角形である。22は棒状の鉄製品である。断面は四角形であるが、先端が扁平である。釘または細いノミ状製品と考えられる。

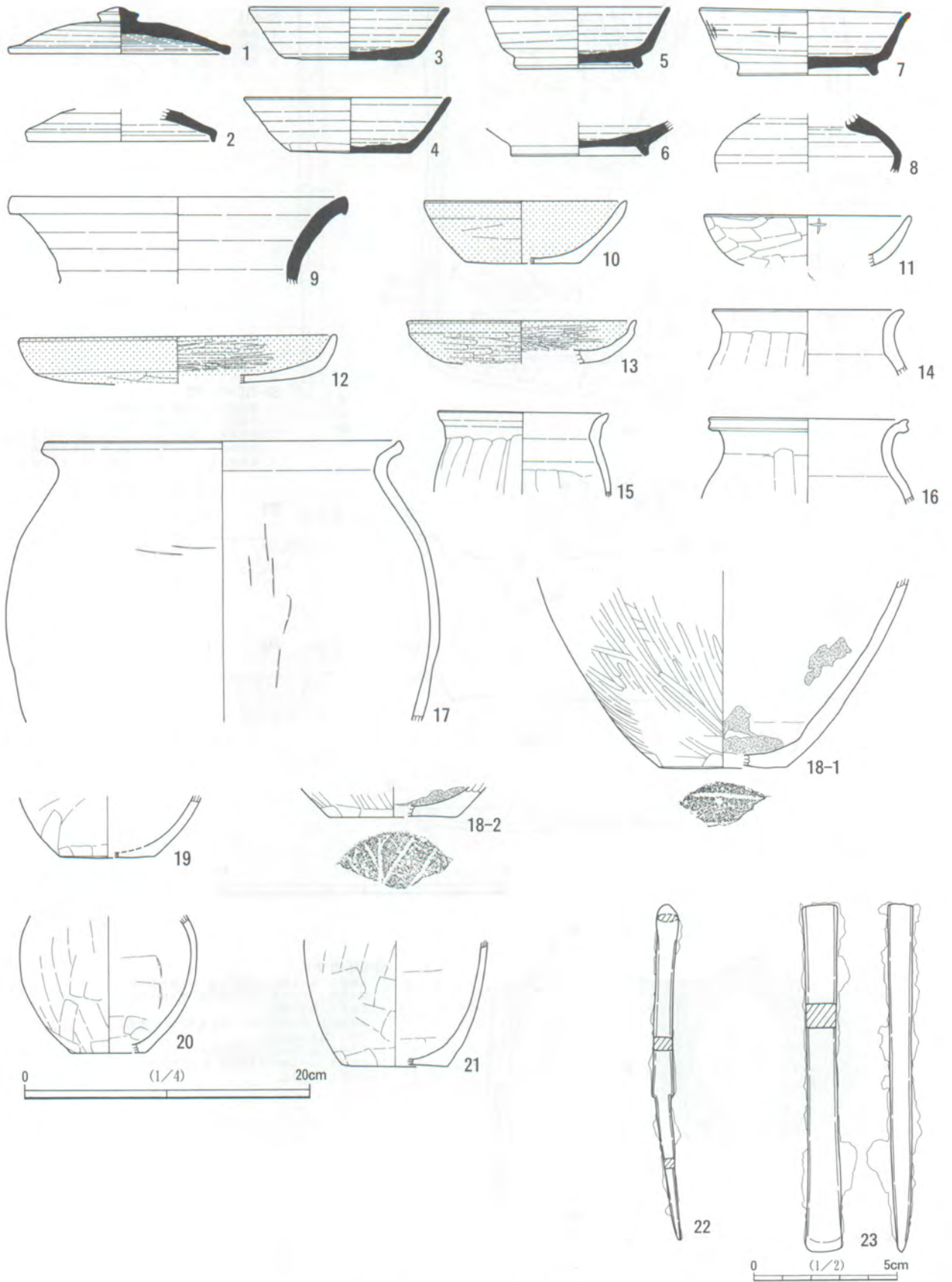
SI-016 (第57図 図版30・72)

中央区中央南寄りに位置する。主要グリッドは4F-63である。全体に削平され、残りは悪い。カマド側壁の基部および柱穴の一部が残る。平面形は隅丸正方形と考えられる。床面は平坦である。柱穴・壁柱穴が検出された。カマドは南西壁中央に位置する。壁の掘り込みは深く、火床部が床と壁の境に位置する。

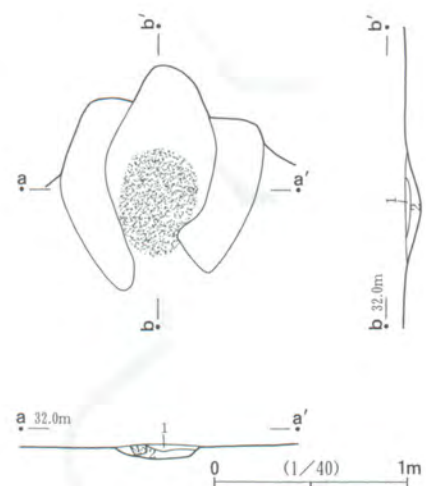
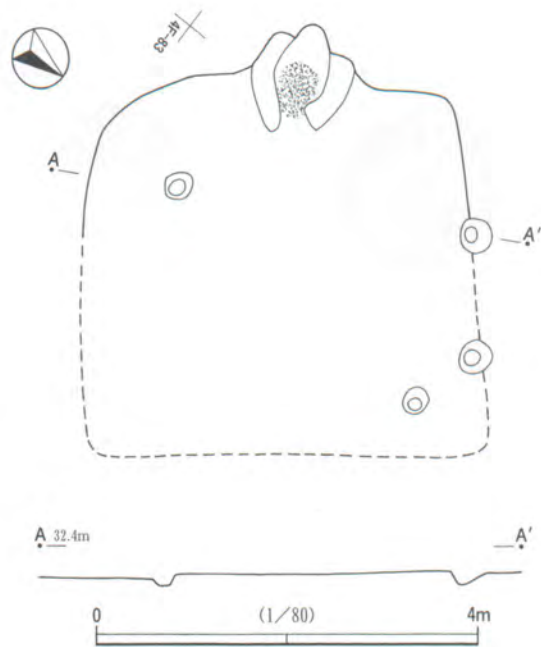
遺物は極少量で、破片のみである。



第55図 SI-015



第56図 SI-015出土遺物



SI-016カマド

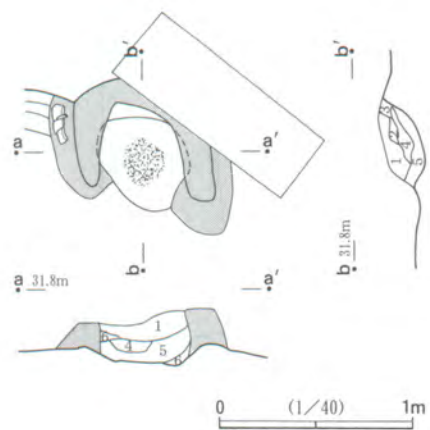
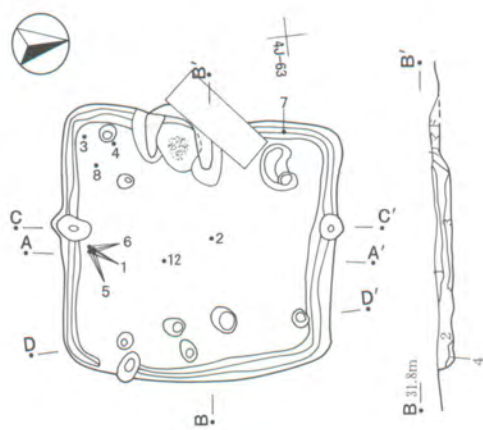
SI-016 カマド

1. 暗赤褐色土 ローム粒・焼土粒微混
2. 暗赤褐色土 焼土粒やや多混

第57図 SI-016

SI-018 (第58・59図 図版31・72・78・79)

東区南東部に位置する。主要グリッドは4J-64である。カマドの壁掘り込み部が攪乱される。平面形は



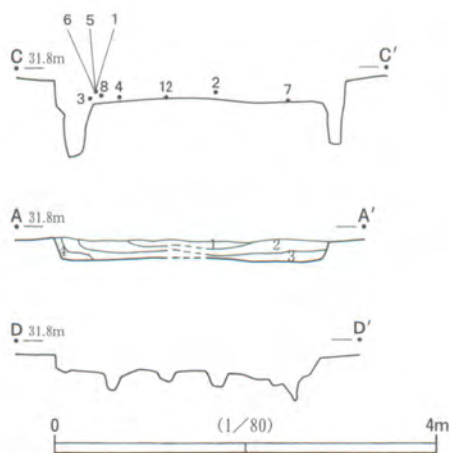
SI-018カマド

SI-018

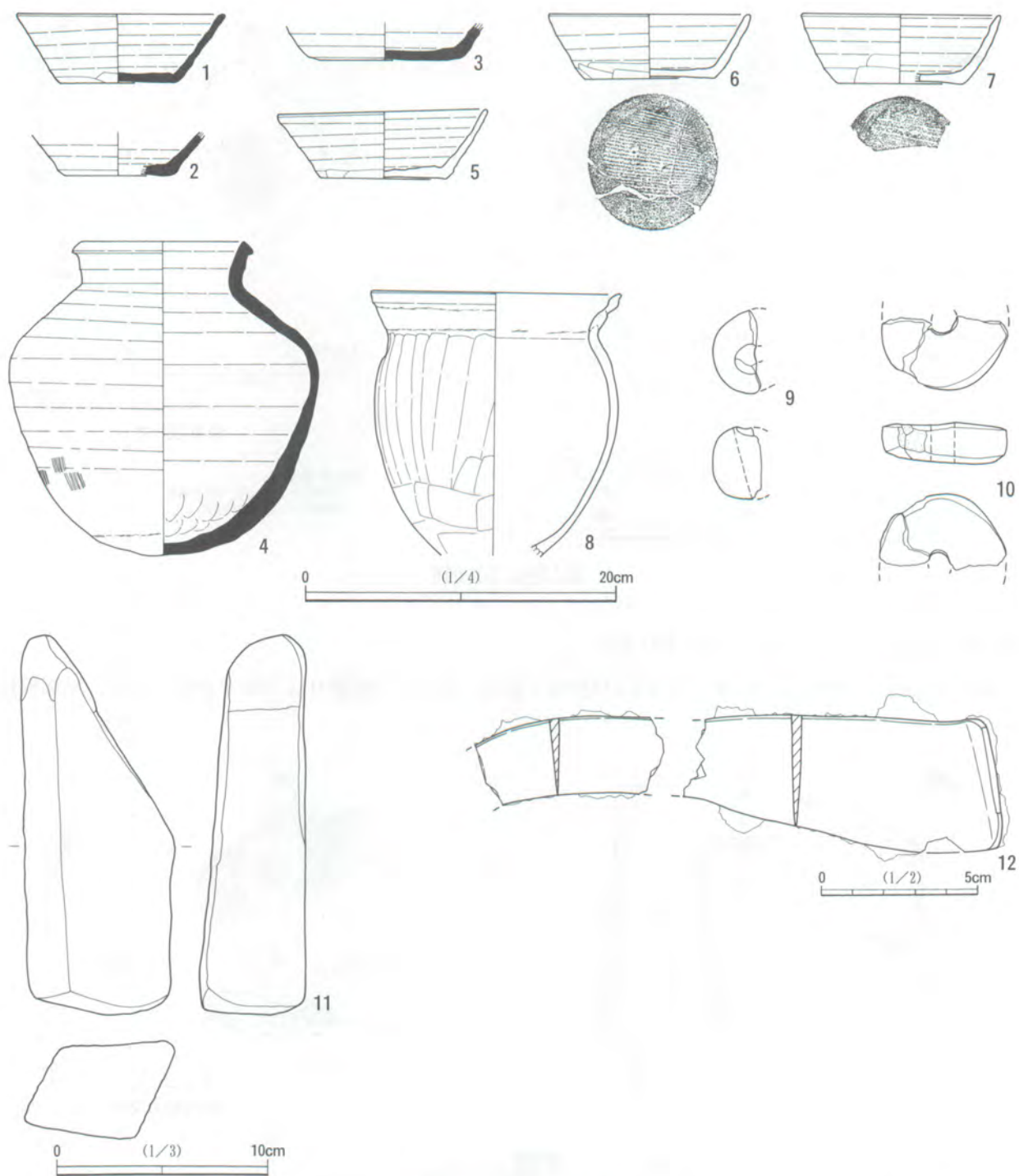
1. 黒褐色土 ローム粒少混
2. 暗褐色土 炭化粒・焼土粒少混, ロームブロック微混
3. 黒褐色土 炭化物・炭化粒多混 焼土粒・ローム粒・ロームブロック少混
4. 黄褐色土 ロームブロック多混, しまりがある

SI-018 カマド

1. 暗赤褐色土 ローム粒・焼土粒微混, 灰白色砂を横縞状少混
2. 暗赤褐色土 黒色土をやや多混, 焼土粒少混
3. 暗赤褐色土 しまりが無い
4. 暗赤褐色土 焼土粒多混, しまりが無い
5. 暗赤褐色土 ローム粒混, しまりが無い
6. 暗赤褐色土 焼土粒多混



第58図 SI-018



第59図 SI-018出土遺物

隅丸のほぼ正方形である。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は4基検出された。壁柱穴、出入りロピット、貯蔵穴が検出された。カマドは西壁中央で、壁の掘り込みはやや浅く、火床部は床面に位置する。遺物は少量であるが、おもなものは床面から検出された。

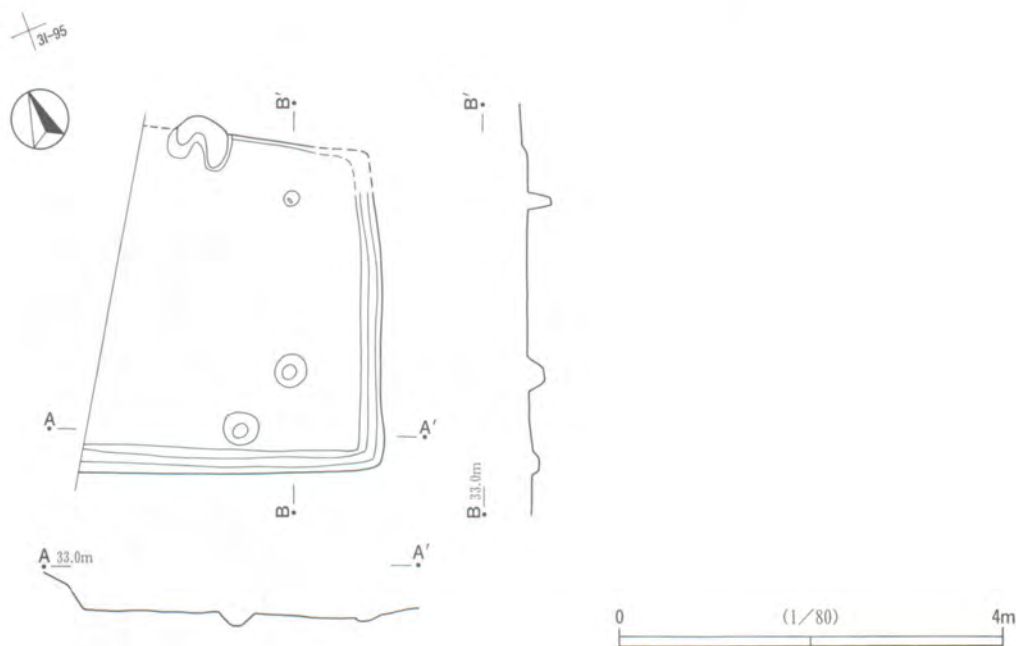
1～4は須恵器である。1～3はロクロ成形の坏である。1は平底で、体部が外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はごくわずかに外反する。2・3は体部下から底部である。1と同型と考えられる。4は小型甕である。丸底で、胴部は下半部が半球形、上半部は扁平で直線的である。口縁部は外傾して立ち上がり、途中に段を持って口縁に至る。口縁は折り返して、幅広である。

5～8は土師器である。5～7はロクロ成形の坏である。平底で、5・6は体部が外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はごくわずかに外反する。7は体部が外傾して立ち上がり、ゆるやかに内彎して口縁に至る。口縁はごくわずかに外反する。8は甕である。底部を欠く。胴部は逆玉子形で、口縁部は外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。口縁は受け口状である。

9は土玉である。半分で、片側穿孔と考えられる。10は石製紡錘車である。円板で、中央に穿孔される。上下面の端部が面取りされる。11は砥石である。四角の棒状で、浅い凹字形と考えられる。12は鉄製鎌である。二分割で接合しないが、同一と考えられる。柄に装着する折り曲げがあり、先端部が曲刃である。

SI-019 (第60図 図版32)

東区中央やや西寄りに位置する。主要グリッドは4I-05である。西半部がSX-001と重複して、消滅し、全体に削平されて残りは悪い。平面形はほぼ正方形と考えられる。床面は平坦である。柱穴は東側2基が検出された。カマド対面壁際中央やや東に出入りロピットが検出された。カマドは北東壁中央で、壁の掘り込みは浅く、火床部は床面に位置する。遺物はごく少量で、破片のみである。

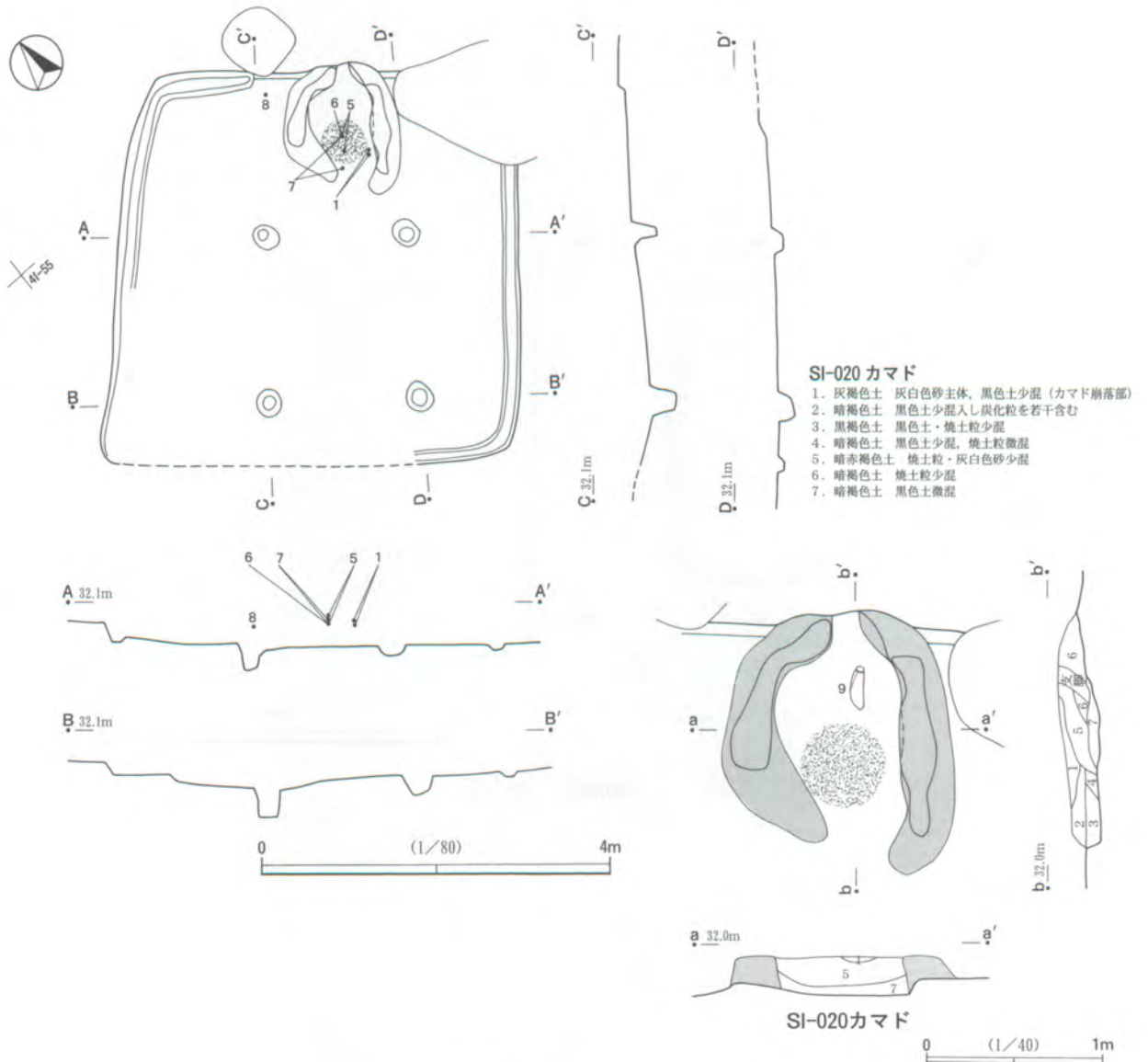


第60図 SI-019

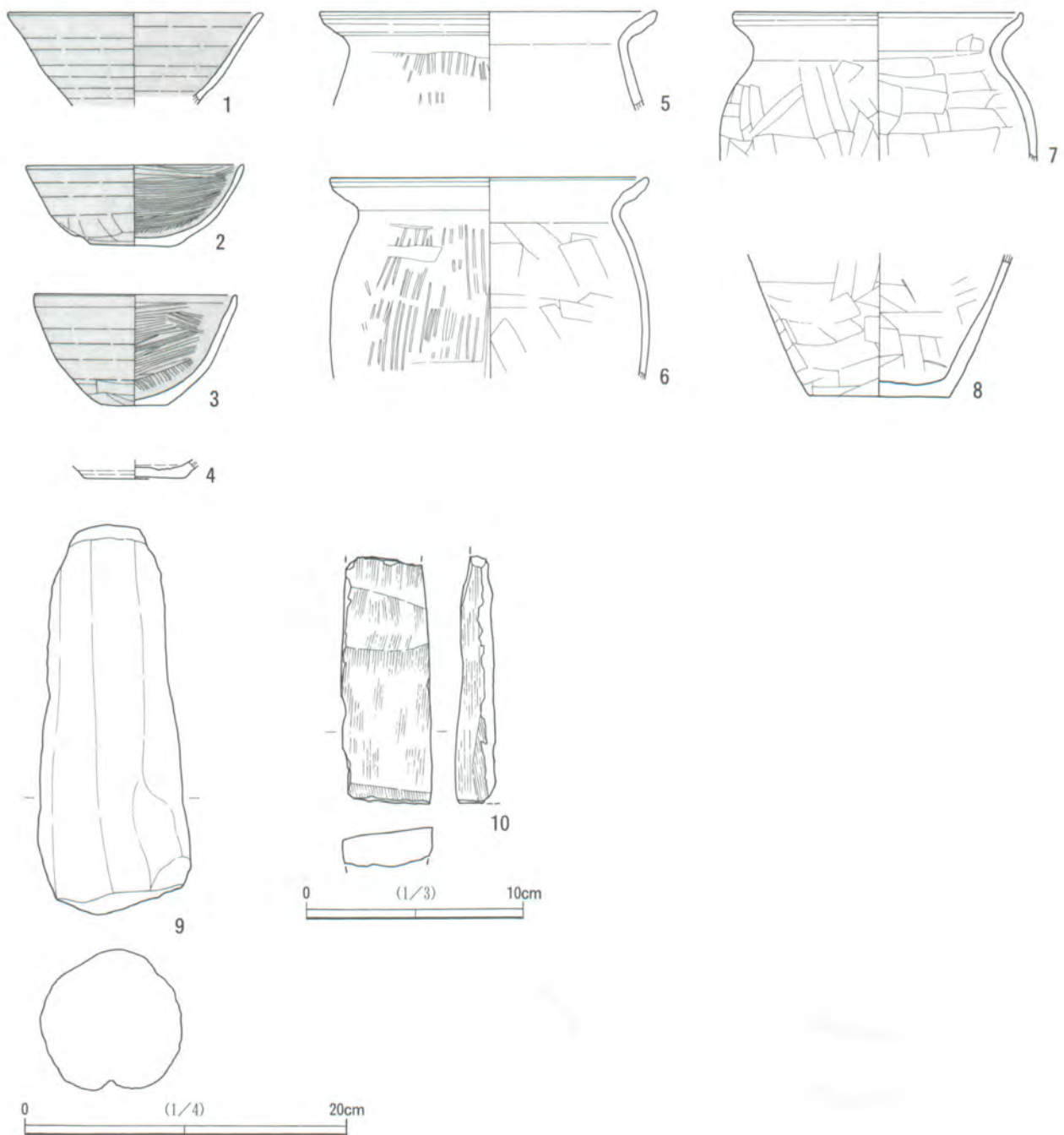
SI-020 (第61・62図 図版32・72・73・78)

東区中央南寄りに位置する。主要グリッドは4I-66である。全体に削平され、西隅が消滅している。平面形は隅丸でほぼ正方形である。床面は平坦である。柱穴は4基検出された。カマドは北東壁中央で、壁の掘り込みはほとんどなく、火床部は床面中央寄りに位置する。遺物は少量であるが、おもなものはカマド内から検出された。

1～8は土師器である。1～3はロクロ成形の坏である。内外面に黒色処理が施される。1は口縁から体部である。体部は直線的に開き、口縁はわずかに外反する。2は、底部の中央がわずかに上げ底で、薄い。体部は外傾して立ち上がり、ゆるやかに内彎して口縁に至る。口縁はごくわずかに外反する。3も2と同様であるが、2よりも体部が深く、鉢状である。5～8は甕である。5・6は同型で口縁部から胴部上部である。胴部はやや長胴で、口縁部が外反する。口縁は折り返しで、やや受け口状である。7は口縁部から胴部上部である。胴部は球形と考えられ、口縁部が外反し、口縁は受け口状である。8は胴部下部から底部である。平底で、胴部は外傾して立ち上がり、ほぼ直線的である。



第61図 SI-020

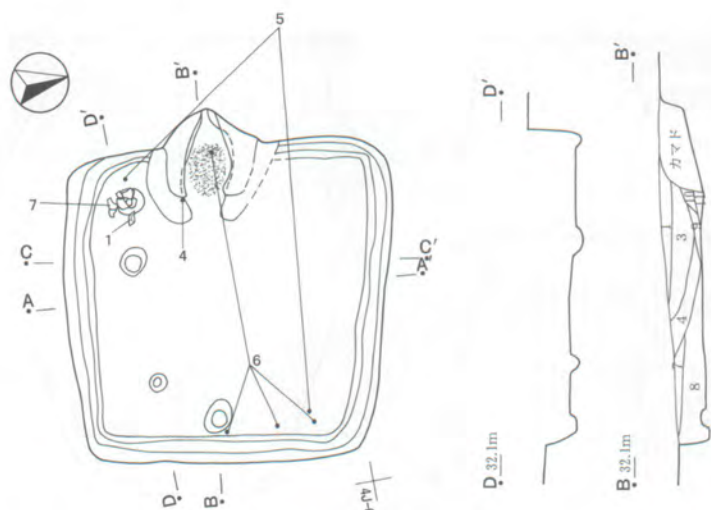


第62図 SI-020出土遺物

9は土製支脚である。側面が面取りされた円柱形状で、上端が細くなる。10は砥石片である。短冊形で、使用面に凹凸があり、手持ちで使用されたと考えられる。

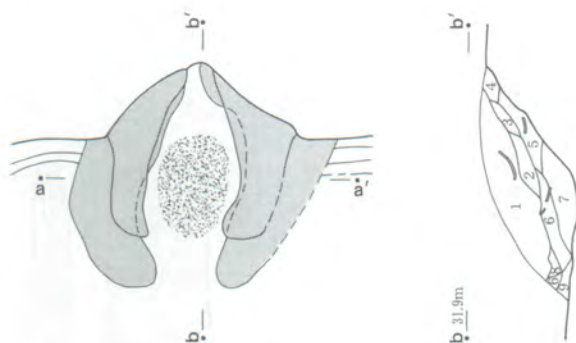
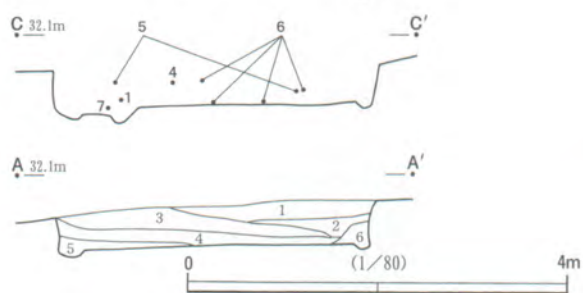
SI-021 (第63図 図版33・73)

東区中央南端に位置する。主要グリッドは4J-61である。SI-030と重複し、本遺構が古い。平面形は隅丸ではほぼ正方形である。覆土は斜面に沿った堆積を示し、自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は検出されなかった。カマド対面壁下中央に出入り口ピットが検出された。床面南側でピットが2基検出されたが、浅いので柱穴ではないと考えられる。カマドは西壁中央やや南寄りで、壁の掘り込みはやや浅く、火床部は壁際に位置する。遺物は少量であるが、カマド内およびカマド左側に集中して検出された。



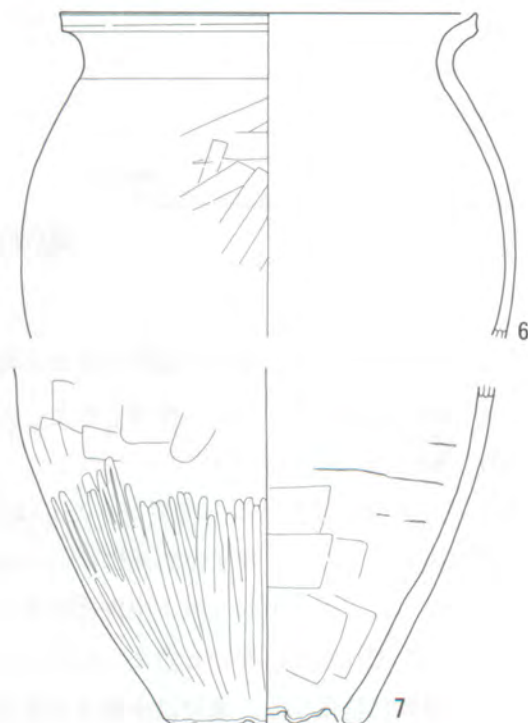
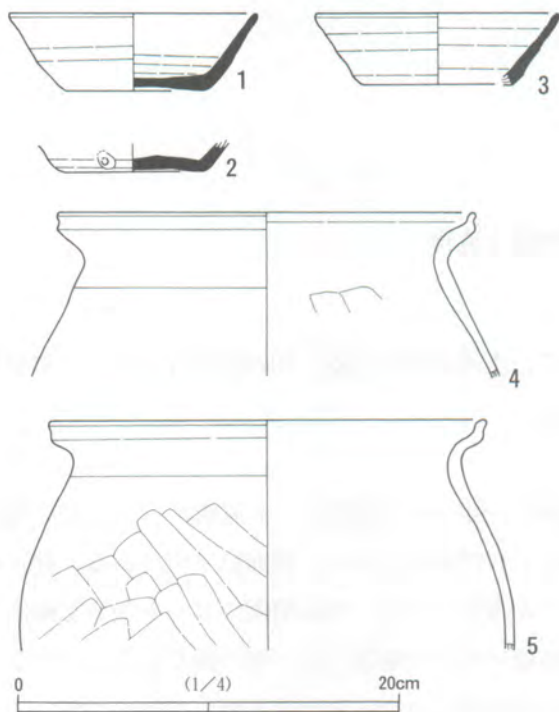
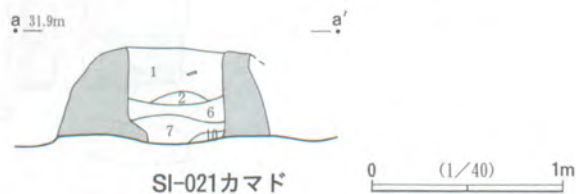
SI-021

- 1. 黒褐色土 黒色土主体、ローム粒極微混
- 2. 黒褐色土 ローム粒やや多混
- 3. 褐色土 ローム粒多混
- 4. 黒色土 ローム粒極微混
- 5. 黒褐色土 ローム粒子やや多混
- 6. 暗褐色土 ローム粒少混
- 7. 黒褐色土 ローム粒少混
- 8. 黒褐色土 ローム粒微混
- 9. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少混
- 10. 暗灰白色土 灰白色砂多混、暗褐色土少混
- 11. 暗赤褐色土 ローム粒少混、焼土粒多混



SI-021 カマド

- 1. 暗灰色土 灰白色砂主体、黒色土微混、しまりがある
- 2. 暗赤灰色土 被熱により赤味を帯びた砂質塊
- 3. 暗灰色土 被熱により若干赤味
- 4. 暗灰色土 灰白色土主体
- 5. 黒褐色土 灰白色砂、焼土粒少混、しまりが無い
- 6. 黒色土 焼土粒少混、しまりが無い
- 7. 暗赤色土 黒色土主体、焼土粒少混
- 8. 焼土ブロック
- 9. 黒色土 焼土粒微混
- 10. 暗灰褐色土



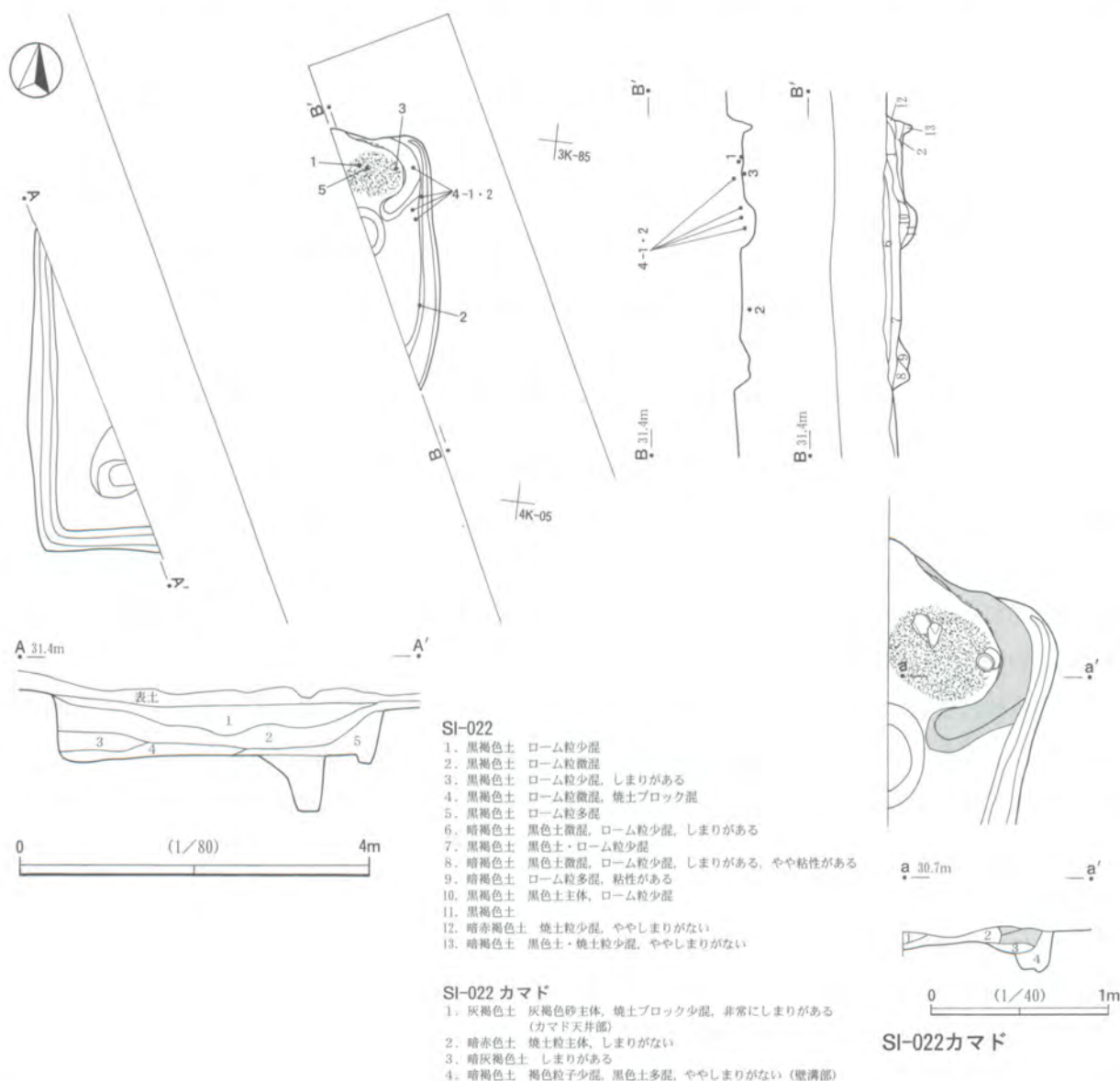
第63図 SI-021・出土遺物

1～3はロクロ成形の須恵器坏である。ほぼ同型で、底面は中央部がわずかに上げ底で、体部が外傾して立ち上がり、ほぼ直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。4～7は土師器甕である。4～6は口縁部から胴部上部である。ほぼ同型で、胴部はやや縦長の球形と考えられる。口縁部が短く外反し、口縁は受け口状である。7は胴部下部から底部である。胴部は逆玉子形と考えられる。底部は欠損するが、状況から底部を丸く打ち欠いて、甕に利用したと考えられる。

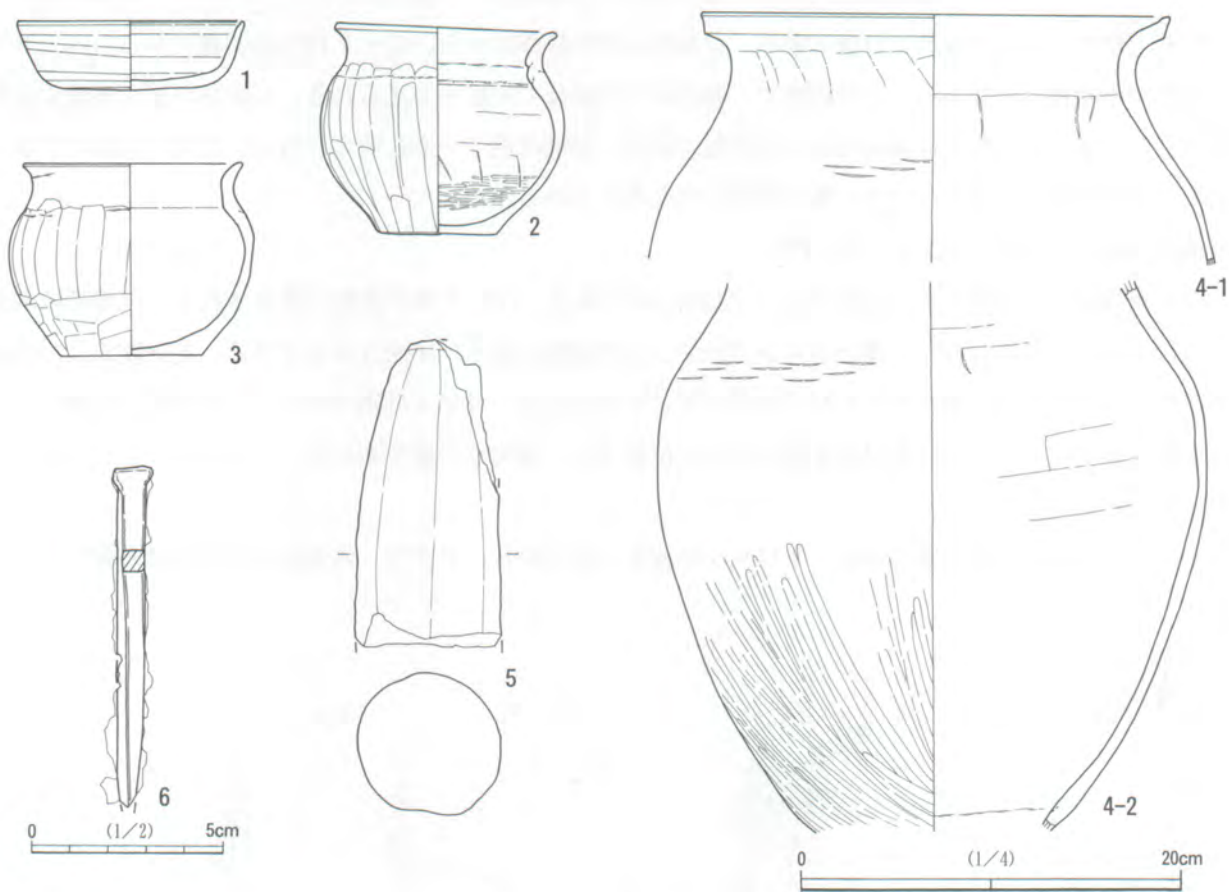
SI-022 (第64・65図 図版33・73・79)

東区東端斜面に位置する。主要グリッドは3K-83である。住居中央が帯状に攪乱される。平面形は隅丸ではほぼ正方形と考えられる。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。北東隅および南東隅に柱穴が検出され、攪乱部にも柱穴があったと考えられる。カマドは隅カマドで、北東隅に位置する。壁の掘り込みはなく、火床部は北東隅の床面に位置する。遺物は少量であるが、カマド内およびカマド右側に集中して出土した。

1～4-1・4-2は土師器である。1はロクロ成形の坏である。平底で、体部がゆるやかに内彎して立ち



第64図 SI-022



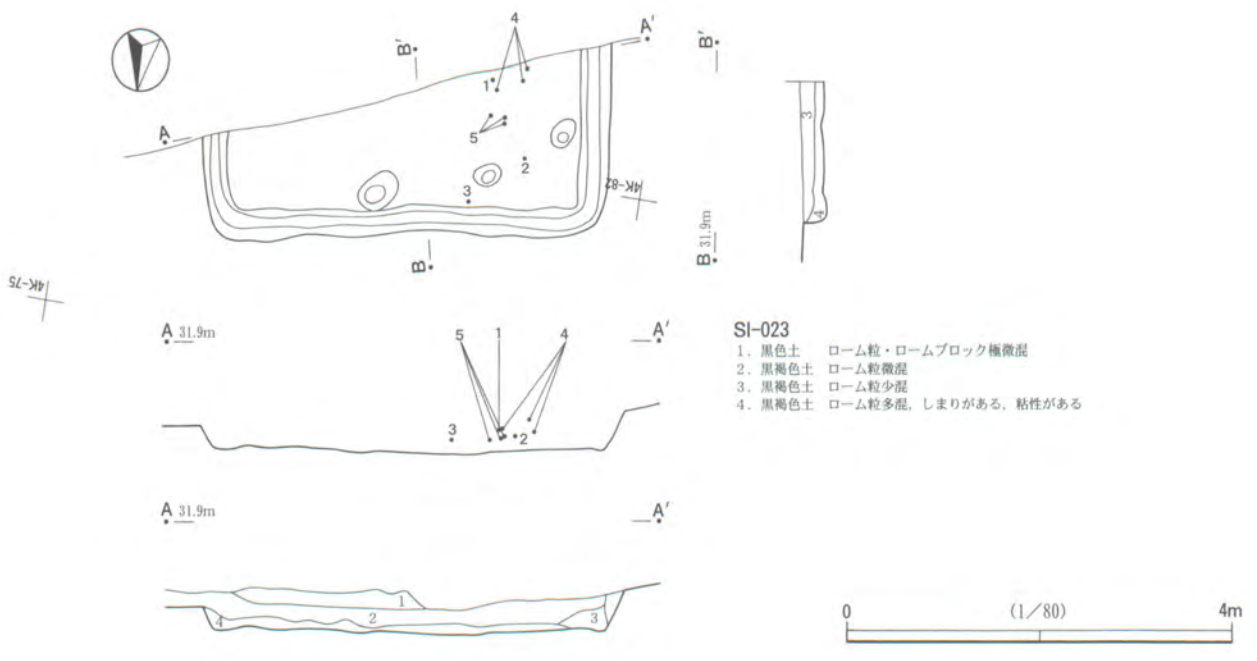
第65図 SI-022出土遺物

上がり、外傾して口縁に至る。口縁はわずかに外反する。2・3は小型甕である。ほぼ同型である。平底で、中央部が薄い。胴部は扁平な球形で、口縁部は短く外反し、口縁は尖り気味である。4-1・4-2は大型甕である。接合はしないが、形状、調整から同一個体と考えられる。胴部は逆玉子形で、口縁部が短く外反し、口縁は受け口状である。5は土製支脚である。側面が面取りされた円柱形状で、上端が細くなる。6は鉄製品である。鉄釘の完形である。断面が四角形で、頭部は平である。先端ほど細くなる。

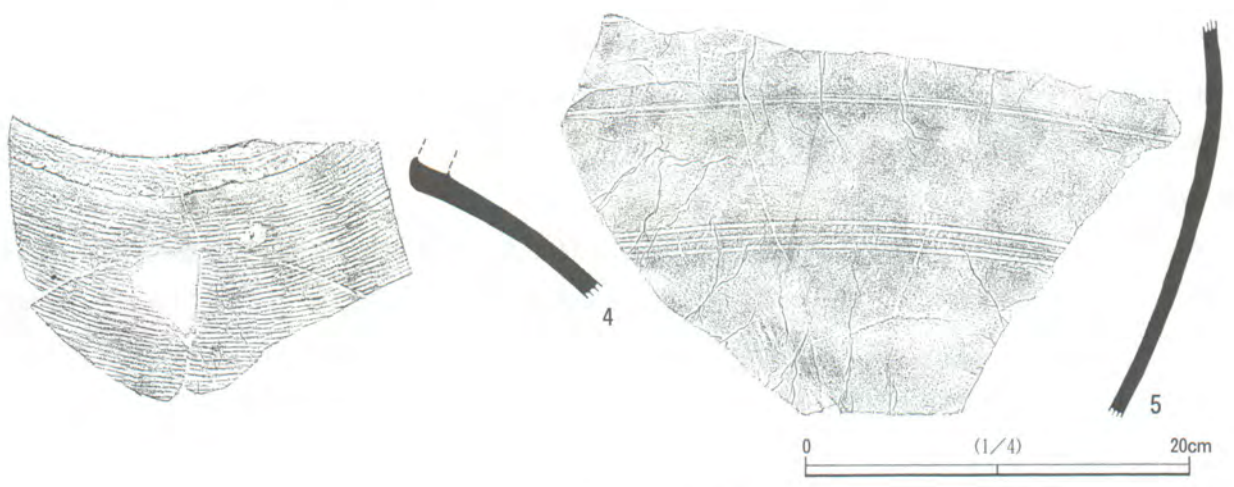
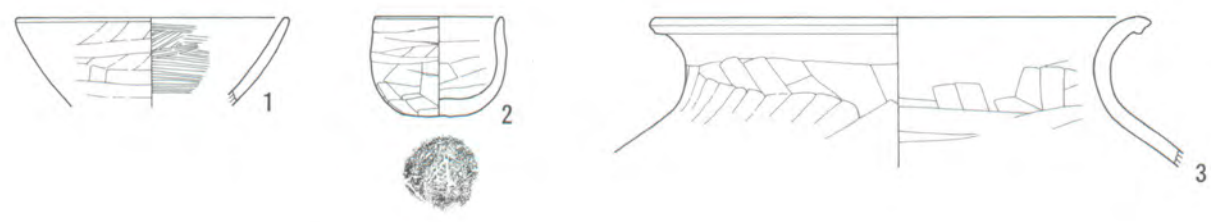
SI-023 (第66図 図版34・73)

東区南東端に位置する。主要グリッドは4K-83である。南側半分以上が調査区外である。平面形は隅丸方形である。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。検出部分にカマドがないので、南壁に位置すると思われる。よって、北壁下中央やや東のピットはカマド対面に位置する出入りロピットと考えられる。北西隅の床面にピットが2基検出されているが、柱穴ではないと考えられる。遺物はおもに覆土中から出土している。

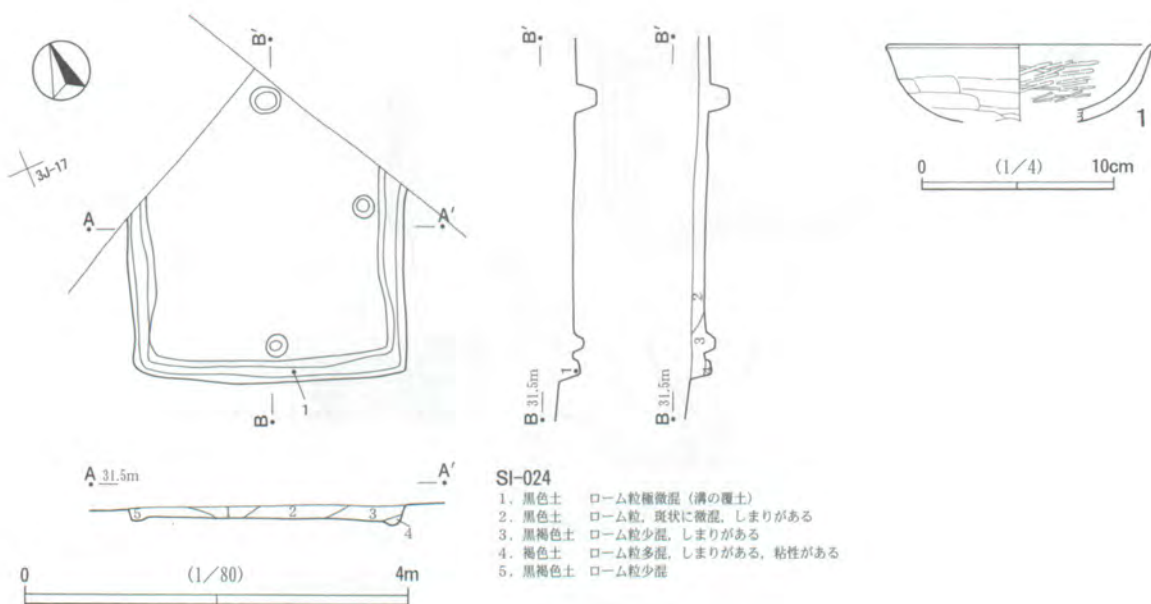
1～3は土師器である。1はロクロ成形の坏である。口縁から体部で、体部がゆるやかに内彎して広がり、口縁に至る。2は小型鉢である。底部が小さく、丸底状である。胴部は扁平な半球形で、口縁部がやや内傾して立ち上がり、口縁がわずかに外反する。3は大型甕である。口縁から胴部上端部で、口縁部が外反し、口縁は折り返し口縁で、縁带状である。4・5は須恵器である。4は甕の胴部上端部片で、横方向の叩き目が施される。5は大型壺の胴部片と考えられる。横方向に沈線文が施される。



- SI-023
- 1. 黒色土 ローム粒・ロームブロック極微混
 - 2. 黒褐色土 ローム粒微混
 - 3. 黒褐色土 ローム粒少混
 - 4. 黒褐色土 ローム粒多混, しまりがある, 粘性がある



第66図 SI-023・出土遺物



第67図 SI-024・出土遺物

SI-024 (第67図 図版34)

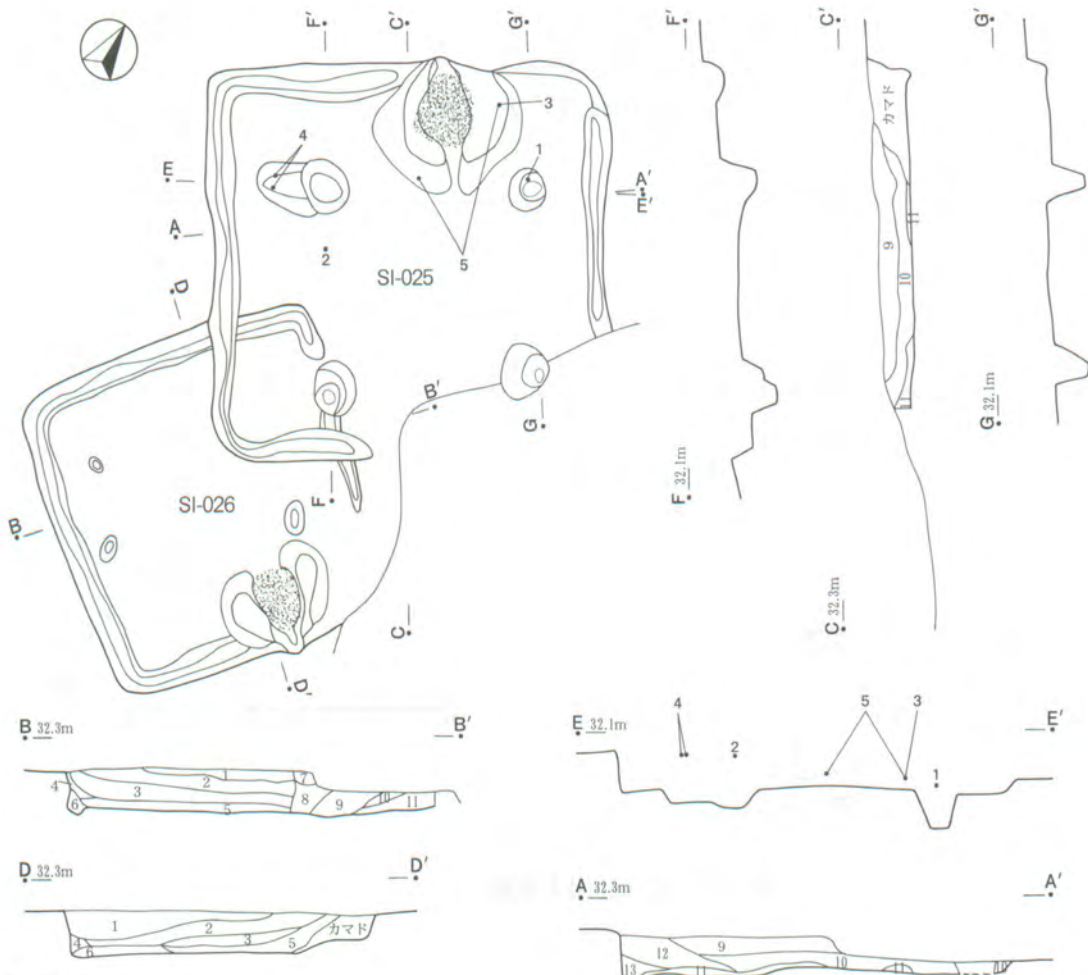
東区東寄りに位置する。主要グリッドは3J-18である。北側半部が溝で削平されている。平面形は縦長方形である。全体に削平のため残りは悪い。覆土は、自然堆積と考えられる。床面は平坦である。カマドは、北壁と考えられる。床面にピットが3基検出された。南側壁下中央、東側壁下および遺構北端に位置する。南側ピットはカマドの推定位置から出入口ピットと考えられる。東側ピットも出入口ピットと考えられるが、そうであれば、建て替えが推定される。遺物は少量である。

1は土師器坏である。口縁から体部下で、丸底と考えられる。扁平な半球形の体部から口縁部が開いて立ち上がり、口縁が小さく外反する。

SI-025 (第68・69図 図版35・79)

東区中央やや南寄りに位置する。主要グリッドは4J-00である。SI-026と重複し、土層断面から本遺構が新しい。東隅が削平されているが、平面形は隅丸のやや横長方形である。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は4基検出された。カマド左側の柱穴に重複があり、建て替えの可能性はある。カマドは北西壁中央やや北寄りで、壁の掘り込みは浅く、火床部は壁際に位置する。遺物は少量で、おもに覆土中から出土している。

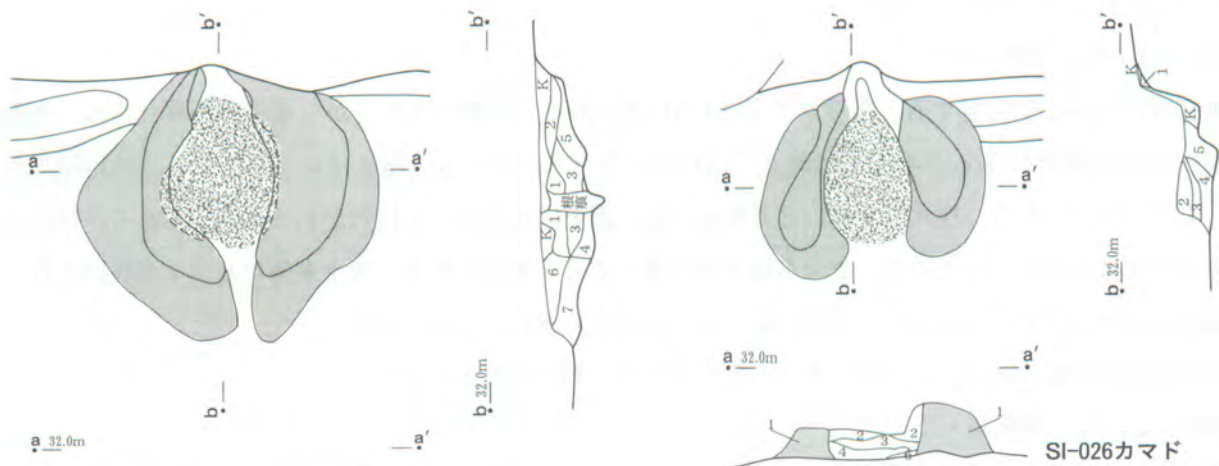
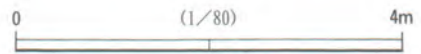
1～5は土師器である。1・2は坏である。1は非ロクロ成形で、口縁から体部である。体部は扁平な半球形と考えられる。口縁部は内彎して広がり、口縁に至る。2はロクロ成形である。平底で、体部がゆるやかに内彎して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。3は小型甕である。口縁から胴部上部で、口縁部がわずかに外反して立ち上がり、口縁に至る。口縁は丸い。4・5は大型甕で、口縁から胴部である。4は、胴部はほぼ球形と考えられ、口縁部が大きく外反し、口縁は受け口状である。5は、胴部は逆玉子形と考えられ、口縁部が外反し、口縁は受け口状である。6は鉄製鎌である。柄装着部で、直刃である。装着の角度は90°よりも大きい。



SI-025・026

- 1. 褐色土 ロームブロック少混, しまりがない
- 2. 暗褐色土 ローム粒多混, しまりがある
- 3. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少混, しまりがある, 粘性がある
- 5. 褐色土 ローム粒混
- 6. 黒色土 ローム粒混, しまりがある
- 7. 褐色土 ローム粒少混
- 8. 暗褐色土 ロームブロック少混
- 9. 褐色土 ローム粒・ロームブロック多混
- 10. 暗褐色土 しまりがない
- 11. 明褐色土 ローム粒混, 粘性がある

- 12. 褐色土 ローム主体, 粘性がある
- 13. 暗褐色土 ロームブロック混, しまりがある



SI-025 カマド

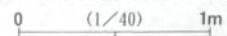
- 1. 暗赤灰褐色土 焼土粒・焼土ブロック・灰白色砂少混, 黒色土極微混
- 2. 暗赤灰褐色土 焼土粒・焼土ブロック少混, 灰白色砂混, 黒色土やや多混
- 3. 暗赤灰褐色土 焼土粒・焼土ブロック・灰白色砂少混, しまりがない
- 4. 暗褐色土 焼土粒少混, 非常にしまりがない
- 5. 暗灰白色土 灰白色砂多混, 焼土粒少混, しまりがある (カマドのソデ)

SI-025カマド

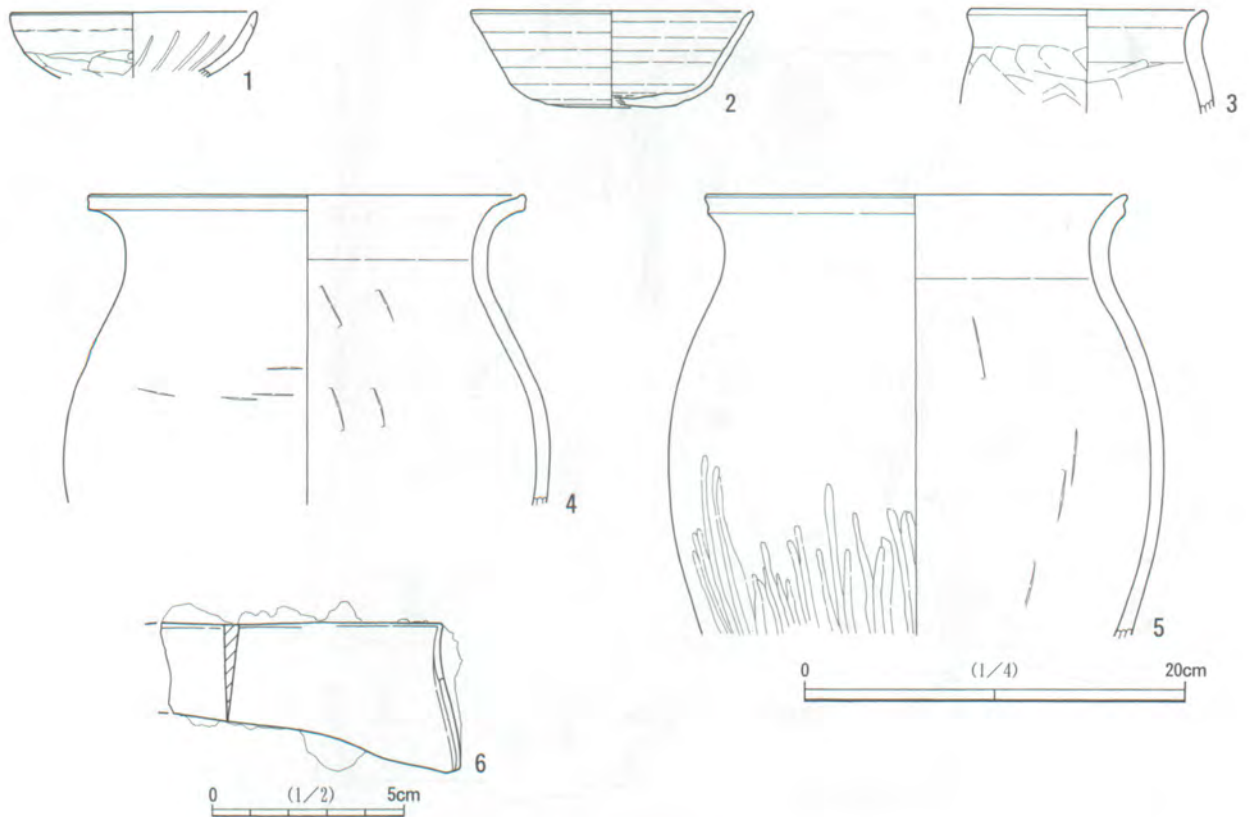
- 6. 灰褐色土 灰白色砂主体, 褐色土少混, しまりがある (カマドのソデ)
- 7. 暗灰褐色土 灰白色砂主体, 褐色土多混 (カマドのソデ)
- 8. 暗赤色土 焼土粒・焼土ブロック主体, しまりがない
- 9. 暗赤色土 焼土化灰白砂主体, しまりがある
- 10. 暗灰褐色土 弱く焼土化

SI-026 カマド

- 1. 明灰褐色土 褐色土多混, 灰白色砂少混, しまりがある
- 2. 灰褐色土 灰白色砂主体, 褐色土少混, しまりがある
- 3. 赤色土 焼土ブロック, 硬化した砂質土
- 4. 黒褐色土 焼土粒・焼土ブロック少混, ややしりがない
- 5. 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化粒少混, ややしりがある
- 6. 暗褐色土 ロームブロック・灰褐色砂少混, しまりがある, 粘性がある



第68図 SI-025・026



第69図 SI-025出土遺物

SI-026 (第68図 図版35)

東区中央やや南寄りに位置する。主要グリッドは4J-00である。SI-025と重複し、土層断面から本遺構が古い。東隅が削平されているが、平面形は隅丸のやや縦長方形である。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は検出されなかった。カマド左側に1基、南西壁際に2基のピットが検出された。カマドは南東壁ほぼ中央で、壁の掘り込みは浅く、火床部は壁際に位置する。遺物はごく少量で、破片のみである。

SI-027 (第70図 図版36)

東区南西端斜面に位置する。主要グリッドは4J-76である。北側のカマドから東半部が攪乱され、南西側約1/3が調査区外である。平面形は隅丸でほぼ正方形と考えられる。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は北側の2基検出され、調査区外部分にも柱穴があると考えられる。柱穴間に焼土の堆積が検出されたので、カマドは北壁の攪乱部分と考えられる。焼土東側にピットが検出され、東側壁の周溝が二重であるので、住居拡張と考えられる。遺物は少量である。

1は須恵器坏蓋である。中央部を欠く。やや平板で、端部にカエリがある。

SI-029 (第71図 図版36・73・74)

東区東寄りに位置する。主要グリッドは3J-36である。北隅がSD-010に攪乱される。全体に削平され、残りは悪い。平面形は隅丸である。覆土はほとんどなく、床面は平坦である。柱穴が4基検出された。カマドは北西壁中央に位置する。壁の掘り込みは浅く、火床部は壁際に位置する。遺物は床面から少量出土している。

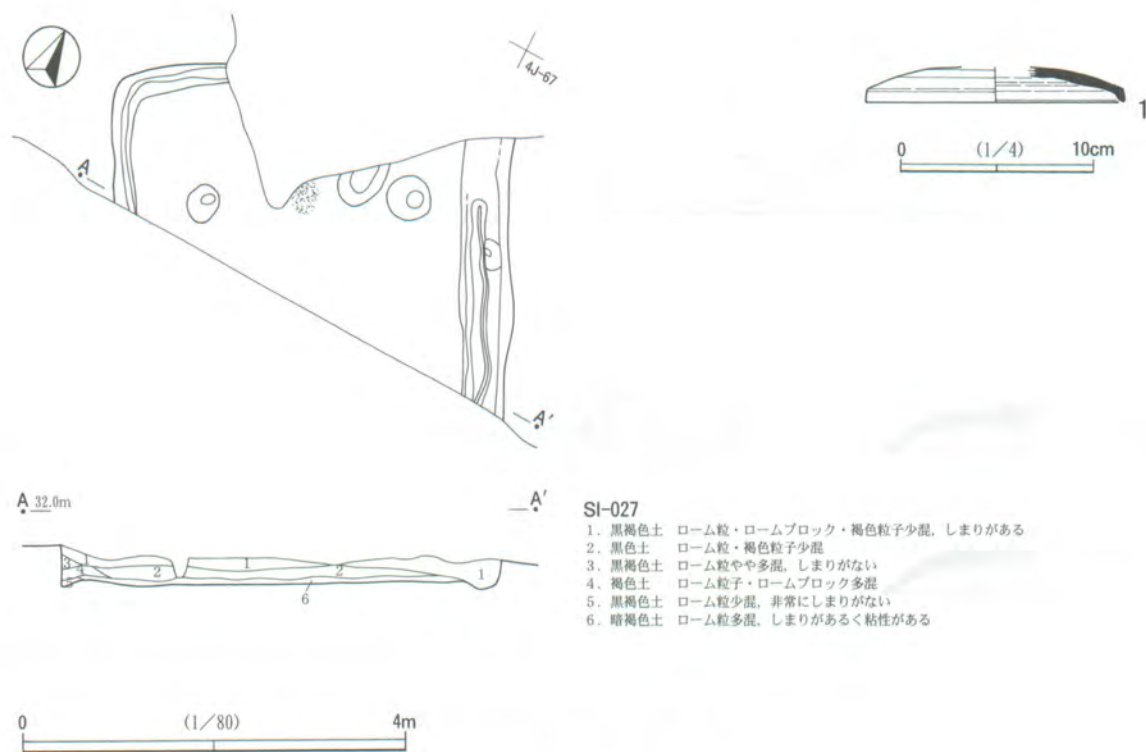
1・2は須恵器坏蓋である。1は、ツマミは非常に扁平な擬宝珠形で、端部が外反し、端部内側にカエリがある。2はツマミを欠く。端部の外反は小さく、端部内側にカエリがある。3～5は土師器である。

3・4は非ロクロ成形の坏である。3は中央部を欠く。丸底で、扁平な半球形の体部から口縁部が外傾して立ち上がり、口縁はわずかに外反する。4は口縁から体部である。体部は半球形と考えられ、口縁部が外傾して立ち上がり、口縁は丸い。5は甕である。口縁から胴部上部で、胴部はやや縦長の球形と考えられる。口縁部は外反し、口縁は受け口状である。

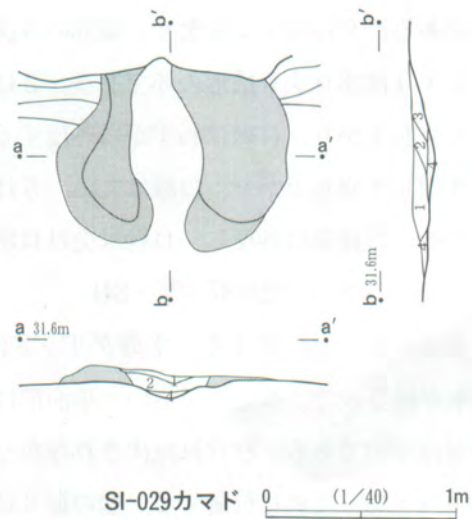
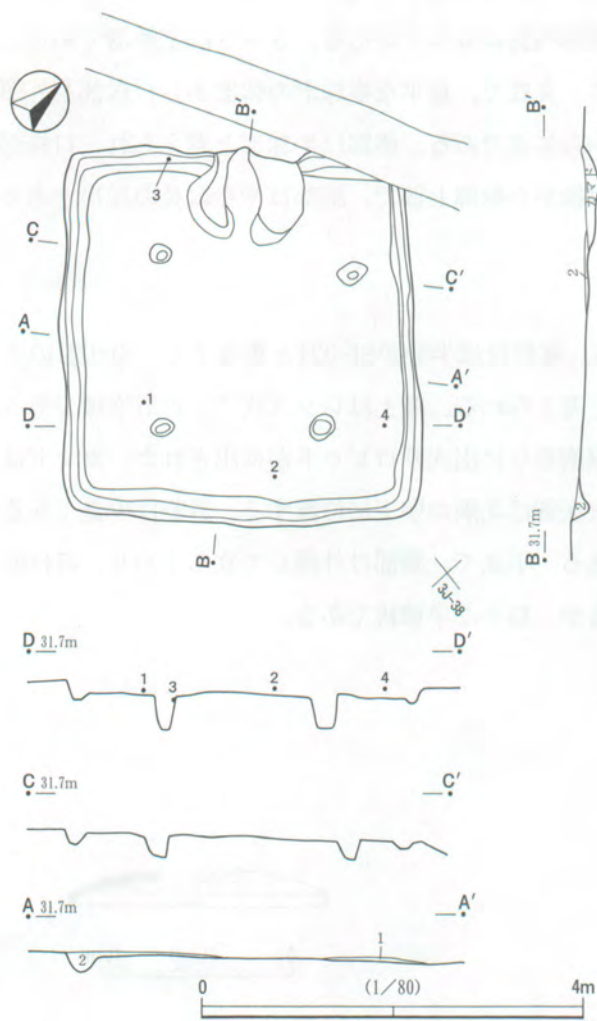
SI-030 (第72図 図版37・74・84)

東区南東端に位置する。主要グリッドは4J-61である。東側ほぼ半分がSI-021と重複する。SI-021のカマドが残るので、本遺構が古い。平面形は隅丸正方形と考えられる。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は検出されなかった。南西壁際南寄りに出入り口ピットが検出された。カマドは隅カマドで、北隅に位置する。壁の掘り込みは浅く、火床部は北隅の壁下に位置する。遺物は少量である。

1は土師器甕である。大型で、胴部下部から底部である。平底で、胴部は外傾して立ち上がり、ほぼ直線的である。2～4はスラグである。やや不定形であるが、扁平な半球状である。



第70図 SI-027・出土遺物

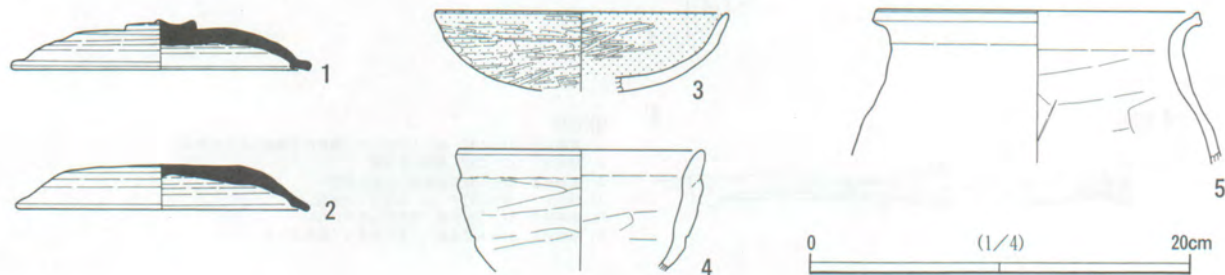


SI-029

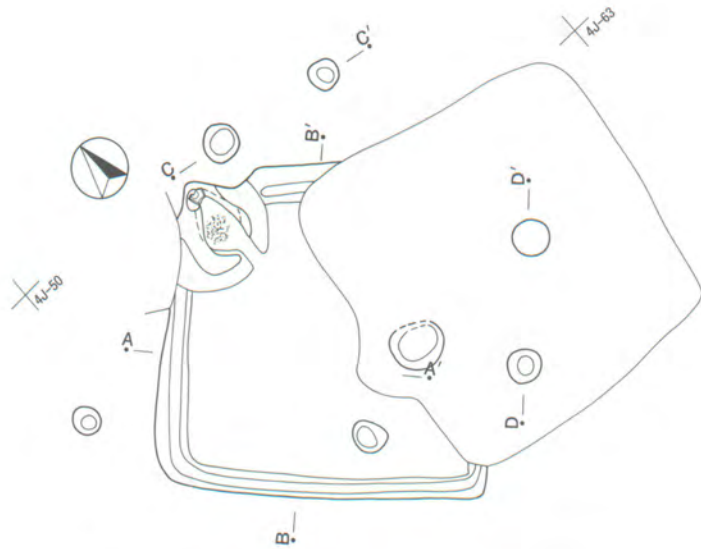
- 1. SD-004 覆土
- 2. 暗褐色土 褐色土主体，ローム粒少混，しまりがある

SI-029 カマド

- 1. 黒色土 焼土粒少混
- 2. 暗赤色土 焼土主体，黒色土少混，ややしまりがない
- 3. 黒色土 焼土粒やや多混
- 4. 赤褐色土 火床面，ロームの被熱硬化面，しまりがない

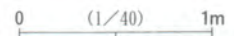
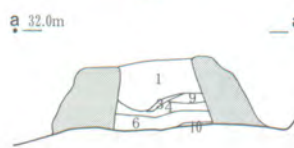
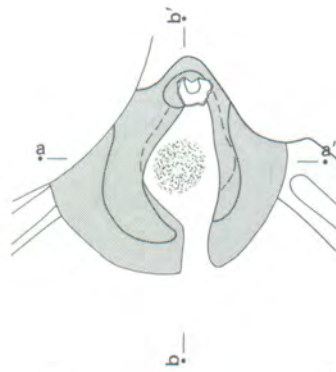
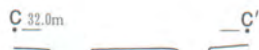
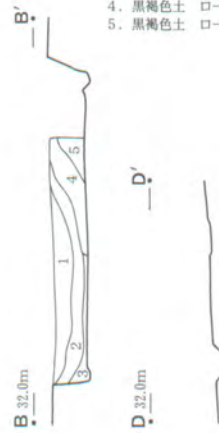


第71図 SI-029・出土遺物



SI-030

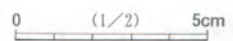
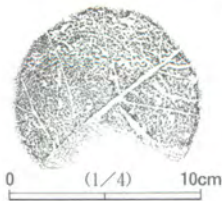
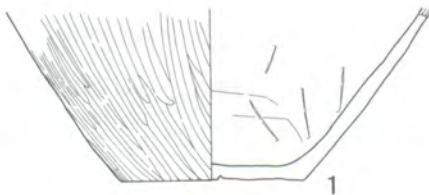
1. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがある
2. 黒褐色土 ローム粒やや多混
3. 褐色土 ローム粒多混, ややしまりがない
4. 黒褐色土 ローム粒極微混, しまりがない
5. 黒褐色土 ローム粒・灰白色砂ブロック少混, ややしまりがない



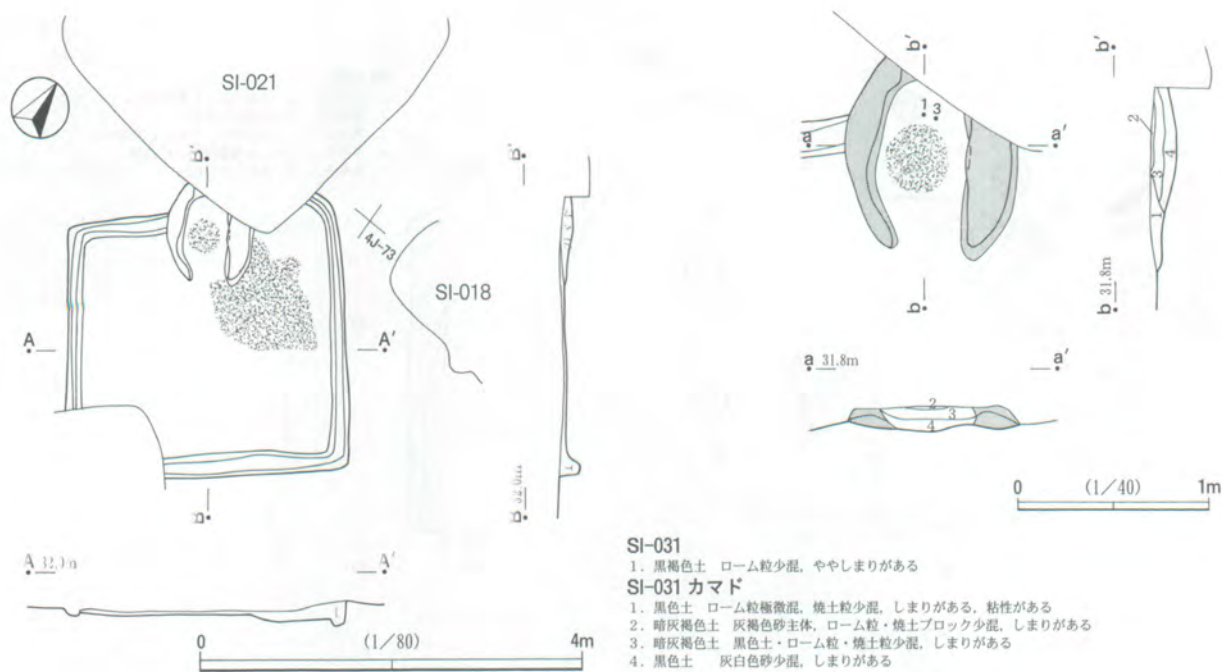
SI-030 カマド

1. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少混, しまりがある
2. 灰赤色土 灰白砂の被熱赤化
3. 暗灰褐色土 灰白砂主体, ローム粒・焼土ブロック少混
4. 暗灰赤褐色土 3の塊土化
5. 暗赤褐色土 焼土ブロック・灰白砂少混 ややしまりがない
6. 暗褐色土 灰白砂少混
7. 暗褐色土 焼土ブロック微混・灰白砂少混
8. 褐色土 ロームブロック主体
9. 暗灰赤色土 灰白砂主体, しまりがある
10. 灰褐色土 灰白砂主体, しまりがある

SI-030カマド



第72図 SI-030・出土遺物



SI-031
1. 黒褐色土 ローム粒少混、ややしまりがある

SI-031 カマド

1. 黒色土 ローム粒極微混、焼土粒少混、しまりがある、粘性がある
2. 暗灰褐色土 灰褐色砂主体、ローム粒・焼土ブロック少混、しまりがある
3. 暗灰褐色土 黒色土・ローム粒・焼土粒少混、しまりがある
4. 黒色土 灰白色砂少混、しまりがある



第73図 SI-031・出土遺物

SI-031 (第73図 図版37)

東区南東端に位置する。主要グリッドは4J-82である。カマドと北隅の一部がSI-021と重複し、南隅が削平されて、消滅している。全体に削平され、残りは悪い。カマドが壊されているので、本遺構が古い。平面形は隅丸でやや横長方形である。覆土は床直上だけが残り、床面は平坦である。柱穴は検出されなかった。カマド前、床面北部に焼土が堆積していた。カマドは北西壁中央に位置する。壁の掘り込みはやや深く、火床部は壁下に位置する。遺物は床面から少量出土している。

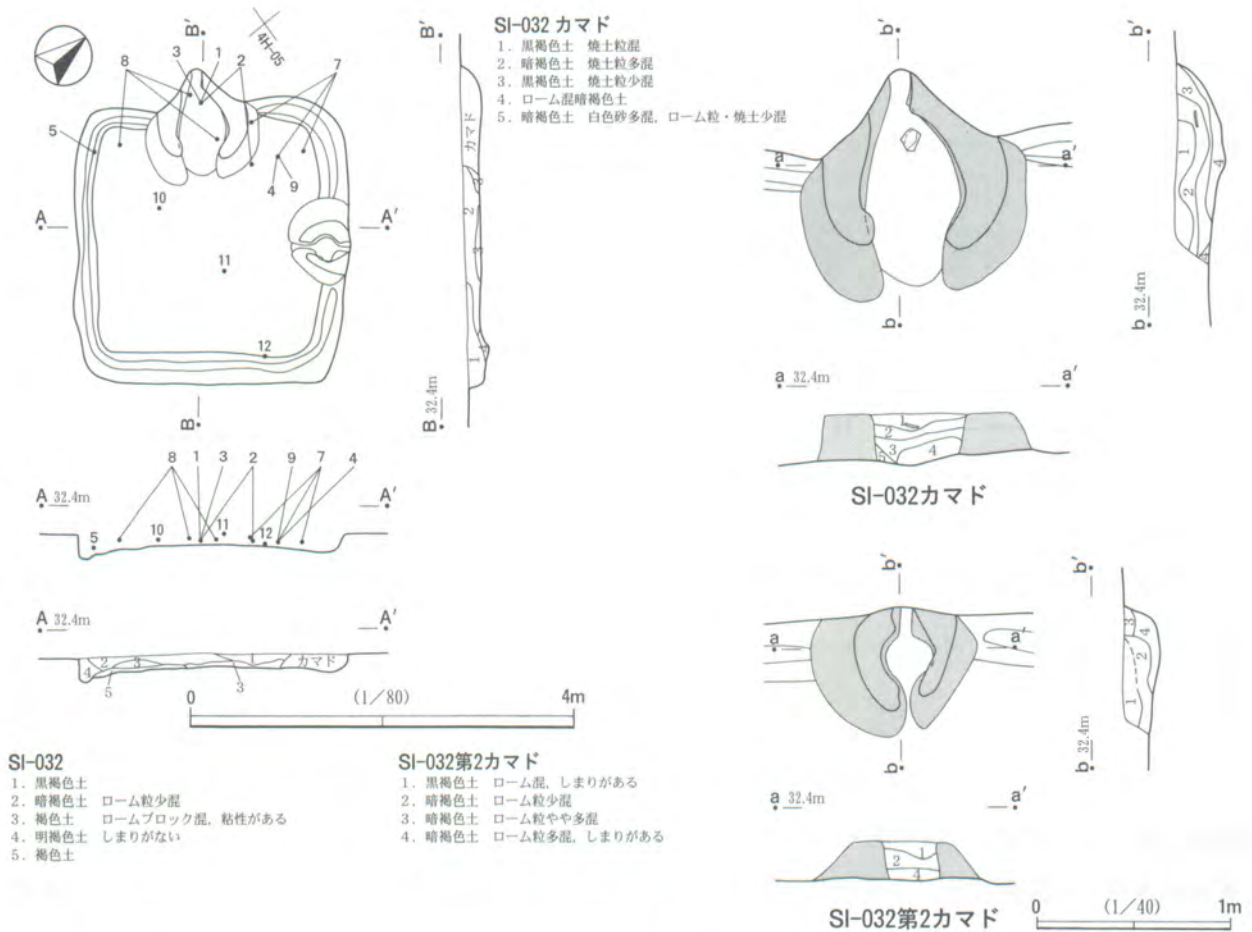
1～3は土師器である。1はロクロ成形の坏である。口縁から体部で、体部はゆるやかに内彎し、口縁はわずかに外反する。2・3は甕である。2は口縁部である。外傾して広がる口縁部から口縁が外反し、折り返し口縁である。3は胴部下部から底部である。平底で、胴部が外傾して立ち上がり、ゆるやかに内彎する。

SI-032 (第74・75図 図版38・74・79)

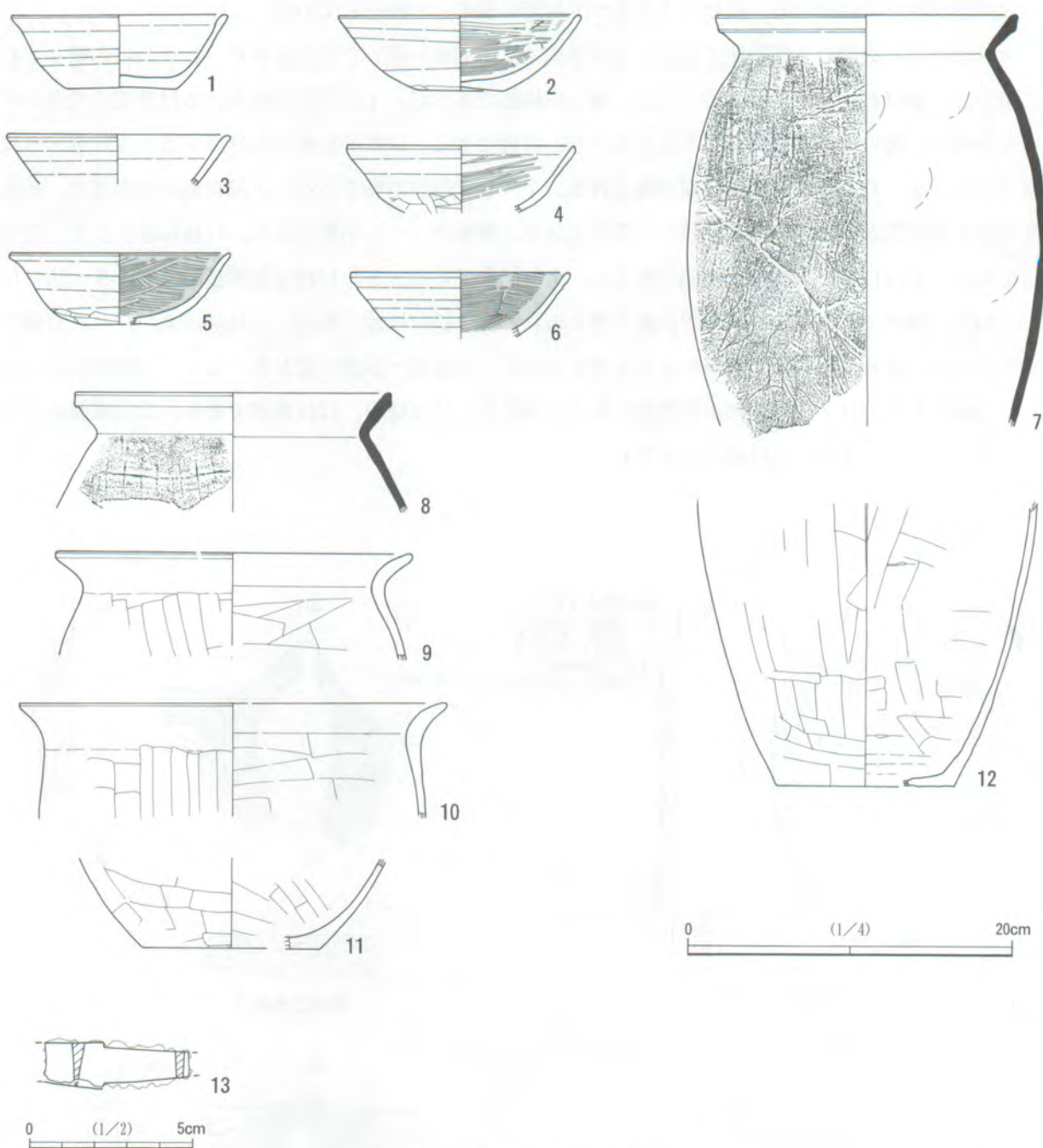
東区西寄りに位置する。主要グリッドは4H-05である。平面形は隅丸正方形である。覆土は土層から自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は検出されなかった。カマドは2基検出された。北西壁中央と北東壁中央に位置する。遺物の出土状況から北西壁カマドが新しいと考えられる。北西壁カマドは、壁の掘り込みはやや深く、火床部は壁下に位置する。北東壁カマドはやや小さく、壁の掘り込みはほとんどない

が、火床部は壁下に位置する。遺物は北西カマド付近に集中して出土している。

1～6はロクロ成形の土師器坏である。1は平底で、体部が外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。口縁はわずかに外反する。3は口縁から体部であるが、1と同型である。2は底部中央がわずかに上げ底で、薄い。体部は内彎して立ち上がり、口縁に至る。口縁はわずかに外反する。4・5・6は同型である。5・6は内面に黒色処理が施される。7・8は須恵器甕である。7は口縁から胴部で、長胴で丸みのある胴部から、口縁部が外傾して立ち上がり、断面が「く」字状である。口縁は厚くなり、受け口状である。8は口縁から胴部上端部であるが、7と同型である。9～12は土師器甕である。9・10は口縁から胴部上端部である。胴部はやや長胴と考えられる。口縁部は短く外反し、口縁は丸い。9は口縁部と胴部の境はしまりが弱く、深鉢形になると考えられる。口縁部と胴部の境が厚くなる。口縁部は短く外反し、口縁は丸い。11・12は胴部から底部である。平底で、11は球形、12は長胴である。13は鉄製品である。刀子で、刃部と茎部の境は両マチである。



第74図 SI-032

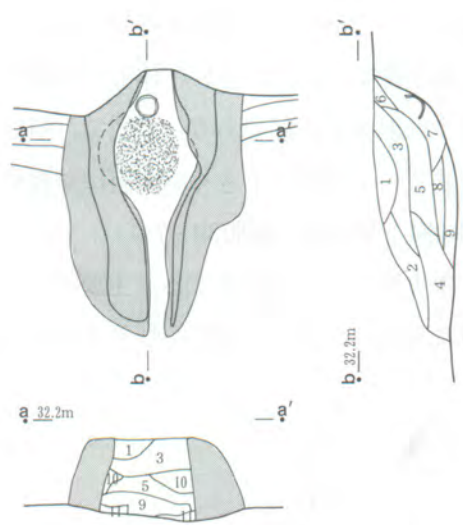
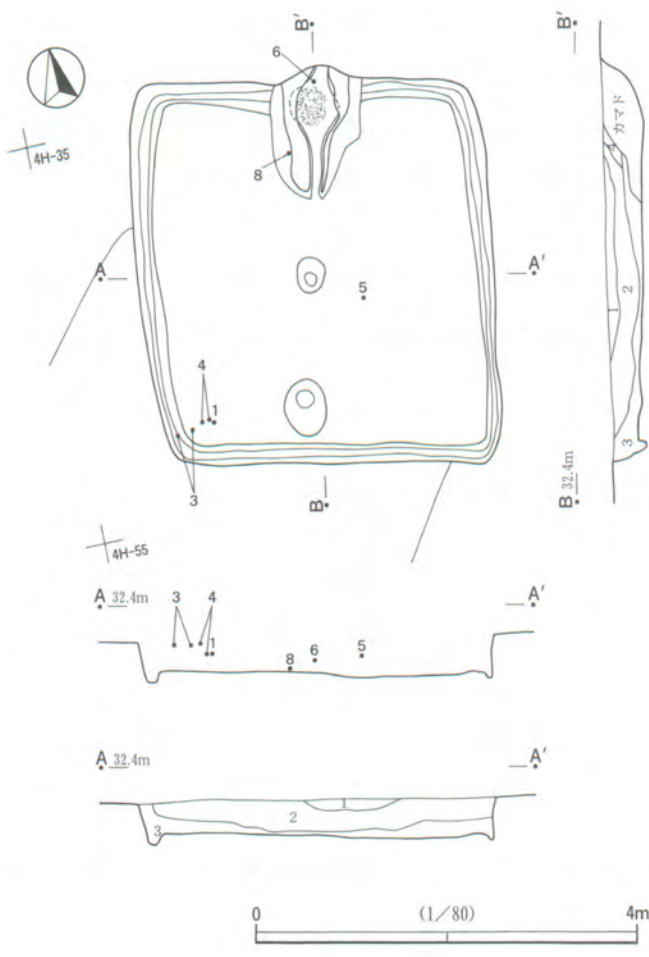


第75図 SI-032出土遺物

SI-033 (第76図 図版39・74・78・79)

東区南西寄りに位置する。主要グリッドは4H-36である。SI-011と重複するが、残りの状況から本遺構が新しい。平面形は隅丸の縦長方形である。覆土は土層から自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は検出されなかった。カマド対面壁際中央に出入り口ピット、床面中央にピットが検出された。カマドは北壁中央に位置する。壁の掘り込みは浅く、火床部は壁下に位置する。袖部が住居内に長く延びる。遺物は少量で、覆土中の出土が多いが、カマド内から完形土器が出土している。

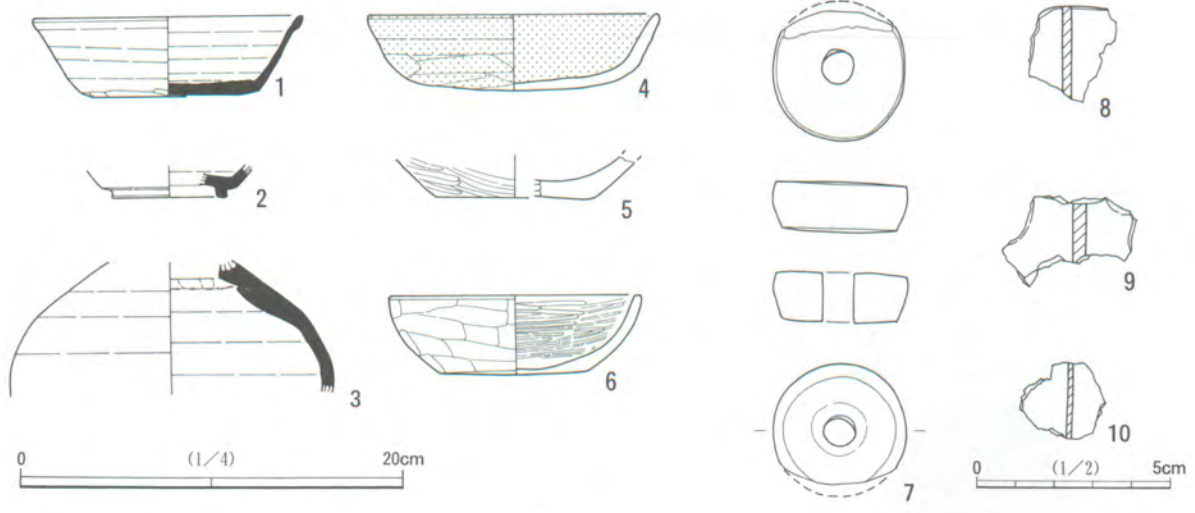
1～3は須恵器である。1はロクロ成形の坏である。平底で、体部が外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。2は高台付坏である。体部下から底部で、底部中央を欠く。断面



SI-033カマド 0 (1/40) 1m

- SI-033 カマド
1. 黒色土 ロームブロック少混
 2. 灰褐色土 灰褐色砂主体, 黒色土微混, しまりがある
 3. 黒灰褐色土 黒色土主体, ローム粒・焼土粒・ロームブロック少混
 4. 黒灰褐色土 ローム粒やや多混
 5. 暗赤色土 黒色土主体, 灰褐色砂少混, 被熱赤化
 6. 黒色土 灰褐色砂微混
 7. 黒色土 ローム粒を斑状に混, 被熱やや赤化
 8. 赤色土 焼土ブロック多混, 黒色土少混(支脚)
 9. 赤色土 焼土ブロック主体
 10. 灰褐色土 灰褐色砂主体, 被熱赤化, しまりがある
 11. 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック少混, しまりがある

- SI-033
1. 暗褐色土 ローム粒少混
 2. 褐色土 ローム粒やや多混, ロームブロック少混
 3. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがある, 粘性がある
 4. 暗褐色土 山砂粒多混

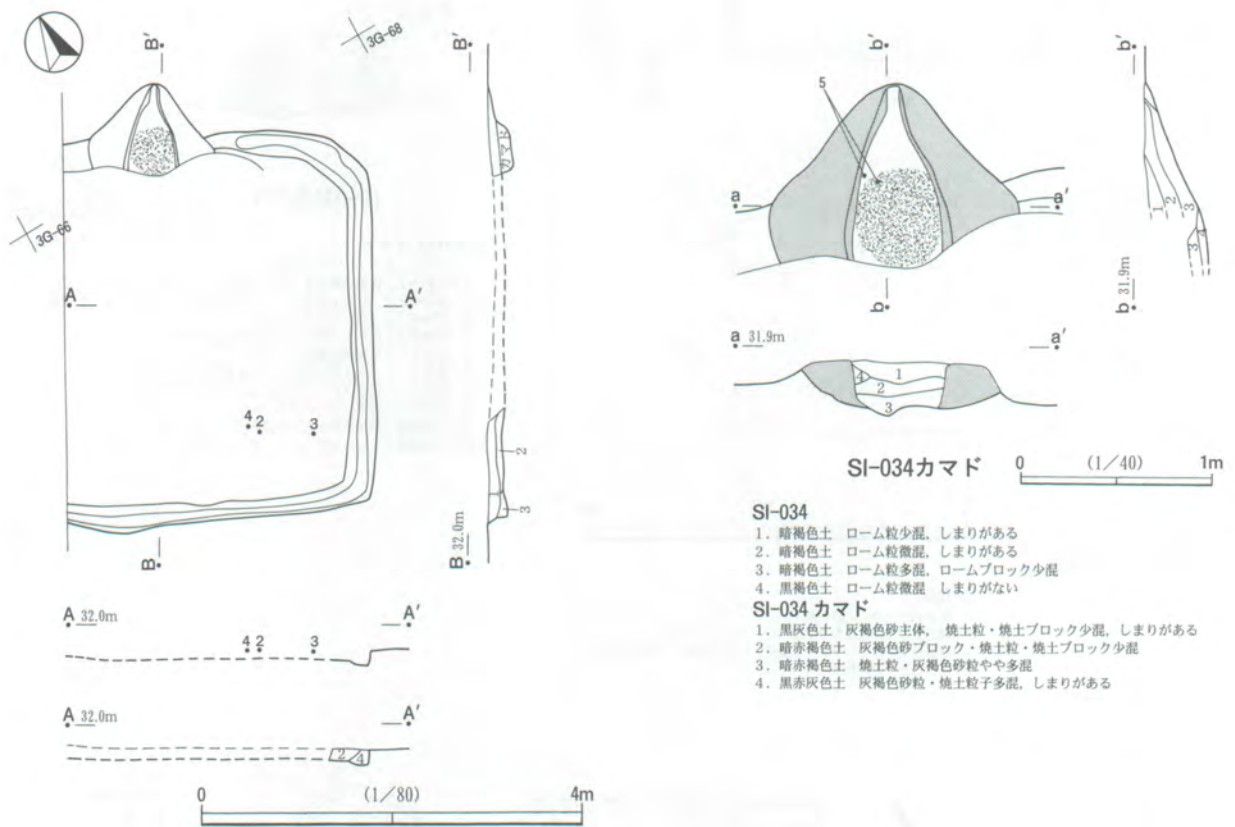


第76図 SI-033・出土遺物

四角形の高台がほぼ垂直に付く。3は壺である。胴部上半部で、胴部は球形と考えられる。口縁部との接続部分から、長頸壺と考えられる。4～6は土師器である。4・6は非ロクロ成形の坏である。4はやや丸みのある平底で、体部は外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。口縁はわずかに外反する。6は平底で、中央が薄い。体部は外傾して立ち上がり、ゆるやかに内彎して口縁に至る。口縁は丸い。5は土師器甕の底部である。平底で、胴部は外傾して大きく広がる。7は石製紡錘車である。厚みがある円板状で、下面径が小さく、断面は逆台形である。8～10は鉄製品である。薄い板状で、同一と考えられる。

SI-034 (第77図 図版39・74)

中央区東寄りに位置する。主要グリッドは3G-66である。西側ほぼ半分が調査区外である。床面中央に攪乱を受け、カマド袖部が削平されている。全体に削平され、残りは悪い。平面形は隅丸正方形と考えら

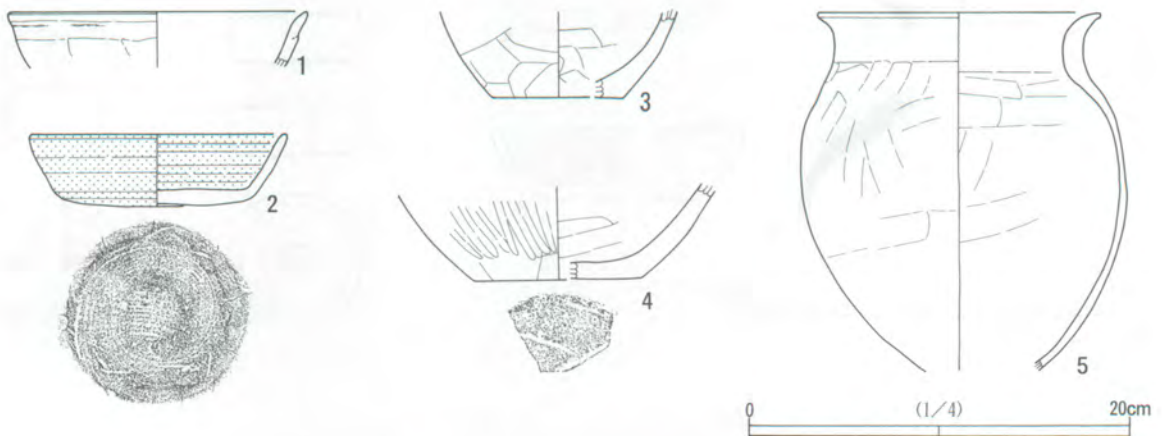


SI-034

1. 暗褐色土 ローム粒少混、しまりがある
2. 暗褐色土 ローム粒微混、しまりがある
3. 暗褐色土 ローム粒多混、ロームブロック少混
4. 黒褐色土 ローム粒微混、しまりがない

SI-034 カマド

1. 黒灰色土 灰褐色砂主体、焼土粒・焼土ブロック少混、しまりがある
2. 暗赤褐色土 灰褐色砂ブロック・焼土粒・焼土ブロック少混
3. 暗赤褐色土 焼土粒・灰褐色砂粒やや多混
4. 黒赤灰色土 灰褐色砂粒・焼土粒子多混、しまりがある



第77図 SI-034・出土遺物

れる。覆土は、土層から自然堆積である。残存の床面は平坦である。柱穴は検出されなかった。カマドは北壁中央に位置すると考えられる。壁の掘り込みはやや深く、火床部は壁内まで広がる。遺物は少量で、床面とカマド内から出土している。

1～5は土師器である。1は非ロクロ成形の坏である。口縁部で、口縁がわずかに外反する。2はロクロ成形の坏である。底部は中央部がわずかに上げ底で、体部が外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。内外全面に赤彩が施される。3～5は甕である。3は小型で、胴部下部から底部である。底部中央部を欠く。平底で、胴部はやや縦長の球形と考えられる。4は大型である。胴部下部から底部である。底部中央部を欠く。平底で、胴部はやや縦長の球形と考えられる。底部に木葉痕がある。5は底部を欠く。胴部の形から底部の径はかなり小さいと考えられる。胴部は逆玉子形で、器壁は薄い。口縁部は外反し、口縁はやや尖る。

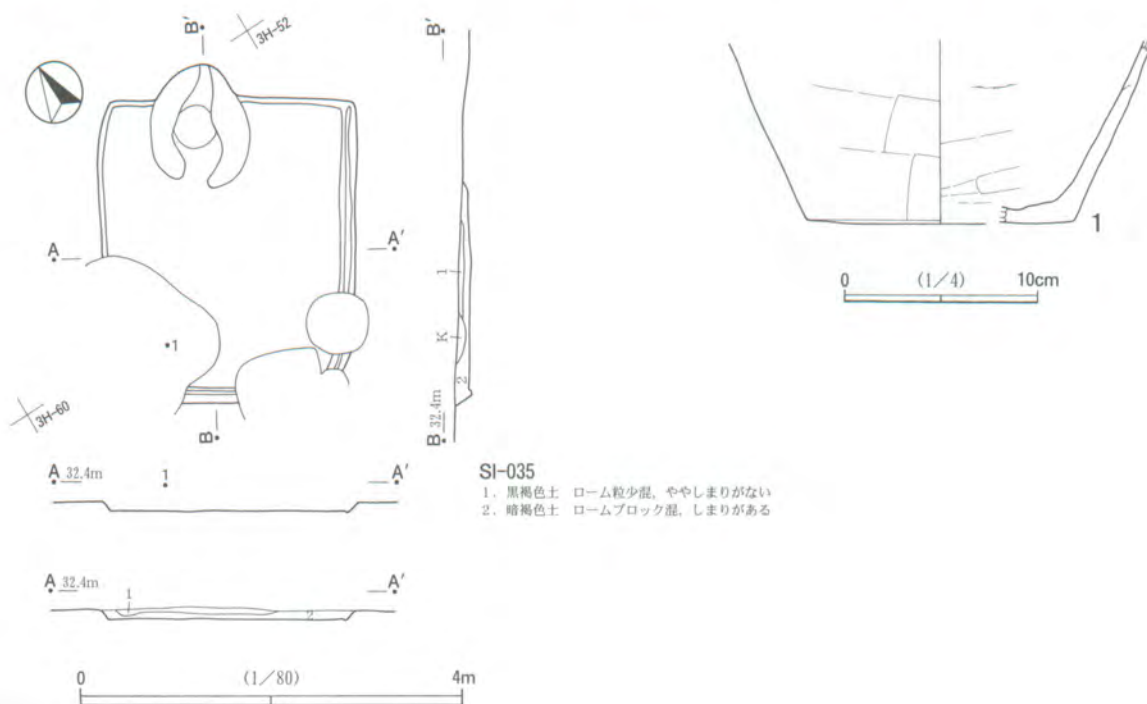
SI-035 (第78図 図版38)

東区西端に位置する。主要グリッドは3H-51である。南側がSB-007・008と重複するが、残りの状況から本遺構が古い。全体に削平され、残りは悪い。平面形は縦長方形である。覆土は、土層から自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は検出されなかった。カマド対面壁際中央に出入りロピット、床面中央にピットが検出された。カマドは北東壁中央北西よりに位置する。壁の掘り込みはやや深い、火床部は壁下に位置する。袖部が住居内に長く伸びる。遺物は少量である。

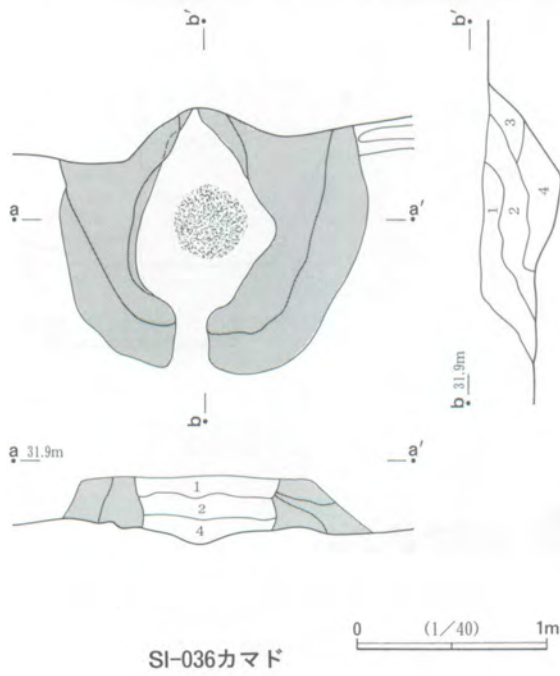
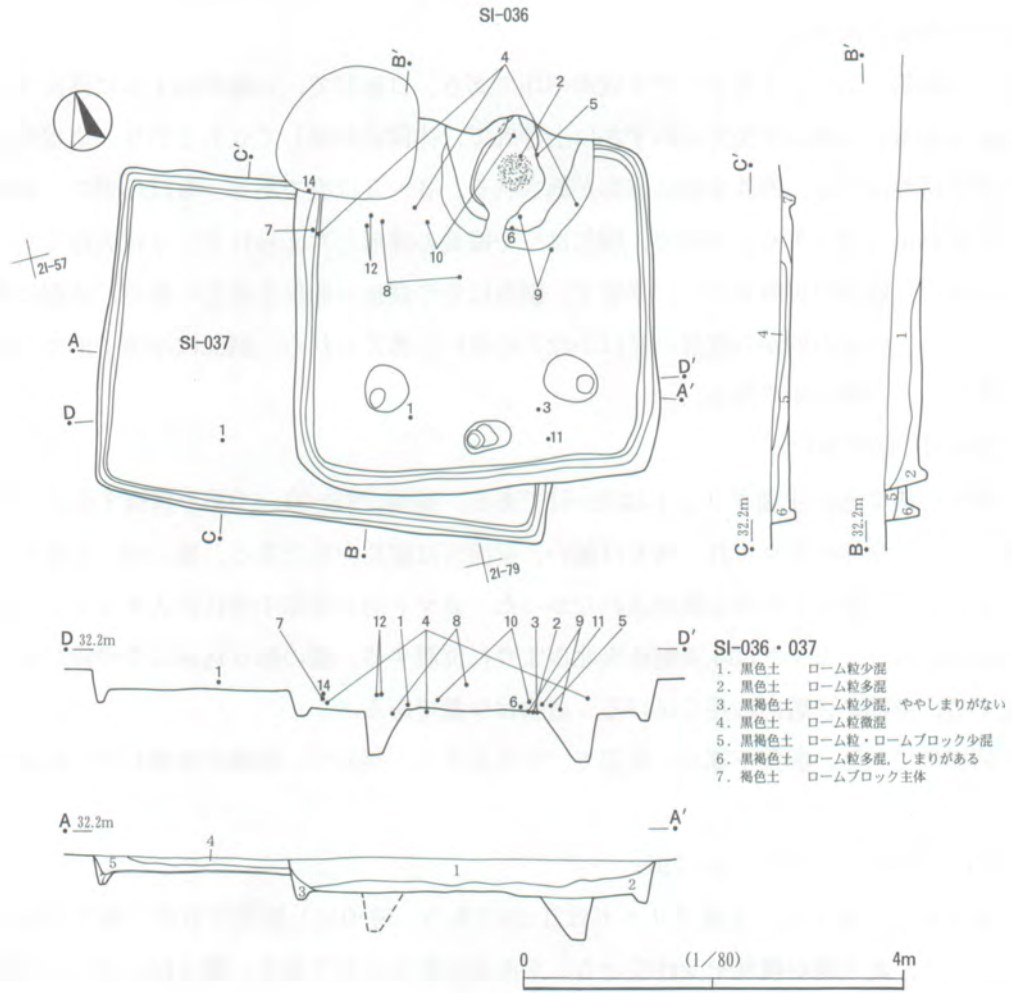
1は土師器甕である。胴部下部から底部で、中央を欠く。平底で、胴部が外傾して、直線的に立ち上がる。

SI-036 (第79・80図 図版40・74・79)

東区中央北端に位置する。主要グリッドは2I-59である。SI-037と重複するが、残りの状況から本遺構が新しい。また、北西隅が攪乱を受けている。平面形は縦長方形である。覆土は、残りの土層から自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は南側床面に2基検出された。カマド対面壁際中央に出入りロピット



第78図 SI-035・出土遺物



第79図 SI-036・037

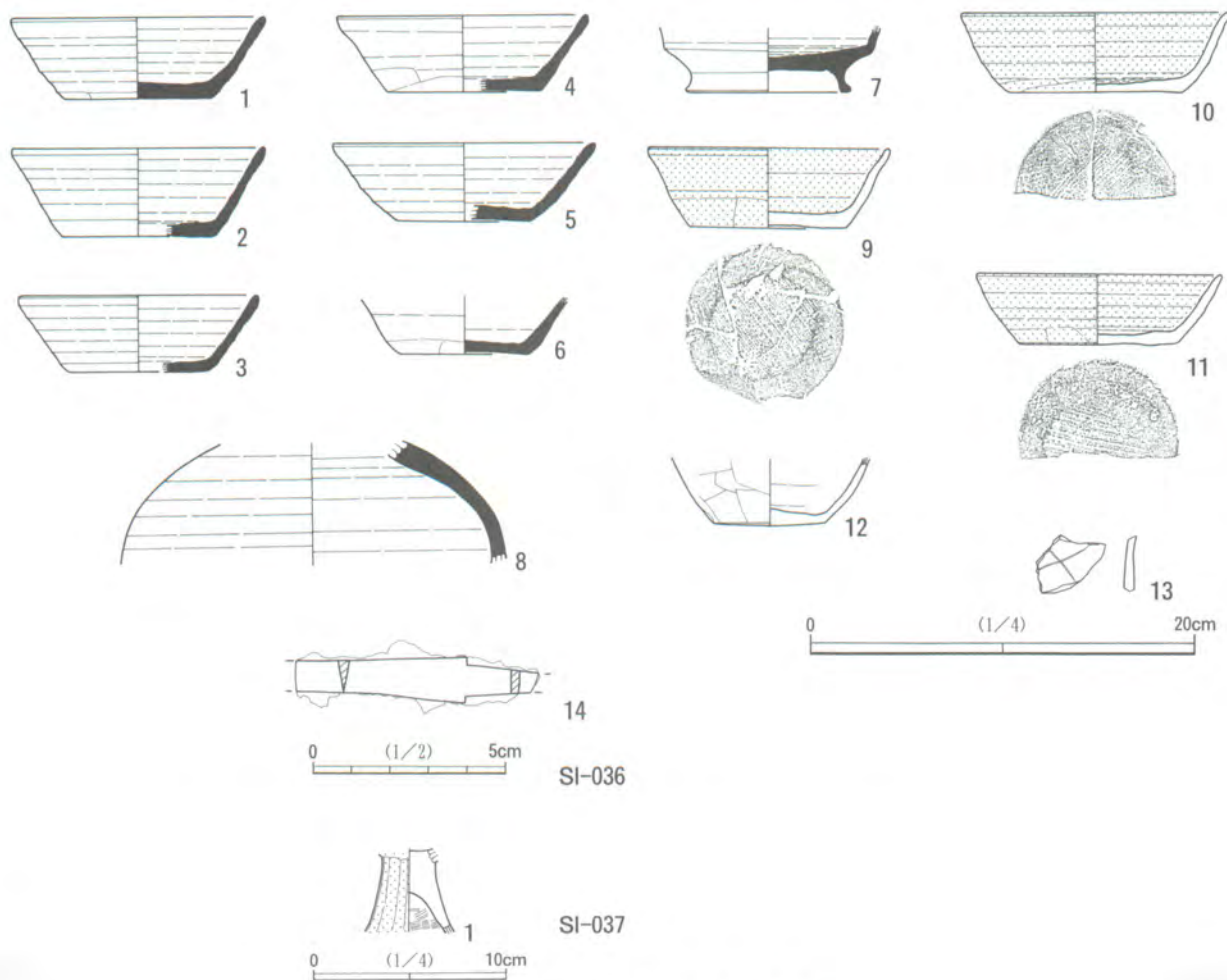
が検出された。カマドは北壁中央東よりに位置する。壁の掘り込みは浅く、火床部は床面に位置する。袖部が住居内に長く延びる。遺物は多く、床面およびカマド周辺から出土している。

1～8は須恵器である。1～6はロクロ成形の坏である。1は平底で、体部が外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁は尖り気味である。2～4は1と同型と考えられるが、4の口縁は丸みがある。5は底部中央を欠く。わずかに上げ底で、体部が外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。口縁は外反する。6は体部から底部であるが、1と同型と考えられる。7は高台付坏である。体部下部から底部で、体部は外傾して直線的に立ち上がり、高台は端部が丸く、断面はハ字状に広がる。8は壺の胴部上半部である。胴部は球形と考えられる。

9～13は土師器である。9～11はロクロ成形の坏である。底部中央がわずかに上げ底で、体部が外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。口縁はわずかに外反する。内外面に赤彩が施される。12は小型甕である。胴部下部から底部である。やや丸みがある底部で、胴部はやや縦長の球形と考えられる。13は坏底部片である。線刻「×」が施される。14は鉄製刀子である。刃部の基部側半分と茎部で、両マチである。

SI-037 (第79・80図 図版40・74)

東区北西端に位置する。主要グリッドは2I-58である。SI-036と重複する。カマドおよびほぼ東半部が重複で削平され、残りは悪い。平面形は横長方形である。覆土は、自然堆積と考えられる。床面は平坦である。カマドは、北壁と考えられる。柱穴、ピットは検出されなかった。遺物は少量である。



第80図 SI-036・037出土遺物

1は土師器高坏の脚部である。截頭円錐形状で下半部を欠損する。外面に赤彩が施される。

SI-038 (第81図 図版40・74・75)

東区中央北寄りに位置する。主要グリッドは2I-99である。平面形は隅丸正方形である。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は4基検出され、カマド側の2基は壁寄りに位置する。カマド対面壁際中央に出入りロピットが検出された。カマドは西壁中央に位置する。壁の掘り込みは浅く、火床部は壁下に位置するが、袖部は短い。遺物は少量で、床面から出土している。

1～2はロクロ成形の須恵器坏である。1は底部中央がごくわずかに上げ底で、体部が外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。底部内面に線刻「×」、底部外面に線刻「キ」、体部外面に線刻「リ」が施される。2は口縁から体部であるが、1と同型である。3～7は土師器である。3・5はロクロ成形、4は非ロクロ成形の坏である。3は底部中央がわずかに上げ底で、体部がゆるやかに内彎して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。底部内面に墨書「カ」、線刻「×」、底部外面に墨書「カ」が施される。4は平底で、中央を欠く。体部がゆるやかに内彎して立ち上がり、口縁に至る。口縁はわずかに外反する。破片で形は不明であるが、底部内面に線刻が施される。5は底部中央がわずかに上げ底で、体部がゆるやかに内彎して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。3よりも高さがある。体部外面に墨書「山」が施される。6は高台付皿と考えられる。高台は端部がやや尖り、断面がハ字状に開く。7は小型甕である。口縁から胴部上端部で、胴部はやや縦長の球形と考えられる。口縁部が短く外反し、口縁は受け口状である。

SI-039 (第82図 図版41・75)

東区北西端に位置する。主要グリッドは2H-70である。西側ほぼ半分が調査区外である。平面形は隅丸の縦長方形と考えられる。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は床面東側に2基検出された。西側にも所在すると考えられる。東側柱穴間にピットが3基検出された。床面南側に焼土の堆積が検出された。カマドは北壁中央東寄りに位置すると考えられる。壁の掘り込みはやや深く、火床部は壁下に位置する。遺物は少量で、床面から出土している。

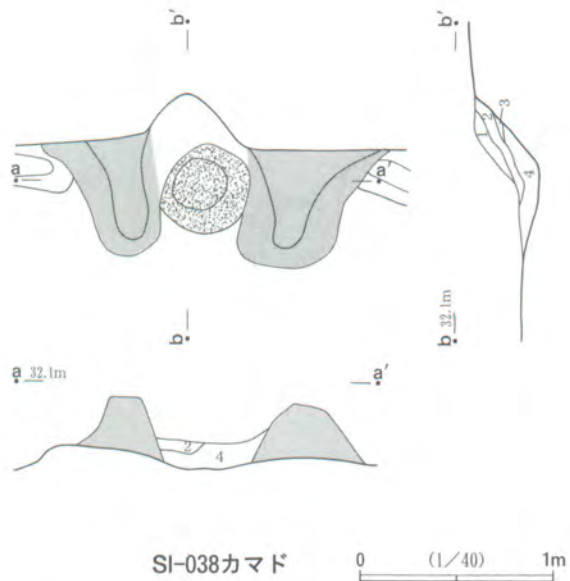
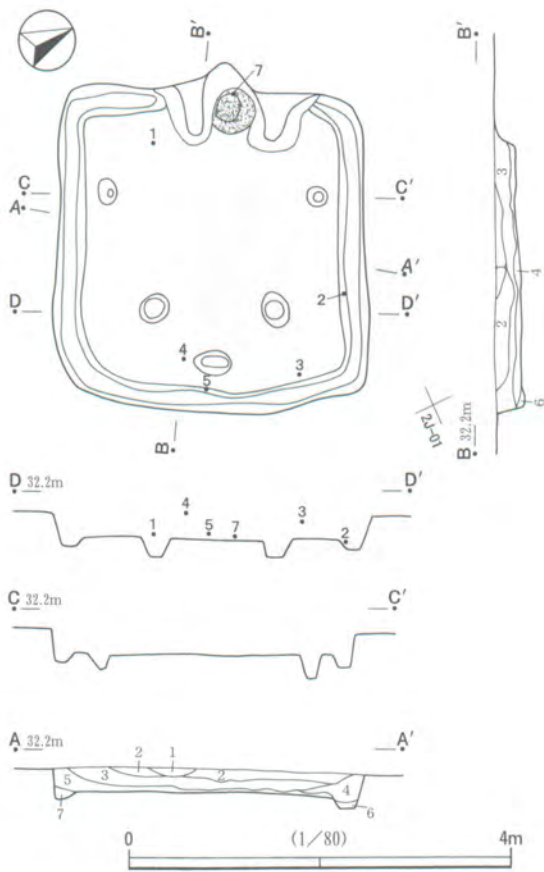
1は土師器甕である。大型で、胴部下から底部である。平底で、胴部はやや縦長の球形と考えられる。

SI-041 (第83・84図 図版42・75・79)

東区中央北寄りに位置する。主要グリッドは3J-01である。全体に削平され、東側壁が消滅している。平面形は縦長方形である。覆土は、残りの土層から自然堆積と考えられる。床面は平坦である。柱穴は4基検出された。カマドは西壁中央に位置する。壁の掘り込みは浅く、火床部は床面に位置する。袖部が住居内に長く延びる。遺物は多く、床面およびカマド周辺から出土している。

1・2はロクロ成形の須恵器坏である。1はわずかに丸みがある底部で、体部が外傾して立ち上がり、ゆるやかに外反して、口縁に至る。2は底部中央を欠くが、1と同型である。3～7は土師器である。3・4は非ロクロ成形の坏である。3は口縁から体部で、扁平な球形の体部から口縁部が短く立ち上がる。4は丸底で、扁平な半球形の体部から口縁部が短く外反する。5は鉢である。丸底で、半球形の胴部から口縁部が外反する。6は小型甕である。口縁から胴部上端部である。胴部はやや縦長の球形と考えられる。口縁部が外傾して立ち上がり、口縁は受け口状である。7は甕の底部でわずかに上げ底である。8は鉄製品である。棒状の先端部で、彎曲しているが、断面四角形から釘と考えられる。

SI-042 (第85図 図版41・75)

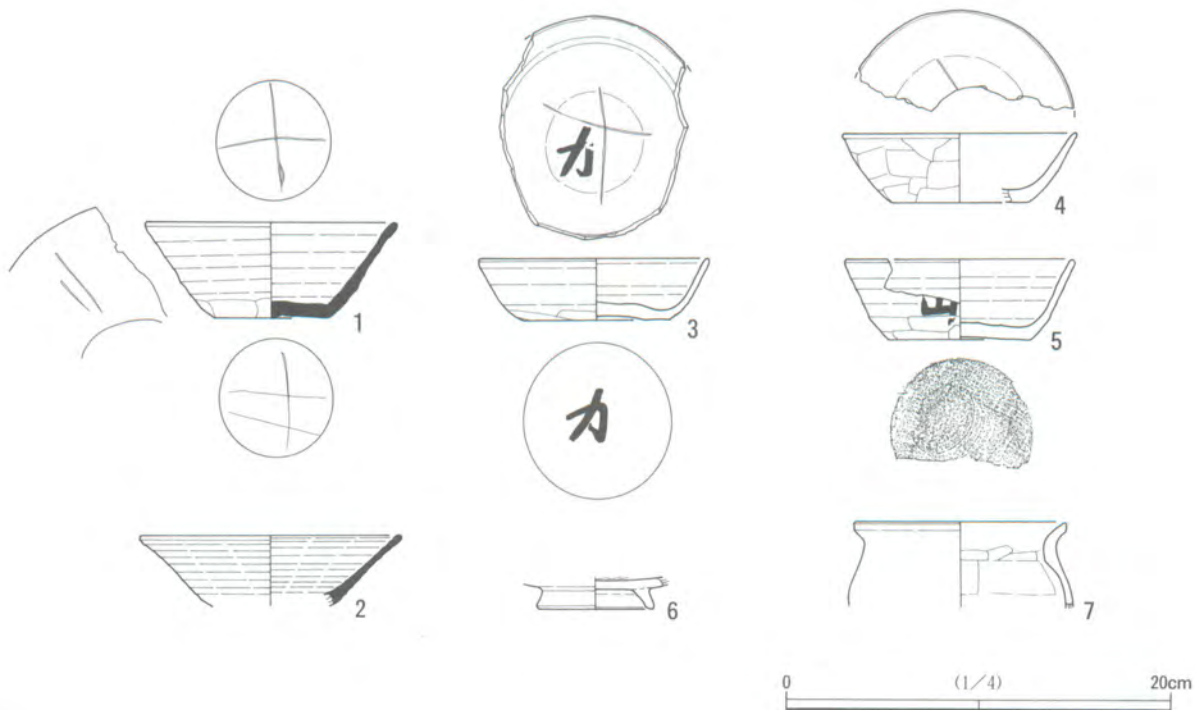


SI-038 カマド

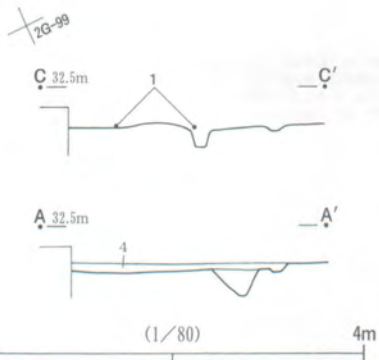
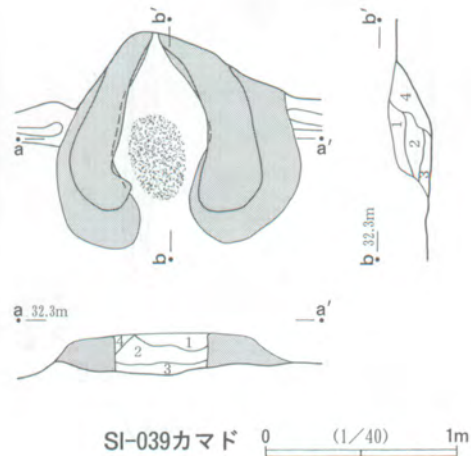
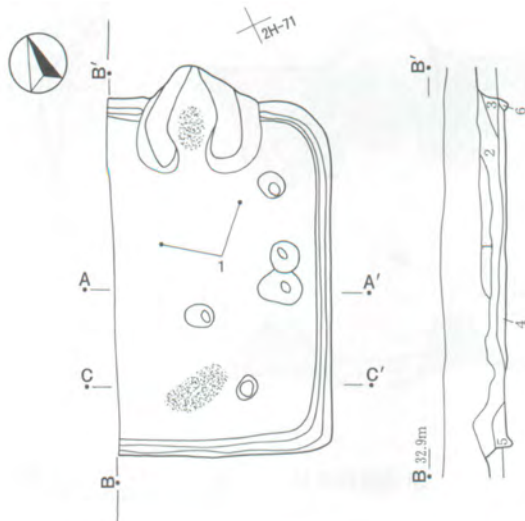
- 1. 黒色土 灰白色砂粒・焼土粒微混、しまりがある
- 2. 黒色土 灰白色砂粒極微量、焼土粒少混、ややしまりがない
- 3. 黒褐色土 ローム粒少混、ややしまりがある
- 4. 黒色土 焼土粒少混、ややしまりがない

SI-038

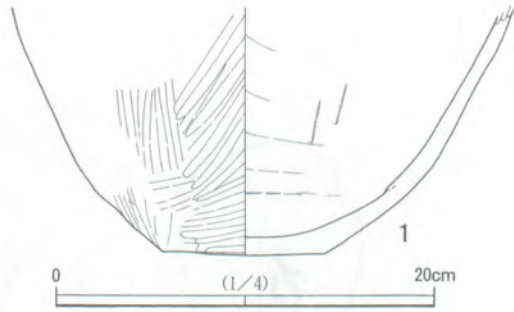
- 1. 黒色土 非常にしまりがある
- 2. 黒褐色土 ローム粒少混、しまりがない
- 3. 暗褐色土 しまりがある
- 4. 黒褐色土 ローム粒多混、しまりがない
- 5. 褐色土 ローム多混、しまりがある、粘性がある
- 6. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多混、しまりがない
- 7. 黒褐色土 ローム粒混、しまりがある、粘性がある



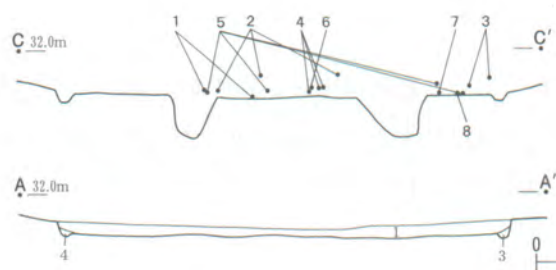
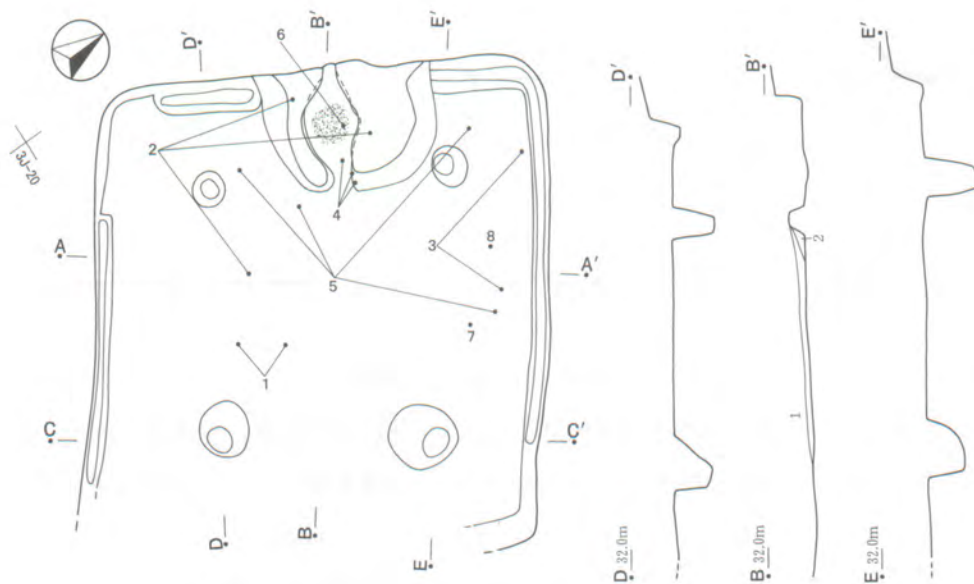
第81図 SI-038・出土遺物



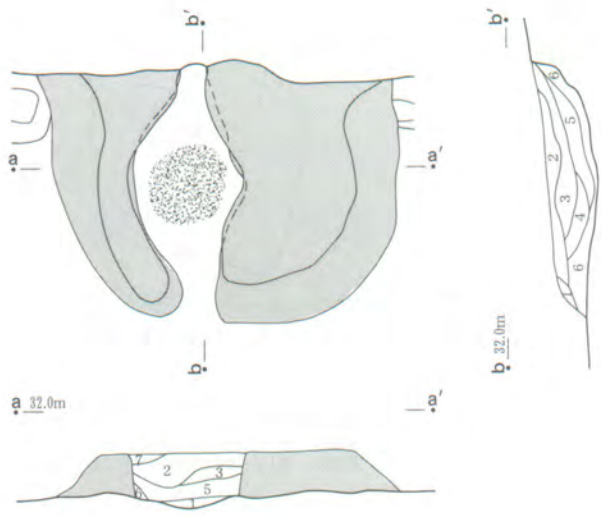
- SI-039**
- 1. 黒色土 ローム粒少混, しまりがある
 - 2. 黒色土 炭化粒多混
 - 4. 黒色土 ローム粒少混
 - 3. 黒色土
 - 5. 黒褐色土 ローム粒混
 - 6. 黒褐色土 ややしまりがない
- SI-039 カマド**
- 1. 黒灰色土 灰褐色砂主体, 黒色土微混, しまりがある
 - 2. 暗赤色土 黒色土粒微混, 焼土粒少混, しまりがない
 - 3. 黒色土 焼土粒少混, しまりがない
 - 4. 赤色土 黒色土極微混, 焼土粒・焼土ブロック多混, しまりがない



第82図 SI-039・出土遺物



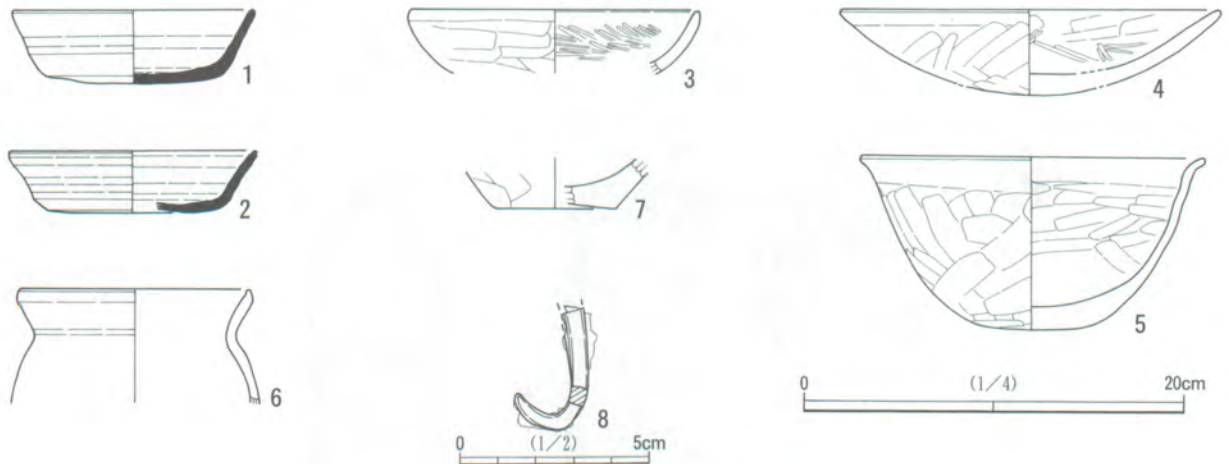
- SI-041**
- 1. 黒褐色土 黒色土主体、ローム粒少混
 - 2. 黒色土 黒灰色砂少混、しまりがある
 - 3. 黒褐色土 ローム粒やや多混、粘性がある
 - 4. 黒褐色土 ローム粒少混



- SI-041 カマド**
- 1. 黒褐色土 ローム粒極微混、灰白砂少混（住居覆土）
 - 2. 黒褐色土 ローム粒微混、灰白砂・焼土粒少混、しまりがある
 - 3. 暗赤灰色土 灰白砂多混、しまりがある、被熱赤化
 - 4. 暗赤灰色土
 - 5. 暗赤灰色土 黒色土多混、しまりがない
 - 6. 黒褐色土 ローム粒子・灰白色砂少混、しまりがある
 - 7. 暗赤灰色土 灰白色砂主体、ローム粒・焼土粒少混、被熱赤化、しまりがある

SI-041カマド 0 (1/40) 1m

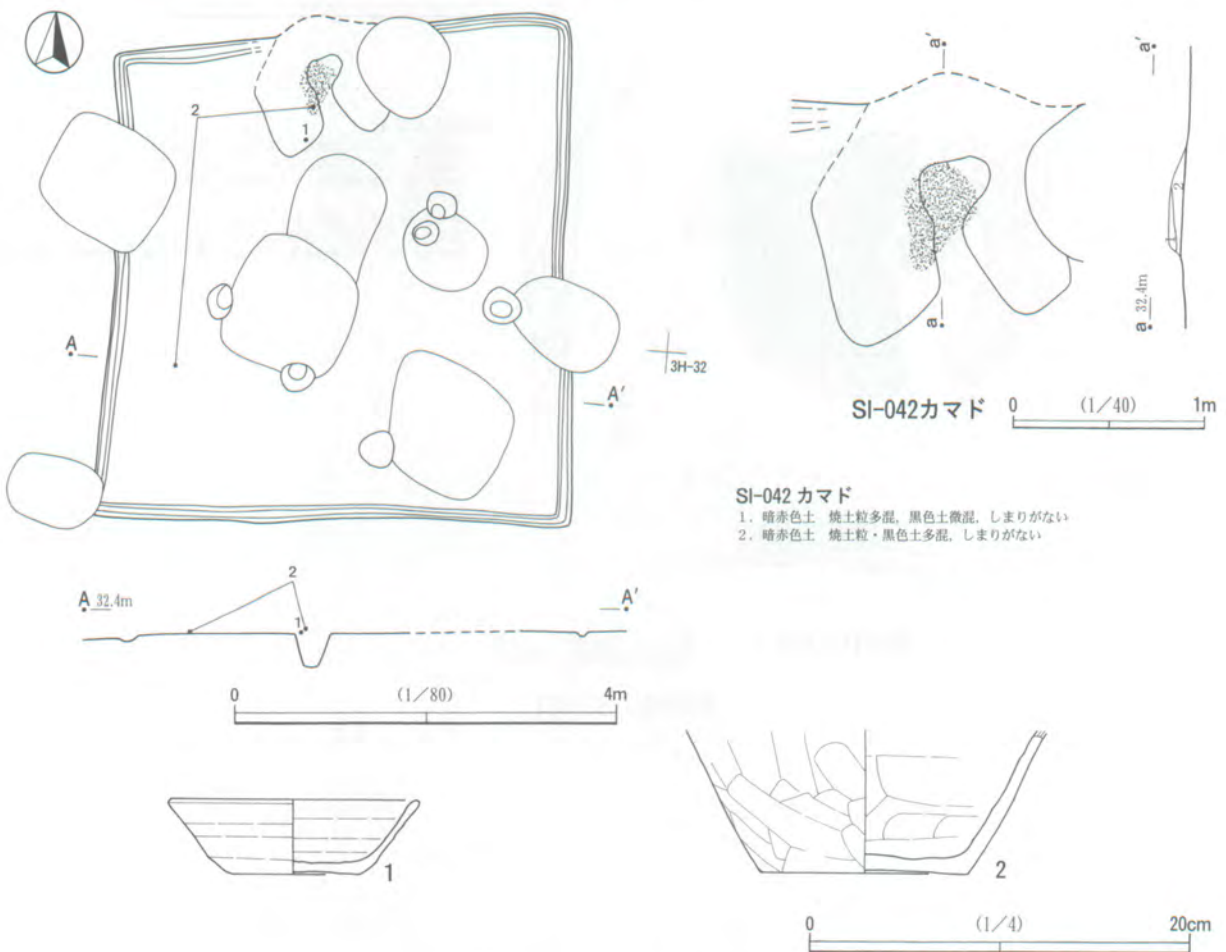
第83図 SI-041



第84図 SI-041出土遺物

東区北西端に位置する。主要グリッドは3H-20である。全体に削平され、壁溝で平面形が確認された。また、SB-001・008と重複するが、壁溝が切られているので、本遺構が古い。平面形は正方形である。床面は平坦である。明確な柱穴は検出されなかったが、柱穴と考えられるピットが5基検出された。カマドは北壁中央に位置する。壁の掘り込みは浅く、火床部は床面に位置する。袖部が住居内に長く延びる。遺物は少なく、床面から出土している。

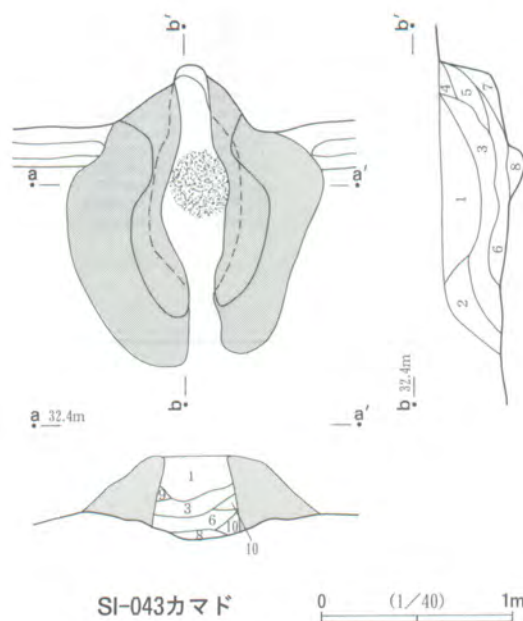
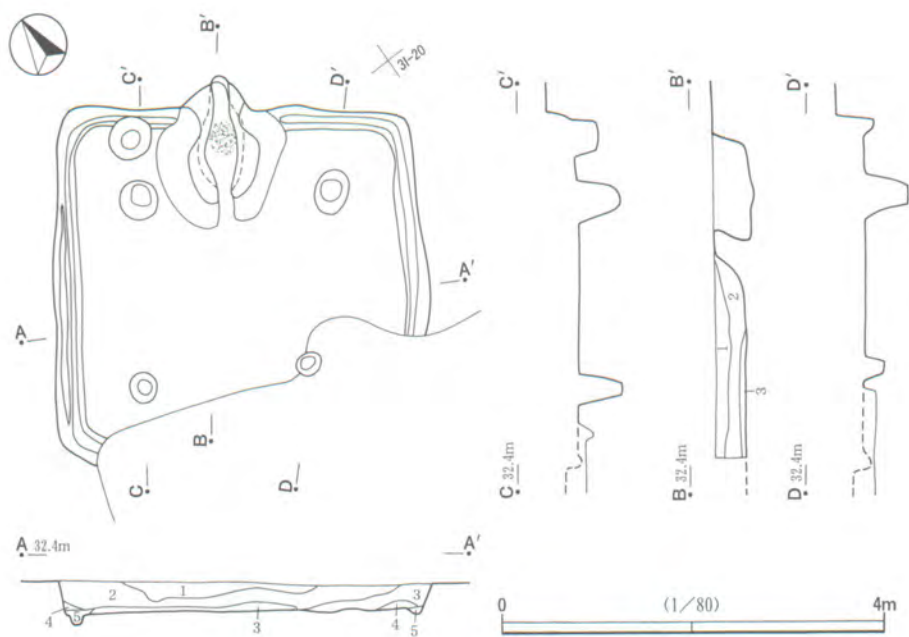
1・2は土師器である。1はロクロ成形の坏である。底部は中央がわずかに上げ底で、体部がゆるやかに内彎して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。2は甕である。胴部下部から底部である。底部は中央がわずかに上げ底で、胴部は外傾して直線的に立ち上がる。



SI-042 カマド

- 1. 暗赤色土 焼土粒多混、黒色土微混、しまりがない
- 2. 暗赤色土 焼土粒・黒色土多混、しまりがない

第85図 SI-042・出土遺物



SI-043

- 1. 黒褐色土 黒色土主体、暗褐色粒・ロームブロック少混、ローム粒微混
- 2. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少混、黒色土微混
- 3. 暗褐色土 褐色土主体、ローム粒・ロームブロック少混、しまりがある
- 4. 黒色土 ローム粒・ロームブロック少混
- 5. 褐色土 ロームブロック主体、黒色土少混

SI-043 カマド

- 1. 黒色土 ローム粒・ロームブロック・焼土粒少混、しまりがある
- 2. 黒褐色土 ローム粒・小ロームブロック少混、しまりがある
- 3. 黒褐色土 灰白色砂少混、しまりがある
- 4. 灰褐色土 灰白色砂・焼土粒少混
- 5. 黒赤色土 黒色土主体、焼土粒少混、ややしまりがない
- 6. 黒赤色土 黒色土主体、焼土粒・焼土ブロック少混、しまりがない
- 7. 黒褐色土 黒色土主体、ローム粒微混、しまりがある
- 8. 黒褐色土 黒色土主体、ローム粒極微混、しまりがない
- 9. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック微入、しまりがある
- 10. 暗灰褐色土 ローム粒微混、灰白色砂少混、しまりがある

SI-043カマド

0 (1/40) 1m

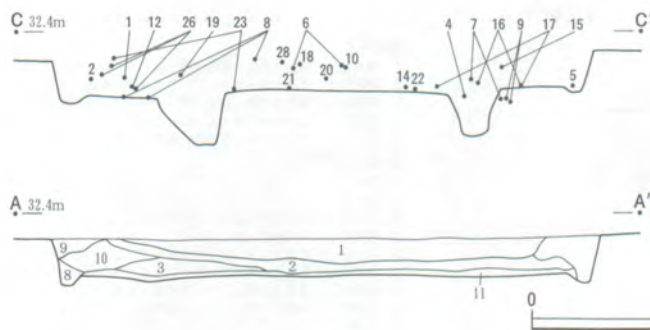
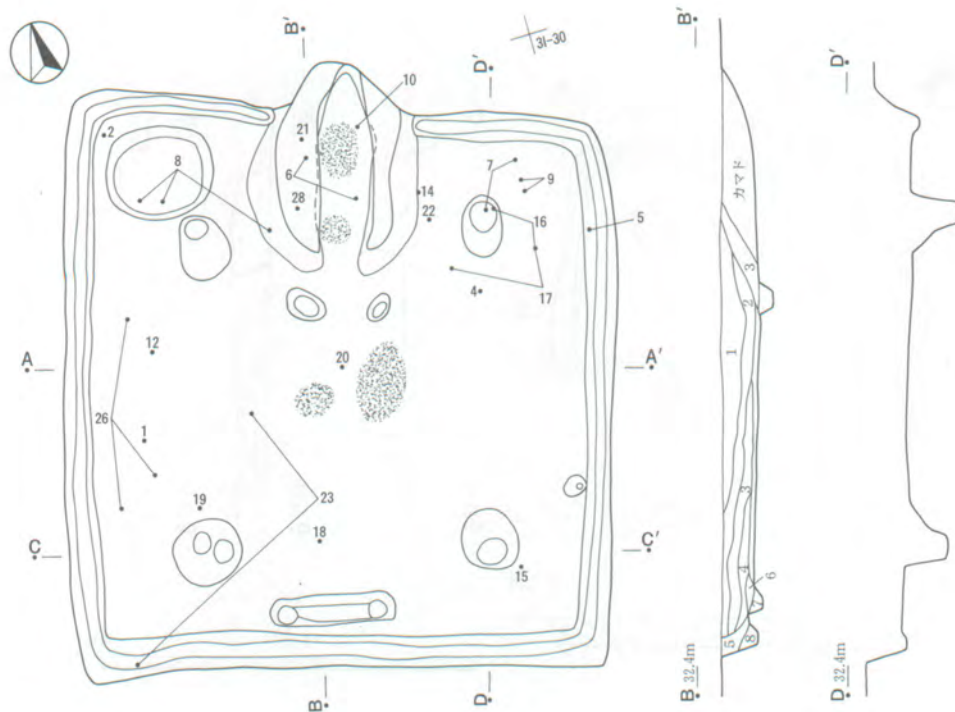
第86図 SI-043

SI-043 (第86図 図版42)

東区中央やや西に位置する。主要グリッドは3H-28である。南側1/3がSI-044と重複する。土層から本遺構が古い。平面形は隅丸正方形と考えられる。覆土は、レンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は4基検出された。カマド右側に貯蔵穴が検出された。カマドは北東壁中央北西寄りに位置する。壁の掘り込みはやや浅く、火床部は壁下に位置するが、袖部が長く住居内に延びる。遺物は少量で、破片である。

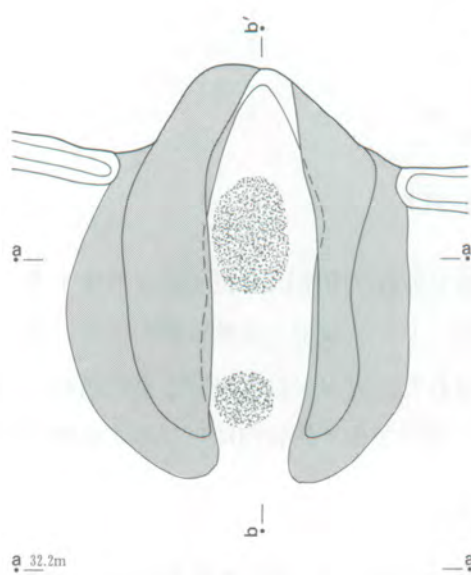
SI-044 (第87~89図 図版43・75・79)

東区中央西寄りに位置する。主要グリッドは3H-48である。SI-043と重複するが、遺構の残存状況から本遺構が新しい。平面形は正方形である。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。柱穴は4基検出された。南西隅の柱穴は底面が2か所あり、建て替えの可能性はある。北西隅に貯蔵穴が検出



SI-044

- 1. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少混
- 2. 黒褐色土 ローム粒極微混
- 3. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少混
- 4. 黒褐色土 ローム粒少混
- 5. 黒褐色土 ローム粒微混
- 6. 黒色土 ローム粒微混、焼土粒少混
- 7. 黒褐色土 ローム粒少混
- 8. 黒褐色土 ローム粒微混、しまりが無い（壁溝覆土）
- 9. 暗褐色土 ローム粒少混、しまりがある、やや粘性がある
- 10. 黒褐色土 ローム粒極微混
- 11. 暗褐色土 ローム粒少混、しまりがある、粘性がある



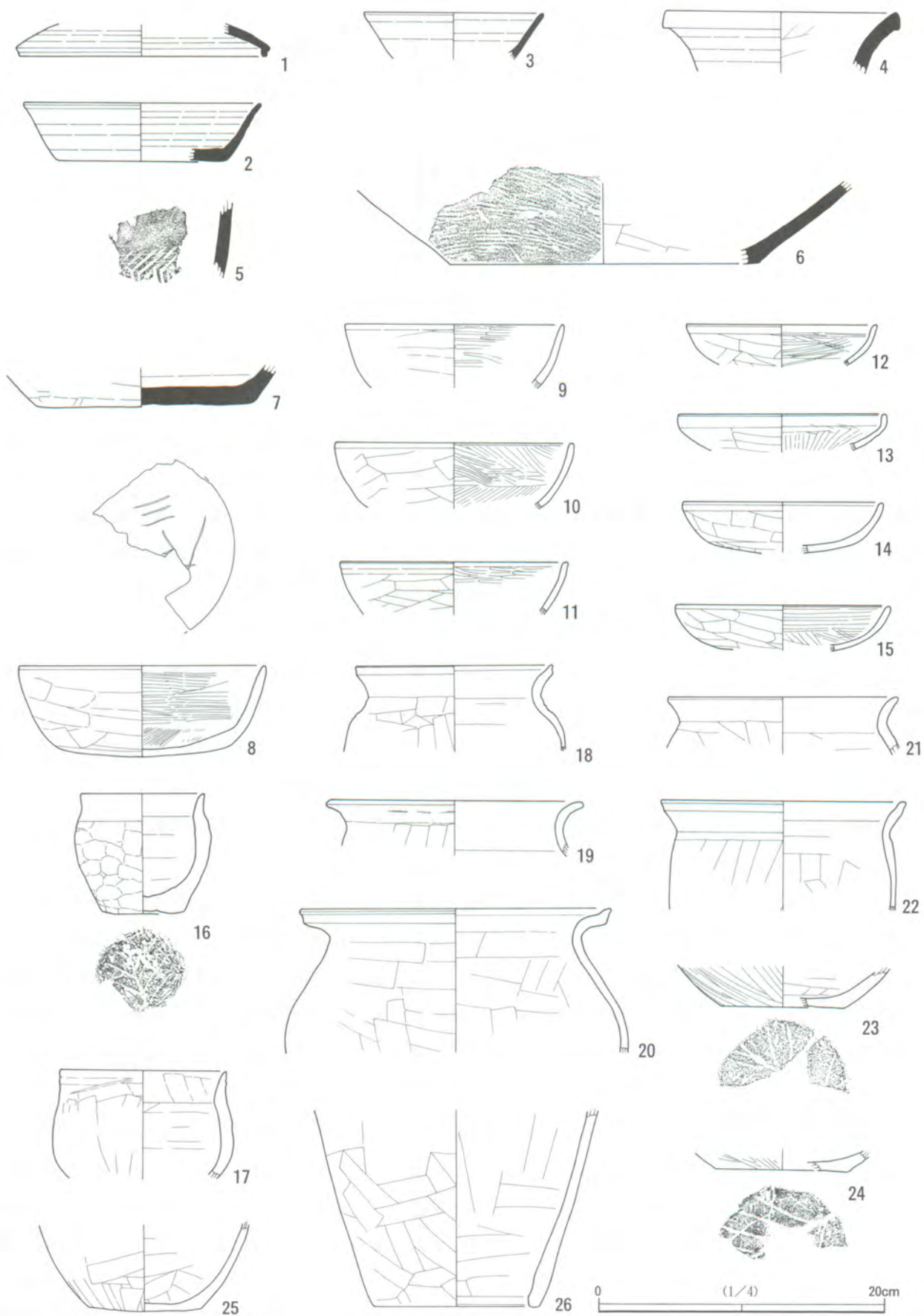
SI-044 カマド

- 1. 黒色土 ローム粒微混 (SD-002 覆土)
- 2. 灰白色土 灰白色砂主体、黒色土少混、しまりがある
- 3. 黒灰白色土 黒色土主体、灰白色砂斑状少混、ローム粒微混、しまりがある
- 4. 黒色土 灰白色砂極微混、ローム粒少混入、ややしまりがある
- 5. 黒色土 ローム粒微混、しまりがある、やや粘性がある
- 6. 暗赤色土 黒色土主体、焼土粒・焼土ブロック少混、しまりがある
- 7. 黒灰白色土 黒色土主体、灰白色砂ブロック微混、しまりがある
- 8. 暗赤色土 焼土主体、黒色土少混、しまりがない
- 9. 暗赤色土 下部は火床面、しまりがない
- 10. 黒褐色土 黒色土主体、ロームブロック少混、しまりがある
- 11. 黒灰白色土 黒色土主体、灰白色砂ブロック・ローム粒・焼土粒少混、しまりがある

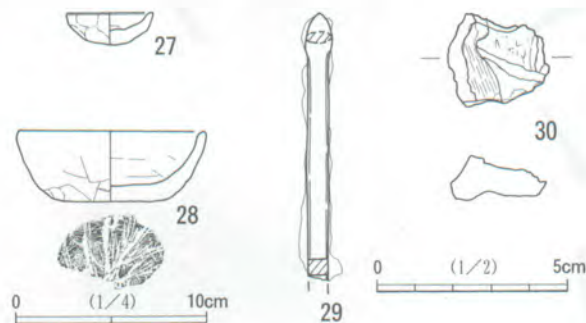
SI-044カマド

0 (1/40) 1m

第87図 SI-044



第88図 SI-044出土遺物(1)



第89図 SI-044出土遺物（2）

され、平面形は楕円形である。カマド対面壁際に入入りロピットが2基検出された。カマドの中心線上ではなく、両側に並び、溝でつながっている。階段など入入り口施設跡と考えられる。カマド袖前面にそれぞれピットが1基検出された。東壁下中央やや南にピットが1基検出された。床面中央に東西に並んで焼土の堆積が検出された。カマドは北壁中央に位置する。壁の掘り込みはやや深く、袖部は長い。火床部は壁下および床面の2か所に検出された。土層から床面の火床部が新しい。また、この火床部と合わせて、袖が延長されたと考えられる。遺物は多く、覆土中、床面から出土している。

1～7は須恵器である。1は坏蓋である。中央部が欠損するが、扁平な半球形と考えられる。カエリは端部に位置する。2・3はロクロ成形の坏である。2は底部中央を欠く。平底で、体部が外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。3は口縁から体部であるが、2と同型である。4は甕の口縁部である。口縁が折り返されて、縁带状である。5～7は甕である。5は胴部片である。叩き目が施される。6は大型で、胴部下端部から底部である。平底と考えられる。胴部は球形と考えられる。7は胴部下端部から底部である。平底である。

8～26は土師器である。8～15は非ロクロ成形の坏である。8は丸みのある底部から体部がゆるやかに内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁は尖り気味である。内外面に赤彩が見られる。9は口縁から体部であるが、8と同型で、内外面に赤彩が見られる。10は口縁から体部である。丸底と考えられ、体部はやや扁平な半球形で、口縁がわずかに外反する。11は10と同型である。12は口縁から体部である。丸底と考えられ、体部は扁平な半球形で、口縁がわずかに外反する。14・15は同型である。13は口縁から体部である。丸底と考えられ、体部は扁平な半球形で、口縁が直立する。

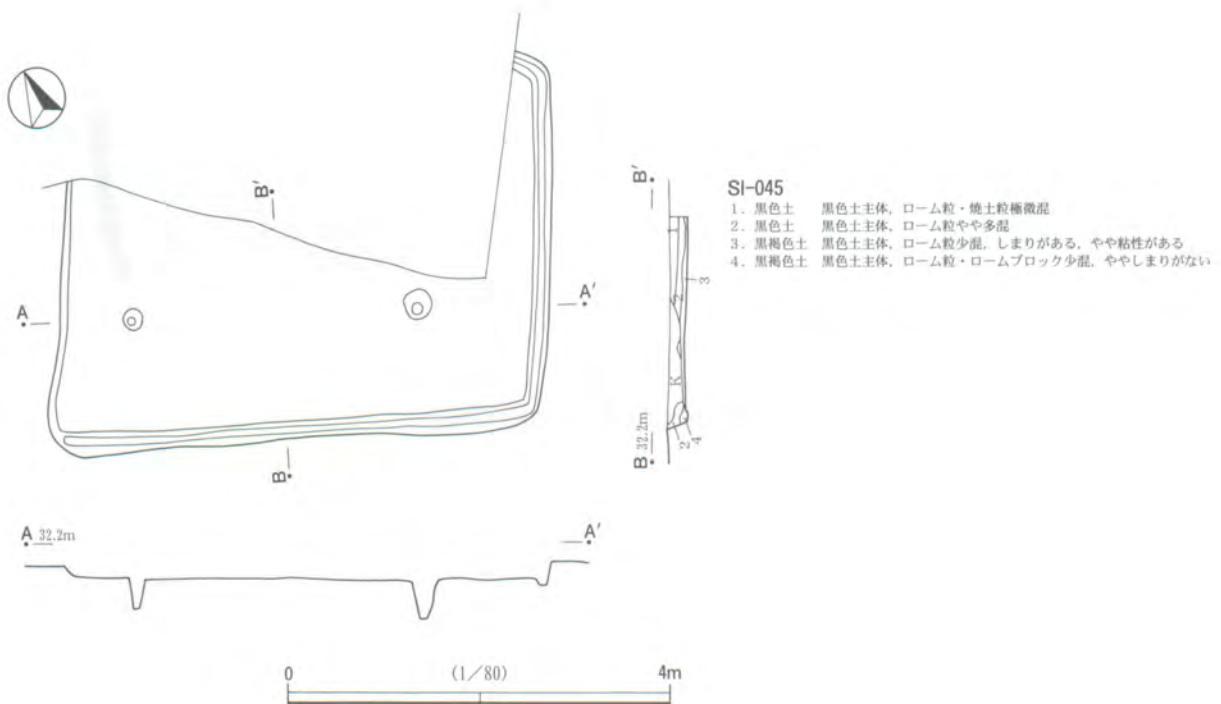
16～25は甕である。16は小型である。平底で、胴部と口縁部の境のしまりは弱く、胴部は半球状である。口縁部は短く直立する。口縁はわずかに外反し、尖る。内面に黒色処理が見られる。17は口縁から胴部である。やや大きい。16と同型である。18は口縁から胴部上部である。胴部は球形と考えられ、口縁部が短く外反し、口縁はわずかに受け口状である。19は口縁部である。大きく外反し、口縁は丸い。20は口縁から胴部上部である。胴部は逆玉子形と考えられる。口縁が短く外反し、口縁は受け口状である。21は口縁から胴部上端部である。口縁部が外傾して短く立ち上がり、口縁はわずかに外反する。22は口縁から胴部上部である。胴部は長胴と考えられる。口縁部が外傾して短く立ち上がり、口縁は受け口状である。23

は胴部下端部から底部である。底部中央を欠くが、わずかに上げ底である。24も同型である。25は胴部下
部から底部である。底部はわずかに丸みがあり、胴部はやや縦長の球形と考えられる。26は甑である。一
孔の底がない型式で、胴部は丸みがなく、長胴である。

27・28はミニチュア土器で坏形である。27は丸底の扁平な半球形である。28は平底で、体部がゆるやかに
内彎して立ち上がり、口縁に至る。29は鉄鏝である。細根長頸鏝の前半部である。30はスラグである。

SI-045 (第90図 図版43)

東区中央に位置する。主要グリッドは3I-36である。北側ほぼ半分が攪乱され、カマドが消滅している。
全体に削平され、残りは悪い。平面形は隅丸の横長方形である。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床
面は平坦である。柱穴は2基検出され、攪乱部にも所在したと考えられる。遺物は少量で、破片である。

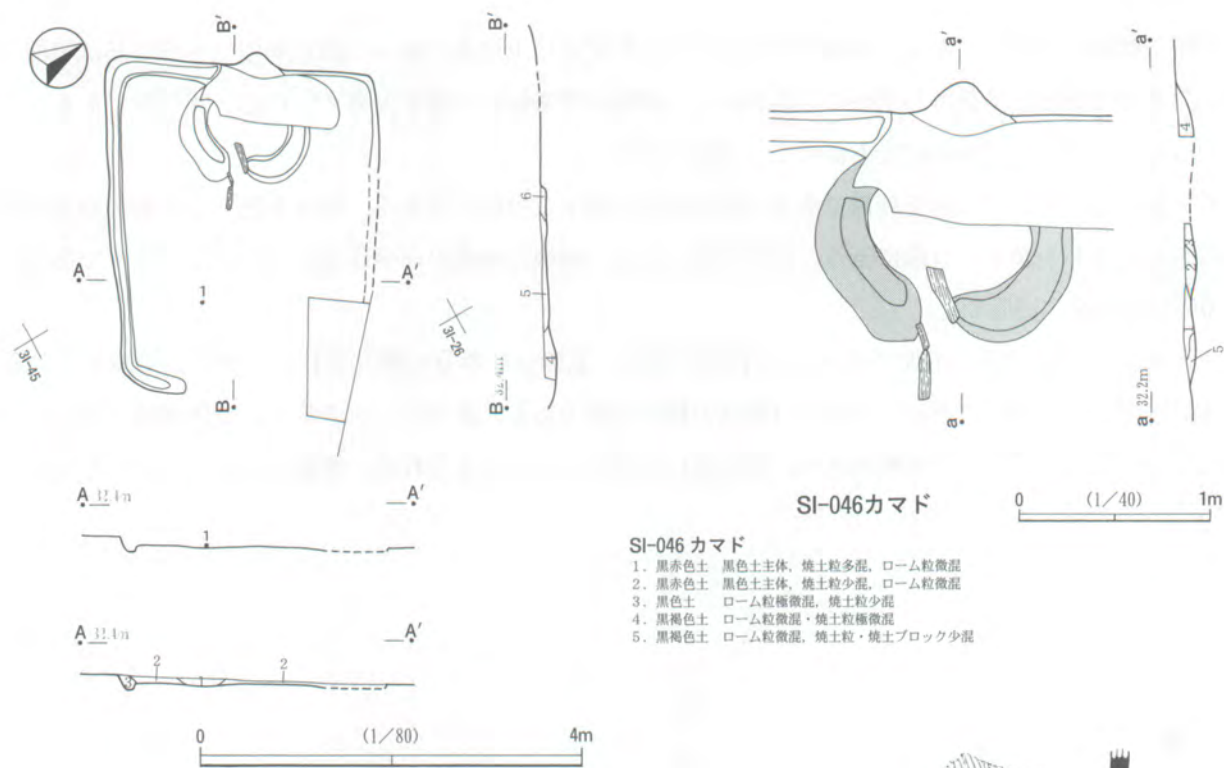


第90図 SI-045

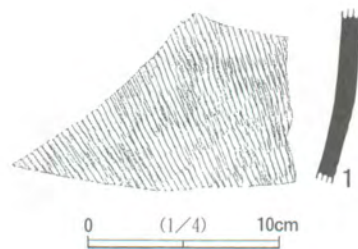
SI-046 (第91図 図版44)

東区中央に位置する。主要グリッドは3I-25で、SI-045に隣接する。カマド中央部が攪乱されている。
全体に削平され、東隅が消滅し、残りは悪い。平面形は隅丸の縦長方形である。覆土は、自然堆積と考え
られる。床面は平坦である。柱穴は検出されなかった。カマドは北西壁中央に位置する。壁の掘り込みは
浅く、住居内に袖部が延びる。火床部は攪乱を受けているが、床面と考えられる。遺物は少量で、破片で
ある。カマド前面床面に炭化材が出土している。

1は須恵器甕の胴部片である。叩き目が施される。



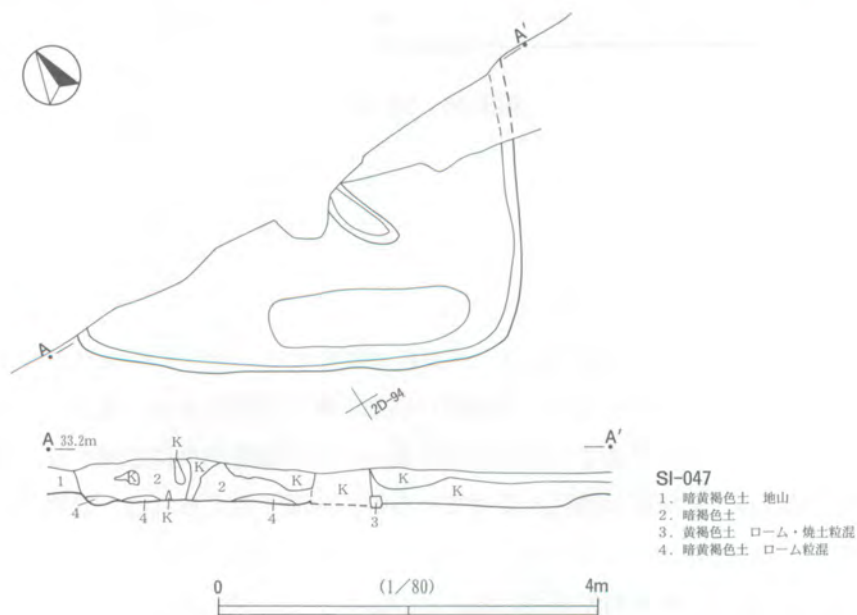
- SI-046
1. 黒褐色土 ローム粒・焼土粒少混
 2. 暗褐色土 ローム粒少混、しまりがある
 3. 暗褐色土 ローム粒やや多混
 4. 褐色土 ローム主体、ロームブロック少混
 5. 黒褐色土 ローム粒・焼土粒微混



第91図 SI-046・出土遺物

SI-047 (第92図 図版44)

西区北東端に位置する。主要グリッドは2D-84である。北側2/3が調査区外である。平面形は隅丸方形と考えられる。全体に削平され、残りは悪い。覆土は断面から、床面直上のみである。床面は平坦である。柱穴は検出されなかった。カマドは未調査部分に位置すると考えられる。遺物は少量で、小破片である。



第92図 SI-047

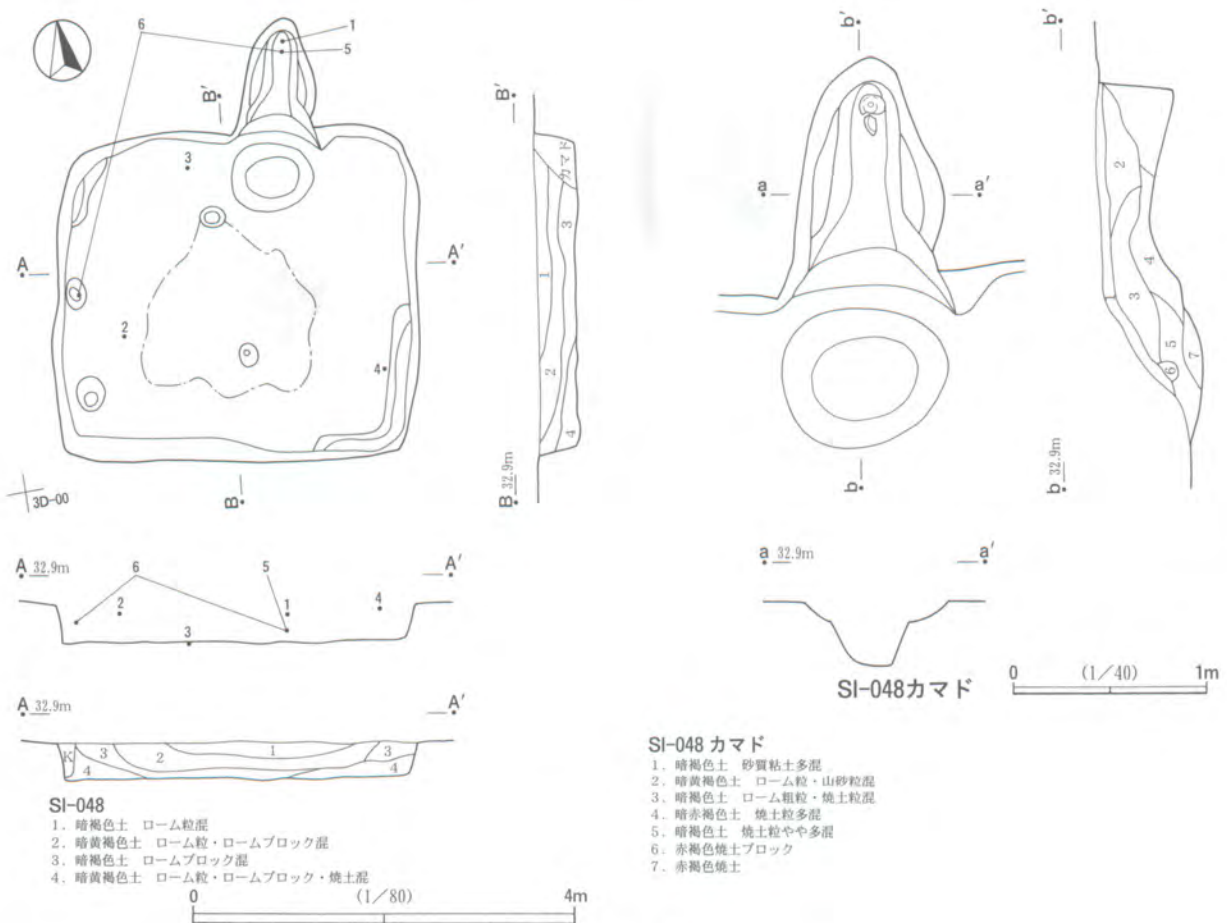
SI-048 (第93・94図 図版45・75・76)

西区北東端に位置する。主要グリッドは2D-91である。平面形は隅丸の横長方形である。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦で、中央に踏み固め面が検出された。柱穴は検出されなかった。ピットが4基検出された。カマド前面やや西側、住居中央やや南、西壁下中央、南西隅やや北である。カマドは北壁中央やや東に位置する。壁の掘り込みは深く、袖部は残っていない。火床部は壁下に検出された。

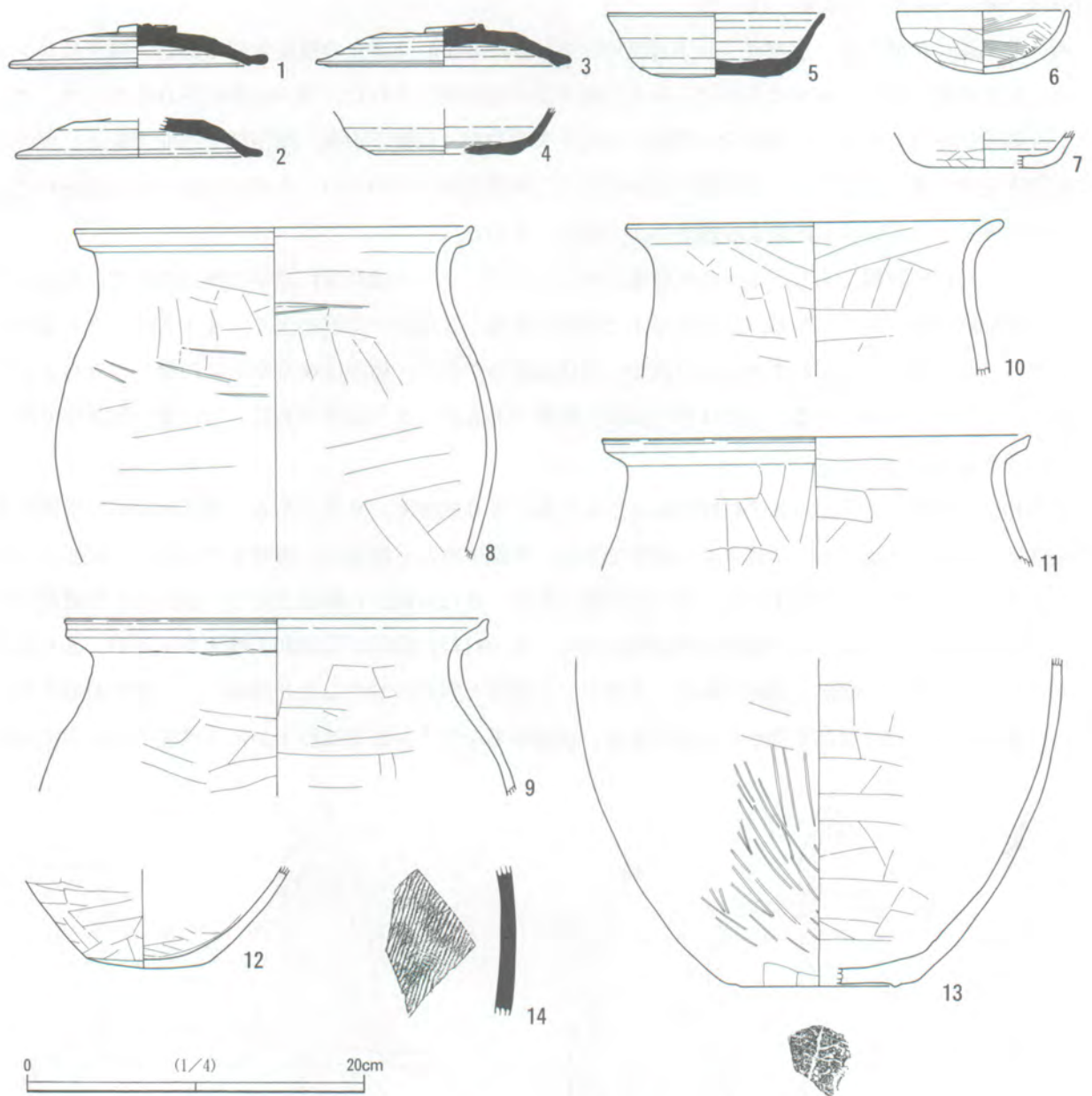
遺物は多く、主にカマド内および覆土中から出土している。

1～5・14は須恵器である。1～3は坏蓋である。1は、ツマミは非常に扁平な擬宝珠形で、端部が外反し、端部内側にカエリがある。2・3は1と同型である。2はツマミ部を欠く。4・5はロクロ成形の坏である。5は底部中央がわずかに上げ底で、全体に厚みがある。体部はゆるやかに内彎して立ち上がり、わずかに外反して口縁に至る。4は体部下部から底部であるが、5と同型である。14は甕の胴部片である。縦位の叩き目が施される。

6～13は土師器である。6・7は坏である。6は非ロクロ成形で、丸底である。体部は扁平な半球形で、口縁部はわずかに外反する。7はロクロ成形である。体部下部から底部で、底部中央を欠く。平底で、体部がゆるやかに内彎して立ち上がる。8～13は甕である。8は口縁から胴部上部で、胴部はやや縦長の球形で、口縁部が短く外反し、口縁は受け口状である。9・11は口縁部から胴部上端部であるが、8と同型である。10は口縁部から胴部上端部である。長胴で、口縁部と胴部の境のしまりは弱い。口縁部が短く外反し、口縁は丸い。13は胴部下部から底部である。底部中央を欠く。底部はわずかに上げ底で、木葉痕がある。



第93図 SI-048



第94図 SI-048出土遺物

る。胴部はやや縦長の球形である。12は小型で、胴部下端部から底部である。底部はやや丸みがあり、胴部は球形と考えられる。

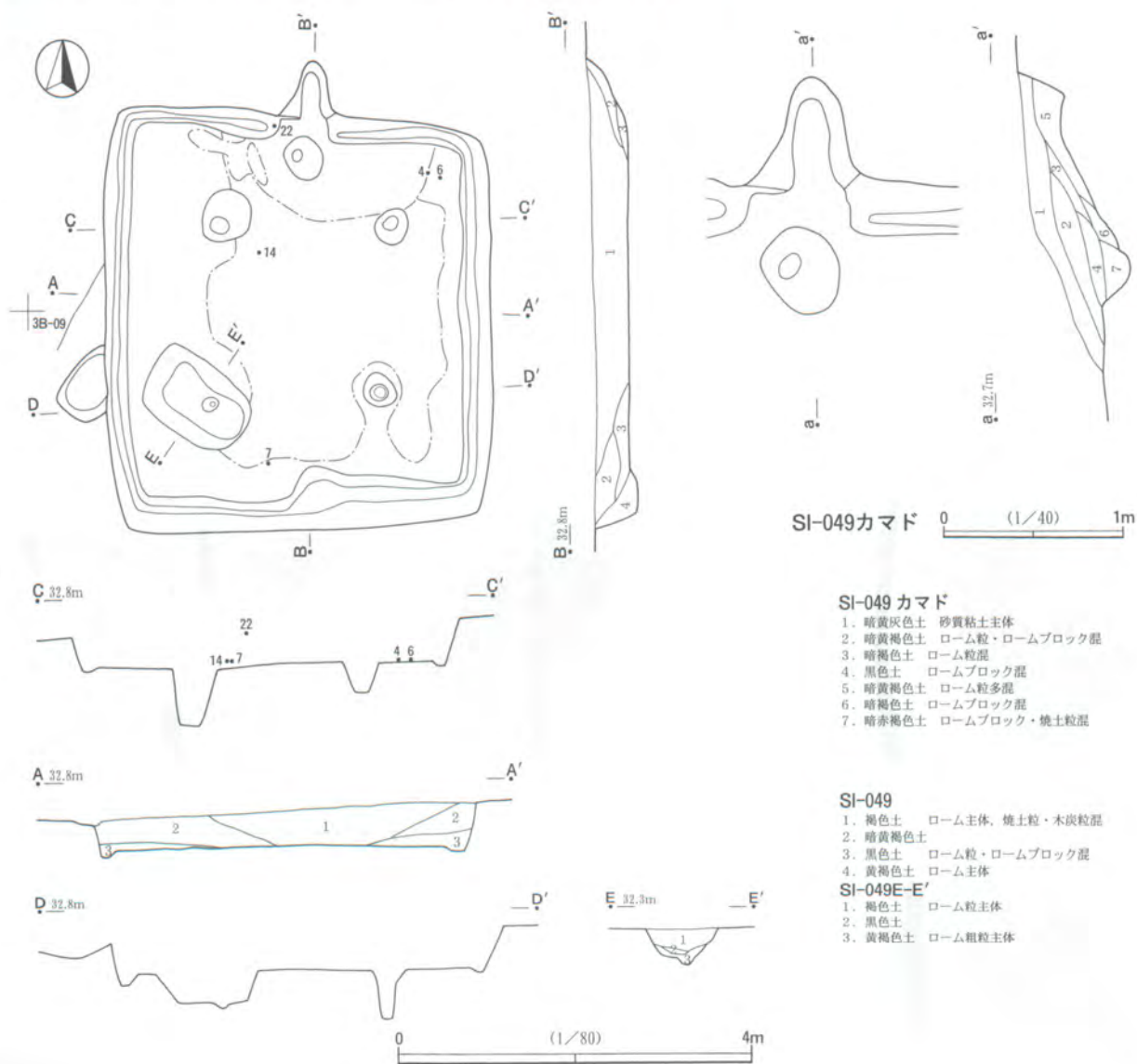
SI-049 (第95・96図 図版44・76)

西区中央北端に位置する。主要グリッドは3C-00である。平面形は隅丸の縦長方形である。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦で、中央に踏み固め面が検出された。柱穴は4基検出された。南西隅の柱穴の平面形が長方形で、土坑と重複している。本遺構が古い。カマドは北壁中央に位置する。壁の掘り込みはやや深く、袖部は残っていない。火床部は壁際に検出された。遺物は多く、主に床面および覆土中から出土している。

1～7・17～21は須恵器である。1・2は坏蓋である。端部片で、外反し、端部内側にカエリがある。3～7はロクロ成形の坏である。3は平底で、全体に厚みがある。体部は外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。4は平底で、周辺部が薄くなる。体部はゆるやかに内彎して立ち

上がり、口縁に至る。口縁はわずかに外反する。5は底部中央を欠く。平底で、体部がゆるやかに内彎して立ち上がり、口縁に至る。体部の開きが大きい。6は底部中心部を欠く。平底で、中央部が薄い。体部はゆるやかに内彎して立ち上がり、口縁に至る。口縁はわずかに外反する。7は6と同型である。17・18は甕の胴部片を再利用した転用硯である。外面は叩き目があり、内面に磨耗痕がある。19から21は甕の胴部片である。外面に叩き目が施され、20は内面に同心円状の当て具痕がある。

8～16は土師器である。8は非ロクロ成形の坏である。丸底で、底部中央を欠く。体部から口縁は扁平な半球形である。9～16は甕である。9は口縁から胴部上端部である。13と同型である。10は口縁から胴部上端部である。胴部は逆玉子形と考えられる。口縁部が短く外反し、口縁はわずかに受け口状である。11は口縁から胴部上端部である。胴部は逆玉子形と考えられる。口縁部が短く外反し、口縁は受け口状である。12は口縁から胴部上部である。11と同型である。13は口縁から胴部上端部である。長胴で、口縁部が短く外反し、口縁は丸い。胴部はかなり薄い。14は口縁から胴部上端部である。胴部は逆玉子形と考えられる。口縁部が短く外反し、口縁は丸い。胴部はかなり薄い。15は胴部下端部から底部である。底部中央部を欠くが、平底である。胴部は逆玉子形と考えられる。16は胴部下端部から底部である。平底で胴部は球形と考えられる。22は土玉である。図面下方から穿孔される。



SI-049 カマド

1. 暗黄灰色土 砂質粘土主体
2. 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック混
3. 暗褐色土 ローム粒混
4. 黒色土 ロームブロック混
5. 暗黄褐色土 ローム粒多混
6. 暗褐色土 ロームブロック混
7. 暗赤褐色土 ロームブロック・焼土粒混

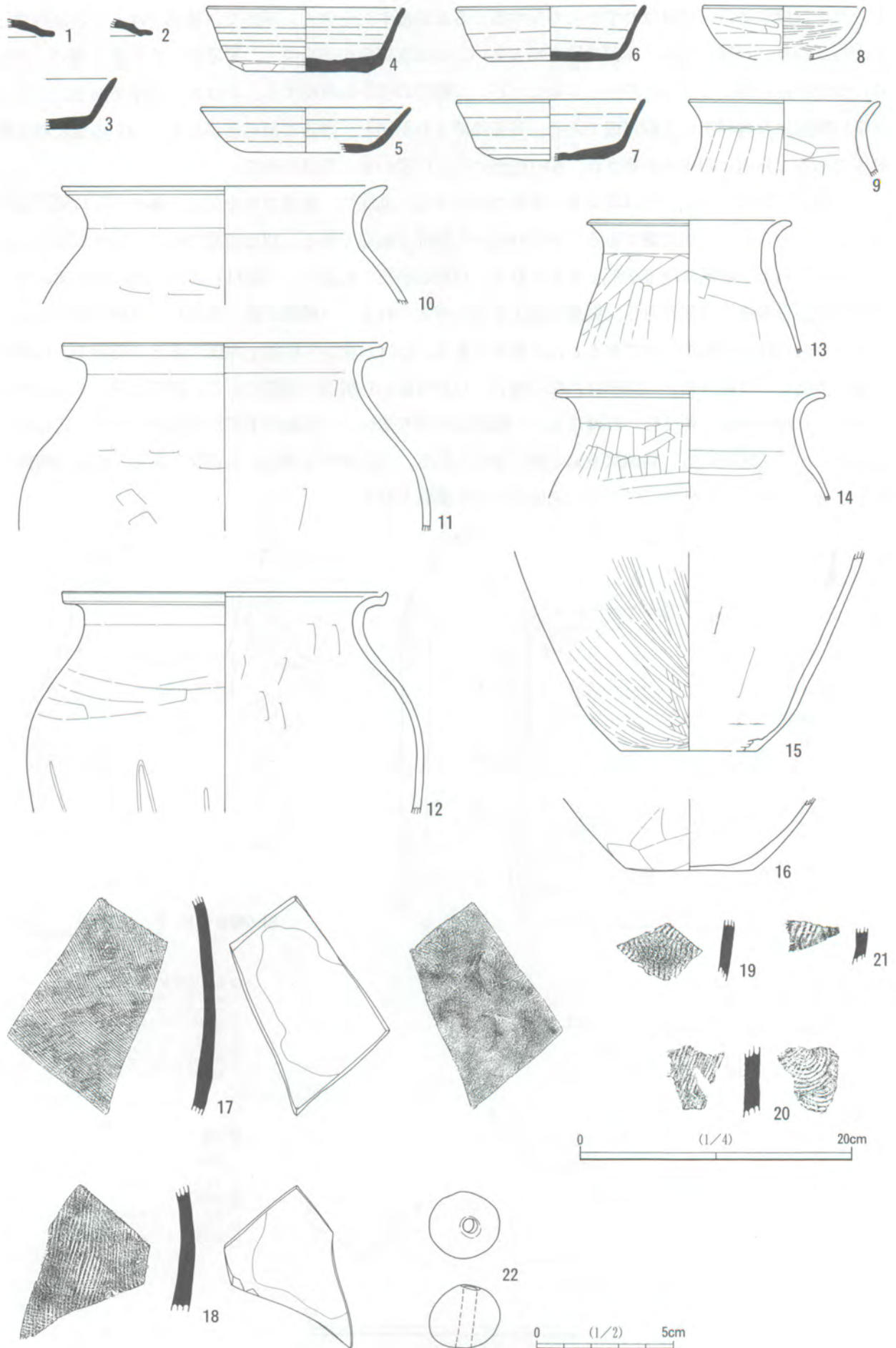
SI-049

1. 褐色土 ローム主体、焼土粒・木炭粒混
2. 暗黄褐色土
3. 黒色土 ローム粒・ロームブロック混
4. 黄褐色土 ローム主体

SI-049E-E'

1. 褐色土 ローム粒主体
2. 黒色土
3. 黄褐色土 ローム粗粒主体

第95図 SI-049



第96図 SI-049出土遺物

SI-050 (第97・98図 図版45・76)

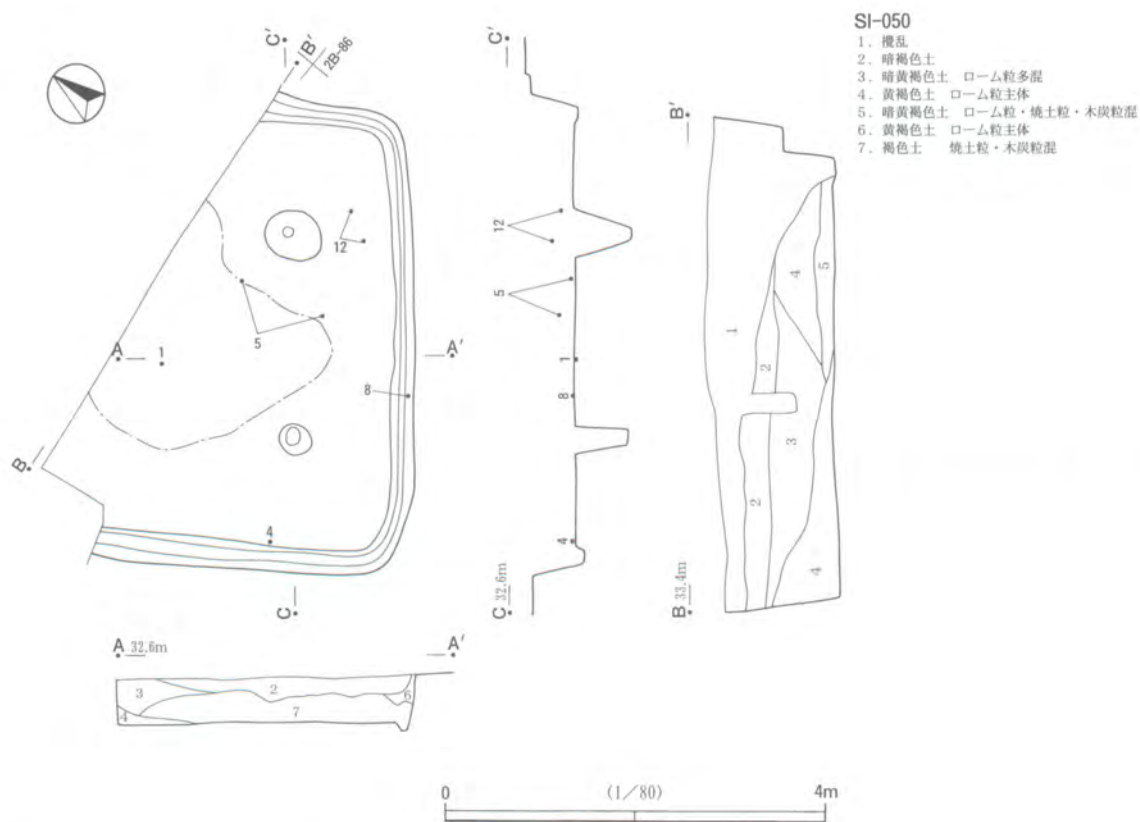
西区北西端に位置する。主要グリッドは2B-84である。北側1/2が調査区外である。平面形は隅丸方形と考えられる。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦で、中央に踏み固め面が検出された。柱穴は2基検出された。未調査部分に柱穴、カマドがあると考えられる。遺物は主に床面から出土している。

1～7は須恵器である。1～3はロクロ成形の坏である。1は平底で、体部が外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。2は同様であるが、体部がやや深い。3は1と同型である。

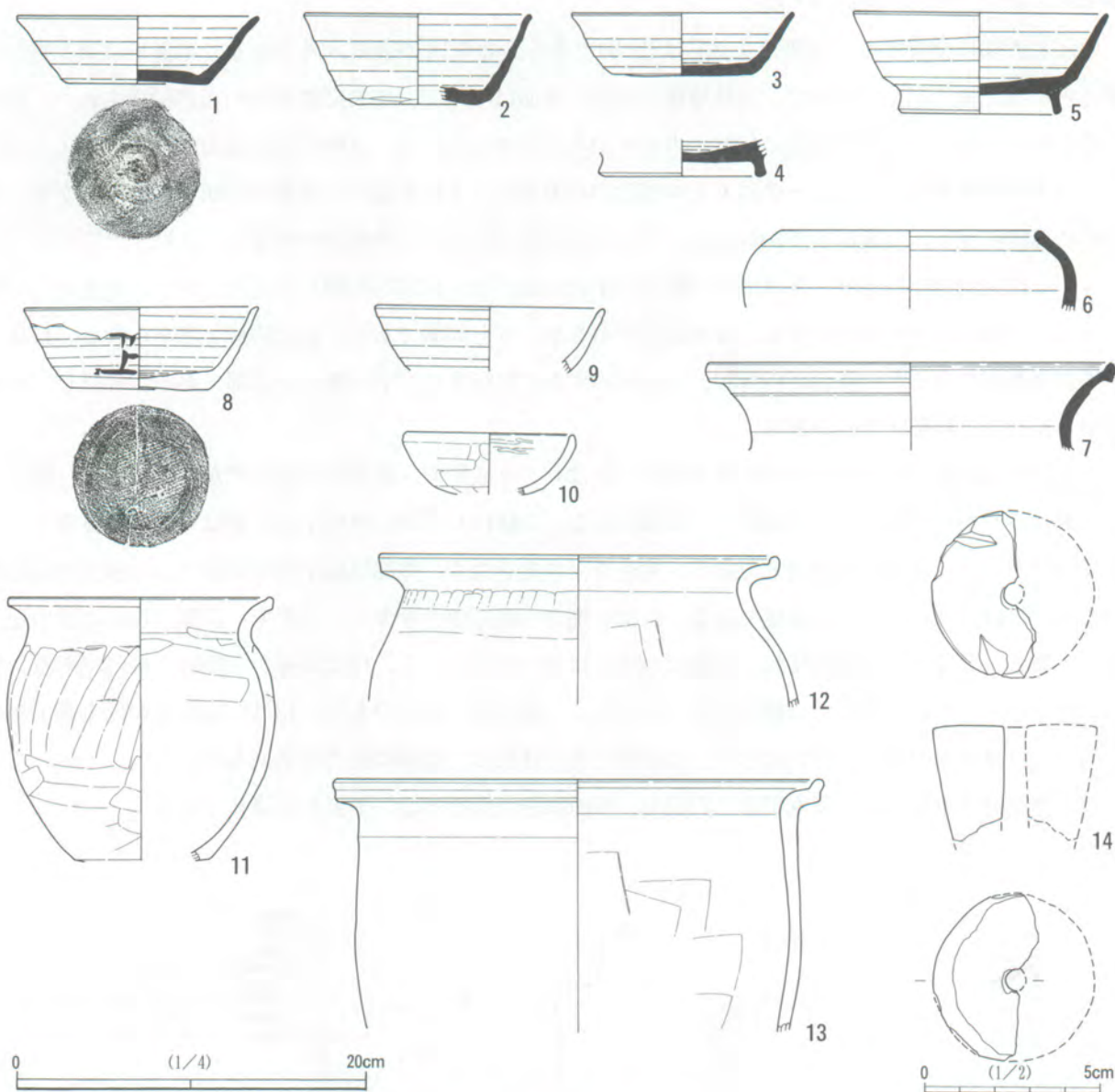
4・5は高台付坏である。5は高台が断面ハ字状に広がる。体部が内彎して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。4は底部であるが、5と同型である。6は鉄鉢と考えられる。口縁から胴部上端部である。口縁部が内彎し、口縁がわずかに外反する。7は甕の口縁部である。外反し、口縁は折り返しで、縁带状で段がある。

8～13は土師器である。8～10は坏である。8はロクロ成形で、底部中央がわずかに上げ底で、薄い。体部がゆるやかに内彎して立ち上がり、口縁に至る。口縁はわずかに外反する。9は口縁から体部で、8と同型である。10は非ロクロ成形である。丸底で、中央を欠く。体部は扁平な半球形で、口縁部が短く直立する。口縁は丸い。11～13は甕である。11は小型で、底部中央を欠く。平底で、胴部は球形に近い逆玉子形である。口縁部が短く外反し、口縁はわずかに受け口状である。12は口縁から胴部上端部である。胴部は逆玉子形と考えられる。口縁部が短く外反し、口縁は受け口状である。13は口縁から胴部上部である。長胴で、口縁部との境のくびれはない。口縁部が短く外反し、口縁は受け口状である。

14は土製紡錘車である。厚みがある円板で、断面は逆台形である。下方から穿孔される。



第97図 SI-050



第98図 SI-050出土遺物

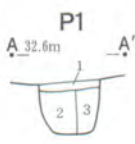
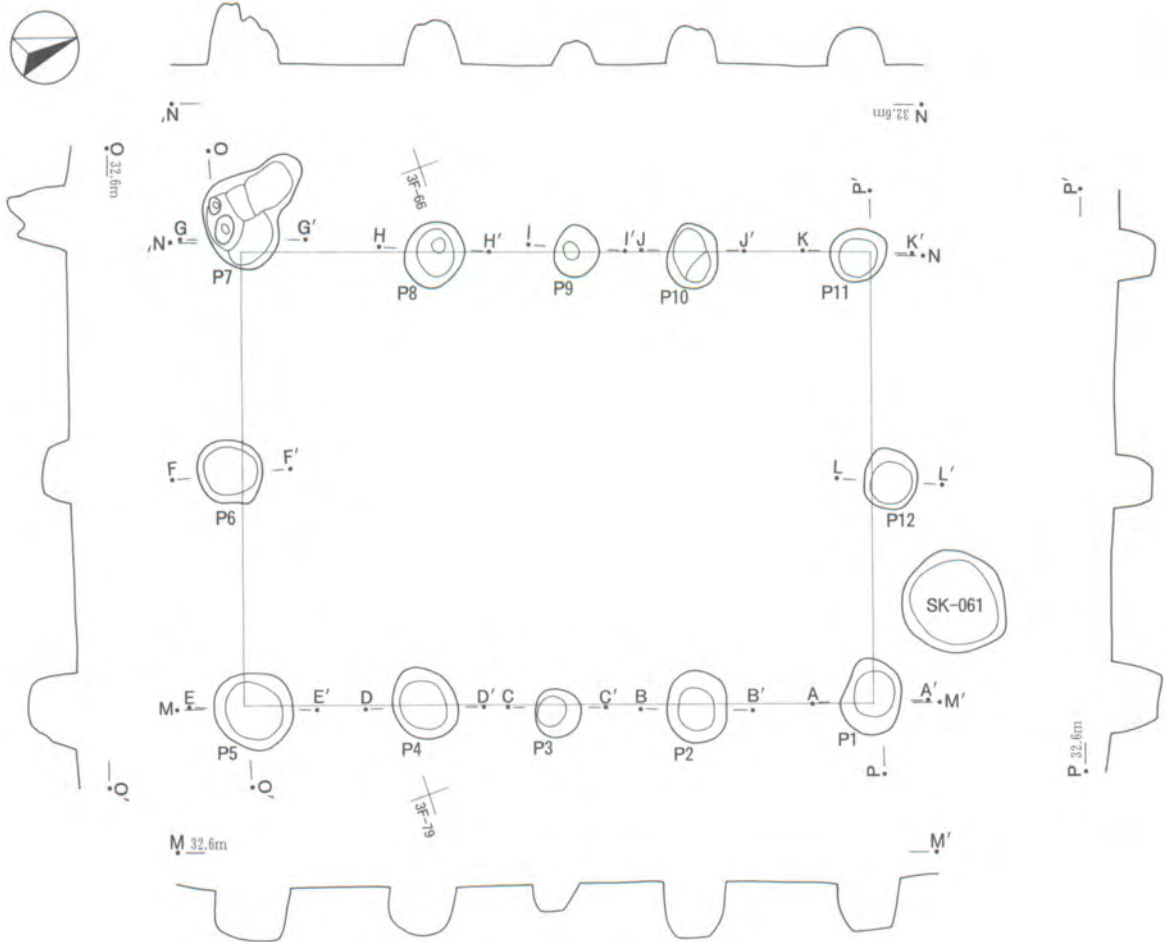
第2節 掘立柱建物跡 (第4・5表)

SB-001 (第99図 図版46)

中央区中央に位置する。主要グリッドは3F-57である。柱跡の平面形は円形である。桁行部分中央の柱跡がほかに比べて小さく浅いので、補助柱跡と考えられる。入口部と考えられ、平入構造である。

SB-002 (第100図 図版46)

中央区中央に位置する。主要グリッドは3F-80である。柱跡の平面形は円形である。SB-003と重複しているが、本遺構が古いと考えられる。SB-001と同様に、桁行部分中央の柱跡が、ほかに比べて小さく浅いので、補助柱跡と考えられる。入口部と考えられ、平入構造である。柱跡に重複が確認され、建て替えが行われたと考えられる。



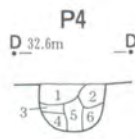
- P1**
A 32.6m A'
1. 暗褐色土 ローム粒少混, しまりがある
 2. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがない
 3. 暗褐色土 ローム粒混



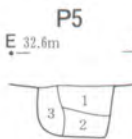
- P2**
B 32.6m B'
1. 暗褐色土 ロームブロック少混, しまりがある
 2. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがない
 3. 黒褐色土 しまりがない
 4. 暗褐色土 ロームブロック多混



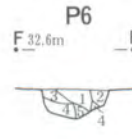
- P3**
C 32.6m C'
1. 明褐色土 1~2mmの焼土粒少混 かたくしまった土
 2. 暗褐色土 ロームブロック(10~30mm) ロームがしみ状に入る
 3. 褐色土



- P4**
D 32.6m D'
1. 暗褐色土 ロームブロック少混, しまりがある
 2. 褐色土 ロームブロック少混, しまりがある
 3. 暗褐色土 しまりがある
 4. 暗褐色土 ローム粒多混, しまりがある
 5. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがない
 6. 暗褐色土 ローム粒少混, しまりがない



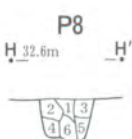
- P5**
E 32.6m E'
1. 明褐色土 ローム粒多混, しまりがある
 2. 暗褐色土 ローム粒少混, しまりがない
 3. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがない



- P6**
F 32.6m F'
1. 褐色土 ロームブロック少混, ローム粒多混, しまりがある
 2. 明褐色土 ローム粒多混, しまりがある
 3. 褐色土 ローム粒多混, しまりがある
 4. 暗褐色土 ロームブロック少混, しまりがある
 5. 黒褐色土 しまりがない



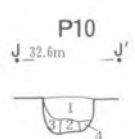
- P7**
G 32.6m G'
1. 褐色土 山砂混, しまりがある
 2. 暗褐色土 ローム粒多混, しまりがない
 3. 暗褐色土 ローム粒多, しまりがある
 4. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少混, しまりがない



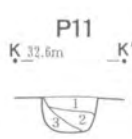
- P8**
H 32.6m H'
1. 褐色土 ローム粒多混, しまりがある
 2. 褐色土 ロームブロック多混, しまりがある
 3. 褐色土 ローム粒多混, しまりがある
 4. 暗褐色土 しまりがない
 5. 暗褐色土 しまりがない
 6. 黒褐色土 しまりがない



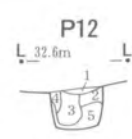
- P9**
I 32.6m I'
1. 暗褐色土 ローム粒多混, しまりがある
 2. 暗褐色土 ローム粒多混, しまりがある



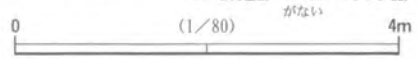
- P10**
J 32.6m J'
1. 褐色土 ローム粒多混, しまりがある
 2. 黒褐色土 しまりがない
 3. 暗褐色土 ローム粒少混, しまりがある
 4. 暗褐色土 ローム粒少混, しまりがない



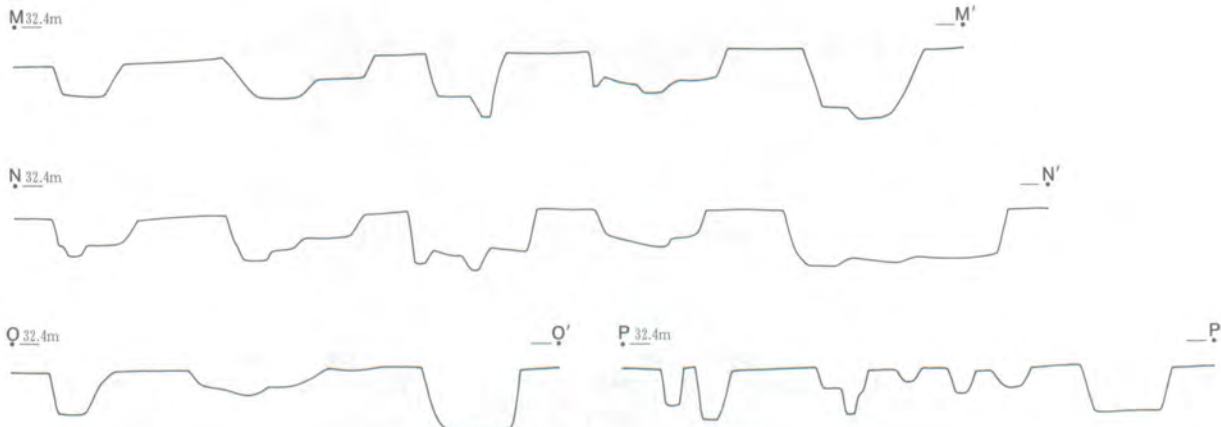
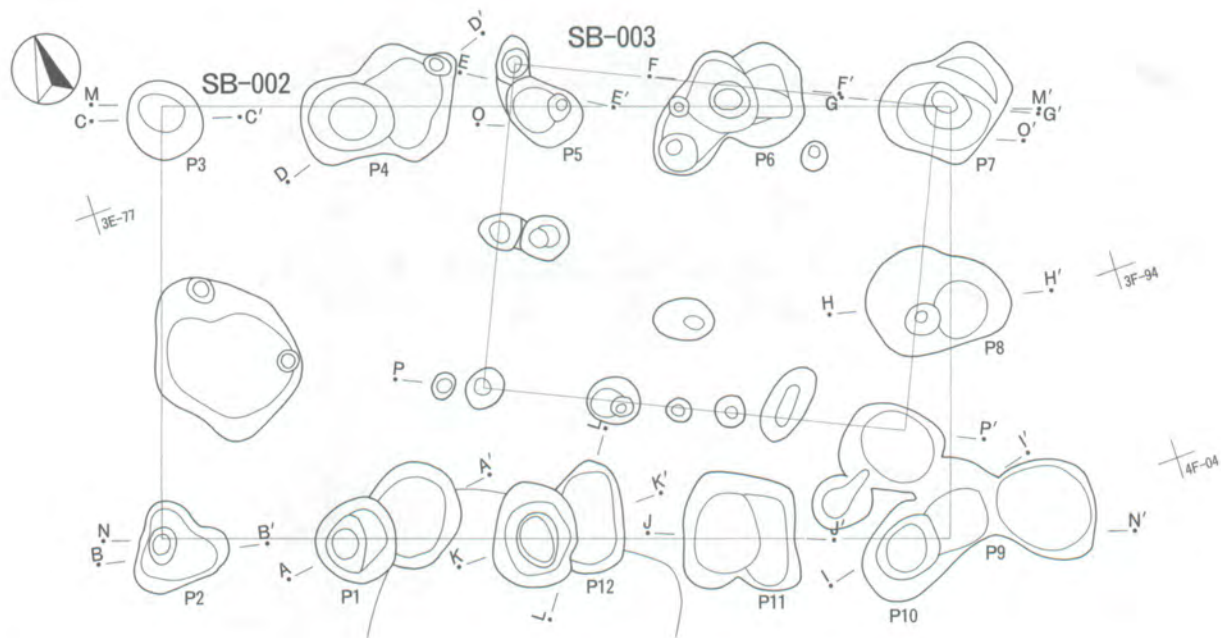
- P11**
K 32.6m K'
1. 褐色土 ローム粒多混, しまりがある
 2. 暗褐色土 ローム粒少混, しまりがない
 3. 暗褐色土 ロームブロック少混, しまりがない



- P12**
L 32.6m L'
1. 暗褐色土 しまりがある
 2. 明褐色土 ローム主体, しまりがある
 3. 暗黒褐色土 ロームブロック少混, しまりがない
 4. 明褐色土 しまりがある
 5. 暗褐色土 ロームブロック少混, しまりがない



第99図 SB-001



第100図 SB-002・003

SB-003 (第100図)

中央区中央に位置する。主要グリッドは3F-82である。柱跡の平面形は円形である。SB-002と重複しているが、本遺構が新しいと考えられる。柱跡に重複が確認され、建て替えが行われたと考えられる。

SB-004 (第101図 図版47)

中央区中央南寄りに位置する。主要グリッドは4F-32である。柱跡の平面形は円形および長方形である。柱痕に、重複が確認され、建て替えが行われたと考えられる。

SB-005 (第102図 図版48)

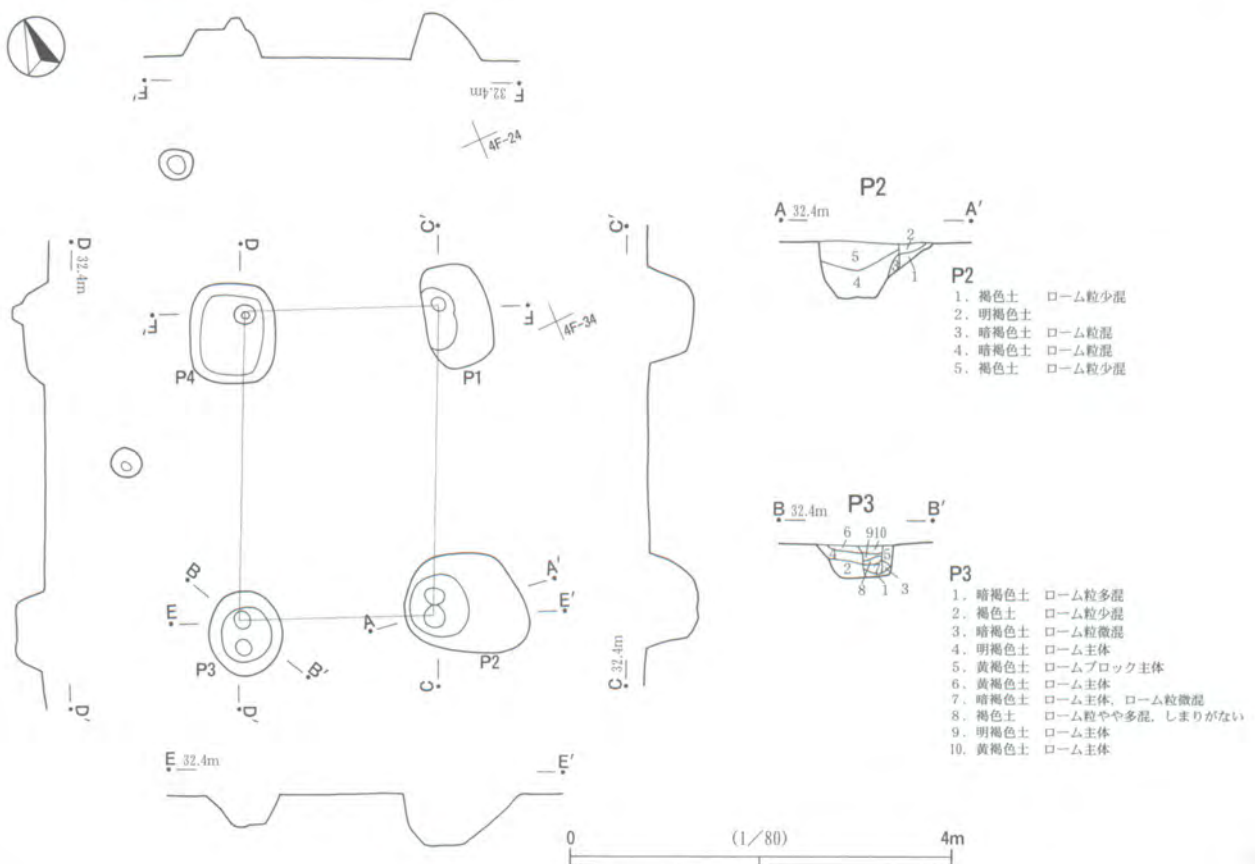
中央区中央南端に位置する。主要グリッドは4F-94である。柱跡の平面形は円形および楕円形である。SD-002と重複するが、本遺構が古いと考えられる。柱跡は小さく、重複が確認され、建て替えが行われたと考えられる。

SB-006 (第103図 図版49)

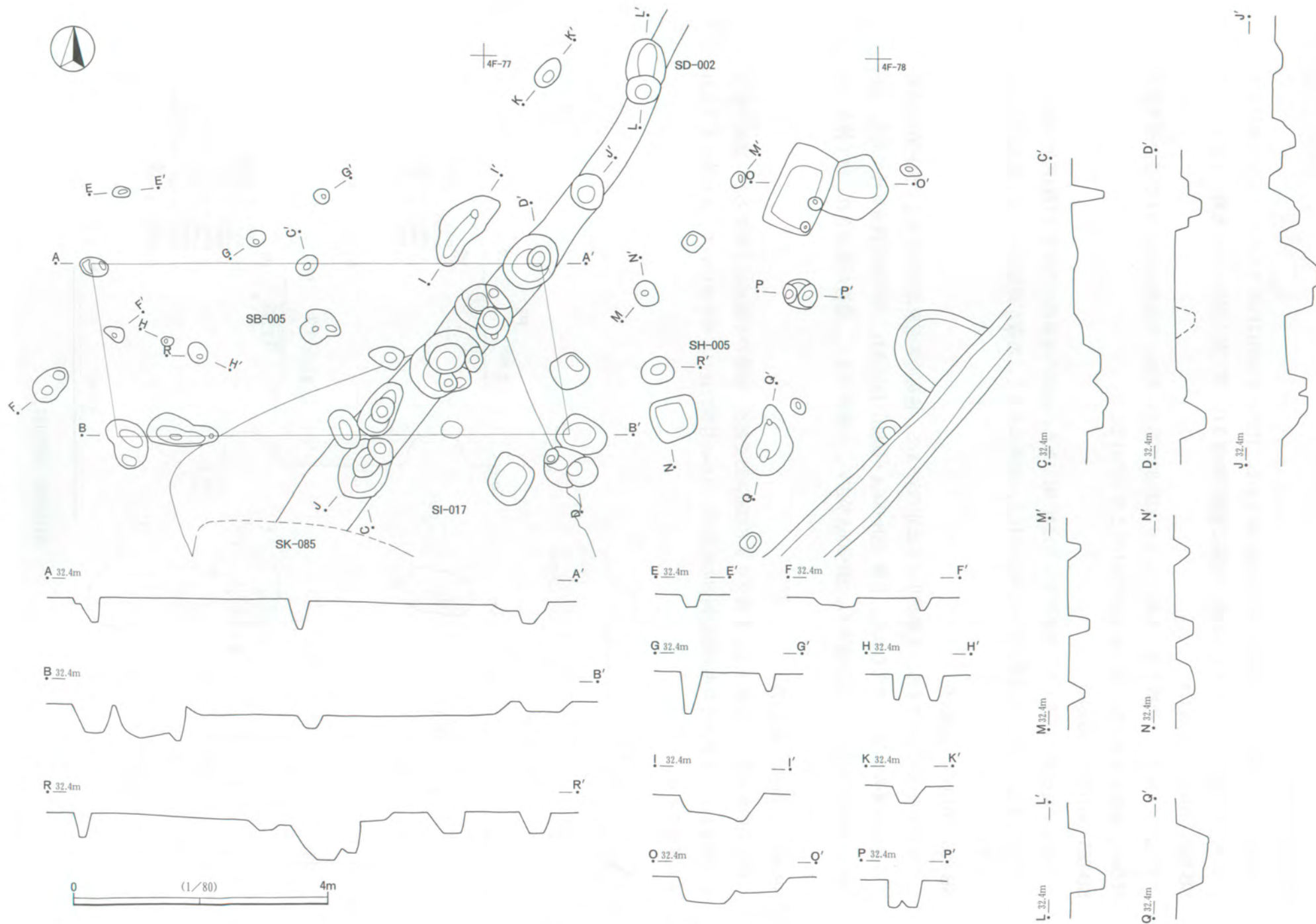
中央区中央南端に位置する。主要グリッドは5F-35である。柱跡の平面形は方形である。SD-003と重複するが、本遺構が古いと考えられる。2棟 (SB-006A・006B) 検出され、南半部は調査区外である。SB-006A・006Bは重複し、土層断面から、SB-006Aが古い。柱跡は小さく、重複が確認され、建て替えが行われたと考えられる。

SB-007 (第104図 図版47)

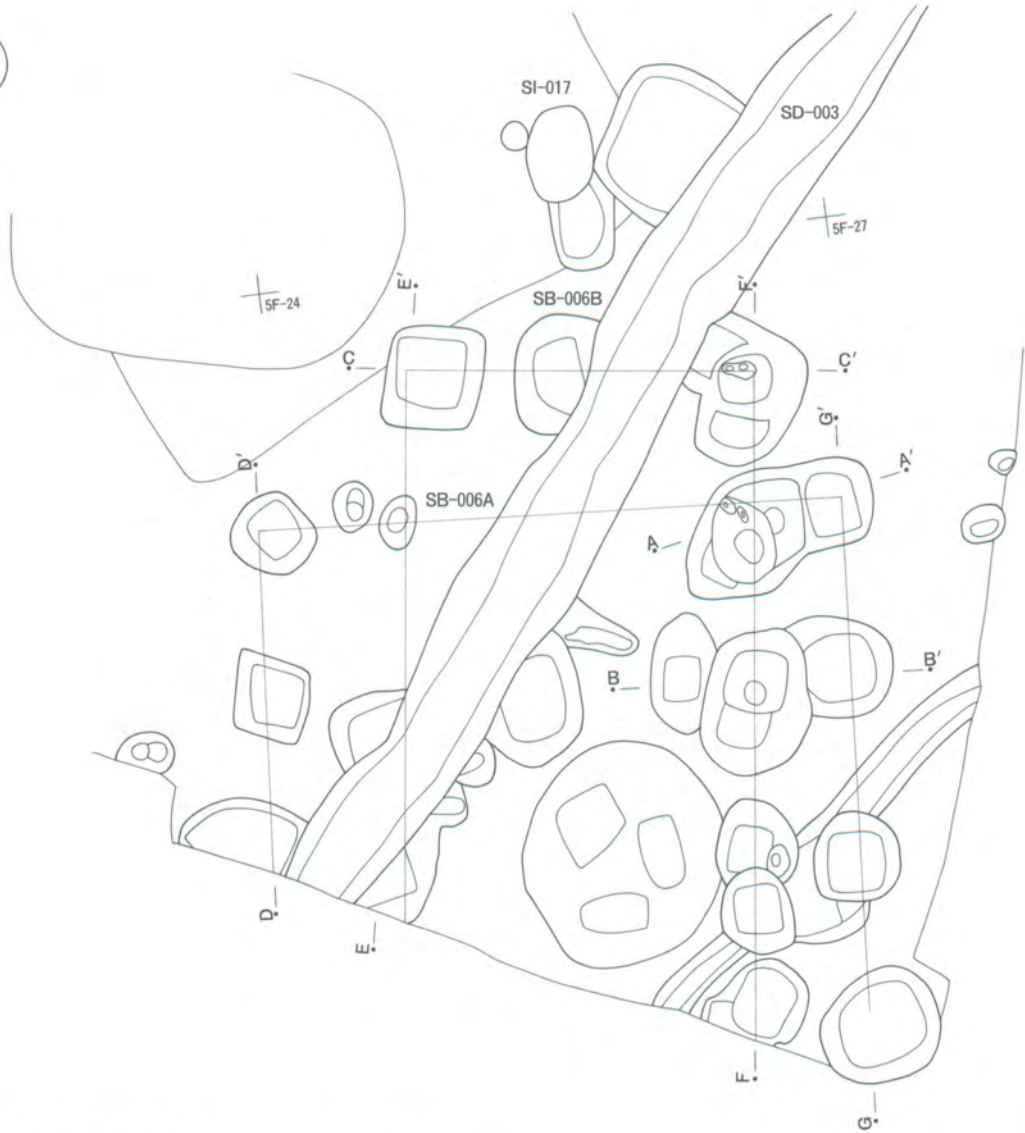
中央区中央東寄りに位置する。主要グリッドは5G-95である。柱跡の平面形は方形である。底面の柱痕が明瞭である。4間部分中央の柱跡両側の柱間が、ほかの柱間に比べてやや狭いので、入口部と考えられ、平入構造である。



第101図 SB-004



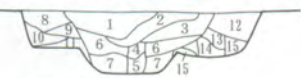
第102图 SB-005 · SH-005



A 32.2m SB-006B SB-006A A'

- | | | | |
|---------|-----------------|------------|---------------|
| SB-006B | | SB-006A | |
| 1. 褐色土 | ローム粒多混 | 6. 暗褐色土 | ローム粒多混 |
| 2. 褐色土 | ローム粒やや多混 | 7. 黒褐色土 | ローム粒やや多混 |
| 3. 暗褐色土 | ローム粒やや多混 | 8. 黒褐色土 | ローム粒少混 |
| 4. 明褐色土 | ロームブロック混、しまりがない | 9. 黒褐色土 | ローム粒多混、しまりがない |
| 5. 褐色土 | ローム粒多混、焼土少混 | 10. 黒褐色土 | 焼土混、しまりがある |
| | | 11. ローム粒主体 | しまりがある |

B 32.2m SB-006B SB-006A B'



- | | |
|---------------|----------------|
| SB-006B | |
| 1. 褐色土 | ローム粒やや多混 |
| 2. 褐色土 | ローム粒多混、しまりがある |
| 3. 暗褐色土 | ローム混、しまりがない |
| 4. 暗褐色土 | ロームブロック多混 |
| 5. 暗褐色土 | ローム粒多混、しまりがある |
| 6. 暗褐色土 | ローム粒少混 |
| 7. ローム主体 | |
| SB-006A | |
| 8. 暗褐色土 | ローム少混 |
| 9. 褐色土 | ローム多混、ややしまりがない |
| 10. 黒褐色土 | しまりがある、粘性がある |
| 11. ローム主体 | しまりがある |
| 12. ロームブロック主体 | |
| 13. 暗褐色土 | |
| 14. 暗褐色土 | ローム粒少混 |
| 15. 黒褐色土 | ローム粒少混、しまりがある |

C 32.2m C'



E 32.2m E'



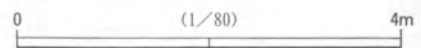
F 32.2m F'



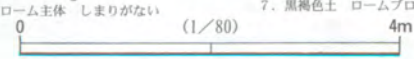
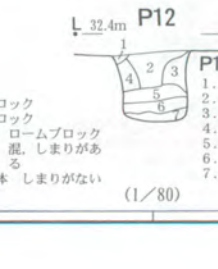
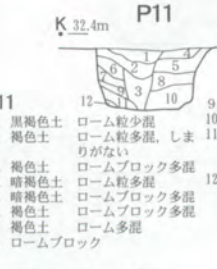
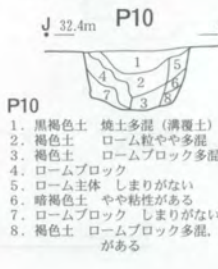
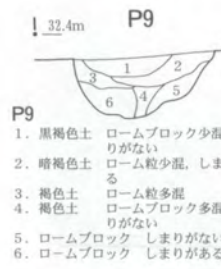
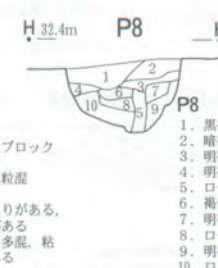
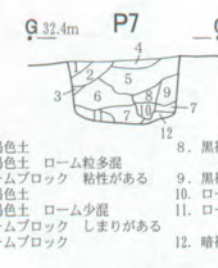
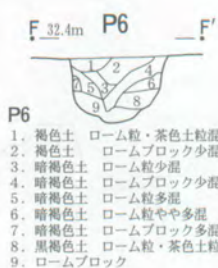
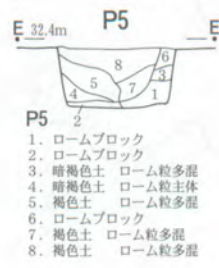
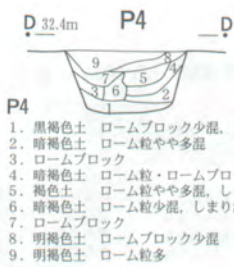
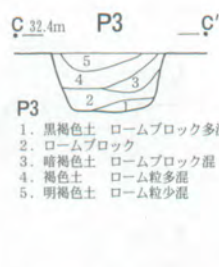
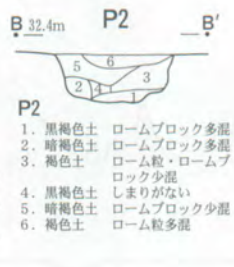
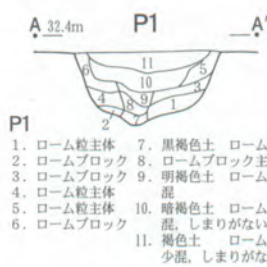
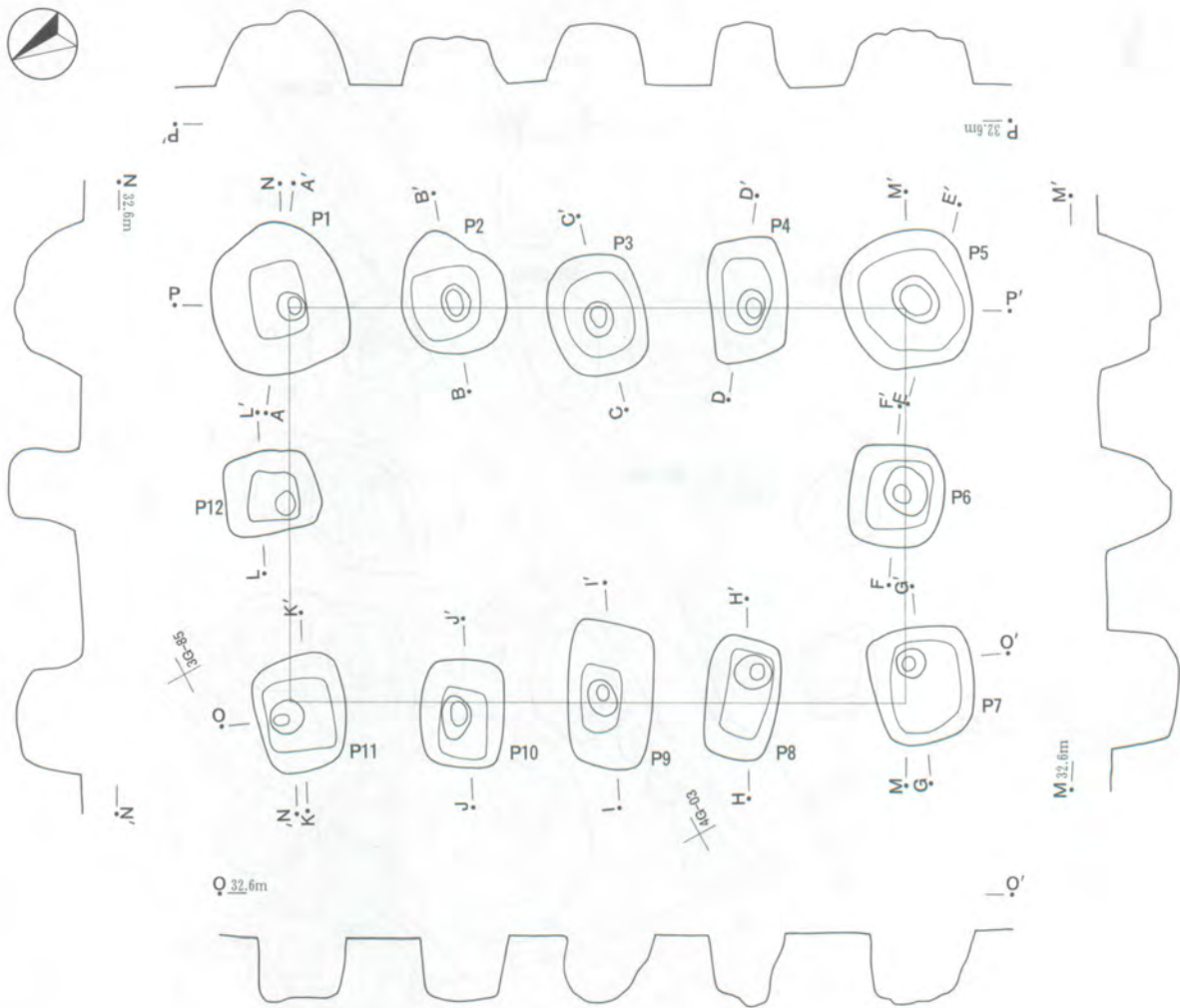
D 32.2m D'



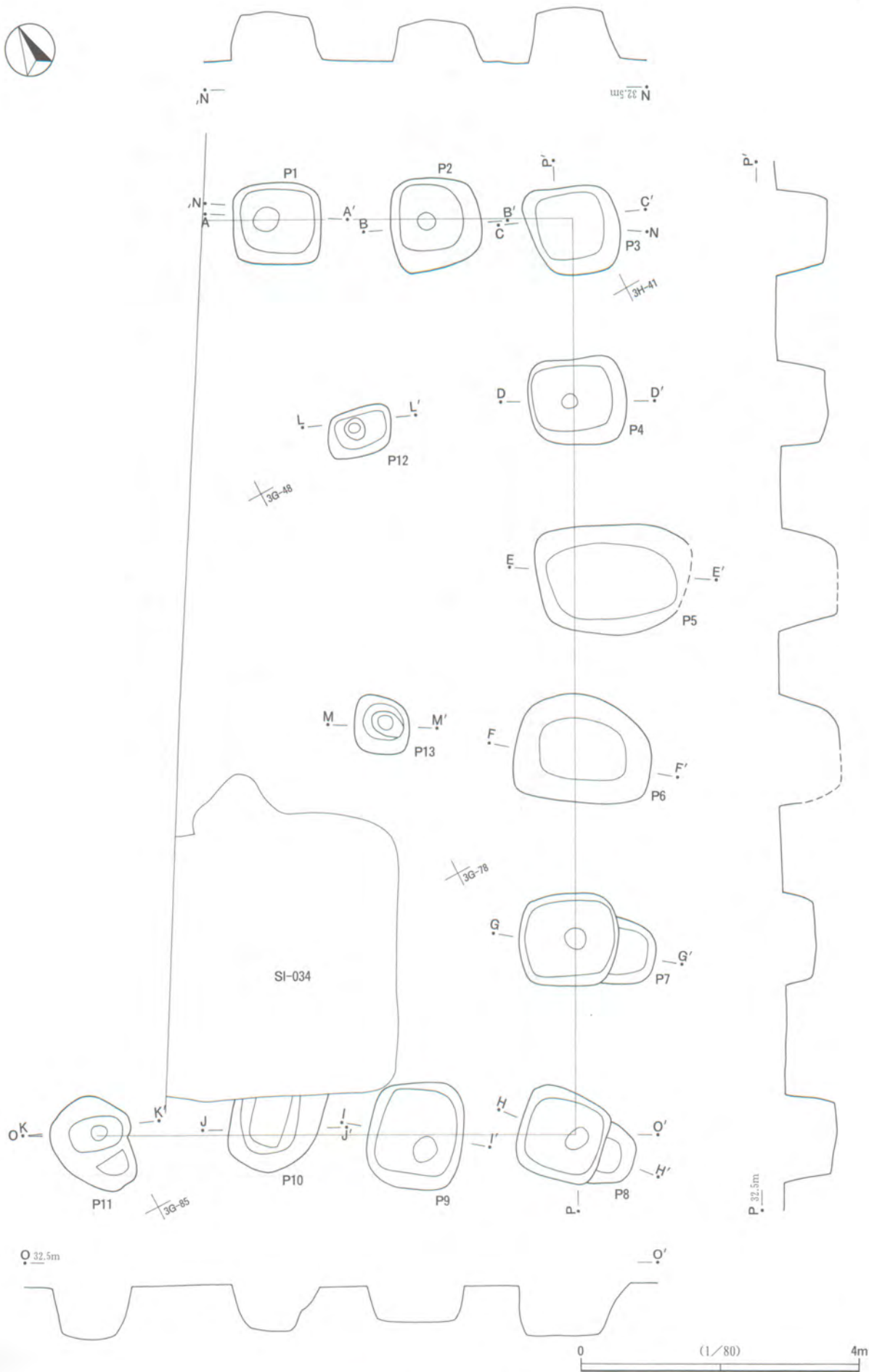
G 32.2m G'



第103図 SB-006

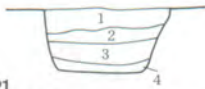


第104図 SB-007



第105图 SB-008 (1)

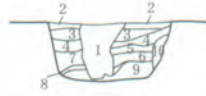
A 32.5m P1 —A'



P1

1. 暗褐色土 ロームやや多混
2. 暗褐色土 ローム多混, しまりがある
3. 暗褐色土 ローム多混
4. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがない

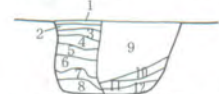
B 32.5m P2 —B'



P2

1. 黒茶色土 ロームブロック多混, しまりがある
2. 暗褐色土 ローム粒多混, しまりがある
3. 暗褐色土 ロームブロック多混
4. 暗褐色土 ロームブロック少混
5. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがない
6. 暗褐色土 ローム粒主体, しまりがある
7. 暗褐色土 ローム粒主体, しまりがある
8. 暗褐色土
9. ロームブロック しまりがない

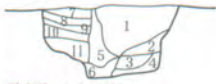
C 32.5m P3 —C'



P3

1. 褐色土 ロームブロックやや多混, しまりがある
2. 褐色土 ロームブロック多混, しまりがある
3. 褐色土 ロームブロックやや多混, しまりがある
4. 褐色土 ロームブロック多混, しまりがある
5. 褐色土 ロームブロックやや多混, ややしまりがない
6. 褐色土 ロームブロックやや多混, しまりがない
7. 褐色土 ロームブロック主体, しまりがない
8. 黒褐色土 しまりがない
9. 灰褐色土 砂多混, しまりがある
10. 暗褐色土 ローム粒多混, しまりがない
11. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがない
12. ロームブロック しまりがない

D 32.5m P4 —D'



P4

1. 暗褐色土 砂多混, しまりがある
2. 暗褐色土 砂少混, ややしまりがある
3. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがある
4. 暗褐色土 ロームブロック混, しまりがある
5. 暗褐色土 砂・ローム多混, しまりがない
6. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがない
7. 暗褐色土 ローム粒多混, しまりがある
8. 暗褐色土 ローム粒多混, ロームブロック少混, しまりがある
9. 暗褐色土 ローム粒多混, ロームブロックやや多混, しまりがある
10. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多混, しまりがある
11. 暗褐色土 ローム主体, しまりがある

E 32.5m P5 —E'



P5

1. 褐色土 砂多混, しまりがある
2. 砂主体 しまりがある
3. 暗褐色土 砂少混
4. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがある
5. 黒褐色土 砂少混しまりがある
6. 暗褐色土 ローム粒少混, 粘性がある
7. 褐色土 砂多混, しまりがある
8. 暗褐色土 ロームブロック少混, しまりがない
9. 暗褐色土 しまりがある

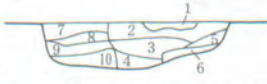
F 32.5m P6 —F'



P6

1. 暗褐色土 ローム粒多混, しまりがない
2. 暗褐色土 砂多混, しまりがある
3. 暗褐色土 砂多混, しまりがない
4. 暗褐色土 砂・ロームブロック多混, しまりがない
5. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがない
6. ローム主体
7. ロームブロック
8. 黒褐色土 ローム粒多混
- 9~12. 暗褐色土 ロームブロック混, 似た土層で下部に向かって混入率が高い
13. ロームブロック, しまりがない (地下式坑と関連)

G 32.5m P7 —G'



P7

1. 褐色土 砂・ローム粒少混, しまりがある
2. 褐色土 砂多混, しまりがある
3. 黒褐色土 赤茶色砂多混, しまりがある
4. 黒褐色土 ロームブロック少混, しまりがない
5. 黒褐色土 ロームブロック多混, しまりがある
6. 黒褐色土 ロームブロック多混, しまりがない
7. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがある
8. 暗褐色土 ロームブロック多混
9. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがある
10. ロームブロック, しまりがある

H 32.5m P8 —H'



P8

1. 暗褐色土 ローム粒・砂混, しまりがある
2. 暗褐色土 砂多混, つき固められている
3. 暗褐色土 ロームブロック・砂混, しまりがある
4. 暗褐色土 ローム粒混, しまりがない
5. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがない
6. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがある
7. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがある, 粘性がある
8. 暗褐色土 ロームブロック主体
9. 暗褐色土 ロームブロック主体, しまりがない
10. ロームブロック, しまりがある

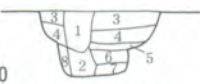
I 32.5m P9 —I'



P9

1. 黒褐色土 ロームブロック多混, しまりがある
2. 黒褐色土 ロームブロック多混, しまりがある
3. 暗褐色土 ロームブロック多混, ややしまりがない
4. 暗褐色土 ロームブロック多混, ややしまりがない
5. 褐色土 ローム粒少混, しまりがない
6. 暗褐色土 ローム粒やや多混
7. 黒褐色土 ローム粒少混

J 32.5m P10 —J'



P10

1. 褐色土 砂多混, しまりがある
2. 黒褐色土 しまりがある
3. 褐色土 ローム粒少混, しまりがある
4. 褐色土 ロームブロック多混, しまりがある
5. 暗褐色土 ロームブロック少混, しまりがある
6. ロームブロック
7. 黒褐色土 しまりがない
8. 褐色土 しまりがある

K 32.5m P11 —K'



P11

1. 褐色土 ローム粒少混
2. 褐色土 ロームブロック少混, しまりがない
3. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがない
4. 暗褐色土 底部にはロームブロック, しまりがない
5. 褐色土 ローム粒やや多混, しまりがない
6. 褐色土 ロームブロック多混, ややしまりがない
7. 褐色土 ロームブロック多混, ややしまりがある
8. 黒褐色土 ロームブロック多混, しまりがない

L 32.5m P12 —L'



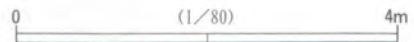
P12

1. 黒褐色土 しまりがある
2. 暗褐色土 ローム粒少混
3. 黒褐色土 ロームが多混, しまりがある
4. 黒褐色土 ロームブロック多混, しまりがない
5. 明褐色土 ローム・黒色土混

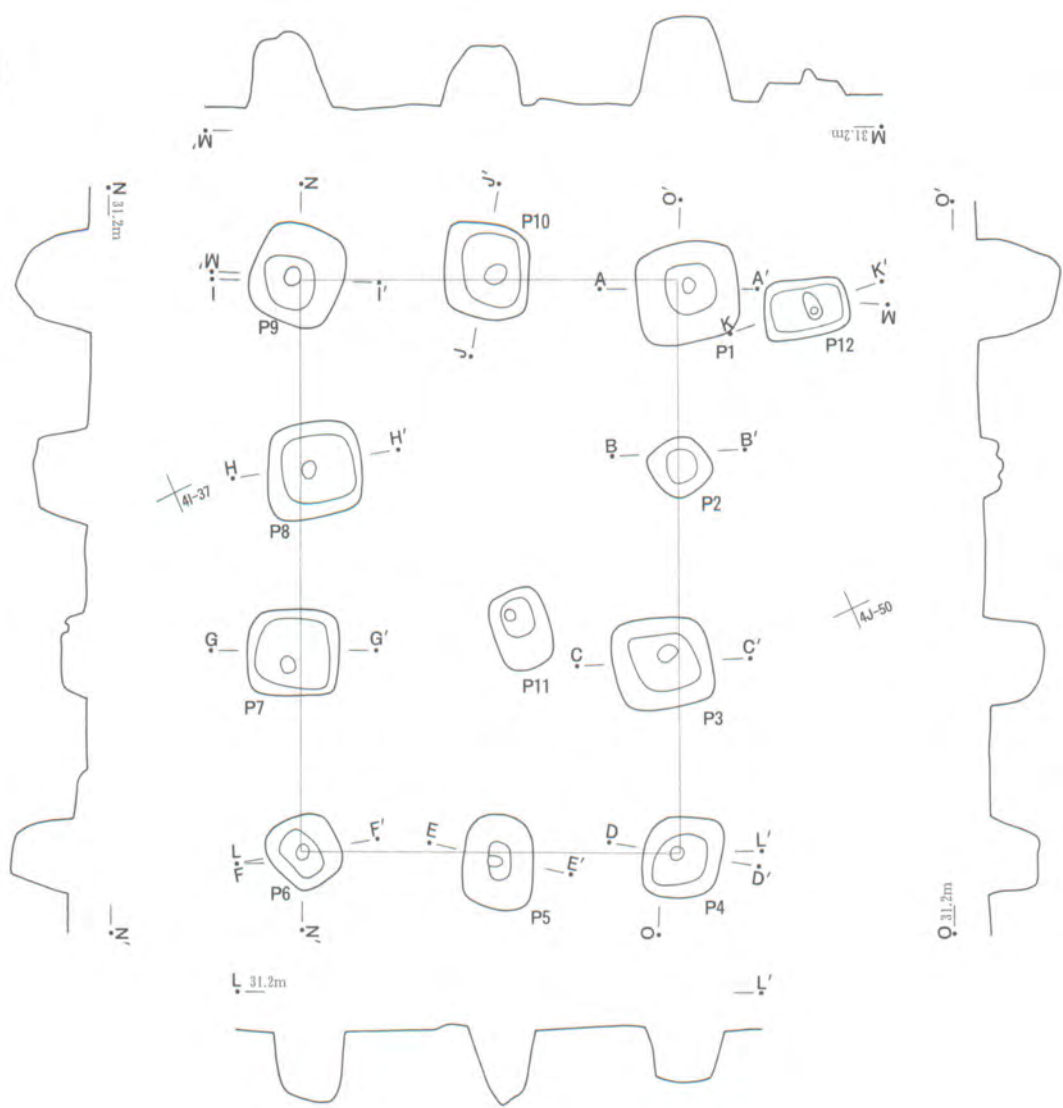
M 32.5m P13 —M' P13



1. 黒褐色土
2. 暗褐色土 ローム粒多混, しまりがない
3. 暗褐色土 ロームブロック多混



第106図 SB-008 (2)

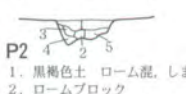


A 31.2m P1 A'



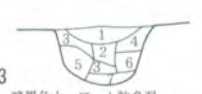
- P1**
1. 白色砂混土 しまりがある(柱穴部分)
 2. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがない
 3. 黒褐色土 ロームブロック多混, しまりがある
 4. 黒褐色土 ローム粒多混, しまりがない
 5. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多混, しまりがない
 6. 黒褐色土 ローム粒多混, しまりがない, 粘性がある
 7. ロームブロック
 8. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多混, しまりがない

B 31.2m P2 B'



- P2**
1. 黒褐色土 ローム混, しまりがある
 2. ロームブロック
 3. 暗褐色土 ロームブロック主体
 4. ローム主体 しまりがある
 5. 褐色土 ローム主体, 粘性がある

C 31.2m P3 C'



- P3**
1. 明褐色土 ローム粒多混
 2. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多混
 3. ロームブロック
 4. 明褐色土 しまりがない
 5. ロームブロック しまりがない
 6. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多混, しまりがある
 7. ロームブロック しまりがある

D 31.2m P4 D'



- P4**
1. 明褐色土 ローム粒多混
 2. 暗褐色土 ローム粒多混
 3. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがある
 4. 黒褐色土 ロームブロック多混, しまりがある
 5. ロームブロック しまりがある

E 31.2m P5 E'



- P5**
1. 褐色土 ロームブロック少混
 2. 暗褐色土 ローム少混
 3. 暗褐色土 ローム粒やや多混, しまりがない
 4. 黒褐色土 ロームブロック少混, しまりがある
 5. 暗褐色土 ローム粒多混
 6. ロームブロック しまりがある

F 31.2m P6 F'



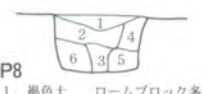
- P6**
1. 明褐色土 ロームブロック多混
 2. 暗褐色土 ローム粒多, しまりがない
 3. 褐色土 ローム粒主体, しまりがない
 4. 黒褐色土 ロームブロック多混, しまりがある
 5. 黒褐色土 ロームブロック多混, ややしまりがない
 6. 黒褐色土 ローム粒多混, しまりがある
 7. 黒褐色土 ローム粒多混, しまりがない
 8. 褐色土 ロームブロック多混, しまりがない
 9. 褐色土 ロームブロック多混, しまりがある

G 31.2m P7 G'



- P7**
1. 褐色土 ローム粒多混, しまりがある
 2. 黒褐色土 ロームは少混
 3. 黒褐色土 ローム粒多混
 4. 褐色土 ローム多混, しまりがある

H 31.2m P8 H'



- P8**
1. 褐色土 ロームブロック多混
 2. 黒褐色土 ロームブロック少混, しまりがある
 3. 黒褐色土 ロームブロック少混, しまりがない
 4. 褐色土 ローム混, しまりがある
 5. ロームブロック しまりがある
 6. ロームブロック しまりがない

I 31.2m P9 I'



- P9**
1. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多混
 2. ロームブロック
 3. 暗褐色土 白色砂粒多混, しまりがある
 4. 暗褐色土 しまりがない
 5. 暗褐色土 ローム粒少混, しまりがある
 6. 暗褐色土 ローム粒多混, しまりがある
 7. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多混, しまりがない
 8. ロームブロック しまりがある
 9. ロームブロック しまりがない

J 31.2m P10 J'

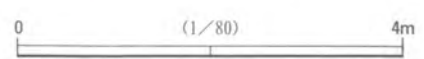


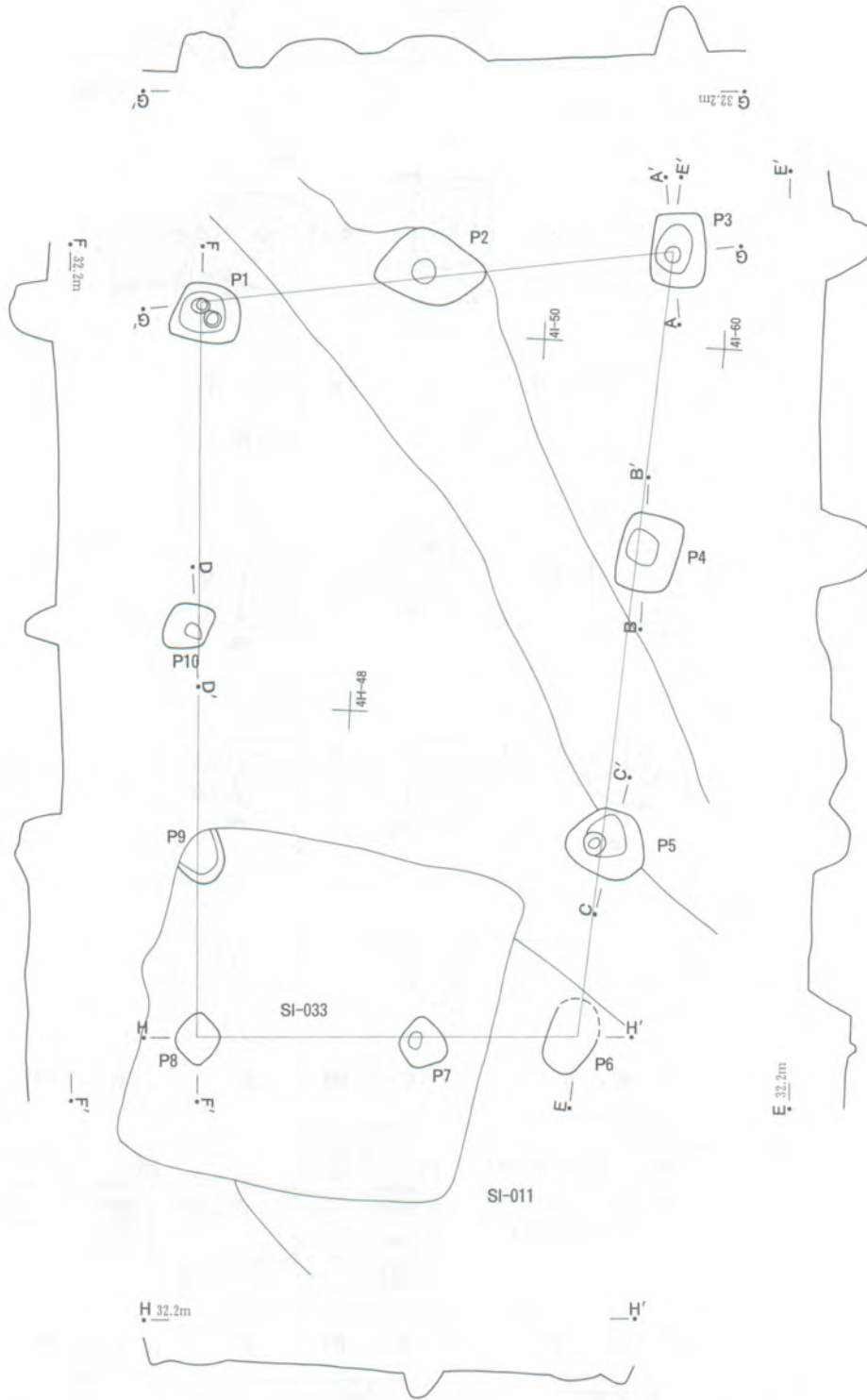
- P10**
1. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多混, しまりがある
 2. 黒褐色土 ロームブロック多混
 3. 暗褐色土 ローム粒多混, しまりがある
 4. 褐色土 ローム粒少混, しまりがある
 5. 黒褐色土 ロームブロック少混, しまりがある
 6. 褐色土 ロームブロック多混
 7. 褐色土 ロームブロック多混, しまりがない

K 31.2m P12 K'



- P12**
1. 暗褐色土 ローム粒多混, しまりがない
 2. 明褐色土 しまりがある
 3. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少混
 4. 黒褐色土 ローム微混, しまりがある
 5. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多混, しまりがある





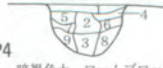
A 32.2m P3 —A'



P3

1. 褐色土 ロームブロック多混
2. 暗褐色土 ローム粒混、ややしまりがある
3. 暗褐色土 砂粒多混、しまりがない
4. 暗褐色土 ロームブロック少混、しまりがある
5. 褐色土 ローム粒少混、しまりがある
6. 暗褐色土 ロームブロック少混、しまりがない
7. 暗褐色土 ローム微混、砂粒多混、しまりがない
8. 褐色土

B 32.2m P4 —B'



P4

1. 暗褐色土 ロームブロック多混、しまりがない
2. 暗褐色土 ロームブロック多混、しまりがある
3. 黒褐色土 ロームブロック多混、しまりがない
4. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多混、しまりがない
5. 暗褐色土 ローム粒多混、しまりがある
6. 褐色土 ローム少混、しまりがない
7. 暗褐色土 ローム少混、しまりがある
8. 黒褐色土 ローム粒少混、しまりがない
9. 褐色土 ローム粒多混、しまりがある

C 32.2m P5 —C'



P5

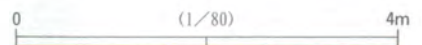
1. 暗褐色土 ローム粒微混
2. 黒褐色土 ローム粒多混
3. 暗褐色土 ローム粒多混
4. ロームブロック

D 32.2m P10 —D'

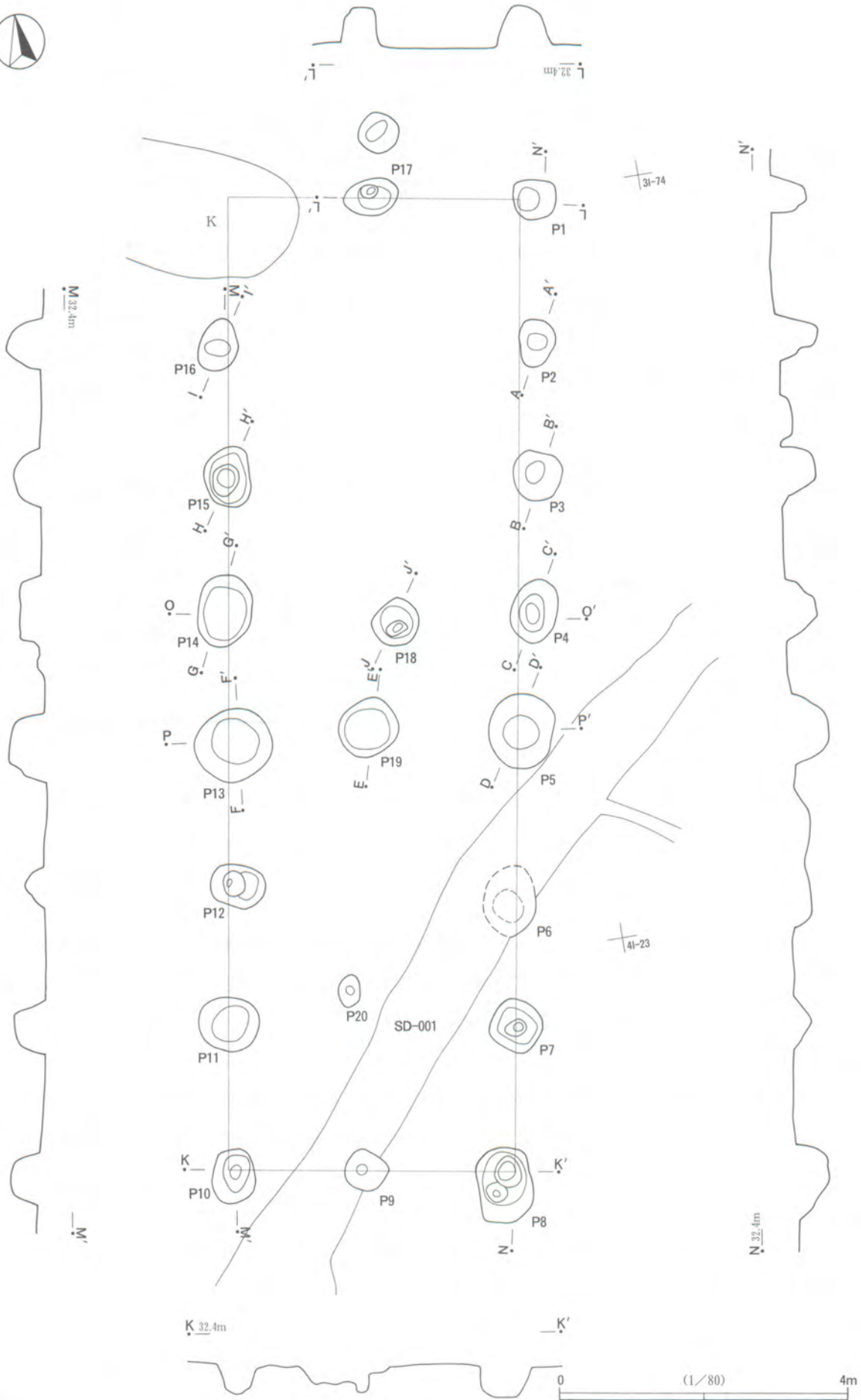


P10

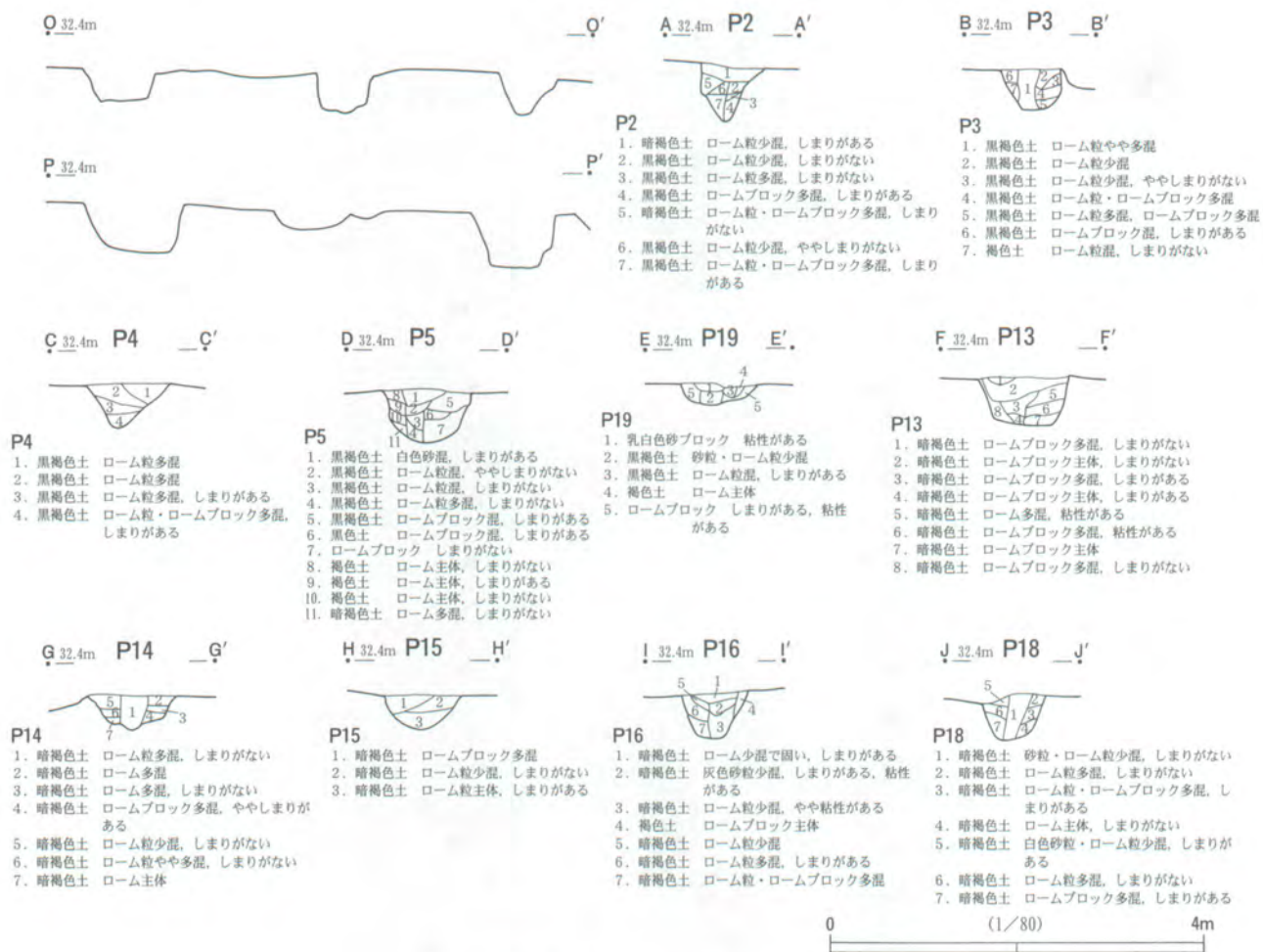
1. 黒褐色土 ロームブロック少混
2. 褐色土 ローム粒少混
3. 褐色土 ローム粒多混
- 4・5. 黒褐色土 ローム粒多混、しまりがある
6. 暗褐色土 ローム粒多混、ややしまりがない
7. 黒褐色土 ローム粒多混、しまりがない



第108図 SB-010



第109図 SB-011 (1)



第110図 SB-011 (2)

SB-008 (第105・106図 図版50)

中央区中央東端に位置する。主要グリッドは3G-68である。柱跡の平面形は方形である。覆土中の柱痕が明瞭なものがある。掘立柱建物跡では本遺跡最大で、西側柱列は未調査区である。内部に柱跡があり、側柱に比べて小さい。柱跡の構造から倉庫跡と考えられる。

SB-009 (第107図 図版50)

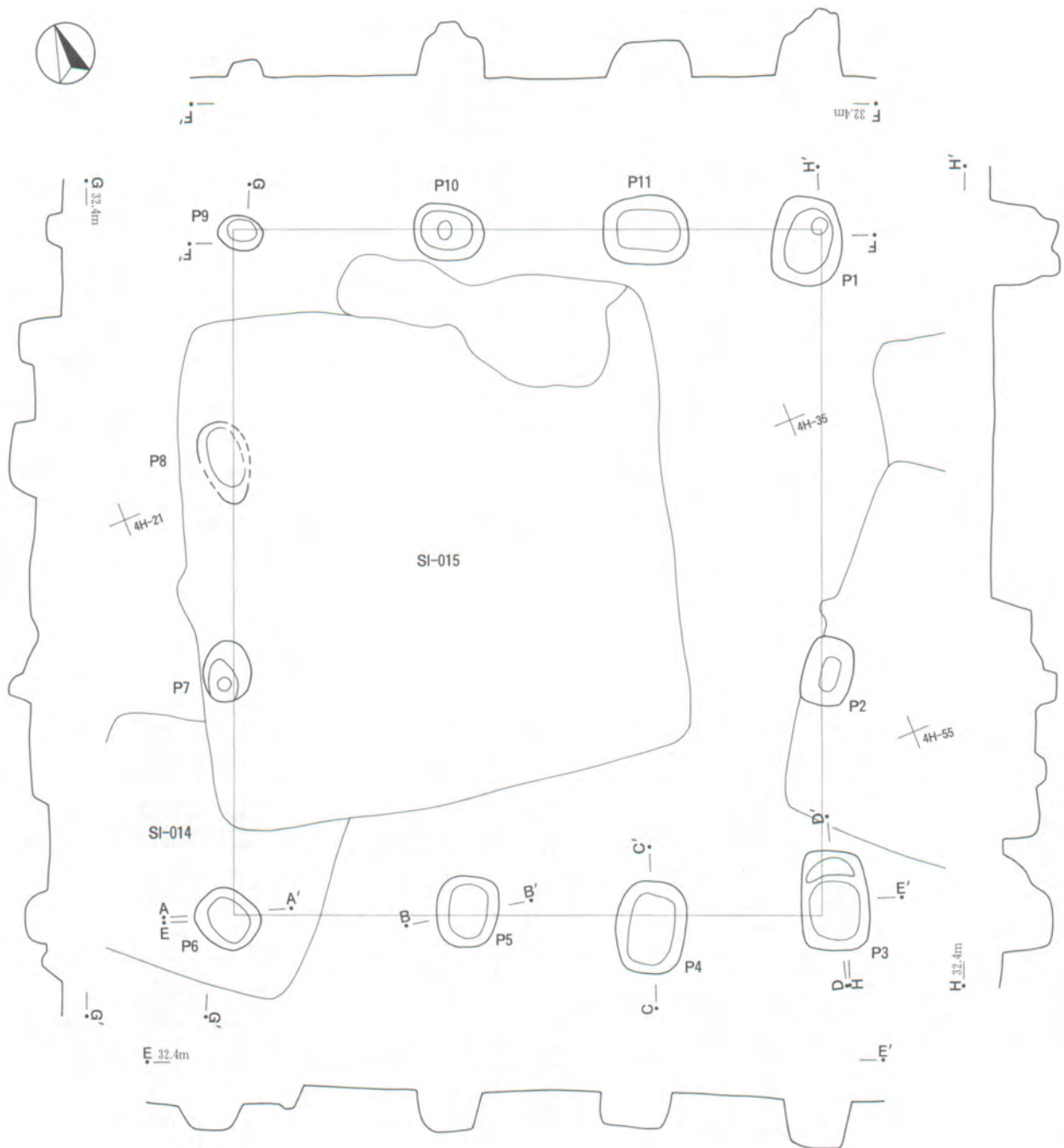
中央区中央南端に位置する。主要グリッドは4I-48である。柱跡の平面形は方形である。覆土中の柱痕が明瞭である。内部に柱跡があり、側柱に比べて小さい。南庇の建物とも考えられるが、柱跡規模から倉庫跡と考えられる。

SB-010 (第108図 図版51)

東部中央南寄りに位置する。主要グリッドは4H-48である。SI-033と重複するが、本遺構が新しい。柱跡の平面形は方形である。一部の柱跡で、覆土中の柱痕が明瞭である。

SB-011 (第109・110図 図版51)

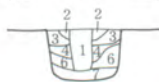
東部中央やや南寄りに位置する。主要グリッドは4I-01である。SD-001と重複し、本遺構が古い。柱跡の平面形は円形である。長大であるが、縦列に3間×2間が2棟とも考えられる。



A 32.4m P6 A'



B 32.4m P5 B'



C 32.4m P4 C'

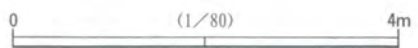


D 32.4m P3 D'

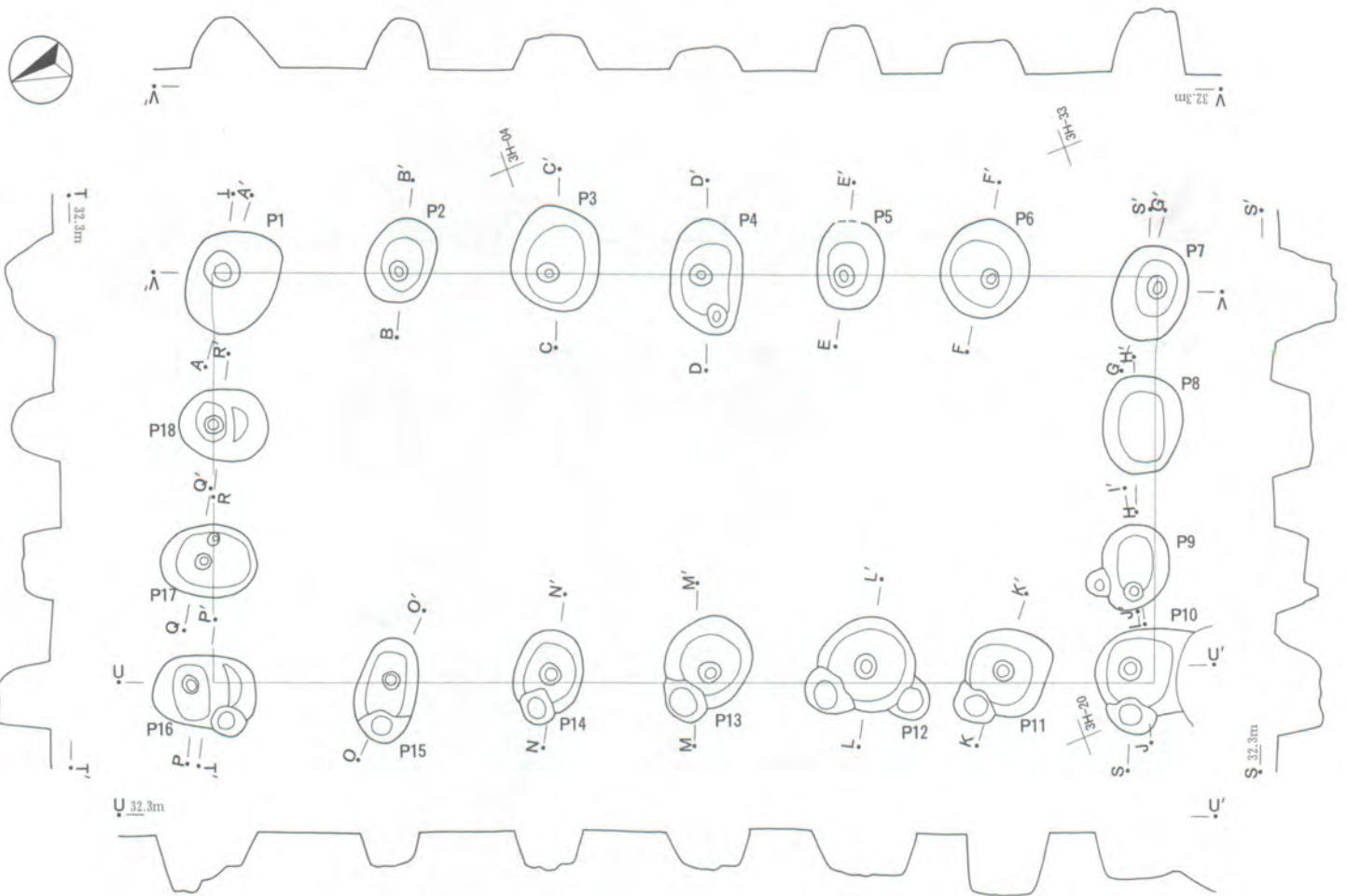


SB-012 (全セクション共通)

1. 黒褐色土 ローム微混, しまりがない (柱痕)
2. 黒色土 ローム微混, ややしまりがある
3. 黒褐色土 ローム少混, ややしまりがある
4. 黄褐色土 ローム多混, 黒褐色土少混, ややしまりがある
5. 暗黄褐色土 黒褐色土多混, ややしまりがある
6. 暗褐色土 ローム多混, ややしまりがある
7. 黄褐色土 ロームブロック多混, ややしまりがある



第111図 SB-012



A 32.3m P1 A'

- P1**
1. 黒褐色土 砂粒多混, ローム粒少混
 2. 黒褐色土 ローム粒少混
 3. 黒褐色土 ローム粒やや多混, しまりがある, 粘性がある
 4. 黒褐色土 ローム粒多混, しまりがある
 5. ローム主体 しまりがない

B 32.3m P2 B'

- P2**
1. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがない
 2. 黒褐色土 ローム粒微混, しまりがある
 3. 黒褐色土 ロームブロック少混, しまりがある
 4. 黒褐色土 ロームブロック微混
 5. 黒褐色土 ローム微混, しまりがある
 6. 黒褐色土 ロームブロック少混, しまりがある
 7. 黒褐色土 ローム微混, しまりがない

C 32.3m P3 C'

- P3**
1. 黒褐色土 ローム粒多混, しまりがある
 2. 黒褐色土 ローム粒・砂粒少混入, しまりがある
 3. 暗褐色土 しまりがある, 粘性がある
 4. 暗褐色土 ロームブロック多混, 粘性がある

D 32.3m P4 D'

- P4**
1. 黒褐色土 白色砂粒多混, しまりがない
 2. 黒褐色土 白色砂粒多混・ローム粒少混, しまりがない
 3. 灰褐色土 白色砂粒少混・ローム粒少混
 4. 黒褐色土 白色砂粒多混・ロームブロック多混, しまりがない
 5. 灰褐色土 白色砂粒多混・ローム粒少混, しまりがない
 6. 褐色土 ローム主体
 7. 褐色土 ローム主体, 粘性がある

E 32.3m P5 E'

- P5**
1. 灰白色土 黒色土少混, 灰白色砂粒多混, しまりがある
 2. 暗褐色土 褐色土主体, 黒色土少混, しまりがある
 3. 黒色土 褐色土粒微混, しまりがない
 4. 灰黒色土 黒色土主体, 灰白色砂粒・ローム粒少混, しまりがある
 5. 黒褐色土 黒色土主体, 褐色土粒微混, しまりがない
 6. 黄褐色土 ロームブロック主体, しまりがある
 7. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック微混, しまりがある
 8. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少混, ややしまりがない

F 32.3m P6 F'

- P6**
1. 黒色土 ローム粒極微混, しまりがない
 2. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒微混, 灰白色砂粒少混, しまりがない
 3. 黒褐色土 ローム粒多混, しまりがない
 4. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少混, しまりがない
 5. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがない
 6. 黒色土 ローム粒極微混, しまりがある
 7. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少混, しまりがある

G 32.3m P7 G'

- P7**
1. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒・ロームブロック多混, しまりがない
 2. 褐色土 ローム粒少混, しまりがある
 3. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒少混, ややしまりがない
 4. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒微混, しまりがある
 5. 黒褐色土 ローム粒多混, ややしまりがない
 6. 黒褐色土 ローム粒多混, しまりがない

H 32.3m P8 H'

- P8**
1. 黒色土 ローム粒微混, しまりがない
 2. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒微混, しまりがある
 3. 黒色土 ローム粒極微混, ややしまりがある
 4. 黒色土 ローム粒極微混, しまりがある
 5. 黒色土 ローム粒・ロームブロック少混, しまりがある

I 32.3m P9 I'

- P9**
1. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがある
 2. 黒褐色土 ローム粒やや多混, ロームブロック少混, しまりがある
 3. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックやや多混, しまりがある

J 32.3m P10 J'

- P10**
1. 黒褐色土 ローム粒微混, しまりがある
 2. 黒色土 ローム粒極微混, しまりがある
 3. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがある, ややしまりがある
 4. 黒褐色土 ローム粒微混, しまりがある
 5. 黒褐色土 ロームブロック少混, ややしまりがある

K 32.3m P11 K'

- P11**
1. 黒褐色土 ローム粒少, しまりがない
 2. 黒色土 ローム粒微混, しまりがある
 3. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒微混, ロームブロック多混, しまりがある
 4. 黒色土 ローム粒少混, しまりがある
 5. 黒色土 ローム粒微混, ややしまりがある

L 32.3m P12 L'

- P12**
1. 黒色土 ローム粒微混, しまりがない
 2. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがある
 3. 黒色土 ローム粒極微混, しまりがある
 4. 黒色土 ローム粒・ロームブロック微混, しまりがある

M 32.3m P13 M'

- P13**
1. 黒褐色土 黒色土・ローム粒少混, ややしまりがない
 2. 黒褐色土 黒色土やや多混, ローム粒少混, ややしまりがある
 3. 黒褐色土 黒色土・ローム粒やや多混, しまりがある
 4. 黒色土 ローム粒微混, しまりがある

N 32.3m P14 N'

- P14**
1. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがある
 2. 黒褐色土 ローム粒微混, しまりがある
 3. 黒褐色土 ローム粒微混, ロームブロック多混, しまりがある
 4. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック微混, しまりがある

O 32.3m P15 O'

- P15**
1. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがない
 2. 黒色土 ローム粒極微混, しまりがない
 3. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがない
 4. 黒褐色土 ローム粒やや多混, しまりがある
 5. 黒色土 ローム粒微混, しまりがある

P 32.3m P16 P'

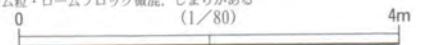
- P16**
1. 褐色土 黒色土少混, ローム粒多混, しまりがある
 2. 褐色土 黒色土・ローム粒多混, ややしまりがある
 3. 褐色土 ローム粒微混, しまりがない
 4. 黒色土 ローム粒少混, しまりがない
 5. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒少混, しまりがある

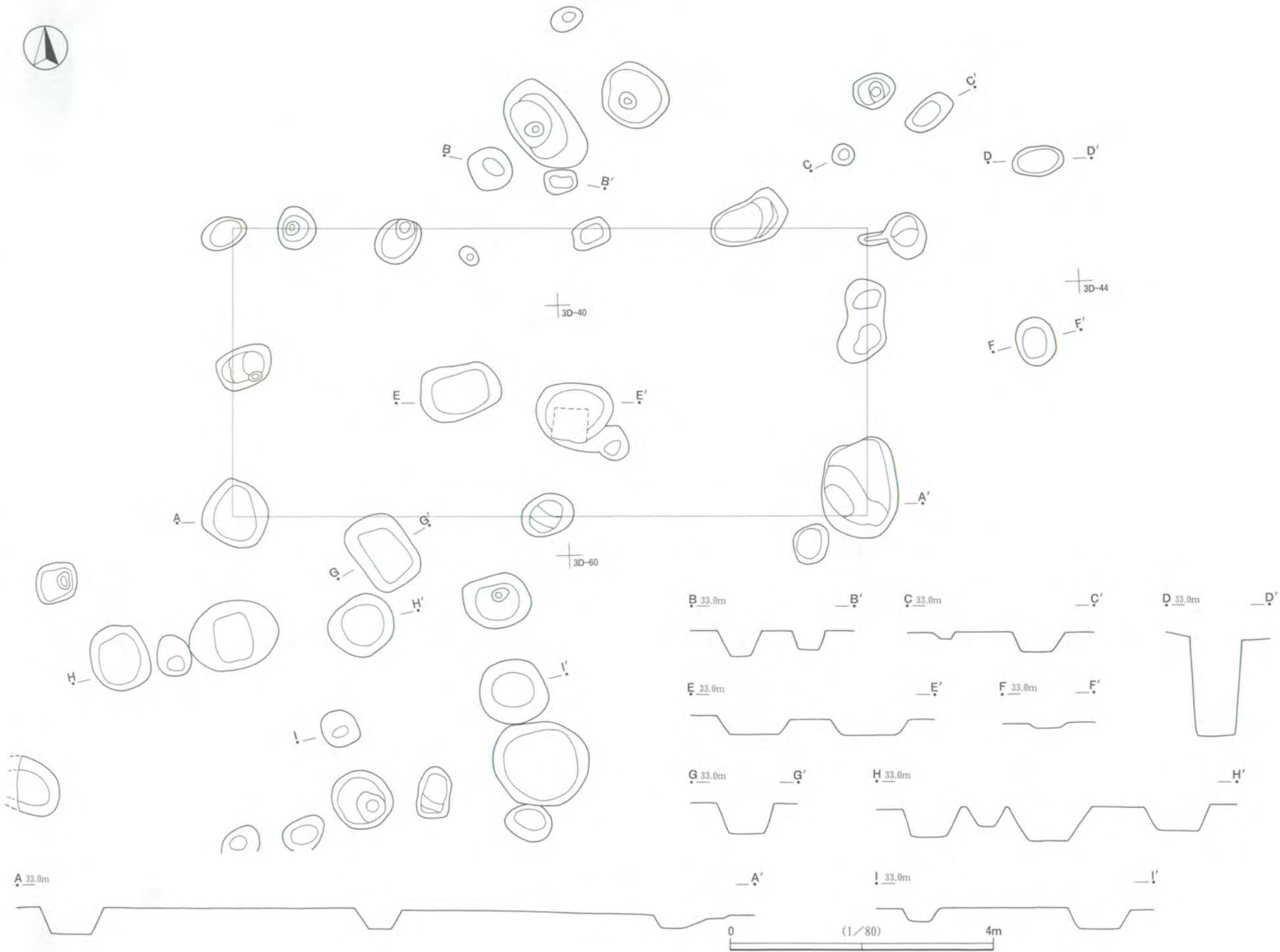
Q 32.3m P17 Q'

- P17**
1. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがある
 2. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがない
 3. 褐色土 ローム主体
 4. 黒褐色土 ローム粒やや多混, しまりがある
 5. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがある

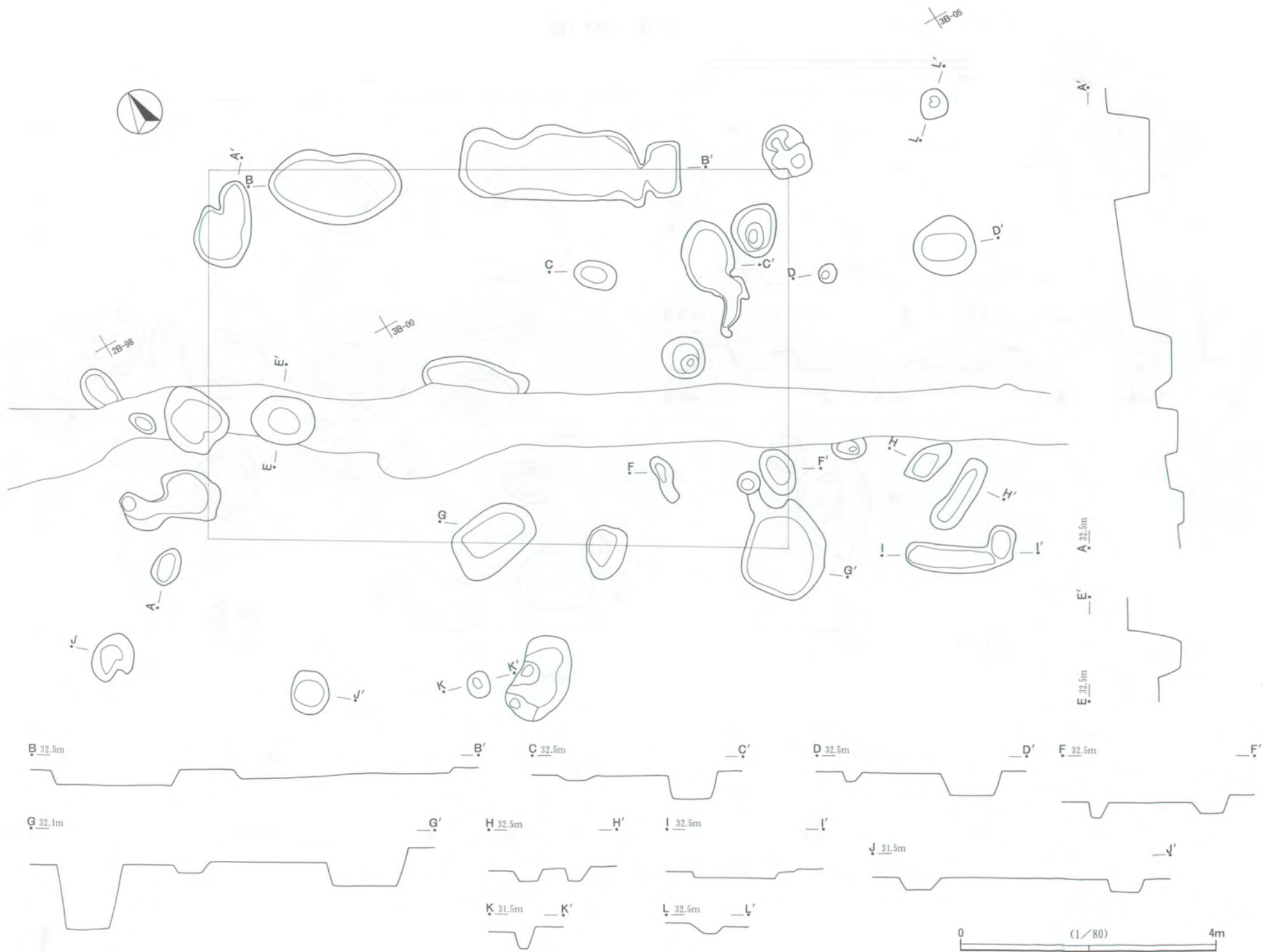
R 32.3m P18 R'

- P18**
1. 灰白色土 灰白色砂主体, 黒色土微混, しまりがある
 2. 黒色土 灰白色砂粒微混, しまりがない
 3. 暗褐色土 ローム粒少混, 灰白色砂粒微混, しまりがある
 4. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少混, しまりがある
 5. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック微混, しまりがある





第113图 SB-014



第114圖 SB-015

SB-012 (第111図 図版51)

東部南西端に位置する。主要グリッドは4H-33である。SI-015と重複するが、本遺構が新しい。柱跡の平面形は方形である。一部の柱跡で、覆土中の柱痕が明瞭である。正方形の建物跡で、中心的な施設の可能性がある。

SB-013 (第112図 図版52)

東部北西端に位置する。主要グリッドは3H-02である。柱跡の平面形は円形および楕円形である。底面の柱痕が明瞭である。西側柱跡にピットが付属する。長大な掘立柱建物跡で、中心的な施設の可能性がある。

SB-014 (第113図 図版52)

西部北東寄りに位置する。主要グリッドは3D-40である。柱跡の平面形は円形および楕円形である。

SB-015 (第114図 図版52)

西部北西端に位置する。主要グリッドは3B-00である。SD-008と重複するが、本遺構が古い。柱跡の平面形は円形および楕円形である。

第3節 土 坑 (第4・5表)

ほかの遺構との重複関係および出土遺物から奈良・平安時代とした。

SK-079 (第115図 図版53)

東区南西端に位置する。主要グリッドは4H-87である。SK-080に隣接する。平面形は楕円形である。底面が長方形であるので、元は長方形と考えられる。床面は平坦である。

SK-080 (第115図 図版53)

東区南西端に位置する。主要グリッドは4H-87である。SK-079に隣接する。平面形は楕円形である。

SK-106 (第115図)

東区中央に位置する。主要グリッドは3I-75である。SE-003と重複するが、土層断面から本遺構が古い。底面の平面形は円形である。

SK-109 (第116図 図版53)

東区中央北寄りに位置する。グリッド3I-32を中心に、SK-110・111・112と隣接して分布する。平面形はややゆがんだ長方形である。

SK-110 (第116図 図版53)

東区中央北寄りに位置する。グリッド3I-32を中心に、SK-109・111・112と隣接して分布する。平面形は楕円形で、底面に段がある。2基の重複と考えられる。

SK-111 (第116図 図版53)

東区中央北寄りに位置する。グリッド3I-32を中心に、SK-109・110・112と隣接して分布する。平面形は丸みのある長方形である。掘立柱建物跡の柱跡の可能性がある。

SK-112 (第116図 図版53)

東区中央北寄りに位置する。グリッド3I-32を中心に、SK-109・110・111と隣接して分布する。平面形はほぼ正方形で、底面は平坦である。

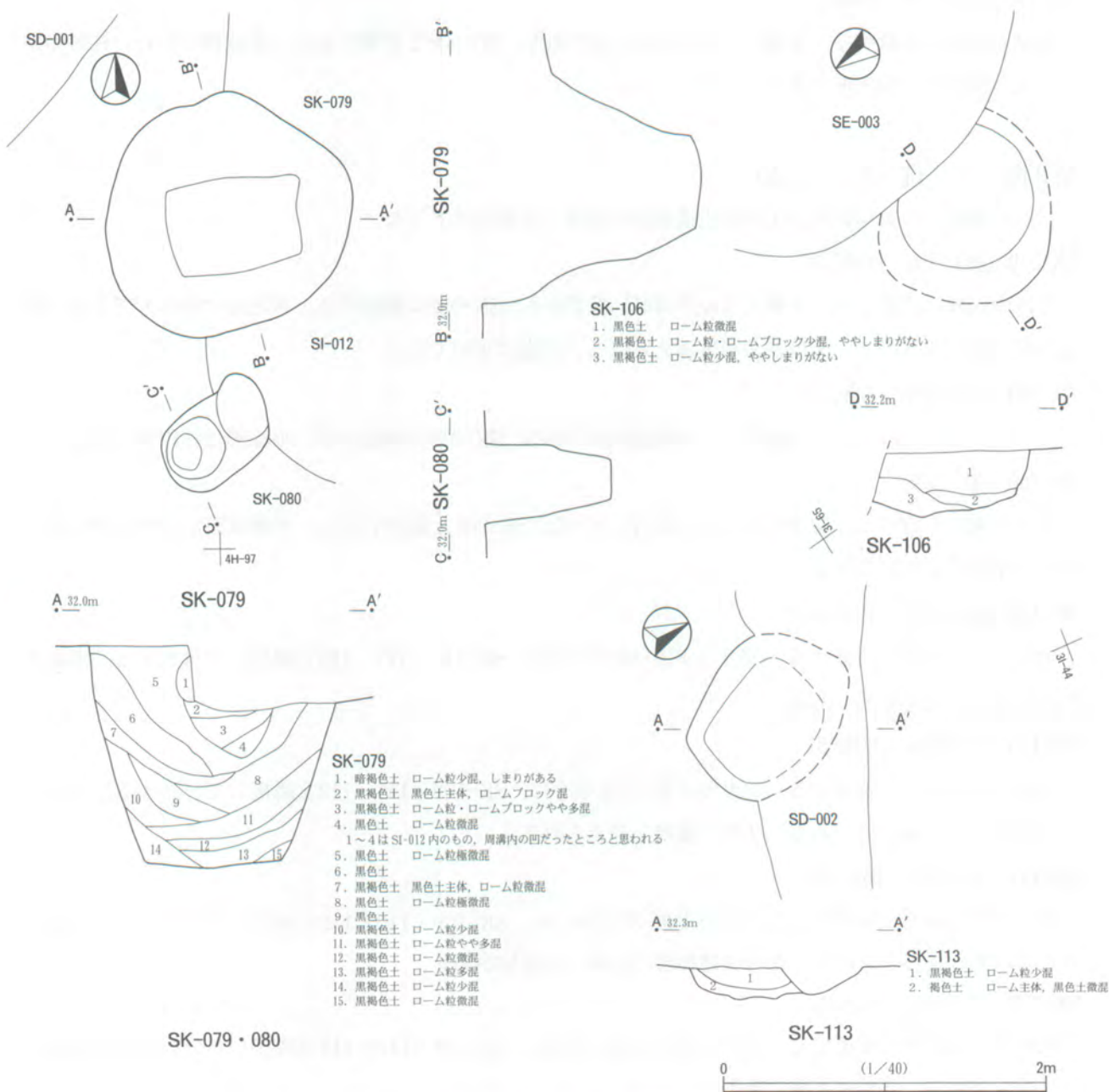
SK-113 (第115図 図版53)

東区中央に位置する。主要グリッドは3I-44である。SD-002と重複するが、土層断面から本遺構が古い。平面形は長方形と考えられ、底面に凹凸がある。

SI-009 (第116・117図 図版53)

西区南西端に位置する。主要グリッドは4B-14である。SI-004と重複するが、土層断面から本遺構が古い。大型の土坑で、発掘時は住居跡として調査された。平面形はややゆがんだ円形である。覆土はレンズ状で、自然堆積である。底面は平坦である。遺物は少量で、覆土からの出土である。

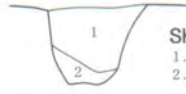
1・2は土師器である。1は非ロクロ成形の坏で、底部中央を欠く。丸みのある底部から体部がゆるやかに内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は外傾し、口縁はわずかに外反する。内外面全面に赤彩が施される。2は甕である。口縁から胴部上端部である。口縁部が短く外反し、口縁は受け口状である。



第115図 SK-079・080・106・113



A 32.4m SK-109 A'



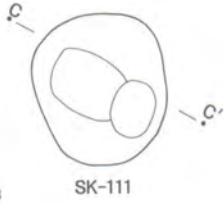
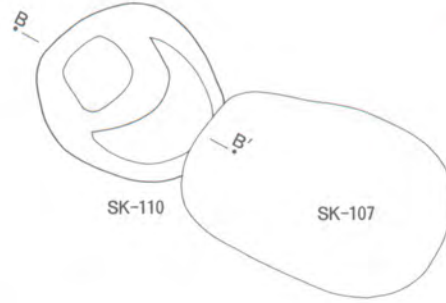
SK-109
1. 黒褐色土 ローム粒少量混、しまりがある
2. 黒色土 ローム粒極微混、しまりが無い

B 32.4m SK-110 B'



SK-110
1. 黒褐色土 ローム粒微混、しまりがある
2. 黒色土 ローム粒極微混、しまりが無い
3. 褐色土 ローム粒多混
4. 褐色土 ローム粒多混、ロームブロック少混
3層4層はSD-002の土層

3I-32



3I-43

C 32.4m SK-111 C'



SK-111
1. 黒褐色土 ローム粒微混、しまりがある
2. 黒色土 ローム粒極微混、しまりが無い
3. 褐色土 ローム粒・ロームブロック少混

D 32.4m SK-112 D'



SK-112
1. 黒褐色土 ローム粒微混、しまりがある
2. 黒色土 ローム粒極微混、しまりが無い



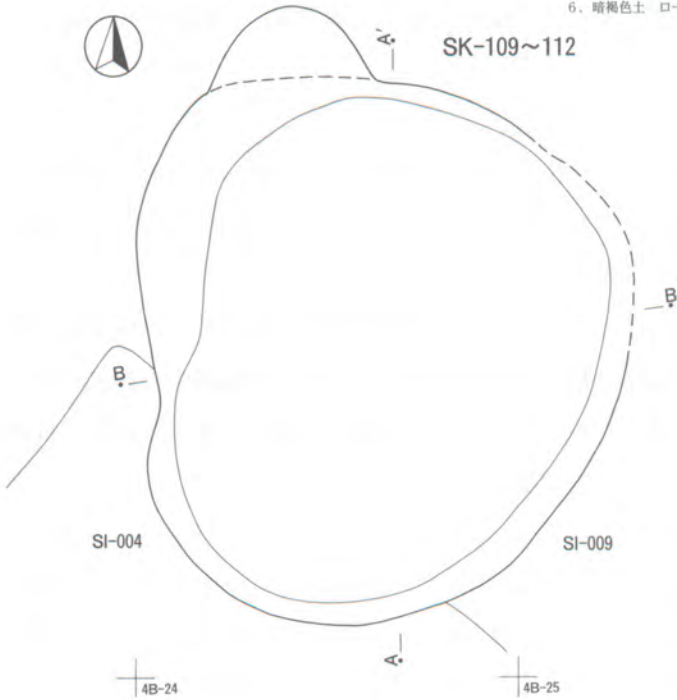
SI-009

1. 褐色土 ロームブロック主体
2. 暗褐色土 ローム粒少混 SI-003カマドの被熱
3. 暗褐色土 2層と同じ SI-003の被熱をうけていない
4. 暗褐色土 ローム粒や多混
5. 暗褐色土 ローム粒少混
6. 暗褐色土 ローム粒多混

7. 暗褐色土 ややしまりが無い
8. 褐色土 ローム粒主体 しまりが無い
9. 黒色土 ローム粒少混
10. 暗褐色土 ローム粒微混
11. ロームブロック
12. 暗褐色土 黒色土少混、ローム粒多混、しまりが無い

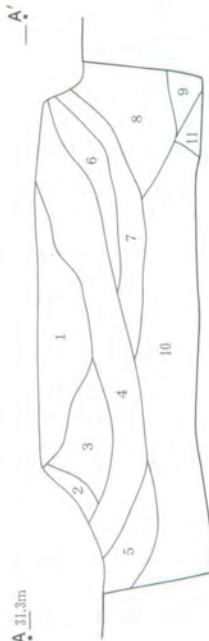


SK-109~112



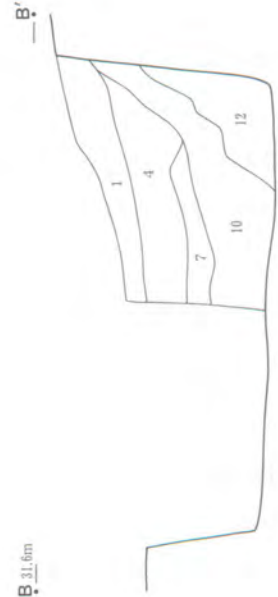
4B-24

4B-25



A 31.3m

SI-009



B 31.6m

0 (1/40) 2m

第116図 SK-109~112・SI-009



第117図 SI-009出土遺物

第4節 井戸跡 (第4・5表)

調査区南東のゆるやかな斜面部に3基検出された。同型で、底面中央に円形または方形の掘り方がある。

SE-001 (第118図 図版54・77)

中央区南東端に位置する。主要グリッドは4G-79である。掘り方の平面形は円形で、断面は播り鉢状である。覆土は細かく分層され、埋め戻しと考えられる。底面中央に方形の掘り方があり、方形の井戸枠が組まれていたと推定される。遺物はおもに覆土から出土している。

1～7は須恵器である。1～5はロクロ成形の坏である。1は底部中央がごくわずかに上げ底で、体部が屈曲して立ち上がり、外傾して直線的に口縁に至る。口縁はわずかに外反する。2・3は同型である。1・2の底部外面に線刻「×」が施される。4は体部下部から底部である。底部中央を欠く。平底で、体部が外傾して直線的に立ち上がる。5は底部である。平底で、外面に線刻「☆？」が施される。6は甕である。口縁から胴部上端部である。胴部は深鉢状で、口縁部が短く外反し、口縁は折り返し口縁である。胴部に横位の叩き目が施される。7は高台付鉢と考えられる。大型で、断面三角形の高台が付く。

8～11は土師器である。8は坏蓋である。須恵器坏蓋の模倣である。ツマミは非常に扁平な擬宝珠形で、端部が外反し、端部内側にカエリがある。9～11は甕である。9は小型で、胴部下部から底部である。底部中央を欠く。平底と考えられ、胴部は球形である。10は口縁から胴部上端部である。胴部は球形と考えられ、口縁部が短く外反し、口縁は丸い。11は大型である。口縁から胴部上端部で、口縁部が短く外反し、口縁は受け口状である。

SE-002 (第119図 図版54・77・79)

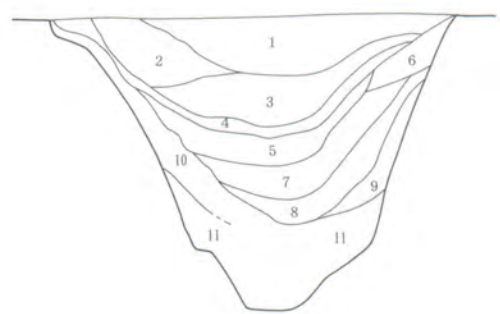
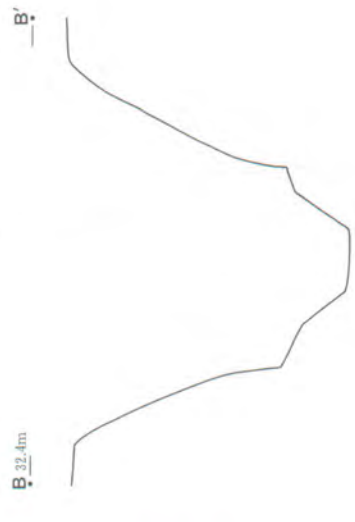
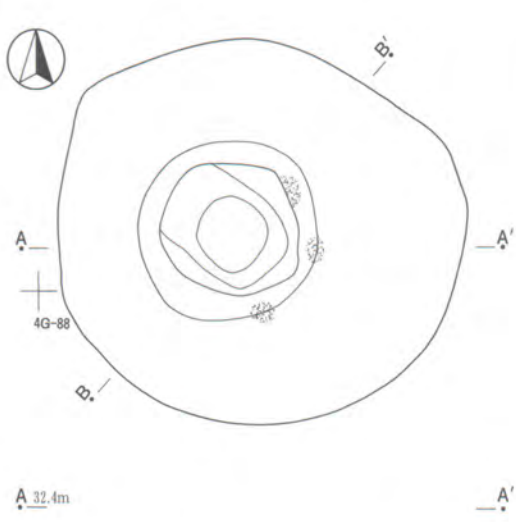
東区南東端に位置する。主要グリッドは4J-45である。掘り方の平面形はややゆがんだ円形で、断面は播り鉢状である。覆土は細かく分層され、埋め戻しと考えられる。底面中央に円形の掘り方があり、円形の井戸枠が組まれていたと推定される。遺物はおもに覆土から出土している。

1～5は土師器である。1～4は非ロクロ成形の坏である。1はやや丸みのある底部から、体部がゆるやかに内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は外傾し、口縁は丸い。2～4は底部中央を欠くが、1と同型である。5は甕である。口縁から胴部上端部である。胴部はやや縦長の球形と考えられる。口縁部は外反し、口縁は丸い。6は鉄製品である。板状で、大型製品の一部である。

SE-003 (第120図 図版54・77・79)

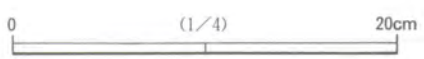
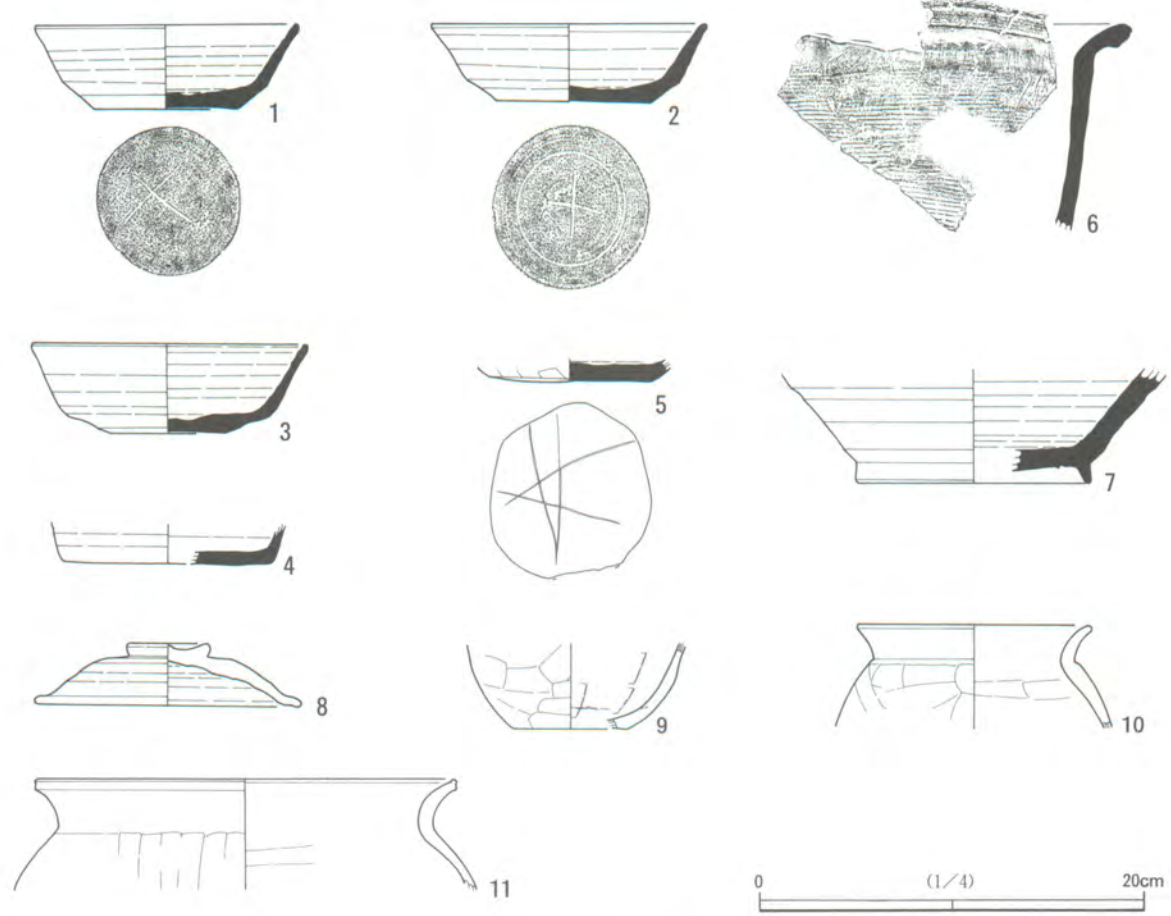
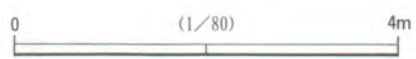
東区中央に位置する。主要グリッドは3I-66である。平面形は円形で、断面は逆台形である。覆土は細かく分層され、埋め戻しと考えられる。底面中央に方形の掘り方があり、方形の井戸枠が組まれていたと推定される。周囲にピットが検出された。上屋があったと考えられる。遺物はおもに覆土から出土している。

1～6は土師器である。1は非ロクロ成形の坏である。底部中央を欠く。やや丸みのある底部から、体



SE-001

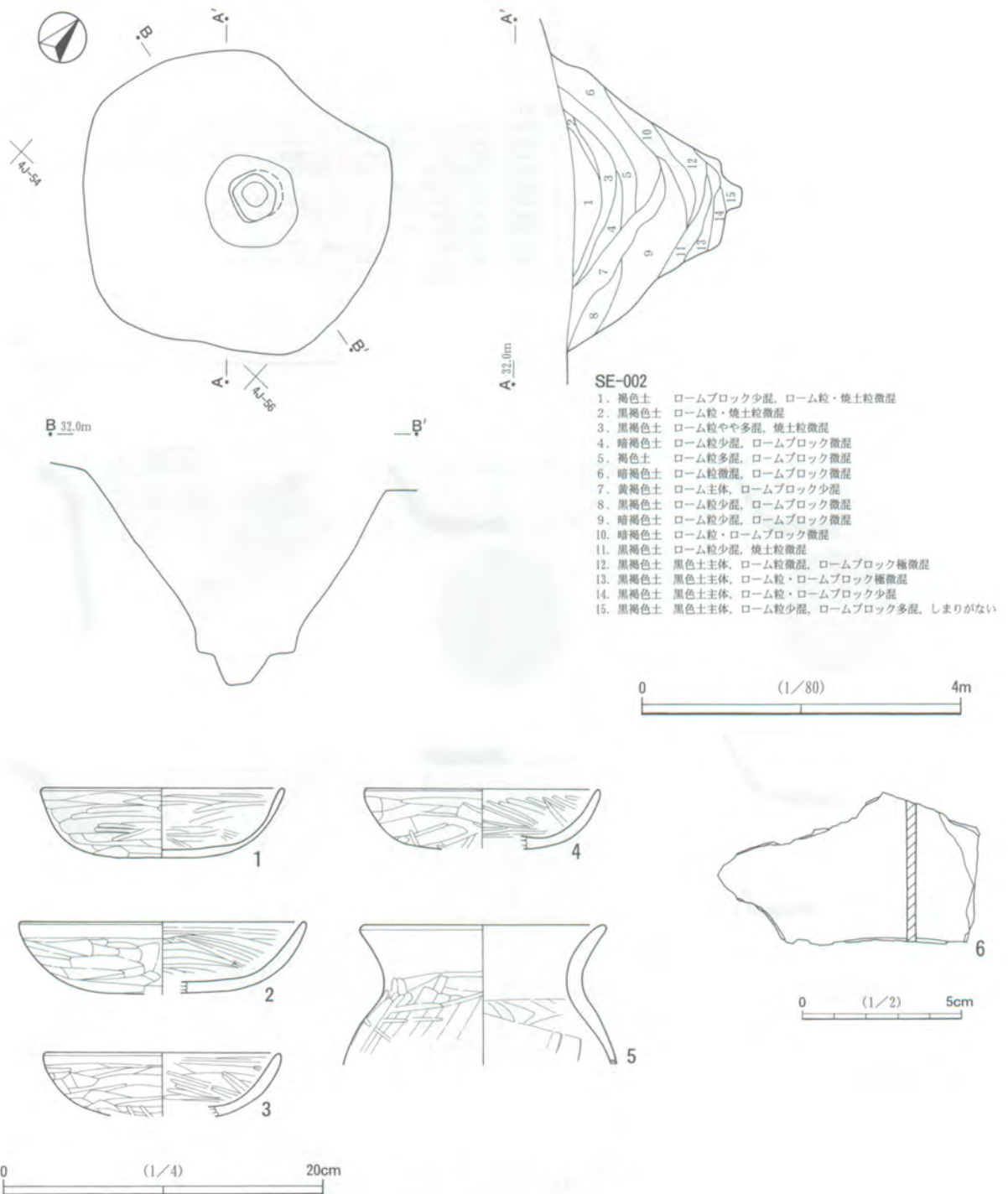
- 1. 黒褐色土 褐色土主体，黒色土少混，ローム粒・ロームブロック微混，しまりがある，粘性がある
- 2. 黒褐色土 褐色土主体，黒色土やや多混，ローム粒・ロームブロック微混
- 3. 暗褐色土 褐色土主体，黒色土微混，ローム粒微混，しまりがある，やや粘性がある
- 4. 暗褐色土 灰白色砂少混，しまりがある，粘性がある
- 5. 暗褐色土 しまりがある，粘性がある
- 6. 黒褐色土 褐色土主体，黒色土少混，しまりがある，粘性がある
- 7. 黒褐色土 褐色土主体，黒色土少混，ローム粒微混，しまりがある，粘性がある
- 8. 暗褐色土 褐色土多混，粘性がある
- 9. 黒褐色土 黒色土多混，ロームブロック微混，しまりがある
- 10. 黒褐色土 黒色土多混，ロームブロックやや多混，しまりがある
- 11. 黒色土 ローム粒微混，ややしまりがない



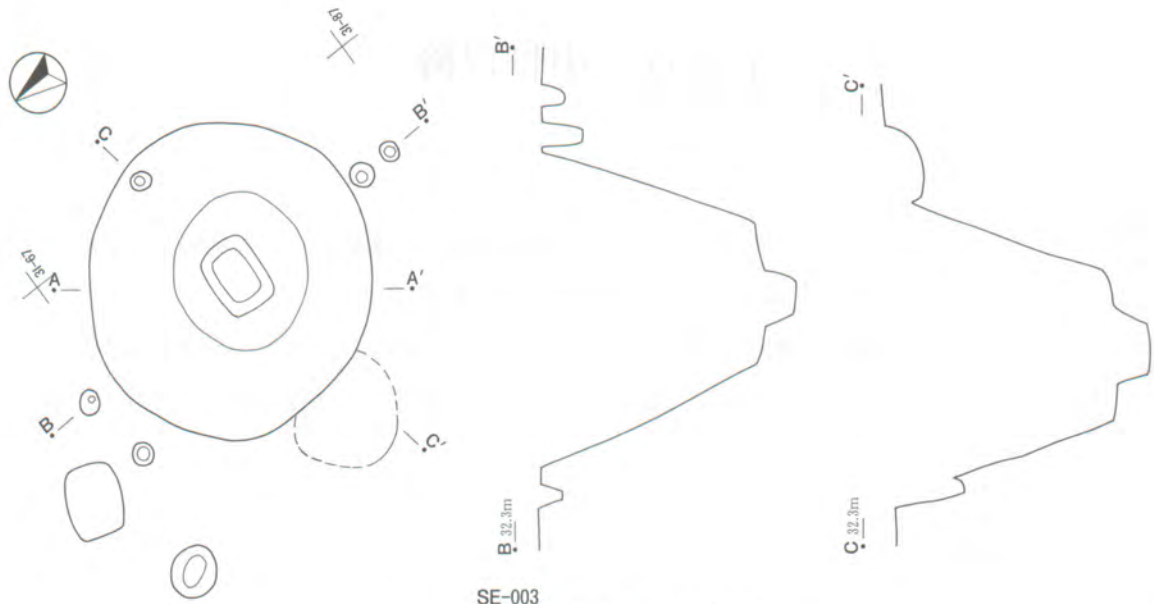
第118図 SE-001・出土遺物

部がゆるやかに内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立し、口縁は尖り気味である。2は高台付盤である。高台は断面四角形で小さい。体部がゆるやかに内彎して立ち上がり、わずかに外反して口縁に至る。口縁は内彎し、受け口状である。内面に暗文状のヘラナデが施される。3は盤である。丸底で、体部は扁平な半球形である。口縁部が外反して水平になり、口縁は受け口状である。4～6は甕である。6は大型である。口縁から胴部上端部である。胴部は逆玉子形と考えられる。口縁部が短く外反し、口縁は受け口状である。4は底部である。中央を欠くが平底である。5は胴部下部から底部である。底部は周辺だけであるが、平底と考えられる。胴部は逆玉子形と考えられる。

7は鉄製品である。棒状の断面四角形で釘と考えられる。8はスラグである。

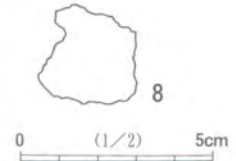
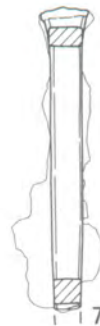
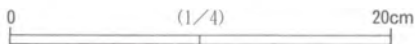
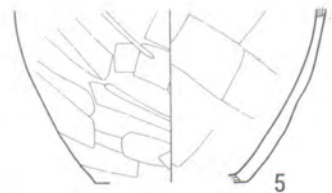
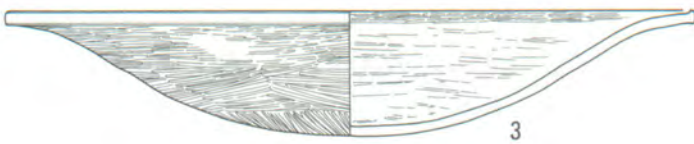
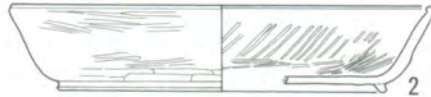
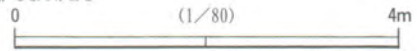
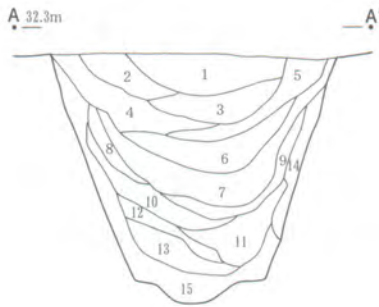


第119図 SE-002・出土遺物



SE-003

1. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがある
2. 黒褐色土 ローム粒やや多混, しまりがある
3. 黒色土 ローム粒微混, しまりがある
4. 暗褐色土 黒色土少混, ローム粒多混, ロームブロック微混, しまりがある
5. 暗褐色土 黒色土少混, ローム粒多混, しまりがある
6. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒微混, ややしまりがない
7. 黄褐色土 ローム粒多混, ロームブロック少混, ややしまりがない
8. 黒褐色土 ローム粒微混, しまりがある
9. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒少混, ロームブロック微混, ややしまりがない
10. 黄褐色土 ローム粒少混, ロームブロック少混
11. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック微混, ややしまりがない
12. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒微混, しまりがある
13. 黄褐色土 黒色土・ローム粒少混, ロームブロック多混, しまりがある
14. 黄褐色土 ローム粒少混, しまりがある
15. 暗褐色土 ローム主体, 黒色土微混, しまりがある



第120図 SE-003・出土遺物

第6章 中世以降

中世以降と考えられる遺構は、竪穴状遺構11基、地下式坑16基、土壙墓1基、土坑56基、溝10条、柵列7列、ピット群7か所、台地整形遺構1か所、焼土遺構1基である。

遺構の位置については、調査区を次のように区分して表記した。東西方向で、A～Dを西区、E～Gを中央区、H～Kを東区とした。また、遺構の規模、遺物の法量・調整などは表に記述したので、ここでは主に特徴について記載する。

第1節 竪穴状遺構 (第4表)

SK-005 (第121図 図版55)

西区南西端に位置する。主要グリッドは4C-61である。平面形は長方形である。覆土は埋め戻しと考えられる。床面は平坦である。

SK-006 (第121図 図版55)

西区南西端に位置する。主要グリッドは4C-83である。平面形は長方形である。覆土は、中央部が厚くなる、いわゆるレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦で、北東壁下以外に、周溝が検出された。

SK-007 (第121図 図版55)

西区中央南端に位置する。主要グリッドは4C-97である。SK-008の北隣である。平面形は隅丸長方形である。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦で、中央西寄りにピットが1基検出された。

SK-008 (第121図 図版55)

西区中央南端に位置する。主要グリッドは5C-17である。SK-007の南隣である。削平され、残りが悪い。平面形は隅丸長方形である。覆土はレンズ状で、自然堆積である。床面は平坦である。

SK-026 (第122図 図版55)

西区南西端に位置する。主要グリッドは4B-67である。平面形は凸字形である。覆土から2基の重複と考えられる。床面は西にやや傾斜する。北東隅にピットが1基検出された。

SK-034 (第122図 図版55)

西区東端に位置する。主要グリッドは4D-05である。平面形は長方形である。覆土は埋め戻しと考えられる。床面は平坦である。

SK-060 (第122図 図版55)

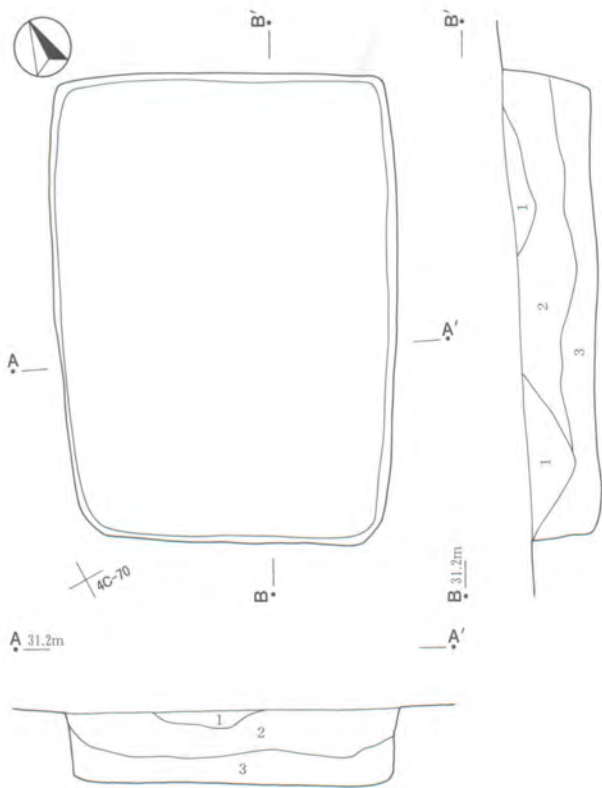
西区東端に位置する。主要グリッドは3D-75である。平面形は隅丸長方形である。覆土は埋め戻しと考えられる。床面は平坦で、中央北寄りにピットが1基検出された。

SK-076 (第123図 図版56)

中央区南西端に位置する。主要グリッドは5E-06である。SK-078の東隣である。平面形はややゆがんだ長方形である。覆土は埋め戻しと考えられる。床面は平坦である。西壁下中央にピットが2基検出された。

SK-078 (第123図 図版56)

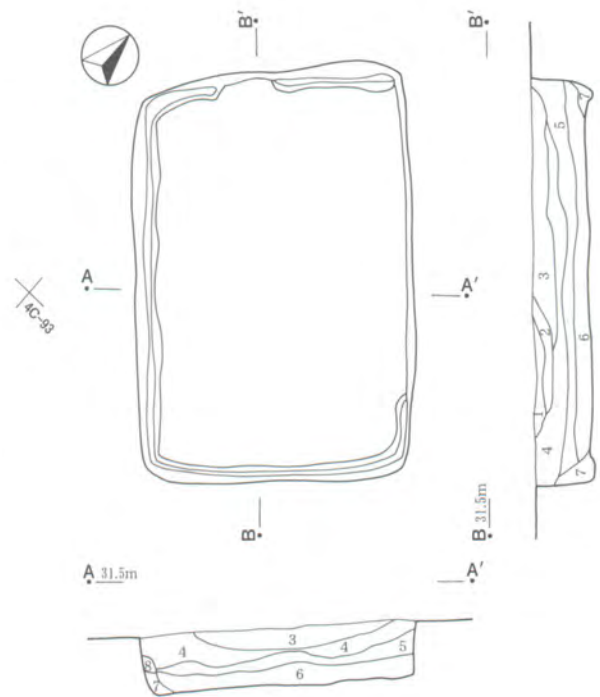
中央区南西端に位置する。主要グリッドは5E-06である。SK-076の西隣である。西側半部が調査区外で、



SK-005

1. 褐色土 ロームブロック少混
2. 褐色土 黒色土・ロームブロック極微混、ややしまりがない
3. 暗褐色土 ロームブロック少混、しまりがない

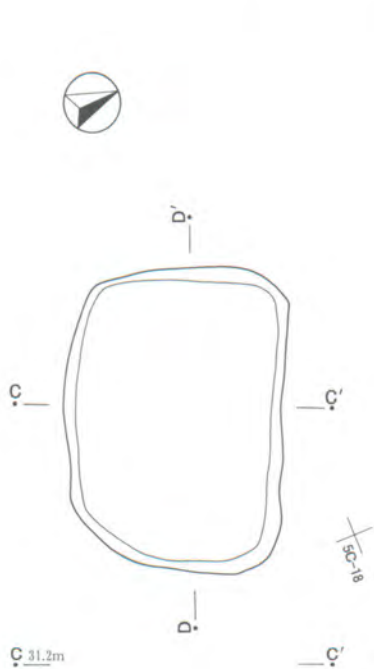
SK-005



SK-006

1. 褐色土 ローム粒多混
2. 暗灰褐色土 ローム粒・灰白色粘土ブロック少混
3. 褐色土 ローム粒少混
4. 褐色土 ローム粒多混
5. 暗褐色土 ローム粒少混、灰白色粘土微混
6. 暗灰褐色土 ローム粒・ロームブロック・灰白色粘土多混、しまりがある
7. 暗褐色土 ローム粒少混、しまりがない、壁溝部分
8. 暗灰褐色土 ローム粒多混、灰白色粘土少混、しまりがない

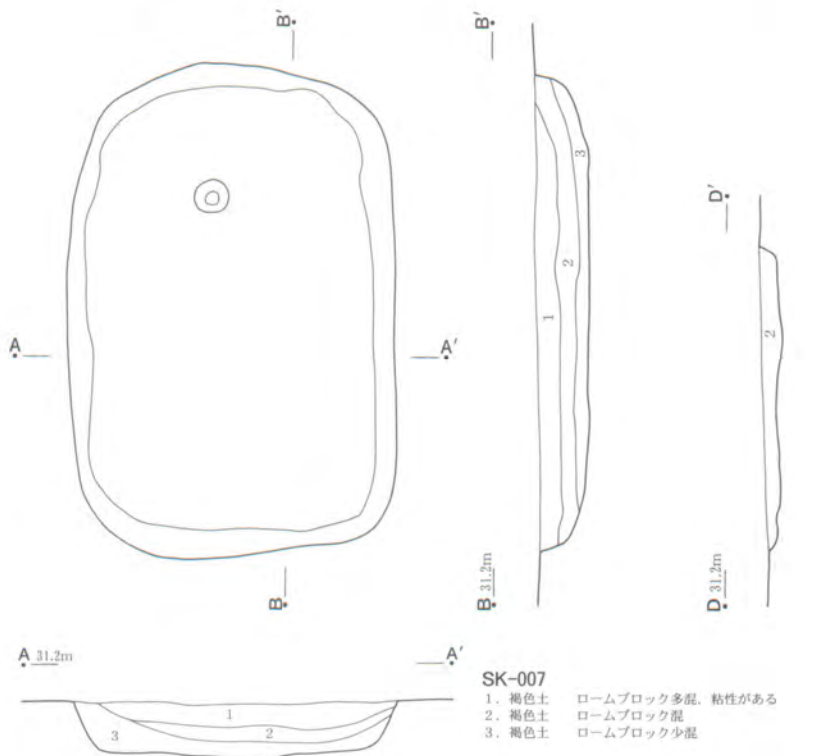
SK-006



SK-008

1. 暗褐色土 ロームブロック多混 水分含、べたつく
2. 暗褐色土 ロームブロック多混 水分多含、べたつく

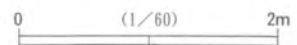
SK-008



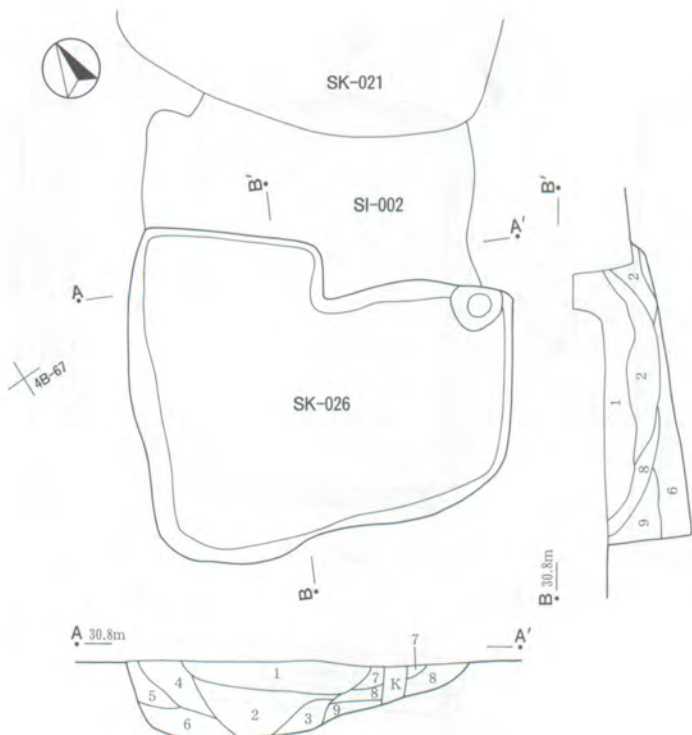
SK-007

1. 褐色土 ロームブロック多混、粘性がある
2. 褐色土 ロームブロック混
3. 褐色土 ロームブロック少混

SK-007

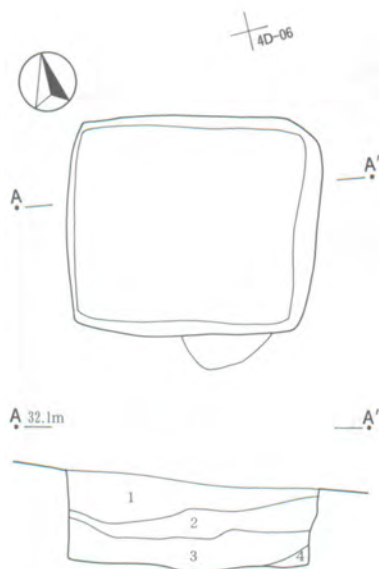


第121図 竪穴状遺構 (1)



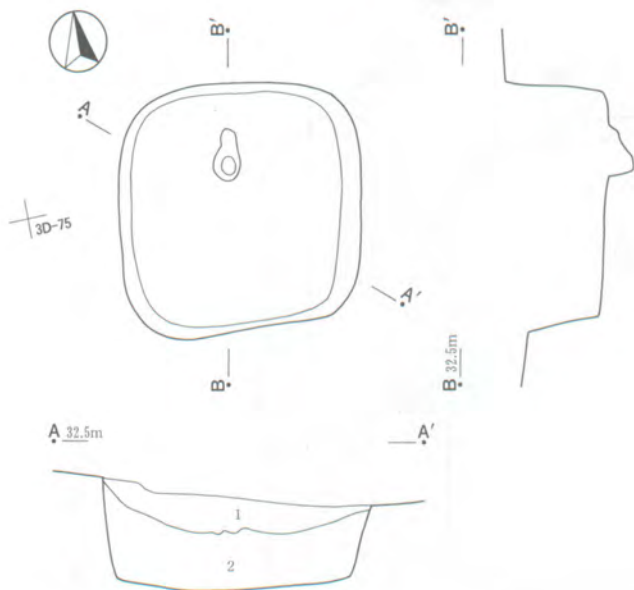
- SK-026**
1. 黒褐色土 黒色土を主体、ローム粒子極微混、しまりが無い
 2. 黒褐色土 ローム粒多混、しまりがある
 3. 暗褐色土 ローム粒少混、しまりがある
 4. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少混、しまりが無い
 5. 暗褐色土 ローム粒多混
 6. 褐色土 ローム粒・ロームブロック主体
 7. 暗褐色土 ローム粒子少量 埴土粒を極微量混入する
 8. 褐色土 ローム粒子・ローム粒主体
 9. 褐色土 8層に比べやや暗い、ローム粒主体（やや水分により灰色化している）

SK-026



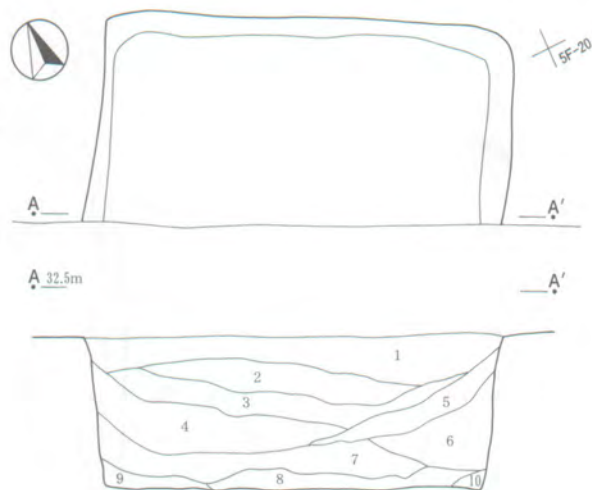
- SK-034**
1. 暗褐色土 ややしまりがある
 2. 暗褐色土 ローム粒多混、しまりが無い
 3. 暗褐色土 ロームブロック多混、しまりが無い
 4. 黒褐色土 ローム少混、しまりが無い

SK-034



- SK-060**
1. 暗褐色土 ローム粒多混、しまりがある
 2. 暗褐色土 ロームブロック多混、しまりが無い

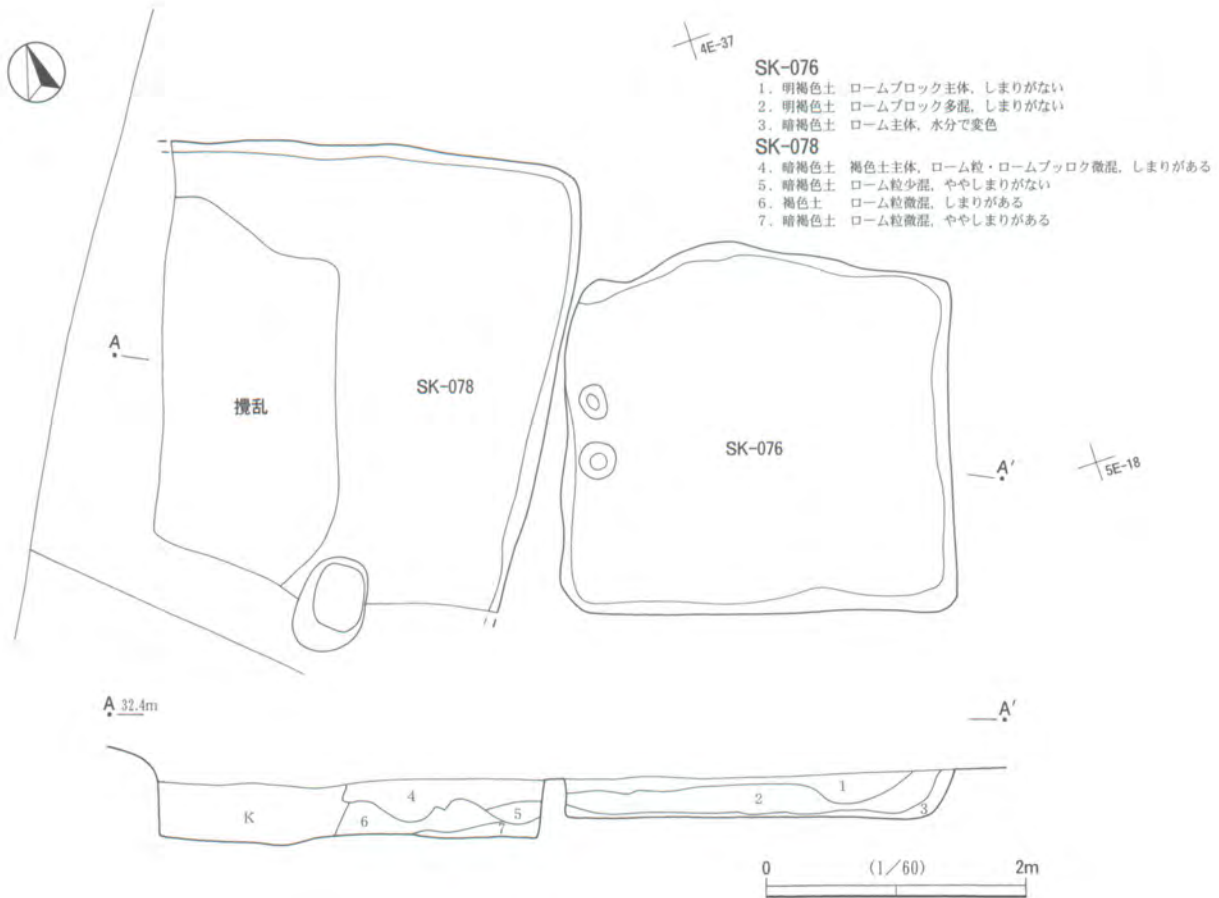
SK-060



SK-081

- SK-081**
1. 黒褐色土 黒色土主体、ローム粒極微混、ロームブロック微混
 2. 褐色土 ローム主体、しまりが無い
 3. 暗褐色土 黒色土少混、しまりが無い
 4. 黒褐色土 黒色土少混、ローム粒子・ロームブロック少混、しまりが無い
 5. 暗褐色土 黒色土微混
 6. 暗褐色土 ローム主体
 7. 褐色土 ロームブロック主体、しまりが無い
 8. 褐色土 ロームブロック主体、しまりがある
 9. 褐色土 ロームブロック主体 ややしまりが無い
 10. 褐色土 しまりがある

0 (1/60) 2m



第123図 竪穴状遺構（3）

攪乱を受けている。平面形はややゆがんだ長方形と考えられる。覆土は埋め戻しと考えられる。床面は平坦である。検出部南端にピットが1基検出された。

SK-081 (第122図 図版56)

中央区中央南端に位置する。主要グリッドは5E-28である。南半部が調査区外である。平面形は隅丸長方形と考えられる。覆土は下半部が自然堆積、上半部が埋め戻しと考えられる。床面は平坦である。

SK-084 (第131図 図版58)

地下式坑SK-083と重複する。方形と考えられる。

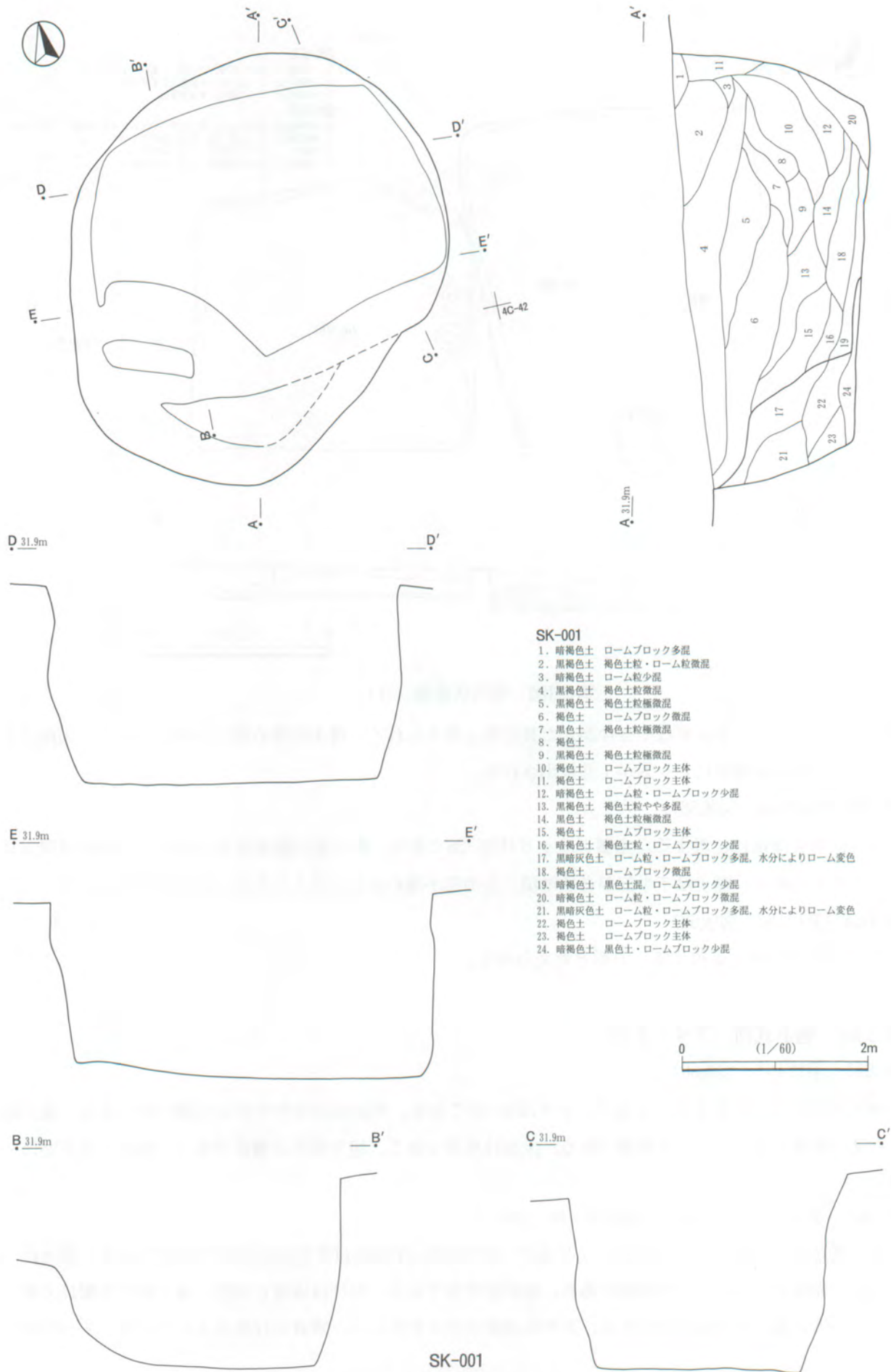
第2節 地下式坑 (第4・6表)

SK-001 (第124図 図版56)

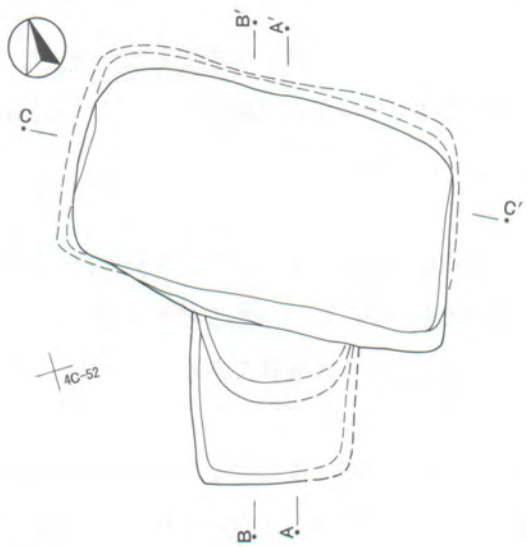
西区中央南端に位置する。主要グリッドは4C-30である。平面形はややゆがんだ楕円形である。覆土は、天井部の崩落が見られ、自然堆積である。床面は平坦である。地下室形は横長方形で、竪坑と地下室は一体化している。

SK-002 (第125・161・162図 図版56・80・81)

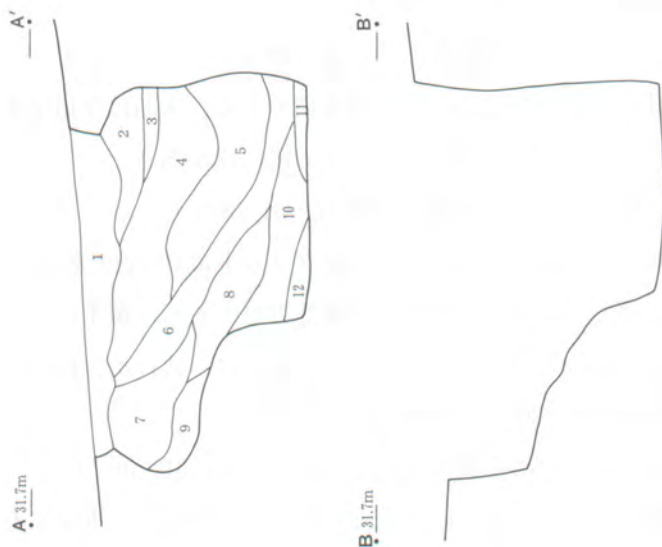
西区南西端に位置する。主要グリッドは4C-42である。平面形はややゆがんだT字形である。覆土は、天井部の崩落が見られ、自然堆積である。床面は平坦である。竪坑はほぼ正方形、地下室形は横長方形である。竪坑と地下室の境に段がある。天井部崩落土の下を中心に、銭貨が47枚出土している。すべて渡来銭である。



第124図 地下式坑（1）



C 31.7m

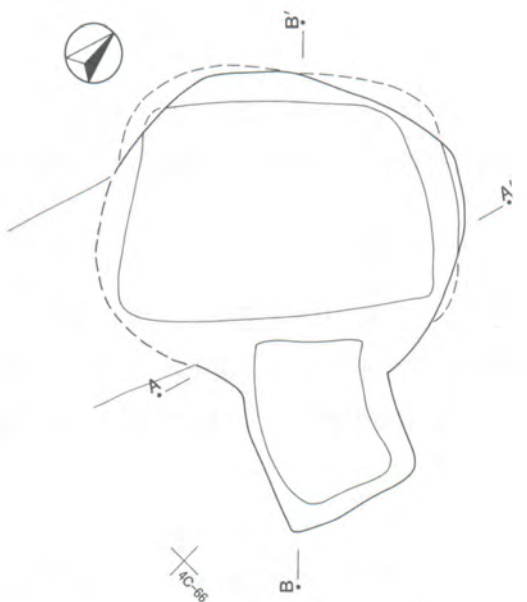


A 31.7m

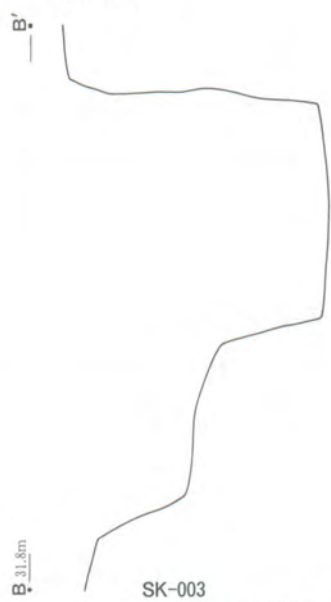
B 31.7m

SK-002

- 1. 暗褐色土 ローム粒少混、ロームブロック微混
- 2. 褐色土 ロームブロック主体、黒色土微混
- 3. 黒色土 ロームブロック微混
- 4. 褐色土 ロームブロックやや多混
- 5. 明褐色土 ローム主体 (天井部の崩落)
- 6. 暗灰褐色土 ローム主体 水分でやや灰色化
- 7. 褐色土 ロームブロック少混
- 8. 暗褐色土 ロームブロック少混
- 9. 暗灰褐色土 ローム主体、ロームブロック微混、水分でやや灰色化
- 10. 暗褐色土 ロームブロックやや多混
- 11. 暗灰褐色土 ローム主体、やや灰色化
- 12. 暗灰褐色土 ローム主体



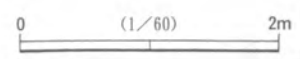
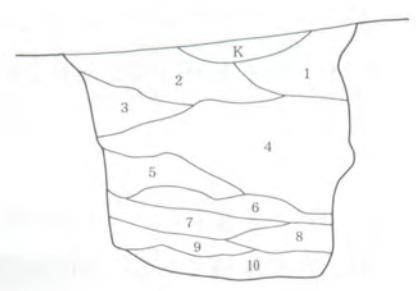
A 31.8m



B 31.8m

SK-003

- 1. 暗褐色土 褐色土粒少混、ローム粒微混
- 2. 褐色土 ロームブロック少混
- 3. 暗褐色土 褐色土粒・ローム粒微混
- 4. ロームブロック
- 5. 褐色土 ロームブロック少混
- 6. 褐色土 ロームブロック微混
- 7. 褐色土 ローム粒やや多混
- 8. 褐色土 ロームブロック多混
- 9. 暗灰黄色土 ローム粒多混、水で灰色化
- 10. 暗褐色土 ローム粒多混、水で灰色化



SK-003

第125図 地下式坑 (2)

SK-003 (第125図 図版57)

西区南西部に位置する。主要グリッドは4C-55である。平面形はややゆがんだT字形である。覆土は、天井部の崩落が見られ、自然堆積である。床面は平坦である。竪坑はややゆがんだ縦長方形、地下室形は横長方形である。竪坑と地下室の境に段がある。

SK-004 (第126・162図 図版57・81・82)

西区南西端に位置する。主要グリッドは4B-59である。SK-015・021・023と重複する。平面形は、重複で不明であるが、地下室形は横長方形である。覆土は、天井部の崩落が見られ、自然堆積である。床面は平坦である。天井部崩落土の下を中心に、銭貨が21枚出土している。すべて渡来銭である。

SK-015 (第126図 図版57)

西区南西端に位置する。主要グリッドは4B-59である。SK-004・021・023と重複する。土層断面から本遺構がもっとも新しいと考えられる。平面形は、重複で不明瞭であるが、T字形と考えられる。土層から、SK-023が竪坑である。覆土は、天井部の崩落が見られ、自然堆積である。床面は平坦である。

SK-021 (第126図 図版57)

西区南西端に位置する。主要グリッドは4B-59である。SK-004・015・023と重複する。平面形は、重複で不明であるが、地下室形は横長方形である。覆土は、天井部の崩落が見られ、自然堆積である。床面は平坦である。

SK-023 (第126・163図 図版83)

西区南西端に位置する。主要グリッドは4B-59である。SK-004・015・021と重複する。土層から、SK-015の竪坑である。銭貨が4枚出土している。すべて渡来銭である。

SK-024 (第127・163図 図版57・83)

西区中央南寄りに位置する。主要グリッドは4D-61である。平面形はややゆがんだT字形である。覆土は、天井部の崩落が見られ、自然堆積である。床面は平坦である。竪坑はややゆがんだ縦長方形、地下室形は丸みのある正方形である。竪坑と地下室の境に段がある。

SK-027 (第127図 図版58)

西区南西端部に位置する。主要グリッドは4B-47である。地下室東壁がSK-021と重複し、削平されている。土層から、SK-028が竪坑と考えられる。平面形はややゆがんだT字形である。覆土は、天井部の崩落が見られ、自然堆積である。床面は平坦である。竪坑は半円形、地下室形はややゆがんだ縦長方形である。竪坑と地下室の境に段がある。

SK-028 (第127図 図版58)

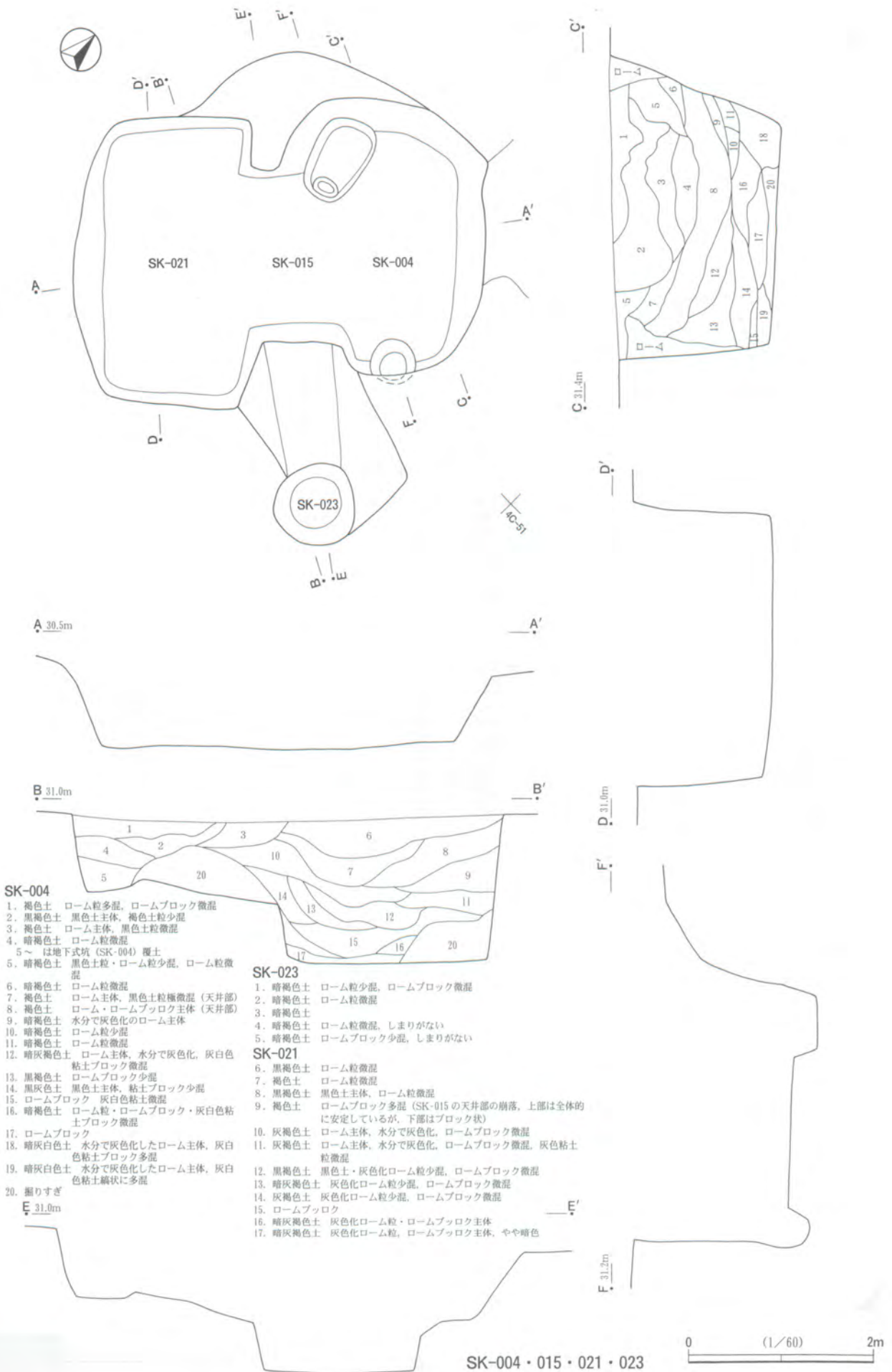
西区南西端部に位置する。主要グリッドは4B-47である。土層から、SK-027の竪坑と考えられる。

SK-041 (第128図 図版57)

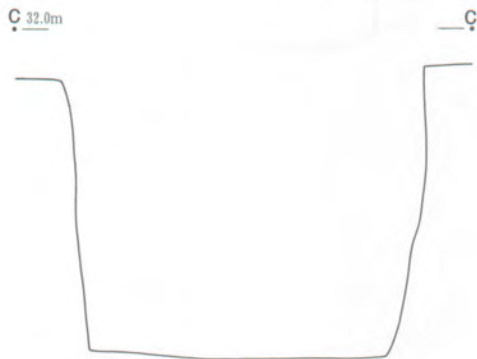
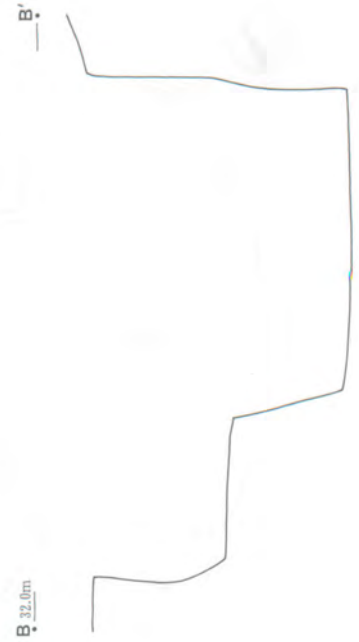
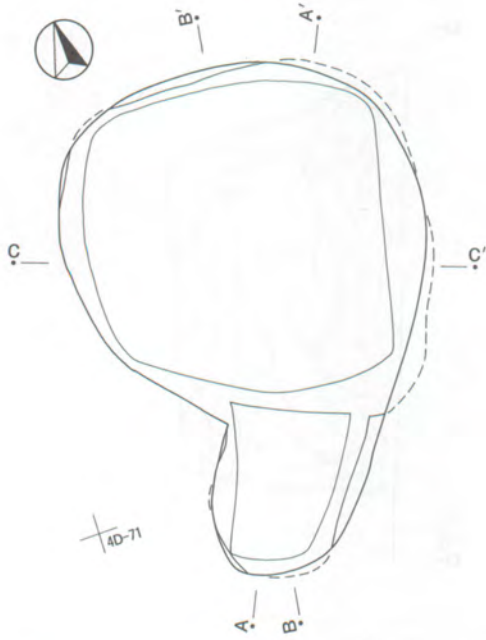
西区中央に位置する。主要グリッドは3C-92である。平面形はややゆがんだT字形である。覆土は、天井部の崩落が見られ、自然堆積である。床面は平坦である。竪坑は半楕円形、地下室形は横長方形である。竪坑と地下室の境に段がある。

SK-071 (第129図 図版59)

中央区中央南寄りに位置する。主要グリッドは4G-40である。SK-094・095と重複するが、土層断面から本遺構が古い。平面形はT字形である。覆土は、天井部の崩落が見られ、自然堆積である。床面は平坦



第126図 地下式坑 (3)



SK-024

1. 暗褐色土 ロームブロック少混, しまりがある
2. 暗褐色土 ロームブロック微混, しまりがある
3. 暗黄褐色土 ロームブロック主体 (天井部)
4. 暗褐色土 ロームブロック少混
5. 暗褐色土 しまりがない
6. 暗褐色土 ロームブロック少混, しまりがない
7. 暗褐色土 しまりがない, 粘性がある

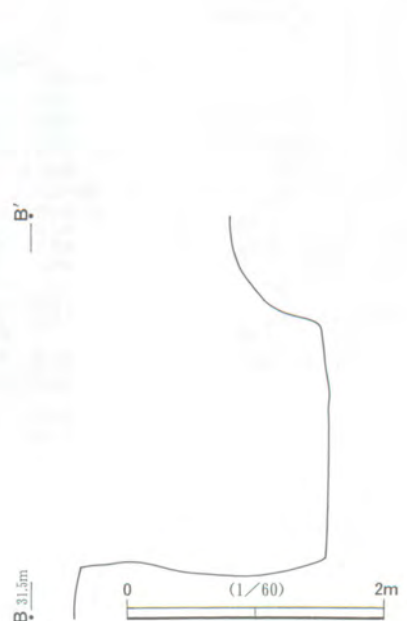
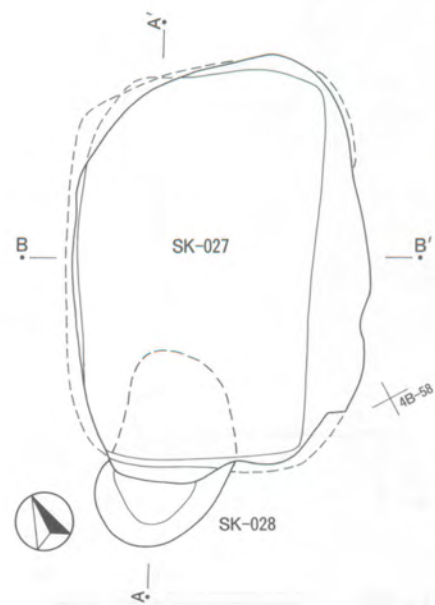
SK-027

7. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒・ロームブロック微混
8. 暗褐色土 ローム粒少混, ロームブロック微混
9. 暗灰色土 ローム主体, 水分で灰色化
10. 暗褐色土 ローム粒少混
11. 褐色土 ローム主体
12. 暗褐色土 ローム粒少混, ロームブロック微混
13. 黒褐色土 ローム粒少混
14. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒微混
15. 暗褐色土 ローム粒少混, ロームブロック微混
16. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒少混
17. 暗褐色土 ローム粒少混, ロームブロック微混

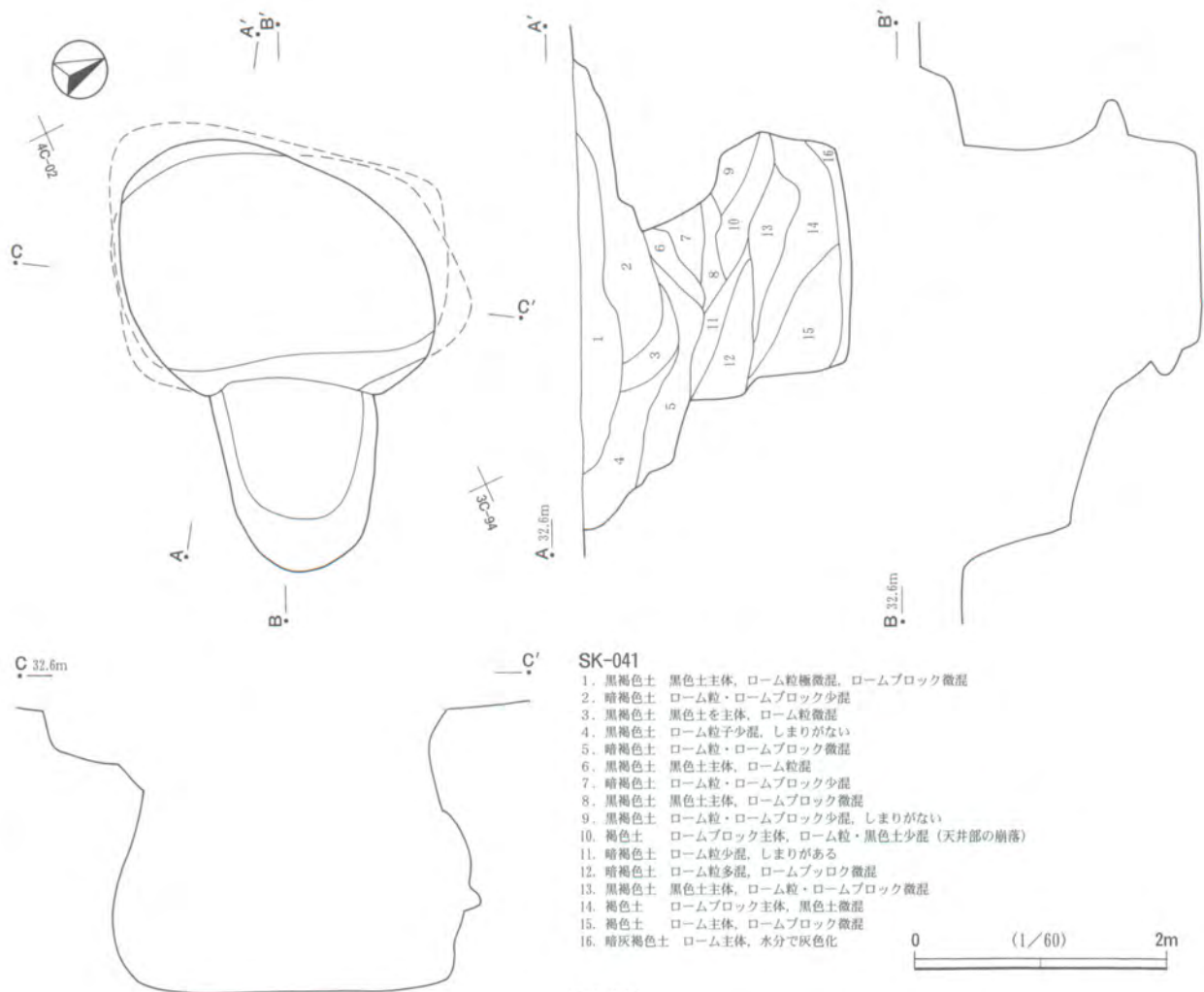
18. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒微混
19. ロームブロック (天井部)
20. ロームブロック
21. ロームブロック 灰色ローム混
22. ロームブロック
23. 灰色土
24. ロームブロック
25. ロームブロック

SK-028

1. 褐色土 ローム粒・ロームブロック主体
2. 褐色土 ロームブロック主体
3. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒微混
4. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少混
5. 褐色土 ロームブロック主体
6. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多混



第127図 地下式坑 (4)



SK-041
第128図 地下式坑（5）

である。竪坑はやや縦長方形で、ピットが2基、床面中央と南隅付近に検出された。地下室形は横長方形で、竪坑と地下室の境に段がある。

SK-082（第130・163図 図版59・83）

中央区南西端に位置する。主要グリッドは4E-75である。平面形はややゆがんだT字形である。覆土は、天井部の崩落が見られ、自然堆積である。床面は平坦である。竪坑はゆがんだ半円形、地下室形はゆがんだ横長方形である。竪坑と地下室の境が敷居状である。銭貨が4枚出土している。すべて渡来銭である。

SK-083（第131図 図版58）

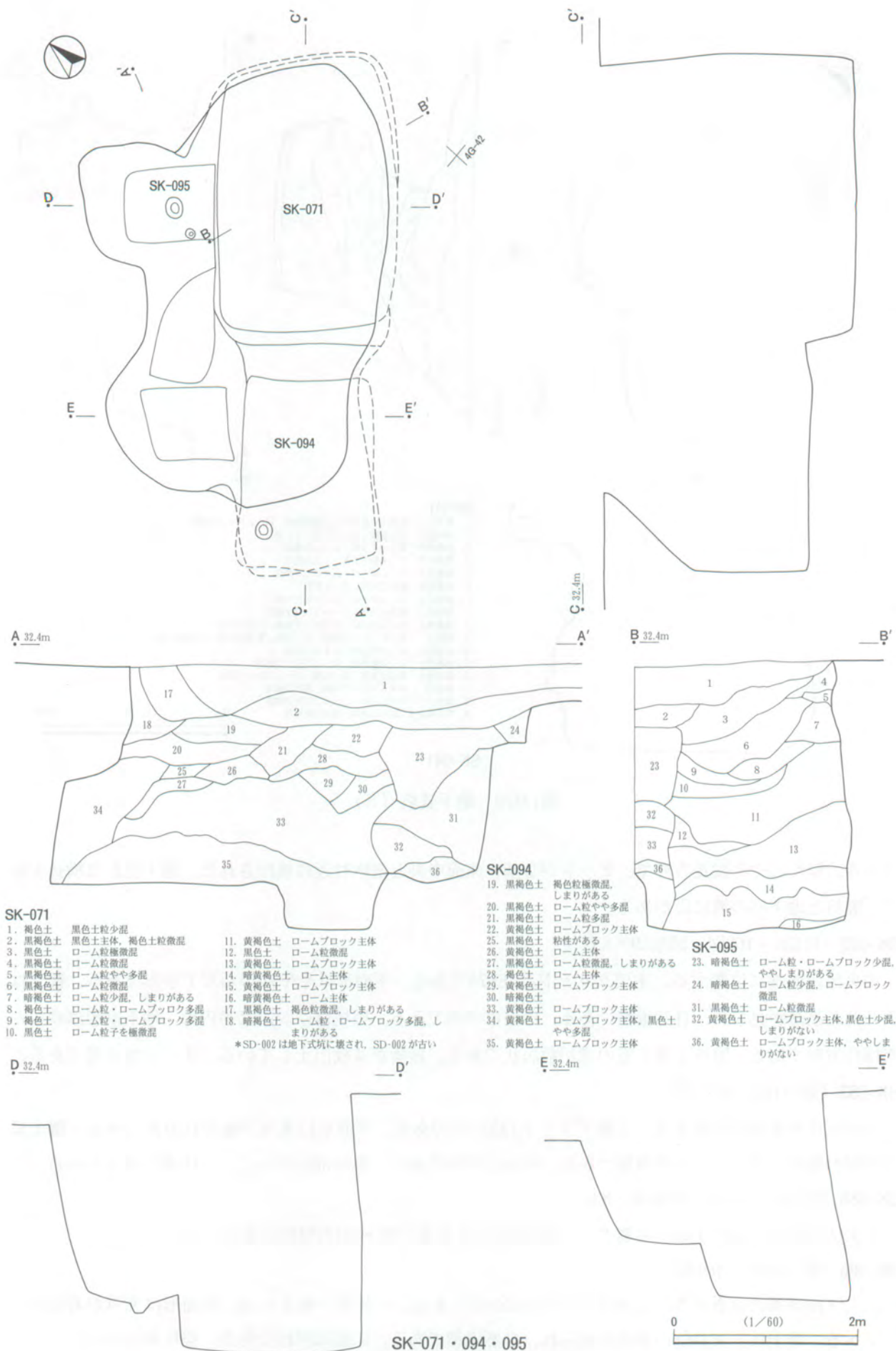
中央区中央南端に位置する。主要グリッドは5F-14である。平面形は丸みがある長方形である。覆土は、天井部の崩落が見られ、自然堆積である。床面は平坦である。竪坑部分はなく、一体型と考えられる。

SK-085（第130・163図 図版58・83）

中央区中央南に位置する。主要グリッドは5F-21である。SK-084の竪坑と考えられる。

SK-086（第131図 図版60）

中央区南西端に位置する。主要グリッドは4E-87である。一体型と考えられ、平面形は丸みがある長方形である。覆土は、天井部の崩落が見られ、自然堆積である。床面は平坦である。竪坑部分はない。



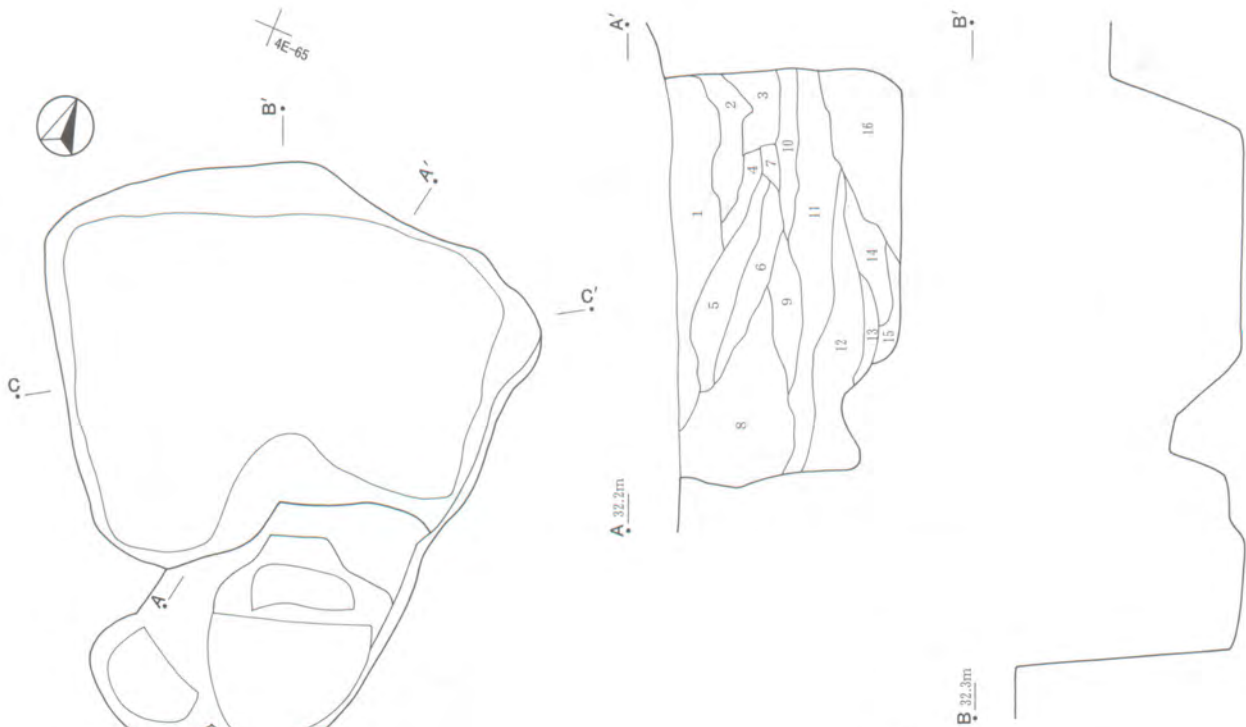
- SK-071**
1. 褐色土 黒色土粒少混
 2. 黒褐色土 黒色土主体、褐色土粒微混
 3. 黒色土 ローム粒極微混
 4. 黒褐色土 ローム粒やや多混
 5. 黒褐色土 ローム粒微混
 6. 黒褐色土 ローム粒少混、しまりがある
 7. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多混
 8. 褐色土 ローム粒・ロームブロック多混
 9. 褐色土 ローム粒を極微混
 10. 黒色土

11. 黄褐色土 ロームブロック主体
 12. 黒色土 ローム粒微混
 13. 黄褐色土 ロームブロック主体
 14. 暗黄褐色土 ローム主体
 15. 黄褐色土 ロームブロック主体
 16. 暗黄褐色土 ローム主体
 17. 黒褐色土 褐色粒微混、しまりがある
 18. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多混、しまりがある
- *SD-002は地下式坑に壊され、SD-002が古い

- SK-094**
19. 黒褐色土 褐色粒極微混、しまりがある
 20. 黒褐色土 ローム粒やや多混
 21. 黒褐色土 ローム粒多混
 22. 黄褐色土 ロームブロック主体
 23. 黒褐色土 粘性がある
 24. 暗褐色土 ローム主体
 25. 黒褐色土 ローム粒微混、しまりがある
 26. 褐色土 ローム主体
 27. 黄褐色土 ロームブロック主体
 28. 暗褐色土
 29. 黄褐色土
 30. 暗褐色土
 31. 黒褐色土
 32. 黄褐色土 ロームブロック主体、黒色土やや多混
 33. 黄褐色土
 34. 黄褐色土
 35. 黄褐色土

- SK-095**
23. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少混、ややしまりがある
 24. 暗褐色土 ローム粒少混、ロームブロック微混
 31. 黒褐色土 ローム粒微混
 32. 黄褐色土 ロームブロック主体、黒色土少混、しまりがない
 36. 黄褐色土 ロームブロック主体、ややしまりがない

第129図 地下式坑 (6)



SK-082

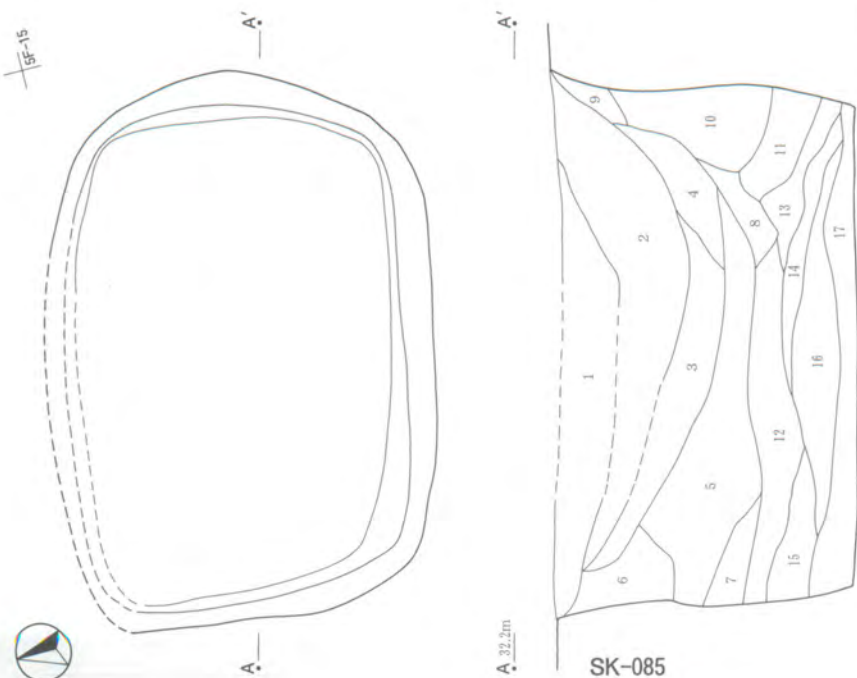
- 1. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒・ロームブロック微混
- 2. 褐色土 ローム主体, ロームブロック・黒色土微混
- 3. 黄褐色土 ロームブロック主体
- 4. 黄褐色土 ロームブロック主体
- 5. 黒色土 ローム粒少混, しまりがある
- 6. 黒褐色土 ローム粒多混
- 7. 黄褐色土 ロームブロック主体
- 8. 褐色土 ローム主体, ロームブロック少混, 黒色土微混
- 9. 褐色土 ローム主体
- 10. 褐色土 ローム主体, 黒色土極微混
- 11. 灰褐色土 ローム主体
- 12. 暗褐色土 ローム粒多混, ロームブロック微混
- 13. 暗褐色土 ローム粒多混, しまりがある
- 14. 黒褐色土 ローム粒少混, しまりがある
- 15. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック微混, ややしまりがない
- 16. 黄褐色土 ロームブロック主体

SK-085

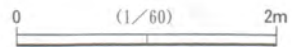
- 1. 黒褐色土 ローム粒少混
- 2. 黒褐色土 ローム粒少混, 焼土粒・ロームブロック微混
- 3. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックやや多混
- 4. 黒褐色土 ローム粒やや多混, しまりがない
- 5. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少混
- 6. 黒褐色土 ローム粒やや多混
- 7. 黄褐色土 ロームブロック主体
- 8. 黒褐色土 ローム粒少混
- 9. 黒褐色土 ローム粒やや多混
- 10. 黄褐色土 ロームブロック主体
- 11. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒多混
- 12. 黒色土 ローム粒極微混
- 13. 黒色土
- 14. 暗褐色土 ローム主体, 黒色土・ロームブロック微混
- 15. 黄褐色土 ロームブロック主体
- 16. 黒色土 ローム粒極微混, しまりがある
- 17. 黒褐色土 黒色土主体, ローム粒・ロームブロック少混, 灰白色粘土を微混

C 32.3m

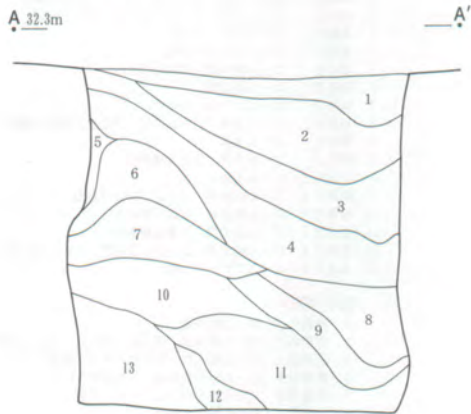
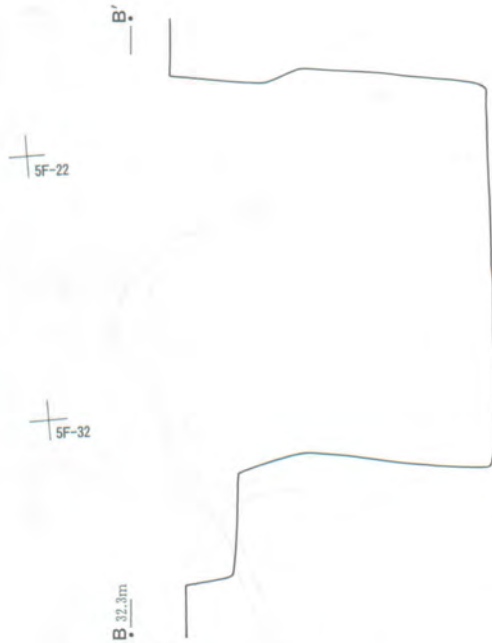
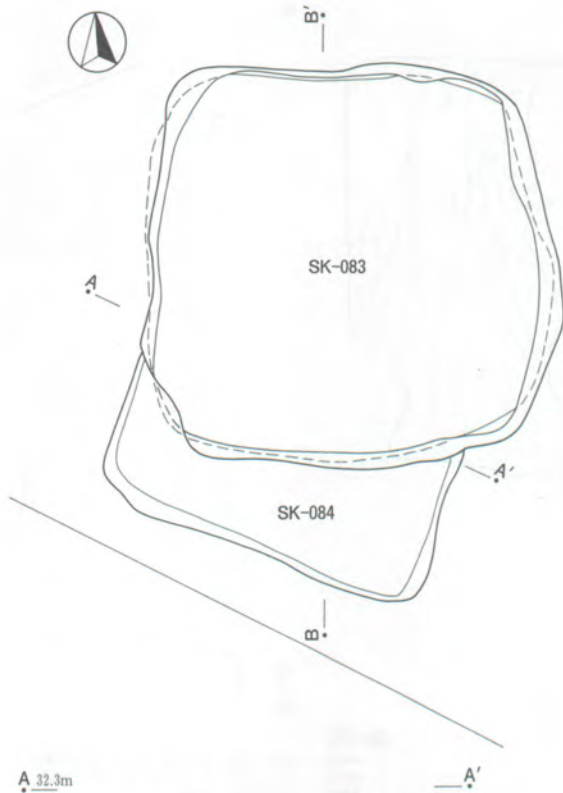
SK-082



SK-085



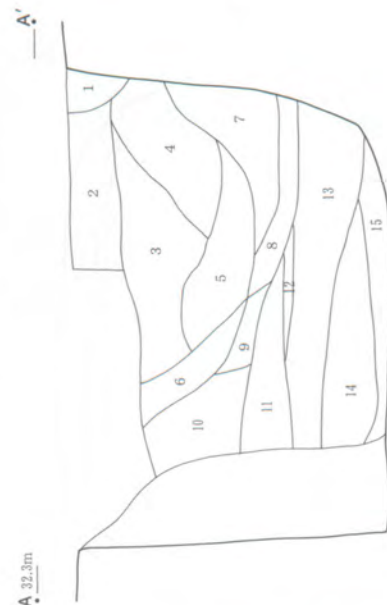
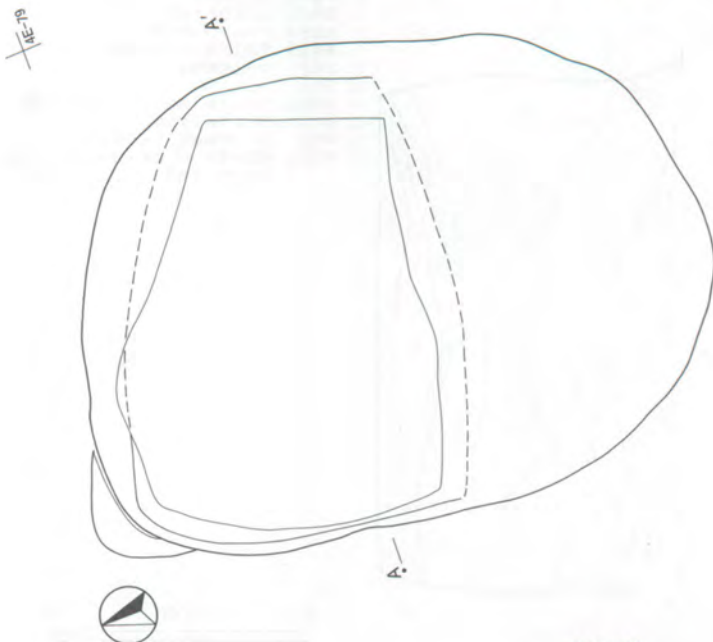
第130図 地下式坑 (7)



SK-083

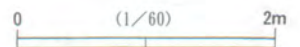
- 1. 黒色土 ローム粒極微混
- 2. 黄褐色土 ロームブロック主体
- 3. 暗褐色土 ローム主体, 黒色土少混, ローム粒・ロームブロック微混
- 4. 褐色土 黒色土微混, ローム粒・小ロームブロック少混
- 5. 暗褐色土 黒色土微混, ローム粒少混, しまりがない
- 6. 褐色土 ローム粒・ロームブロック多混, 黒色土少混, ややしまりがある
- 7. 黒色土 ローム粒微混, しまりがある
- 8. 褐色土 ローム粒・ロームブロック多混, 黒色土少混, ややしまりがある
- 9. 暗褐色土 ローム主体, 黒色土微混, しまりがある
- 10. 褐色土 ロームブロック主体, 黒色土微混, しまりがある
- 11. 黄褐色土 ロームブロック主体
- 12. 褐色土 ローム主体, 黒色土微混
- 13. 黄褐色土 ロームブロック主体

SK-086



SK-086

- 1. 暗褐色土 ローム粒多混
- 2. 黒褐色土 ローム粒少混
- 3. 黄褐色土 ローム主体, 黒色土・ロームブロック微混
- 4. 黒色土 ローム粒極微混
- 5. 黒色土
- 6. 黒色土 ローム粒やや多混
- 7. 黒褐色土 黒色土主体, ロームブロックを多混(壁の崩落)
- 8. 黒色土 ローム粒極微混
- 9. 黒褐色土 ローム粒多混, ロームブロック微混
- 10. 黄褐色土 ロームブロック主体(崩落部)
- 11. 暗黄灰白色土 水分で変色したロームと灰白色粘土の混合層, しまりがある, 粘性がある
- 12. 黒色土 ローム粒極微混, しまりがある, 粘性がある
- 13. 暗黄灰白色土 水分で変色したロームと灰白色粘土の混合層, しまりがある, 粘性がある
- 14. 褐色土 ロームブロック主体, 黒色土少混, しまりがある, 粘性がある
- 15. 褐色土 ロームブロック主体, 黒色土多混, しまりがある, 粘性がある



第131図 地下式坑(8)

SK-094 (第129図 図版59)

中央区中央南寄りに位置する。主要グリッドは4G-40である。SK-071・095と重複するが、土層断面から本遺構が新しい。また、SK-095は、形状、土層断面から、本遺構の堅坑と考えられる。平面形はT字形である。覆土は、天井部の崩落が見られ、自然堆積である。床面は平坦である。堅坑はやや縦長方形で、地下室形は横長方形である。堅坑と地下室の境に段がある。地下室床面西隅にピットが1基検出された。

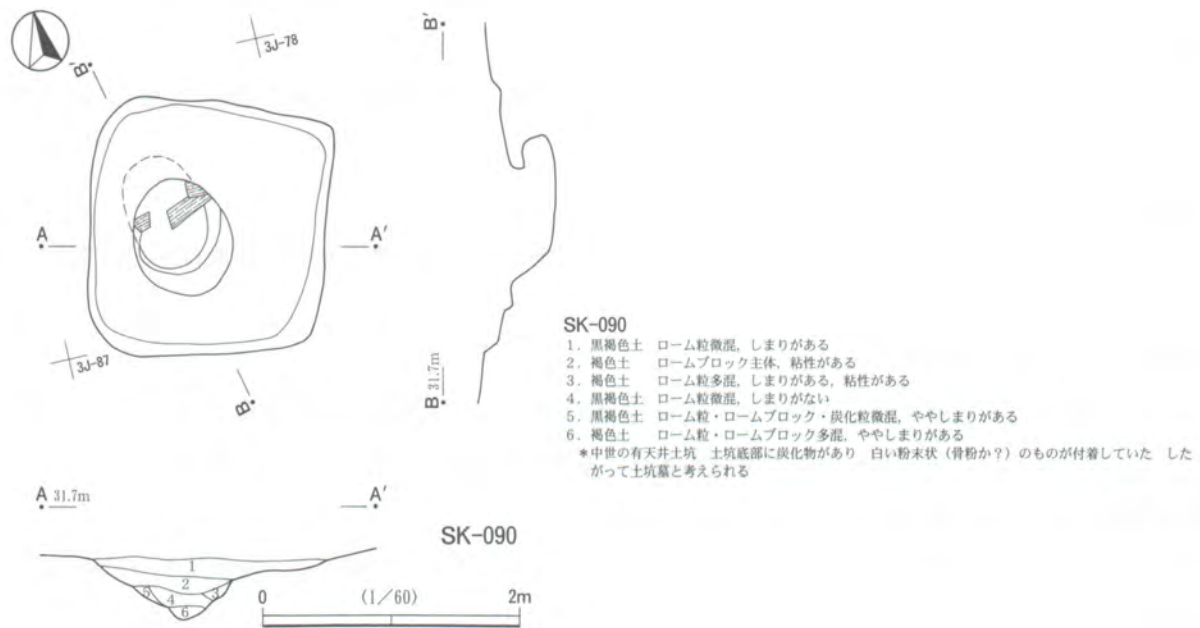
SK-095 (第129図 図版59)

中央区中央南寄りに位置する。主要グリッドは4G-40である。SK-071と重複するが、土層断面から本遺構が新しい。また、本遺構は、形状、土層断面から、SK-094の堅坑と考えられる。

第3節 土壙墓 (第4表)

SK-090 (第132図 図版55)

東区東寄りに位置する。主要グリッドは3J-77である。全体に削平され、残りは悪い。平面形はややゆがんだ正方形である。床面中央にピットがある。炭化材および人骨と考えられる骨片が出土している。



第132図 土壙墓

第4節 土坑 (第4表)

SK-009 (第133図 図版60)

西区南東端に位置する。主要グリッドは5D-33である。覆土は埋め戻し、底面は皿状である。

SK-010 (第133図 図版60)

西区南東寄りに位置する。主要グリッドは4D-83である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-011 (第133図 図版60)

西区南東寄りに位置する。主要グリッドは4D-83である。覆土は埋め戻し、底面は皿状である。

SK-012 (第133図 図版60)

西区南東寄りに位置する。主要グリッドは4D-65である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。南西隅にピットがある。

SK-013 (第133図 図版60)

西区南東端に位置する。主要グリッドは4D-97である。覆土は埋め戻し、底面は浅い皿状である。

SK-014 (第133図 図版60)

西区南東寄りに位置する。主要グリッドは4D-83である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-016 (第133図 図版61)

西区南東寄りに位置する。主要グリッドは4D-33である。削平されている。底面は凹凸がある。

SK-017 (第133図 図版61)

西区東寄りに位置する。主要グリッドは4D-16である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-018 (第133図 図版61)

西区南東寄りに位置する。主要グリッドは4D-44である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-019 (第134図 図版61)

西区東端に位置する。主要グリッドは4D-27である。覆土は埋め戻し、底面は皿状である。

SK-020 (第134図 図版61)

西区東寄りに位置する。主要グリッドは4D-15である。SK-034と重複し、本遺構が古い。底面は平坦である。

SK-022 (第134図 図版61)

西区中央南寄りに位置する。主要グリッドは4B-79である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。南東隅にピットがある。銭貨が出土している。

SK-025 (第134図 図版61)

西区中央南寄りに位置する。主要グリッドは4B-79である。覆土層から3基重複と考えられる。中央が最も古く、次に北側、最も新しいのは南側である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-029 (第134図 図版61)

西区中央東寄りに位置する。主要グリッドは3D-91である。削平されている。底面は平坦である。

SK-030 (第134図 図版62)

西区中央東寄りに位置する。主要グリッドは3D-81である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-031 (第134図 図版62)

西区中央東寄りに位置する。主要グリッドは3D-92である。覆土層から2基重複と考えられる。東側の浅い土坑が新しい。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-032 (第134図 図版62)

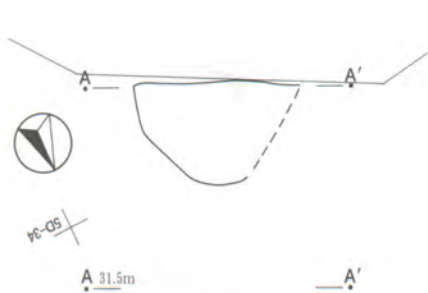
西区中央東寄りに位置する。主要グリッドは3D-92である。覆土は埋め戻し、底面は平坦で、段がある。

SK-033 (第134図 図版62)

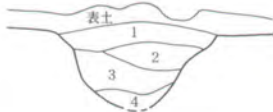
西区中央東寄りに位置する。主要グリッドは4D-01である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-035・036・042~044 (第135図 図版62)

西区中央に位置する。主要グリッドは3C-84である。5基の重複である。覆土は埋め戻し、底面は平坦

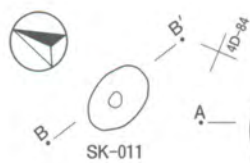


A 31.5m A'



SK-009

- SK-009**
1. 暗灰褐色土 ローム主体、褐色土微混
 2. 暗灰褐色土 黒色土やや多混
 3. 暗灰褐色土 黒色土多混、ややしまりがない
 4. 暗灰褐色土 黒色土少混



A 32.0m SK-010 A'



SK-010・011

- SK-010**
1. 暗褐色土 ロームブロック多混
 2. 暗褐色土 ローム粒多混
 3. 暗褐色土 ローム粒少混
 4. 褐色土 ロームブロック多混、しまりがある
 5. 褐色土 ローム主体、褐色土混、しまりがある
 6. 黒褐色土 黒色土多混
 7. 灰褐色土 しまりがない
- SK-011**
1. 暗褐色土 ローム粒少混、しまりがない
 2. 暗褐色土 ロームブロック少混、しまりがない



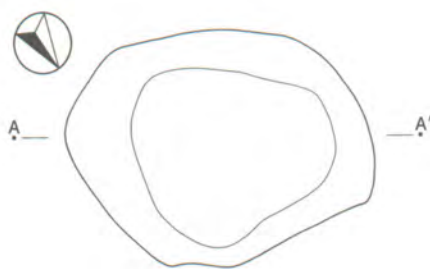
A 32.0m A'



SK-012

- SK-012**
1. 褐色土 ロームブロック多混
 2. 褐色土 ローム粒多混、しまりがない

SK-012



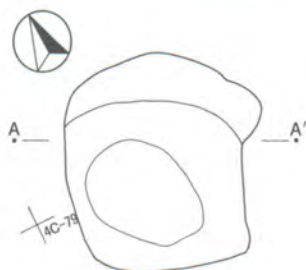
A 32.0m A'



SK-013

- SK-013**
1. 暗褐色土 黒色土混、しまりがない
 2. 暗褐色土 ロームブロック多混、しまりがない
 3. 暗褐色土 黒色土多混
 4. 褐色土 ロームブロック少混

SK-013



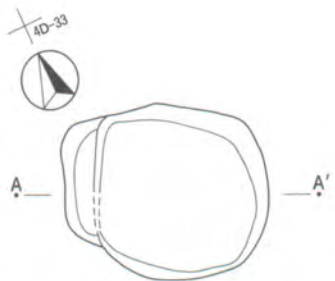
A 31.6m A'



SK-014

- SK-014**
1. 暗褐色土 ローム粒少混、ややしまりがない
 2. 褐色土 ロームブロック少混、しまりがない
 3. 褐色土 しまりがない
 4. 黄褐色土 ロームブロック多混、しまりがない
 5. 褐色土 ロームブロック多混、しまりがない

SK-014



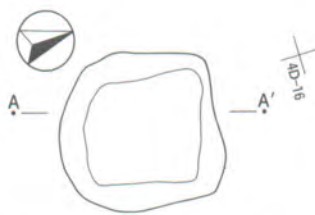
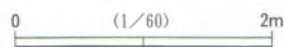
A 32.2m A'



SK-016

- SK-016**
1. 灰白色粘土 ロームブロック微混（底面粘土貼の残痕）

SK-016



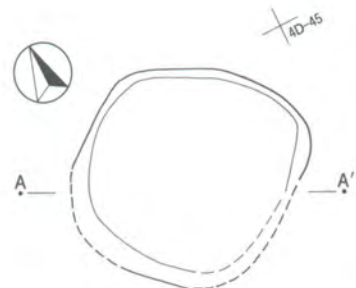
A 31.9m A'



SK-017

- SK-017**
1. 褐色土 ロームブロック多混、しまりがない
 2. 暗褐色土 ロームブロック少混
 3. 褐色土 ロームブロック多混、しまりがない
 4. 褐色土 ローム粒多混、しまりがない

SK-017



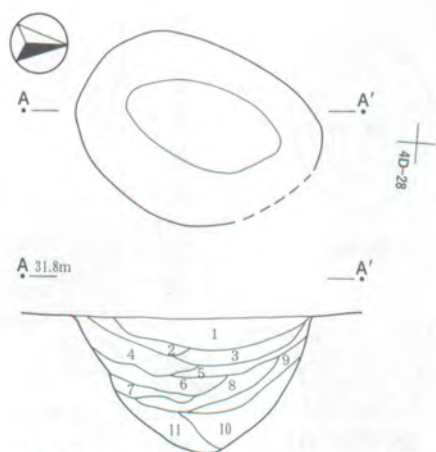
A 32.0m A'



SK-018

- SK-018**
1. 暗褐色土 ロームブロック多混、しまりがある
 2. 褐色土 ロームブロック少混、しまりがない
 3. 暗褐色土 しまりがある

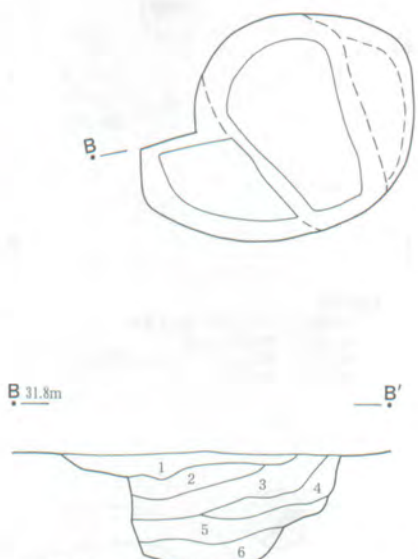
SK-018



SK-019

1. 褐色土 ローム主体的、ロームブロック微混、しまりがない
2. 黒褐色土 黒色土主体、ローム粒少混、しまりがない
3. 黒褐色土 黒色土主体、ローム粒少混、しまりがある
4. 暗褐色土 ローム主体、黒色土微混
5. 褐色土 ロームブロック主体、しまりがある
6. 暗褐色土 黒色土多混
7. 褐色土 ロームブロック主体、黒色土粒極微混
8. 暗褐色土 ロームブロック主体 黒色土少混
9. 黒褐色土 黒色土主体 ローム粒・ロームブロック微混
10. 褐色土 ロームブロック主体層、黒色土少混
11. 褐色土 ロームブロック主体層、黒色土やや多混

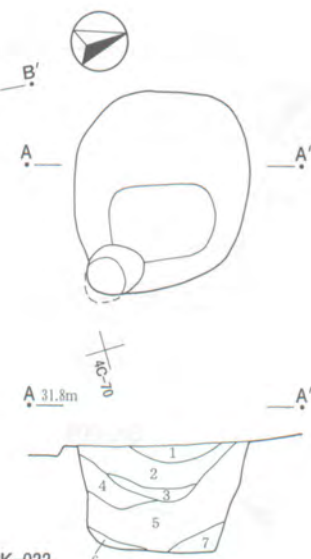
SK-019



SK-025

1. 暗褐色土 ローム粒少混、ロームブロック微混、炭化物極微混、しまりがある
2. 褐色土 ローム主体、しまりがない
3. 褐色土 ロームブロック主体、しまりがない
4. 褐色土 ローム主体
5. 暗灰色土 ローム主体、水分で灰色化、粘性がある
6. 暗褐色土 ローム主体、ややしまりがない

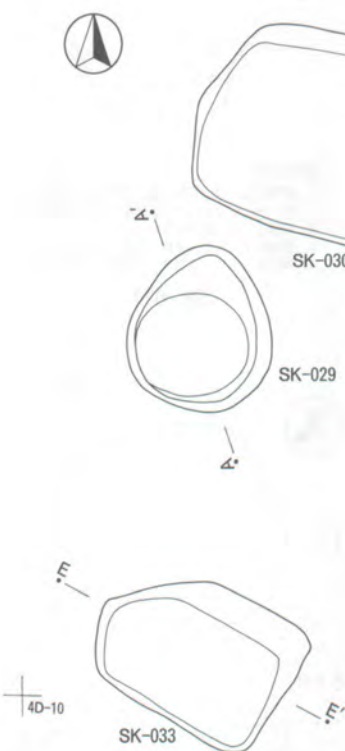
SK-025



SK-022

1. 褐色土 ローム粒少混、ロームブロック極微混
2. 褐色土 ローム粒・ロームブロック極微混
3. 暗灰色土 ローム粒微混、灰白色粘土少混、しまりがある、粘性がある
4. 黒褐色土 ローム粒微混
5. 暗褐色土 ローム粒極微混、焼土ブロック微混
6. 暗灰色土 暗灰色化ローム主体
7. 暗灰色土 暗灰色化ローム主体的、ややしまりがない

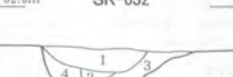
SK-022



SK-029

1. 暗黄褐色土 粘土混、粘性がある
2. 褐色土 ローム粒混
3. 暗褐色土 ローム粒少混
4. 暗褐色土 しまりがある

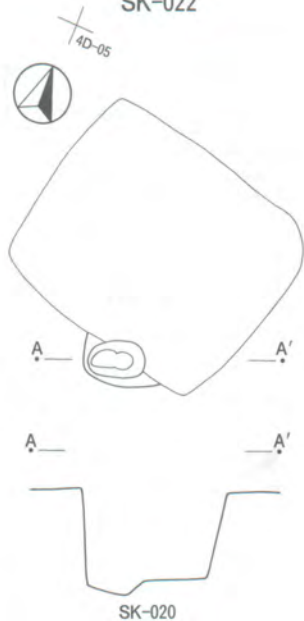
SK-031



SK-032

1. 暗黄褐色土 ロームブロック多混、しまりがある
2. 暗黄褐色土 ロームブロック多混、しまりがある
3. 暗黄褐色土 ロームブロック多混、しまりがある
4. 暗褐色土 しまりがある

SK-029~033



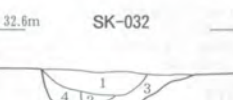
SK-030

1. 暗褐色土層 ロームブロック多混、しまりがない (一気に埋められた土)



SK-031

1. 暗褐色土 ローム粒少混、しまりがない
2. 暗褐色土 ロームブロック多混、しまりがない
3. 黒褐色土 しまりがない
4. 黒褐色土 ロームブロック少混、しまりがない
5. 黒褐色土 ローム粒少混、しまりがない



SK-032

1. 暗黄褐色土 ロームブロック多混、しまりがある
2. 暗黄褐色土 ロームブロック多混、しまりがある
3. 暗黄褐色土 ロームブロック多混、しまりがある
4. 暗褐色土 しまりがある



SK-033

1. 黄褐色土 ロームブロック主体中心、しまりがある
2. 暗褐色土 ロームブロック多混、しまりがない
3. 黄褐色土 ロームブロック多混、しまりがない
4. 黄褐色土 ローム主体、しまりがない



第134図 土坑(2)

である。新古の関係は、SK-043とSK-044は、SK-043が古い。SK-035とSK-036はSK-035が古い。SK-036とSK-042はSK-042が古い。SK-035とSK-042、SK-042とSK-043は重複部分が少ないので、新古の関係は不明である。

SK-037・040 (第135図 図版62)

西区中央に位置する。主要グリッドは3C-94である。2基の重複である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。新古の関係は、SK-040が古い。

SK-038 (第135図 図版62)

西区中央に位置する。主要グリッドは3C-94である。覆土は埋め戻し、底面は皿状である。

SK-039 (第135図 図版62)

西区東部に位置する。主要グリッドは4C-04である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-046 (第135図 図版62)

西区中央に位置する。主要グリッドは3D-98である。覆土は埋め戻し、底面は平坦で、中央にピットがある。覆土からピットは重複で、本遺構よりも新しい。

SK-047・048 (第136図 図版63)

西区北東寄りに位置する。主要グリッドは3D-59である。2基重複で、新古の関係は、SK-047が新しい。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。SA-001と重複するが、SK-047・048が新しいと考えられる。

SK-049 (第136図 図版63)

西区北東寄りに位置する。主要グリッドは3D-47である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-051 (第136図 図版63)

中央区北西端に位置する。主要グリッドは3E-32である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-052 (第135図 図版63)

西区西寄りに位置する。主要グリッドは3B-78である。削平されている。底面は平坦である。

SK-053 (第135図 図版63)

西区西寄りに位置する。主要グリッドは3B-77である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-054 (第136図 図版63)

中央区北西端に位置する。主要グリッドは3E-23である。覆土は埋め戻し、底面は皿状である。

SK-055 (第136図 図版63)

中央区北西端に位置する。主要グリッドは3E-12である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-056 (第136図 図版64)

中央区北西端に位置する。主要グリッドは3E-14である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-057 (第136図 図版64)

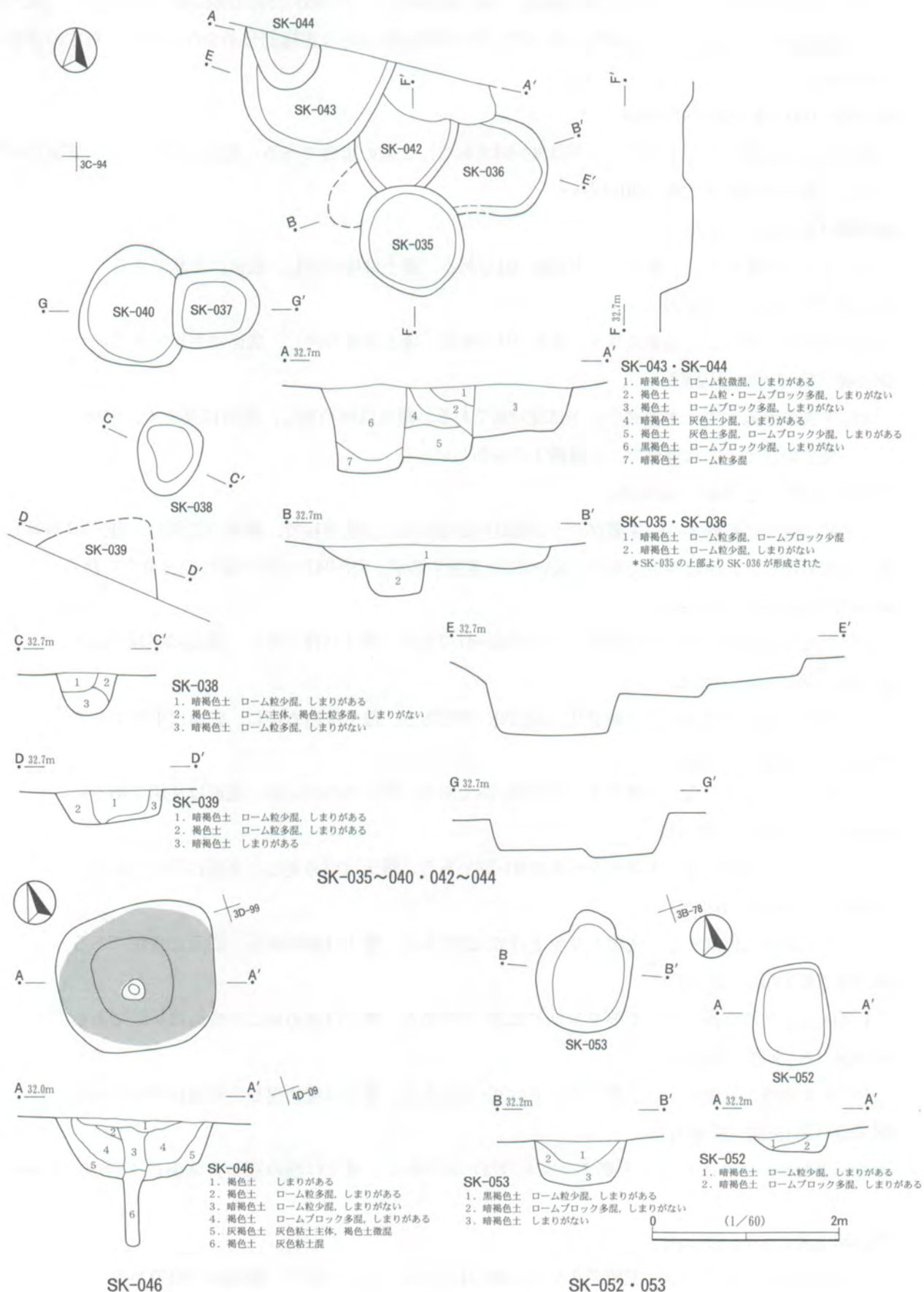
西区北東寄りに位置する。主要グリッドは3D-68である。覆土は埋め戻し、底面は平坦で、北西端にピットがある。

SK-058 (第136図 図版64)

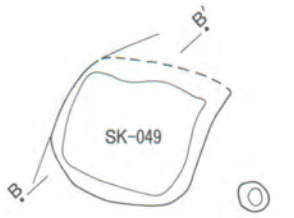
西区北東寄りに位置する。主要グリッドは3E-51である。ピット状で、底面は平坦である。

SK-061 (第137図 図版64)

中央区中央に位置する。主要グリッドは3F-49である。覆土は埋め戻し、底面は浅い皿状である。



第135図 土坑(3)

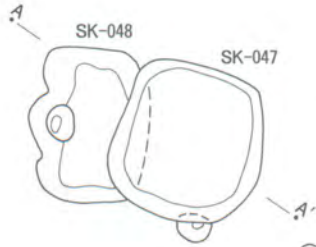


B 32.2m SK-049 B'



SK-049

1. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりが無い



3E-51



SK-058



3E-60

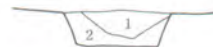
SA-001



A 32.2m SK-048 SK-047 A'



C 32.2m SK-057 C'



D 32.2m SK-057 D'



E 32.2m SK-058 E'



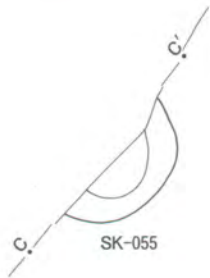
SK-047・048

1. 暗褐色土 ローム粒混, しまりがある
2. 暗褐色土 ローム粒少混, しまりがない
3. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがない

SK-057

1. 暗褐色土 ロームブロック少混, しまりがある
2. 暗褐色土 しまりがない

SK-047~049・057・058・SA-001



SK-055



SK-056

A 32.2m SK-051 A'



SK-051

1. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがない
2. 暗褐色土 ローム粒少混, しまりがない

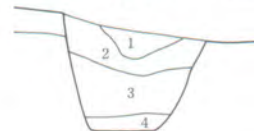
B 32.2m SK-054 B'



SK-054

1. 暗褐色土 焼土粒少混, しまりがある
2. 褐色土 ロームブロック多混, しまりがある

C 32.2m SK-055 C'



SK-055

1. 暗褐色土 表土, しまりがない
2. 暗褐色土 ローム混
3. 暗褐色土 しまりがない
4. 暗褐色土 ローム微混

D 32.2m SK-056 D'



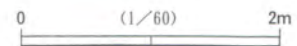
SK-056

1. 暗褐色土 ロームブロック多混, しまりがある
2. 暗褐色土 ロームブロック少混
3. 暗褐色土 しまりがある

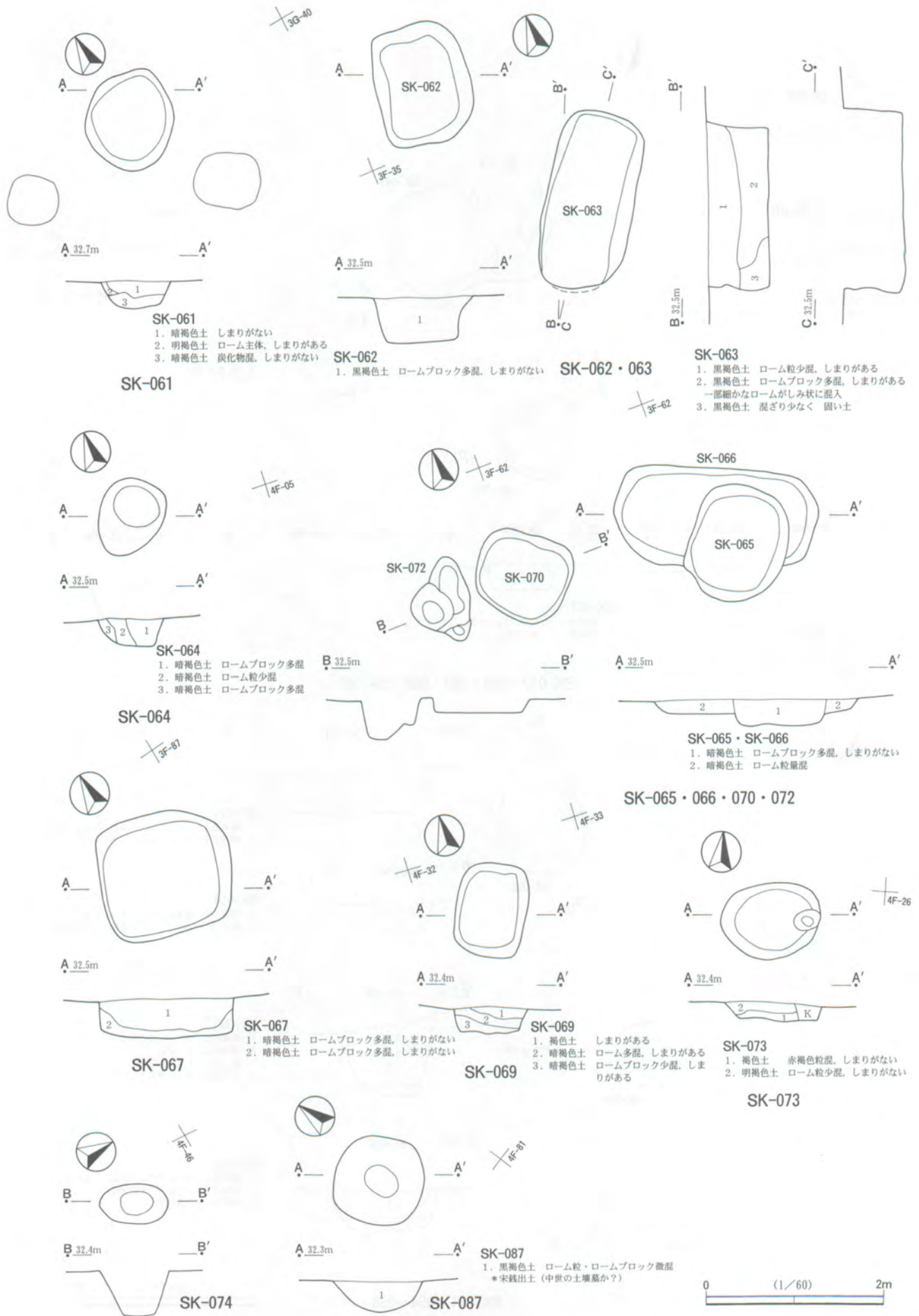


SK-051

SK-051・054~056



第136図 土坑(4)



第137図 土坑(5)

SK-062 (第137図 図版64)

中央区中央北寄りに位置する。主要グリッドは3F-25である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-063 (第137図 図版64)

中央区中央北寄りに位置する。主要グリッドは3F-36である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-064 (第137図 図版64)

中央区中央に位置する。主要グリッドは4F-04である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-065・066 (第137図 図版64)

中央区中央に位置する。主要グリッドは3F-63である。2基の重複である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。新古の関係は、SK-065が新しい。

SK-067 (第137図 図版65)

中央区中央に位置する。主要グリッドは3F-86である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。

SK-069 (第137図 図版65)

中央区中央南寄りに位置する。主要グリッドは4F-32である。覆土は埋め戻し、底面は凹凸がある。

SK-070 (第137図 図版65)

中央区中央に位置する。主要グリッドは3F-62である。削平されている。底面は平坦である。

SK-072 (第137図 図版65)

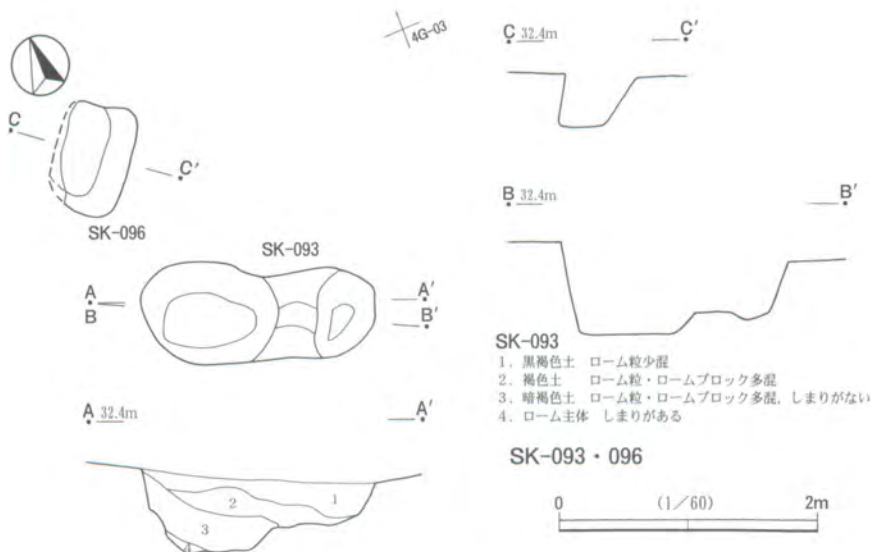
中央区中央に位置する。主要グリッドは3F-61である。底面は凹凸がある。

SK-073 (第137図 図版65)

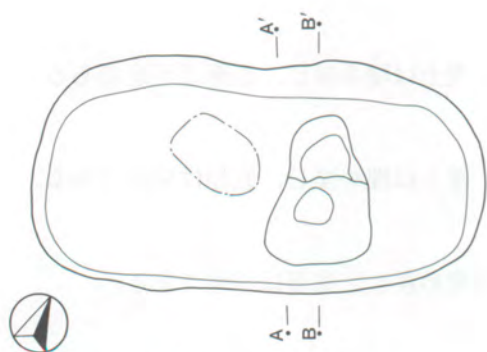
中央区中央に位置する。主要グリッドは4F-25である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。東端にピットが検出されたが、土層から後世のものと考えられる。

SK-074 (第137図)

中央区中央南寄りに位置する。主要グリッドは4F-46である。底面は平坦である。



第138図 土坑(6)

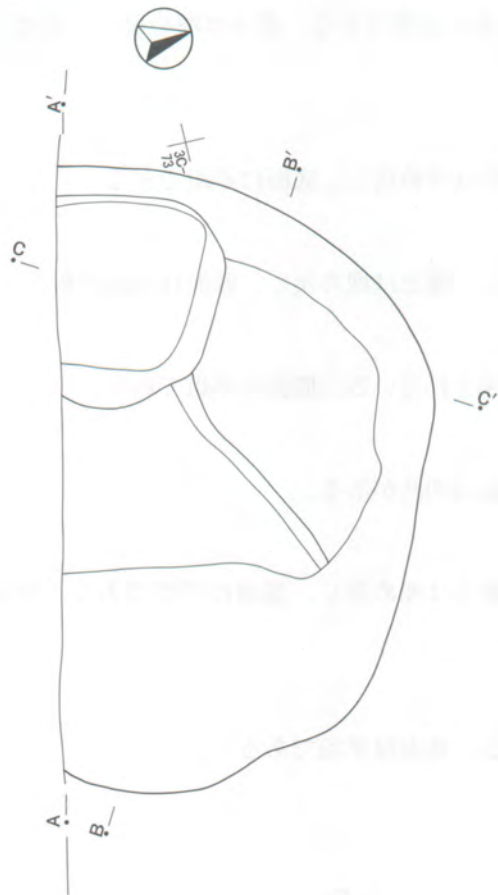


3D-14



SK-117

- 1. 暗黄褐色土 □ローム粒混
- 2. 黒色土 □ローム粒少混
- 3. 黄褐色土 □ローム粒主体

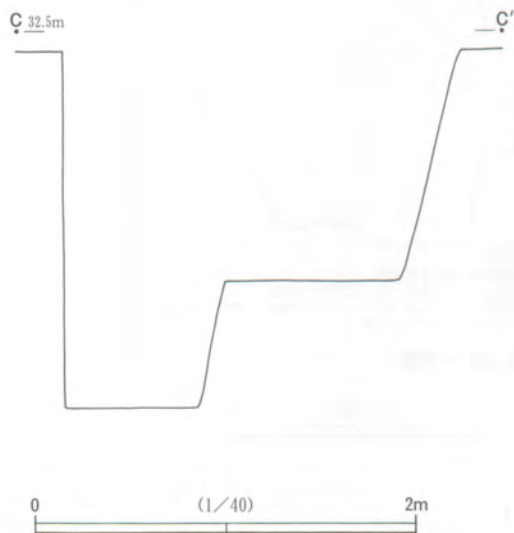


SK-117

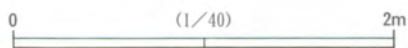
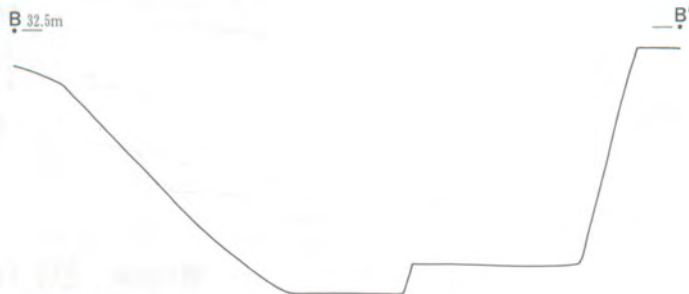


SK-118

- 1. 暗褐色土
- 2. 黄褐色土 □ローム粒主体
- 3. 暗褐色土 □ロームブロック多混
- 4. 暗黄褐色土 □ローム粒多混
- 5. 黒色土 □ローム粒少混
- 6. 黄褐色土 □ロームブロック主体
- 7. 黄褐色土 □ローム粒主体、しまりがない



B 32.5m



SK-118

第139図 土坑(7)

SK-087 (第137図 図版65)

中央区南部に位置する。主要グリッドは4F-70である。覆土は埋め戻し、底面は平坦である。銭貨が出土する。

SK-093 (第138図 図版65)

中央区中央東寄りに位置する。主要グリッドは4G-20である。底面は凹凸がある。2基重複と考えられ、土層から、西側が古い。

SK-096 (第138図 図版65)

中央区中央東寄りに位置する。主要グリッドは4G-20である。底面は平坦である。

SK-117 (第139図 図版66)

西区東部南寄りに位置する。主要グリッドは3D-13である。覆土は埋め戻し、底面は平坦で、中央やや東にピットが検出された。

SK-118 (第139図 図版66)

西区中央に位置する。主要グリッドは3C-73である。大型の土坑である。覆土は埋め戻し、底面は平坦で西端部にピットが検出された。形は異なるが、深さがあるので、地下式坑と思われる。

第5節 溝 (第4表)

SD-001 (第140図 図版66)

東区南西部に位置する。北東から南西方向である。

SD-002 (第141・142図 図版84)

東区中央から中央区東端に位置する。東西方向で、ゆるやかな円弧状である。

SD-003 (第142図)

中央区南端に位置する。北東から南西方向で、SD-002と並行している。

SD-004 (第140図)

東区南西部に位置する。北東から南西方向である。短い溝で、SD-001の北端部と並行する。

SD-005 (第143図 図版66)

東区中央北端に位置する。北西から南東方向である。浅い溝で、道路跡と考えられる。

SD-006 (第143図)

東区中央北端に位置する。北西から南東方向である。浅い溝で、道路跡と考えられる。

SD-007 (第143図 図版66)

西区北西端に位置する。北北東から南南西方向である。浅い溝で、道路跡と考えられる。

SD-008 (第143図 図版66)

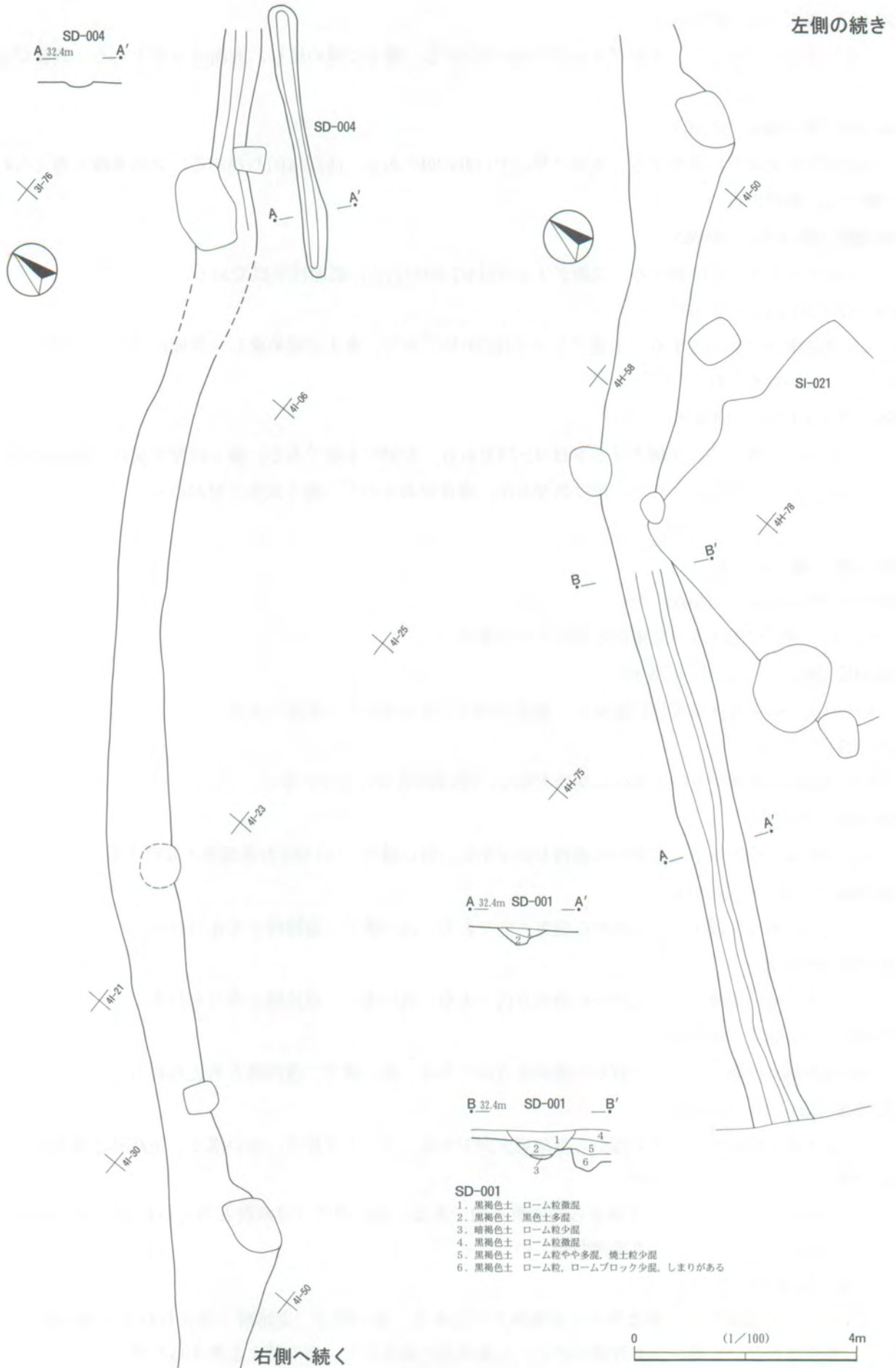
西区北西端に位置する。西北西から東南東方向である。ピットを伴う。浅い溝で、道路跡と考えられる。

SD-009 (第144図 図版66・67)

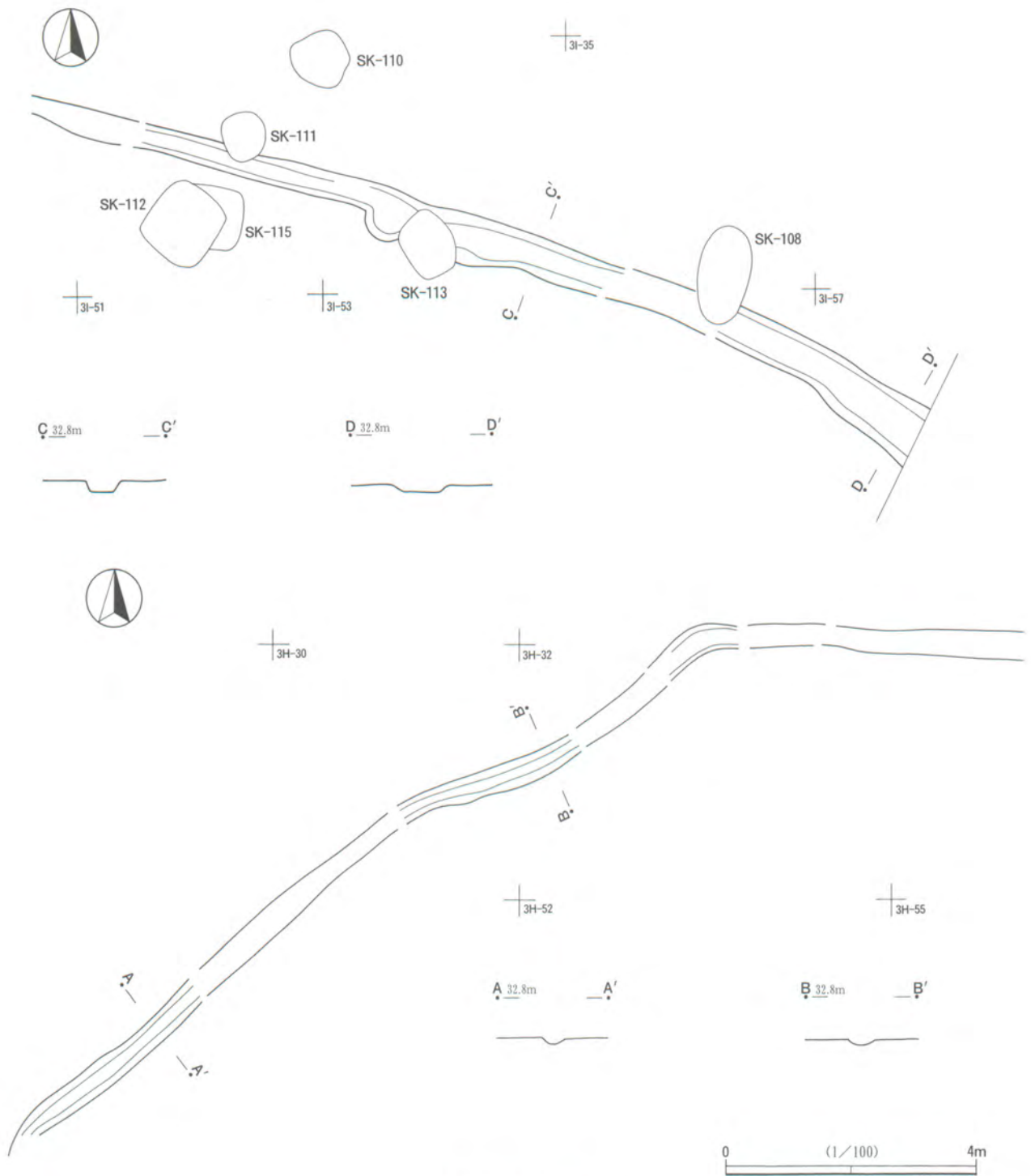
東区北東部に位置する。北北西から南南東方向である。浅い溝で、道路跡と考えられる。SD-010と十字状に重複するが、土層から本遺構が新しい。

SD-010 (第144図 図版66・67)

東区北東部に位置する。東北東から西南西方向である。浅い溝で、道路跡と考えられる。SD-009と十字状に重複するが、土層から本遺構が古い。二重部分があるので、造り替えと考えられる。



第140図 SD-001・004

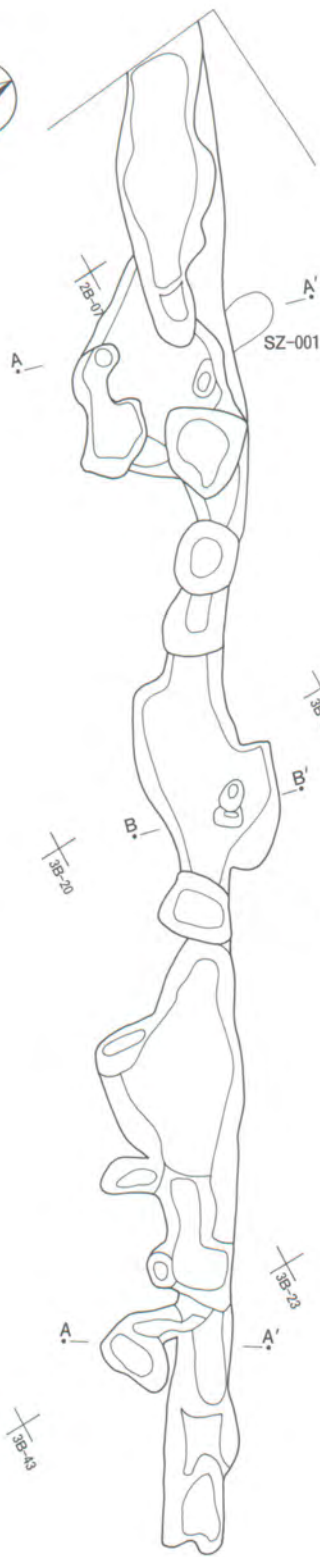


第141图 SD-002



- SD-003**
- | | |
|---------|-------------------------|
| 1. 黒色土 | ローム粒微混 |
| 2. 黒褐色土 | ローム粒極微混 |
| 3. 黒褐色土 | ローム粒微混、ややしまりがある |
| 4. 黒褐色土 | ローム粒少混、やや粘性がある |
| 5. 暗褐色土 | ローム粒多混、ロームブロック少混 |
| 6. 褐色土 | ローム粒主体 |
| 7. 黒褐色土 | ローム粒・ロームブロック少混 (ピットの覆土) |
| 8. 黒褐色土 | ローム粒少混 (ピットの覆土) |

第142図 SD-002・003



C 32.4m

SD-008C-C'

1. 暗褐色土
2. 焼土
3. 暗黄褐色土 ローム粒多混
4. 黄褐色土 ローム粒主体
5. 焼土ブロック

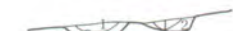
B 32.4m SD-008 B-B'



SD-008B-B'

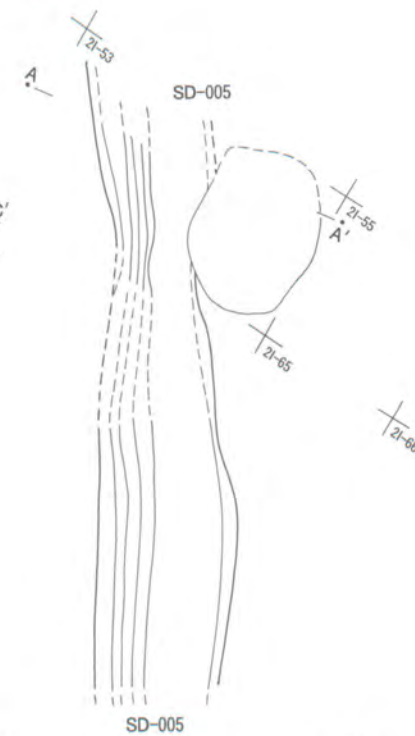
1. 暗褐色土
2. 暗黄褐色土 ローム粒多混
3. 黄褐色土 ロームブロック多混

A 32.4m SD-008 A-A'



SD-008A-A'

1. 暗褐色土 ローム粒混
2. 暗黄褐色土 ロームブロック混

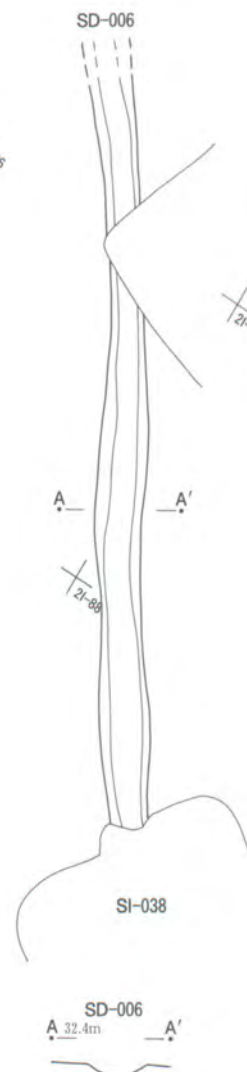


A 32.8m



SD-005

1. 暗褐色土 ローム粒・炭化粒微混
2. 黒褐色土 ローム粒少混, 焼土粒・炭化粒微混
3. 暗黄褐色土 ローム粒やや多混, 炭化粒微混

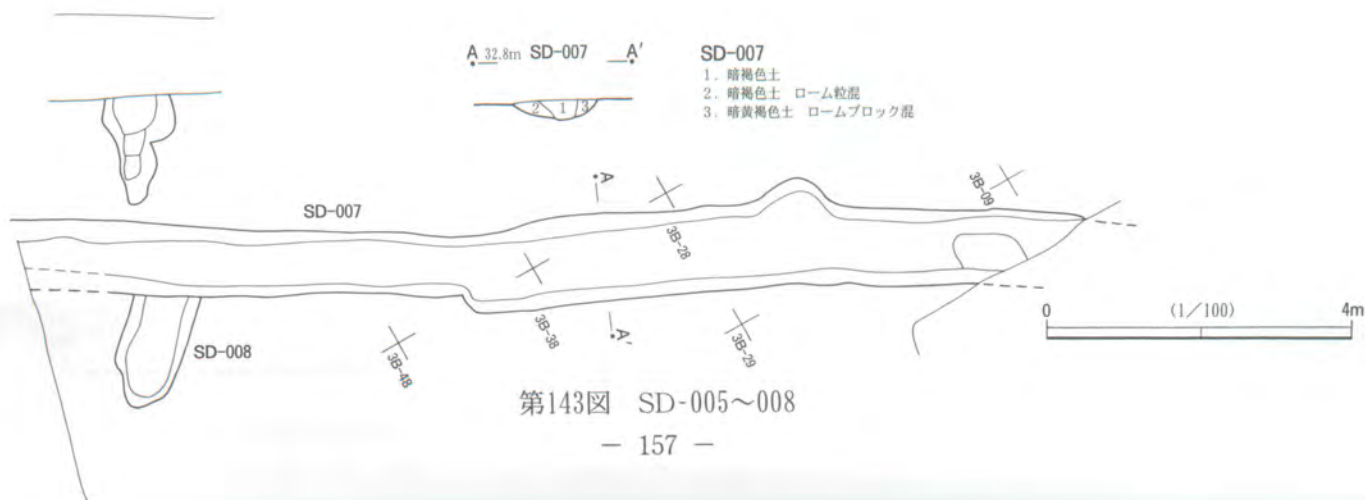


A 32.8m SD-007 A-A'

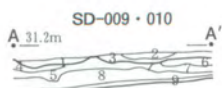
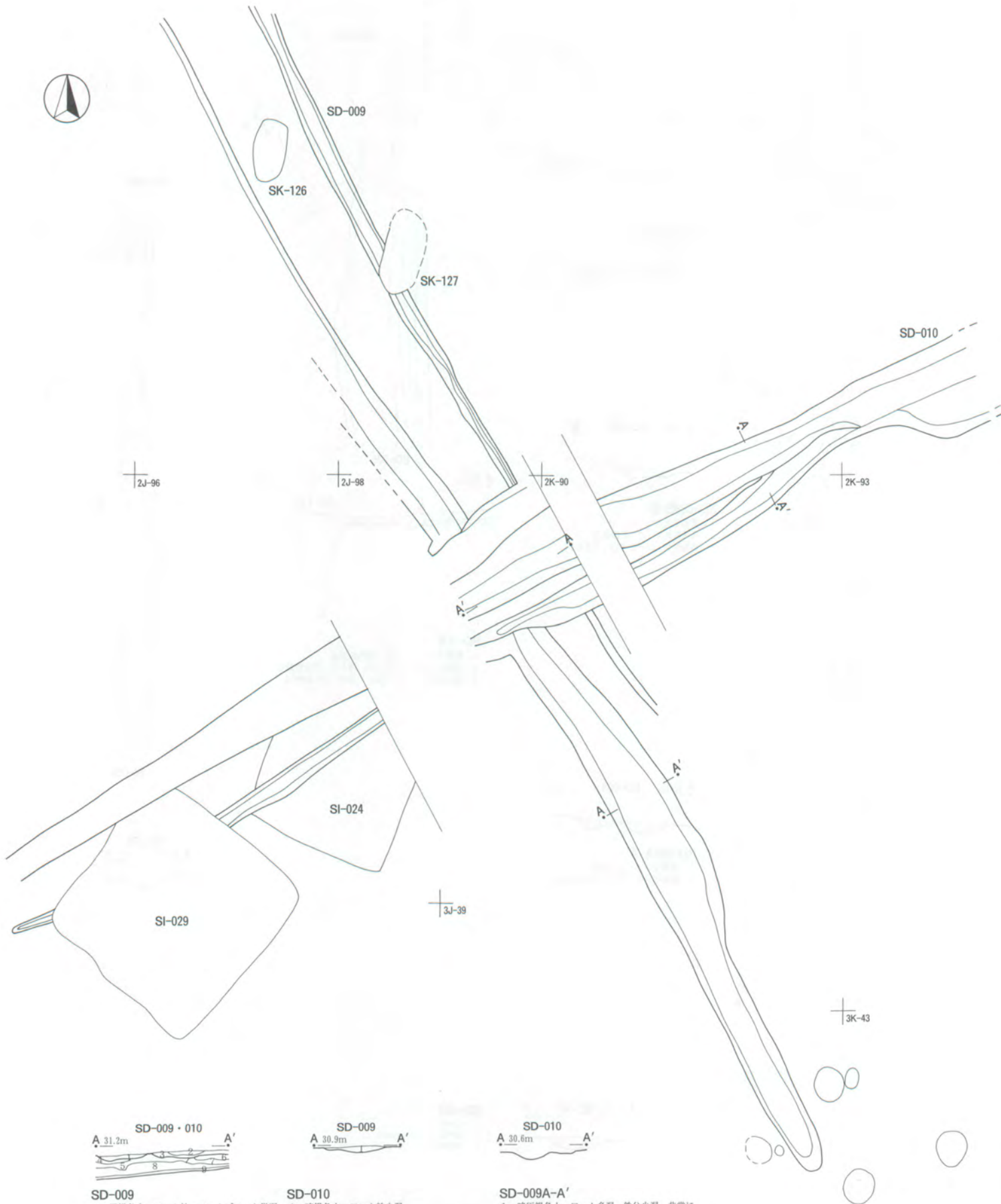


SD-007

1. 暗褐色土
2. 暗褐色土 ローム粒混
3. 暗黄褐色土 ロームブロック混



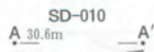
第143図 SD-005~008



- SD-009**
1. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック微混、しまりがある
 2. 黒褐色土 ローム粒微混、しまりがある
 3. 暗灰褐色土 ローム多混、しまりがある



- SD-010**
4. 暗褐色土 ローム粒少混
 5. 黒褐色土 ローム粒少混
 6. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック微混
 7. 暗褐色土 ローム多混
 8. 黒褐色土 ローム多混、炭化粒微混
 9. 暗灰褐色土 ローム混、しまりがある、硬化面



- SD-009A-A'**
1. 暗灰褐色土 ローム多混、鉄分少混、非常にしまりがある、底面も同じ

第144図 SD-009・010

第6節 柵列跡 (第4表)

ピットが列状に検出された遺構である。穴が小さく、杭状のものを並べていたと考えられ、柵列跡とした。

SA-001 (第145図 図版68)

西区東部から中央区西部に位置する。西北西から東南東方向である。小ピット列である。

SA-002 (第146図 図版68)

中央区中央に位置する。西北西から東南東方向である。小ピット列で、SA-003と東半分が並行し、一体の可能性はある。

SA-003 (第146図 図版68)

中央区中央に位置する。西北西から東南東方向である。小ピット列で、SA-002と西半分が並行し、一体の可能性はある。ピットに重複があり、造り替えと考えられる。

SA-004 (第147図 図版68)

中央区中央やや南に位置する。西北西から東南東方向である。SA-005の北側に並行する。ピットに重複があり、造り替えと考えられる。

SA-005 (第147図 図版68)

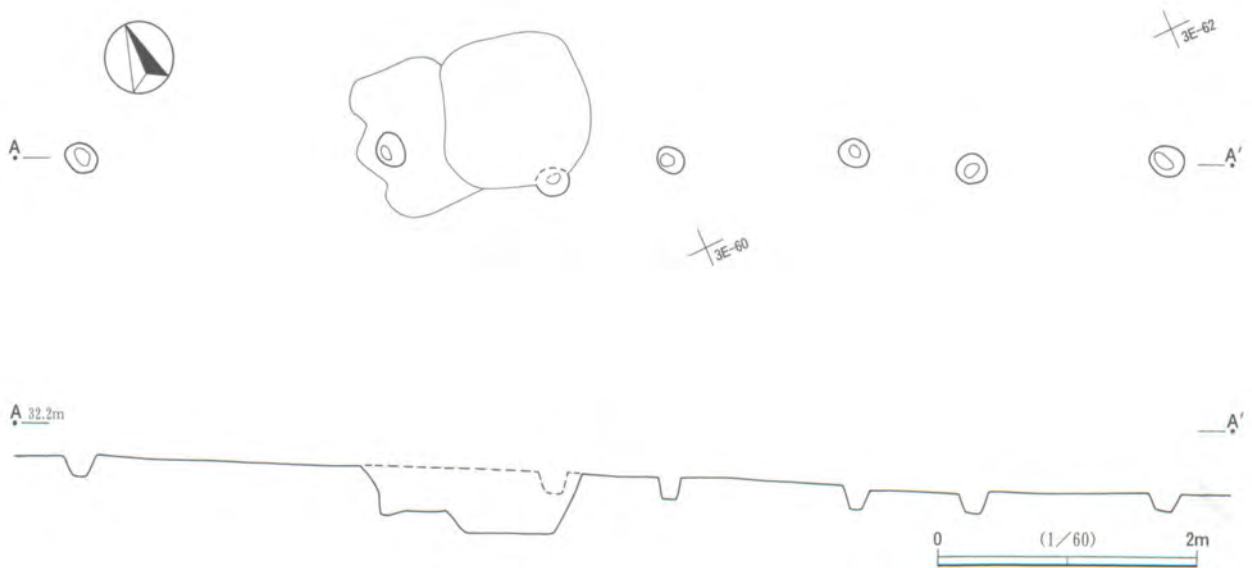
中央区中央やや南に位置する。西北西から東南東方向である。SA-004の南側に並行する。

SA-007 (第148図)

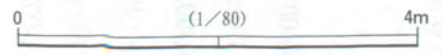
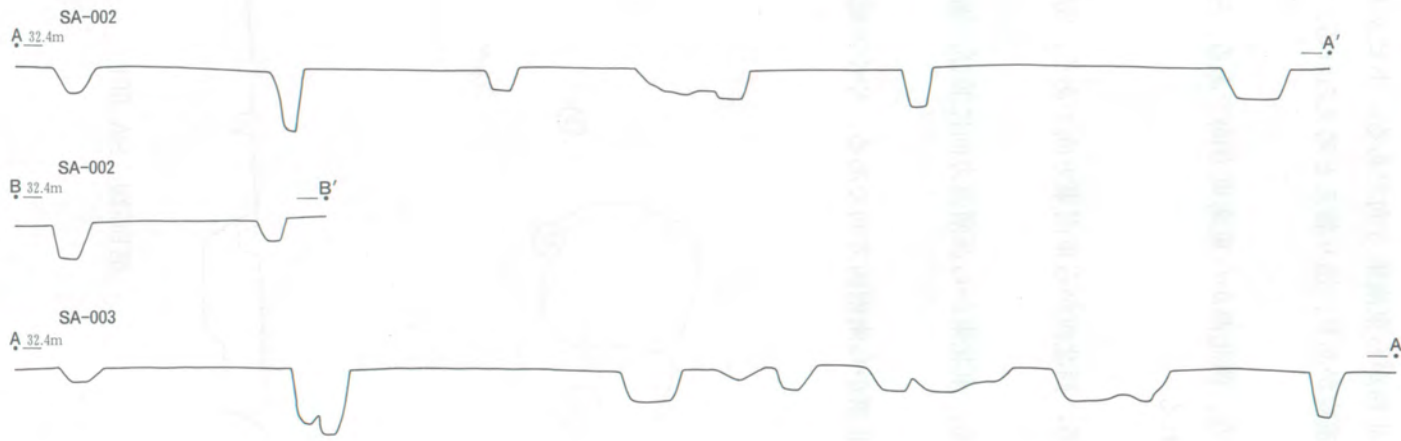
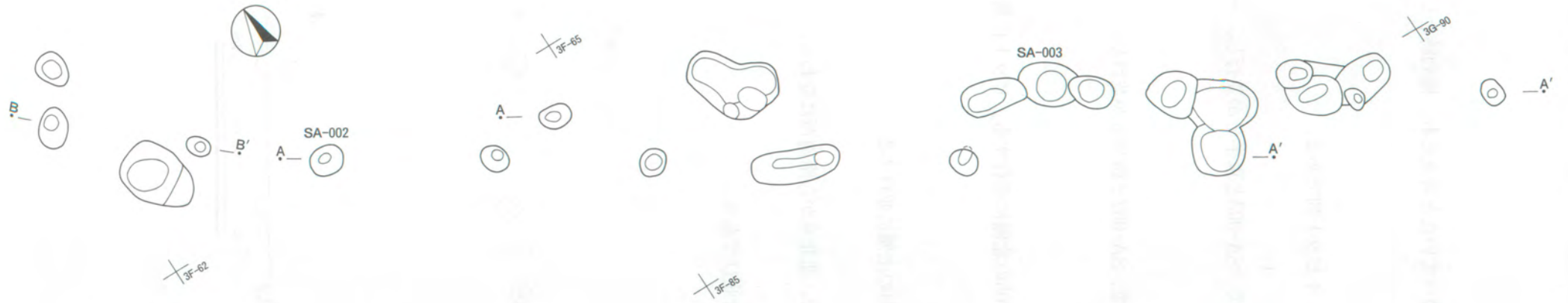
中央区中央南よりに位置する。東北東から西南西方向に並び、途中で、北北東から南南西に変わる。

SA-008 (第149図)

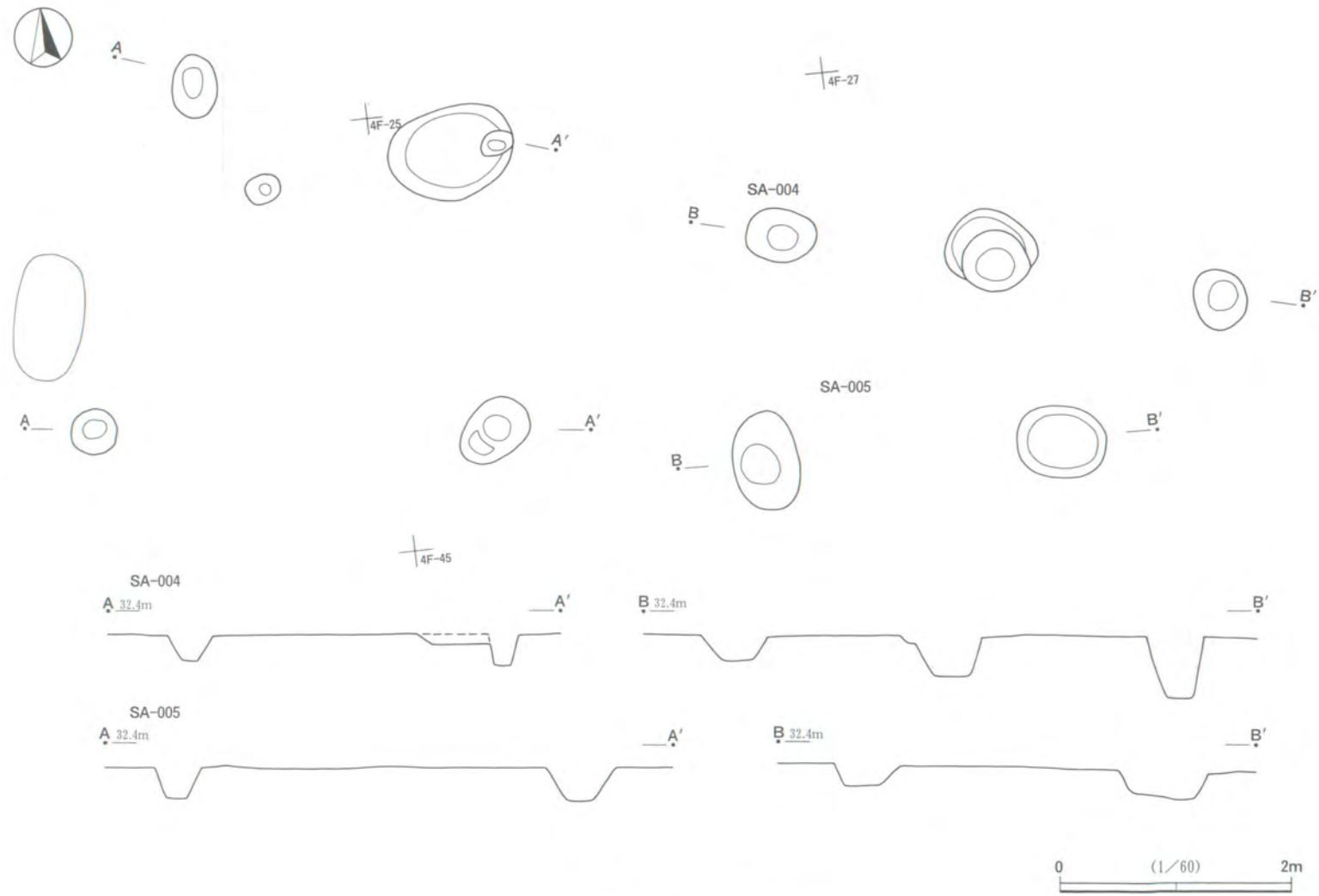
中央区南部に位置する。北北東から南南西方向である。やや不規則な並びである。



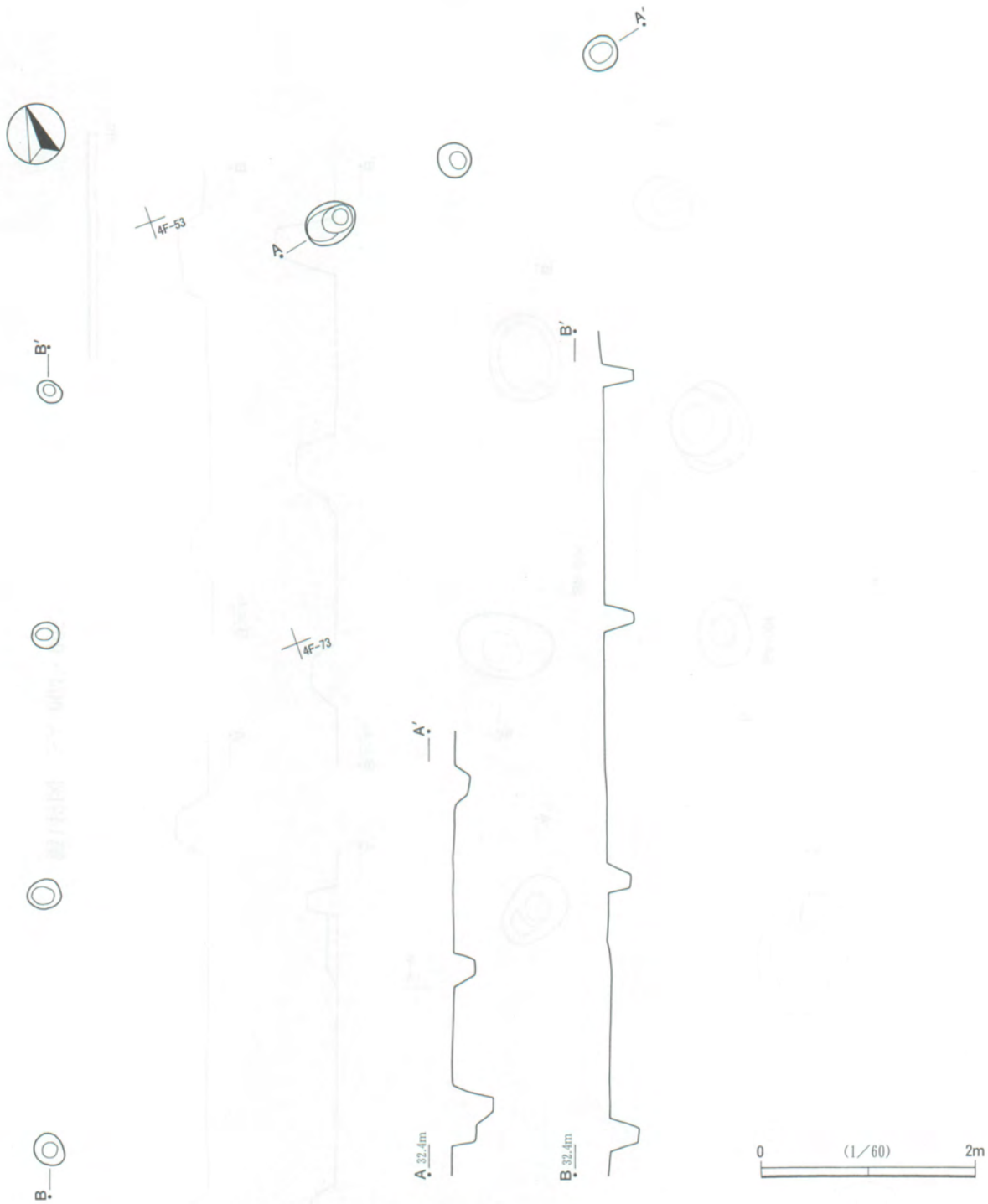
第145図 SA-001



第146图 SA-002 · 003



第147图 SA-004 · 005



第148図 SA-007



第149図 SA-008

第7節 ピット群 (第4・5表)

柵列を構成するピットと同規模のピットであるが、配置に規則性がない。

SH-001 (第150・160図)

西区東部に位置する。グリッド4D-26を中心に集中する。

SH-002 欠番

SH-003 欠番

SH-004 (第151図)

西区東部に位置する。グリッド4D-26を中心に集中する。

SH-005 (第102図 図版67)

中央区中央南部に位置する。グリッド4F-94を中心に集中する。SB-005と重複し、本遺構が新しい。

SH-006 (第152図)

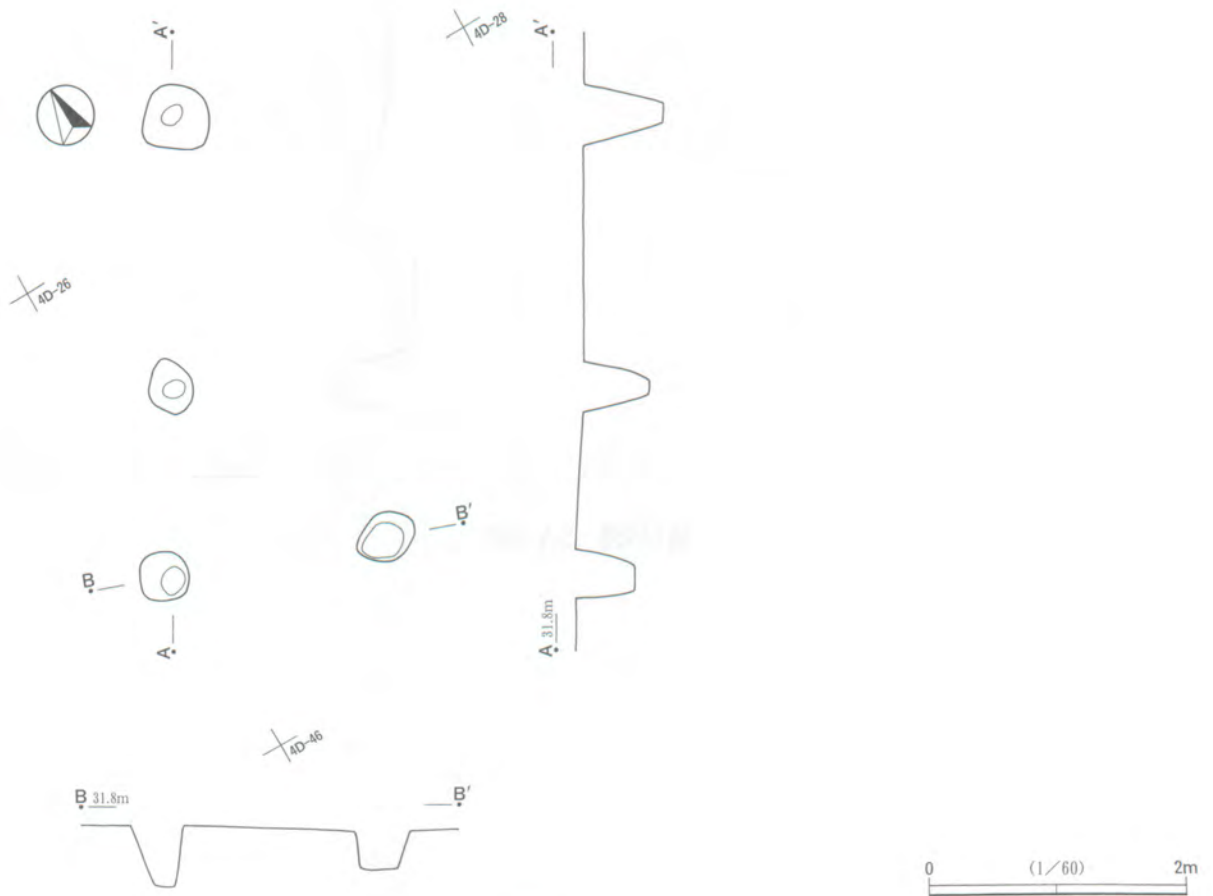
中央区中央南部に位置する。グリッド4F-70を中心に集中する。

SH-007 (第153図)

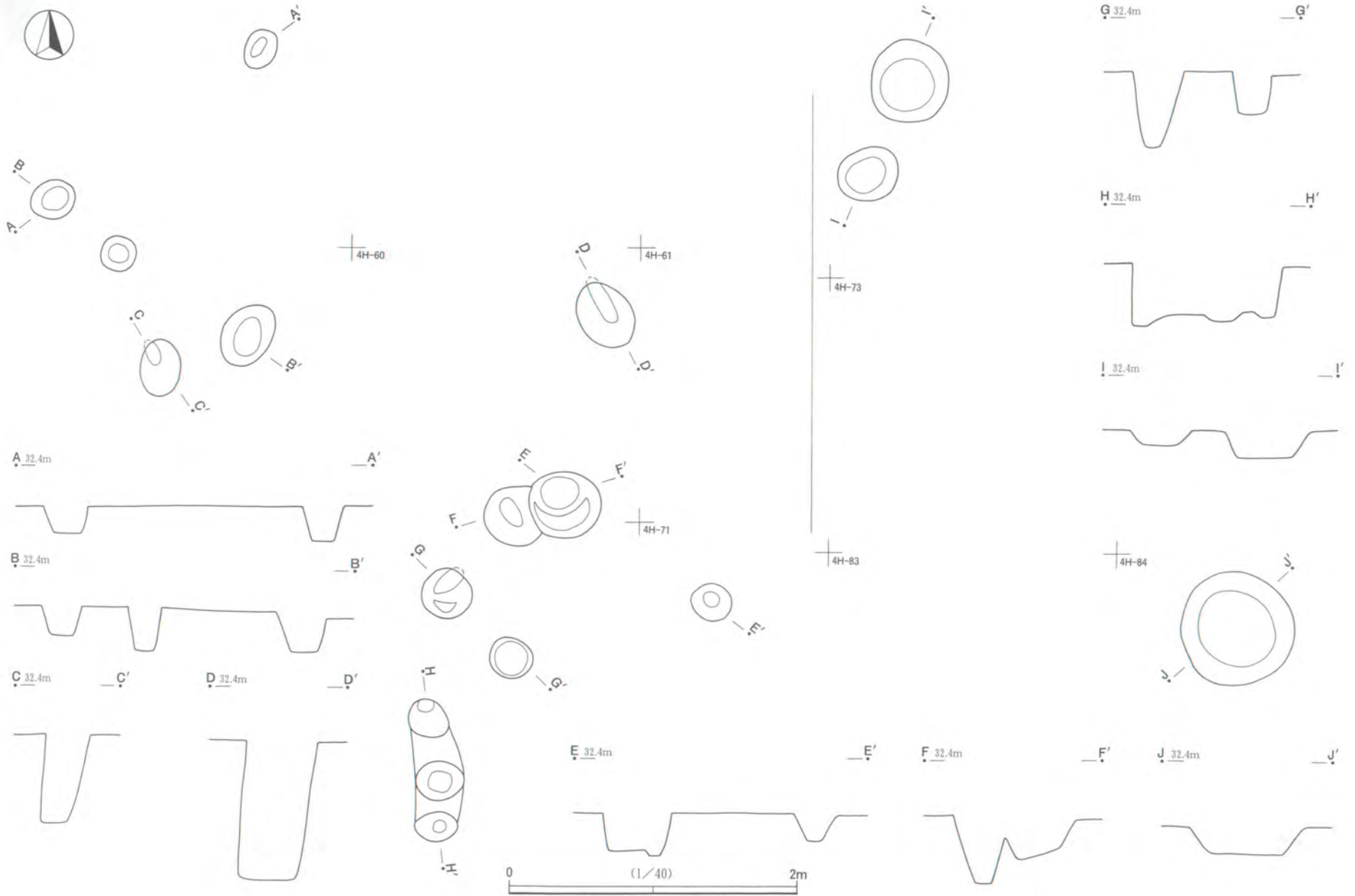
中央区中央やや南に位置する。グリッド4F-51を中心に集中する。

SH-008 (第154図)

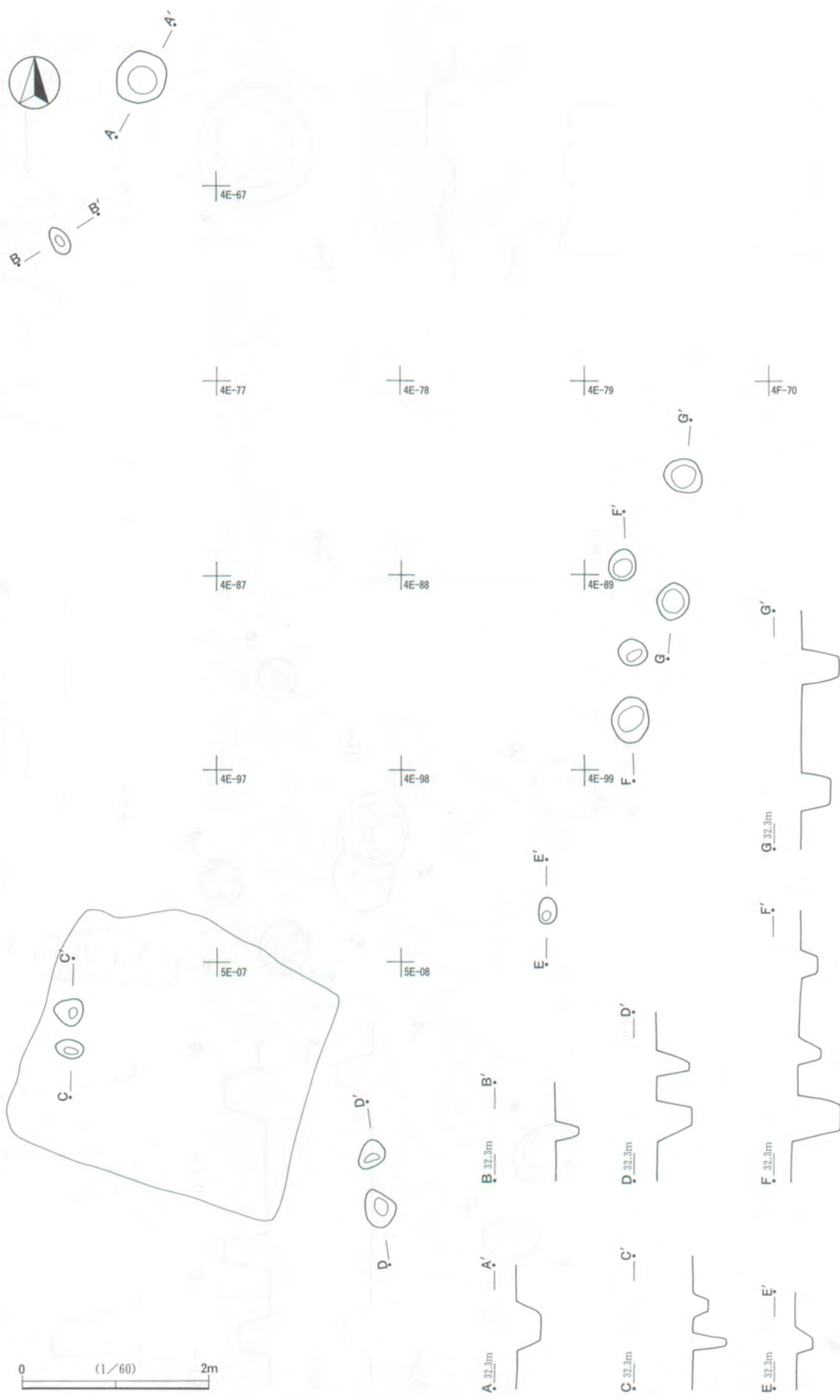
西区中央北端に位置する。グリッド3C-04を中心に集中する。



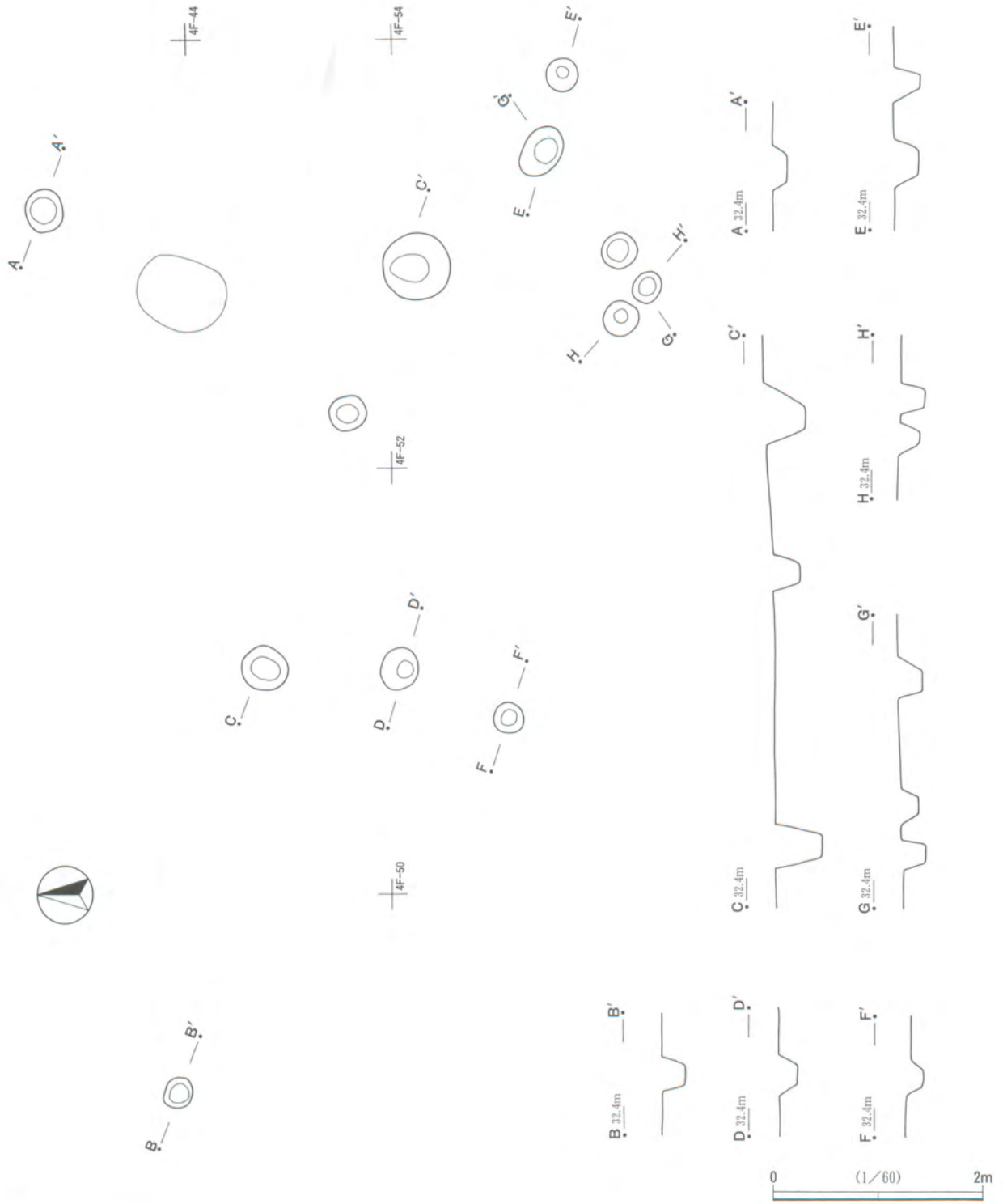
第150図 SH-001



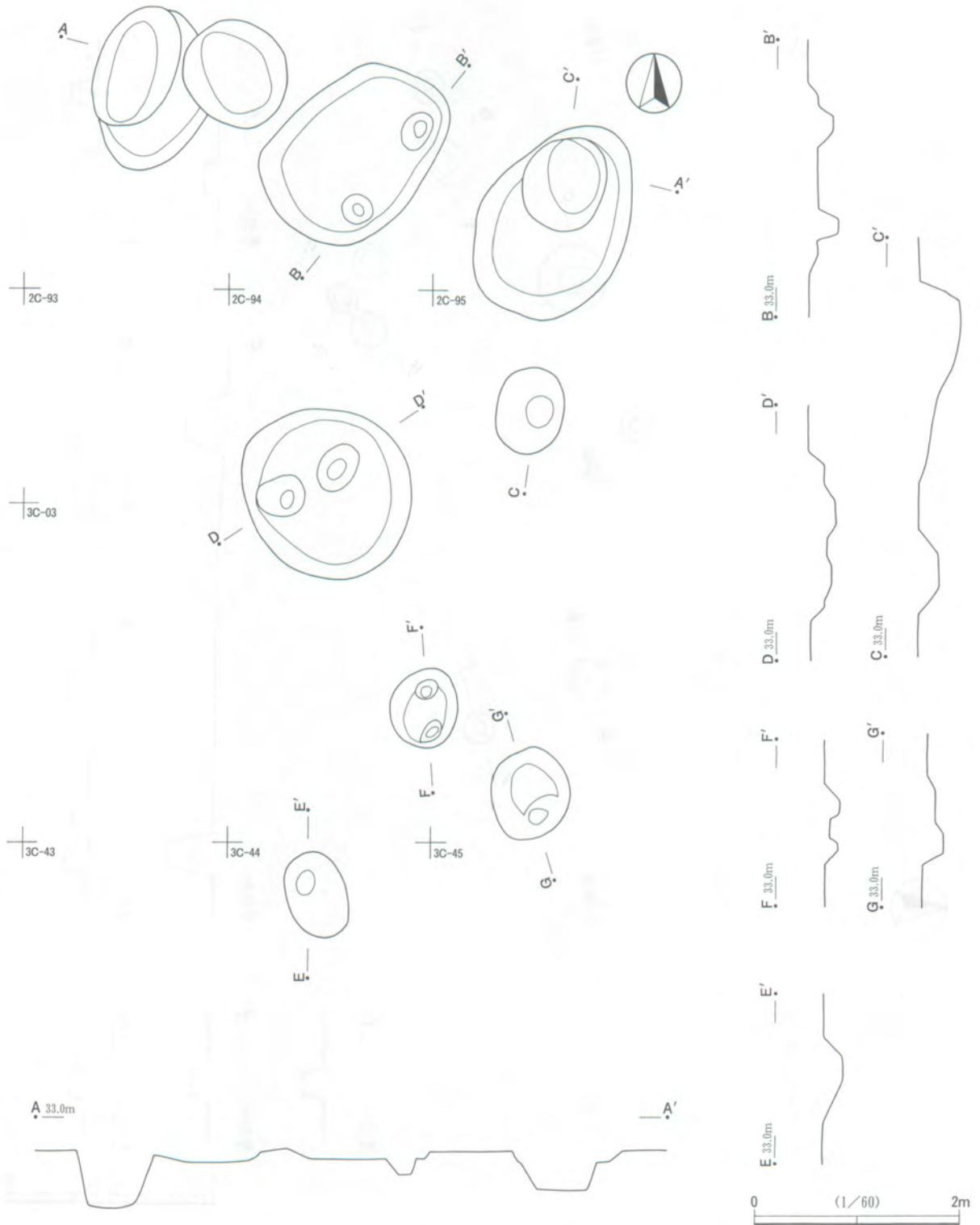
第151图 SH-004



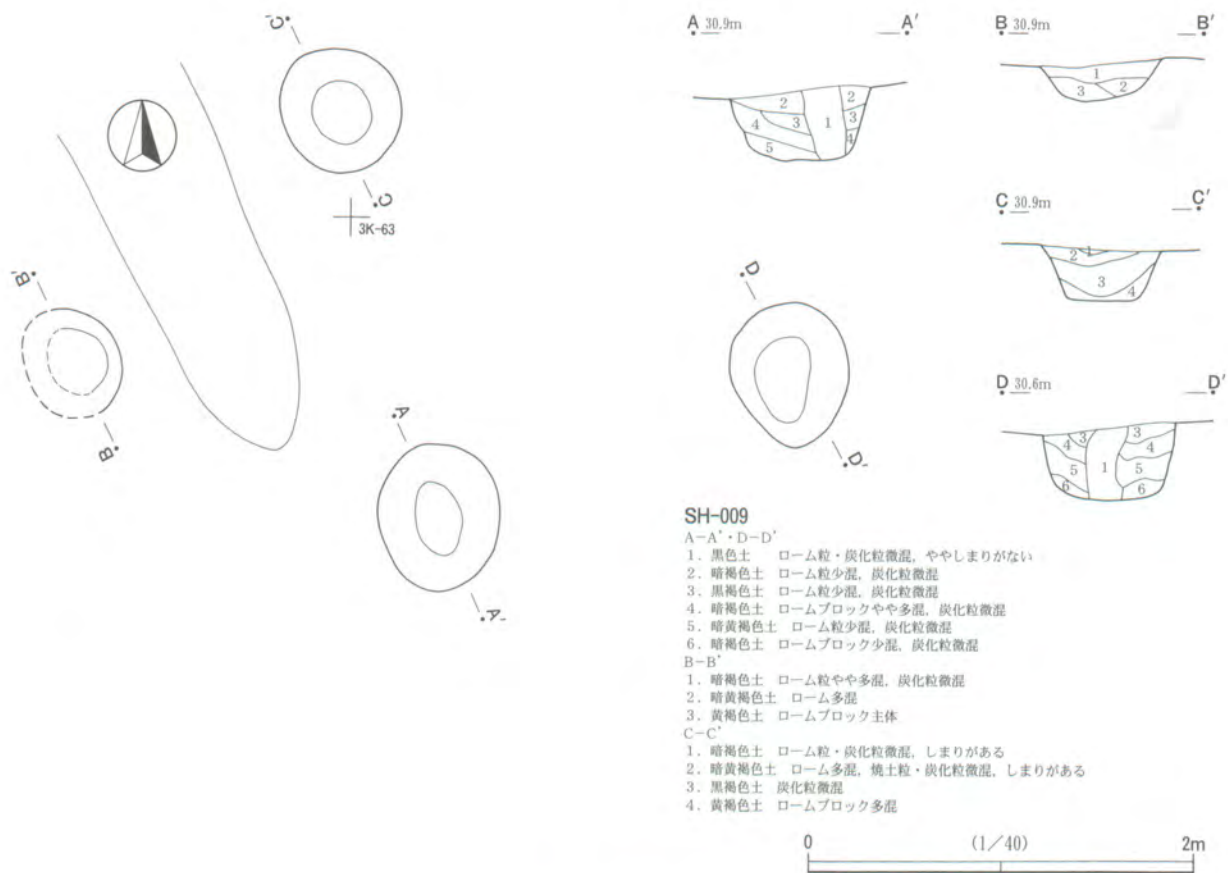
第152图 SH-006



第153図 SH-007



第154图 SH-008



第155図 SH-009

SH-009 (第155図 図版67)

東区東端に位置する。グリッド3K-53を中心に集中する。掘立柱建物跡の一部と考えられる。形状から、奈良・平安時代の可能性がある。

第8節 台地整形遺構

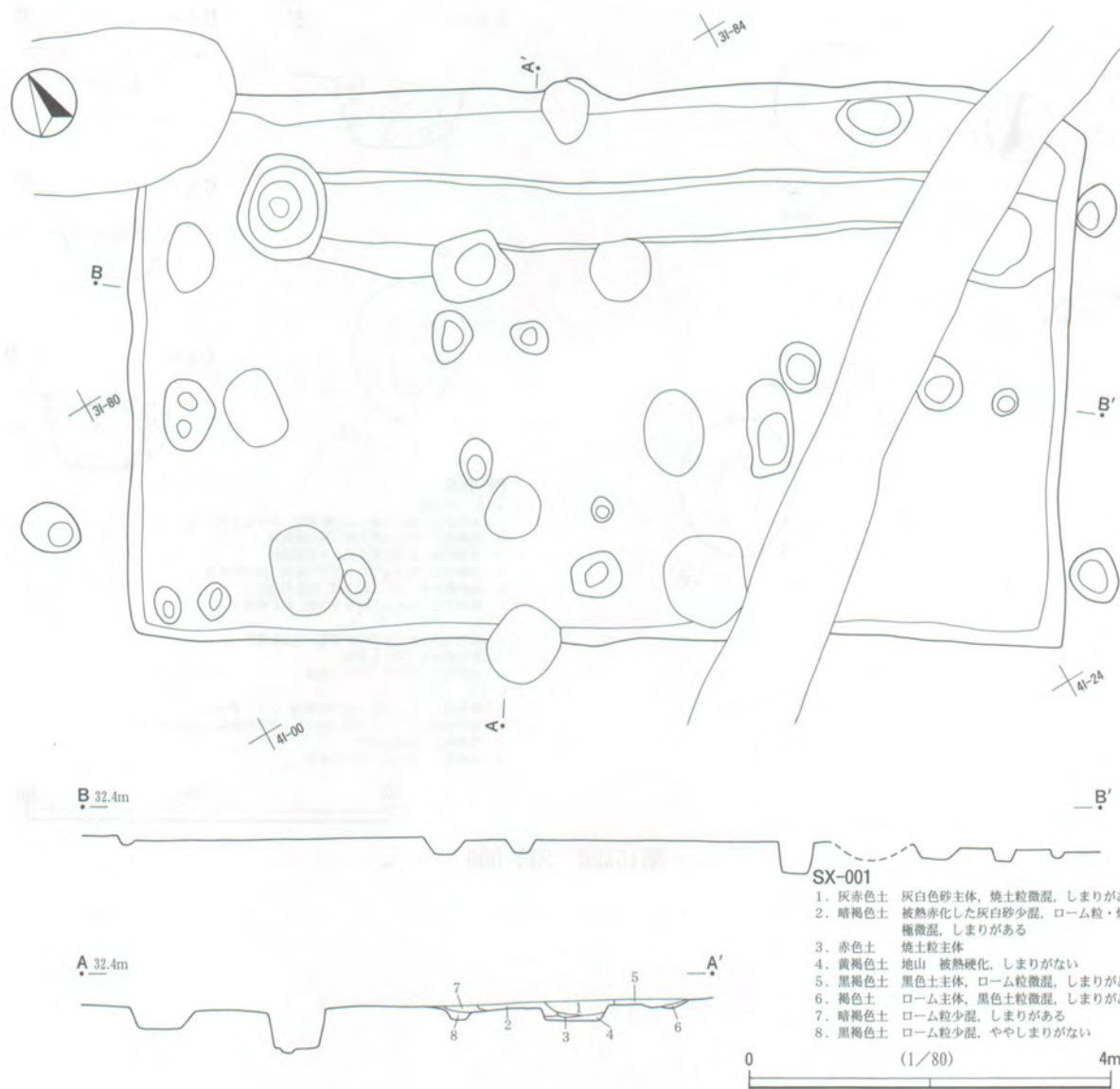
SX-001 (第156図 図版68)

東区中央南に位置する。主要なグリッドは3I-92である。全体に削平され残りは悪い。長方形に掘られた台地整形遺構である。内部にピットが多く検出されている。

第9節 焼土遺構

SZ-001 (第157図 図版68)

西区北西端に位置する。主要なグリッドは3A-97である。ピット状の遺構であるが、内面全体が良く焼土化し、南斜面に焼土が分布しているので、製鉄関係遺構の可能性はある。



第156図 SX-001



第157図 SZ-001

第10節 出土遺物 (第158図 図版77・78)

SK-016

1はカワラケである。底部中央を欠く。平底で、体部が外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。

SK-017

1は須恵器長頸壺である。頸部から胴部上端部である。胴部は球形と考えられ、頸部が外反してラッパ状に開く。2は土師器甕の胴部下部から底部である。底部中央を欠く。平底で、胴部はやや長胴と考えられる。

SK-021

1は土師器小型甕である。胴部下部から底部である。底部中央がわずかに上げ底で、胴部はやや縦長の球形と考えられる。

SK-026

1は土師器坏で、ロクロ成形である。底部中央がわずかに上げ底である。体部は外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。口縁はわずかに外反する。

SK-034

1は灰釉陶器短頸壺である。平底で、胴部はやや扁平な球形である。口縁部は内傾して短く立ち上がり、口縁はわずかに外反する。

2は砥石片である。薄い板状で、断面は凸字形である。

SK-094

1は須恵器坏である。平底で、体部が外傾して立ち上がり、わずかに内彎して口縁に至る。口縁は外反する。

SK-113

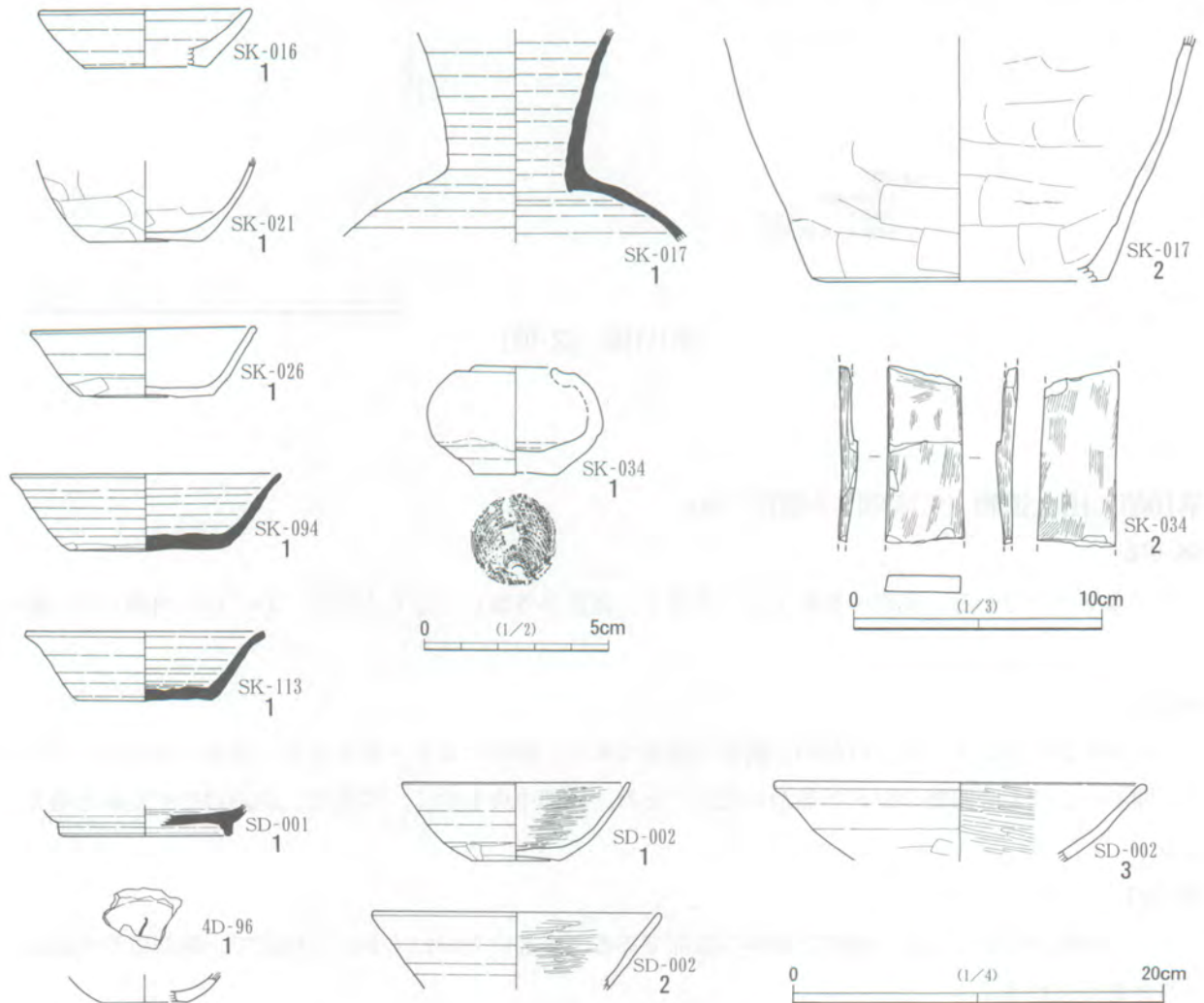
1は須恵器坏である。平底で、体部が外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁は外反する。

SD-001

1は須恵器高台付坏である。底部で、中央を欠く。高台が断面ハ字状に開く。

SD-002

1～3は土師器坏で、ロクロ成形である。1は底部中央がわずかに上げ底である。体部はゆるやかに内



第158図 土坑・溝出土遺物

彎して立ち上がり、口縁に至る。口縁はわずかに外反する。2は口縁から体部で、体部が直線的である。3は口縁から体部で、1と同型である。

4D-96

1は土師器坏で、ロクロ成形である。体部下部から底部で、底部中央を欠く。平底で、体部はゆるやかに内彎して立ち上がる。底部内面に墨書が施される。

トレンチ (第159図 図版78)

確認調査時に出土した遺物で、中世関係である。

1は掘り鉢である。口縁から体部である。体部は直線的で、口縁が断面四角形の縁带状である。2は陶器甕の口縁部である。常滑産である。口縁の縁帯が大きい。口縁部に張り付いていない。3・4は焜炉と考えられる。底がなく、胴部に円形の透かしが施される。

鉄製品関係 (第160図 図版79・84)

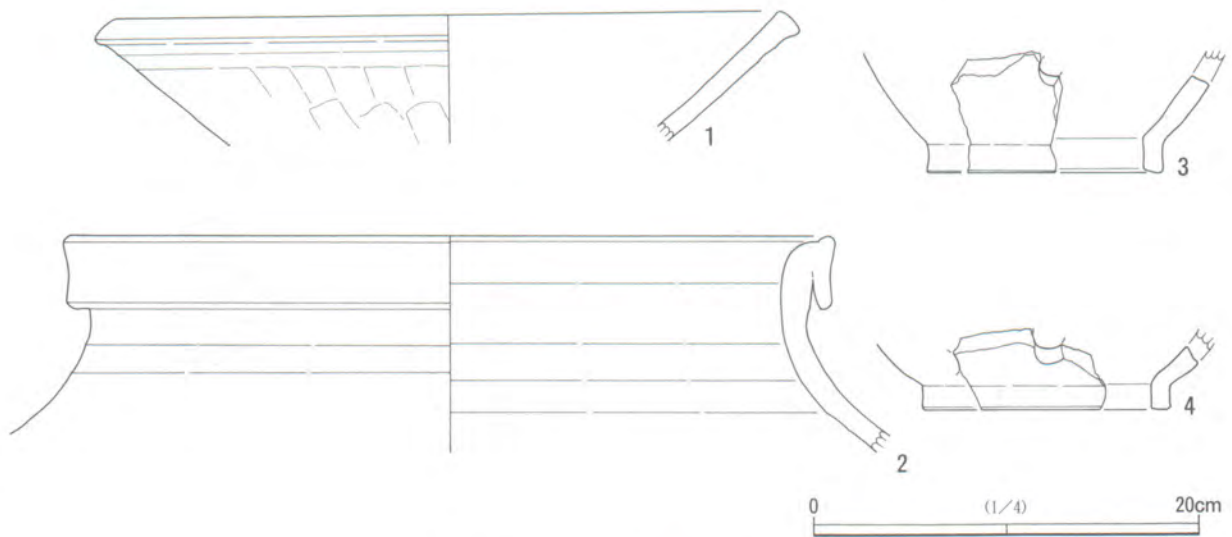
SH-001

1は棒状で先端が尖り、曲がっている。断面が四角形で、カスガイと考えられる。

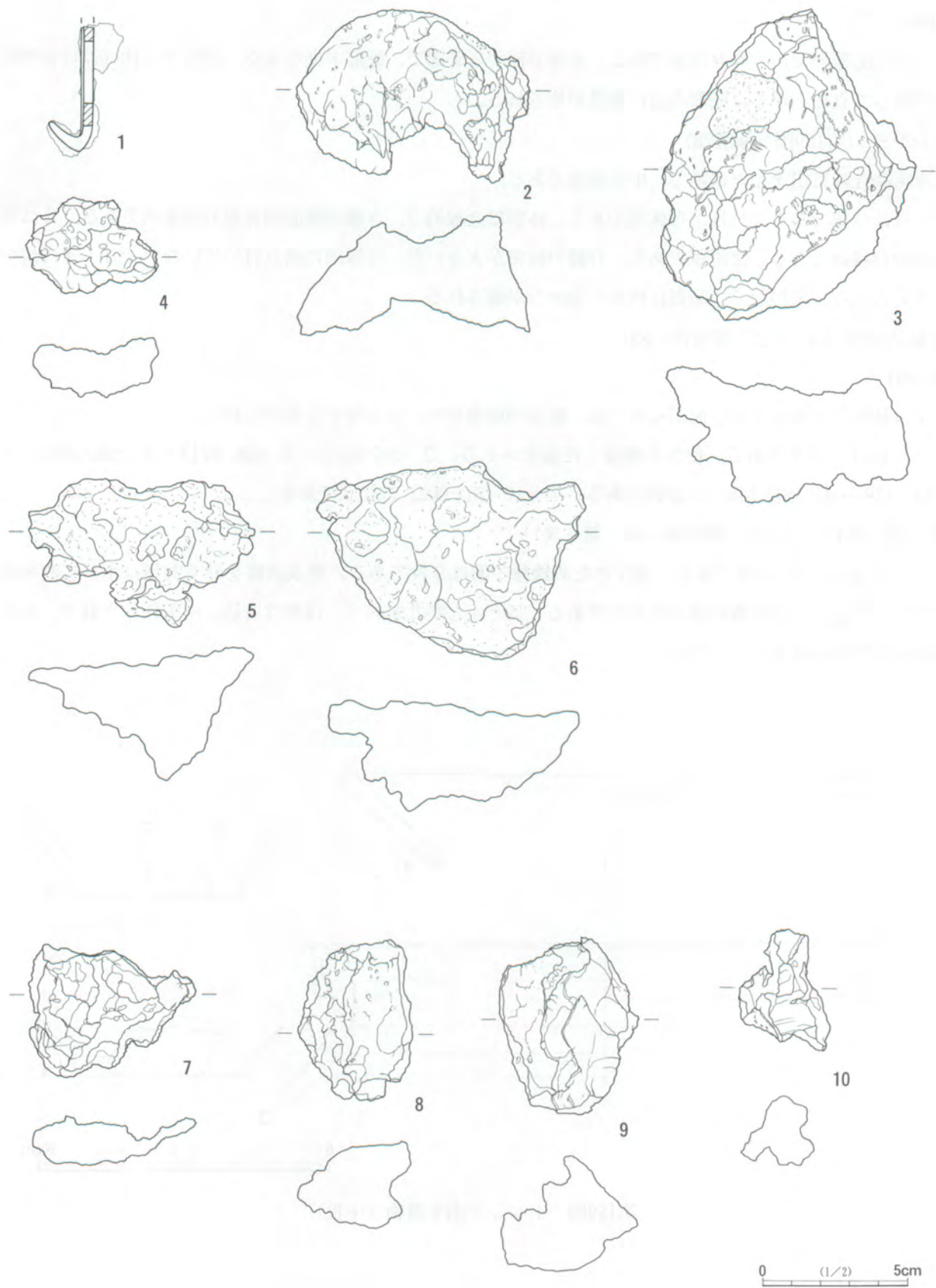
2～10はスラグである。粒状と彎曲した板状がある。2 (SK-017)・3 (SK-071)・4 (SK-089)・5 (SK-118)・6 (SK-118)は板状である。7～10 (SD-002)は粒状である。

銭貨 (第161～163図 図版80～84 第6表)

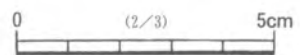
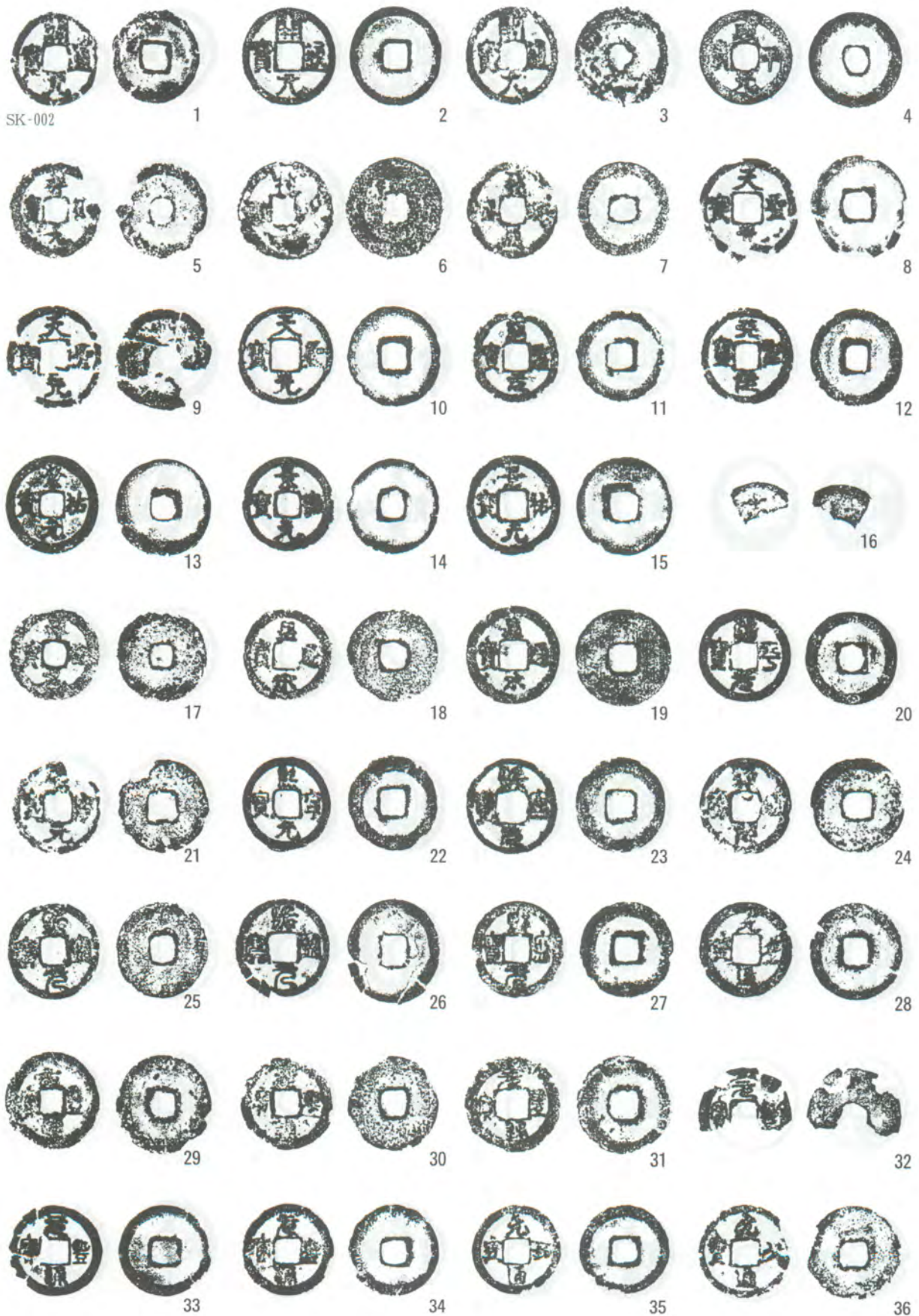
出土銭貨は25種113枚である。破片のため銭種不明は9枚である。寛永通寶を除く24種はすべて渡来銭である。銭種および枚数は表のとおりである。ほとんどが北宋銭で、ほかは唐銭、南宋銭、金銭で、永樂通寶など明銭は含まれていない。



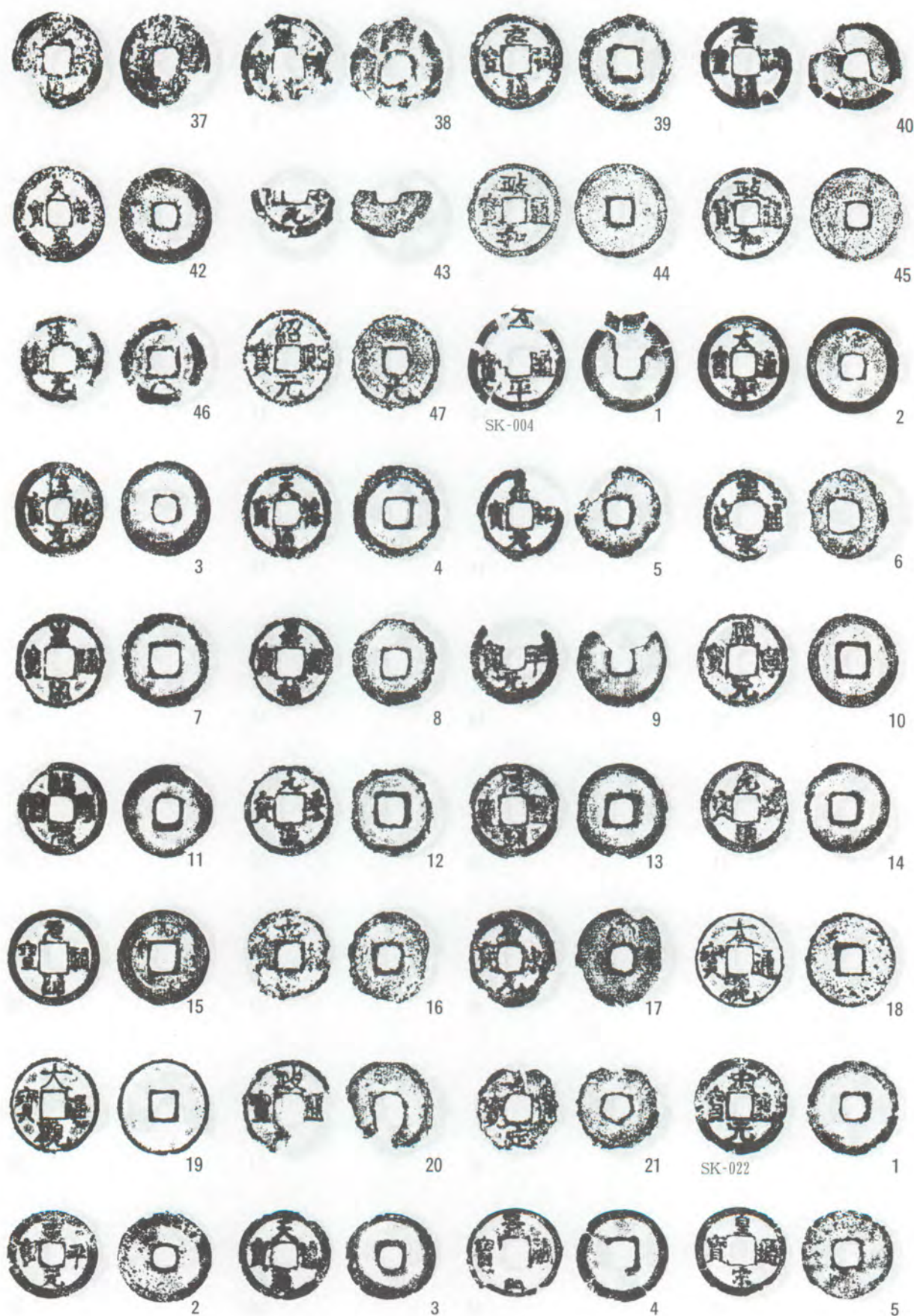
第159図 トレンチ出土遺物 (中世)



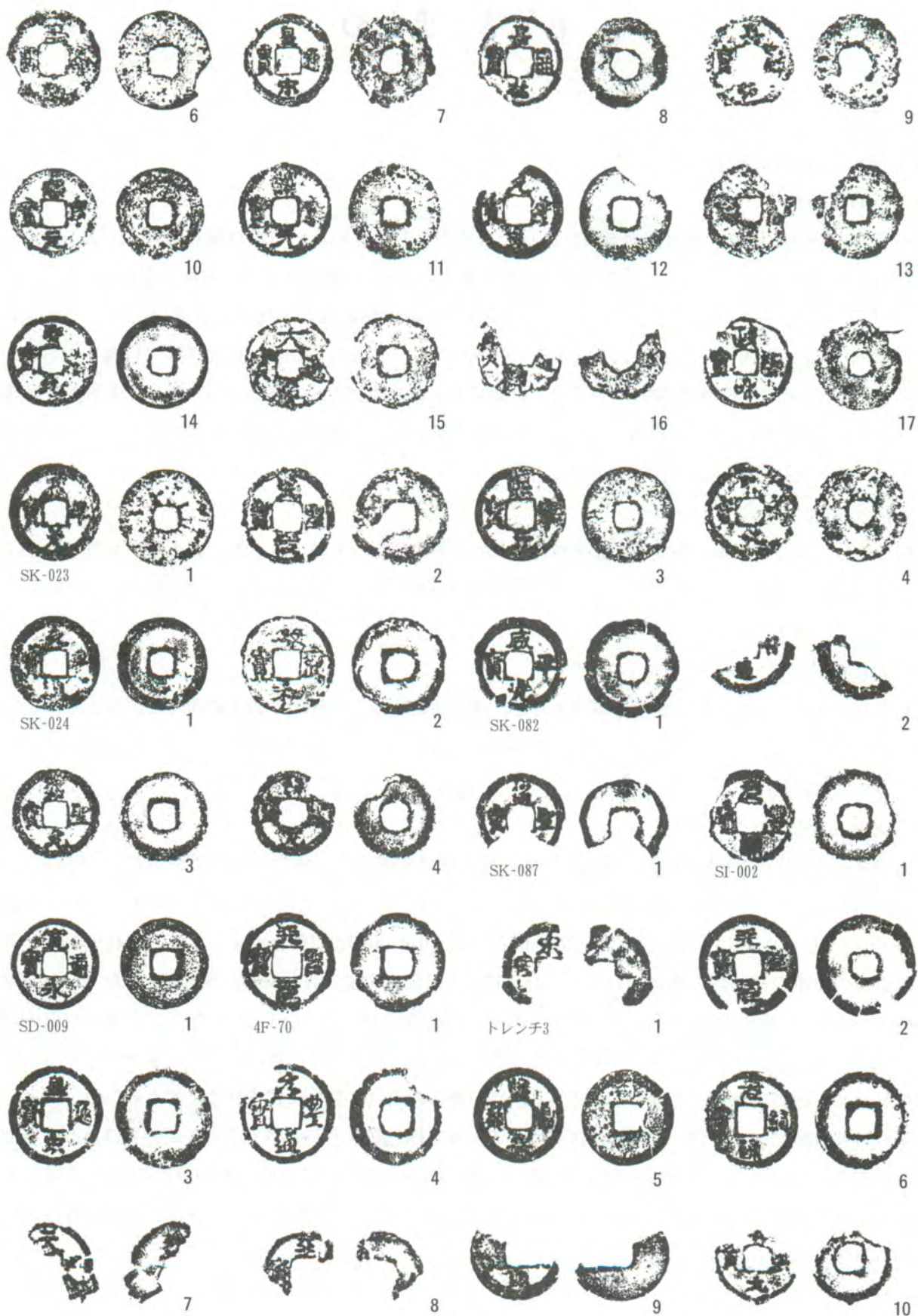
第160図 鉄製品・スラグ



第161図 錢貨(1)



第162図 錢貨(2)



0 (2/3) 5cm

第163図 錢貨(3)

第7章 まとめ

第1節 調査の成果概要

1 旧石器時代

本遺跡の石器の組成、石材の組成は、A区では次のとおりである。石器は総点数183点で、石核3点(1.6%)、剥片136点(74.6%)、調整痕がある剥片1点(0.5%)、使用痕がある剥片2点(1.1%)、敲石2点(1.1%)、碎片39点(21.3%)である。石材は安山岩154点(84.3%)、安山岩B11点(6.0%)、安山岩C1点(0.5%)、安山岩D1点(0.5%)、頁岩1点(0.5%)、メノウ12点(6.6%)、砂岩3点(1.6%)である。

印旛沼東岸の旧石器時代遺跡については、大規模なものは確認されていない。しかし、成田国際空港周辺(取香川水系)および印旛沼西岸には多くの遺跡が確認され、調査も実施されているので、印旛沼東岸にも未発見の大規模遺跡が存在すると考えられる¹⁾。

2 縄文・弥生時代

集落としては前期後半浮島期の集落が確認された。竪穴住居は1軒であるが、調査範囲が限られているので、範囲外に集落が広がると考えられる。陥穴群は早期と考えられるが、東側斜面際に並んで分布し、一連のものと推定される。

3 古墳時代

集落としては、後期の竪穴住居1軒であるが、縄文時代集落と同様に、調査範囲外に広がると考えられる。松崎山ノ台遺跡、公津原遺跡群では、同時期の集落があり、古墳も所在するので、同遺跡群に含まれると考えられる。

4 奈良・平安時代

本遺跡の中心的な時期である。竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸跡など、時期が大きく2時期になると考えられる。竪穴住居跡は3時期に分かれる。最も古いものは、古墳時代終末に属する。出土土器からSI-004・007・011・012・024・025・029・037・039・048・049の11軒と考えられる。これらは、松崎山ノ台遺跡の方墳と同時期と考えられる。これに続く、2期目の竪穴住居跡は、SI-001・002・005・006・008・015・018・021・022・023・027・033・034・036・038・041・044・050の18軒で、3期目はSI-003・010・014・020・031・032・035・042の8軒と考えられる。残りの住居跡は削平や、遺物がほとんど出土しないため、時期が確定できないものである。井戸跡の時期は2期目に含まれると考えられる。

掘立柱建物跡については、2種類に区分される。掘立柱跡掘り方が大型で、方形状のものと、やや小型で、円形のものである。大型方形は、SB-004・006・007・008・009・010・011・012・013の9棟と考えられる。竪穴住居との関係は、重複しているものも含めて、かなり近接しているので、同時期存在のものは限られると考えられる。

5 中世

明瞭な集落跡は検出されなかったが、集落に伴う竪穴状遺構、地下式坑、土壌墓、台地整形遺構などが検出された。特に、調査区南側のゆるやかな斜面周辺に遺構が多く検出されている。集落の中心は斜面下の可能性がある。

第2節 奈良・平安時代掘立柱建物跡の検討

掘立柱建物跡の配置に規則性が見られる。また大型の掘立柱建物跡があり、官衙的要素があると考えられる。立地および井戸跡の所在から、倉庫群と考えられる。公津原遺跡群の中には同様の遺跡があり、地区ごとの拠点的な集落の1つと考えられる。

隣接遺跡のLoc.40遺跡は古墳時代中期の集落が主体である。奈良・平安時代は竪穴住居跡、掘立柱建物跡が検出されているが、掘立柱建物跡は2間×1間、3間×2間、4間×2間で、大型掘立柱建物跡は検出されていない。公津原遺跡群の中ではLoc.15遺跡とLoc.20遺跡に大型掘立柱建物跡が検出されている。両者とも庇がある掘立柱建物跡を中心に配置される。Loc.20遺跡では庇がある掘立柱建物跡が3棟（四面庇2棟、両面庇1棟）検出され、重複関係から2時期以上に分けられると考えられる。ほかに、7間×2間の細長い掘立柱建物跡、内側に柱穴がある掘立柱建物跡があり、本遺跡と類似した遺構が検出されている。また墨書に「寺」があり、村落内寺院と考えられている。Loc.15遺跡も四面庇掘立柱建物跡とこれを囲む掘立柱建物跡群から同様と考えられる。

本遺跡の掘立柱建物跡は細長いものが多く、庇のあるものはない。よって、村落内寺院よりは官衙的要素が大きいと考えられる。

官衙遺跡としては埴生郡衙跡と考えられる大畑Ⅰ遺跡が本遺跡北西に位置している。大畑Ⅰ遺跡は、主要地方道成田安食線建設に伴って調査された。道路建設に伴う調査のため、調査範囲がかなり限られていたので、官衙遺構と考えられる掘立柱建物跡はすべてが検出されてはいない。最も大きなものは9間×3間である。ほかは、8間以上×3間、6間×3間、6間×2間、5間×3間、4間×3間、3間×2間である。1棟を除き、側柱掘立柱建物跡で、庇があるものはない。また、調査区東部のゆるやかな斜面に井戸跡が2基検出されている。掘り方規模は5.4mで深さ2.0m、掘り鉢状で、底面の掘り方は1.6m×1.2m、深さ0.5mである。他方は、掘り方規模4.6mで深さ1.8m、底面の掘り方は、1.0m×0.9m、深さ0.4mである。これは、本遺跡の井戸跡と類似する。遺物は、土師器が主で、足高高台と呼ばれる坏が出土している。これは、本遺跡井戸跡の遺物よりも新しいと考えられる。本遺跡の井戸は底面の掘り方が方形であり、時期的な差と考えられる²⁾。

以上、遺構の状況で、本遺跡の掘立柱建物跡群は、大畑Ⅰ遺跡に類似点が多く見られるので、隣接する公津原遺跡群の掘立柱建物跡群に比較して、より官衙的と考えられる。立地も、公津原遺跡群の北辺であり、最も台地が狭くなる部分で、いわゆる交通の要所と考えられるので、南側に広がる公津原遺跡群の奈良・平安時代集落を統括する官衙的な施設と推定される。

注

1) 2004『印旛の原始・古代 ー旧石器時代編ー』（財）印旛都市文化財センター

2) 1985『主要地方道成田安食線道路改良工事（住宅地関連事業）地内埋蔵文化財調査報告書』

（財）千葉県文化財センター

第1表 旧石器一覧表

A区

挿図	番号	石器集中地点・グリッド等	遺物番号 A-	石材	器種	接合・個体	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量(g)	層位	標高	備考
		2D-72	131	安山岩	剥片	3点接合2D-82-135・139	[25.4]	[25.7]	[5.4]	[2.11]	VII	31.732	接合計測
		2D-72	131	安山岩	剥片		20.9	19.0	5.0	1.83	VII	31.732	
		2D-72	132	安山岩	剥片		13.6	30.2	3.8	2.23	VII	31.970	
		2D-72	133	安山岩	碎片		5.9	12.6	1.9	0.14	VII	32.117	
		2D-74	162	安山岩	剥片		32.4	18.5	4.5	2.61	VII	32.058	
14	51-2	2D-75	96	安山岩	剥片	9点接合2D-84-88・103-109・173,2D-85-79-86,2D-94-110,2D-95-82	39.3	56.5	10.1	26.05	VII	32.002	2D-75-96,2D-84-103-109・173,2D-85-79-86,2D-94-110,2D-95-82接合計測
		2D-75	97	安山岩	剥片		18.0	14.3	2.6	0.43	VII	31.991	
		2D-75	97	砂岩	碎片		6.3	12.0	4.5	0.38	VII	31.991	
		2D-82	134	安山岩	剥片		15.4	10.0	3.9	0.41	VII	31.994	
		2D-82	135	安山岩	碎片	3点接合2D-72-131,2D-82-139	[25.4]	[25.7]	[5.4]	[2.17]	VII	32.129	接合計測
		2D-82	136	安山岩	剥片		13.4	27.4	4.3	1.25	VII	32.023	
		2D-82	137	安山岩B	碎片		12.1	7.4	1.9	0.16	VII	31.890	
		2D-82	137	安山岩B	碎片		10.8	11.2	1.4	0.19	VII	31.890	
		2D-82	137	安山岩B	碎片		8.2	5.9	1.4	0.11	VII	31.890	
		2D-82	138	安山岩B	碎片		15.5	15.6	2.5	0.66	VII	31.885	
		2D-82	139	安山岩	剥片	3点接合2D-72-131,2D-82-135	[25.4]	[25.7]	[5.4]	[2.17]	VII	31.910	接合計測
16	61	2D-82	140	安山岩B	剥片		26.9	14.2	5.3	2.41	VII	32.041	
		2D-83	119	安山岩	剥片		24.0	21.5	4.6	1.66	VII	31.797	
16	63	2D-83	120	メノウ	U剥片		29.8	39.3	11.8	9.45	VII	32.023	
		2D-83	121	安山岩	剥片	2D-93-142と接合	[15.4]	[34.0]	[1.9]	[1.80]	VII	32.248	接合計測
		2D-83	122	安山岩	剥片		13.1	27.4	3.8	1.53	VII	31.846	
		2D-83	123	安山岩	剥片		6.6	10.5	1.3	0.09	VII	31.837	
		2D-83	124	メノウ	剥片		12.1	26.6	4.0	1.11	VII	32.062	
		2D-83	125	安山岩	剥片		17.1	16.4	3.7	1.11	VII	32.072	
		2D-83	126	安山岩	碎片		6.4	11.1	1.6	0.12	VII	31.753	
		2D-83	127	安山岩	碎片	2D-93-163と接合	[25.3]	[18.8]	[5.9]	[2.74]	VII	31.776	接合計測
		2D-83	128	安山岩	剥片		29.8	19.5	7.0	2.86	VII	31.865	
		2D-83	129	安山岩	碎片		8.6	9.2	2.0	0.18	VII	31.807	
		2D-83	130	安山岩	剥片		24.2	33.3	6.4	3.13	VII	31.960	
		2D-83	141	メノウ	剥片		20.5	18.1	3.8	1.19	VII	32.036	
		2D-83	165	安山岩	碎片		15.9	10.2	4.3	0.74	VII	31.792	
15	52-1	2D-83	166	安山岩	剥片	2点接合2D-84-104	67.6	40.9	15.8	26.10	VII	31.857	接合計測
14	49	2D-84	88	安山岩	剥片	9点接合2D-75-96,2D-84-88-109・173,2D-85-79-86,2D-94-110,2D-95-82	47.3	42.0	15.0	21.55	VII	31.887	
15	59	2D-84	90	安山岩	剥片		30.6	32.7	10.5	9.50	VII	31.831	
15	53	2D-84	98	砂岩	碎片	2D-85-94と接合	18.6	11.2	2.3	0.73	VII	32.000	
		2D-84	99	安山岩	碎片		11.9	12.3	4.0	0.44	VII	31.915	
		2D-84	100	安山岩	剥片		16.0	18.1	6.0	1.19	VII	31.948	
		2D-84	101	安山岩	碎片		1.9	15.3	3.8	0.64	VII	31.977	
		2D-84	102	安山岩	剥片		13.5	22.2	5.0	1.26	VII	32.065	
14	51-7	2D-84	103	安山岩	剥片	9点接合2D-75-96,2D-84-88-109・173,2D-85-79-86,2D-94-110,2D-95-82	39.3	56.5	10.1	26.05	VII	32.193	2D-75-96,2D-84-103-109・173,2D-85-79-86,2D-94-110,2D-95-82接合計測
15	52	2D-84	104	安山岩	剥片	2点接合2D-83-166	67.6	40.9	15.8	26.10	VII	31.965	接合計測
		2D-84	105	安山岩	碎片	2D-84-108と接合	[12.2]	[24.3]	[4.9]	[0.87]	VII	32.095	2片接合, 接合計測

A区

挿図	番号	石器集中地点・グリッド等	遺物番号A-	石材	器種	接合・個体	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	層位	標高	備考
15	60	2D-84	106	安山岩	剥片		21.3	30.2	6.8	3.37	VII	31.981	
		2D-84	107	安山岩	剥片	2D-94-112と接合	[17.5]	[27.7]	[7.8]	[3.34]	VII	32.079	接合計測
		2D-84	108	安山岩	碎片	2D-84-105(2点)と接合	[12.2]	[24.3]	[4.9]	[0.87]	VII	32.063	接合計測
14	51-6	2D-84	109	安山岩	剥片	9点接合2D-75-96,2D-84-88-103-109,2D-85-79-86,2D-94-110,2D-95-82	39.3	56.5	10.1	26.05	VII	31.885	2D-75-96,2D-84-103-109-173,2D-85-86,2D-94-110,2D-95-82接合計測
		2D-84	115	安山岩	剥片		23.8	7.7	5.1	0.64	VII	32.035	
		2D-84	116	安山岩	碎片		10.2	7.7	1.1	0.08	VII	31.865	
		2D-84	117	安山岩	剥片		19.5	16.2	4.1	1.25	VII	31.891	2分割
16	62	2D-84	118	安山岩C	敲石		65.4	42.4	31.7	93.32	VII	31.897	
		2D-84	161	安山岩	剥片		31.3	16.5	9.1	2.54	VII	31.877	
		2D-84	164	安山岩	碎片		10.1	6.2	1.9	0.16	VII	31.805	
		2D-84	167	安山岩	剥片		13.7	15.4	4.9	1.32	VII	31.841	
14	51-3	2D-84	173	安山岩	碎片	9点接合2D-75-96,2D-84-88-103-109,2D-85-79-86,2D-94-110,2D-95-82	39.3	56.5	10.1	26.05	VII	31.777	2D-75-96,2D-84-103-109-173,2D-85-86,2D-94-110,2D-95-82接合計測
15	54-3	2D-85	73	メノウ	剥片	3点接合2D-85-76・77	59.8	42.3	16.7	33.24	VII	31.739	まとめて計測・実測, 極器未成品品か
		2D-85	74	安山岩	剥片	2D-95-83(3点)と接合	[35.5]	[20.9]	[7.4]	[4.60]	VII	31.885	
15	55	2D-85	75	安山岩	剥片		50.9	48.3	6.8	16.68	VII	31.781	
15	54-1	2D-85	76	メノウ	剥片	3点接合2D-85-73・77	59.8	42.3	16.7	33.24	VII	32.092	まとめて計測・実測, 極器未成品品か
15	54-2	2D-85	77	メノウ	石核	3点接合2D-85-73・76	59.8	42.3	16.7	33.24	VII	31.897	まとめて計測・実測, 極器未成品品か
		2D-85	78	安山岩	碎片		10.7	19.6	3.7	0.82	VII	31.979	
14	50	2D-85	79	安山岩	剥片	9点接合2D-75-96,2D-84-88-103-109-173,2D-85-86,2D-94-110,2D-95-82	30.9	37.3	10.9	10.40	VII	31.858	
		2D-85	80	安山岩	剥片		25.5	10.5	5.4	1.59	VII	31.860	
14	51-1	2D-85	86	安山岩	剥片	9点接合2D-75-96,2D-84-88-103-109-173,2D-85-79,2D-94-110,2D-95-82	39.3	56.5	10.1	26.05	VII	32.067	2D-75-96,2D-84-103-109-173,2D-85-86,2D-94-110,2D-95-82接合計測
		2D-85	87	安山岩	剥片		19.4	13.2	5.0	1.56	VII	32.077	
		2D-85	89	安山岩	碎片		9.8	3.8	2.1	0.09	VII	31.887	
		2D-85	91	安山岩	剥片		19.0	13.8	3.9	0.69	VII	31.905	
		2D-85	92	安山岩	剥片		17.9	20.8	5.1	1.95	VII	32.045	
		2D-85	93	安山岩	剥片		22.1	16.8	6.4	1.93	VII	31.996	
15	53-1	2D-85	94	砂岩	剥片	2D-84-98と接合	50.3	27.3	6.8	8.02	VII	32.036	
15	56	2D-85	95	安山岩	剥片		36.0	19.3	6.1	2.59	VII	31.835	
15	57	2D-85	159	安山岩	剥片		25.3	37.2	9.1	5.68	VII	31.793	
		2D-85	160	安山岩	剥片		18.3	22.6	8.3	3.94	VII	31.966	
		2D-85	171	安山岩	剥片		18.2	9.4	6.5	1.09	VII	31.868	
16	64	2D-85	172	頁岩	剥片		35.4	35.8	8.6	7.20	VII	31.836	
		2D-85	174	安山岩	碎片		13.6	8.5	2.0	0.19	VII	31.770	
		2D-85	175	安山岩	剥片		21.1	13.7	5.3	1.07	VII	31.785	
		2D-86	58	安山岩	剥片	2D-95-158と接合	[13.0]	[26.8]	[3.6]	[1.23]	VII	31.852	接合計測
		2D-86	58	安山岩	碎片					不可	VII	31.852	
		2D-93	142	安山岩	剥片	2D-83-121と接合	[15.4]	[34.0]	[1.9]	[1.80]	VII	31.804	接合計測
		2D-93	143	メノウ	剥片		16.0	25.8	5.6	1.11	VII	31.894	
		2D-93	163	安山岩	剥片	2D-83-127と接合	[25.3]	[18.8]	[5.9]	[2.74]	VII	31.834	接合計測
		2D-94	85	安山岩	剥片		17.5	29.2	6.4	2.64	VII	32.045	2片接合, 打面欠
		2D-94	85	安山岩	碎片		14.4	4.0	2.3	0.18	VII	32.045	
14	51-4	2D-94	110	安山岩	剥片	9点接合2D-75-96,2D-84-88-103-109-173,2D-85-79,2D-95-82	39.3	56.5	10.1	26.05	VII	31.981	2D-75-96,2D-84-103-109-173,2D-85-86,2D-94-110,2D-95-82接合計測

A区

挿図	番号	石器集中地点・グリッド等	遺物番号 A-	石材	器種	接合・個体	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量(g)	層位	標高	備考
15	58	2D-94	111	安山岩	剥片		62.0	33.9	9.9	17.41	VII	31.915	
		2D-94	112	安山岩	剥片	2D-84-107と接合	[17.5]	[27.7]	[7.8]	[3.34]	VII	32.093	接合計測
		2D-94	113	安山岩	剥片		12.3	22.3	4.6	1.13	VII	31.965	
		2D-94	114	安山岩	剥片		13.6	15.7	2.7	0.66	VII	31.889	
		2D-95	63	安山岩	剥片		18.7	13.8	4.3	0.94	VII	31.045	
13	42	2D-95	66	安山岩	剥片			20.0	6.3	3.94	VII	32.010	
12	25-2	2D-95	72	安山岩	剥片	2D-96-64と接合	52.4	31.1	11.2	4.31	VII	31.887	接合計測
		2D-95	81	安山岩	碎片		16.1	4.9	4.7	0.35	VII	32.115	
14	51-5	2D-95	82	安山岩	剥片	9点接合2D-75-96,2D-84-88-103-109-173,2D-85-79-86,2D-94-110	39.3	56.5	10.1	26.05	VII	31.811	2D-75-96,2D-84-103-109-173,2D-85-86,2D-94-110,2D-95-82接合計測
		2D-95	83	安山岩	剥片	2D-85-74と接合	[35.5]	[20.9]	[7.4]	[4.60]	VII	31.922	3分割接合して計測
		2D-95	84	安山岩	剥片		21.9	27.6	6.2	3.04	VII	31.985	
12	24-2	2D-95	157	安山岩	剥片	2D-96-67と接合	23.9	41.1	12.5	10.01	VII	31.715	接合計測
		2D-95	158	安山岩	剥片	2D-86-58と接合	[13.0]	[26.8]	[3.6]	[1.23]	VII	31.893	接合計測
14	47	2D-96	45	メノウ	U剥片		21.3	40.4	11.3	6.75	VII	31.865	
13	38	2D-96	48	安山岩	剥片		34.2	40.3	10.9	9.49	VII	31.718	
13	44	2D-96	49	安山岩B	剥片		24.9	24.9	6.7	2.73	VII	31.889	
12	28	2D-96	50	安山岩B	剥片	3D-06-51と接合	15.0	27.2	7.8	2.28	VII	31.793	
		2D-96	53	安山岩	剥片		11.4	12.9	2.4	0.28	VII	31.739	
		2D-96	54	安山岩B	剥片		22.9	8.8	8.5	1.61	VII	31.724	
13	37	2D-96	55	安山岩	剥片		45.2	63.2	10.4	24.84	VII	31.835	
12	26-3	2D-96	56	安山岩	剥片	3点接合2D-96-59,3D-06-47	77.5	34.2	7.2	15.41	VII	31.873	接合計測
13	36	2D-96	57	安山岩	剥片		48.2	41.4	12.4	23.73	VII	31.862	
12	26-1	2D-96	59	安山岩	剥片	3点接合2D-96-56,3D-06-47	77.5	34.2	7.2	15.41	VII	31.750	接合計測
13	40	2D-96	60	安山岩	剥片		17.5	50.0	8.3	7.99	VII	31.886	
14	48	2D-96	61	メノウ	剥片		29.0	22.1	6.8	2.12	VII	31.761	
		2D-96	62	安山岩	剥片		13.5	7.7	5.1	0.57	VII	31.751	
12	25-1	2D-96	64	安山岩	剥片	2D-95-72と接合	52.4	31.1	11.2	15.51	VII	31.820	接合計測
		2D-96	65	安山岩	剥片		23.9	38.4	8.3	7.83	VII	31.835	
12	24-1	2D-96	67	安山岩	剥片	2D-95-157と接合	23.9	41.1	12.5	10.01	VII	31.940	接合計測
		2D-96	153	安山岩	剥片		21.5	30.2	9.2	7.44	VII	31.729	
		2D-96	154	安山岩	剥片	3D-05-71と接合	[15.0]	[22.3]	[4.4]	[1.14]	VII	31.738	接合計測
13	39	2D-96	155	安山岩	剥片		24.3	24.3	5.7	2.58	VII	31.851	
		2D-96	156	安山岩	剥片		10.5	19.1	3.0	0.61	VII	31.735	
		2D-97	24	安山岩B	剥片		13.9	20.8	3.0	1.12	VII	31.658	
		2D-97	25	安山岩	剥片		11.1	8.8	3.5	0.23	VII	31.733	
		2D-97	26	安山岩	碎片		14.7	9.7	2.9	0.41	VII	31.888	
11	22-1	2D-97	27	安山岩	剥片	10点接合2D-97-28-31-32-33-152,2D-98-22,3D-07-18-36,3D-08-17	47.2	30.6	10.4	12.14	VII	31.887	
11	22-2	2D-97	28	安山岩	碎片	10点接合2D-97-27-31-32-33-152,2D-98-22,3D-07-18-36,3D-08-17					VII	31.805	2D-97-27と接合計測
		2D-97	28	安山岩	碎片		12.9	6.0	1.6	0.12	VII	31.805	

A区

挿図	番号	石器集中地点・グリッド等	遺物番号 A-	石材	器種	接合・個体	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量(g)	層位	標高	備考
12	32	2D-97	29	安山岩	剥片		34.8	31.7	8.3	6.43	VII	31.933	
12	31	2D-97	30	安山岩	剥片		57.3	29.1	13.4	12.83	VII	31.855	
11	19-1	2D-97	31	安山岩	剥片	10点接合2D-97-27-28-32-33-152,2D-98-22,3D-07-18-36,3D-08-17	21.9	52.4	10.1	7.65	VII	31.845	
11	17	2D-97	32	安山岩	剥片	10点接合2D-97-27-28-31-33-152,2D-98-22,3D-07-18-36,3D-08-17	21.0	39.7	6.3	3.39	VII	31.753	
11	21	2D-97	33	安山岩	剥片	10点接合2D-97-27-28-31-32-152,2D-98-22,3D-07-18-36,3D-08-17	35.0	26.6	9.4	6.40	VII	31.833	
13	33	2D-97	34	安山岩	剥片		27.5	31.8	9.2	5.19	VII	31.839	
		2D-97	35	安山岩	碎片		14.3	10.3	2.3	0.31	VII	31.828	外皮残
14	45	2D-97	41	メノウ	剥片		33.8	42.8	11.3	13.99	VII	31.904	搔器未完成品か
13	34	2D-97	42	安山岩	剥片		30.8	42.8	11.3	11.03	VII	31.917	
		2D-97	43	安山岩	碎片		13.9	8.1	0.8	0.09	VII	31.780	
14	46	2D-97	44	メノウ	剥片		26.7	20.5	11.3	4.49	VII	31.677	
		2D-97	147	安山岩	剥片		24.3	10.3	4.2	0.71	VII	31.765	
		2D-97	148	安山岩	碎片		16.7	10.1	2.1	0.29	VII	31.785	
		2D-97	149	欠番							VII		
		2D-97	150	欠番							VII		
		2D-97	151	安山岩	剥片		19.6	22.0	2.9	1.17	VII	31.900	外皮残
11	18	2D-97	152	安山岩	剥片	10点接合2D-97-27-28-31-32-33,2D-98-22,3D-07-18-36,3D-08-17	21.2	34.4	6.3	3.63	VII	31.798	
		2D-97	169	安山岩	剥片		15.1	10.2	6.3	0.60	VII	31.744	
		2D-97	170	安山岩	碎片		7.5	5.5	2.5	0.09	VII	31.784	
11	16-2	2D-98	22	安山岩	碎片	10点接合2D-97-27-28-31-32-33-152,3D-07-18-36,3D-08-17	6.8	12.3	1.5	0.15	VII	31.865	
		2D-98	23	安山岩	剥片		14.6	23.5	2.9	1.03	VII	31.623	
13	41	3D-05	69	安山岩	剥片		24.7	37.9	6.7	5.02	VII	31.973	
		3D-05	70	安山岩	剥片		11.7	18.6	2.7	0.49	VII	32.092	2分割, 接合して計測
		3D-05	71	安山岩	剥片	2D-96-154と接合	[15.0]	[22.3]	[4.4]	[1.14]	VII	32.059	接合計測
		3D-06	46	安山岩	剥片		16.9	7.2	2.5	0.33	VII	31.859	
		3D-06	46	安山岩	剥片		6.9	4.7	2.2	0.08	VII	31.859	
12	26-2	3D-06	47	安山岩	剥片	3点接合2D-96-56・59	77.5	34.2	7.2	15.41	VII	32.012	接合計測
12	27	3D-06	51	安山岩B	剥片	2D-96-50と接合	50.8	51.1	16.7	32.26	VII	31.819	
13	35	3D-06	52	安山岩	剥片		21.2	39.6	7.1	5.85	VII	31.930	
		3D-06	68	安山岩	剥片		17.7	28.6	3.7	1.84	VII	31.855	
11	20	3D-07	18	安山岩	剥片	10点接合2D-97-27-28-31-32-33-152,2D-98-22,3D-07-18-36,3D-08-17	14.4	34.2	5.7	2.29	VII	31.987	
12	30	3D-07	19	安山岩	剥片		32.4	43.9	11.1	13.59	VII	31.985	
12	23-1	3D-07	20	安山岩	剥片	3D-08-21と接合	23.9	41.1	12.5	6.68	VII	31.990	接合計測
11	16-1	3D-07	36	安山岩	石核	10点接合2D-97-27-28-31-32-33-152,2D-98-22,3D-07-18,3D-08-17	59.0	67.6	17.4	70.02	VII	31.918	
12	29	3D-07	37	安山岩	剥片		50.3	18.6	8.8	6.24	VII	31.826	
13	43	3D-07	38	安山岩B	R剥片		45.7	27.7	12.2	12.20	VII	31.777	
		3D-07	39	安山岩	剥片		14.3	39.7	5.6	2.78	VII	31.961	
		3D-07	40	安山岩	碎片		6.3	11.2	2.0	0.10	VII	32.026	
		3D-07	40	安山岩	碎片		11.1	5.9	1.9	0.17	VII	32.026	
		3D-07	146	安山岩	碎片		5.5	10.6	1.7	0.10	VII	31.655	
		3D-07	168	安山岩	碎片		11.7	6.2	3.5	0.23	VII	31.757	

A区

挿図	番号	石器集中地点・グリッド等	遺物番号 A-	石材	器種	接合・個体	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量(g)	層位	標高	備考
11	19-2	<u>3D-08</u>	17	安山岩	剥片	10点接合2D-97-27-28-31-32-33-152,2D-98-22,3D-07-18-36	13.8	7.1	2.3	0.17	VII	31.809	
		3D-08	17	安山岩	碎片		17.0	9.5	4.1	0.61	VII	31.809	外皮残
12	23-2	3D-08	21	安山岩	剥片	3D-07-20と接合	23.9	41.1	12.5	6.68	VII	31.903	接合計測
8・9	9	<u>3D-17</u>	6	安山岩	剥片	10点接合3D-17-11-12-13,3D-18-3-5-144-145,3D-27-7,3D-28-1	30.6	32.1	10.2	9.25	VII	31.883	
		3D-17	10	安山岩	剥片		25.5	26.4	6.1	2.59	VII	32.114	
8・9	7	3D-17	11	安山岩	剥片	10点接合3D-17-6-12-13,3D-18-3-5-144-145,3D-27-7,3D-28-1	48.6	35.5	12.9	19.12	VII	31.961	
8・9	4	3D-17	12	安山岩	剥片	10点接合3D-17-6-11-13,3D-18-3-5-144-145,3D-27-7,3D-28-1	52.8	38.2	14.5	34.48	VII	31.987	
8・9	2	3D-17	13	安山岩	剥片	10点接合3D-17-6-11-12,3D-18-3-5-144-145,3D-27-7,3D-28-1	34.8	24.0	9.4	7.50	VII	31.858	
10	10	3D-17	14	安山岩	剥片	3D-17-15と接合	36.5	34.5	6.9	5.33	VII	31.787	
10	11	3D-17	15	安山岩	剥片	3D-17-14と接合	29.3	24.6	4.7	1.92	VII	31.947	
10	12	<u>3D-18</u>	2	安山岩	剥片		56.8	47.5	12.3	23.98	VII	31.876	
8・9	1	3D-18	3	安山岩	石核	10点接合3D-17-6-11-12-13,3D-18-3-5-144-145,3D-27-7,3D-28-1	35.9	55.4	40.1	82.78	VII	31.800	
10	15	3D-18	4	メノウ	剥片		22.5	29.9	18.6	8.27	VII	31.866	
8・9	8	3D-18	5	安山岩	剥片	10点接合3D-17-6-11-12-13,3D-18-3-5-144-145,3D-27-7,3D-28-1	59.2	54.1	14.1	39.47	VII	31.886	
10	13	3D-18	16	安山岩	剥片		33.8	15.6	9.4	3.63	VII	31.776	
8・9	6-1	3D-18	144	安山岩	剥片	10点接合3D-17-6-11-12-13,3D-18-3-5-145,3D-27-7,3D-28-1	31.8	26.2	8.8	5.49	VII	31.769	
8・9	5	3D-18	145	安山岩	剥片	10点接合3D-17-6-11-12-13,3D-18-3-5-144,3D-27-7,3D-28-1	13.6	22.7	3.0	0.85	VII	31.801	
8・9	3	<u>3D-27</u>	7	安山岩	剥片	10点接合3D-17-6-11-12-13,3D-18-3-5-144-145,3D-28-1	29.9	18.5	10.8	3.24	VII	31.811	
10	14	3D-27	8	安山岩D	敲石片		69.8	34.9	20.7	44.11	VII	31.872	
		3D-27	9	安山岩	碎片		12.7	5.7	1.6	0.17	VII	31.755	
8・9	6-2	<u>3D-28</u>	1	安山岩	剥片	10点接合3D-17-6-11-12-13,3D-18-3-5-144-145,3D-27-7					VII	31.758	3D-118-144と接合計測

B区

挿図	番号	石器集中地点・グリッド等	遺物番号 B-	石材	器種	接合・個体	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量(g)	層位	標高	備考
18	3	<u>3C-47</u>	1	安山岩	剥片		21.3	35.1	7.7	4.38	VII	31.685	
18	4	<u>3C-48</u>	2	安山岩	剥片		44.1	42.5	16.8	24.08	VII	31.664	
18	2	3C-48	3	安山岩	剥片	5と接合	35.5	40.1	40.5	18.60	VII	31.723	
18	7	<u>3C-57</u>	4	メノウ	石核		43.3	51.1	20.5	41.68	VII	31.698	
18	1	3C-57	5	安山岩	剥片	3と接合	27.4	41.6	10.4	12.13	VII	31.667	
18	5	3C-57	6	安山岩	剥片		37.0	37.8	8.6	11.06	VII	31.699	
		3C-57	8	安山岩	剥片		12.1	23.8	2.4	0.82	VII	31.793	
18	6	<u>3C-58</u>	7	安山岩	剥片		27.9	38.6	8.9	6.09	VII	31.763	

第2表 縄文時代遺構一覧表（竪穴住居跡）

挿図No.	遺構No.	規模	壁高	柱穴	備考
		(長軸×短軸m)	(cm)		
19	SI-040	3.32×3.15	5.2~11.8	15(壁柱10+住居内5)	炉 中央南寄り

第2表 縄文時代遺構一覧表（土坑・陥穴）

挿図No.	遺構No.	種類	平面形	規模	深さ	ピット	備考
				(長軸×短軸m)	(cm)	(cm)	
20	SK-116	土坑	長楕円形	1.2×0.62	29.8~54.1		
20	SK-119	土坑	楕円形	1.27×1.05	31.9~61.2		
20	SK-120	土坑	円形	1.18×1.08	17.5~26.0		
20	SK-121	土坑	円形	1.0×8.5	19.0~24.5		
20	SK-122	土坑	円形	8.77×0.7	68.5~70.2		
20	SK-127	土坑	長楕円形	(1.62×0.84)	15.5~21.6		北東側は推定
21	SK-091	陥穴	長方形	1.5×9.6	93.2~112.8		
21	SK-092	陥穴	長方形	1.16×0.84	98.5~111.2		
21	SK-097	陥穴	長楕円形	1.2×0.69	100.2~104.1		SI-034,SB-008に切られる
21	SK-098	陥穴	長楕円形	1.44×0.93	98.3~101.1		東南側SI-037に切られる
21	SK-099	陥穴	楕円形	1.×1.12	98.0~111.7	14.3	
22	SK-100	陥穴	長楕円形	1.4×0.68	118.5~123.0	6.9	
22	SK-101	陥穴	楕円形	1.42×1.26	125.1~133.0	10.2	
22	SK-102	陥穴	楕円形	1.06×0.88	117.8~124.3		
22	SK-103	陥穴	楕円形	1.48×1.1	133.2~140.4	5.3	
23	SK-104	陥穴	長楕円形	2.02×1.13	132.1~142.8	24.9	
23	SK-105	陥穴	楕円形	1.34×0.94	103.0~107.4		
22	SK-107	陥穴	長方形	1.36×0.91	105.1~113.9	6.5	
23	SK-108	陥穴	長楕円形	1.53×0.84	131.5~142.7	13.3	
23	SK-114	陥穴	楕円形	1.4×0.95	112.3~133.2	10.8	
24	SK-115	陥穴	方形	1.06×1.01	115.5~121.3	10.6	
24	SK-123	陥穴	楕円形	(2.04)×1.65	169.2~186.1	20.0	北側は調査区外
24	SK-124	陥穴	楕円形	1.5×(1.18)	155.2~165.6		南側半分は電柱に切られる
25	SK-125	陥穴	長楕円形	1.5×0.6	118.0~146.5		
25	SK-126	陥穴	楕円形	1.15×0.65	74.2~82.0	19.6	

第3表 縄文時代・弥生時代遺物観察表（縄文土器）

遺構出土

棟号	遺構番号	器種	遺物番号	色調		胎土	文様	時期	型式	備考	
				内面	外面						
19	1	SI-40	深鉢	7	7.5YR6/6 橙	7.5YR3/1 黒褐	砂粒, 雲母, 赤色スコリア	押引文か	前期	浮島	口縁部
19	2	SI-40 SI-41	深鉢	SI-40-1, SI-41-6	7.5YR6/6 橙		砂粒, 赤色スコリア	変形爪形文	前期	浮島	口縁部
19	3	SI-40	深鉢	1	5YR5/6 明赤褐	10YR3/1 黒褐	砂粒, 赤色スコリア	波状貝殻文	前期	浮島	口縁部
19	4	SI-40	深鉢	14	7.5YR6/6 橙	10YR5/3 にぶい黄褐	砂粒, 赤色スコリア	波状貝殻文	前期	浮島	
19	5	SI-40	深鉢	1	10YR6/6 明黄褐	10YR3/1 黒褐	砂粒, 赤色スコリア	変形爪形文の一種か	前期	浮島	
19	6	SI-40	深鉢	10	10YR6/6 明黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	砂粒, 赤色スコリア	押引文か	前期	浮島	
19	7	SI-40	深鉢	12	7.5YR6/6 橙	10YR4/3 にぶい黄褐	砂粒, 赤色スコリア	波状貝殻文	前期	浮島	
19	8	SI-40	深鉢	5	5YR5/6 明赤褐		砂粒, 赤色スコリア	変形爪形文の一種か	前期	浮島	
19	9	SI-40	深鉢	13	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/2 灰褐	白色砂粒	波状貝殻文	前期	浮島	
19	10	SI-40	深鉢	1	5YR2/1 黒褐	5YR5/8 明赤褐	砂粒, 赤色スコリア	三角文か	前期	浮島	
26	1	SK-104	深鉢	1	5YR5/6 明赤褐		砂粒	LR? 押捺	後期?		口縁部
26	1	SK-115	深鉢	1	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR6/6 橙	砂粒, 赤色スコリア	RL	後期		粗製
26	1	SK-119	深鉢	1,3,11	7.5YR6/6 橙		白色砂粒, 長石粒, 赤色スコリア	口縁部楕円区画文 胴部懸垂文 地文RL	中期	加曾利EIII	4単位波状口縁か
26	2	SK-119	深鉢	1,7	5YR5/6 明赤褐		白色砂粒(多)	口縁部楕円区画文 胴部懸垂文 地文複節LRL	中期	加曾利EIII	口縁部
26	3	SK-119	深鉢	8	5YR5/6 明赤褐		砂粒(多), 赤色スコリア, 雲母	浅い沈線による楕円区画文 地文RL	中期	加曾利EIII	波状口縁
26	4	SK-119	深鉢	1	10YR6/6 明黄褐	5YR5/6 明赤褐	砂粒, 赤色スコリア	沈線 複節LRL	中期	加曾利E	口縁部
26	5	SK-119	深鉢	1	10YR5/4 にぶい黄褐		砂粒, 赤色スコリア	沈線区画 LR	中期	加曾利EIII	口縁部
26	6	SK-119	深鉢	1	10YR3/1 黒褐		砂粒, 赤色スコリア	沈線を伴った隆帯 RL	中期	加曾利EI?	口縁部
26	7	SK-119	深鉢	10	5YR5/6 明赤褐		砂粒, 微細雲母片, 白色針状粒子(少)	懸垂文 RL	中期	加曾利E	
26	8	SK-119	深鉢	1	7.5YR4/1 褐灰	5YR5/6 明赤褐	砂粒, 赤色スコリア	懸垂文 RL	中期	加曾利E	
26	9	SK-119	鉢	1	10YR6/6 明黄褐		砂粒, 赤色スコリア	懸垂文 無節L	中期	加曾利E	
26	10	SK-119	深鉢	4	10YR6/6 明黄褐		砂粒, 白色針状粒子(微量)	隆帯 沈線 複節LRL	中期	加曾利EI	大木系統か
27	11	SK-119	深鉢	1,6	7.5YR1.7/1 黒	7.5YR5/6 明褐	白色砂粒(多), 赤色スコリア	櫛歯状工具による条線	中期	加曾利E	
27	12	SK-119	深鉢	1	7.5YR6/6 橙		砂粒, 赤色スコリア	条線	中期	加曾利E	
27	13	SK-119	深鉢	1,5,6,11	5YR5/6 明赤褐		砂粒(多), 白色針状粒子(微量)	櫛歯状工具による条線	中期	加曾利E	
27	14	SK-119	深鉢	2	5YR5/6 明赤褐		白色砂粒(多), 赤色スコリア, 白色針状粒子(少)	沈線を伴った隆帯に円形の押捺のち条線	中期	曾利	
27	15	SK-119	深鉢	9	7.5YR6/6 橙		白色砂粒(多), 赤色スコリア, 白色針状粒子(少)	沈線を伴った隆帯に円形の押捺のち条線	中期	曾利	
27	16	SK-119	深鉢	1	10YR6/4 にぶい黄橙		長石粒(多), 雲母, 赤色スコリア	隆帯 押引文	中期	阿玉台III?	
27	1	SK-120	深鉢	1	10YR6/6 明黄褐	10YR3/1 黒褐	砂粒(多), 雲母	沈線	中期	加曾利EIV	口縁部
27	2	SK-120	深鉢	1	7.5YR4/4 褐	7.5YR1.7/1 黒	白色砂粒, 赤色スコリア	微隆起線文	中期	加曾利EIV	
27	3	SK-120	深鉢	2	2.5Y5/2 暗灰黄		白色砂粒(多), 赤色スコリア	微隆起+沈線 地文RL	中期	加曾利EIV	
27	4	SK-120	深鉢	3	10YR4/3 にぶい赤褐		白色砂粒(多)	沈線(懸垂文)	中期	加曾利E	
27	1	SK-121	深鉢	1	7.5YR6/6 橙	2.5Y4/6 赤褐	砂粒, 赤色スコリア	波状貝殻文	前期	浮島	
27	2	SK-121	深鉢	1	10YR4/3 にぶい赤褐	10YR1.7/1 黒	砂粒	隆起線文? 無節L	中期	加曾利EIV	口縁部
27	3	SK-121	深鉢	1	2.5Y2/1 黒		白色砂粒(多), 赤色スコリア	RL(縦)	中期?		
27	4	SK-121	深鉢	1	7.5YR6/6 橙		白色砂粒(多), 赤色スコリア	RL	中期		
27	5	SK-121	深鉢	1	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR3/1 黒褐	砂粒, 赤色スコリア	隆起線文? 無節R	中期	加曾利EIV	
27	1	SK-122	深鉢	1	10YR2/1 黒		砂粒, 赤色スコリア	隆起線文?	中期	加曾利EIII	口縁部
27	2	SK-122	深鉢	3	10YR4/2 灰黄褐	10YR1.7/1 黒	砂粒	隆起線文? 地文RL Z字状の結節? 原体の末端か	中期	加曾利EIII?	
27	3	SK-122	深鉢	1	10YR2/1 黒	10YR6/4 にぶい黄橙	砂粒(多), 赤色スコリア	沈線 RL	中期	加曾利EIII	
27	4	SK-122	深鉢	4	7.5YR1.7/1 黒	5YR5/6 明赤褐	白色砂粒(多), 赤色スコリア	RL	中期	加曾利E	
27	5	SK-122	深鉢	2	10YR7/6 明黄褐	10YR6/2 灰黄褐	砂粒(多), 赤色スコリア	沈線(懸垂文) RL	中期	加曾利E	
27	6	SK-122	深鉢	1	10YR3/2 黒褐	10YR1.7/1 黒	砂粒, 赤色スコリア	RL	中期	加曾利E	
27	1	SK-123	深鉢	1	10YR3/4 暗褐		白色砂粒(多), 赤色スコリア	LR	中期	加曾利E	

グリッド等出土

補図番号	遺構番号	器種	遺物番号	色調		胎土	文様	時期	型式	備考	
				内面	外面						
28	1	3B-94	深鉢	1	10YR5/4 にぶい黄褐	繊維, 砂粒	無文	早期	燃糸文系	口縁部	
28	2	SB-11	深鉢	4	5YR5/8 明赤褐	繊維, 砂粒, 微量の雲母	半截竹管による沈線文か	早期	沈線文系		
28	3	SI-43	深鉢	11	10YR2/1 黒	10YR6/6 明黄褐	繊維, 砂粒	平行沈線文 刺突文	早期	沈線文系	
28	4	SI-18	深鉢	2	10YR6/6 明黄褐	繊維, 砂粒, 赤色スコリア, 雲母	条痕	早期	条痕文系		
28	5	SD-3	深鉢	1	7.5YR4/4 褐	7.5YR5/6 明褐	繊維, 砂粒	半截竹管による押引文 地文無節R	早期	条痕文系	
28	6	SB-6	深鉢	P7-1	7.5YR5/6 明褐	繊維, 砂粒, 赤色スコリア, 雲母	無節L 条痕	早期	条痕文系		
28	7	SD-3	深鉢	1	10YR5/4 にぶい黄褐	繊維, 砂粒, 赤色スコリア	無節R	早期	条痕文系		
28	8	SE-3	深鉢	1	10YR5/6 黄褐	白色砂粒, 赤色スコリア	平行沈線文	前期	諸磯b		
28	9	3H-50	深鉢	2	10YR5/6 黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	白色砂粒, 雲母, 赤色スコリア	浮線文に刻み 地文RL	前期	諸磯b	
28	10	SI-44	深鉢	4	7.5YR6/6 橙	白色砂粒, 雲母	平行沈線文 区画内RL充填	前期	諸磯b		
28	11	SI-25	深鉢	4	10YR6/4 にぶい黄橙	砂粒	平行沈線文 地文LRか	前期	諸磯b		
28	12	SI-34	深鉢	1	2.5Y6/2 灰黄	白色砂粒, 赤色スコリア	平行沈線文か	前期	諸磯b	底部	
28	13	SK-67	深鉢	1	10YR6/6 明黄褐	砂粒, 赤色スコリア	沈線文	前期	浮島	口縁部	
28	14	SI-43	深鉢	1	10YR4/4 褐	砂粒, 赤色スコリア	平行沈線間に刻み	前期	浮島	口縁部	
28	15	SI-25	深鉢	4	5YR5/6 明赤褐	砂粒(多), 赤色スコリア	横方向の条痕?	前期	浮島	口縁部	
28	16	SB-8	深鉢	5	7.5YR5/6 明褐	砂粒	平行沈線文	前期	浮島	小波状口縁	
28	17	SI-32	深鉢	2	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR3/1 黒褐	白色砂粒(多), 赤色スコリア	平行沈線文	前期	浮島	口縁部
28	18	SI-36	深鉢	27	5YR4/3 にぶい赤褐	白色砂粒(多)	輪積痕上に波状爪形文	前期	浮島	口縁部	
28	19	SI-44	深鉢	2	10YR6/6 明黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	砂粒, 赤色スコリア	輪積痕	前期	浮島	口縁部
28	20	SB-13	深鉢	4	7.5YR5/4 にぶい褐	砂粒, 赤色スコリア	輪積痕上に圧痕	前期	浮島	口縁部	
28	21	SI-24	深鉢	1	7.5YR4/3 褐	砂粒, 赤色スコリア(少)	口唇部刻み 輪積痕上に半截竹管刺突	前期	浮島	口縁部	
28	22	SI-24	深鉢	2	7.5YR3/1 黒褐	7.5YR5/4 にぶい褐	砂粒, 赤色スコリア	地文貝殻腹縁圧痕 沈線文 口縁部爪形文	前期	浮島	口縁部
28	23	SI-15	深鉢	75	7.5YR6/6 橙	砂粒, 赤色スコリア	口唇部刻み 変形爪形文	前期	浮島	口縁部	
28	24	SI-37	深鉢	1	5YR5/6 明赤褐	砂粒, 赤色スコリア, 白色針状粒子	口唇部刻み 平行沈線文 圧痕	前期	浮島	口縁部	
28	25	SB-13	深鉢	9	10YR6/4 にぶい黄橙	砂粒, 赤色スコリア	口唇部刻み 変形爪形文	前期	浮島	口縁部	
28	26	SB-13	深鉢	7	5YR5/6 明赤褐	10YR4/3 にぶい黄褐	白色砂粒, 赤色スコリア(多)	口唇部刺突文 刺突文と変形爪形文交互に施文	前期	浮島	口縁部
28	27	SK-17	深鉢	1	10YR7/6 明黄褐	砂粒, 赤色スコリア	口唇部刻み 刺突文 平行沈線文	前期	浮島	口縁部	
28	28	SI-36	深鉢	2	10YR5/3 にぶい黄褐	砂粒	口唇部刺突文 幅狭の変形爪形文 波状貝殻文	前期	浮島	口縁部	
28	29	SD-2	深鉢	1	7.5YR5/6 明褐	砂粒, 赤色スコリア	燃糸文	前期	浮島	口縁部	
28	30	SB-13	深鉢	7	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y4/1 黄灰	砂粒, 赤色スコリア	燃糸文	前期	浮島	
28	31	SI-25	深鉢	12	10YR7/6 明黄褐	細砂粒	貝殻腹縁圧痕 沈線文	前期	浮島		
28	32	SI-15	深鉢	65	5YR4/3 にぶい赤褐	細砂粒	変形爪形文の一種か	前期	浮島	コンパス文の磨れたような形	
28	33	SI-15	深鉢	6	10YR6/4 にぶい黄橙	砂粒, 赤色スコリア	変形爪形文のち平行沈線文	前期	浮島		
28	34	SE-3	深鉢	1	7.5YR5/6 明褐	2.5Y5/2 暗灰黄	白色砂粒(多), 赤色スコリア	平行沈線文 変形爪形文	前期	浮島	
28	35	SD-2	深鉢	1	7.5YR6/6 橙	砂粒	平行沈線 爪形文	前期	浮島		
28	36	SI-37	深鉢	1	7.5YR6/6 橙	白色砂粒(多), 赤色スコリア	平行沈線文	前期	浮島		
28	37	SB-13	深鉢	12	2.5Y5/3 黄褐	砂粒, 赤色スコリア	平行沈線文	前期	浮島		
28	38	SI-33	深鉢	2	7.5YR6/6 橙	砂粒, 赤色スコリア	平行沈線文	前期	浮島		
28	39	SE-13	深鉢	10	7.5YR6/6 橙	砂粒	波状貝殻文のち沈線	前期	浮島	SE-3?SB-13?	
28	40	SI-44	深鉢	80	7.5YR6/6 橙	10YR5/3 にぶい黄褐	砂粒, 赤色スコリア	輪積痕上に圧痕	前期	浮島	
28	41	5H-50	深鉢	2	10YR5/2 灰黄褐	白色砂粒(多), 赤色スコリア	輪積痕上に圧痕 波状貝殻文	前期	浮島		
28	42	SI-36	深鉢	16	7.5YR3/1 黒褐	7.5YR5/6 明褐	砂粒(多)	波状貝殻文	前期	浮島	
28	43	SB-13	深鉢	6	10YR6/4 にぶい黄橙	白色砂粒, 赤色スコリア	波状貝殻文	前期	浮島		
29	44	SB-13	深鉢	15	7.5YR5/4 にぶい褐	砂粒, 赤色スコリア	波状貝殻文	前期	浮島		
29	45	SI-15	深鉢	P1	10YR3/1 黒褐	10YR5/8 黄褐	砂粒, 赤色スコリア	波状貝殻文	前期	浮島	
29	46	SI-4	深鉢	3	10YR6/6 明黄褐	砂粒	波状貝殻文	前期	浮島		

挿図番号	遺構番号	器種	遺物番号	色調		胎土	文様	時期	型式	備考	
				内面	外面						
29	47	2H-77	深鉢	ナシ	10YR4/1 褐灰	10YR6/4 にぶい黄橙	砂粒	波状貝殻文	前期	浮島	
29	48	SD-5	深鉢	1	10YR5/8 黄褐	10YR3/1 黒褐	白色砂粒, 雲母	波状貝殻文	前期	浮島	
29	49	3H-50	深鉢	2	7.5YR4/3 褐		白色砂粒, 赤色スコリア	押し文か	前期	浮島	
29	50	SI-44	深鉢	7	10YR6/4 にぶい黄橙		砂粒	刺突文	前期	浮島	外面赤彩あり
29	51	SI-44	深鉢	2	7.5YR5/4 にぶい褐		砂粒, 赤色スコリア	三角文	前期	浮島	
29	52	SK-33	深鉢	27	7.5YR5/6 明褐		砂粒, 赤色スコリア	沈線区画内に貝殻文充填	前期	興津	
29	53	1トレンチ	深鉢	1	10YR3/1 黒褐		砂粒	無筋L S字状結節?	前期	下小野	口縁部
29	54	SK-6	深鉢	1	10YR5/3 にぶい黄褐	5YR5/6 明赤褐	白色砂粒(多), 雲母	陸線に沿って2列の押し文	中期	阿玉台Ⅱか	
29	55	4S	深鉢	ナシ	10YR7/6 明黄褐		砂粒	肩状把手か	中期	阿玉台か	口縁部
29	56	SI-9	深鉢	1	7.5YR6/6 橙		砂粒, 赤色スコリア	陸帯による区画 LR	中期	加曾利E I	口縁部
29	57	SI-2	深鉢	1	7.5YR6/7 橙		白色砂粒(多)	陸帯区画	中期	加曾利E I	口縁部
29	58	SI-4	深鉢	7	10YR5/6 黄褐		砂粒	陸帯区画	中期	加曾利E I ~ II	波状口縁
29	59	SK-17	深鉢	1	7.5YR6/6 橙		砂粒	地文RL 蕨手状の沈線	中期	加曾利E III	口縁部
29	60	SI-15	深鉢	73	5YR5/6 明赤褐		白色砂粒, 赤色スコリア	地文燃糸文 逆U字状沈線	中期	加曾利E III	口縁部
29	61	SI-36	深鉢	1	10YR6/6 明黄褐		砂粒	沈線区画 燃糸文	中期	加曾利E III?	
29	62	SI-41	深鉢	35	10YR5/4 にぶい黄褐	2.5Y4/1 黄灰	砂粒	沈線 RL	中期	加曾利E III?	
29	63	2J	深鉢	1	2.5Y4/1 黄灰	10YR6/6 明黄褐	白色砂粒(多), 赤色スコリア やや脆い	懸垂文 RL	中期	加曾利E III?	
29	64	SD-3	深鉢	1	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR3/1 黒褐	白色砂粒, 赤色スコリア, 白色針状粒子(少)	RL多条	中期	加曾利E IV	口縁部
29	65	SI-30	深鉢	5	10YR6/6 明黄褐		細砂粒	沈線 LR	中期	加曾利E IV	口縁部
29	66	SI-7	深鉢	1	10YR6/6 明黄褐		砂粒	摩滅のため原体不明	中期	加曾利E IV	口縁部
29	67	SI-15	深鉢	74	5YR5/6 明赤褐		砂粒, 赤色スコリア	刻み	中期		口縁部
29	68	SI-15	深鉢	74	5YR4/6 赤褐		砂粒(多), 赤色スコリア	口唇部沈線, 刻み	中期		口縁部
29	69	SB-8	深鉢	5	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/6 明褐	長石粒(大), 白色砂粒(多), 赤色スコリア	ミガキ	中期		口縁部 加曾利E I ~ IIの鉢か
29	70	SI-39	深鉢	1	10YR5/4 にぶい黄褐	7.5YR5/6 明褐	砂粒, 赤色スコリア, 白色針状粒子	横方向のミガキ	中期	加曾利E II?	口縁部
29	71	SI-6	深鉢	1	10YR5/4 にぶい黄褐		砂粒, 赤色スコリア	櫛歯状工具による条線 沈線 円形の押捺	中期	加曾利E II?	
29	72	SK-41	深鉢	1,5,6	7.5YR6/6 橙		白色砂粒(多), 赤色スコリア	櫛歯状工具による条線	中期	加曾利E	
29	73	SK-89	深鉢	1	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/2 灰褐	雲母(多), 長石粒(多)	沈線 LR	中期		
29	74	SK-82	深鉢	1	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5Y3/1 黒褐	長石粒(大・多), 雲母(少)	沈線区画 RL	中期		
29	75	SI-12	深鉢	10	10YR4/3 にぶい赤褐		砂粒(多), 赤色スコリア	縦方向のヘラナデ	中期		底部
29	76	3H-50	深鉢	2	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/7 明褐	白色砂粒(多), 赤色スコリア		中期		底部 やや丸みを帯びた平底
30	77	SB-13	深鉢	7	7.5YR6/6 橙		白色砂粒, 赤色スコリア	沈線	後期	称名寺	
30	78	SB-13	深鉢	10	7.5YR6/6 橙		砂粒, 赤色スコリア	沈線	後期	称名寺	
30	79	3H-50	深鉢	2	10YR6/6 明黄褐		砂粒	沈線 LR	後期	称名寺	
30	80	SK-41	深鉢	1	5YR1.7/ 黒	5YR4/6 赤褐	白色砂粒	沈線区画 RL(縦)	後期	称名寺	加曾利Eの可能性もあり
30	81	SK-1	深鉢	1	10YR6/4 にぶい黄橙		白色砂粒, 赤色スコリア	口縁部円形刺突	後期	堀之内	口縁部
30	82	SB-13	深鉢	5	10YR5/2 灰黄褐	10YR3/1 黒褐	白色砂粒, 赤色スコリア	櫛歯文	後期	堀之内	
30	83	5H-5	深鉢	1	5YR5/6 明赤褐		白色砂粒, 赤色スコリア	条線	後期	堀之内	
30	84	3トレンチ	深鉢	1	10YR5/4 にぶい黄褐		白色砂粒(多)	櫛歯波状文	後期	堀之内	
30	85	SI-14	深鉢	1	5YR4/8 赤褐		白色砂粒, 雲母	櫛歯文	後期	堀之内	
30	86	SB-6	深鉢	P13-1	7.5YR2/1 黒	7.5YR6/6 橙	砂粒	磨消縄文 LR	後期	加曾利B2	
30	87	3H-50	深鉢	2	10YR6/6 明黄褐		白色砂粒(多), 赤色スコリア	沈線 LR	後期	加曾利B2	口縁部
30	88	SB-8	深鉢	10	5YR5/6 明赤褐		白色砂粒(多), 赤色スコリア	沈線 LR	後期	加曾利B2	波状口縁
30	89	SK-17	深鉢	1	7.5YR5/6 明褐		砂粒	磨消縄文 LR	後期	加曾利B2	口縁部
30	90	SB-8	深鉢	6	2.5Y4/1 黄灰		砂粒	沈線 LR	後期	加曾利B	
30	91	SB-8	深鉢	5	10YR3/1 黒褐		砂粒, 赤色スコリア, 雲母	斜条線	後期	加曾利B2~3	波状口縁
30	92	SI-35	深鉢	4	10YR3/3 暗褐		白色砂粒(多), 雲母, 赤色スコリア	斜条線	後期	加曾利B2~3	波状口縁
30	93	SI-35	深鉢	1	10YR2/1 黒	5YR5/6 明赤褐	砂粒	矢羽状の沈線	後期	加曾利B2	
30	94	SB-8	深鉢	5	5YR5/6 明赤褐		砂粒	沈線区画 斜条線	後期	加曾利B3	
30	95	SI-12	深鉢	3	10YR3/1 黒褐	10YR6/4 にぶい黄橙	砂粒, 白色針状粒子(少)	斜沈線	後期	加曾利B2	

押込番号	遺構番号	器種	遺物番号	色調		胎土	文様	時期	型式	備考	
				内面	外面						
30	96	SB-6	深鉢	P2-1	10YR4/2 灰黄褐	白色砂粒(多), 雲母, 赤色スコリア	横位の短沈線	後期	加曾利B2~3	底部	
30	97	SI-33	深鉢	4	5YR3/2 暗赤褐	白色砂粒(多), 赤色スコリア	口縁部刻み 磨消縄文 LR	後期	加曾利B3	口縁部	
30	98	SK-82	深鉢	1	5YR5/6 明赤褐	砂粒, 赤色スコリア	刻み 条線	後期	加曾利B3か	口縁部	
30	99	SI-44	深鉢	2	2.5Y4/1 黄灰	砂粒, 赤色スコリア	口唇部刻み 沈線区画 LR	後期	加曾利B3~ 曾谷	口縁部	
30	100	SD-2	深鉢	1	5YR4/4 にふい赤褐	砂粒, 赤色スコリア, 雲母	口唇部刻み RL	後期	加曾利B3	波状口縁	
30	101	SD-2	深鉢	1	5YR5/6 明赤褐	7.5YR4/4 褐	砂粒	波頂部にのみ刻み 部分的に無筋L	後期	後期後半	波状口縁 補修孔1ヶ
30	102	SB-13	深鉢	7	7.5YR6/6 橙	砂粒, 赤色スコリア	条線	後期		口縁部	
30	103	SI-14	深鉢	1	2.5Y3/1 黒褐	砂粒	斜条線	後期	加曾利B3		
30	104	SI-15	深鉢	75	10YR5/4 にふい黄褐	砂粒	斜条線か	後期	加曾利B3		
30	105	SI-26	深鉢	1	10YR6/4 明黄褐	砂粒	磨消縄文 LR	後期	加曾利B2~3		
30	106	SI-26	深鉢	1	10YR4/1 褐灰	10YR7/4 にふい黄橙	砂粒	磨消縄文 LR	後期	加曾利B2~3	
30	107	SD-3	深鉢	1	2.5Y3/1 黒褐	白色砂粒	刻み LR	後期	加曾利B3		
30	108	SI-44	深鉢	4	10YR2/1 黒	砂粒	刻み LR	後期	加曾利B3		
30	109	SI-35	深鉢	1	10YR4/2 灰黄褐	白色砂粒	沈線区画 LR	後期	加曾利B		
30	110	SI-21	深鉢	1	2.5Y4/1 黄灰	白色砂粒	沈線区画 LR	後期	加曾利B		
30	111	SI-1	深鉢	2	7.5YR5/6 明褐	砂粒	沈線 LR	後期	加曾利B		
30	112	SK-86	深鉢	1	5YR5/6 明赤褐	砂粒, 赤色スコリア	RL	後期	後期後半		
30	113	SI-25	深鉢	3	5YR6/6 橙	砂粒, 赤色スコリア	磨消縄文 LR	後期	後期後半		
30	114	SI-25	深鉢	3	7.5YR6/6 橙	砂粒	磨消縄文 LR	後期	後期後半		
30	115	SI-25	深鉢	3	5YR6/6 橙	砂粒, 赤色スコリア	磨消縄文 LR	後期	後期後半		
30	116	SB-9	深鉢	1	10YR7/4 にふい黄橙	砂粒, 赤色スコリア	条線	後期	後期後半		
31	117	SB-8	浅鉢	5	7.5YR5/6 明褐	砂粒	無文	後期	後期後半	口縁部	
31	118	SI-26	深鉢	2	10YR6/4 にふい黄橙	砂粒	ミガキ	後期	後期後半	波状口縁	
31	119	SD-2	深鉢	1	10YR3/1 黒褐	10YR5/6 黄褐	砂粒	鋸歯状の沈線か	後期		底部
31	120	SB-11	浅鉢	5	10YR6/3 にふい黄橙	白色砂粒(多), 赤色スコリア	無文	後期	後期後半	底部	
31	121	SI-15	深鉢	74	10YR5/3 にふい黄褐	砂粒, 赤色スコリア	地文LR 沈線	後期		口縁部 粗製?	
31	122	SE-2	深鉢	1,18	7.5YR5/6 明褐	白色砂粒(多), 赤色スコリア	LR	後期	加曾利B	口縁部 粗製	
31	123	SK-89 SE-1	深鉢	1	5YR5/6 明赤褐	10YR6/3 にふい黄橙	砂粒	地文RL 紐線文2条	後期	加曾利B	口縁部 粗製
31	124	SI-11	深鉢	21	5YR2/1 黒褐	5YR5/4 にふい赤褐	砂粒	地文LR 紐線文2条	後期	加曾利B	口縁部 粗製
31	125	SA-6	深鉢	P6-1	7.5YR4/3 褐	砂粒	地文RL 紐線文	後期	加曾利B	口縁部 粗製	
31	126	SK-39	深鉢	2	10YR4/4 褐	砂粒	地文LR 半截竹管による条線 紐線文	後期	加曾利B	口縁部 粗製	
31	127	SD-3	深鉢	1	10YR5/4 にふい黄褐	砂粒, 赤色スコリア	地文LRのち条線	後期	加曾利B	口縁部 粗製	
31	128	SD-2	深鉢	1	5YR4/4 にふい赤褐	5YR5/6 明赤褐	砂粒	条線 紐線文	後期	加曾利B	粗製
31	129	SB-8	深鉢	8	2.5Y1.7/1 黒褐	2.5Y4/6 赤褐	砂粒	LR 縦方向のミガキ	後期	加曾利B	粗製
31	130	SD-2	深鉢	1	10YR3/2 黒褐	5YR5/6 明赤褐	砂粒	RL	後期	加曾利B	粗製
31	131	SD-2	深鉢	1	5YR5/6 明赤褐	10YR6/4 にふい黄橙	砂粒, 赤色スコリア	LR	後期	加曾利B	粗製
31	132	SK-89 SE-1	深鉢	1	7.5YR5/6 明褐	白色砂粒	紐線文・沈線による区画 瘤状の貼付文	後期	安行1	波状口縁	
31	133	SK-81	深鉢	1	7.5YR2/1 黒褐	砂粒	口唇部RL 沈線	後期	安行2	粗製 口縁部	
31	134	SI-1	深鉢	4	7.5YR3/1 黒褐	砂粒	紐線文 RL 刻み	後・晩期	安行	口縁部	
31	135	SD-1	深鉢	1	10YR6/4 にふい黄橙	砂粒	無文	晩期		大洞系?	
31	136	SK-17	深鉢	1	7.5YR4/4 褐	砂粒	沈線による横凹区画文 区画内ミガキ	後・晩期	安行	粗製	
31	137	SK-89	深鉢	1	7.5YR5/4 にふい褐	砂粒, 赤色スコリア	沈線 付加条	後・晩期	安行		
31	138	SB-13	深鉢	4	10YR6/6 明黄褐	砂粒, 赤色スコリア, 白色針状粒子	沈線	後・晩期	安行		
31	139	SI-17	深鉢	1	7.5YR5/6 明褐	白色砂粒	条線(横)	晩期			
31	140	SI-39	深鉢	1	10YR2/1 黒	10YR4/6 褐	砂粒	凹線文	晩期	前浦式?	

第3表 縄文時代・弥生時代遺物観察表（弥生土器）

挿図番号	遺構番号	器種	遺物番号	色調		胎土	文様	備考
				内面	外面			
31	1	SI-27	弥生 甕	17	7.5YR6/4 にぶい橙	砂粒, 赤色スコリア, 雲母	LR	
31	2	SI-43	弥生 甕	2	2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒	LR	
31	3	SI-40	弥生 甕	8	7.5YR5/6 明褐	砂粒, 赤色スコリア	横方向のケズリのち縦方向の粗いミガキ	底部
31	4	SI-25	弥生 甕	4	7.5YR6/6 橙	砂粒, 赤色スコリア	ナデ	底部 木葉痕
31	5	SK-41	弥生 甕	1	7.5YR5/6 明褐	砂粒	附加条	底部

第3表 縄文時代・弥生時代遺物観察表（縄文石器）（第32図）

番号	遺構番号	遺物番号	種別	器種	単位:cm、()は復元値、現存値				備考
					長さ	幅	厚さ	重さ g	
1	SK-89	1,SE-01	石器	石鏃	2.2	2.1	0.4	1.39	
2	4F-51	1	石器	石鏃	2.6	1.45	0.45	1.46	
3	SK-41	1	石器	剥片	4.8	4.5	1.8	29.71	
4	5H-5	1	石器	剥片	2.95	6.4	1.0	19.14	
5	SK-89	1,SE-01	石器	剥片	8.9	3.2	1.4	29.68	
6	SK-41	8	石器	石核	5.2	9.4	7.7	442.05	
7	SI-21	5	石器	磨石	8.9	8.3	3.25	328.26	
8	SK-03	1	石器	磨石	7.3	5.5	3.4	187.62	
9	SD-02	1	石器	磨石	9.1	8.4	3.8	395.46	
10	SK-24	3	石器	石皿	11.2	7.9	3.0	337.94	
11	SK-41	7	石製品	砥石	12.8	6.6	5.2	652.33	
12	SK-86	1	石製品	砥石	9.8	8.5	4.0	516.54	
13	3H-50	1	石製品	軽石	6.15	4.7	2.3	12.32	

第3表 縄文時代・弥生時代遺物観察表（縄文土製品）

挿図 番号	遺構 番号	遺物番号	種別	器種	単位:cm、()は復元値、現存値					色調	胎土	焼成	備考	
					長さ	幅	厚さ	孔径	重さ g					
33	1	SK-120	1	土製品	土器片錘	3.1	5.75	0.9			10YR5/4 にぶい黄褐	砂粒, スコリア	良好	
33	2	SK-121	1	土製品	土器片錘	3.45	4.71	0.75			10YR4/3 にぶい黄褐	砂粒	良好	
33	3	SK-85	1	土製品	円盤	3.97	3.7	1.32			5YR4/6 赤褐	砂粒, スコリア	良好	
33	4	SI-15	74	土製品	土器片錘	3.75	3.33	1.23			7.5YR6/6 橙	砂粒, スコリア	良好	
33	5	SE-3	1	土製品	土器片錘	6.0	3.27	1.65			7.5YR5/6 明褐	砂粒, スコリア	良好	
33	6	SI-38	3	土製品	土器片錘	5.03	4.73	10			10YR4/1 褐灰	砂粒, スコリア	良好	
33	7	SE-3	1	土製品	土器片錘	3.58	3.5	0.78			7.5YR6/6 橙	砂粒, スコリア	良好	
33	8	SB-13	9	土製品	土器片錘	3.57	3.54	1.4			7.5YR4/4 褐	砂粒, スコリア	良好	
33	9	SI-36	73	土製品	土器片錘	3.12	3.08	1			10YR6/4 にぶい黄橙	砂粒, スコリア	良好	
33	10	SI-39	7	土製品	土器片錘	3	3.5	1.09			5YR5/6 明赤褐	砂粒	良好	
33	11	SI-43	2	土製品	土器片錘	4.2	2.3	0.93			10YR5/4 にぶい黄褐	砂粒, スコリア	良好	
33	12	SK-85	1	土製品	土器片錘	4.07	3.53	0.97			10YR6/6 明黄褐	砂粒, スコリア	良好	
33	13	SI-9	1	土製品	土器片錘	4.86	6.4	1.52			7.5YR5/6 明褐	長石, 雲母	良好	
33	14	SK-41	1	土製品	土器片錘	5.91	5.85	0.9			2.5Y5/3 黄褐	砂粒, スコリア	良好	
33	15	SI-44	3	土製品		4.6	2.05	1.93			10YR6/4 明黄褐	雲母, 長 石, スコリア	良好	
33	16	ナシ	ナシ	土製品	土器片錘	1.75	3.5	0.95			7.5YR5/6 明褐	砂粒	良好	

第4表 遺構一覧表 (古墳 奈良・平安時代堅穴住居跡)

挿図No.	遺構No.	規模 (主軸×副軸m)	主軸方向	壁高	柱穴深さ	出入口	壁溝	カマド位置	備考
				(cm)	(cm)	(cm)			
36	SI-001	≒B1 ×6.80	N- 22° -E	26.0~36.0	P1 48.5 P2 49.2	不明	(全周)	北壁中央	南半分攪乱により不明
39	SI-002	- ×2.60	N- 40° -E	50.0~55.0	-	不明	なし	不明	北をSK-021に、南をSK-026に切られる
40	SI-003	- ×(3.04)	N- 44° -E	2.9~16.1	-	不明	北東壁 南東壁		南西側 中世台地整形により欠損
41	SI-004	4.54×4.48	N- 40° -E	15.0~49.3	P1 36.9 P2 41.8 P3 49.9 P4 43.2	8.1	北東壁と南東壁の一部	北東壁中央	
43	SI-005	4.34×4.30	N- 41° -E	3.8~42.5	P1 72.7 (旧)63.9 P2 46.5 P3 39.9 (旧)39.1 P4 52.2	10.6	壁の内側に 周溝 北 西・東南~ 南西	北東壁中央	柱穴 建替え柱あり
45	SI-006	4.34×4.14	N- 7° -W	11.2~57.4	P1 42.2 P2 46.5 P3 13.9 P4 34.9	なし	全周	北壁中央	中央部に攪乱あり
47	SI-007	- ×3.68	N- 65° -E	28.8~49.8	14.7	不明	(全周か)	北壁中央か?火床部のみで構造は不明	床面攪乱あり 西半分不明
48	SI-008	-	N- 12° -W	37.0~47.5	46.5	不明	(全周か)	不明	北側の多くが未検出
116	SI-009	土坑に変更							遺構番号は変更なし
49	SI-010	3.0×3.14	N- 34° -E	0.9~5.6	なし	9.4	ほぼ全周 北東壁の一部欠	SB-002 P12に切られる	床面全体硬化
50	SI-011	4.34×4.5	N- 52° -W	33.3~47.4	P1 66.9 P2 56.2 P3 60.5 P4 56.8	なし	全周	北西壁 中央やや北寄り	北はSI-033に切られる
51	SI-012	- ×5.34	N- 4° -E	21.3~38.0	P1 51.6 P2 56.5 P3 50.6	調査区外のため不明	(全周か)	北壁中央	東南隅は調査区外 西壁南端はSK-079に切られる
欠番	SI-013	欠番(SI-015と同一)							
53	SI-014	3.16×2.96	N- 55° -W	17.4~27.0	なし	14.7	北西壁欠	北西壁中央	東側SI-015により不明 (SI-015の方が古い)
55	SI-015	5.96×6.02	N- 72° -W (旧N-16° -E)	21.6~39.2	P1 72.6 P2 58.9 P3 61.7 P4 60.7	なし	(全周か)	西壁中央 (旧 北壁中央)	北壁東側に攪乱あり
57	SI-016	3.84×4.0	N- 127° -W	0.7~1.1	(12.3)	不明	不明	北西壁中央	北東側遺構検出時床面露出
34	SI-017	5.9×5.74	N- 68° -E	6.4~19.1	P1 42.6 P2 65.7	SK-085に切られるため不明	東壁と南壁の一部	東壁中央	貯蔵穴 南東隅 110×75cm 深さ48.1cm
58	SI-018	2.8×2.88	N- 84° -W	13.7~23.8	P1 13.8 P2 28.8 P3 17.2 P4 20.0 P5 44.0 P6 7.0 P7 55.3	13.3	ほぼ全周 東壁南端で一部途切れる	西壁中央やや南寄り	カマド北側攪乱 周溝上にピットあり(P5,P6,P7)
60	SI-019	3.43×-	N- 21.5° -E	0.4~5.5	なし	なし	東壁 南壁	北壁	西壁はSX-001に 北東隅は攪乱により不明
61	SI-020	(4.34)×4.6	N- 40° -E	0.5~21.1	P1 12.9 P2 19.8 P3 30.7 P4 25.5	なし	北東壁の一部途切れる ほぼ全周か	北東壁中央	西南壁不明 北東壁東隅攪乱により不明
63	SI-021	3.25×3.35	N- 82° -W	24.1~46.3	なし	12.9	全周	西壁中央	
64	SI-022	- ×4.64	N- 6° -W	累道を挟んで東側12.6~15.0 西側52.3~64.3	64.7	不明	(全周か)	北東隅	中央部を累道によって切られる

挿図No.	遺構No.	規模	主軸方向	壁高	柱穴深さ	出入口	壁溝	カマド位置	備考
		(主軸×副軸m)		(cm)	(cm)				
66	SI-023	- ×4.28	N- 10° -W	13.0~37.7	不明	不明	(全周か)	不明	南半分調査区外
67	SI-024	- ×2.90	N- 23° -E	7.0~23.9	なし	(11.4)	(全周か)	不明	北側をSD-010に切られる
68	SI-025	3.94×4.08	N- 37° -W	3.9~49.7	P1 36.1	不明	北西壁北隅で途切れる	北西壁北寄	東側攪乱により不明
					P2 35.1				
					P3 35.9				
					P4 17.5				
68	SI-026	3.3×3.17	N- 121° -E	35.6~44.0	なし	なし	北東隅で切られる	東南壁やや北寄	
70	SI-027	- ×4.18	N- 30° -W	17.5~38.4	P1 49.6	不明	東壁二重 拡張によるものか(全周か)	北壁中央か	南側調査区外 カマド及び北壁は攪乱を受けている
					P2 51.1				
欠番	SI-028	欠番(SI-023と同一)							
71	SI-029	3.8×3.72	N- 50° -W	3.2~13.6	P1 19.7	なし	全周	北西壁 中央	北西壁北隅をSD-010に切られる
					P2 28.2				
					P3 34.9				
					P4 19.5				
72	SI-030	3.3× -	N- 43° -E	31.9~40.1	なし	20.5	(全周か)	北隅	東側SI-021に切られる
73	SI-031	2.7×2.94	N- 40° -W	0.5~12.2	なし	なし	(全周か)	北西壁中央	カマドと北側の一部をSI-021に切られる。南隅攪乱を受ける
74	SI-032	2.88×2.82	N- 52° -W (旧N-40° -E)	12.5~23.3	なし	なし	全周	北西壁中央 (旧 北東壁中央)	カマド2基
76	SI-033	2.96×2.78	N- 15° -E	29.8~39.4	なし	36.6	全周	北壁中央	
77	SI-034	3.92× -	N- 29° -E	10.7~28.5	なし	なし	(全周か)	北東壁中央	北西壁攪乱により不明
78	SI-035	3.08×2.66	N- 32° -E	2.2~18.2	なし	不明	東南壁と南西壁	北東壁北寄り	南隅・西隅不明
79	SI-036	3.56×3.8	N- 17° -E	18.6~39.7	P1 44.6	12.8	(全周か)	北壁 東寄り	北西隅 攪乱を受ける
					P2 44.5				
79	SI-037	3.36×4.8	N- 19° -E	3.2~14.7	不明	不明	(全周か)	不明	東側SI-036に切られる
81	SI-038	3.22×3.24	N- 61° -W	20.6~27.5	P1 17.2	5.6	ほぼ全周	北西壁 中央	
					P2 17.0				
					P3 18.7				
					P4 13.5				
82	SI-039	3.62× -	N- 24° -E	1.2~7.3	なし	なし	(全周か)	北壁東寄り	西側半分は調査区外
83	SI-041	- ×4.74	N- 57.5° -W	1.8~29.9	P1 56.8	不明	北西・北東壁 南西壁の一部	北西壁中央	南東壁不明
					P2 38.3				
					P3 34.5				
					P4 43.1				
85	SI-042	4.62×4.7	N- 5° -W	-0.9~0.8	なし	不明	(全周か)	北壁中央	SB-008(南)SB-013(北)に切られる
86	SI-043	- ×3.94	N- 38° -E	27.0~35.5	P1 47.2	不明	(全周か)	北東壁中央北寄り	南側をSI-044に切られる
					P2 22.4				
					P3 45.4				
					P4 39.7				
87	SI-044	5.66×5.9	N- 18° -E	30.6~40.4	P1 46.5	13.9~19.1	全周	北壁中央	北隅に貯蔵穴 長軸110cm 短軸99.6cm深さ114~156cm。中央に火床面あり 置きカマドの使用痕か
					P2 43.9				
					P3 48.5				
					P4 48.5				
90	SI-045	- ×5.14	N- 24° -E	11.0~17.5	P1 40.0 P2 30.0	不明	東壁・南壁	不明	北半分欠(防火水槽による)
91	SI-046	3.34×2.84	N- 61° -W	5.5~15.4	なし	なし	南東壁と北西壁の一部 南西壁	北西壁中央 中央部攪乱を受ける	北東側防火水槽により不明 南東壁・東半分不明
92	SI-047	-	N- 31° -E	3.9~9.2	なし	なし	なし	不明	北側調査区外
93	SI-048	3.36×3.78	N- 10° -E	36.6~50.6	なし	なし	南東隅と北西隅	北壁東寄り	
95	SI-049	4.55×4.32	N- 1° -E	32.2~49.2	P1 33.8	なし	全周	北壁中央	
					P2 52.2				
					P3 42.0				
					P4 63.9				
97	SI-050	- ×4.8	N- 38° -W	46.1~58.6	P1 56.2	不明	(全周か)	不明	北側遺構外
					P2 45.3				

第4表 遺構一覧表 (掘立柱建物跡)

挿図No.	遺構No.	規格	桁行方位	桁行長	梁行長	柱間寸法	柱穴深さ	備考
		(桁×梁)		(m)	(m)	(m)	(cm)	
99	SB-001	4×2	N- 19° -E	6.6	5.54	1.28~2.32	28.5~70.3	
100	SB-002	4×2	N- 71° -W	8.32	4.3	1.32~2.28	26.1~64.7	
100	SB-003	2×2	N- 65.5° -W	4.5	3.3	1.18~2.3	42.4~73.8	南側 桁数3間か?
101	SB-004	1×1	N- 25° -E	3.1	2.02	2.02~3.1	32.8~58.1	
102	SB-005	2×1	N- 90° -E	6.98	2.76	2.76~3.6	13.0~47.7	
103	SB-006	不明×2	N- 7° -E	(6.72)	3.66	1.44~2.04	4.04~68.0	新旧あり? 南端調査区外のため不明
		3×不明	N- 4° -E	5.2	3.12	1.7~1.72	19.7~47.8	
104	SB-007	4×2	N- 29° -E	6.54	3.95	1.52~2.1	47.3~70.7	
105・106	SB-008	5×3か	N- 28° -E	12.63	6.88	2.12~2.72	45.0~89.4	西側は調査区外
107	SB-009	3×2	N-24.5° -E	5.72	3.98	1.82~2.1	22.2~84.5	
108	SB-010	3×2	N- 87° -E	7.2~8.4	4.29~5.32	1.71~34.8	1.6~57.8	
109・110	SB-011	7×2	N- 10° -E	13.03	4.02~4.1	1.5~2.36	21.9~53.1	3×2の2棟か
111	SB-012	3×3	N- 22° -E	8.05	7.2	2.06~2.86	22.1~89.4	
112	SB-013	6×3	N- 20.5° -E	10.62	4.4	1.32~2.08	34.7~71.9	
113	SB-014	北側4×2	N- 93° -E	9.7	4.6	1.7~2.9	5.6~47.9	北側と南側で柱の本数が異なる
					南側4.8~4.9			
114	SB-015	2×1	N- 58° -W	9.03~9.1	6.1~6.24	4.36~4.74	8.4~102.4	

第4表 遺構一覧表 (奈良・平安時代土坑)

挿図No.	遺構No.	平面形	規模	深さ	備考
			(長軸×短軸m)	(cm)	
115	SK-079	楕円形	1.55×1.4	126.5～133.3	東側SI-012と切りあう
115	SK-080	円形	0.38×0.38	78.3～77.4	
115	SK-106	楕円形	(1.25)×-	29.5～39.4	東側SE-003に切られる 攪乱により平面プランもはっきりしない
116	SK-109	楕円形	0.5×0.38	3.2～37.3	
116	SK-110	楕円形	-×0.86	15.2～43.2	南東部でSK-107と切りあう
116	SK-111	楕円形	0.76×0.76	25.7～35.8	
116	SK-112	方形	1.22×1.09	31.2～39.9	
115	SK-113	楕円形	1.0×0.84	14.4～21.8	
116	SI-009	楕円形	2.78×2.63	61.8～105.5	
139	SK-117	長楕円形	2.36×1.17	1.4～55.4	中世以降と考えられる
139	SK-118	楕円形	3.05×-	113.2～190.1	地下式坑と考えられる。南側は調査区外

第4表 遺構一覧表 (井戸跡)

挿図No.	遺構No.	平面形	長軸	短軸	深さ	ピット	備考
			(m)	(m)	(cm)	(cm)	
118	SE-001	上場	楕円形	4.32	3.85	2.829～3.41	
		下場	楕円形	0.72	0.67		
119	SE-002	上場	楕円形	3.76	3.75	2.242～2.710	
		下場	楕円形	0.3	0.3		
120	SE-003	上場	円形	3.12	3.04	2.638～2.694	P1 34.0
							P2 14.8
							P3 28.0
		下場	長方形	0.54	0.34		P4 20.0
							P5 40.5
							P6 20.5

第4表 遺構一覧表 (中世地下式坑)

挿図No.	遺構No.		開口方向	全体の長軸(m)	主軸方向	幅	奥行	深さ	平面形	地下室との段差(cm)	備考
						(m)	(m)	(cm)			
124	SK-001	地下室	南	4.2	N-2° -W	3.7	2.68	153.0~217.0	不定形	118.7	
		竪坑			N	(1.98)	0.58	39.0~64.5	三角形		
125	SK-002	地下室	南西	3.14	N-29° -E	2.84	1.6	168.5~195.8	長方形	65	竪坑二段掘り込みか。東側1/3程トレンチによって切られる
		竪坑			N-14° -E	(1.13)	1.1	上63.2~88.9 下87.0~	長方形	上段下段の差 25.0	
125	SK-003	地下室	南東	3.63	N-43° -W	2.34	1.62	174.0~310.5	長方形	90.6	地下室南隅攪乱受ける
		竪坑			N-59° -W	0.43	1.2	73.8~105.4	長方形		
126	SK-004		不明	—	不明	2.4	—	64.5~164.2	長方形	—	P小 29.9 P大 46.2 SK-021(旧)→SK-015 →SK-004(新)
	SK-015		不明	—	不明	(1.54)	—	127.0~146.5	不明	—	
	SK-021		不明	—	不明	2.74	—	129.5~149.5	長方形	—	
127	SK-024	地下室	南西	3.9	N-13° -E	2.35	2.33	200.5~221.5	楕円形	64.0	
		竪坑			N-25° -E	0.8	1.12	101.5~139.0	楕円形		
127	SK-027	地下室	不明(南東か)	—	N-66° -W	2.92	1.85	163.7~203.0	長方形	—	竪坑SK-04,015,021と切り合う
128	SK-041	地下室	南東	3.38	N-70.5° -W	2.78	1.6	173.5~222.0	楕円形	73.0	
		竪坑			N-70.5° -W	1.0	1.12	43.5~149.5	楕円形		
129	SK-071		北西か	3.49	N-40.5° -W	2.87	2.0	218.0~288.7	長方形	52.5	地下室複室か
	SK-094	地下室	北西か	2.94	N-40.5° -W	2.03	1.43	110.5~235.4	長方形	66.0	P 10.1
		竪坑				0.75	0.9	97.9~163.8	長方形		
SK-095		北西か	—	N-40.5° -W	0.8	1.0	146.5~199.5	長方形	SK-071との差 51.0	SK-071の竪坑か。P1 4.5cm P2 23.3cm	
130	SK-082	地下室	南東	4.43	N-28° -W	3.39	2.57	60.8~196.4	不定形	11.1	竪坑架け替えている？
		竪坑			N-18° -W (旧)	1.26	1.02	163.0~190.2	半円形		
131	SK-083		不明(南か)	2.98	(N-5° -E)	3.02	2.85	239.0~267.5	隅丸方形	—	地下室のみ
130	SK-085		不明	(3.08)	(N-10° -E)	3.59	2.48	234.4~243.7	隅丸長方形	—	地下室のみ
131	SK-086		南か	5.05	(N-9° -E)	3.12	2.5	222.0~249.2	不定形	—	地下室のみ

第4表 遺構一覧表 (中世土坑)

挿図No.	遺構No.	種類	平面形	規模	深さ	ピット	備考
				(長軸×短軸m)	(cm)	(cm)	
121	SK-005	方形竪穴状遺構	長方形	3.53×2.66	51.0~82.8		
121	SK-006	方形竪穴状遺構	長方形	3.1×2.18	28.6~37.2		東南・南西・北西壁の一部に周溝あり
121	SK-007	方形竪穴状遺構	長方形	3.62×2.59	24.9~51.9		
121	SK-008	方形竪穴状遺構	長方形	2.26×1.7	6.4~19.1		
122	SK-026	方形竪穴状遺構	不定形	3.02×2.3	60.5~70.3		SI-002を切る
122	SK-034	方形竪穴状遺構	方形	2.0×1.66	54.3~69.5		
122	SK-060	方形竪穴状遺構	方形	1.93×1.87	56.4~89.4	18.7	
123	SK-076	方形竪穴状遺構	方形	3.03×2.8	29.0~40.6	P1 15.3	
						P2 33.7	
123	SK-078	方形竪穴状遺構	方形	—	33.5~46.0		北西・西南壁調査区外 西側攪乱受ける
122	SK-081	方形竪穴状遺構	方形	3.3×—	102.3~107.6		南側調査区外
131	SK-084	方形竪穴状遺構	方形	2.7×—	64.5~155.2		SK-083と切りあう
132	SK-090	土壇墓	方形	1.94×1.84	4.4~22.3	35.9	
133	SK-009	土坑	長楕円形か	—×1.3	49.6~54.6		南側調査区外
133	SK-010	土坑	楕円形	1.26×1.08	52.5~79.0		
133	SK-011	土坑	楕円形	0.66×0.38	55.5~59.0		
133	SK-012	土坑	楕円形	1.78×1.67	43.7~52.3	9.6	
133	SK-013	土坑	楕円形	2.43×1.8	82.0~95.2		
133	SK-014	土坑	楕円形	1.7×1.38	52.3~96.2		
133	SK-016	土坑	楕円形	1.6×1.32	5.5~21.0		
133	SK-017	土坑	楕円形	1.38×1.17	65.5~79.0		
133	SK-018	土坑	楕円形	1.69×1.63	42.4~65.1		
134	SK-019	土坑	長楕円形	1.76×1.35	95.5~106.2		
3	SK-020	土坑	楕円形	0.45×0.27	71.0~74.0		
134	SK-022	土坑	楕円形	1.48×(1.32)	77.0~91.5	23.0~31.0	ピット内状況 ピットの上面薄く灰白色粘土を張る。その下に若干の白色粉、古銭を含む。底部は灰白色粘土を敷き詰める
126	SK-023	土坑	楕円形	0.89×0.87	68.0~76.5		
134	SK-025	土坑	不定形	2.32×1.67	77.5~87.0		二段掘り込み？ 北側段差31.5cm, 南側7.0cm
127	SK-028	土坑	不明	—	51.0~83.8		SK-027を切る
134	SK-029	土坑	楕円形	1.27×1.15	8.4~16.0		粘土張り？0.7~4.5cm
134	SK-030	土坑	長方形	2.34×1.54	64.0~88.0		
134	SK-031	土坑	楕円形	1.48×1.03	55.8~64.0		二段掘り込み 段差26.0cm
134	SK-032	土坑	楕円形	1.3×1.28	20.0~35.7		二段掘り込み 段差9.3cm
134	SK-033	土坑	長方形	1.56×1.1	80.1~106.0		平面形台形に近い
135	SK-035	土坑	楕円形	1.29×1.08	52.5~54.5		SK-035,036,042,043, 044切り合う SK-036が最も新しい
135	SK-036	土坑	楕円形	—×1.0	17.0~24.0		西側をSK-042と、南側をSK-035と切り合う

挿図No.	遺構No.	種類	平面形	規模	深さ	ピット	備考
				(長軸×短軸m)	(cm)	(cm)	
135	SK-037	土坑	楕円形	0.9×0.8	40.8~47.5		
135	SK-038	土坑	楕円形	0.84×0.72	34.0~43.8		
135	SK-039	土坑	不明	—	34.5~40.4		下場レベルのみ
135	SK-040	土坑	楕円形	1.26×1.18	21.7~34.0		SK-041を切る
135	SK-042	土坑	楕円形	—	15.5~19.5		
135	SK-043	土坑	楕円形	- ×1.65	50.5~52.0		北側 調査区境のため不明
135	SK-044	土坑	楕円形	—	63.5~71.0		SK-043を切る
135	SK-046	土坑	楕円形	1.74×1.5	49.8~66.3	74.3	粘土張り土坑
136	SK-047	土坑	方形	1.18×1.16	39.7~48.9		
136	SK-048	土坑	長方形	1.16×-	21.5~36.5		東側SK-047に切られる
136	SK-049	土坑	方形	1.15×(1.1)	17.5~26.2		北側攪乱のため推定
136	SK-051	土坑	長方形	1.92×1.5	36.5~50.1		
135	SK-052	土坑	長方形	1.05×0.83	15.5~24.4		
135	SK-053	土坑	不定形	1.28×1.0	47.3~59.3		
136	SK-054	土坑	楕円形	0.89×0.72	23.7~39.0		
136	SK-055	土坑	不明	—	63.7~72.3		北側調査区境で切られる
136	SK-056	土坑	楕円形	1.25×0.92	36.2~45.9		
136	SK-057	土坑	楕円形	0.95×0.85	24.9~29.6	30.3	
136	SK-058	土坑	楕円形	0.42×0.36	38.3~40.0		
137	SK-061	土坑	円形	1.06×1.0	24.2~28.0		
137	SK-062	土坑	長方形	1.32×1.1	42.8~51.9		
137	SK-063	土坑	長方形	2.0×1.0	65.3~69.6		
137	SK-064	土坑	楕円形	0.86×0.72	24.9~30.6		
137	SK-065	土坑	楕円形	1.27×1.1	33.8~47.5		
137	SK-066	土坑	長楕円形	2.32×1.08	12.0~15.3		SK-065に切られる
137	SK-067	土坑	方形	1.53×1.38	34.5~42.7		
137	SK-069	土坑	長方形	1.05×0.8	16.2~27.5	28.7	
137	SK-070	土坑	楕円形	1.08×0.94	11.5~16.8		平面形台形に近い
137	SK-072	土坑	楕円形	0.48×0.46	33.7~37.6		
137	SK-073	土坑	楕円形	1.12×0.84	12.4~18.4		SA-004の一部
137	SK-074	土坑	楕円形	0.77×0.47	52.2~53.7		
137	SK-087	土坑	楕円形	1.09×1.03	34.2~38.7		
138	SK-093	土坑	不定形	1.03×0.78	29.6~68.0		ピットとピットを繋ぐような形状 左ピット 53.0~68.0 右ピット29.6~42.5 中間32.7~39.3
138	SK-096	土坑	楕円形	0.8×0.6	32.4~39.5		

第4表 遺構一覧表（中世溝・柵列跡・ピット群・台地整形遺構・焼土遺構）

挿図No.	遺構No.	平面形	幅 (m)	長さ (m)	深さ	備考
					(cm)	
140	SD-001	直線	0.6~1.9	(38.7)	南西端 30.7~40.7	北東-南西方向へ伸びる溝。南西端は調査区外へ続く。北東端はSB-011, SX-001と切りあって更に延びるようである。
141・142	SD-002	鍵手状?	0.3~5.0	(68.7)	東6.5~13.2	南西から北東へ伸びた後東に延び、南東方向へ続いていくようである。SB-007付近でSD-003と切り合うようだが、詳細不明
142	SD-003	直線?	0.4~1.1	(36.6)	中央付近 15.0~27.7 南西端 52.8~66.6	南西から北東・北へ延びる。SB-007と重なり未調査区へと延びる
140	SD-004	長楕円形	0.25~0.5	4.8	0.7~2.6	北東-南西方向
143	SD-005	直線	1.5~1.8	(8.0)	9.3~31.6	遺跡の北側 南東方向へ延びる
143	SD-006	直線	0.4~0.6	(9.4)	3.5~20.5	遺跡の北側 南東方向へ延びる 南東端はSI-038にぶつかる
143	SD-007	直線	0.8~1.1	(14.0)	4.9~19.4	遺跡の北西側 南西方向へ延びる
143	SD-008	直線	0.8~2.0	(18.5)	11.5~49.3	南東方向へ延びる 楕円もしくは不定形の遺構の連なり
144	SD-009	直線	0.7~2.1	(25.0)	1.2~12.0	遺跡の北東隅 南東方向へ延びる SD-010に切られる
144	SD-010	直線	0.9~2.7 2条に分かれた箇所 最小で0.3	(24.7)	15.0~47.5 2条に分かれた箇所 8.0~27.0	南西から北東方向へ延びる SD-001につながる可能性あり 途中2条に分かれる
柵列跡						
挿図No.	遺構No.	規模(m)等	ピット規模(m) (楕:楕円) (長径-短径-深)		ピット間長	説明
145	SA-001	検出長8.48 ピット数7 方位65° -W	西→東楕0.25-0.22-0.15楕0.26-0.22-0.37楕0.27-(0.22)-0.17楕0.23-0.19-0.16楕0.24-0.21-0.18楕0.24-0.16楕0.27-0.23-0.13		西→東 2.40-1.33-0.89-1.48-0.93-1.51	西北西から東南東方向の柵列跡。ピットは小さく、ほぼ同規模である。
146	SA-002	検出長15.78(3.90+11.78) ピット数8 方位西側50.5° -W 東側58° -W	西→東楕0.57-0.43-0.29楕0.34-0.26-0.24楕0.47-0.41-0.27楕0.41-0.33-0.65楕0.40-0.35-0.23楕1.18-0.41-0.32楕0.40-0.35-0.43楕(0.74)-0.70-0.33		西→東 2.14-1.76-2.28-2.11-2.27-1.92-3.39	西側2基と東側6基で方向が異なる。北西から南東方向の柵列跡。
146	SA-003	検出長12.55 ピット数6内3基重複 方位59.8° -W	西→東楕0.45-0.33-0.14楕0.41-0.29-0.71・重複楕0.87-0.46-0.34楕(0.78)-0.62-0.14楕0.62-0.44-0.26・重複楕0.70-0.63-0.27楕(0.96)-0.70-0.28・重複楕0.50-0.39-楕0.72-0.57-0.36楕0.33-0.23-0.32楕(0.84)-0.56-0.26・0.38-0.27-0.48		西→東 2.70-4.00-2.30-1.82-1.82	北西から南東方向の柵列跡。西から3・4・5番目のピットが建て替えと考えられる。
147	SA-004	検出長9.25 ピット数5 方位75° -W	西→東楕0.58-0.40-0.23楕0.32-0.21-0.29楕0.60-0.49-0.21楕0.61-0.56-0.35楕0.54-0.46-0.56		西→東 2.72-2.65-1.92-2.00	西北西から東南東方向の柵列跡。
147	SA-005	検出長8.47 ピット数4 方位83° -W	西→東楕0.43-0.39-0.27楕0.69-0.50-0.31楕0.91-0.57-0.19楕0.78-0.65-0.25		西→東 3.62-2.38-2.60	東西方向の柵列跡。
	SA-006	欠番				
148	SA-007	検出長12.80(6.00+6.80) ピット数7 方位北側80° -E南側20° -E	西→東楕0.50-0.37-0.39楕0.33-0.23-0.21楕0.34-0.30-0.15北→南楕0.25-0.19-0.29楕0.25-0.24-0.29楕0.32-0.28-0.23楕0.31-0.27-0.28		西→東 3.16-1.22-1.68 北→南 2.17-2.34-2.37	北側3基と南側4基で方向が異なる。北側ほぼ東西、南側北北東から南南西方向の柵列跡。
149	SA-008	検出長8.60 ピット数6 方位16° -E	北→南方0.72-0.49-0.39楕0.72-0.61-0.35楕0.63-0.59-0.32方0.73-0.67-0.18楕0.68-0.55-0.59楕0.55-0.47-0.59		北→南 0.68-3.31-1.86-2.12-1.42	南北方向の柵列。ピットが2基ずつ組になる。
ピット群						
挿図No.	遺構No.	検出ピット数・規模等(m)				説明(m)
150	SH-001	4基 A-A'楕0.39-0.35-0.47楕0.44-0.30-0.53楕0.50-0.49-0.63 B-B'楕0.48-0.37-0.31				柵列跡の可能性はある。A-A'長3.5ピット間長1.42-2.08 B-B'1.70
	SH-002	欠番				
	SH-003	欠番				
151	SH-004	15基 A'楕0.29-0.22-0.26 B-B'楕0.34-0.28-0.19方0.26-0.32楕0.49-0.34-0.29 C-C'楕0.42-0.29-0.65 D-D'楕0.50-0.37-1.01 E'楕0.28-0.26-0.19 F-F'重複楕0.46-(0.43)-0.49方0.49-0.31 G-G'方0.36-0.56方0.30-0.31 H-H'楕1.03-0.34-0.45+0.32+0.38底面に凹部3か所 I-I'楕0.44-0.38-0.11楕0.60-0.55-0.19 J-J'楕0.83-0.80-0.20				

ピット群						
挿図No.	遺構No.	検出ピット数・規模等(m)				説明
102	SH-005	29基 E-E'楕0.29-0.17-0.19 F-F'楕0.68-0.44-0.11・0.15 G-G'楕0.30-0.25-0.66円0.25-0.29 H-H'楕0.20-0.15-0.41楕0.35-0.29-0.41 I-I'楕1.31-0.58-0.47 J-J'3基重複楕0.94-0.75-0.22楕(0.52)-0.37-0.37楕0.50-0.35-0.36 5基重複楕0.84-(0.78)-0.44楕(0.90)-0.74-0.52楕0.29-0.26楕0.39-(0.33)楕0.40-0.28-0.57(R-R') 3基重複楕0.59-0.50-0.29楕0.51-0.21-0.22楕0.88-0.73 楕0.59-0.52-0.14 K-K'楕0.52-0.33-0.27 L-L'2基重複楕0.52-0.45-0.56楕(0.82)0.60-0.26 M-M'楕0.41-0.34-0.25方0.33-0.30-0.34楕0.28-0.21-0.22 N-N'方0.72-0.68-0.36楕0.48-0.42-0.31 O-O'方1.40-0.80-0.44小ピット2方0.88-(0.83)-0.25 P-P'楕0.53-0.46-0.44・0.43 Q-Q'楕1.13-0.75-0.43・0.50 R-R'楕0.35-0.29-0.41楕0.55-0.35-0.20 その他2基重複 楕0.59-0.58方0.74-0.64楕0.33-0.21楕0.28-0.20楕0.33-0.27				SB-005と重複。本遺構が新しい。
152	SH-006	12基 A-A'楕0.59-0.52-0.26 B-B'楕0.31-0.18-0.25 C-C'楕0.30-0.19-0.37楕0.31-0.28-0.17 D-D'楕0.44-0.34-0.37楕0.28-0.26-0.35 E-E'楕0.28-0.19-0.19 F-F'楕0.47-0.41-0.53楕0.30-0.29-0.25 楕0.32-0.30-0.17 G-G'楕0.38-0.35-0.31楕0.43-0.35-0.39				D-D'~G-G'の8基は柵列跡の可能性はある。
153	SH-007	12基 A-A'円0.40-0.15 B-B'楕0.29-0.26-0.23 C-C'楕0.45-0.42-0.45楕0.36-0.32-0.25楕0.65-0.62-0.41 D-D'楕0.41-0.36-0.18 E-E'楕0.50-0.37-0.24円0.32-0.27 F-F'円0.30-0.17 G-G'楕0.31-0.26-0.25円0.34-0.19 H-H'円0.33-0.20				
154	SH-008	10基内3基重複 A-A'重複楕1.21-0.75-0.59楕1.51-(1.05)-0.05楕1.03-0.95-0.13 B-B'楕1.95-1.89-0.90小ピットB円0.30-0.19B'楕0.37-0.27-0.18 C-C'楕0.82-0.65-0.20楕1.98-1.43-0.16小ピット楕0.87-0.82-0.21 D-D'楕1.69-1.57-0.17小ピットD楕0.46-0.39-0.07D'楕0.48-0.35-0.11 E-E'楕0.83-0.58-0.20 F-F'楕0.75-0.66-0.06小ピットF楕0.27-0.15-0.08F'楕0.23-0.16-0.10 G-G'楕0.81-0.77-0.19				直径1m以上のピット6基。小ピットを持つもの4基で、少ピット2ヶは3基。
155	SH-009	4基 A-A'楕0.74-0.35-0.47 B-B'楕0.58-(0.46)-0.21 C-C'楕0.66-0.64-0.29 D-D'楕0.73-0.62-0.40				奈良・平安時代の掘立柱跡が混在する。A-A'・D-D'と考えられる。
台地整形遺構						
挿図No.	遺構No.	平面形	長(m)	幅(m)	深(m)	説明
156	SX-001	長方形	14.0	5.85	削平のためごくわずか。	軸方位30.5° -E。内側にピット検出。不規則であるが、構築物があったと考えられる。
焼土遺構						
挿図No.	遺構No.	平面形	長(m)	幅(m)	深(m)	説明
157	SZ-001	楕円形	1.0	0.85	0.33	楕円形で、袖状に焼土部分が延びる。スラグ、木炭が出土しているので、製鉄関係の遺構と考えられる。

Table with columns: 押込番号, 遺構番号, 種別, 器種, 遺存度%, 単位: cm, 0は復元値・現存値, 口径, 底径, 器高, 色調 (内面, 外面), 胎土, 焼成, 整形・調整 (内面, 外面), 備考. The table contains numerous rows of data for various archaeological artifacts, detailing their physical characteristics and preservation status.

挿図番号	遺構番号	種別	器種	遺存度 %	単位:cm, 0は復元値、現存値			色調		胎土	焼成	整形・調整		備考
					口径	底径	器高	内面	外面			内面	外面	
118	5 SE-001	須恵器	坏	底部片 100%		8.6	(1.1)	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	精緻 砂粒	良好	ロクロナデ	ヘラケズリ	外面線刻あり
118	6 SE-001	須恵器	甕	破片			(4.35)	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰	精緻	良好	ヨコナデ 平行タタキ	ヨコナデ あて具後ヘラナデ	内外面:
118	7 SE-001	須恵器	高台付鉢	20%		(12.0)	(5.7)	5Y7/2 灰白	5Y7/2 灰白	精緻	良好	ロクロナデ	ロクロナデ 回転ヘラケズリ	内面:使用によるマメツ
118	8 SE-001	土師器	蓋	15%	(14.0)	(4.1)	3.1	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	精緻	良好	ロクロナデ	ロクロナデ 回転ヘラケズリ	
118	9 SE-001	土師器	甕	底部 60%		6.0	(4.35)	10YR1.7/1 黒	10YR5/1 焼灰	精緻	良好	ヘラナデ 輪積痕	ヘラケズリ	内面:黒色処理
118	10 SE-001	土師器	小型甕	15%	(12.1)		(5.25)	10YR5/1 焼灰	10YR5/1 焼灰	精緻	良好	ヨコナデ ヘラナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	
118	11 SE-001	土師器	甕	15%	(21.9)		(5.9)	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/6 明赤褐	精緻 白色砂粒	良好	ヨコナデ ヘラナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	
119	1 SE-002	土師器	坏	60%	15.3		4.2	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	精緻	良好	ミガキ	ヨコナデ ヘラケズリ後 ヘラミガキ	
119	2 SE-002	土師器	坏	40%	18.0		(4.3)	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	精緻	良好	ヨコナデ ミガキ	ヨコナデ ヘラケズリ	内面:丁寧なミガキ
119	3 SE-002	土師器	坏	30%	(15.0)		(4.0)	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	精緻	良好	ミガキ	ヨコナデ ヘラケズリ後 ヘラミガキ	内外面:丁寧なミガキ
119	4 SE-002	土師器	坏	30%	(15.0)		(3.6)	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	精緻	良好	ミガキ	ヨコナデ ヘラケズリ後 ヘラミガキ	内外面:丁寧なミガキ
119	5 SE-002	土師器	甕	口~胴部 40%	15.6		(8.7)	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	精緻	良好	ヨコナデ ヘラナデ	ヨコナデ ヘラケズリ後 ヘラミガキ	胴部以下は欠けて水平である
120	1 SE-003	土師器	坏	15%	(15.0)		(3.0)	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	精緻	良好	ミガキ	ヘラケズリ後ミガキ	
120	2 SE-003	土師器	盤	25%	(22.0)	(17.0)	4.4	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	砂粒 微細雲母 赤 色スコリア	良好	ミガキ	ミガキ	外面:加熱による摩滅・剥離あり 底部: 貼付高台 高台内にもミガキ有り
120	3 SE-003	土師器	盤	40%	(36.2)	丸底	6.2	5YR6/8 橙	5YR5/8 明赤褐	砂粒 赤色スコリア	良好	ミガキ	ミガキ	
120	4 SE-003	土師器	甕	20%	23.0		(12.5)	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	精緻 雲母片	良好	ヨコナデ ヘラナデ	ヨコナデ ヘラケズリ後ミ ガキ	
120	5 SE-003	土師器	甕	5%	(11.0)	(1.9)		5YR4/2 灰褐	2.5YR5/6 明赤褐	精緻 砂粒を含む	良好	ヘラナデ	ヘラケズリ後ミガキ	全面:マメツ
120	6 SE-003	土師器	小型甕	10%	(8.0)	(8.6)		5YR6/6 橙	7.5YR5/4 にぶい褐	精緻	良好	ヘラナデ	ヘラケズリ後ミガキ	外面:マメツ
158	1 SK-016	土師器	カワラケ	20%	(11.4)	(6.6)	2.9	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	砂粒 雲母 赤色ス コリア	良好	ロクロナデ	ロクロナデ	底部:回転糸切り
158	1 SK-017	須恵器	長頸壺	頸部~肩部 25%			(11.0)	5Y7/2 灰白	5Y7/2 灰白	白色砂粒 スコ リア	良好	ロクロナデ	ロクロナデ	外面肩部に自然輪
158	2 SK-017	土師器	甕	胴~底部 30%	(16.0)	(12.6)		10YR5/2 灰黄褐	10YR6/4 にぶい黄褐	砂粒 赤色スコリア	良好	当て具痕後ヘラナデ	ヘラケズリ	
158	1 SK-021	土師器	小型甕	胴部下半~ 底部730%	(6.0)	(4.2)		5YR5/6 明赤褐	5YR3/6 暗赤褐	砂粒 赤色スコリア	良好	ヘラナデ	ヘラケズリ	内面:被熱により器面はじけている
158	1 SK-026	土師器	坏	70%	12.2	7.2	3.5	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR6/6 橙	砂粒 雲母 赤色ス コリア	良好	ロクロナデ	ロクロナデ 手持ちヘラケズリ	底部:回転糸切り 2次焼成をうけて いる
158	1 SK-034	灰輪陶器	小型壺	100%	2.1	2.4	2.8	7.5Y7/2 灰白	10Y6/2 オリーブ灰	精緻	良好	ロクロナデ	ロクロナデ	底部:回転糸切り 内外面に施輪
158	1 SK-094	須恵器	坏	40%	(14.6)	(8.2)	4.0	5Y7/2 灰白	5Y7/1 灰白	細雲母 赤色スコ リア	良好	ロクロナデ	ロクロナデ 手持ちヘラケズリ	
158	1 SK-113	須恵器	坏	30%	(12.8)	(7.2)	3.6	10Y7/1 灰白	10Y7/1 灰白	精緻 砂粒	良好	ロクロナデ	ロクロナデ	底部:回転ヘラ切り後手持ちヘラケズ リ
158	1 SD-001	須恵器	高台付坏	体~底部 15%	(8.8)	(1.7)		5YR5/6 明赤褐	5Y6/2 灰オリーブ	白色砂粒 赤色ス コリア	良好	ロクロナデ	回転ヘラケズリのち高 台貼付	
158	1 SD-002	土師器	坏	30%	(12.4)	4.8	4.2	10YR1.7/1 黒	10YR5/4 にぶい黄褐	砂粒 赤色スコリア	良好	ロクロナデ	ロクロナデ 手持ちヘラケズリ	内面:黒色処理
158	2 SD-002	土師器	坏	口~体部 15%	(15.6)		(4.2)	7.5YR1.7/1 黒	7.5YR5/6 明褐	砂粒	良好	ロクロナデのちミガキ	ロクロナデ	内面:黒色処理
158	3 SD-002	土師器	坏	口~体部 10%	(20.0)		(4.2)	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/3 褐	砂粒 赤色スコリア	良好	ロクロナデのちミガキ	ロクロナデ 手持ちヘラケズリ	
159	1 トレンチ	常滑	鉢	口~体部 15%	(35.0)		(6.4)	5YR4/4 にぶい赤褐	5YR4/4 にぶい赤褐	白色砂粒 赤色ス コリア	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ヘラナデ	外面:スス付着
159	2 トレンチ	常滑	甕	口縁20%	(39.8)		(10.9)	5YR3/4 暗赤褐	2.5Y6/4 にぶい黄	白色砂粒 赤色ス コリア	良好	指頭圧痕		
159	3 トレンチ	陶器	不明	底部 12%	(12.2)	(7.1)		5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	細雲母 白色砂粒 赤色スコリア	良好			孔あり 近世~近代
159	4 トレンチ	陶器	不明	底部 15%	(12.6)	(4.0)		5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	細雲母 白色砂粒 赤色スコリア	良好			孔あり 近世~近代
159	1 グリッド	土師器	坏	体~底部 20%	(4.6)	(1.5)		2.5YR8/3 淡黄	2.5YR8/3 淡黄	砂粒 赤色スコリア	良好	ロクロナデ	ロクロナデ	内面に墨書あり

第5表 出土遺物観察表（土・石製品）

挿図 番号	遺構 番号	遺物番号	種別	器種	単位:cm、()は復元値、現存値					色調	胎土	焼成	備考	
					長さ	幅	厚さ	孔径	重さ g					
37	16	SI-1	1	土製品	支脚	4.2	4.7	4.1			7.5YR5/6 明褐	精緻	良好	
37	17	SI-1	73	土器片	円盤	6.1	6.35	0.8			5YR5/4 にぶい赤褐	精緻	良好	木葉痕 拓本
38	18	SI-1	37	石製品	礫	5.2	6.9	6.3		224.13				ウルシ付着
40	9	SI-3	2	土製品	円盤	3.3	3.45	0.6		7.35		砂粒を 含む	良好	甕胴部を利用 あまり丁寧ではない
42	13	SI-4	7	土製品	円盤	3.45	2.95	0.85		9.11		砂粒を 含む	良好	甕胴部片
42	15	SI-4	41	土製品	土玉	2.75	2.85	3.0	0.68	21.58		緻密	良好	
42	17	SI-4	21	石製品	砥石	13.7	4.85	5.2		394.95				
44	9	SI-5	4	石製品	砥石	4.25	5.6	4.25		111.2				
54	12	SI-14	5	土製品	紡錘車	6.6	6.55	1.2	0.9	61.57				須恵質甕底部片
54	13	SI-14	19	石製品	紡錘車	3.4	3.5	1.35	0.95	25.80				
54	14	SI-14	1	土製品	紡錘車	2.3	4.55	1.45		14.13				
54	15	SI-14	1	土製品	土器片錘	4.9	6.0	0.75		26.11		砂粒	普通	焼成後、外から内へ穿孔
54	16	SI-14	3?	石製品	砥石	5.45	4.15	3.25		46.19				
35	13	SI-17	50,51,58	土製品	転用砥石	18.5	18.0	0.8			5YR5/3 にぶい赤褐	精緻	良好	甕肩部片
35	14	SI-17	64	土製品	土玉	3.2	3.0	3.15		28.53		緻密	良好	
35	15	SI-17	1	土製品	紡錘車	3.35	2.95	1.15		10.8		良	良好	土器片錘
59	9	SI-18	25	土製品	土玉	2.55	1.4	2.15		7.5		良	良好	
59	10	SI-18	2	石製品	紡錘車	4.05	2.3	1.35		11.76		石質 柔らかい		上下逆?
59	11	SI-18	6	石製品	砥石	17.3	7.35	5.0		773.15				
62	9	SI-20	8	土製品	支脚	23.2	9.5	8.5				砂粒を多 く含む		
62	10	SI-20	11	石製品	砥石	11.0	4.2	1.9		112.27				
65	5	SI-22	カマド内9	土製品	支脚	15.6	7.7	7.2			5YR5/4 にぶい赤褐			
76	7	SI-33	27	石製品	紡錘車	3.5	1.25	0.85		24.93				上面に摩滅痕あり 若干へこむ
96	22	SI-49	2	土製品	土玉	2.6	2.3		5.5					
98	14	SI-50	1	土製品	紡錘車	406		3.1	0.6					
158	2	SK-34	3	石製品	砥石	6.9	3.15	0.8		21.39				

第5表 出土遺物観察表（金属製品）

挿図 番号	遺構番号	遺物番号	製品名	単位:cm、()は復元値、現存値				備考	
				長さ	幅	厚さ	重さ g		
46	14	SI-006	1	スラグ	2.45	2.05	1.75	9.21	
52	5	SI-012	10	鉄(釘?)	5.9			16.45	
54	17	SI-014	14	鉄(鉄斧)	8.8			96.56	
54	18	SI-014	3	鉄(鉄鏃茎?)	2.5			0.61	
54	19	SI-014	30	鉄(鎌)	7.2			25.05	
56	22	SI-015	21	鉄(のみ?)	11.5			12.39	
56	23	SI-015	36	鉄(のみ?)	12.1			67.37	
59	12	SI-018	10	鉄(鎌)	10.5			68.42	
65	6	SI-022	1	鉄(釘)	8.6			13.03	
69	6	SI-025	4	鉄(鎌)	8			39.38	
72	2	SI-030	4	スラグ	3.75	3	2.35	32.75	
72	3	SI-030	4	スラグ	3.2	2.55	1.6	8.02	
72	4	SI-030	4	スラグ	4.3	3.7	2.0	29.93	
75	13	SI-032	2	鉄(刀子)	4.6			5.02	
76	8	SI-033	28	鉄(板状)	2.4			2.99	
76	9	SI-033	29	鉄(板状)	3.6			7.20	
76	10	SI-033	31	鉄(板状)	3.3			11.13	
80	14	SI-036	10	鉄(刀子)	6.4			8.07	
84	8	SI-041	15	鉄(つりばり?)	3.1			3.87	
89	30	SI-044	4	スラグ	2.3	2.65	1.1	7.66	
89	29	SI-044	4	鉄(釘?)	6.7			7.91	
119	6	SE-002	1	鉄(板状)	8.2			36.85	
120	7	SE-003	8	鉄(釘)	7.9			25.05	
120	8	SE-003	8	スラグ	3.7	2.65	2.55	18.02	
160	1	SH-001-P2	1	鉄(不明)	4.4			6.24	
160	2	SK-017	1	スラグ	5.7	8.05	3.9	98.95	
160	3	SK-071	2	スラグ	10.3	8.7	4.5	468.28	
160	4	SK-089	2	スラグ	3.1	4.55	2.0	11.08	
160	5	SK-118	1	スラグ	4.9	7.8	4.3	106.94	
160	6	SK-118	1	スラグ	6.6	9.3	3.7	206.41	
160	7	SD-002	1	スラグ	4.4	5.75	1.65	46.02	
160	8	SD-002	1	スラグ	5.35	3.95	3.0	59.85	
160	9	SD-002	1	スラグ	5.9	4.8	4.0	110.84	
160	10	SD-002	1	スラグ	3.95	3.1	2.3	19.59	

挿図	番号	遺構	遺物番号	銭名	重さ(g)	縁外径(mm)		縁内径(mm)		郭外径(mm)		郭内径(mm)		縁厚(mm)				内面厚(mm)																				
						縦	横	縦	横	縦	横	縦	横	上	右	下	左	右上	右下	左下	左上																	
163	19	SK-022	17	不明	0.74																			1.1							0.8							
	20	SK-022	1-4	不明	1.35																																	
SK-023	1	SK-023	2	咸平元寶	1.88	24.9	24.7	18.4	18.5	7.4	7.4	6.1	5.8	1.0	1.4	1.3	1.2	0.7	0.6	0.6	0.8																	
	2	SK-023	3	天聖元寶(篆)	1.82	25.0	25.1	19.4	19.5	8.6	8.4	6.7	6.5	1.7	1.2	1.2	1.5	0.7	0.7	0.6	0.7																	
	3	SK-023	5	熙寧元寶(篆)	2.40	24.3	24.7	18.2	19.2	8.6	8.4	6.2	6.4	1.3	1.2	1.5	1.3	1.1	1.2	1.1	1.2	1.1	1.2	1.1	1.2	1.1	1.2	1.1	1.2	1.1	1.2	1.1	1.2	1.1	1.2			
163	4	SK-023	4	聖宋元寶(真)	2.28	25.1	24.3	19.5	19.0	7.6	7.8	6.3	6.6	1.4	1.3	1.5	1.3	0.9	0.9	0.9	0.9																	
	1	SK-024	4	元豐通寶(真)	2.21	23.8	23.9	17.4	17.6	7.0	7.2	5.6	5.9	1.3	1.2	1.3	1.3	1.0	1.0	1.0	1.0																	
SK-082	2	SK-024	5	政和通寶(真)	2.63	24.9	25.0	21.9	21.2	7.3	7.6	6.3	6.3	1.4	1.5	1.5	1.4	1.2	1.2	1.2	1.2																	
	1	SK-082	5	咸平元寶	1.40	22.1	23.4	17.8	18.8	6.8	7.6	5.7	6.0	1.1	1.1	1.1	1.2	0.6	0.6	0.6	0.6																	
	2	SK-082	1	祥符通寶?(真)	0.91												1.3	1.1																				
163	3	SK-082	3	紹聖元寶(真)	3.03	23.6	23.2	17.6	17.5	7.2	7.1	6.2	5.9	1.6	1.7	1.6	1.5	1.0	1.1	1.0	1.1	1.0	1.1															
	4	SK-082	4	□□元寶(真)	1.66	21.8	21.6	17.9	18.1	7.9	7.6	6.7	6.3	1.2	0.9	1.2	1.2					0.9	0.9	0.8														
163	1	SK-085	1	不明	0.49																	0.8	1.1															
163	1	SK-087	2	紹聖元寶(真)	1.19		22.6		18.6		8.0		7.0	1.2	1.5		1.5	0.7																				
163	1	SI-002	2	元豐通寶(篆)	1.43	23.8		19.2	18.8	8.6	8.6	6.7	7.4	1.1						0.8	0.9	0.9	0.8															
163	1	SD-009	2	寛永通寶(古)	2.62	23.3	23.4	19.4	19.4	6.5	6.5	6.0	6.0	1.2	1.2	1.2	1.2	0.8	0.8	0.7	0.8																	
163	1	4F-70	一括	天聖元寶(篆)	2.34	25.0	25.1	19.9	20.3	8.0	8.6	7.0	7.3	1.4	1.3	1.3	1.3	0.9	0.8	0.8	0.8																	
トレンチ	1	トレンチ3	9	宋通元寶?(真)	0.87									1.2																								
	2	トレンチ3	12	天聖元寶(篆)	1.92	25.7	25.8	20.7	20.3	7.2	7.6	6.0	6.7	1.0	1.2	1.3	1.2	0.6	0.7	0.7																		
	3	トレンチ3	13	皇宋通寶(真)	2.07	25.0	25.3	20.2	20.2	8.0	7.5	5.7	5.8	1.3	1.2	1.1	1.2	0.8	0.7	0.8	0.7																	
	4	トレンチ3	15	元豐通寶(真)	2.11	25.0	24.7	21.6	20.1	8.1	8.3	7.2	7.2	1.5	1.5	1.5	1.3	0.8	1.0	0.6	0.7																	
	5	トレンチ3	17	元豐通寶(篆)	1.51	23.8	23.9	19.3	19.8	7.7	7.8	6.5	7.3	1.2	1.1	1.2	1.2	0.8	0.7	0.9	0.8																	
	6	トレンチ3	5	元祐通寶(篆)	1.97	24.5	24.3	20.3	20.4	8.2	8.3	6.9	6.8	1.2	1.1	1.2	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0																	
	7	トレンチ3	2	天□□寶(真)	0.75										1.3	1.1					0.8																	
	8	トレンチ3	16	天□□寶(篆)	0.52										1.2																							
	9	トレンチ3	18	不明	1.26																																	
	10	トレンチ3	19	□□元寶(真)	0.84						7.9	8.1	6.7	6.6																								

第6表 出土銭貨表 (集計表)

銭名	国名	初鑄年	個数												合計																							
			SK-002	SK-004	SK-022	SK-023	SK-024	SK-082	SK-085	SK-087	SI-002	SD-009	グリッド	トレンチ																								
開元通寶	唐	621	3																																		3	
宋通元寶	北宋	960			1																			1													2	
太平通寶	北宋	976		2																																	2	
淳化元寶	北宋	990		1																																	1	
咸平元寶	北宋	998	1		1	1			1																											4		
祥符元寶	北宋	1008	2																																		2	
祥符通寶	北宋	1009	1						1																												2	
天禧通寶	北宋	1017		1	1																																2	
天聖元寶	北宋	1023	5			1																	1	1													8	
景祐元寶	北宋	1034	5	1	1																																7	
皇宋通寶	北宋	1039	2	2	3																					1											8	
嘉祐通寶	北宋	1056		1	2																																3	
治平元寶	北宋	1064	1	1																																	2	
熙寧元寶	北宋	1068	7	2	2	1																															12	
元豐通寶	北宋	1078	7	2	1				1																1												14	
元祐通寶	北宋	1086	6	2	1																													1			10	
紹聖元寶	北宋	1094								1																											2	
元符通寶	北宋	1098	2	1																																	3	
聖宋元寶	北宋	1101	1	1	1	1																															4	
大觀通寶	北宋	1107		2	2																																4	
政和通寶	北宋	1111	2	1	1				1																												5	
淳熙元寶	南宋	1174	1																																		1	
大定通寶	金	1178		1																																	1	
紹熙元寶	南宋	1190	1																																		1	
寛永通寶(古)	日本	1626																								1											1	
不明					3				1	1																											4	9
合計					47	21	20	4	2	4	1	1	1	1	1	1	1																				113	

写真図版



松崎山ノ台遺跡

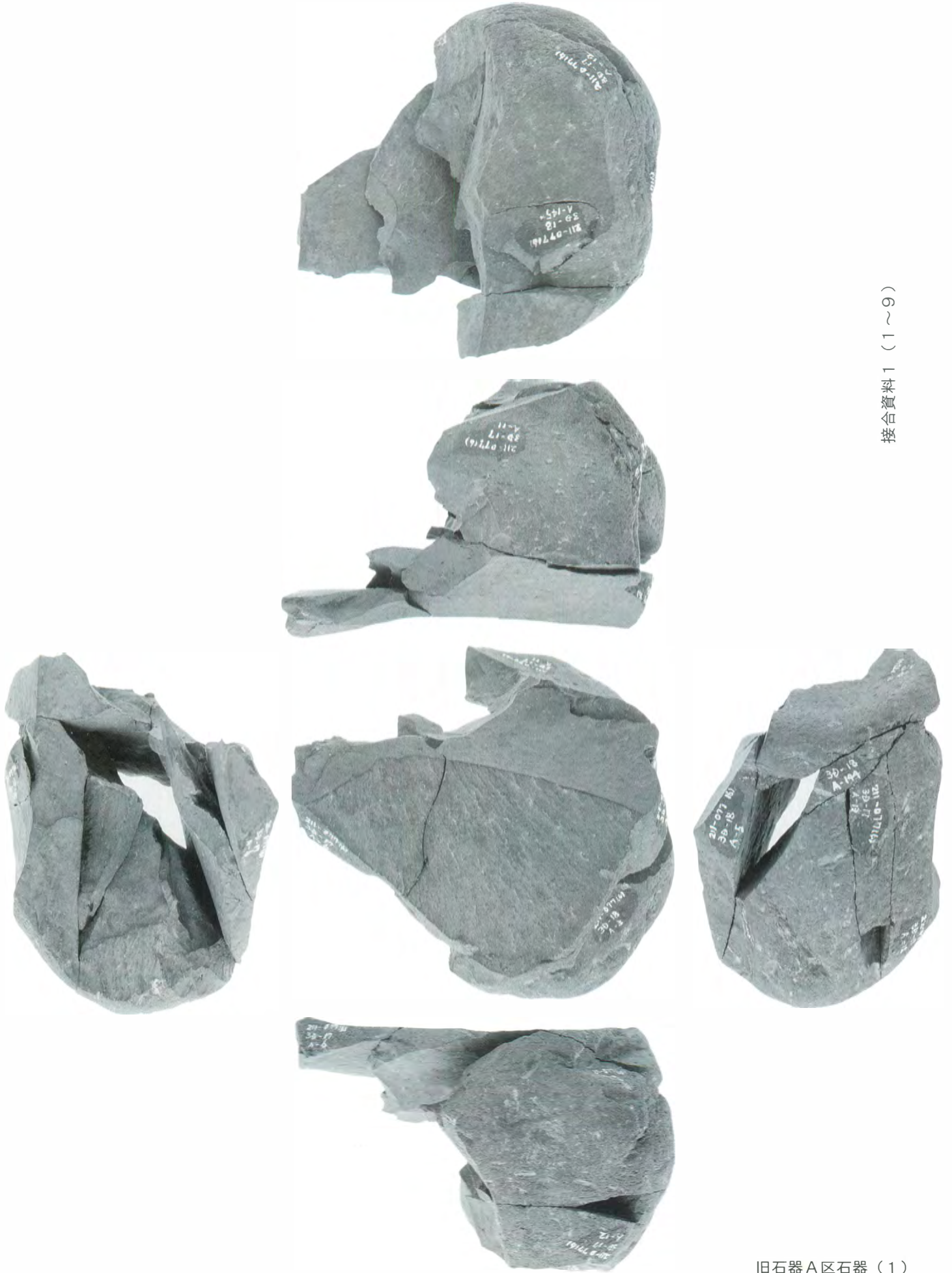
松崎外小代内小代遺跡

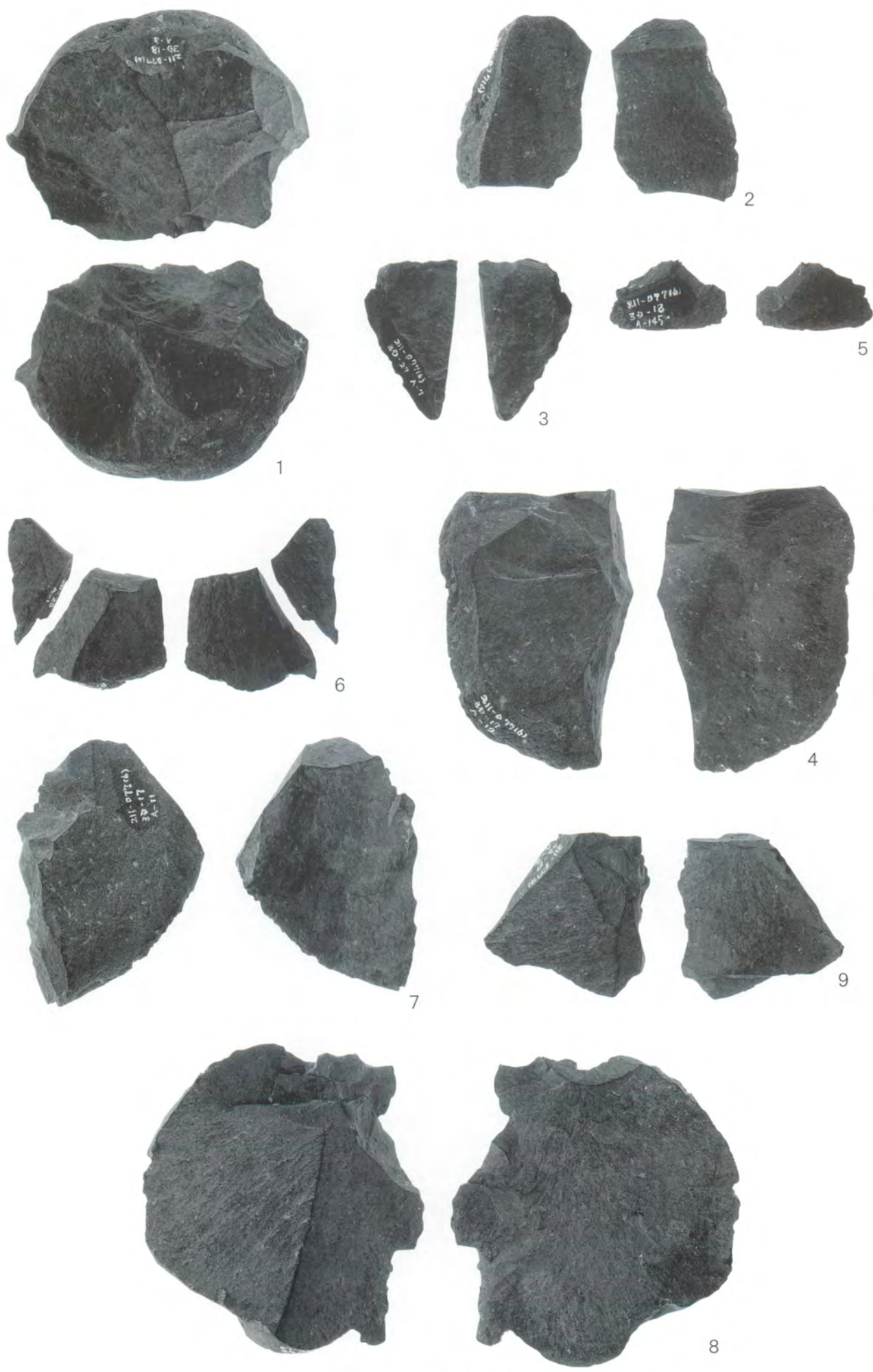
航空写真



旧石器石器集中地点

接合資料 1 (1 ~ 9)





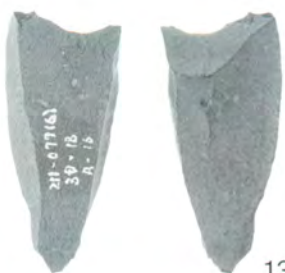
旧石器A区石器(2)



接合資料 2 (10・11)



12



13



15



14



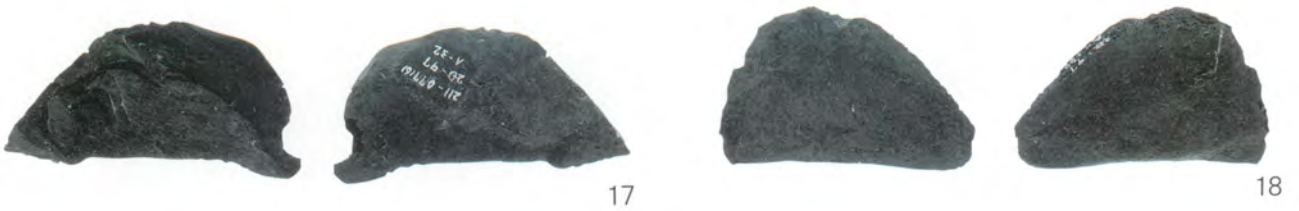
接合資料 3 (16~22)



旧石器A区石器 (3)



16



17

18



19

21



22



20

23 (接合資料4)



24 (接合資料5)



25 (接合資料6)



26 (接合資料 7)



接合資料 8 (27 · 28)



30



29



31



32



33



34

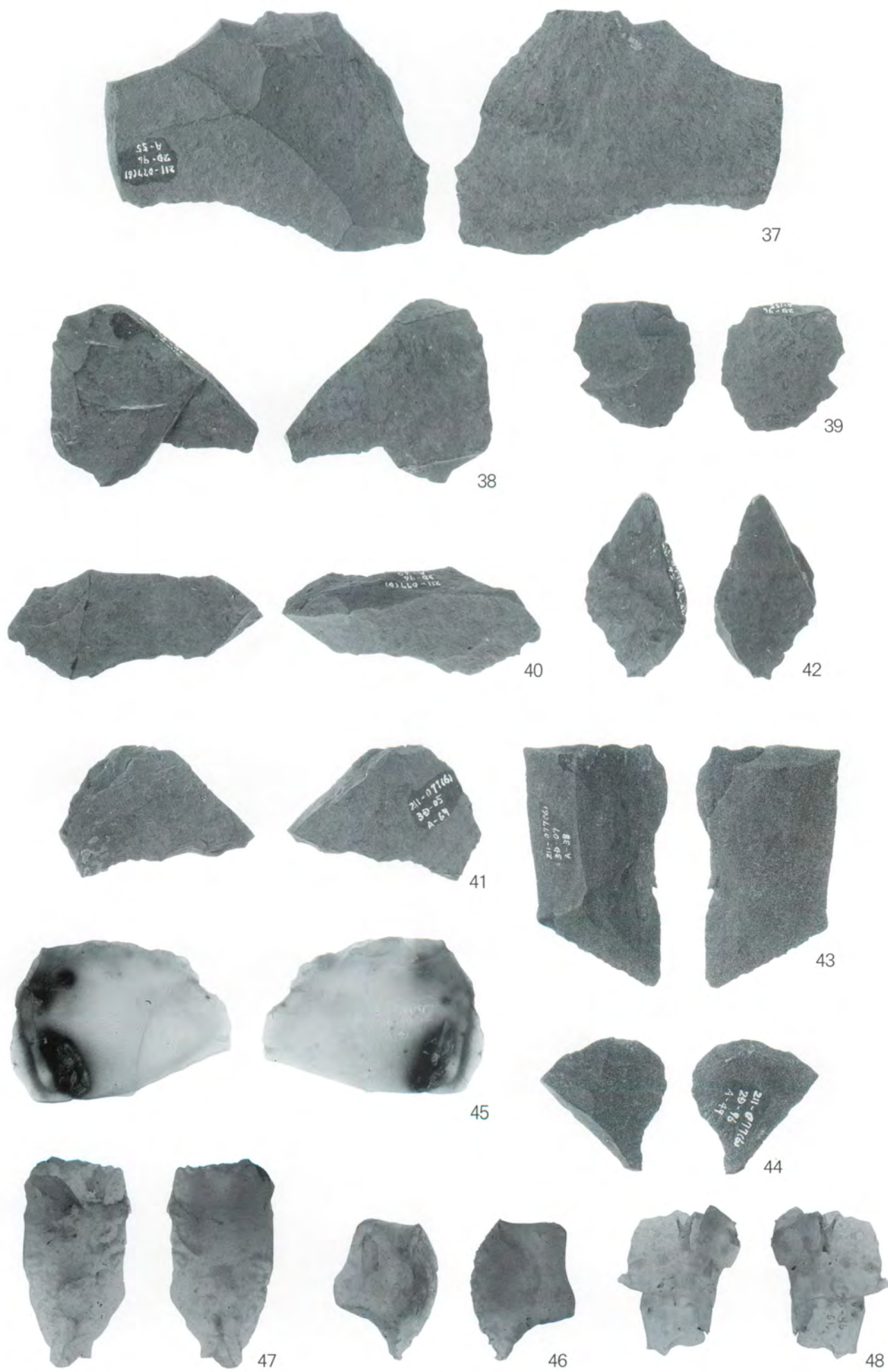


35



36

旧石器 A 区石器 (5)



旧石器A区石器(6)



接合資料9 (49~51)



49

50



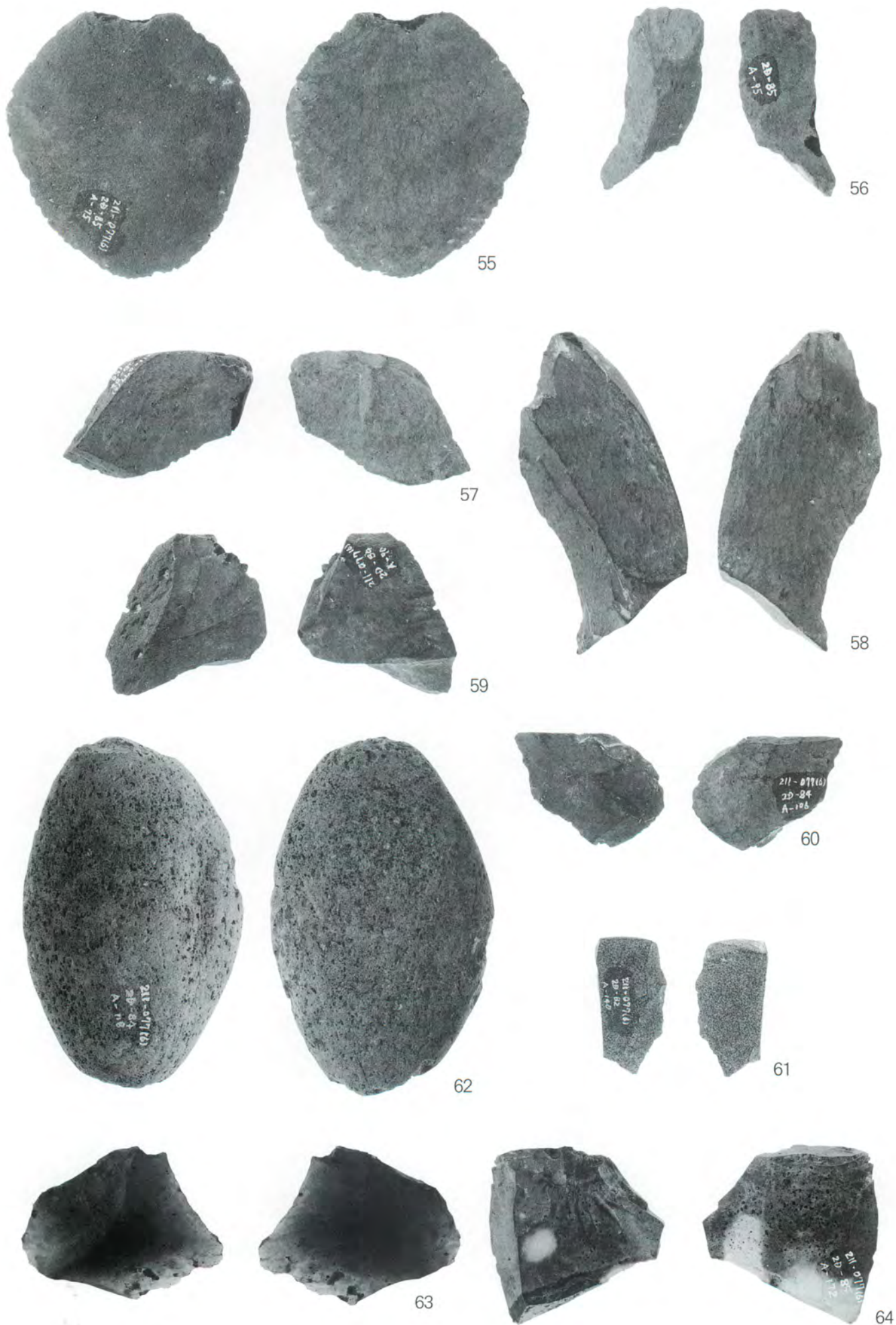
51

53 (接合資料11)



52 (接合資料10)

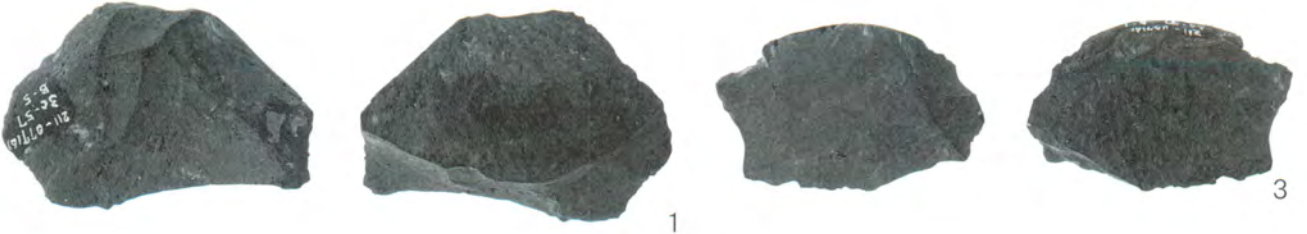
54 (接合資料12)



旧石器A区石器(8)



接合資料1 (1·2)



旧石器B区石器



SI-040 (東から)



SK-116 (南から)



SK-119遺物出土



SK-120 (北西から)



SK-121 (東から)



SK-122 (南東から)



SK-127 (西から)



SK-091 (南西から)



SK-092 (北西から)



SK-097 (北から)



SK-098 (北から)



SK-099 (北から)



SK-100 (南から)



SK-101 (南西から)



SK-102 (西から)



SK-103 (西から)



SK-104 (北西から)



SK-105 (南西から)



SK-107 (北西から)



SK-108 (南から)



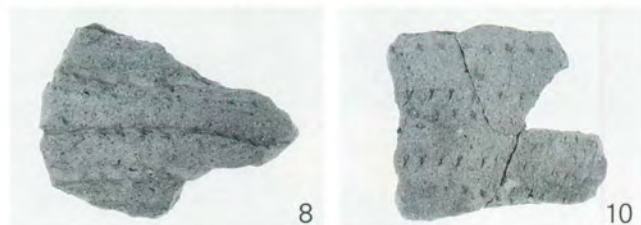
SK-114 (南西から)



SK-115 (西から)



SK-123 (南から)





1 SK-104



1 SK-115



2



3



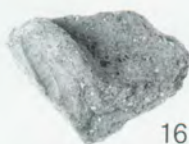
4



5



6



16



10



15



7



14

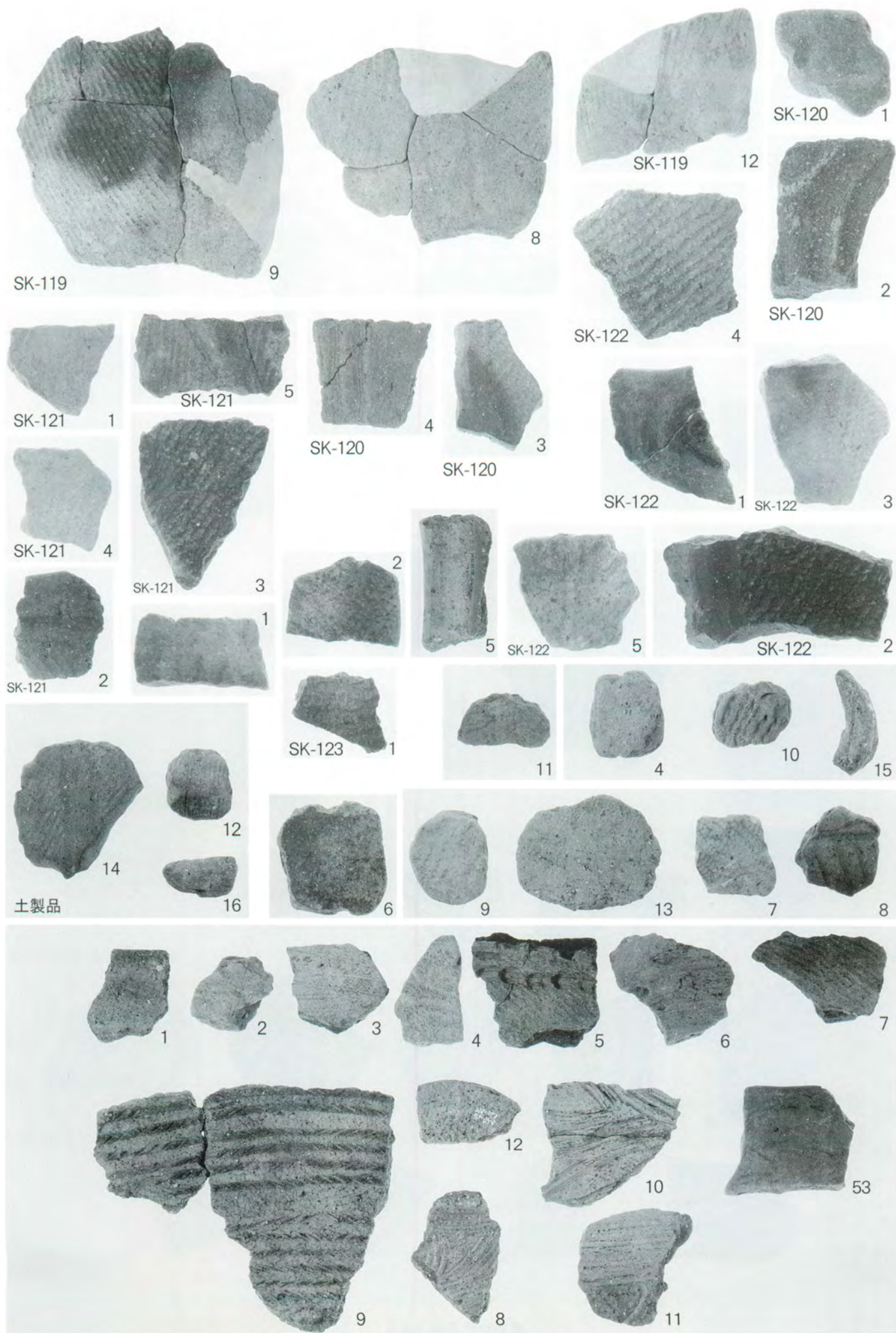


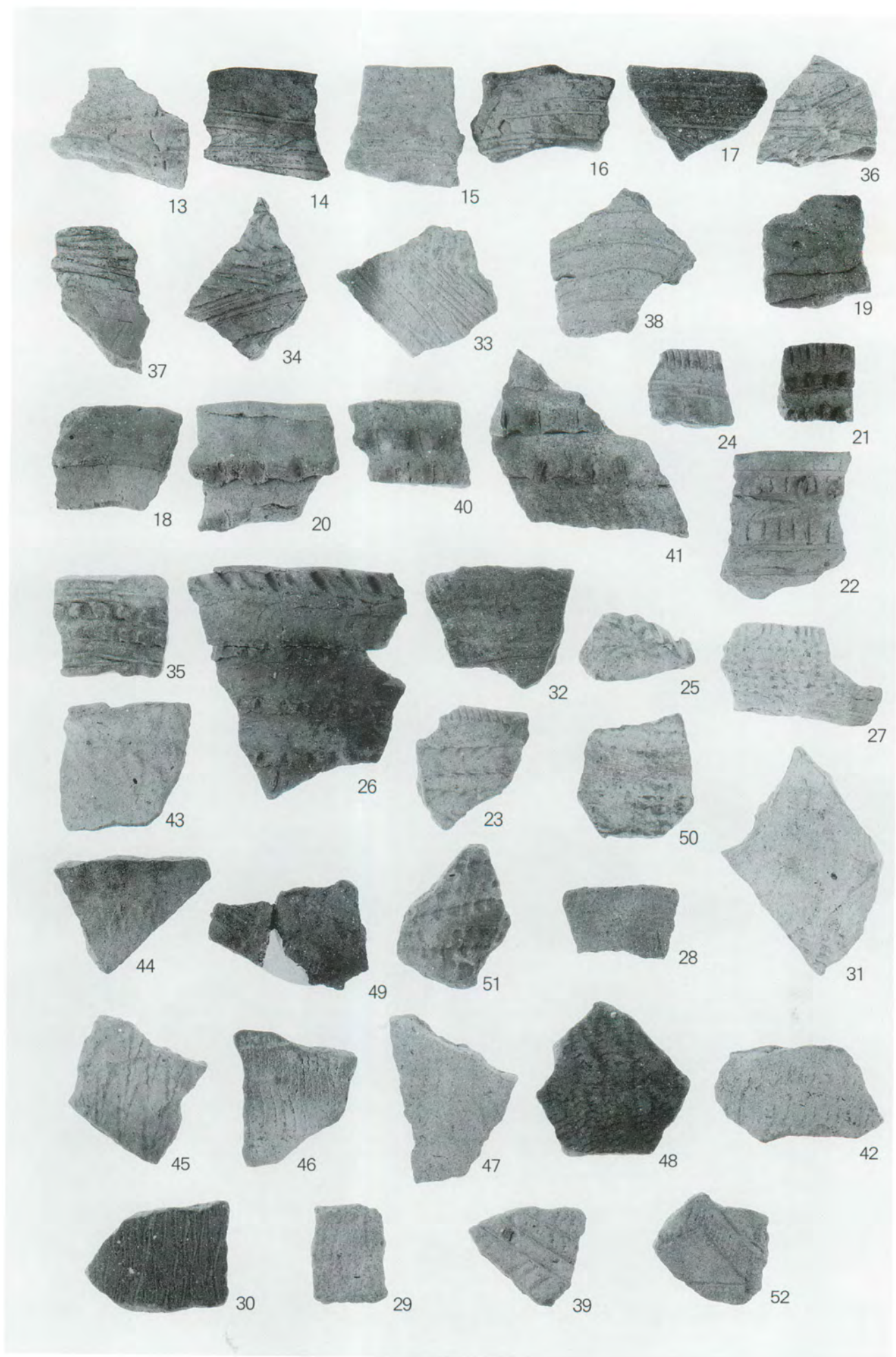
13

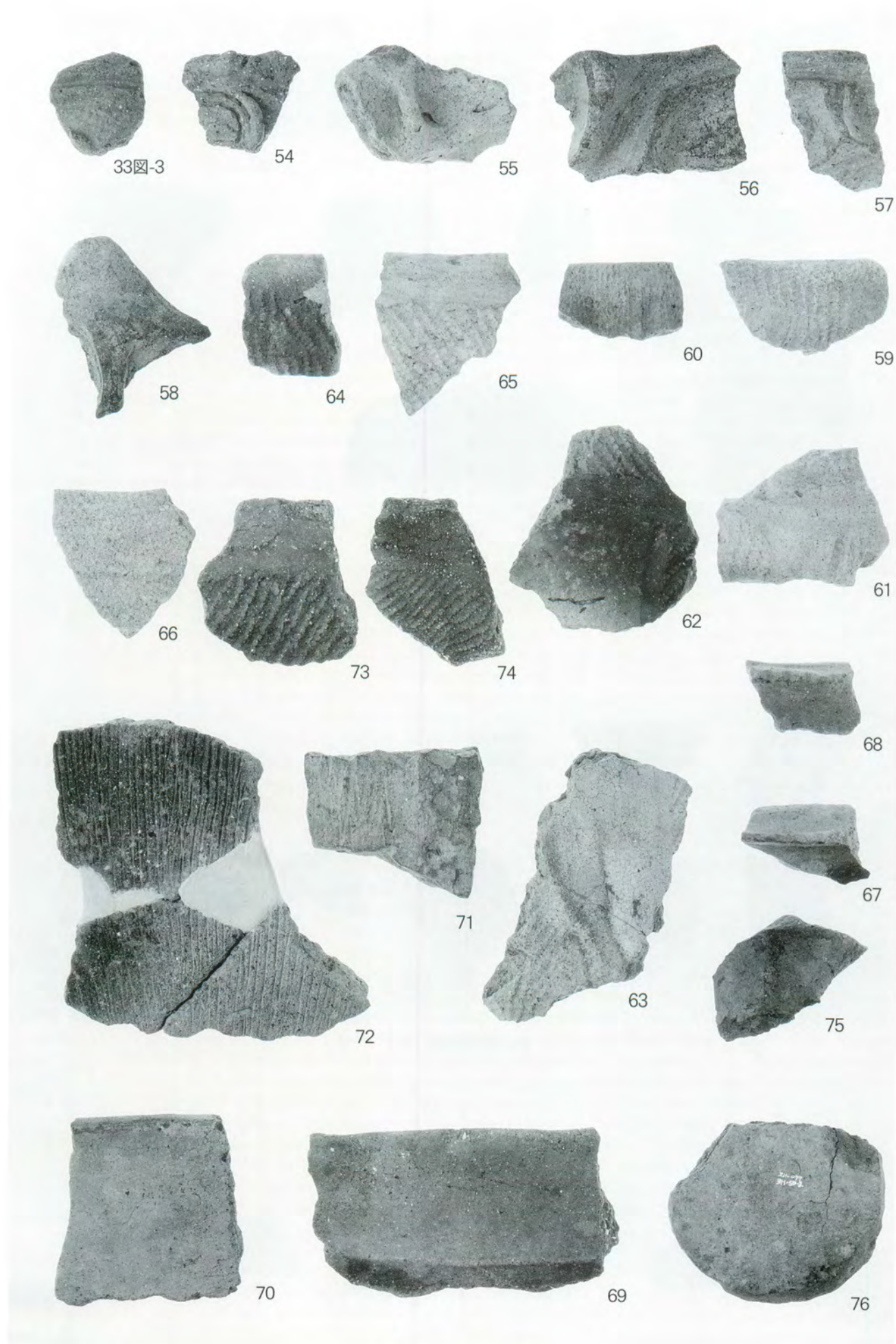


11

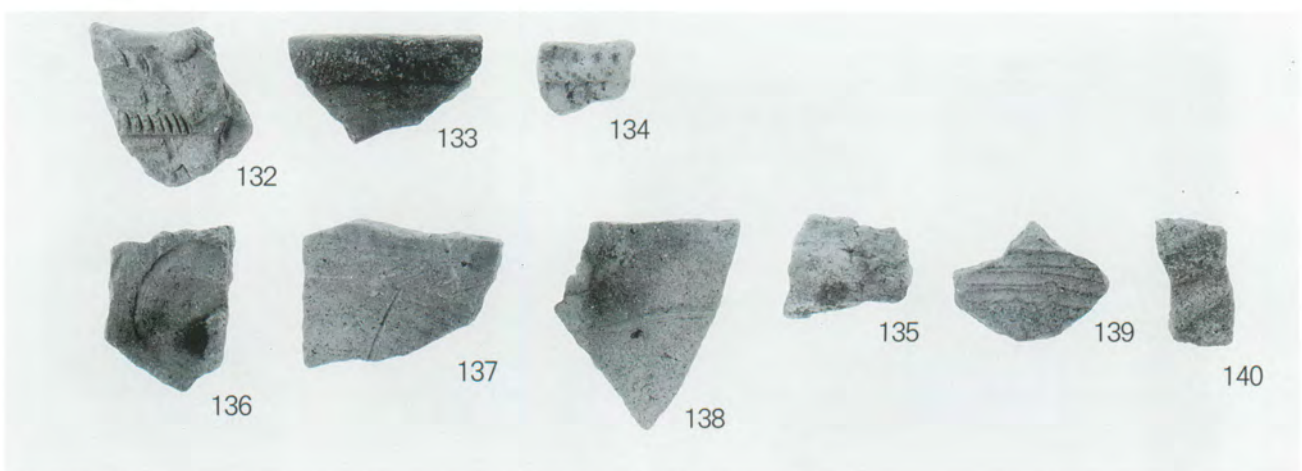
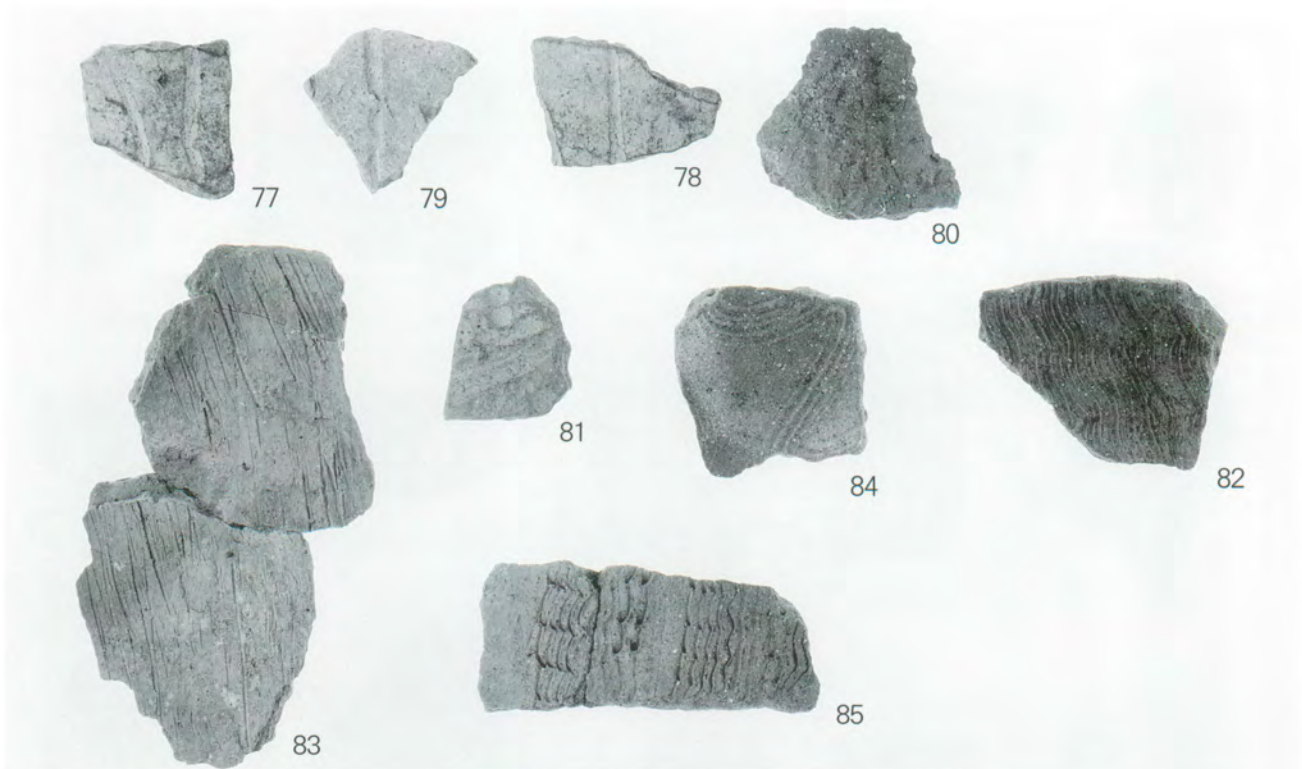
SK-119



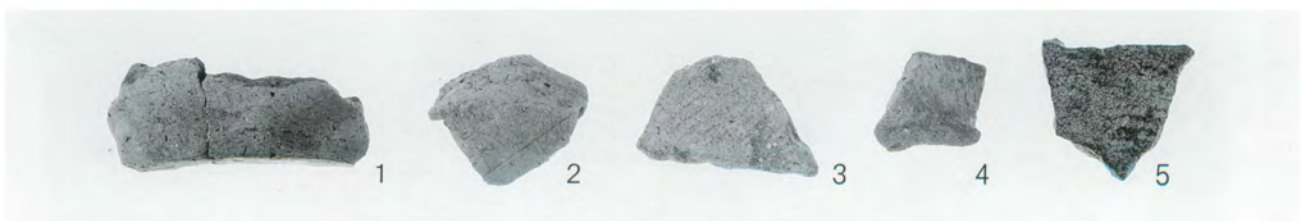




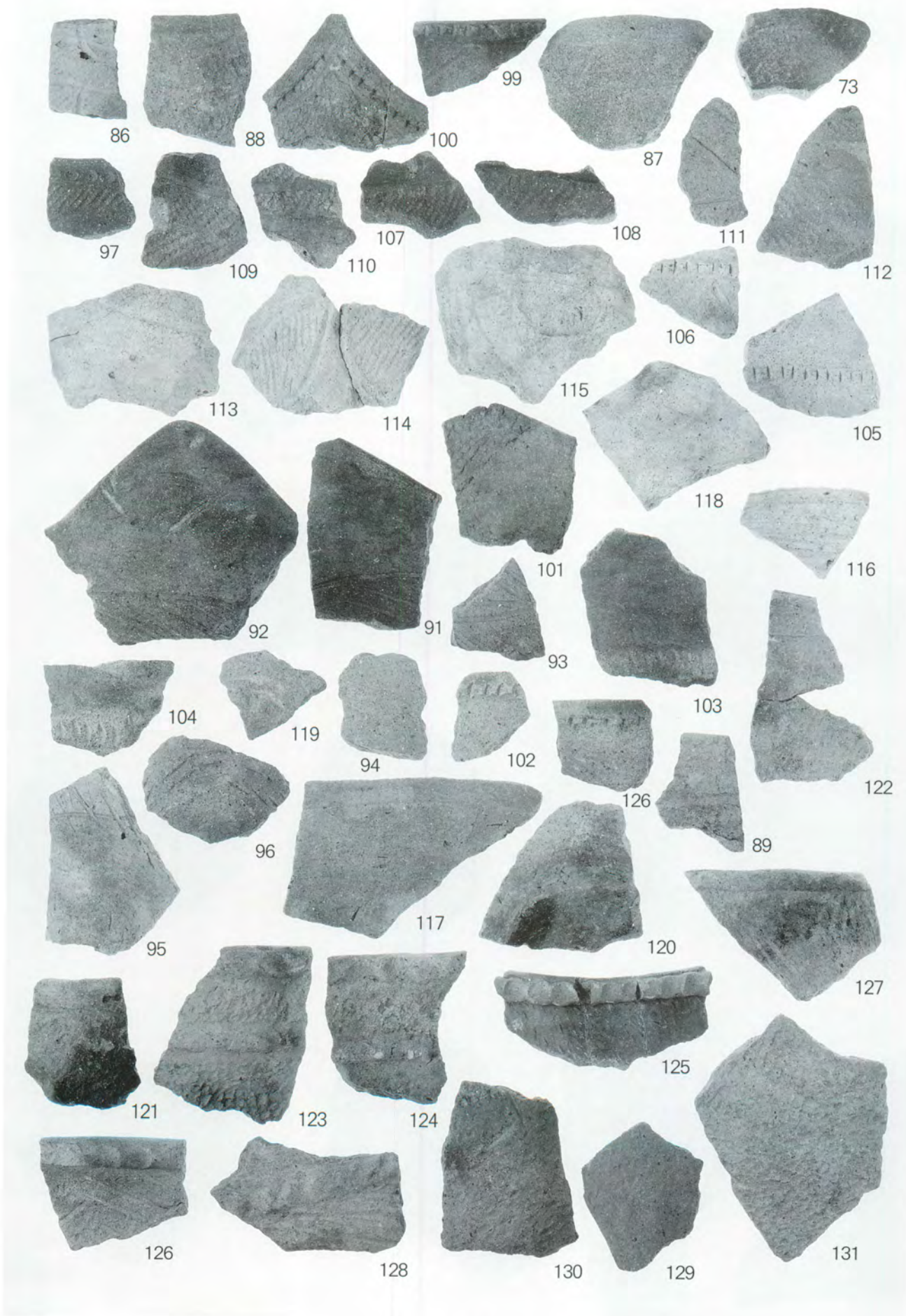
縄文時代遺物 (5)

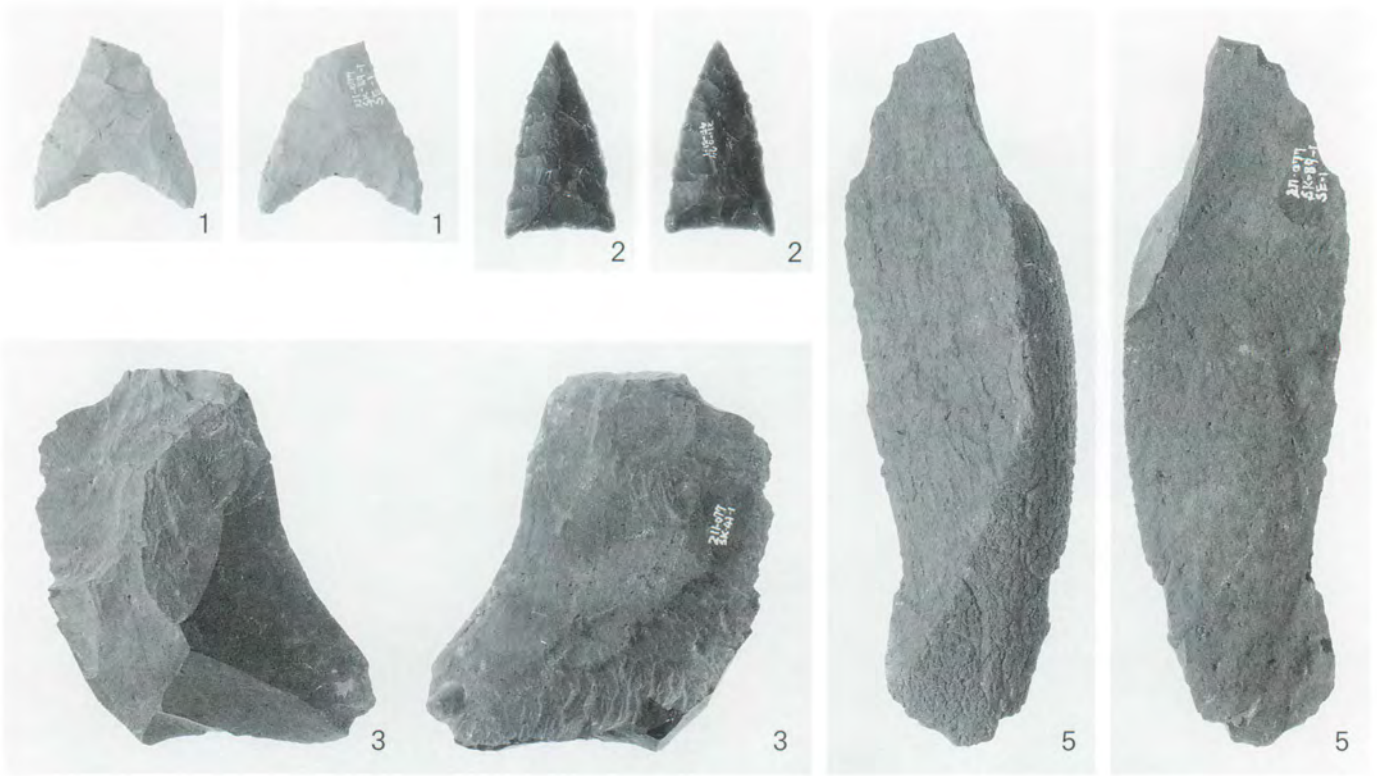


縄文時代遺物 (6)

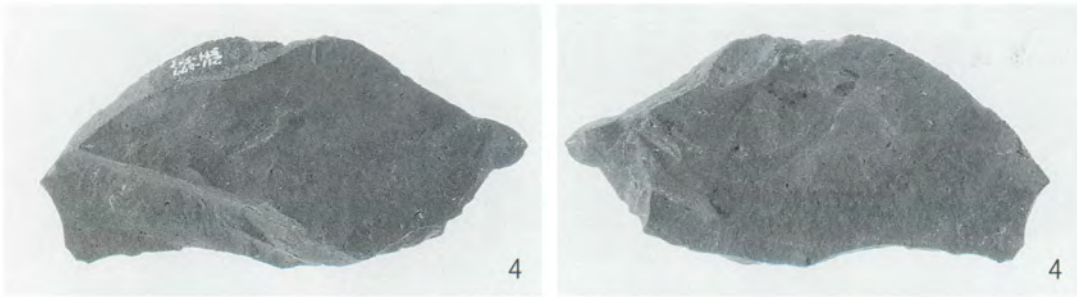


弥生時代遺物

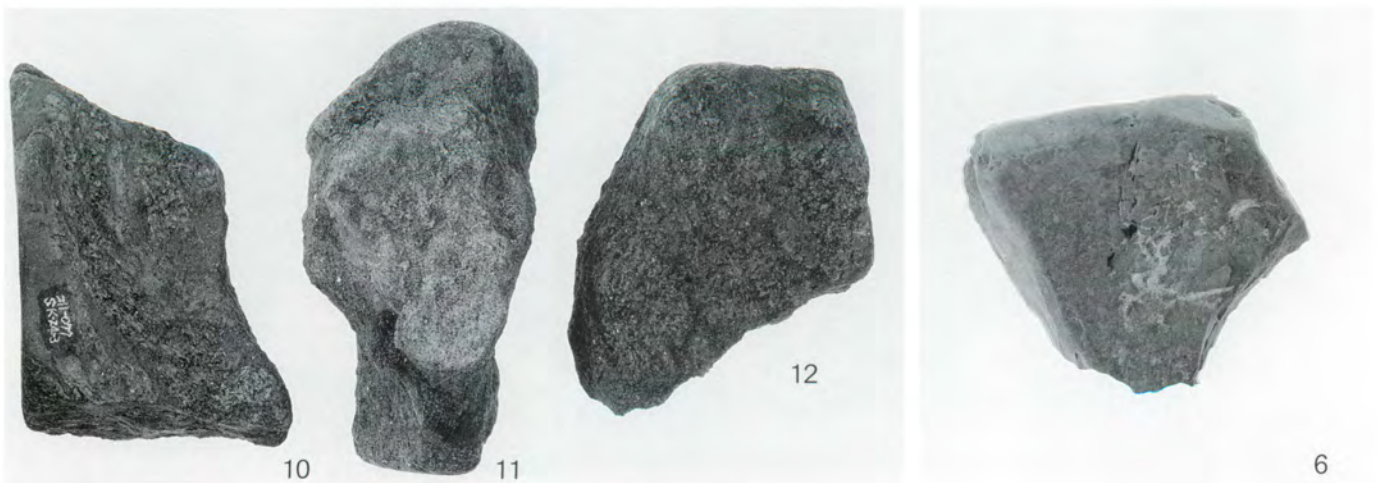
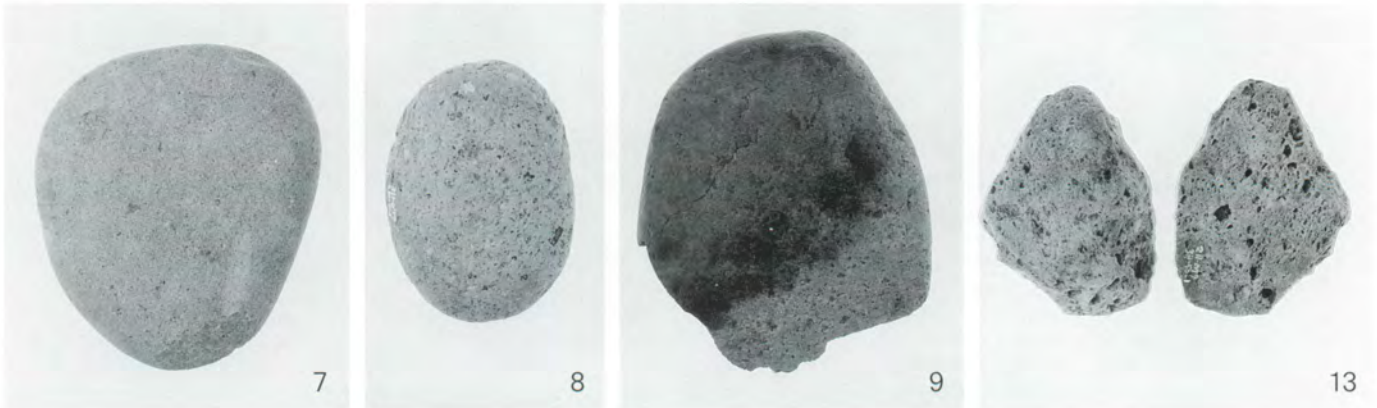




1~5 実物大



6~13 1/2









SI-006 (南から)



SI-006カマド遺物出土 (南から)



SI-007 (西から)



SI-008 (西から)



SI-010 (南西から)



SI-011







SI-016 (東から)



SI-016カマド (東から)



SI-017カマド (西から)



SI-017 (西から)



SI-018 (東から)



SI-018遺物出土



SI-018遺物出土 (東から)



SI-018カマド (東から)



SI-019 (南から)



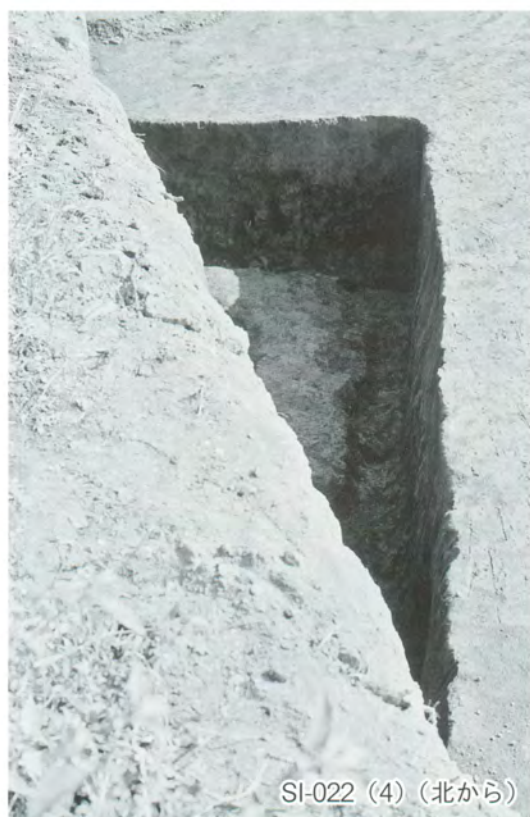
SI-020 (南西から)



SI-020カマド (南から)



SI-021 (東から)



SI-022 (4) (北から)



SI-022 (5) (南東から)



SI-022カマド (南東から)





SI-025 (南東から)



SI-025カマド (南東から)



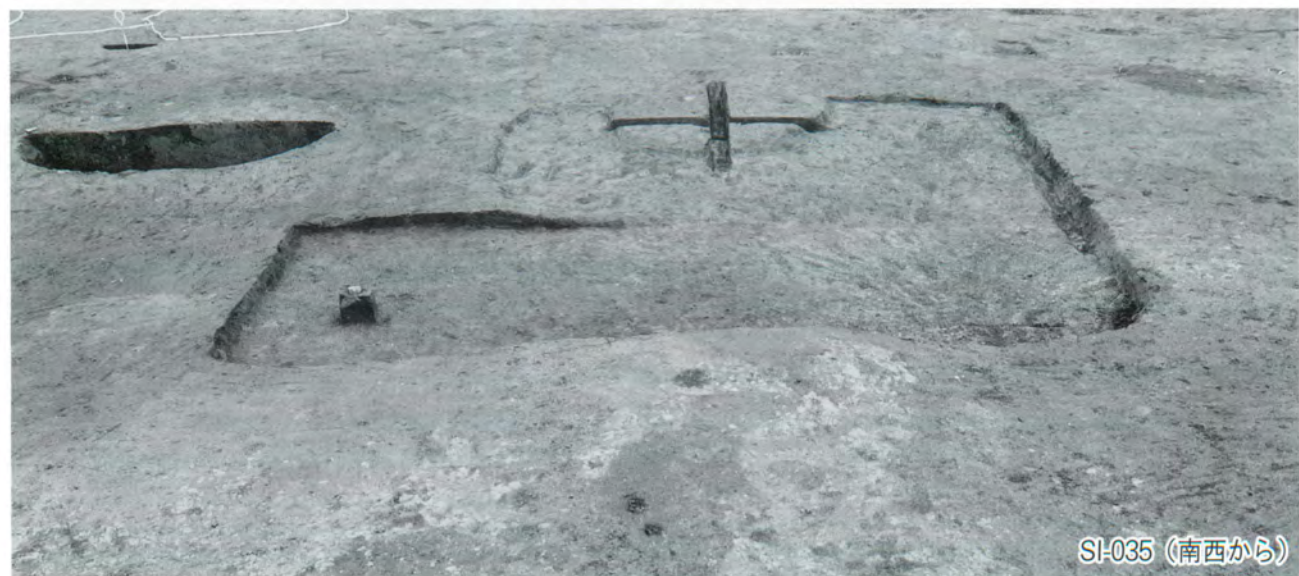
SI-026カマド (北西から)



SI-026 (北西から)









SI-033 (南から)



SI-033カマド
遺物出土(南から)



SI-034カマド遺物出土 (南西から)



SI-034 (南西から)



SI-036・037 (南から)



SI-036カマド (南から)



SI-038カマド (東から)



SI-038 (東から)



SI-039 (南西から)



SI-039カマド (南から)



SI-042カマド (南から)



SI-042 (南から)



SI-041 (東から)



SI-041カマド遺物出土 (東から)



SI-043カマド (南から)



SI-043 (南から)







SI-048 (南西から)



SI-048カマド遺物出土 (南から)



SI-050 (南東から)





SB-004 (南から)



SB-007 (南西から)



SB-005



SB-006 (北から)



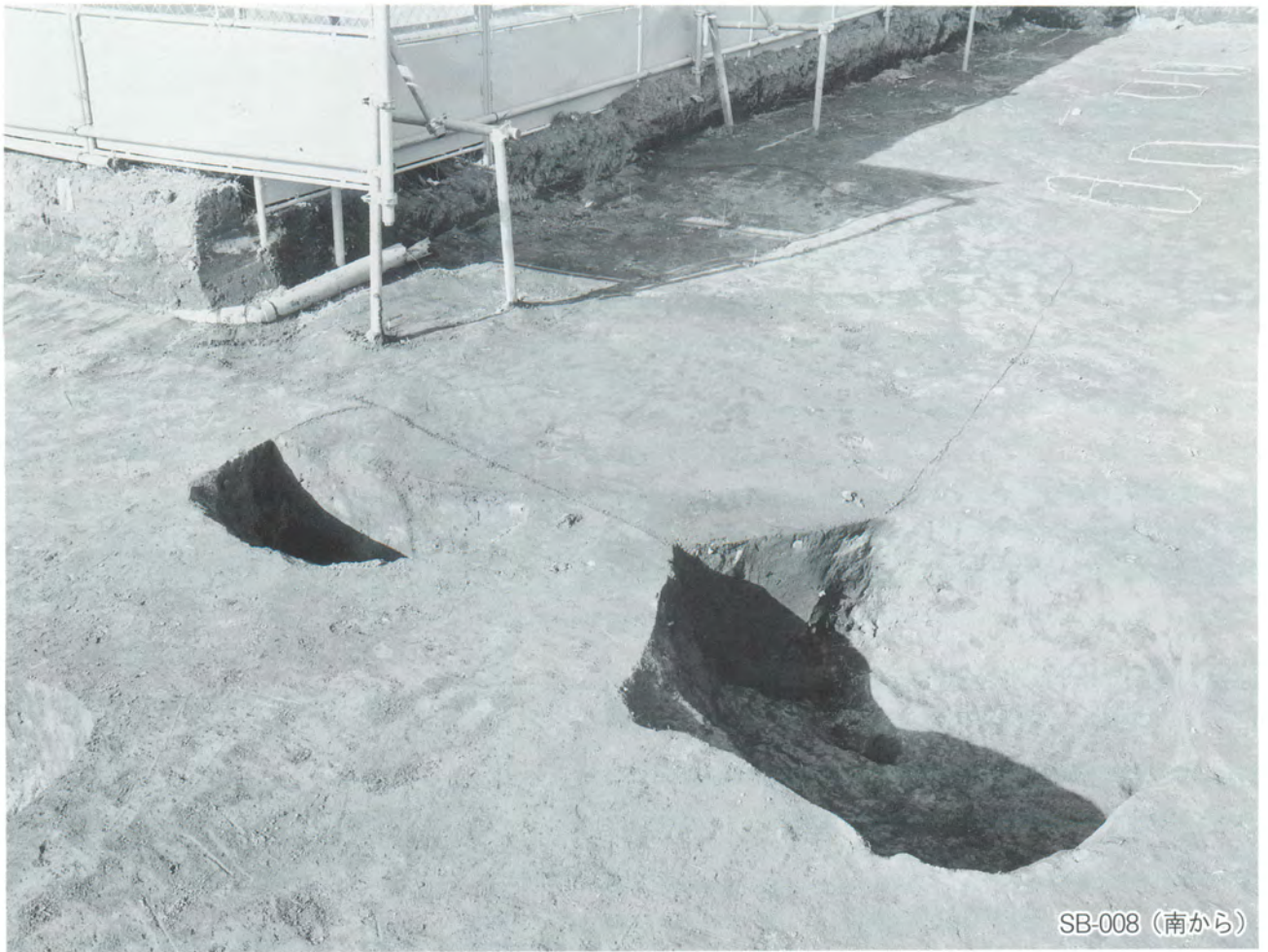
SB-006 (西から)



SB-006 Pit21・3・12 (東から)



SB-006 Pit9・10・1 (東から)



SB-008 (南から)



SB-008 Pit2 (南から)



SB-008 Pit3 (南から)



SB-009 (南から)



SB-010 (西から)



SB-011 (北から)



SB-012 (北から)

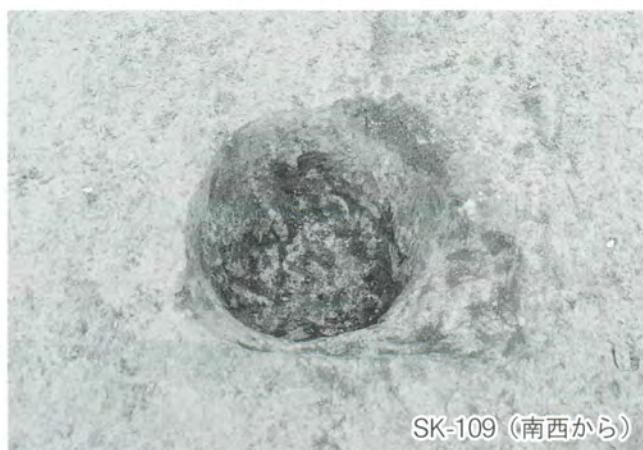




SK-079・080 (東から)



SK-088 (北北東から)



SK-109 (南西から)



SK-110 (南西から)



SK-111 (南西から)



SK-112 (南西から)



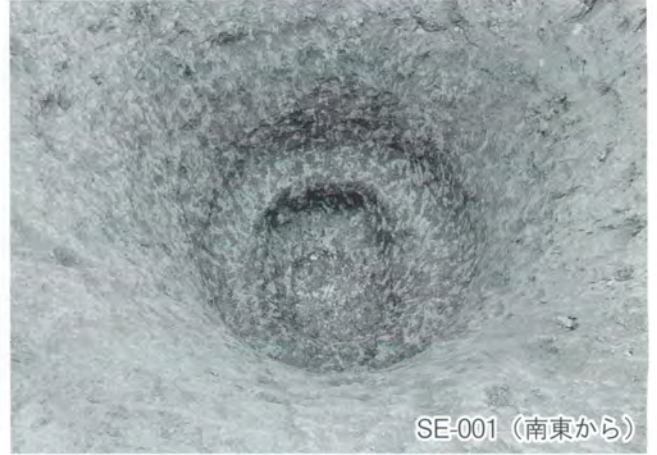
SK-113 (東から)



SI-009 (南から)



SE-001 (南東から)



SE-001 (南東から)



SE-001遺物出土 (東から)



SE-002 (西から)



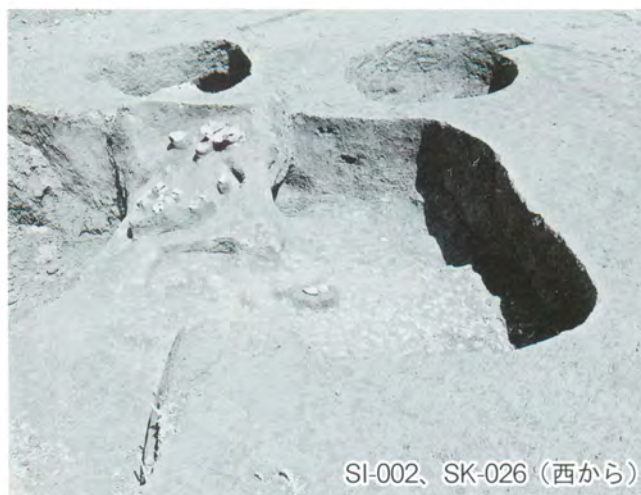
SE-002 (西から)



SE-003 (西から)



SE-003 (西から)



土壙墓・竪穴状遺構 (1)



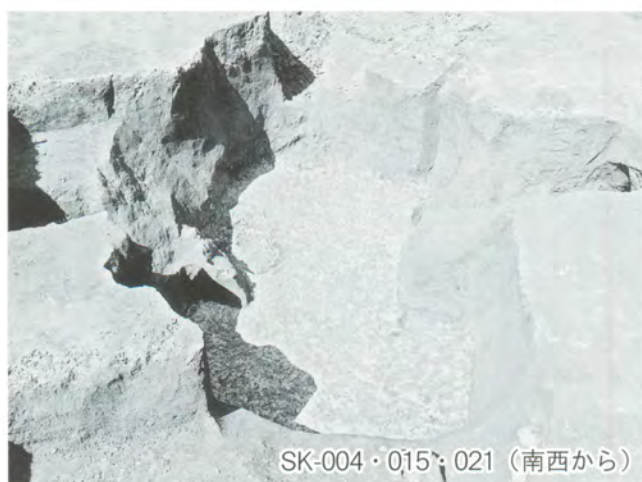
竪穴状遺構 (2) ・地下式坑 (1)



SK-003 (東から)



SK-003 (北西から)



SK-004・015・021 (南西から)



SK-004 (南から)



SK-024 (北から)



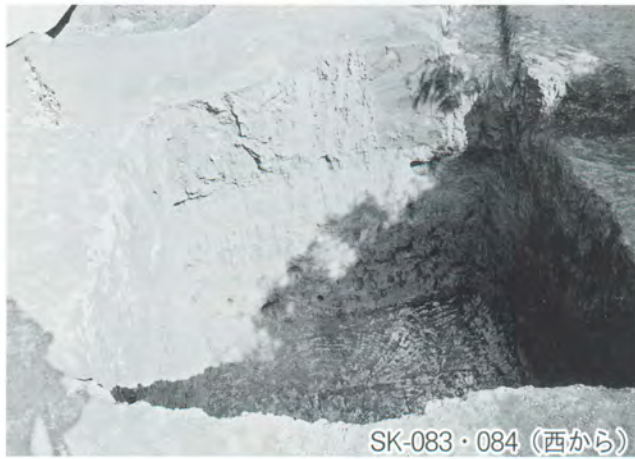
SK-024 (南から)



SK-041 (北東から)



SK-041 (北西から)





地下式坑 (4)



SK-086 (西から)



SK-086 (南東から)



SK-009 (北東から)



SK-010・011 (西から)



SK-012 (北から)



SK-013 (東から)



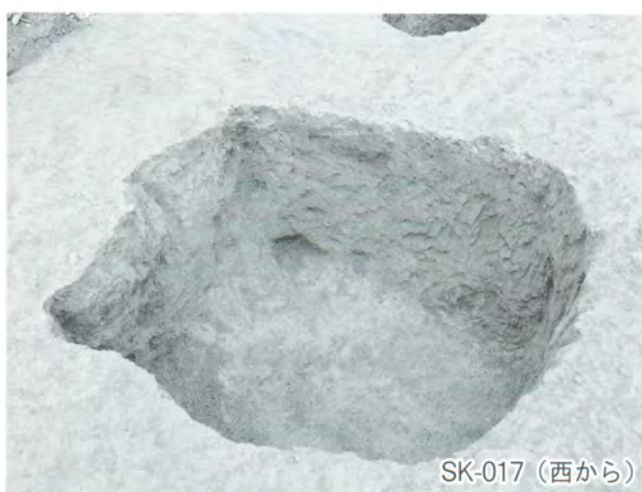
SK-014 (北から)



SK-013 (南東から)



SK-016 (南から)



SK-017 (西から)



SK-018 (南から)



SK-019 (南東から)



SK-020 (東から)



SK-022 (東から)



SK-025 (東から)



SK-029 (東から)



SK-030 (西から)



SK-033 (東から)



SK-031・032 (北東から)



SK-035・036・042
043・044 (南から)



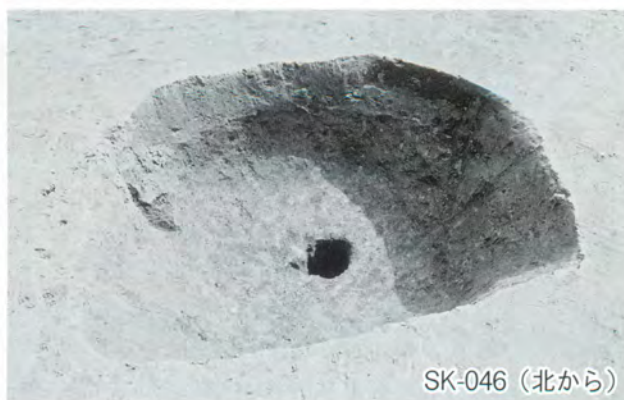
SK-037・040 (東から)



SK-038・039 (西から)



SK-046 粘土貼り土坑 確認状況 (南西から)



SK-046 (北から)



SK-047・048 (南西から)



SK-047・048 (南東から)



SK-049 (西から)



SK-051 (南西から)



SK-052 (南西から)



SK-053 (南西から)



SK-054 (西から)



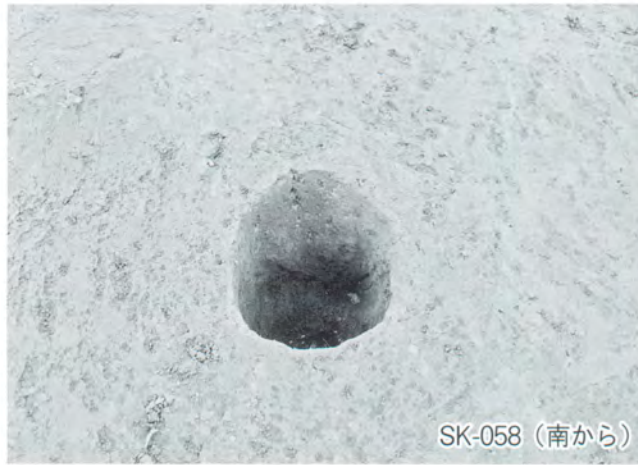
SK-055 (西から)



SK-056 (西から)



SK-057 (南から)



SK-058 (南から)



SK-061 (南から)



SK-062 (東から)



SK-063 (北東から)



SK-064 (南から)



SK-065・066 (北から)



SK-067 (南西から)



SK-068 (西から)



SK-069 (南西から)



SK-070・072 (南から)



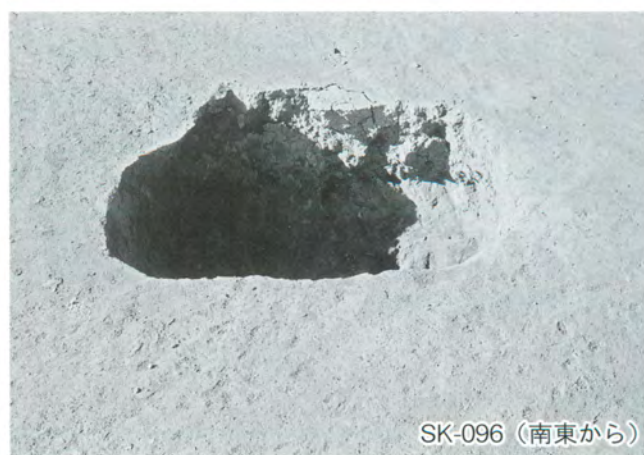
SK-073 (南から)



SK-087 (南西から)



SK-093 (南東から)



SK-096 (南東から)



土坑(7)・溝(1)



SD-009・010西側（南から）



SD-009・010西側（南から）



SH-001（北から）



SH-006（北東から）



SH-005（南西から）



SH-005（北東から）



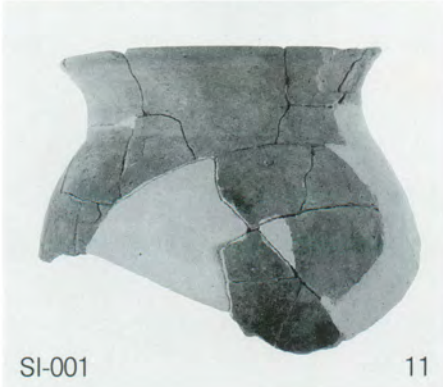
SH-009a・b・c（南から）

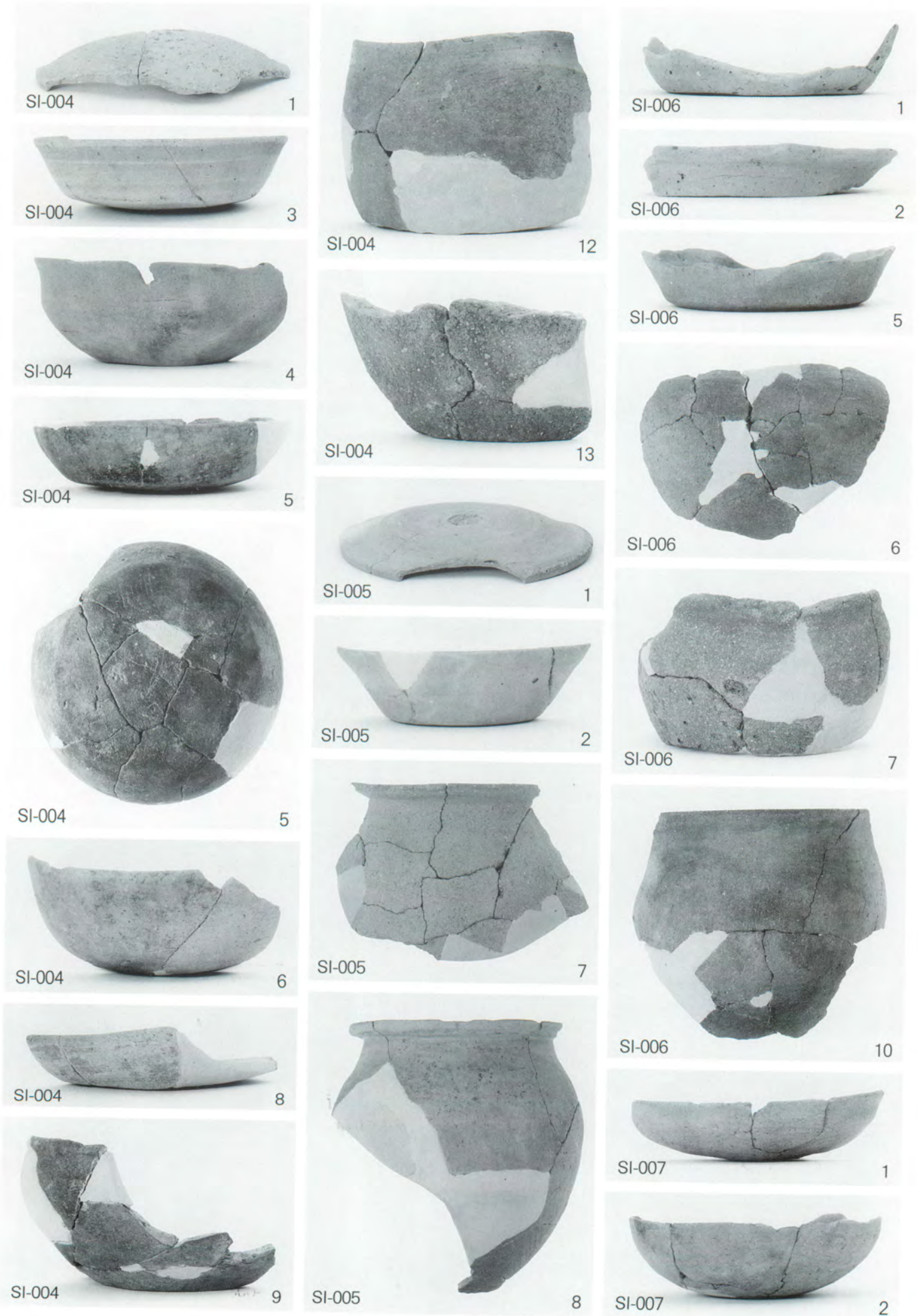


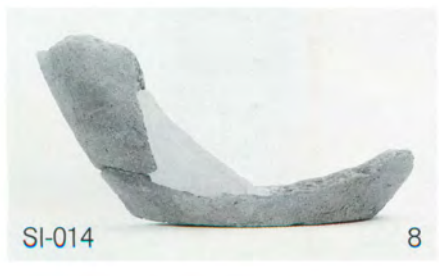
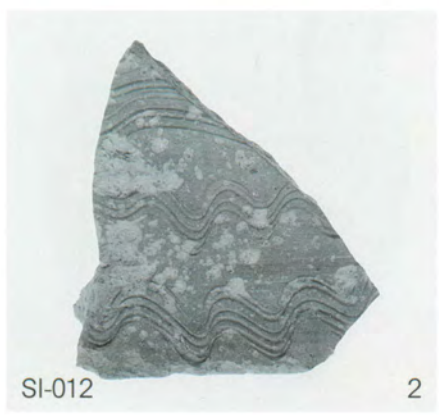
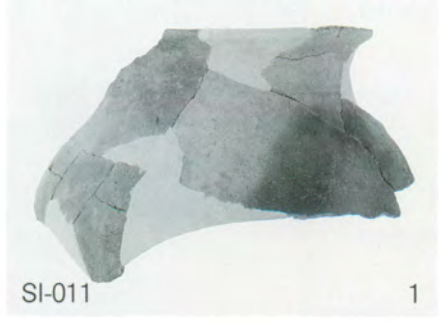
SH-009d（南から）



柵列跡・台地整形遺構・焼土遺構



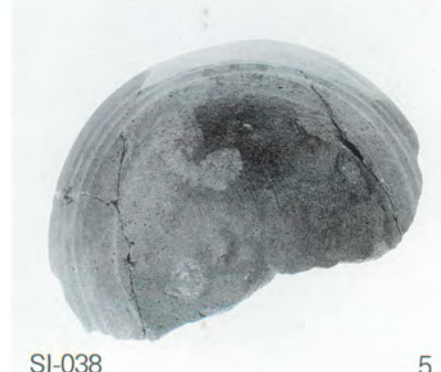




奈良・平安時代遺物（3）









SI-038

1



SI-041

1



SI-038

3



SI-041

5



SI-044

17



SI-038

3



SI-042

1



SI-044

25



SI-038

3



SI-042

2



SI-044

26



SI-038

4



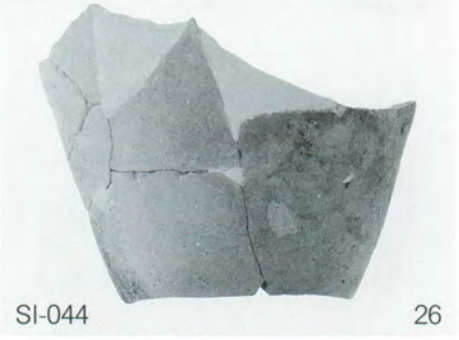
SI-044

1



SI-044

8



SI-044

26



SI-039

1



SI-044

8



SI-048

1



SI-044

27



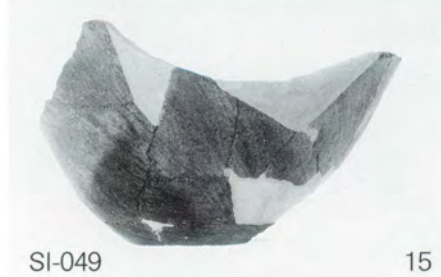
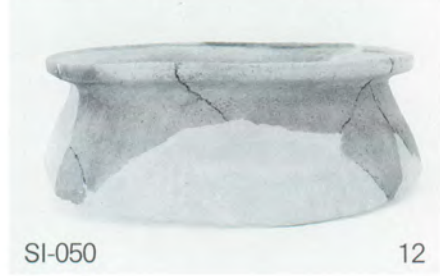
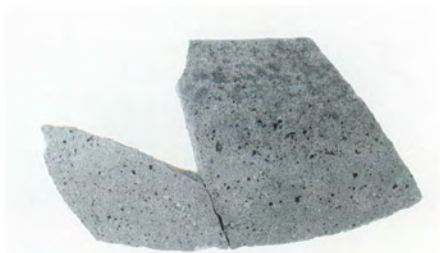
SI-048

2



SI-048

3





SE-001

1



SE-002

1



SE-001

2



SE-002

2



SE-001

3



SE-002

5



SK-017

1



SE-001

5



SE-003

2



SK-026

1



SE-001

7



SE-003

3



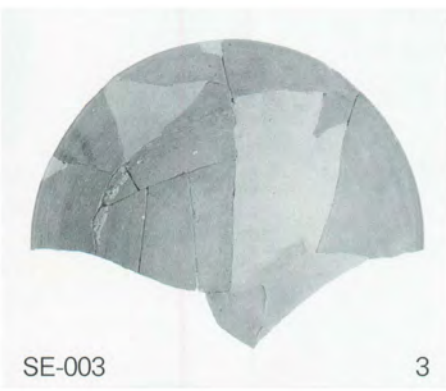
SK-034

1



SE-001

8



SE-003

3



SK-094

1



SE-001

9



SE-003

6



SK-113

1



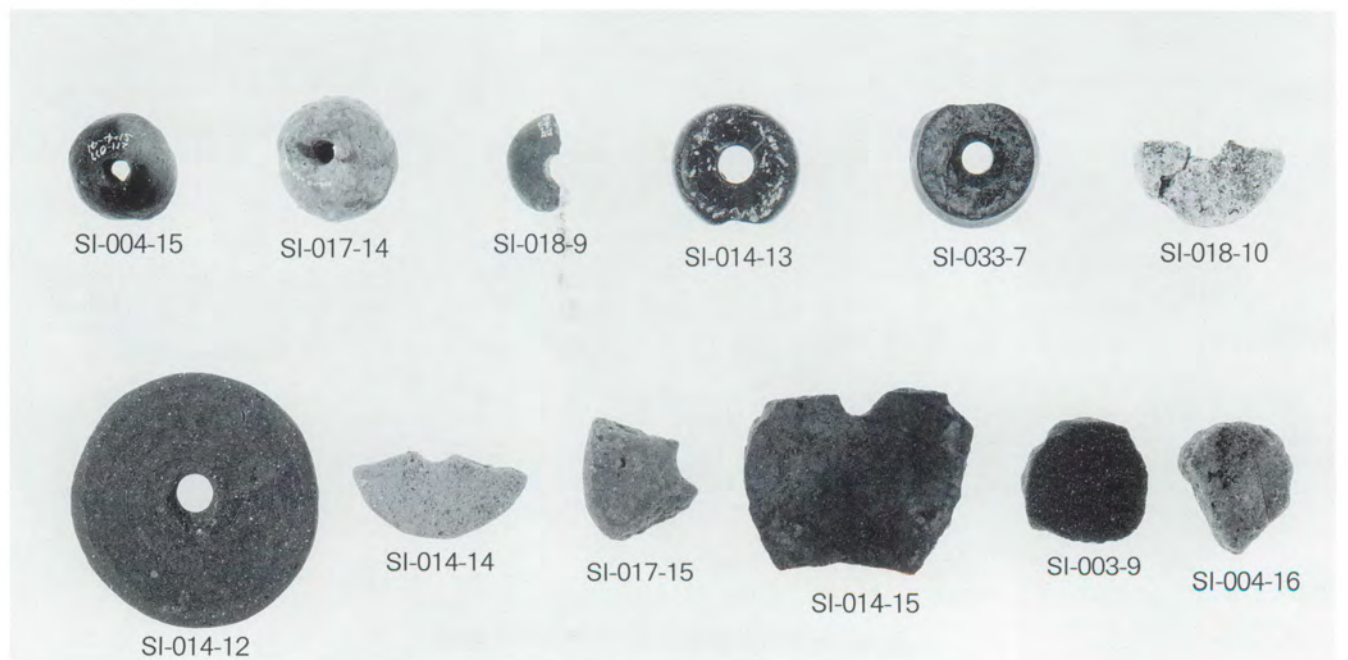
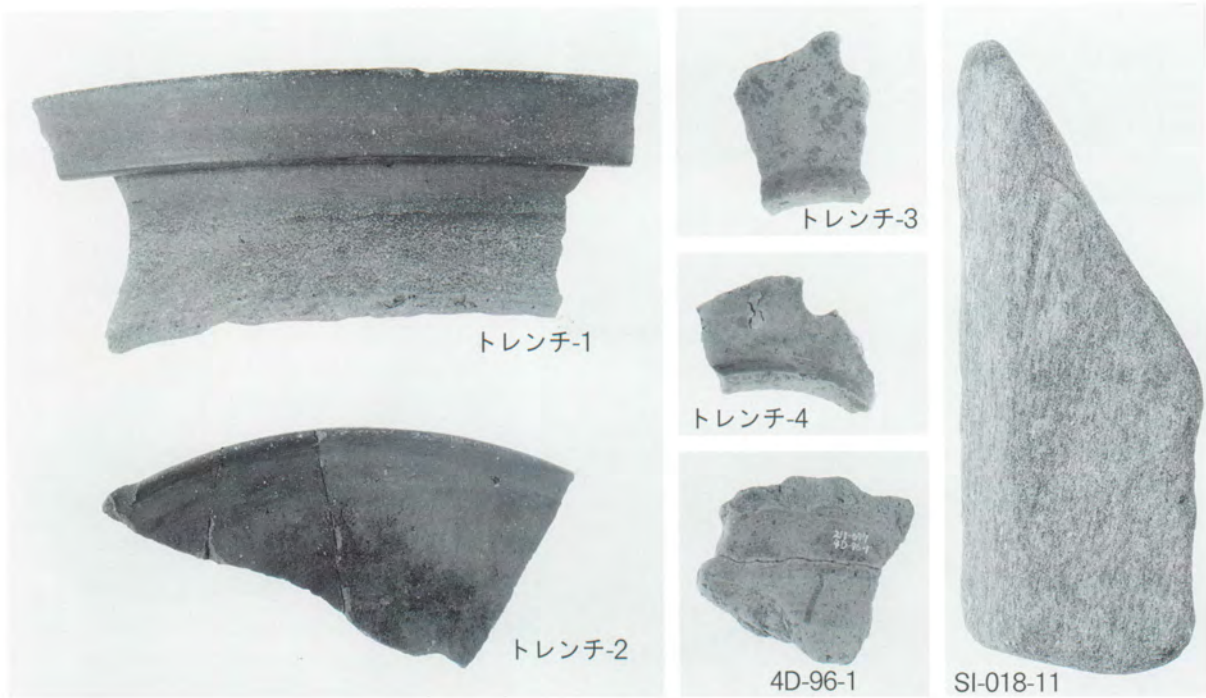
SK-016

1

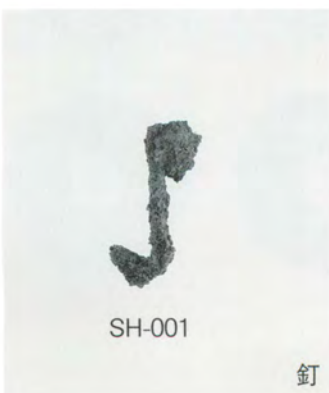
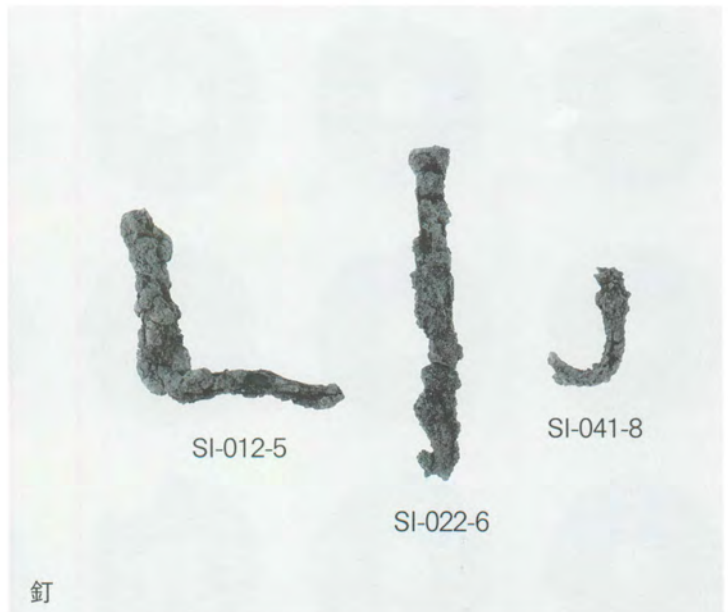
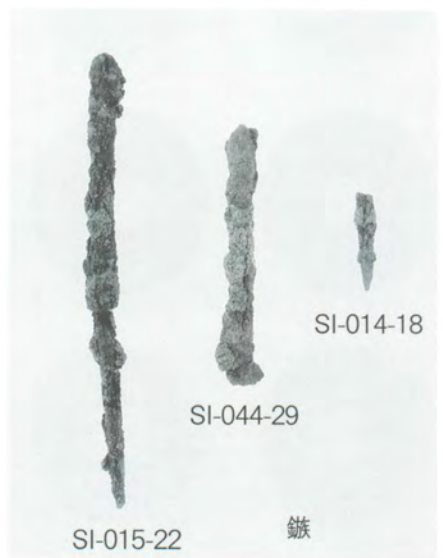


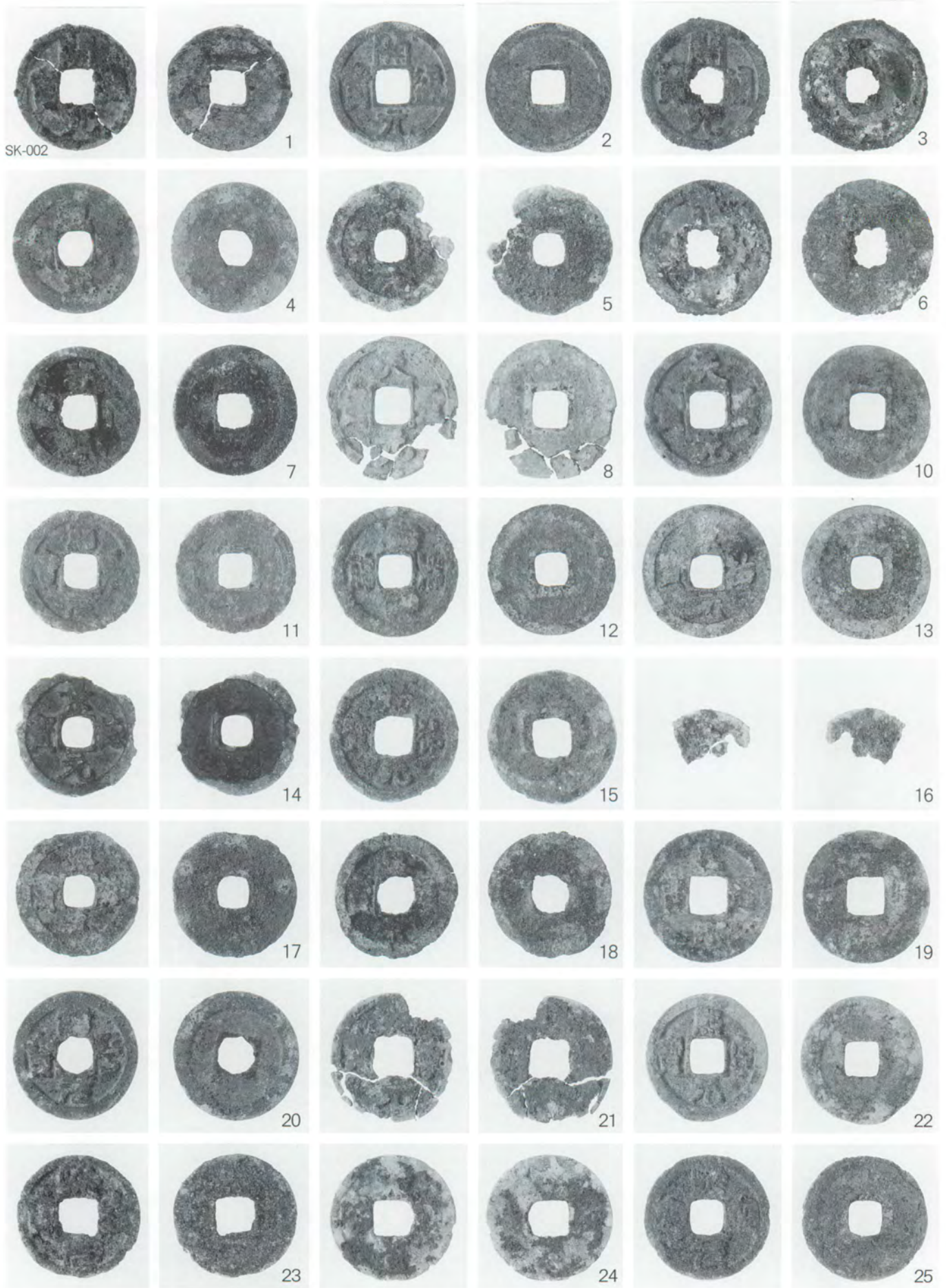
SI-009

1

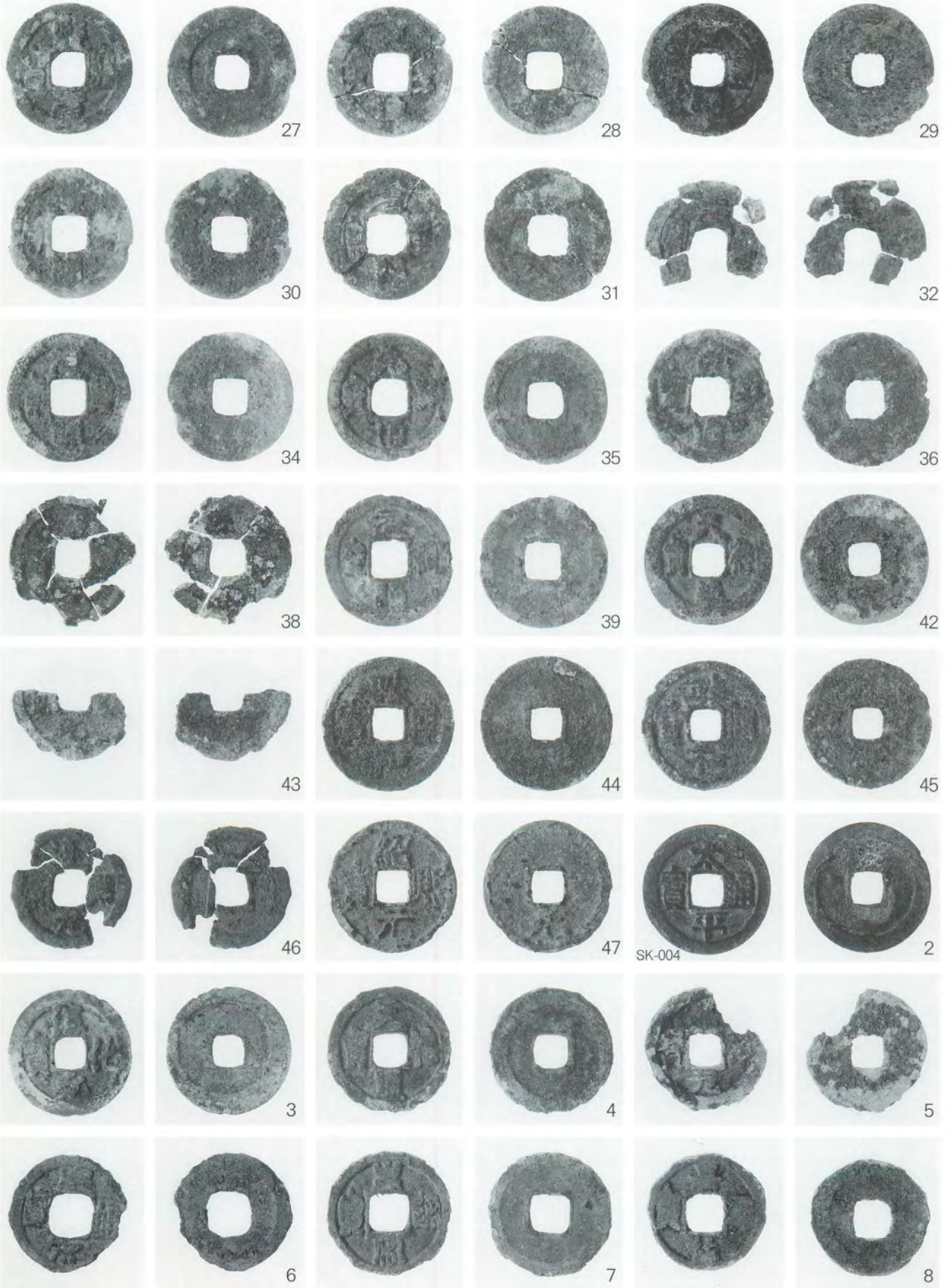


トレンチ・グリッド出土・石製品・土製品

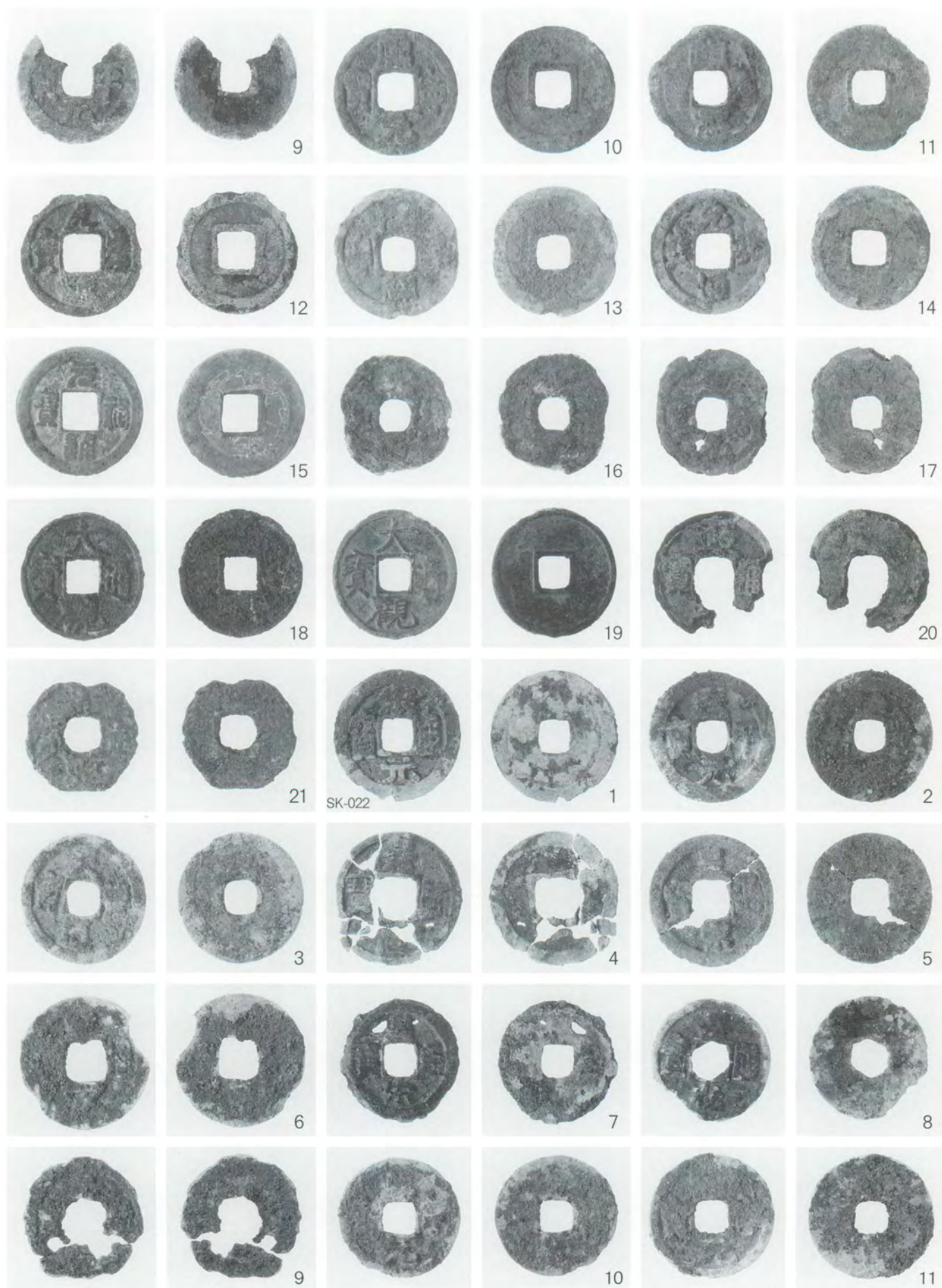




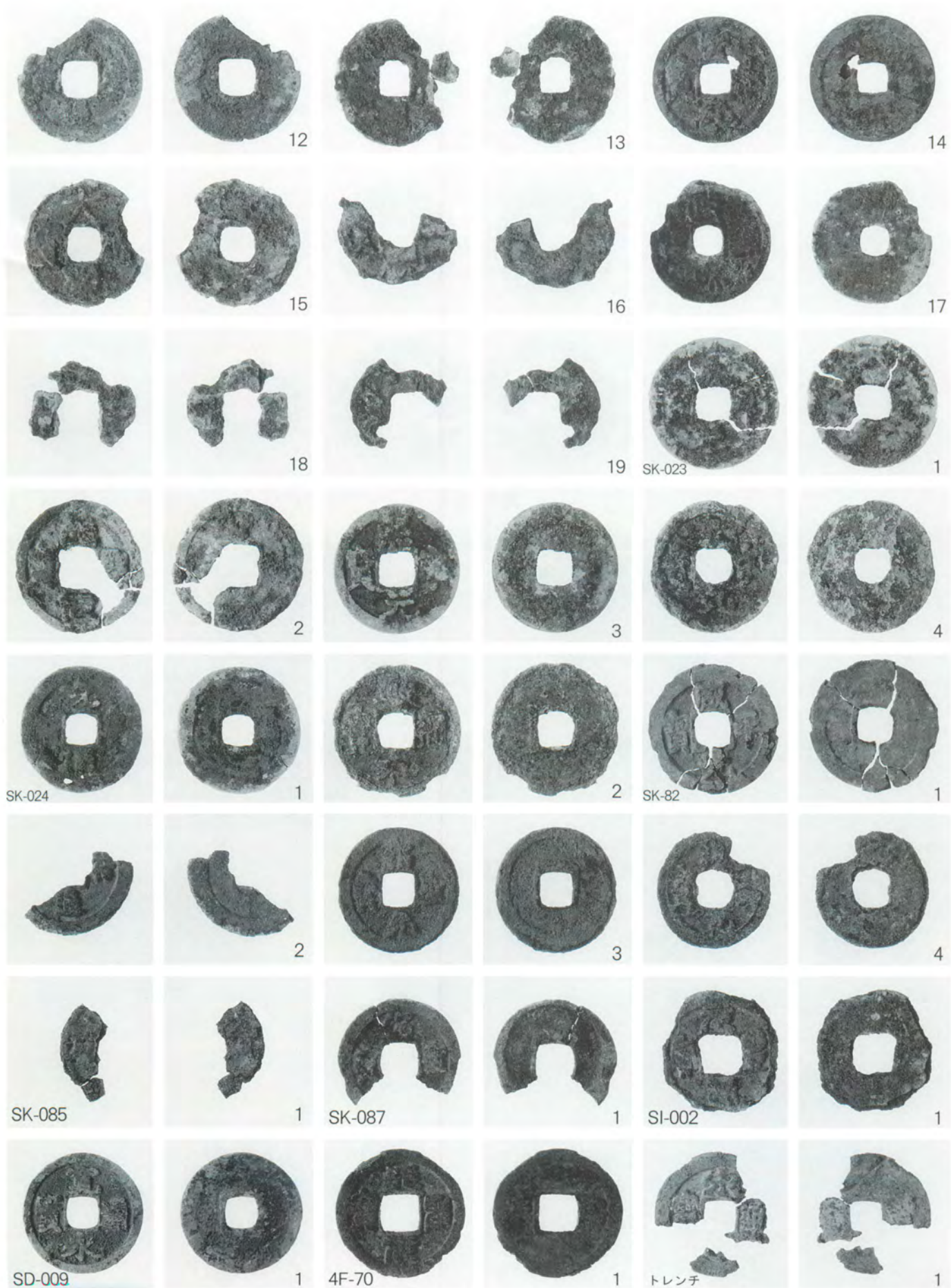
錢貨(1)



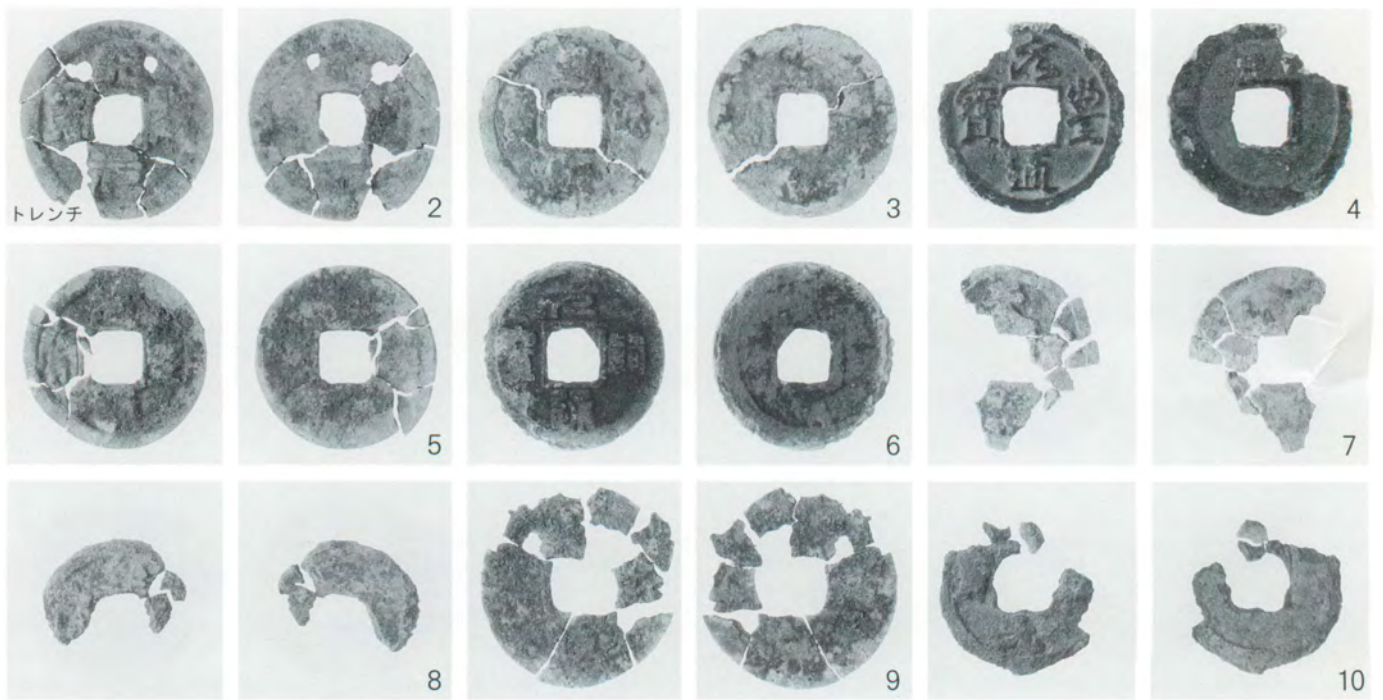
錢貨(2)



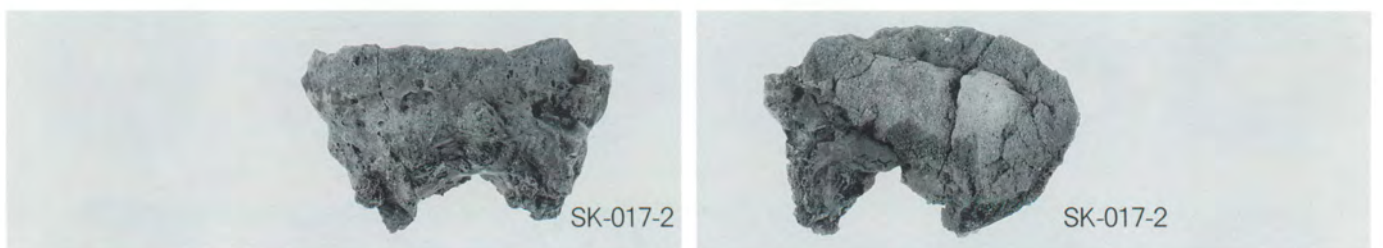
錢貨(3)



銭貨(4)



銭貨 (5)



スラグ

報告書抄録

ふりがな	なりたしんこうそくてつどう・きたちばどうろまいぞうぶんかざいはくつちようさほうこくしよ		
書名	成田新高速鉄道・北千葉道路埋蔵文化財発掘調査報告書		
副書名	成田市松崎外小代内小代遺跡		
巻次	5		
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告		
シリーズ番号	第659集		
編著者名	香取正彦 平井真紀子		
編集機関	財団法人千葉県教育振興財団 文化財センター		
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2		TEL043-424-4848
発行年月日	西暦2011年3月25日		

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まんざきそとこだい 松崎外小代 うちこだい 内小代遺跡	なりたし まんざきあざせんげん 成田市松崎字浅間 ばんち 1999番地3ほか	1221	077	35度 47分 59. 1530秒	140度 17分 16. 2491秒	20080501～ 20080630 20080701～ 20080731 20080707～ 20090109 20080826～ 20081106 20090113～ 20090130 20090515～ 20090731 20100222～ 20100311	9,770	鉄道・道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
松崎外小代 内小代遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代前期 縄文時代早期 古墳時代後期 奈良・平安時代 中世以降	遺物集中 2地点 竪穴住居 1軒 陥穴 19基 土坑 6基 竪穴住居 1軒 竪穴住居 45軒 掘立柱建物 15棟 井戸跡 3基 土坑 9基 竪穴状遺構 11基 地下式坑 16基 土壇墓 1基 土坑 56基 溝 10条 柵列 7列 ピット群 7か所 台地整形 1か所 焼土遺構 1基	旧石器 縄文土器・石器 土師器・須恵器 土師器・須恵器・ 鉄製品（鎌・斧・鏃） カワラケ・陶磁器	

要約	<p>旧石器時代は、Ⅶ層から安山岩を主体とする石器製作跡が2か所検出された。縄文時代は前期竪穴住居が1軒および早期の陥穴・土坑が検出された。調査区の東部斜面際に集中している。古墳時代は後期竪穴住居が検出された。調査区の中央から東よりに分布している。奈良・平安時代は掘立柱建物を伴う集落跡である。住居と重複する掘立柱建物があり、掘立柱建物を伴う時期と伴わない時期の2時期に分かれる。中世以降は、溝以外の遺構（台地整形、竪穴状遺構、地下式坑、土壇墓、土坑、焼土遺構）が調査区南部に集中する。これは、南から入る小支谷を囲むように分布すると考えられる。</p>
----	--

千葉県教育振興財団調査報告第659集

成田新高速鉄道・北千葉道路
埋蔵文化財発掘調査報告書 5
－成田市松崎外小代内小代遺跡－

平成23年3月25日発行

編 集 財団法人 千葉県教育振興財団
文化財センター

発 行 成田高速鉄道アクセス株式会社
船橋市本町2-10-14

財団法人 千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地の2

印 刷 三陽工業株式会社
市原市五井5510番地1
